

一般国道9号（鳥取西道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅢ

鳥取県鳥取市

高住牛輪谷遺跡Ⅰ

2014

鳥取県教育委員会

一般国道9号（鳥取西道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅢ

鳥取県鳥取市

高住牛輪谷遺跡Ⅰ

2014

鳥取県教育委員会

序

山陰自動車道は鳥取市を起点とし、山口県美祢市を終点とする、延長380キロメートルの高速道路であり、国土交通省により整備が進められているところです。

鳥取県内の事業区間である「鳥取西道路」は、鳥取市本高から同市青谷町青谷を結ぶ延長19.3キロメートルの区間であり、その改築事業に伴う事前の発掘調査を平成20年度から当教育委員会が実施しています。平成21年度からは、財団法人鳥取県教育文化財団(当時)に現地での発掘調査や出土遺物等の整理作業、報告書作成を委託して調査を進めてまいりました。

高住牛輪谷遺跡では、平成23年度と平成24年度の2箇年にわたり調査を行い、縄文時代の貯蔵穴をはじめ、弥生時代以降の土坑や溝、水田畦畔、住居跡など様々な遺構のほか、移動式竈や陶棺など古墳時代を中心とした多彩な遺物が出土し、この地域の歴史を解明するための重要な資料を確認することができました。

さらに発掘調査成果は現地説明会や、地元公民館などでの展示会や調査報告会を開催し、地元を中心として多くの方々に紹介してまいりました。先人が残した素晴らしい遺産を後世に伝承するこのような取り組みは、現在に生きる私たちの重要な責務と考えております。

本書をまとめるに当たり、国土交通省中国地方整備局鳥取河川国道事務所並びに地元関係者の方々には、一方ならぬ御助言、御協力をいただきました。心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

平成 26 年 3 月

鳥取県教育委員会
教育長 横濱純一

例 言

- 1 本書は、一般国道9号（鳥取西道路）改築工事に伴い、国土交通省中国地方整備局鳥取河川国道事務所から委託を受け、平成23・24年度に実施した高住牛輪谷遺跡^{たかすみ うしわだに}の発掘調査報告書である。
- 2 高住牛輪谷遺跡は、鳥取市高住字牛輪谷に所在する。平成23年度の調査面積は3,750㎡、確認調査面積は308㎡で、平成24年度の調査面積は668㎡である。現地調査は、平成23年4月26日から11月30日、平成24年4月25日から12月7日まで行い、調査記録と出土遺物の整理作業、報告書の編集は、平成26年1月まで行った。
- 3 本調査の名称は、平成23年度調査は「高住牛輪谷遺跡11」、平成24年度調査は「高住牛輪谷遺跡12」である。
- 4 発掘調査の監理については、公益財団法人鳥取県教育文化財団に委託した。
- 5 発掘調査に際し、平成23年度は株式会社シン技術コンサル、平成24年度は埋蔵文化財発掘調査支援業務委託（高住牛輪谷遺跡、高住井手添遺跡（第2次調査））共同企業体の支援を受けた。
- 6 遺跡での掘削作業、記録作成と測量作業は、公益財団法人鳥取県教育文化財団の指示のもと、平成23年度は株式会社シン技術コンサル、平成24年度は埋蔵文化財発掘調査支援業務委託（高住牛輪谷遺跡、高住井手添遺跡（第2次調査））共同企業体が行った。
- 7 遺跡で作成した図面の再編集、出土遺物の整理作業や記録作成は、公益財団法人鳥取県教育文化財団の野口良也、北浩明（石器担当）と整理作業員が行った。
- 8 遺物の写真撮影は、野口と整理作業員が行った。
- 9 本書の執筆は、第4章第2節を山梨千晶が、第5章第2節の一部を長戸満男が行い、そのほかの執筆、編集は野口が行った。
- 10 大型植物遺体分析と炭素年代測定をパリノサーヴェイ株式会社に、炭素年代測定を株式会社パレオ・ラボに委託した。
- 11 本調査に係る記録類や出土遺物は鳥取県埋蔵文化財センターに保管される予定である。
- 12 現地調査、報告書の作成にあたって、下記の方々、機関から、様々な御指導、御助言、御支援を賜った。記して感謝申し上げます（敬称略）。
松田順一郎（史跡鴻池新田会所管理事務所）、国土交通省中国地方整備局鳥取河川国道事務所、公益財団法人大阪府文化財センター、高住地区自治会、松保地区公民館、湖山池情報プラザ、鳥取県立生涯学習センター「県民ふれあい会館」

凡 例

- 1 本書に記載された測量成果については、世界測地系に基いている。図中のX・Y座標は国土座標第V系によるものであり、m単位で表記している。また、平面図の方位は座標北を示している。
- 2 標高は海拔標高で示した。
- 3 本報告書に使用した地図は、国土地理院発行（1/25,000、1/200,000地形図）、鳥取市作成の都市計画図（1/5,000）を縮小、加筆して使用したものである。
- 4 本遺跡の土層に示した土色は、小山正忠、竹原秀雄編著『新版標準土色帖』に基づき、土の色相、明度及び彩度を判定したものである。地層観察用畦の観察面はシートで被覆するなどして、湿った状態を保つように留意した。また、地層の粒度の記載に関しては、地質学で標準的に用いられるWentworthの区分を使用した。同一地層内に粒度が幅をもって認められるときには、より主体を占める粒径を先にして、「シルト～粗砂」、「極粗砂～細砂」のように記載した。
- 5 発掘調査時に付した遺構番号、遺構名は下表のとおり、欠番、変更とした。
- 6 遺構平面図や断面図の縮尺は統一していないが、挿図ごとにスケールバーと縮尺を示している。
- 7 遺物実測図の縮尺については、陶磁器、土器を1/4、1/8、土製品を1/2、1/4、石器を1/1、1/3、1/4、木製品を1/4、1/8、金属製品を1/2で示した。
- 8 遺物実測図の断面は須恵器を黒塗り、瓦質土器を網掛け、それ以外のものは白抜きで示した。また、遺物実測図の網掛けは■が赤彩、煤、樹皮、■が炭化範囲、紐痕跡を示す。
- 9 遺物観察表の法量記載における※は推定復元値、△は残存値を示す。
- 10 本書における遺構、遺物の時期決定は以下の文献を主な参考としている。
 柳浦俊一2010「山陰」『西日本の縄文土器 後期』真陽社
 清水真一1992「因幡・伯耆地域」『弥生土器の様式と編年—山陽・山陰編一』木耳社
 鳥取市教育委員会・鳥取市遺跡調査団1991『岩吉遺跡Ⅲ』
 田辺昭三1981『須恵器大成』角川書店

欠番

調査年度	調査区	遺構番号
23	1区	3、55、56、113、116、118、121、123、126、131、132、134、140、145、146、147、168
24	A1区	6、13、15、26、27、28、31、46、52、59、60、65、66
	P1区	5
	P2区	15、16、17、19、20、21、22、23、24

変更

調査年度	調査区	遺構番号	旧遺構名	新遺構名
23	1区	175	溝	落ち込み
24	A1区	39	集石	柱穴
		42	柱穴	ピット
		61、64、83、85、97、106、111、114、119、126	ピット	柱穴

目 次

序・例言・凡例

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	2
第3節 調査体制	6

第2章 遺跡の位置と歴史的環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境	8
第2節 歴史的環境	8

第3章 調査の方法

第1節 調査地の地区割	14
第2節 発掘調査と記録の対象	14

第4章 平成23年度の調査成果

第1節 調査の概要	19
第2節 1区の基本層序	19
第3節 1区3-1a層下面の遺構	31
第4節 1区3-2a層下面の遺構	31
第5節 1区4a層下面の遺構	51
第6節 1区出土遺物	53
第7節 平成23年度確認調査	63

第5章 平成24年度の調査成果

第1節 調査の概要	89
第2節 A1区の調査	89
第3節 P1区の調査	112
第4節 P2区の調査	129
第5節 出土遺物	140

第6章 自然科学分析

	169
--	-----

第7章 総括

第1節 遺跡の変遷	192
第2節 出土遺物	193

遺物観察表・写真図版・報告書抄録

挿図一覧

- 第1図 鳥取西道路予定地と調査地の位置
第2図 調査地位置図
第3図 鳥取県と遺跡の所在地
第4図 遺跡周辺の地形(『高住平田遺跡 I』から引用。一部加筆)
第5図 周辺の遺跡
第6図 地区割(グリッド)概念図
第7図 調査地の地区割
第8図 土層断面取得位置図
第9図 基本土層トレンチ断面図
第10図 直交トレンチ1断面図
第11図 直交トレンチ2断面図
第12図 直交トレンチ3断面図
第13図 北側トレンチ断面図
第14図 3-1a層下面全体図
第15図 3-1a層下面検出耕地段差
第16図 3-2a層下面全体図
第17図 3-2a層下面検出擬似畦畔
第18図 3-2a層下面検出擬似畦畔断面図
第19図 1・2・5土坑
第20図 159・160土坑、51溝
第21図 1区南側3-2a層下面検出ピット群
第22図 4a層下面全体図
第23図 4a層下面調査区中央部拡大図
第24図 59・81～83土坑
第25図 84～86・117・125土坑
第26図 136～139土坑
第27図 141・148・150・153土坑
第28図 154・156・157・163・166土坑
第29図 164・165・169・170土坑
第30図 171～174土坑
第31図 50溝
第32図 87・151・152溝
第33図 87・151・152溝土層断面図
第34図 60・88・108・129溝
第35図 130・135溝、175落ち込み
第36図 149・161・167溝
第37図 1区南側4a層下面ピット
第38図 1区4a層下面遺構出土土器
第39図 1区4a層下面遺構出土遺物
第40図 1区包含層出土遺物
第41図 1区包含層出土土器
第42図 1区出土石器
第43図 1区出土木製品1
第44図 1区出土木製品2
第45図 1区出土木製品3
第46図 確認調査1G第1遺構面
第47図 確認調査1G第2遺構面
第48図 確認調査1G第3遺構面
第49図 確認調査1G第4遺構面
第50図 確認調査1G北壁、中央ベルト土層断面図
第51図 確認調査1G西壁土層断面図
第52図 確認調査1G1001土坑、1002溝
第53図 確認調査1G1003・1004溝、1005・1007土坑
第54図 確認調査1G1006・1010土坑
第55図 確認調査2G第1遺構面
第56図 確認調査2G第2遺構面
第57図 確認調査2G第3遺構面
第58図 確認調査2G北壁、東壁土層断面図
第59図 確認調査2002・2003溝
第60図 確認調査3G第1遺構面
第61図 確認調査3G第2遺構面
第62図 確認調査3G北壁、東壁土層断面図
第63図 確認調査1G遺構、包含層出土遺物1
第64図 確認調査1G遺構、包含層出土遺物2
第65図 確認調査1Gトレンチ出土土器
第66図 確認調査1Gトレンチ出土遺物
第67図 確認調査2G出土土器
第68図 確認調査出土石器
第69図 A1区東壁上層土層断面図
第70図 A1区東壁下層土層断面図
第71図 A1区南壁土層断面図
第72図 A1区第1遺構面全体図
第73図 A1区8石列
第74図 A1区第2遺構面全体図
第75図 A1区第3遺構面全体図
第76図 A1区掘立柱建物跡1
第77図 A1区掘立柱建物跡1 39柱穴
第78図 A1区9・10・14土坑、40柱穴
第79図 A1区11・12・25・35溝
第80図 A1区第4遺構面全体図
第81図 A1区47・61・64・74柱穴、79土坑
第82図 A1区第5遺構面全体図
第83図 A1区第6遺構面全体図
第84図 A1区竪穴住居跡1(1面目)
第85図 A1区竪穴住居跡1(2面目)
第86図 A1区第7遺構面全体図
第87図 A1区掘立柱建物2
第88図 A1区柵列1
第89図 A1区83・85・97・126柱穴
第90図 A1区第8遺構面全体図、114柱穴

第91図	A1区第9遺構面全体図	第124図	A1区中近世包含層出土遺物2
第92図	A1区第10遺構面全体図	第125図	A1区8層出土遺物
第93図	A1区124土坑	第126図	A1区9～13・37層出土土器1
第94図	A1区第11遺構面全体図	第127図	A1区9～13・37層出土土器2
第95図	P1区東壁土層断面図	第128図	A1区9～13・37層出土土器3
第96図	P1区南壁土層断面図	第129図	A1区9～13・37層出土土器4
第97図	P1区西壁土層断面図	第130図	A1区21～24層出土土器
第98図	P1区第1遺構面全体図	第131図	A1区25層出土土器1
第99図	P1区1溝	第132図	A1区25層出土土器2
第100図	P1区第2遺構面全体図	第133図	A1区25層出土土器3
第101図	P1区2畦畔	第134図	A1区25層出土遺物
第102図	P1区第3遺構面全体図	第135図	A1区26～29層出土遺物
第103図	P1区3畦畔	第136図	A1区8・11層出土木製品
第104図	P1区4畦畔	第137図	A1区11層出土木製品1
第105図	P1区第4遺構面全体図	第138図	A1区11層出土木製品2
第106図	P1区7土坑	第139図	A1区12・13層出土木製品
第107図	P1区8土坑	第140図	A1区37層出土木製品
第108図	P1区第5遺構面全体図	第141図	A1区18・20層出土木製品
第109図	P1区10柱穴	第142図	A1区25・29層出土木製品
第110図	P2区第1遺構面全体図	第143図	P1区出土遺物1
第111図	P2区第2遺構面全体図	第144図	P1区出土遺物2
第112図	P2区東壁土層断面図	第145図	P2区出土土器
第113図	P2区南壁土層断面図	第146図	P2区出土遺物
第114図	平成23年度直交トレンチ3延長断面	第147図	調査地点の状況
第115図	P2区13畦畔	第148図	各遺構の大型植物遺体群集の層位分布
第116図	P2区第3遺構面全体図	第149図	カシ類とその他の重量・容積・個数のヒストグラム
第117図	P2区10-2層上面遺物出土状況図	第150図	カシ類とその他の重量・容積・個数の相対比
第118図	P2区15層遺物出土状況図	第151図	暦年較正結果
第119図	P2区16-1、16-3層出土状況	第152図	鳥取県出土陶棺分布図
第120図	P2区余掘調査東壁、南壁土層断面図	第153図	高住牛輪谷遺跡出土移動式竈の製作工程模式図
第121図	A1区遺構出土遺物		
第122図	A1区柱穴出土柱		
第123図	A1区中近世包含層出土遺物1		

挿表一覧

表1	1区3-2a層下面ピット表	表11	樹種同定結果
表2	1区4a層下面ピット表	表12	放射性炭素年代測定および暦年較正結果
表3	確認調査2Gピット表	表13	鳥取県出土陶棺一覧表
表4	確認調査3Gピット表	表14	土器観察表（平成23年度）
表5	A1区ピット表	表15	土製品観察表（平成23年度）
表6	P1区ピット表	表16	石器観察表（平成23年度）
表7	P2区ピット表	表17	木製品観察表（平成23年度）
表8	分析試料一覧	表18	土器観察表（平成24年度）
表9	大型植物遺体分析結果（分析残渣およびカシ類の量）	表19	土製品観察表（平成24年度）
表10	大型植物遺体分析結果（1）	表20	石器観察表（平成24年度）
	大型植物遺体分析結果（2）	表21	木製品観察表（平成24年度）
	大型植物遺体分析結果（3）	表22	金属製品観察表（平成24年度）

文中写真一覧

写真1 展示会（湖山池情報プラザ）
 写真2 調査報告会（県民ふれあい会館）
 写真3 大型植物遺体（1）
 写真4 大型植物遺体（2）

写真5 大型植物遺体（3）
 写真6 木材（1）
 写真7 木材（2）

図版一覧

- | | | | | | |
|-------|-----|--|--|--|--|
| PL.1 | 1区 | 1.3-1a下面耕地段差（南から）
2.3-2a下面検出擬似畦畔（北から）
3.3-2a下面検出擬似畦畔（北から） | | | |
| PL.2 | 1区 | 3-2a下面検出擬似畦畔（南から） | | | |
| PL.3 | 1区 | 1.3-2a下面検出擬似畦畔A-A'セクション（西から）
2.3-2a下面検出擬似畦畔B-B'セクション（南から）
3.3-2a下面検出擬似畦畔D-D'セクション（南から） | | | |
| PL.4 | 1区 | 1.3-2a下面検出足跡（南から）
2.3-2a下面検出1土坑（西から）
3.3-2a下面検出2土坑（西から） | | | |
| PL.5 | 1区 | 1.調査区南側3-2a層下面完掘状況（南西から）
2.4a層下面完掘状況（北東から） | | | |
| PL.6 | 1区 | 1.4a層下面完掘状況（北東から）
2.調査区南部4a層下面完掘状況（南西から） | | | |
| PL.7 | 1区 | 1.4a下面検出83土坑遺物出土状況（南から）
2.4a下面検出85土坑遺物出土状況（南から）
3.4a下面検出169土坑遺物出土状況（南から） | | | |
| PL.8 | 1区 | 1.基本土層トレンチ断面（北東から）
2.直交トレンチ3断面（南から）（北東から）
3.直交トレンチ3遺物出土状況（北西から） | | | |
| PL.9 | 1G | 1.第1遺構面完掘状況（南西から）
2.1001土坑遺物出土状況（南西から）
3.調査区完掘状況（北から） | | | |
| PL.10 | 2G | 1.2002溝完掘状況（南東から）
2.2003溝完掘状況（西から）
3.2003溝完掘状況（南西から） | | | |
| PL.11 | 3G | 1.第2遺構面完掘状況（南から）
2.擬似畦畔①完掘状況（南から）
3.調査区完掘状況（南西から） | | | |
| PL.12 | A1区 | 1.8石列完掘状況（北東から） | | | |
| | | | | | 2.第4遺構面完掘状況（北から）
3.39柱穴（掘立柱建物跡1）完掘状況（西から） |
| PL.13 | A1区 | 1.竪穴住居跡1炉跡、焼土面完掘状況（南から）
2.竪穴住居跡1炭化物検出状況（西から）
3.竪穴住居跡1炭化物検出状況（南西から） | | | |
| PL.14 | A1区 | 1.竪穴住居跡1完掘状況（西から）
2.第7遺構面完掘状況（北から）
3.11層遺物出土状況（西から） | | | |
| PL.15 | A1区 | 1.11層遺物出土状況（西から）
2.12層遺物出土状況（西から）
3.37層遺物出土状況（北西から） | | | |
| PL.16 | A1区 | 1.124土坑土層断面（北から）
2.124土坑遺物出土状況（南西から）
3.124土坑完掘状況（南西から） | | | |
| PL.17 | P1区 | 1.1溝検出状況（南西から）
2.1溝土層断面（北西から）
3.1溝土層断面（南から） | | | |
| PL.18 | P1区 | 1.2畦畔検出状況（東から）
2.3・4畦畔検出状況（東から）
3.7土坑検出状況（北から） | | | |
| PL.19 | P1区 | 1.7土坑土層断面（南から）
2.7土坑堅果類出土状況（北西から）
3.7土坑完掘状況（北西から） | | | |
| PL.20 | P1区 | 1.8土坑検出状況（北から）
2.8土坑堅果類出土状況（西から）
3.8土坑土層断面（南から） | | | |
| PL.21 | P1区 | 1.8土坑完掘状況（西から）
2.9河川完掘状況（南東から）
3.10柱穴半裁状況（南東から） | | | |
| PL.22 | P2区 | 1.第1遺構面検出ピット完掘状況（南東から）
2.13畦畔完掘状況（東から）
3.13畦畔土層断面（北から） | | | |
| PL.23 | P2区 | 1.18河川10-1層除去状況（北東から）
2.18河川10-1層下面遺物出土状況 | | | |

(南から)

3.16-3層遺物出土状況 (東から)

- PL.24 1区遺構出土土器
- PL.25 1区遺構出土遺物
- PL.26 1.83土坑出土土器
2.1区3-2a層出土土器
3.1区4a層出土土器
4.1区表土出土土器
- PL.27 1.1区出土層位不明土器
2.1区3-2a層出土遺物
- PL.28 1区4a層出土土器
- PL.29 1G遺構、包含層出土遺物
- PL.30 1G包含層出土遺物
- PL.31 1.1001土坑出土土器
2.1005土坑出土土器
3.1009土坑出土土器
4.1G出土層位不明土器
5.1G出土層位不明土器
6.1G出土層位不明土器
7.1G出土層位不明土器
8.2G出土層位不明土器
- PL.32 1.1区、1G、3G出土石器
2.1区包含層出土木製品
- PL.33 1.1区遺構、包含層出土木製品
2.169土坑出土木製品
3.169土坑出土木製品
- PL.34 1.A1区遺構出土土器
2.A1区39柱穴出土土器
3.A1区124土坑出土土器
- PL.35 A1区包含層出土土器
- PL.36 1.A1区6-4層出土土器
2.A1区6層出土土器
3.A1区6-11層出土土器
4.A1区包含層出土土製品
- PL.37 1.A1区出土陶棺
2.A1区包含層出土土器
- PL.38 1.A1区8層出土土器
2.A1区8層出土土器
3.A1区8層出土土器
4.A1区包含層出土土器
- PL.39 1.A1区11層出土土器
2.A1区11層出土土器
3.A1区12層出土土器
4.A1区12層出土土器
5.A1区12層出土土器
6.A1区12層出土土器
7.A1区13層出土土器
8.A1区12層出土土器
- PL.40 1.A1区12層出土土器
2.A1区12層出土土器
3.A1区12層出土土器
4.A1区13層出土土器
5.A1区13層出土土器
6.A1区11層出土土器
7.A1区13層出土土器
8.A1区12層出土土器
- PL.41 1.A1区11層出土土器
2.A1区13層出土土器
3.A1区13層出土土器
4.A1区13層出土土器
5.A1区13層出土土器
6.A1区21層出土土器
7.A1区21層出土土器
8.A1区21層出土土器
- PL.42 A1区12・13層出土土器
- PL.43 A1区出土竈
- PL.44 A1区11層出土竈
- PL.45 1.A1区12層出土竈
2.A1区13層出土竈
- PL.46 A1区25層出土土器 1
- PL.47 A1区25層出土土器 2
- PL.48 A1区25層出土遺物
- PL.49 1.A1区25層出土土器
2.A1区25層出土土器
3.A1区25層出土土器
4.A1区25層出土土器
5.A1区25層出土土器
6.A1区25層出土土器
7.A1区25層出土土器
8.A1区25層出土土器
- PL.50 1.A1区25層出土土器
2.A1区25層出土土器
3.A1区25層出土土器
4.A1区25層出土土器
5.A1区25層出土土器
6.A1区25層出土土器
7.A1区25層出土土器
8.A1区25層出土土器
- PL.51 1.A1区25層出土土器
2.A1区25層出土土器
3.A1区25層出土土器
4.A1区25層出土土器
5.A1区25層出土土器
6.A1区25層出土土器
7.A1区25層出土土器
8.A1区25層出土土器

- PL.52 1. A1区25層出土土器
- 2. A1区25層出土土器
- 3. A1区25層出土土器
- 4. A1区25層出土土器
- 5. A1区25層出土土器
- 6. A1区25層出土土器
- 7. A1区25層出土土器
- 8. A1区25層出土土器

- PL.53 1. A1区25層出土土器
- 2. A1区29層出土土器
- 3. A1区29層出土土器
- 4. A1区25層出土土器
- 5. A1区25層出土土甗

PL.54 A1区27・28・29層出土土器

- PL.55 1. A1区包含層出土石器
- 2. A1区遺構出土木製品

- PL.56 1. A1区包含層出土木錘
- 2. A1区13層出土下駄

- PL.57 1. A1区11層出土木製品
- 2. A1区13層出土木製品

- PL.58 1. A1区包含層出土木製品
- 2. A1区包含層出土木製品
- 3. A1区包含層出土木製品

PL.59 P1区出土遺物

PL.60 P2区出土土器

- PL.61 1. P2区16-3層出土土器
- 2. P2区16-3層出土土器
- 3. P2区16-3層出土土器
- 4. P2区2-1a層出土金属製品

- PL.62 1. P1区包含層出土木製品
- 2. P1区10柱穴出土木製品
- 3. P2区包含層出土木製品

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

本調査は、平成23・24年度に一般国道9号（鳥取西道路）の改築工事に伴って実施した鳥取市高住地内の工事予定地に所在する高住牛輪谷遺跡の発掘調査である。

湖山池南岸の鳥取西道路計画地内には、周知の埋蔵文化財包蔵地が数多く認められている。このため道路建設工事に先立ち、埋蔵文化財の取扱いを、国土交通省、鳥取県、鳥取市で協議し、計画地内に存在する埋蔵文化財の確認をすることで合意し、国（文化庁）、及び県の補助金を受けて鳥取市教育委員会は、平成20・22年度に計画地内の確認調査を実施した。

その結果、弥生時代から中世にかけての遺構、遺物が確認されたことから、事業地内に遺跡が存在することが明らかとなり、この取扱いは再度国土交通省、鳥取県、鳥取市で慎重に協議を重ねた。そして文化財保護法第94条による手続きを踏まえ、平成23・24年度に鳥取県教育委員会が国土交通省中国地方整備局鳥取河川国道事務所の委託を受けて発掘調査を実施した。

発掘調査に当たっては、現場発掘作業、出土遺物の整理および報告書の作成を財団法人鳥取県教育文化財団に再委託した。さらに発掘作業、調査記録作業等について、平成23年度は株式会社シン技術コンサル、平成24年度は埋蔵文化財発掘調査支援業務委託（高住牛輪谷遺跡、高住井手添遺跡（第2次調査））共同企業体の支援を受けた。



第1図 鳥取西道路予定地と調査地の位置

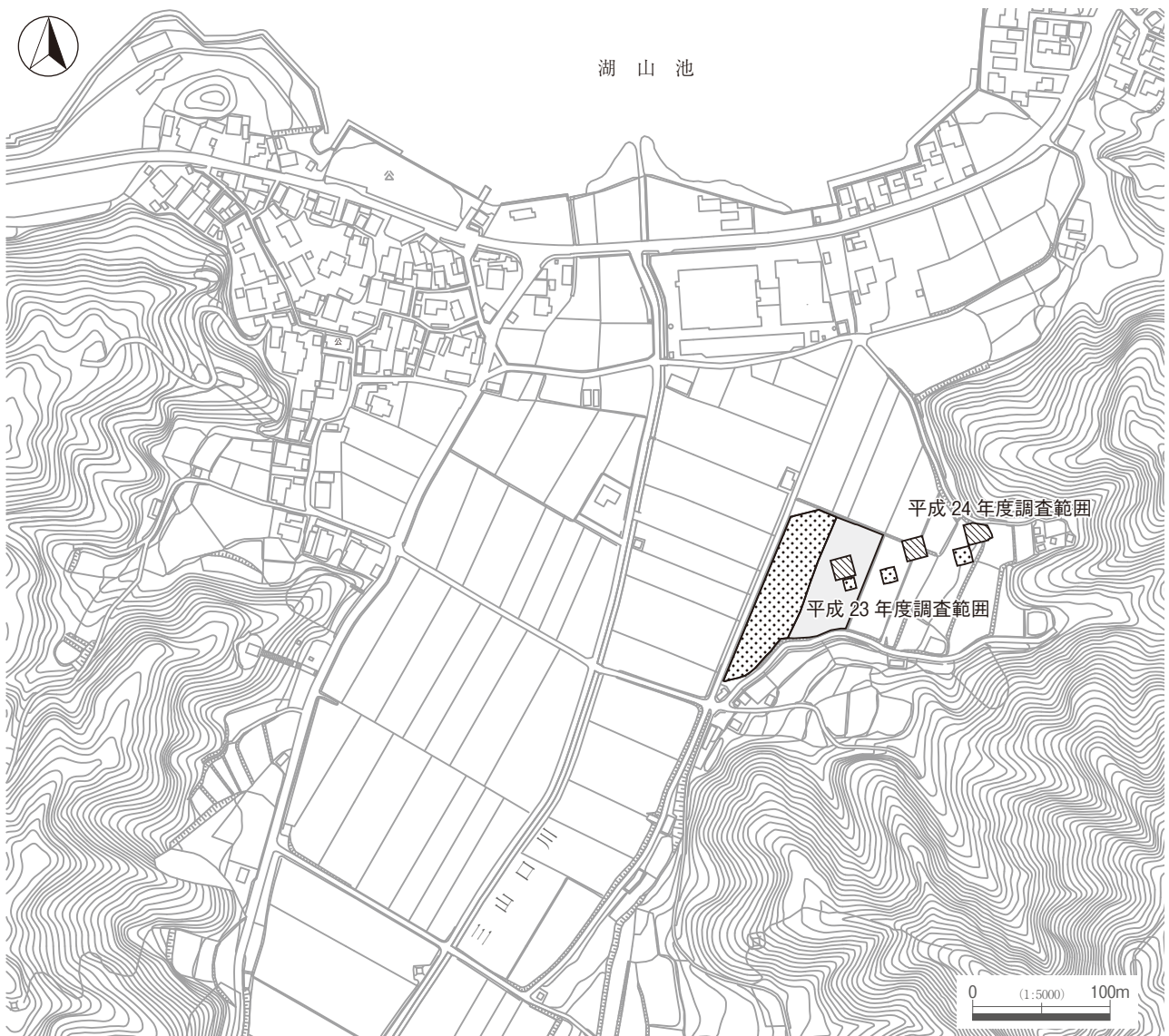
第2節 調査の経過

高住牛輪谷遺跡の調査は、平成23年度に1区の調査から着手したが、後述するように1区内に設定した下層確認のためのトレンチ（直交トレンチ3）において、調査当初想定していなかった縄文時代の土壌化層および出土遺物が確認されたことにより、平成23年度は1区の西側半分と3箇所（1～3グリッド、以下グリッドはG）の確認調査を行った。また平成24年度は、平成23年度の調査成果を受け、道路建設の工法が盛土から橋脚に変更になったことから、橋脚範囲の3箇所（調査区呼称は橋脚名による。東からA1・P1・P2区）の調査を行った。以下にその詳細を記す。

平成23年度の調査

調査は、財団法人鳥取県教育文化財団と株式会社シン技術コンサルとの間で、平成23年4月12日に発掘調査の支援業務に係る委託契約を締結した後、4月26日から基準点測量、調査区現況地盤測量などの現地調査に着手した。

調査区現況地盤測量後は、表土掘削に先行して1区を凡そ東西方向に横断する位置に基本土層トレンチを設定し、さらに、基本土層トレンチ東端から18m、50m地点に北方向へ、80m地点に南方向へ



第2図 調査地位置図

と基本土層に直交するトレンチを設定して、調査区内の堆積状況を記録することとした（第8図）。

また、基本土層トレンチにおける記録作業と並行して、5月16日から重機による表土掘削を開始したが、表土掘削にあたり、廃土置場面積に制限があったことから、調査区を中央で東西に分割し、西側から調査を行った（第7図）。表土掘削は東西に走る基本土層トレンチを境界線とし、北半部は5月20日、南半部は6月9日に終了した。

調査区西側の表土除去後の状況としては、近代以降の多数の暗渠、攪乱が認められたが、基本土層トレンチ断面、および暗渠壁面の状況から、遺構確認面は古代～中世にあたる3-1a層下面、古墳時代後期にあたる3-2a層下面、弥生時代後期～古墳時代前期にあたる4a層下面の3面からなることが明らかとなった。

6月13日からは、調査区西側北半部包含層の人力掘削を行い、遺存状況は良くなかったが、3-1a層下面で耕地段差、3-2a層下面において擬似畦畔を検出した。

7月21日からは、調査区西側北半部の調査と並行して、調査区西側南端部の調査を行った。調査の結果、調査区西側南端部では、ピットが多数検出されたが、近世以降の攪乱が著しく、遺構確認面の層理も不明瞭であったことから、検出した遺構内の出土遺物や埋土の観察などにより、3-2a層下面相当と4a層下面相当の2時期に分けて記録作業を行った。また、7月29日からは調査区西側南端部を除く南半部の調査を開始した。調査区西側南半部では3-1a層の堆積は見られず、3-2a層、4a層が堆積する状況であり、4a層下からは北東から南西方向へと走る数条の溝と溝周辺に土坑群が検出された。

調査区西側の調査は、10月12日に遺構の調査を完了し、翌13日にラジコンヘリコプターによる航空写真撮影、10月15日には隣接する高住井手添遺跡と合同で現地説明会を開催した。調査区は道路の工法変更に伴って11月16日から埋戻しを開始し、11月30日にすべての作業を終了した。

さて、調査区東側の調査地であるが、調査開始当初に設定した基本土層トレンチ（直交トレンチ3）において、調査当初想定していなかった縄文時代の土壌化層、および出土遺物が確認される状況であった。このことから、6月に調査区東側においてボーリング調査を実施したところ、4a層以下に縄文時代に遡る土壌化層が複数確認された。

調査区東側で縄文時代の土壌化層が確認されたことから、平成23年度内での調査終了は難しいことが明らかとなり、鳥取県教育委員会文化財課と国土交通省の間で協議が行われた。その結果、調査区東側の調査は平成23年度に行わず、調査区東側の一部にトレンチによる次年度以降調査のための確認調査を行うこととなった。

確認調査は10月3日から作業に着手した。確認調査用のトレンチは、調査区東側から谷に向かって東西方向に並んだかたちで3箇所設置した（第7図）。トレンチの呼称は、調査区東側未調査地内を3G、中央を2G、東端の谷傾斜地を1Gとした。

10月4日から3Gの調査を開始した。遺構確認面2面分の調査を行ったが、2面以下は湧水による調査区壁面の崩落の危険性が高まったため作業を中止し、土層断面の記録をし、10月28日には埋め戻しを行った。

10月7日からは2Gを開始し、3面の遺構確認面の調査を行った。11月9日には基本土層断面を記録し、11月14日には埋め戻しを行い15日に終了した。

1Gの調査は10月17日から開始した。1Gは谷の斜面でも比較的高い場所に位置する。1G周辺の地形は南から北に下る傾斜地であり、雨水の浸食によって地盤も弱くなっていたことから表土掘削後、遺

第1章 調査の経緯

構検出の時点で南壁の一部で崩落が認められた。南壁の崩落は拡大する可能性が高いため、現地において鳥取県教育委員会文化財課、財団法人鳥取県教育文化財団と協議の結果、1Gを平面4区画に分割し、そのうち北西1/4区画のみを掘削し、残る3/4区画は崩落箇所を見ながら可能な範囲で掘削することとした。

1Gでは、4面の遺構確認面を調査し、古代～弥生時代の遺構および遺物が確認された。1Gの埋め戻しは11月30日に終了した。

平成24年度の調査

平成24年度の調査は、前年度に行った確認調査の成果を受け、道路橋脚部分3地点を対象に実施した(第7図)。

調査は、財団法人鳥取県教育文化財団と埋蔵文化財発掘調査支援業務委託(高住牛輪谷遺跡、高住井手添遺跡(第2次調査))共同企業体との間で、平成24年4月5日に発掘調査の支援業務に係る委託契約を締結した後、4月25日から基準点測量などの現地調査を行い、P2区から着手したが、調査開始前予定されていた鋼矢板打設の工程に変更が生じたため、鋼矢板打設前に前年度確認された縄文時代晩期の土壌化層(平成23年度調査14層、平成24年度調査6-1層)まで露天掘りで調査行うこととした。

P2区は5月21日から表土以下の遺構検出を行い、第1遺構面で12基のピット、第2遺構面で畦畔、第3遺構面でピット1基を検出した。

6月11日から14日までの間は、鋼矢板打設のため、一時調査を中断したが、15日以降は第4遺構面などで河川跡(18河川)を確認したほか、鋼矢板構造による限界掘削深度付近の16層中から縄文時代後期の土器が多量に出土した。

このような状況から16層よりも下位の土層にも遺物が含まれている可能性が高く、掘削限界深度以下の土層の取り扱いについて、国土交通省と鳥取県教育委員会の間で協議を行うこととなった。その結果、鋼矢板から2.5m控えた範囲で、掘削限界深度からさらに最大2mの深さで余掘調査を行うことで合意を得られた。

余掘調査は9月3日から開始した。調査では調査区壁面の崩落を考慮し、余掘調査可能範囲から、さらに50cm控えをとり、鋼矢板から3m控えた範囲で調査を行い、16層中からは遺物の出土も確認した。

P1区の調査は、3区で鋼矢板の打設を開始した6月11日から着手し、表土掘削を行った。13日からは検出作業を開始したが、P2区の調査と並行して行ったため、度々中断しながら調査を進め、8月3日から本格的に調査を行った。

7層は耕作土中にみられる整地層の可能性が高く、7-1層は風化花崗岩礫、粘土を主体とする層であり、9月20日から開始した7層下面の調査では溝が認められた。また、9月21日以降に行った8層以下の調査では、8層下面で畦畔、10・11層下面で畦畔、ピットが確認される。

12層以下では、11月から開始した29層の掘削中に縄文時代後期の土器がややまとまって出土し、29層下面では、ドングリが集積された土坑2基が確認された。また、49層下面では柱状加工木が出土した柱穴なども認められた。

A1区の調査は、当初、鋼矢板によって調査区(橋脚部分)を全周囲んで行う予定であったが、北側と東側の一部で基盤層が浅く、鋼矢板の打設が予定深度まで行えないことが明らかとなった。また、

北側では調査区外に位置するものの、丘陵斜面部が崩落しており、調査中の事故を回避するため、国土交通省と鳥取県教育委員会の間で協議の結果、調査区北側と東側の一部を露天掘りとする変則的な調査区を設定し、調査を行った。

作業は7月23日から表土掘削を行い、30日から人力による掘削を行ったが、8月9日からは鋼矢板内に設置する支保工工事のため中断し、8月20日から再開し、本格的な調査は9月以降となった。

10月9日に行った5層下面の調査では、20基以上のピットが検出され、中世の総柱の掘立柱建物跡も確認された。また、6層下面の調査においても建物跡は認められなかったが、土坑、ピットが10数基確認された。

10月29日以降に行った古墳時代終末の7-1層下面、7-2層下面の調査では、後世の掘削などにより、遺構の遺存状況は良くなかったが、竪穴住居跡を確認したほか、16層下面の検出作業では、掘立柱建物跡、柵跡と思われる柱穴列ほか、多数のピットを確認した。11月20日からは古墳時代前期から後期の21層下面以下の調査を行った。検出された遺構は少ないが、25層下面では古墳時代前期の袋状土坑などが確認される。

調査では26層以下に弥生時代中期から古墳時代前期の遺物包含層を確認したが、調査区南西側では今年度打設した鋼矢板の限界掘削深度を超えてしまうため、調査区南西部の一部を未調査のまま、12月7日にA1・P1・P2区の俯瞰撮影を高所作業車により行い、調査を終了した。

なお、調査地は鋼矢板や支保工が組まれた状態であり、安全管理上、現地説明会など現場公開の機会を持つことはできなかったが、11月28・29日には調査地近隣の松保公民館、12月10日から17日にかけては湖山池情報プラザにて遺物の展示会と調査報告を行った。さらに3月12日から18日にかけては、鳥取県ふれあい会館でも遺物展示と調査報告会を実施した。

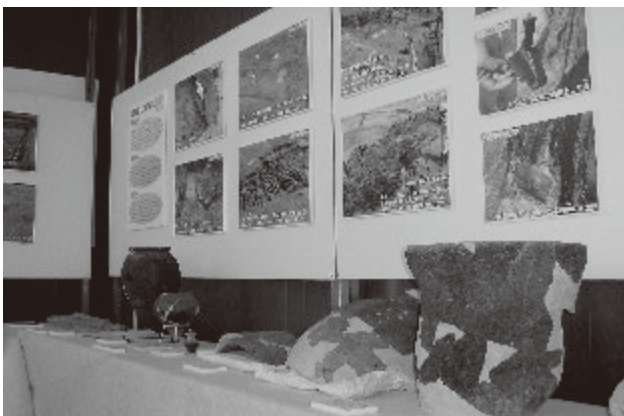


写真1 展示会（湖山池情報プラザ）



写真2 調査報告会（県民ふれあい会館）

第3節 調査体制

平成23年度

鳥取県教育委員会
 教 育 長 横濱 純一
 鳥取県教育委員会事務局文化財課
 課 長 上山 憲二
 歴史遺産室長 中原 斉
 課長補佐（兼主幹） 田貝 隆
 文化財係長 北浦 弘人
 文化財主事 大野 哲二

財団法人鳥取県教育文化財団
 理 事 長 井上 善弘
 事 務 局 長 漆原 貞夫
 事 務 職 員 岡田 美津子

調査室
 室長（美和調査事務所長兼務） 松井 潔（※1）
 次 長 石本 富正
 事 務 職 員 福田 早由里
 美和調査事務所 調査第1担当
 副 主 幹 中森 祥（※1）
 濱田 竜彦（※1）
 文化財主事 山梨 千晶（※1）
 事 務 職 員 植木 智子

※1 鳥取県教育委員会から派遣

発掘調査支援業者
 株式会社シン技術コンサル
 現場代理人 松田 秀貴
 調 査 員 長谷川 徹
 安生 素明
 調査補助員 成田 典信
 中谷 桂太

平成24年度

鳥取県教育委員会
 教 育 長 横濱 純一
 鳥取県教育委員会事務局文化財課
 課 長 上山 憲二
 歴史遺産室長 北浦 弘人
 課長補佐（兼主幹） 土山 和俊
 歴史遺産室文化財主事兼係長 大野 哲二

財団法人鳥取県教育文化財団
 理 事 長 井上 善弘
 事 務 局 長 漆原 貞夫
 （平成24年12月31日まで）
 中川 眞一
 （平成25年1月1日から1月20日まで兼務）
 石本 富正
 （平成25年1月21日から）
 事 務 職 員 岡田 美津子
 臨 時 職 員 橋本 絵美

調査室
 室長（美和調査事務所長兼務） 松井 潔（※1）
 次 長 石本 富正
 （平成24年5月31日まで）
 中川 眞一
 （平成24年6月1日から）

主 事 福島 亘（※1）
 事 務 職 員 福田 早由里
 美和調査事務所 調査第2担当
 副主幹（総括） 濱田 竜彦（※1）
 副 主 幹 野口 良也（※1）
 文化財主事 北 浩明（※1）
 長戸 満男（※2）
 事 務 職 員 植木 智子

※1 鳥取県教育委員会から派遣

※2 財団法人京都市埋蔵文化財研究所

発掘調査支援業者

埋蔵文化財発掘調査支援業務委託（高住牛輪谷遺跡、高住井手添遺跡（第2次調査））共同企業体
 （株式会社シン技術コンサル、サイトウコンサルタン
 ト株式会社）
 現場代理人 千葉 清貴
 副現場代理人 武安 淳
 支援調査員 長澤 展生
 石川 博行
 調査補助員 成田 典信
 中谷 桂太
 岩瀬 大輔

平成25年度

鳥取県教育委員会

教 育 長 横濱 純一

鳥取県教育委員会事務局文化財課

課 長 上山 憲二

歴史遺産室長 北浦 弘人

課長補佐（兼主幹） 土山 和俊

歴史遺産室文化財主事 岡野 雅則

公益財団法人鳥取県教育文化財団

理 事 長 井上 善弘

事 務 局 長 石本 富正

事 務 職 員 岡田 美津子

調査室

室 長 松井 潔（※1）

次長兼総務企画課長 中川 眞一

総 務 係 長 川村 悟（※1）

主 事 福島 亘（※1）

事 務 職 員 福田 早由里

植木 智子

（兼事務局事務職員）

第2工区担当

主 幹 野口 良也（※1）

文化財主事 北 浩明（※1）

長戸 満男（※2）

（平成25年6月16日まで）

※1 鳥取県教育委員会から派遣

※2 一般財団法人京都市埋蔵文化財研究所

第2章 遺跡の位置と歴史的環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境

高住牛輪谷遺跡は鳥取県鳥取市高住に所在する。鳥取県は中国地方の北東部に位置し、県域は東西におよそ100km、南北におよそ40kmと東西に長い。鳥取市は鳥取県の東部にあり、東は岩美郡、南は八頭郡、西は東伯郡と接し、北には日本海が広がる。

遺跡の所在する高住地区は、鳥取市の中央やや北寄りの湖山池南岸に位置する。湖山池南岸は、中国山地から延びる山地や丘陵地と、それらが開析されてできた谷底平野や中小河川によって形成された三角州が広がる。高住地区は南方の箕上山を集水域とする三山口川が形成した谷底平野に位置し、現在は三山口川両側の平野部を水田などの耕地として、西側丘陵裾部が集落として主に利用されている。また、この谷底平野、ならびに東西の丘陵部は埋蔵文化財包蔵地として周知されている。

三山口川が流入する湖山池は、鳥取市の中央やや北寄りに位置する面積6.8km²を測る海跡湖で、現在は流出河川にする水門操作により、弱い汽水環境にあるものの、過去には日本海の内湾として海水環境にあった。

第2節 歴史的環境

今回の調査地は湖山池の南岸地域にあたる。湖山池周辺は、鳥取県東部でも多くの遺跡が集中する地域の一つである。本節では湖山池周辺の歴史を概観する。



第3図 鳥取県と遺跡の所在地

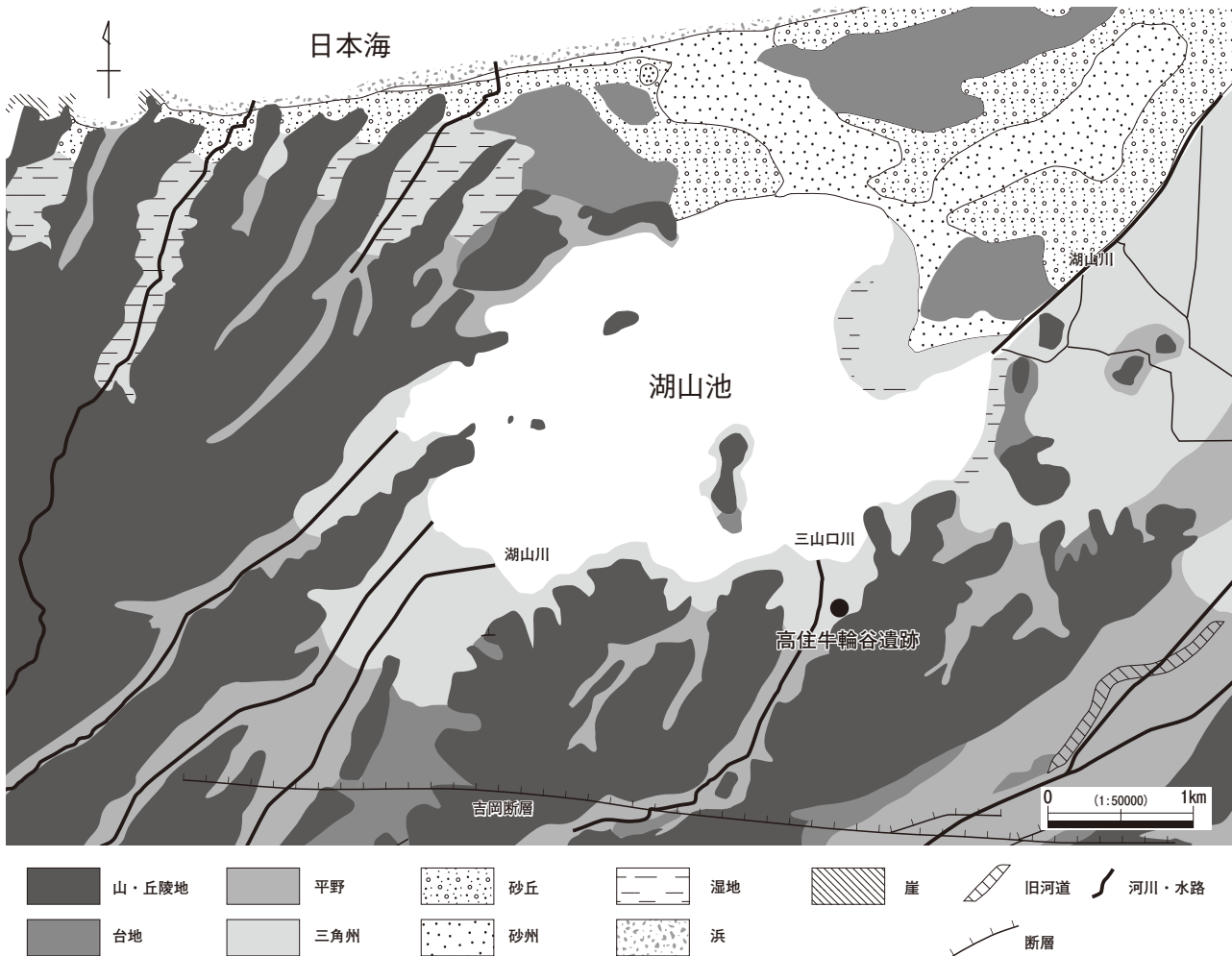
【縄文時代】

湖山池周辺での人々の生活痕跡は縄文時代前期中葉まで遡る。高住平田遺跡(44)では北白川下層式の土器のほか、当該期と思われる石錘も出土する。また、東桂見遺跡(50)や桂見遺跡(48)でも前期末頃の大歳山式土器が認められる。

中期においても高住平田遺跡では鷹島式から里木Ⅱ式の土器群や当該期の石錘、杭などの遺物が出土しているほか、高住平田遺跡に隣接する高住井手添遺跡(43)の平成23年度調査では、縄文時代中期の船元式を中心とする土器群が包含層から多量に出土しており、湖山池沿岸地域での人々の継続的な活動が認められる。

中期末から後期にかけては、湖山池南東部の布勢、桂見に代表される低湿地遺跡において遺構・遺物が確認されている。布勢第1遺跡(53)では、杭と板材を用いた後期の水路護岸らしき遺構が確認された。周辺は湿潤な環境下で多数の木製品が良好な状態で地中に保存されており、中でも布勢第1遺跡出土の朱漆塗りの木製容器や、桂見遺跡(48)出土の丸木舟は特筆される。後期以降の土器は、池南側にある青島第1遺跡(39)でも出土した。

後期後半から晩期にかけては、千代川やそこへ合流する河川によって形成された自然堤防上に人々が進出したようである。野坂川沿いの大桝遺跡(63)や、千代川と湖山池の間にある岩吉遺跡(16)、北東部にある湖山第2遺跡(13)では、晩期の土器がみつかった。湖山池南西部の岩本第2遺跡(18)で



第4図 遺跡周辺の地形（『高住平田遺跡Ⅰ』から引用。一部加筆）



- | | | | |
|--------|------------|--------|----------|
| ○ 集落遺跡 | ■ 主要な前方後円墳 | ∩ 横穴墓群 | ▲ その他の遺跡 |
| ○ 古墳群 | ■ 前方後方墳 | ⊕ 城跡 | × 出土地 |

- | | | | |
|-----------------|----------------|--------------|-------------|
| 1 高住牛輪谷遺跡 | 18 岩本第2遺跡 | 35 尾崎須恵器窯跡 | 52 布勢鶴指奥墳墓群 |
| 2 伏野神社の南横穴墓群 | 19 防己尾城跡 | 36 良田古墳群 | 53 布勢第1遺跡 |
| 3 伏野所在横穴墓群 | 20 岩本古墳群 | 37 良田中道遺跡 | 54 布勢第2遺跡 |
| 4 中ノ茶屋遺跡 | 21 大谷古墳群 | 38 良田平田遺跡 | 55 里仁第1横穴群 |
| 5 三津所在横穴墓 | 22 大畑古墳群 | 39 青島第1遺跡 | 56 里仁第2横穴群 |
| 6 三津古墳群 | 23 金沢坂津口遺跡 | 40 塞ノ谷遺跡 | 57 里仁第3横穴群 |
| 7 三津ヶ崎本陣山城跡 | 24 松原田中遺跡 | 41 高住古墳群 | 58 里仁古墳群 |
| 8 三浦1号墳 (琵琶隈古墳) | 25 松原谷田遺跡 | 42 高住宮ノ谷古墳群 | 59 鍋山城跡 |
| 9 三浦遺跡 | 26 松原古墳群 | 43 高住井手添遺跡 | 60 桂見鍋山遺跡 |
| 10 大熊段遺跡 | 27 松原小奥遺跡 | 44 高住平田遺跡 | 61 桝岡古墳群 |
| 11 大熊段1号墳 | 28 松原所在古墓 | 45 倉見古墳群 | 62 里仁遺跡 |
| 12 湖山第1遺跡 | 29 丸山城跡 | 46 西桂見遺跡 | 63 大桝遺跡 |
| 13 湖山第2遺跡 | 30 吉岡古墳群 | 47 帆城遺跡 | 64 本高古墳群 |
| 14 天神山遺跡 | 31 長柄古墳群 | 48 桂見遺跡 | 65 本高弓ノ木遺跡 |
| 15 天神山城跡 | 32 吉岡遺跡 (大海地区) | 49 桂見古墳群・墳墓群 | 66 本高14号墳 |
| 16 岩吉遺跡 | 33 吉岡遺跡 (丸山地区) | 50 東桂見遺跡 | 67 高住銅鐸出土地 |
| 17 布勢1号墳 | 34 箕上山城跡 | 51 布勢古墳群 | 68 松原1号墳丘墓 |

第5図 周辺の遺跡

は、少量ながら晩期の突帯文土器が出土する。ただし、明確な遺構はいずれも未確認である。

また近年では、有富川と野坂川に挟まれた本高弓ノ木遺跡(65)の平成22年度調査で、木材を貯木した可能性がある流路が確認され、弥生前期土器に伴って突帯文土器が出土したほか、高住井手添遺跡(43)の平成23年度調査でも、蛇行する流路から突帯文土器のほか、良好な遺存状態の編み物籠が13点出土しており注目される。

【弥生時代】

前期の遺物出土地点は、縄文時代晩期に展開した地域と大きな差はない。これまで遺構はほとんど確認されていなかったが、湖山池南西部にある松原田中遺跡(24)で前期末頃の溝が確認された。

明らかな建物が確認できるのは中期以降である。湖山第2遺跡では、中期前葉と思われる掘立柱建物が確認された。中期中葉はよくわかっていないが、中期後葉になると徐々に遺構が確認されはじめる。布勢第2遺跡(54)や湖山第2遺跡では堅穴建物を、岩吉遺跡では掘立柱建物を確認しており、これらは後期も存続する。南部では、高住字宮ノ谷の丘陵から流水文銅鐸が、青島に面する塞ノ谷遺跡(40)から分銅形土製品がそれぞれ出土している。また、北部の砂丘地では、中ノ茶屋遺跡(4)でこの頃の遺物が散布する。

後期になると、建物のある遺跡が各所でみつかると。湖山第2遺跡ではこの頃から遺構数が増え、布勢第2遺跡に続き、桂見遺跡、帆城遺跡(47)、大桝遺跡では丘陵裾に、西桂見遺跡(46)では丘陵上に建物が確認された。特に、布勢第2遺跡の玉作工房と思しき堅穴建物は注目される。

一方、南東部の丘陵では墳墓群を築造する。その中で後期中葉の長軸17.8mを測る布勢鶴指奥1号墳丘墓(52)や、桂見墳墓群(49)で一回り大きい墓壙に水銀朱や玉類を副葬する第1土壙墓の存在は、首長層の存在を示すものだろう。さらに後期末になると西桂見墳丘墓(全長約65m)が出現し、南東部に有力な集団が存在していたようだ。

南西部でも、松原田中遺跡や松原谷田遺跡(25)、岩本第2遺跡で建物が発見された。また、湖山池に突き出した丘陵上には、平成23年度の調査で1000点以上のガラス玉が出土した松原1号墳丘墓がある。

【古墳時代】

古墳時代に入ると、丘陵上に多くの古墳が造られる。

鳥取平野最大の前方後円墳は、大桝遺跡を見下ろす尾根上にある桝間1号墳(全長92m)で、湖山池沿岸では里仁29号墳(全長81m)が最も大きい。また全長30m前後の前方後円墳は、桂見、高住や良田、松原、吉岡の各古墳群に点在する。松原古墳群内の7号墳(全長54m)は、周辺では突出した規模を持つ。

前期古墳の調査は、桂見古墳群や倉見古墳群(45)、松原古墳群(26)で実施された。これらはすべて方墳で、立地も含めて弥生時代からの伝統を継承していることが想定される。また、平成21年度に実施された本高古墳群(63)の調査では、当初は円墳と認識されていた本高14号墳が全長63mを測る前方後円墳であることが明らかとなり、現状では山陰地方で最も早くに築造された前方後円墳と評価されている。

中期古墳の調査例は里仁32～35号墳(58)にある。いずれも方墳で、32・33号墳は鱗付円筒埴輪を棺に転用した埋葬施設を確認し、35号墳から堅櫛が多数出土した。

後期古墳は、北東部の濃山台地上にある三浦1号墳(琵琶隈古墳)(全長36m)や大熊段1号墳(全

第2章 遺跡の位置と歴史的環境

長46m)、東部の布勢古墳(全長59m)といった前方後円墳が比較的近接して築造される。横穴式石室は倉見9号墳(45)、高住12号墳(41)、松原28号墳(26)や吉岡1号墳(葦岡長者古墳)(30)などがあるが、千代川東岸に比べると確認例は少ない。このほか、松原古墳群では、尾根頂部が広くなるところを中心に築造された10基の古墳と斜面に開口する後期末の横穴墓が調査された。

集落は弥生時代後期から継続して、湖山第2遺跡や西桂見遺跡、布勢第2遺跡、松原谷田遺跡などで営まれた。ただ中期の遺構、遺物は減少傾向にある。西桂見遺跡は前期で廃絶し、布勢第2遺跡も中期は未確認である。湖山第2遺跡は中期で終焉し、隣接する湖山第1遺跡は中期末から後期の建物を検出する。松原谷田遺跡は、前期以降の遺物が散布するのみである。

塞ノ谷遺跡では、弥生時代後期から古墳時代にかけての遺物とともに木製の護岸施設を伴う池状遺構が見つかり、水に関係する祭祀が想定される。

【古代】

湖山池周辺は、律令制下では因幡国高草郡に属した。この時期の遺構として、桂見遺跡や岩吉遺跡で掘立柱建物が確認されている。桂見遺跡では周辺から赤色塗彩された土師器や転用硯、木簡が出土し、岩吉遺跡では木簡とともに「草田」と記した墨書土器が多数見つかった。両遺跡とも人形代や斎串などの木製祭祀具が出土する。

松原谷田遺跡では平安時代の掘立柱建物1棟を確認したほか、吉岡遺跡では須恵器とともに奈良時代初頭の単弁十二弁蓮花文軒丸瓦や鴟尾の破片が出土する。調査地近くの吉岡大海地区で瓦が多数散布しており、古代寺院の存在が窺われる。

近年の調査では、平成22・23年度に行われた高住平田遺跡で、奈良時代から平安時代にかけての遺構、遺物が出土しており、墨書のある土器や人形のほか、銅印が1点出土している。また、平成23・24年度に行われた良田平田遺跡(38)の調査でも、奈良時代から平安時代を中心として、飛鳥時代に遡る木簡が多く出土し、周辺の田畠を管理する施設などがあった可能性が考えられている。

【中世】

南北朝の争乱期において因幡の実質的な支配を確立した山名時氏は、貞治3(1346)年に室町幕府から正式に因幡守護に任じられ、以後山名氏が因幡守護職に就くことになる。

その守護所として築城されたのが天神山城(15)である。正確な築造時期はよく分からないが、15世紀後半には守護所として機能していたらしい。その後但馬山名氏の支配下に入るが、永禄6(1563)年に武田高信による攻撃を受けた山名豊数が退去し廃城となる。一方、丸山城跡(29)と防己尾城跡(19)は、この地域を拠点とする吉岡氏との関連性が考えられよう。

当該期の墓は、天神山城の北側の三浦遺跡(9)、大熊段遺跡(10)や、南側の里仁古墳群、布勢墳墓群、布勢鶴指奥墳墓群、桂見墳墓群、西桂見遺跡でみつかった。大熊段遺跡、布勢墳墓群、桂見墳墓群、西桂見遺跡等では、方形に周溝を持つものや盛土を確認した。

※参考文献（本章で紹介した遺跡の主要文献のみを掲出。遺跡名五十音順）

- 『葦岡長者古墳（吉岡1号墳）発掘調査報告書』 明日の湖南を考える会 1984
- 『岩吉遺跡』 岩吉遺跡調査団 1976
- 『岩吉遺跡発掘調査概報』 鳥取市文化財報告書委25 鳥取市教育委員会 鳥取市遺跡調査団 1989
- 『岩吉遺跡発掘調査概報Ⅱ』 鳥取市文化財報告書20 鳥取市教育委員会 鳥取市遺跡調査団 1990
- 『岩吉遺跡Ⅲ』 鳥取市文化財報告書30 鳥取市教育委員会 鳥取市遺跡調査団 1991
- 『岩吉遺跡Ⅳ』 財団法人鳥取市教育文化財団 1997
- 『大熊段遺跡』 鳥取県教育文化財団報告書19 財団法人鳥取県教育文化財団 1986
- 『桂見墳墓群』 鳥取市文化財報告書 鳥取市教育委員会 鳥取市遺跡調査団 1984
- 『桂見墳墓群Ⅱ』 財団法人鳥取市教育福祉振興会 1993
- 『平成6年度 桂見遺跡発掘調査報告書』 財団法人鳥取市教育福祉振興会 1995
- 『平成7年度 桂見遺跡群発掘調査概要報告書』 財団法人鳥取市教育福祉振興会 1996
- 『桂見遺跡－ハツ割地区・堤谷東地区・堤谷西地区－』 鳥取県教育文化財団調査報告書45 財団法人鳥取県教育文化財団 1996
- 『平成8年度 桂見遺跡群発掘調査概要報告書』 財団法人鳥取市教育福祉協議会 1997
- 『平成9年度 桂見遺跡発掘調査報告書』 財団法人鳥取市教育福祉振興会 1998
- 『桂見遺跡群（その1）』 財団法人鳥取市教育福祉振興会 1998
- 『桂見遺跡群（その2）』 財団法人鳥取県教育文化財団 1998
- 『平成20年度 桂見遺跡発掘調査報告書』 財団法人鳥取市文化財団 2009
- 『桂見古墳群・桂見遺跡発掘調査概要報告書』 鳥取市文化財報告書23 鳥取市教育委員会 1988
- 『湖山第1遺跡』 鳥取県教育文化財団調査報告書24 鳥取県教育委員会 財団法人鳥取県教育文化財団 1989
- 『湖山第2遺跡』 鳥取県教育文化財団調査報告書11 財団法人鳥取県教育文化財団 1982
- 『里仁古墳群』 鳥取県教育文化財団報告書18 財団法人鳥取県教育文化財団 1985
- 『高住平田遺跡Ⅰ』 鳥取県教育委員会 2012
- 『高住平田遺跡Ⅱ』 鳥取県教育委員会 2013
- 『天神山遺跡発掘調査概報』 鳥取県教育委員会 1973
- 『天神山遺跡発掘調査報告書』 鳥取県教育委員会 1989
- 『徳尾遺跡群発掘調査報告書』 鳥取県教育委員会 1985
- 『西桂見遺跡』 鳥取市文化財報告書X 鳥取市教育委員会 1981
- 『西桂見遺跡Ⅱ』 鳥取市文化財報告書16 鳥取市教育委員会 倉見古墳群発掘調査団 1984
- 『西桂見遺跡－鶯谷口地区・鶯谷奥地区・堤谷地区－ 倉見古墳群』 鳥取県教育文化財団調査報告書46 財団法人鳥取県教育文化財団 1996
- 『東桂見遺跡試掘調査報告書』 鳥取県埋蔵文化財センター調査報告6 鳥取県教育委員会 1992
- 『東桂見遺跡 布勢鶴指奥墳墓群』 鳥取県教育文化財団調査報告書29 財団法人鳥取県教育文化財団 1992
- 『布勢遺跡発掘調査報告書』 鳥取県教育文化財団調査報告書7 財団法人鳥取県教育文化財団 1981
- 『布勢鶴指奥墳墓群試掘調査報告書』 鳥取県教育委員会 1992
- 『布勢墳墓群』 財団法人鳥取市教育福祉振興会 1998
- 『松原1号墓』 財団法人鳥取市文化財団 2012
- 『松原古墳群Ⅰ』 鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書30 鳥取県埋蔵文化財センター 国土交通省鳥取河川国道事務所 2010
- 『松原古墳群Ⅱ 松原小奥遺跡』 鳥取県文化財調査報告書20 鳥取県教育委員会 2010
- 『本高古墳群』 鳥取県教育委員会 2010
- 『本高弓ノ木遺跡Ⅰ』 鳥取県教育委員会 2013
- 『三浦遺跡』 鳥取県教育文化財団調査報告書9 鳥取大学 財団法人鳥取県教育文化財団 1982
- 『鳥取県史』 第1巻 原始古代 鳥取県 1972
- 『新修鳥取市史』 第1巻 古代・中世篇 鳥取市 1983
- 『発掘通信 鳥取西道路の遺跡を掘る！』 第1～47号 財団法人鳥取県教育文化財団 2009～2013

第3章 調査の方法

第1節 調査地の地区割

地区割の方法と名称

鳥取県教育委員会が、鳥取県教育文化財団に委託した鳥取西道路関連の発掘調査では、調査成果の標準化を目的として、遺跡や遺構の位置表示や遺物の取上げ等に利用する地区割に、平面直角座標系の第V系（世界測地系）を使用している。地区割については、10m×10m(100㎡)の区画を基本的な最小単位とし、その名称（記号）については、以下のように設定した（第6図）。

第I区画 鳥取県の全域に設定した大区画である。10,000m×10,000mで、1～91の区画を設け、北東隅からT1～T91の記号を付した。

第II区画 第I区画の1区画内を、1,000m×1,000mに100分割した区画である。第II区画については、1区画の南北軸に1～10、東西軸にa～jを付し、1a～10jの記号を付した。

第III区画 第II区画の1区画内を、100m×100mに100分割した区画である。第III区画については、1区画の南北軸に1～10、東西軸にA～Jを付し、1A～10Jの記号を付した。

第IV区画 第III区画の1区画内を、10m×10mに100分割した区画である。第IV区画については、1区画の南北軸に1～10、東西軸にa～jを付し、1a～10jの記号を付した。

高住牛輪谷遺跡における地区割

高住牛輪谷遺跡の発掘調査は、平成23年度に実施した道路盛土予定範囲の調査区（1区）と確認調査範囲（1G～3G）、平成23年度の調査成果を受けて実施した平成24年度の道路橋脚部分の調査区（A1・P1・P2区）がある。

調査区に前項で述べた10m単位の地区割を設定したものが第7図である。本書で報告する平成23年度調査範囲は、T23（第I区画）内に位置しており、文中で遺構・遺物位置について地区割を用いながら記載する際には、第II、第III、第IV区画の記号を用いて6f-10E-4aのように記す。

平成24年度の調査範囲は、T23（第I区画）-6f（第II区画）内に位置しており、文中で遺構・遺物位置について地区割を用いながら記載する際には、調査区名、第III、第IV区画の記号のみを用いて10C-5iのように記す。

第2節 発掘調査と記録の対象

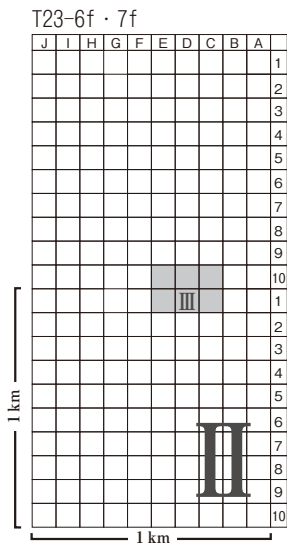
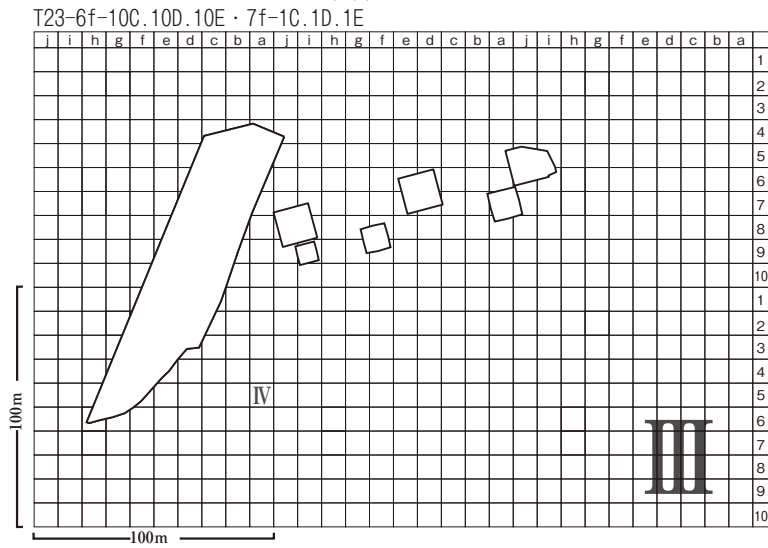
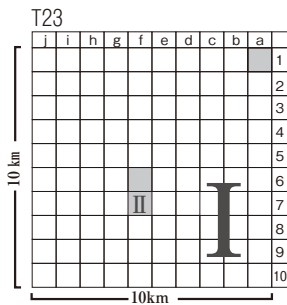
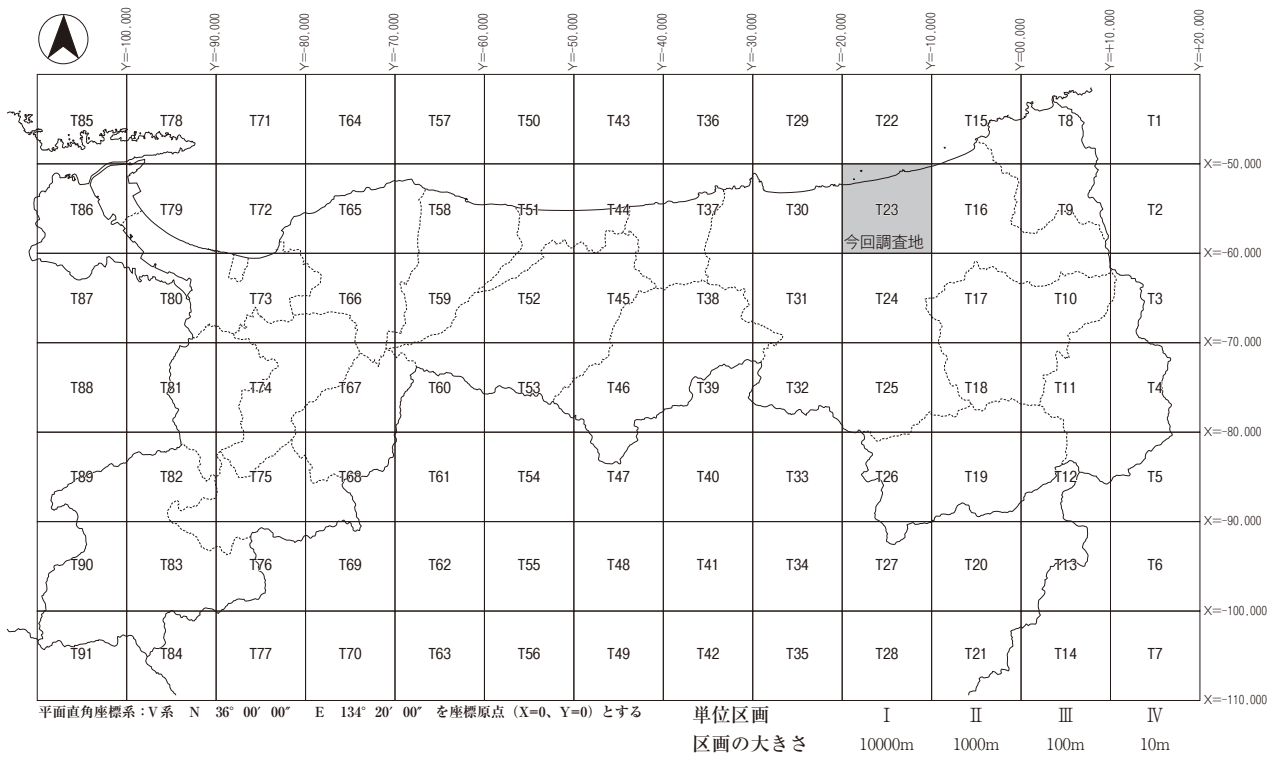
発掘調査と記録の対象

平成23年度の調査対象は、1区に設定された調査区のうち、西側部分3,750㎡と、第1章第2節で述べたように、調査区東側部分で行った確認調査308㎡（1G：144㎡、2G：100㎡、3G：64㎡）である。

平成24年度の調査対象は、道路橋脚部分の668㎡（A1区：224㎡、P1区：222㎡、P2区：222㎡）である。掘削は表土掘削を重機、包含層および遺構の検出・掘削は人力で行い、調査の記録作業は表土除去後から対象として行った。

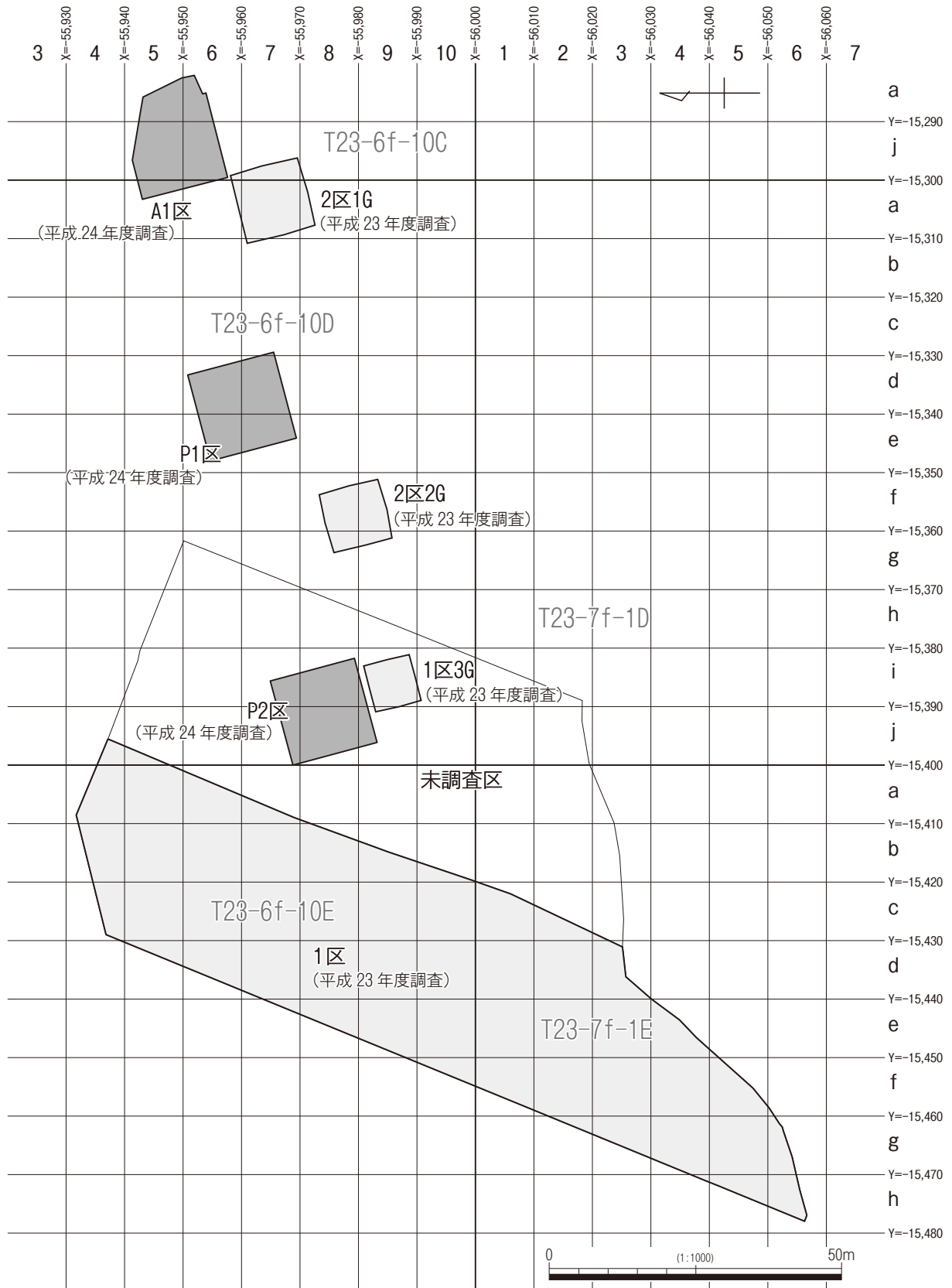
遺構名称の設定

鳥取県教育委員会が財団法人鳥取県教育文化財団に委託した鳥取西道路関連の発掘調査では、検出



第6図 地区割（グリッド）概念図

第3章 調査の方法



第7図 調査地の地区割

順に遺構番号を付与することを基本方針としている。遺構名称は、遺構番号の後ろに検出された遺構の種別を組み合わせることで1土坑、2溝のようになるが、種別については、調査が進む中で変更されることもある。一方で、一度付与された遺構番号については不変であり、本書においても調査時に付与した遺構番号を用いて報告を行っている（平成23年度調査においては、耕地段差、擬似畦畔、足跡は種別ごとに遺構番号を付した）。ただし、現地調査時に遺構番号を付したものについても、調査の結果、攪乱や自然地形であることが明らかとなった場合、欠番とした。

また、遺構番号は各調査区での混乱を防ぐため、平成23年度は、1区は0001、確認調査1Gは1001、2Gは2001、3Gは3001から付した。

平成24年度では、調査当初から3つの調査区が設定されていたことから、平成23年度調査区との区名の重複をさけるため、遺跡名の後ろに調査区の橋脚名を付し（高住牛輪谷遺跡(A1)など）、調査区ごとに0001から番号を付した。

図面記録および写真撮影

現地での記録作業は、支援業者の調査員と測量士が監理者の指示、確認を受けながら行った。

図面記録に関しては、平断面図はトータルステーションを用いた測量と写真計測を、対象遺構や壁面の状況によって使い分けている。作成した図面は、監理者の確認後に、現地での一次記録である〈素図〉として管理し、最終的には情報をデジタルデータとして整理、統合し、〈編集図〉を作成した。成果品としての編集図は、主にベクトルデータで構成され、イラストレーターCS4以上での再編集が可能な形で保存（ai形式）している。

写真の撮影は、撮影対象、範囲、アングル、使用機材等に関する発掘調査監理者の指示をもとに支援調査員が行った。撮影用機材としては、中型（6×7判）一眼レフカメラ、小型（35mm判）一眼レフカメラ、デジタル一眼レフカメラ（センサーサイズAPS-C以上、有効画素数1220万画素以上）を併用し、対象によって機材を適宜選択しながら行った。また、中判、小型一眼レフカメラに使用したフィルムは、富士フィルム社プロビア100F（リバーサル）、富士フィルム社ネオパン100ACROS（黒白フィルム）である。

デジタル一眼レフカメラによる撮影はRAW・JPEG形式の同時保存により行った。また、デジタル一眼レフカメラによる撮影は、写真撮影を行う全ての対象に対して行うとともに、撮影対象や日付などの撮影内容を記載した写真ラベルも合わせて撮影している。これにより、撮影した画像データを他のフィルムカメラの整理、検索性資料として使用できるようになり、写真記録管理用の〈写真台帳〉の作成時に有用なだけでなく、効率的な写真の管理と活用が可能となっている。

出土遺物の取り上げ

遺物の取り上げには、鳥取県教育文化財団調査室が用意した遺物カードを使用した。取上番号は通し番号とし、遺物カードに記載された項目に基づいて遺物取上台帳を作成し、出土した遺物を取り上げ、管理した。遺物カードの記載項目・内容は以下のとおりである。

遺跡名 「高住牛輪谷遺跡11」、「高住牛輪谷遺跡12」と記載。「11」、「12」は2011、2012年度に調査を実施したことを示す。

地区名 遺物の取り上げは、10m×10mのグリッドを基本とし、第Ⅰ～Ⅳ区画で構成される地区割を記載した（第3章第1節参照）。

層位名 遺物が帰属する包含層や遺構内に堆積した層位の番号ないし名称を記載した。

第3章 調査の方法

遺構名 遺物が帰属する遺構の名称を記載した。

取上No. 取り上げ順に通し番号を記載した。

出土年月日 検出日ではなく、取り上げ日を記載した。

図面 遺物の出土状況が記録された図面の有無と図面のスケールを記載した。

備考 特記事項を記載した。

時代・時期 取り上げた遺物の帰属時期を記載するが、この度の調査では記載を省略した。

種別 土器や鉄器など素材によって大別される遺物の種別を記載。

その他 上記の記載項目とは別に、取上時に座標値が記録されたものについては、遺物カードのメモ欄に座標値を記載した。

なお、平成23年度調査では、確認調査のグリッドが上記の地区割よりも狭小なものもあることから、上記の地区名のほか遺物の分布状況の記録など、必要に応じて調査区を四分して取り上げを行った。

また、平成23年度調査では、取り上げた遺物に付す遺物番号は、並行して調査を行った1区と確認調査の各グリッドとの遺物取り上げ番号の重複を防ぐため、1区は0001、確認調査1Gは1001、2Gは2001、3Gは3001から付した。平成24年度調査では調査区ごとに0001から付した。

出土遺物の整理

出土遺物については、現地での取上げ後、鳥取県教育文化財団美和調査事務所に持ち帰って、以下のような整理作業を行っている。

土器、土製品 調査終了後に洗浄、接合、注記(マーキング)、復元及び実測を行った。器種及び形状が判明ないし復元できる個体を実測の対象とした。

石器 調査終了後に洗浄、接合、注記(マーキング)、復元及び実測を行った。本調査の出土品は、器種や用途が判明できるもののほか、使用痕が明瞭な個体について、実測の対象とした。

木製品 調査終了後に洗浄及び実測を行った。器種や用途または、特徴的な加工が施されているものを実測の対象とした。

金属製品 調査終了後、近年のものと判断されるものを除き実測を行った。

写真撮影 以上の出土遺物を対象に、デジタル一眼レフカメラ(センサーサイズ フルサイズ)で撮影を行った。

保管 図面及び写真の記録類、出土遺物はすべて台帳に登録して収納作業を行った。

遺跡の養生

調査計画の変更によって、平成23年度調査1区西側は調査終了後に埋め戻しを行った。養生は、遺構は調査終了面(4a層下面)の高さまで真砂を充填し、調査終了面全体をブルーシートで覆った。また、平成24年度調査A1区南西側も周囲に打設された鋼矢板の強度の問題から、調査終了とはならなかったため、未調査となった範囲をブルーシートで覆い養生した。

第4章 平成23年度の調査成果

第1節 調査の概要

高住牛輪谷遺跡は、鳥取平野西部にある湖山池南岸に位置する遺跡である。遺跡は、中国山地の箕上山を集水域とし、北流して湖山池に注ぐ三山口川が形成する谷底平野から東側の丘陵斜面部に立地し、現在の三山口川の東岸にある。平成23年度は、前述のとおり、1区西側の3,750㎡と、確認調査1G～3Gの308㎡の調査を行った。

1区の調査では、第1章で触れたとおり、表土掘削に先行して1区を凡そ東西方向に横断する位置に基本土層トレンチを、さらに基本土層トレンチ東端から18m、50m地点に北方向へ、80m地点に南方向へと基本土層に直交するトレンチを設定して、調査区内の堆積状況を確認した(第8図)。

その結果、1区では調査地内の堆積物を表土から5aの7層に大きく括った(平成23年度調査の土層については、次節で記載)。このうち、5a層以下は道路工法の変更検討によって調査に至らなかったが、2a層、3-1a層、3-2a層、4a層の4層の包含層と3-1a層下面、3-2a層下面、4a層下面の3面の遺構面の調査を行い、3-1a層下面では耕地段差、3-2a層下面では擬似畦畔、溝、土坑、ピット、4a層下面では溝、土坑、ピットを確認した。

確認調査は1区内に8×8mの3G、2区内に14×14mの1G、10×10mの2Gの計3調査区を設定した。

調査地東側の丘陵付近に設定した1Gでは、現耕作土下面で、出土遺物から古代に帰属すると思われる溝、土坑などの遺構を確認した。また、出土遺物の年代から129層の堆積は弥生時代中期頃、2層の堆積は古墳時代後期から終末期頃と思われるが、弥生時代中期は土器の出土状況から付近に居住域が、古墳時代後期から終末期頃は須恵質の切妻家形陶棺片が出土するなど付近に古墳の存在が予想される。

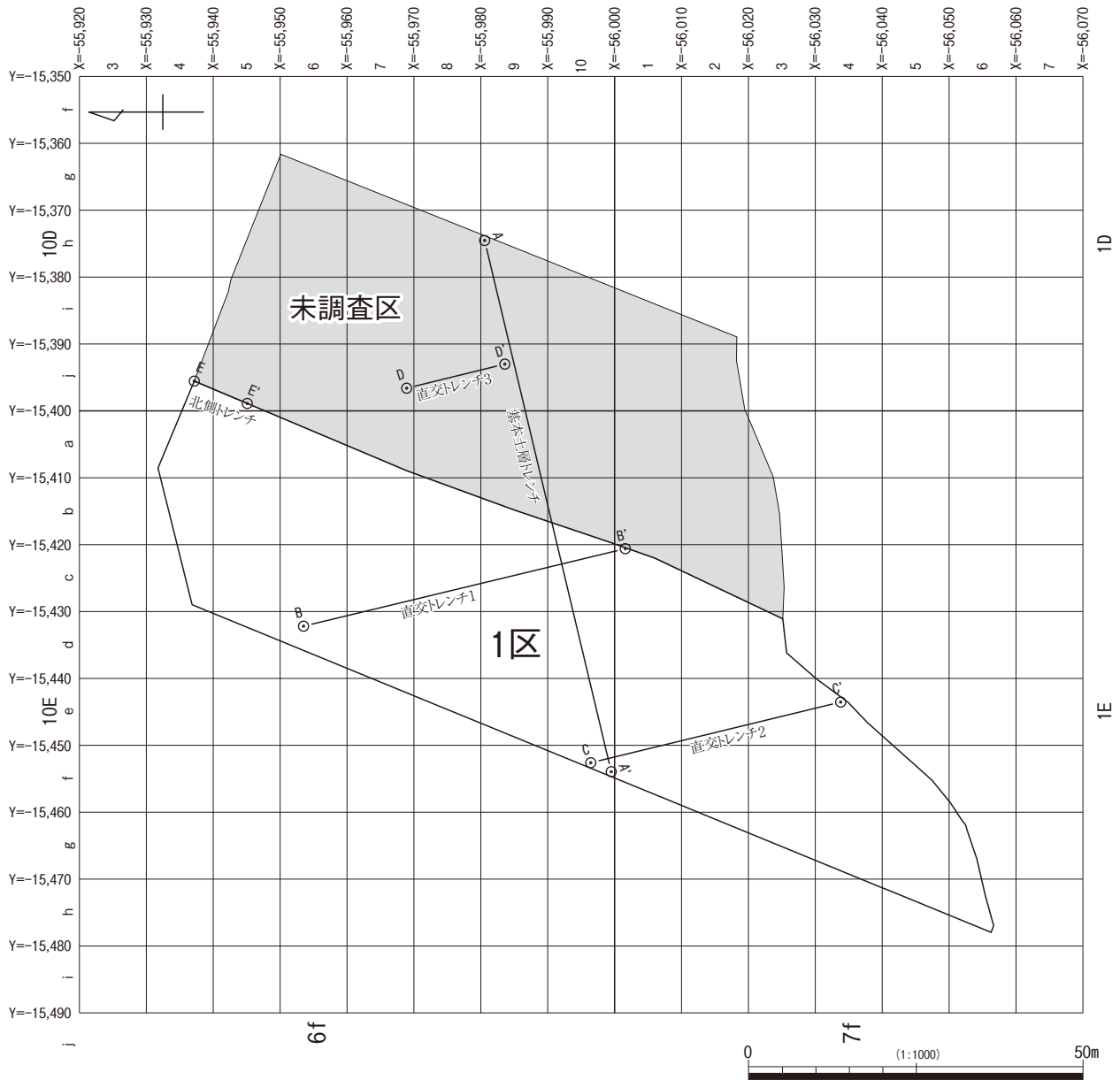
2G、3G内に堆積する層は、ほとんどがシルトと細砂～粗砂の互層であり、部分的に小礫を含む。これらの層は、谷内の流水に伴って堆積したものと判断されるが、2Gではこれらの層が土壌化した層の下面でピット、溝が確認されたほか、陶磁器片、縄文土器片及び石器などの遺物もわずかではあったが出土した。また3Gでは土壌化層下面でピットと擬似畦畔を確認した。

第2節 1区の基本層序

1区の調査は、調査区を凡そ東西方向に横断する位置に基本土層トレンチ、さらに基本土層トレンチに直交するトレンチ1・2・3を設定し、調査地内の堆積状況を確認した。そのほか上記トレンチ以外にも、堆積状況確認の必要に応じトレンチを設定し、記録をした。

また、上記のトレンチで確認された土層の観察、分層は土色と碎屑物を基本に行い、基本層序については、細分された土層を出土遺物から類推できる時期で括り、さらに堆積時の構造が遺存する自然堆積層にb、人的活動などによって攪拌されたりした土壌化層をaに分け、2a・2bなどとした。

基本土層は以下のとおりである。



第8図 土層断面取得位置図

表土

現代の水田耕作土から2a層上面までを表土として扱った（基本土層トレンチ1～22層）。現代の耕作の影響は、特に調査区北側で顕著で、圃場整備による削平や造成は、深さ約1mに及ぶ。また、現代の水田耕作土下には、灰白色粘土ブロックを含む耕作土が認められたが、わずかではあるが近代の遺物が出土するため、表土として扱った。

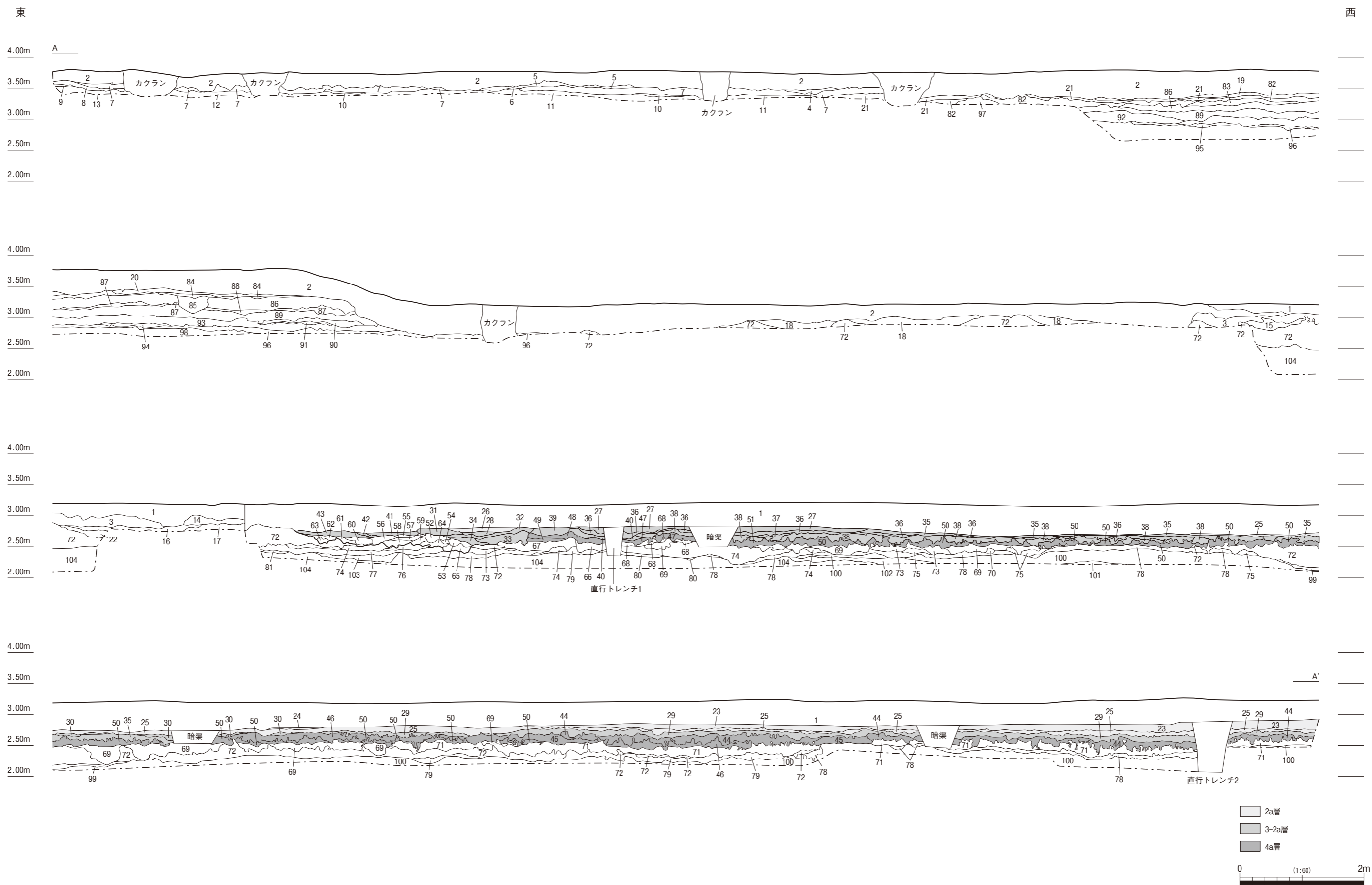
2a層

黄灰色～灰色を呈するシルト～粗砂層。圃場整備による削平のため調査区中央部でのみ確認された。当層下面では土層断面の一部で疑似畦畔の可能性のある下層の高まりが確認されたが、平面的な検出ができなかったことから、2a層下面は遺構面としなかった。

出土遺物は、鎌倉時代の土器を主体とした弥生時代後期から中世の土器が認められる。

2b層

シルト～細砂を主体とした自然堆積層。6f-10E-8b・8cグリッド付近でのみ確認した。中世の土器



第9図 基本土層トレンチ断面図

第9図基本土層トレンチ断面図土層注記1

表土

- 1 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y5/1黄灰色シルト～粗砂(炭化物をまれに含む)
- 2 5Y5/1灰色～2.5Y5/1黄灰色シルト～粗砂(灰白色粘土ブロックをごくまれに含む)
- 3 2.5Y5/1黄灰色シルト～粗砂(灰白色粘土ブロック・炭化物をごくまれに含む)
- 4 2.5Y6/1黄灰色～5Y7/1灰白色粘土～細砂(炭化物まれに含む、酸化鉄)
- 5 2.5Y6/1～5Y6/1灰色細砂～シルト(粗砂わずかに含む、炭化物をまばらに含む)
- 6 5Y7/1灰白色～5Y8/1灰白色細砂～シルト
- 7 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y6/1黄灰色粘土～細砂(炭化物まれに含む、マンガン斑)
- 8 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y6/1黄灰色シルト～粘土(細砂ブロック・灰白色粘土ブロック・炭化物をまれに含む)
- 9 2.5Y7/1灰白色～5Y7/1灰白色シルト～細砂(炭化物をまれに含む)
- 10 2.5Y7/1灰白色～2.5Y6/2灰黄色シルト～細砂(炭化物まれに含む、マンガン斑)
- 11 5Y8/1灰白色～5Y7/2灰白色シルト～細砂(灰白色粘土ブロック・炭化物をまれに含む)
- 12 2.5Y7/1灰白色～5Y8/1灰白色細砂～粗砂(灰白色粘土ブロック・炭化物をまれに含む)
- 13 5Y7/1灰白色～2.5Y8/1灰白色粘土～シルト(細砂わずかに含む、炭化物をまれに含む)
- 14 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y6/1黄灰色シルト～粗砂(灰白色粘土ブロック・黒褐色土を含む)
- 15 2.5Y5/1黄灰色～5Y6/1灰色シルト～細砂(灰白色粘土ブロックを含む)
- 16 5Y5/1灰色～2.5Y6/1黄灰色粘土～細砂(灰白色細砂ブロックをまれに含む)
- 17 2.5Y6/1黄灰色～5Y6/1灰色シルト～細砂(炭化物・灰白色粘土ブロックをまれに含む)
- 18 2.5Y5/1黄灰色～5Y6/1灰色粘土～粗砂(灰白色粘土ブロックをまれに含む、マンガン)
- 19 5Y6/1灰色シルト～細砂(粗砂わずかに含む、酸化鉄・マンガン沈着)
- 20 2.5Y5/1黄灰色粘土～細砂(粗砂わずかに含む、炭化物まれに含む、酸化鉄)
- 21 2.5Y6/2灰黄色～2.5Y7/1灰白色細砂～シルト(粗砂わずかに含む、酸化鉄)
- 22 2.5Y5/1黄灰色～5Y8/1灰白色粘土～細砂(灰白色粘土ブロックを含む)

2a層

- 23 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y4/2暗灰黄色シルト～粗砂(0.2～0.5cmの礫・炭化物をまばらに含む)
- 24 5Y5/1灰色～2.5Y6/1黄灰色シルト～粗砂
- 25 2.5Y4/2暗灰黄色～2.5Y5/2暗灰黄色シルト～粗砂(細砂ブロックをまばらに、0.5cmの白色偽礫・炭化物をまれに含む)
- 26 5Y5/1灰色～5Y6/1灰色シルト～粗砂(1cmの白色礫・炭化物をごくまれに含む)

3-2a層

- 27 5Y5/1灰色～2.5Y5/1黄灰色シルト～粗砂(0.2～0.5cmの白色礫をまれに含む)
- 28 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y4/1黄灰色シルト～粘土(粗砂わずかに含む)
- 29 2.5Y4/1黄灰色～5Y5/1灰色粘土～細砂(0.2～0.5cmの白色礫・炭化物をまばらに含む)
- 30 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y6/2灰黄色シルト～粘土(細砂わずかに含む)
- 31 2.5Y3/1黒褐色～2.5Y3/2黒褐色シルト～細砂(炭化物・灰色粘土ブロックをまれに含む)
- 32 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y7/1灰白色シルト～細砂(粗砂わずかに含む、ラミナあり)
- 33 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y7/1灰白色シルト～粗砂(灰白色粘土ブロック・細砂ブロック・炭化物をまれに含む)
- 34 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y7/1灰白色シルト～細砂(炭化物・灰白色粘土ブロックをごくまれに含む)
- 35 2.5Y3/2黒褐色～2.5Y4/1粘土～シルト(細砂わずかに含む、灰白色粘土ブロックをまばらに、炭化物をまれに含む)
- 36 2.5Y4/1黄灰色～5Y4/1灰色シルト～細砂(0.2～1.0cmの白色偽礫をまれに含む)
- 37 2.5Y3/2黒褐色～2.5Y4/1黄灰色シルト(粗砂わずかに含む)
- 38 2.5Y3/2黒褐色～2.5Y4/1黄灰色シルト～粘土(細砂わずかに含む、炭化物をごくまれに含む)
- 39 2.5Y3/2黒褐色シルト～粘土(粗砂わずかに含む)
- 40 2.5Y3/1黒褐色～2.5Y3/2黒褐色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、炭化物まばらに含む)
- 41 2.5Y3/1黒褐色シルト～細砂(細砂ブロック・木質遺物を含む)
- 42 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y4/1黄灰色粘土～細砂(炭化物を含む)
- 43 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y7/2灰黄色シルト～細砂(細砂ブロック・炭化物を含む)

4a層

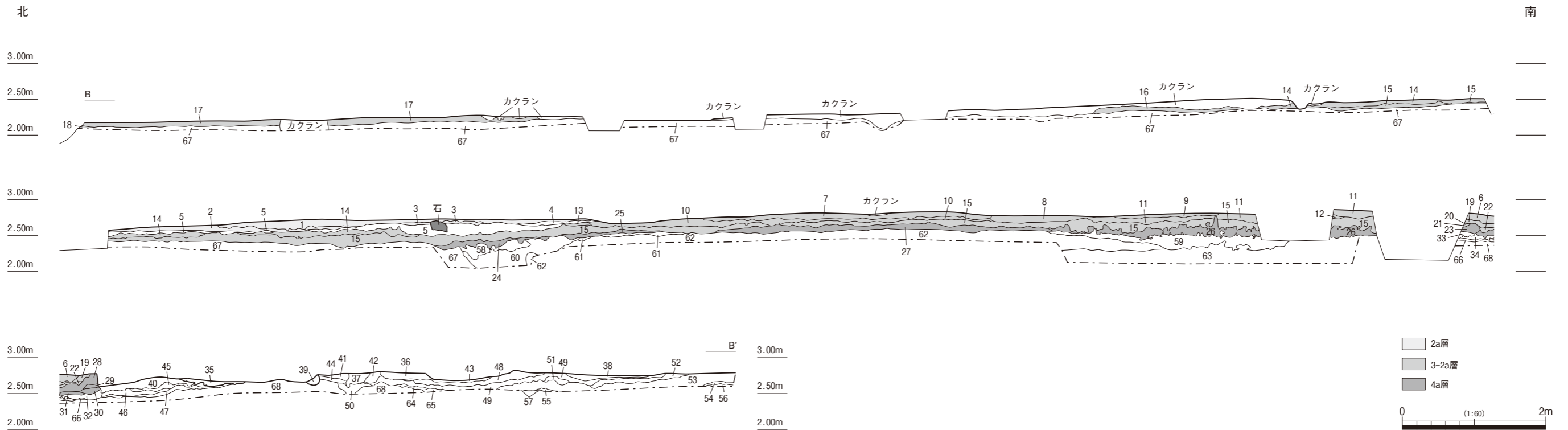
- 44 5Y4/1灰色シルト～粘土(灰白色粘土を多く、炭化物をまれに含む)
- 45 5Y4/1灰色～5Y3/1オリブ黒色粘土～シルト(粗砂わずかに含む、灰白色細砂ブロックをまばらに含む)
- 46 2.5Y3/2黒褐色～2.5Y4/1粘土～シルト(細砂わずかに含む、灰白色粘土ブロックをまばらに、炭化物をまれに含む)
- 47 2.5Y3/1黒褐色～2.5Y3/2黒褐色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、炭化物まばらに含む)
- 48 2.5Y3/2黒褐色～2.5Y4/2暗灰黄色シルト～細砂(細砂ブロック・炭化物をまれに含む)
- 49 2.5Y5/2暗灰黄色～2.5Y5/1黄灰色細砂まじりシルト～粘土(灰白色粘土ブロック・木質遺物を含む)
- 50 2.5Y4/2暗灰黄色～2.5Y5/1黄灰色細砂まじり粘土～シルト(0.5cmの灰色粘土ブロックをまばらに含む)
- 51 2.5Y3/1黒褐色～2.5Y4/1黄灰色細砂まじりシルト(黄灰色粘土ブロックをまばらに含む)

第4章 平成23年度の調査成果

第9図基本土層トレンチ断面図土層注記2

遺構埋土

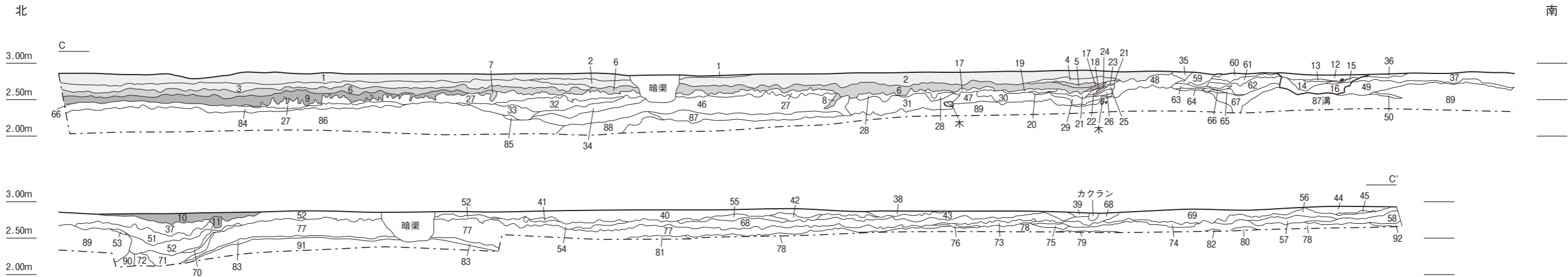
- 52 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y4/1黄灰色細砂～シルト(炭化物・細砂ブロックを含む)
- 53 2.5Y7/1灰白色シルト～細砂(灰白色細砂ブロック・灰白色粘土ブロックを多く含む)
- 54 5Y5/1灰色～2.5Y5/1黄灰色粘土～細砂(灰白色粘土ブロックを多く含む)
- 55 2.5Y6/1黄灰色～2.5Y4/1黄灰色細砂～シルト(粗砂わずかに含む、ラミナあり)
- 56 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y8/2灰白色細砂～シルト(細砂ブロックを多く含む、ラミナあり)
- 57 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y6/1黄灰色細砂～シルト(炭化物を含む)
- 58 2.5Y7/2灰黄色～2.5Y5/1黄灰色シルト～粘土(細砂ブロックを多く含む、ラミナあり)
- 59 2.5Y3/2黒褐色～2.5Y4/1黄灰色シルト～細砂(細砂ブロック・炭化物を含む)
- 60 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y4/1黄灰色シルト～細砂(細砂ブロック・木質遺物を含む)
- 61 2.5Y5/1黄灰色シルト～細砂(灰白色粘土ブロックを含む)
- 62 2.5Y6/1黄灰色～2.5Y8/1灰白色細砂～シルト(細砂ブロック・灰白色粘土ブロックを含む)
- 63 2.5Y5/1黄灰色シルト～細砂(灰白色粘土ブロックをまばらに、炭化物をごくまれに含む)
- 64 5GY8/1灰白色～5GY7/1明オリブ灰色粘土～シルト(灰色土ブロック・木質遺物を含む)
- 65 2.5Y5/1黄灰色～5Y4/1灰色シルト(灰白色粘土ブロック・炭化物をまれに含む、ラミナあり)
- 5a層以下
- 66 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y5/1黄灰色シルト～粘土(細砂わずかに含む、灰白色粘土ブロックまれに含む)
- 67 2.5Y4/2暗灰黄色～2.5Y5/1黄灰色細砂まじり粘土～シルト(0.5cmの灰色粘土ブロックをまばらに含む)
- 68 2.5Y3/1黒褐色～2.5Y4/1黄灰色細砂まじりシルト(黄灰色粘土ブロックをまばらに含む)
- 69 2.5Y6/1黄灰色～2.5Y5/1黄灰色粘土～シルト(灰白色粘土ブロック・炭化物をまばらに含む、部分的に細砂ブロックを含む)
- 70 5GY8/1灰白色～7.5Y7/1灰白色粘土～シルト(炭化物をごくまれに含む)
- 71 5Y4/1灰色シルト～粘土(灰白色粘土を多く、炭化物をまれに含む)
- 72 5GY8/1灰白色粘土～シルト(細砂わずかに含む、灰色粘土ブロックをまれに含む)
- 73 2.5GY8/1灰白色～5BG7/1明青灰色細砂まじり粘土～シルト(灰色土粘土ブロックをまれに含む、炭化物・木質遺物を含む)
- 74 7.5GY8/1明緑灰色～5BG7/1明青灰色粘土～シルト(細砂わずかに含む、灰色粘土ブロックをまれに含む、炭化物・木質遺物を含む)
- 75 2.5GY8/1灰白色～2.5Y7/1灰白色粘土～細砂(細砂ブロックをまばらに含む)
- 76 7.5GY8/1明緑灰色～7.5Y7/1灰白色粘土～細砂(細砂ブロック・炭化物を含む)
- 77 2.5Y6/1黄灰色～5GY7/1明オリブ灰色粘土～細砂(0.2～0.5cmの白色偽礫を多く、炭化物をまばらに含む)
- 78 10Y7/1灰白色～10YR7/1灰白色粘土～細砂(炭化物をまれに含む)
- 79 2.5Y7/1灰白色～2.5Y6/2灰黄色粗砂～シルト(灰白色粘土ブロックを多く含む、木質遺物・炭化物を含む)
- 80 10Y6/1灰色～5BG7/1明青灰色粗砂～粘土(炭化物をまれに含む)
- 81 5GY7/1明オリブ灰色～7.5Y7/1灰白色粘土～細砂(炭化物をまれに含む)
- 82 5Y8/1灰白色～2.5Y7/1灰白色シルト～細砂(0.5cmの灰白色粘土ブロックをまれに含む、マンガン、酸化鉄)
- 83 5Y7/1灰白色～7.5Y8/1灰白色粘土～細砂(灰白色粘土ブロックをまれに含む、炭化物をまれに含む)
- 84 2.5Y6/2灰黄色細砂～シルト(粗砂わずかに含む、酸化鉄)
- 85 2.5Y6/1黄灰色～2.5Y6/2灰黄色細砂～シルト(灰白色粘土ブロックを含む、層最下部に粗砂を含む、遺構埋土?)
- 86 5Y7/2灰白色～2.5Y7/1灰白色粘土～細砂(0.5cmの白色礫・炭化物をまれに含む、マンガン斑顕著)
- 87 5Y8/1灰白色粗砂まじりシルト～粘土(酸化鉄・マンガン斑顕著)
- 88 2.5Y8/1灰白色シルト～細砂(灰白色粘土ブロックをごくまれに含む、マンガン斑顕著)
- 89 2.5Y7/1灰白色～5Y8/1灰白色粘土～細砂(炭化物・灰白色粘土ブロックをごくまれに含む、酸化鉄・マンガン斑顕著)
- 90 2.5Y8/1灰白色～2.5Y7/1灰白色シルト～細砂(細砂ブロック・炭化物をまれに含む、酸化鉄)
- 91 2.5Y7/1灰白色シルト～細砂(細砂ブロックをまばらに含む、酸化鉄)
- 92 5Y6/1灰色～5Y8/1灰白色シルト～細砂(細砂ブロック・炭化物をまばらに含む、酸化鉄)
- 93 5Y7/1灰白色～5Y8/1灰白色粘土～細砂(灰白色粘土ブロック・炭化物をまれに含む)
- 94 2.5Y7/1灰白色細砂～シルト(粗砂わずかに含む、灰白色粘土ブロックをごくまれに含む)
- 95 10Y7/1灰白色～7.5Y7/1灰白色粘土～シルト(炭化物まれに含む、層東側で粗砂をわずかに含む)
- 96 5Y7/1灰白色～7.5Y8/1灰白色粘土～シルト(細砂わずかに含む、炭化物をまれに含む、酸化鉄)
- 97 2.5Y7/1灰白色～5Y7/1灰白色シルト～粗砂(0.3～0.5cmの白色礫をまばらに含む)
- 98 N6/0灰色～5Y7/2灰白色細砂～シルト(粗砂わずかに含む、炭化物・0.5cmの白色礫をまばらに含む)
- 99 5Y4/2灰オリブ色～2.5Y6/1黄灰色シルト～粘土(細砂ブロックをまばらに含む、木質遺物・炭化物を含む)
- 100 2.5Y7/1灰白色～2.5Y6/2灰黄色粗砂～細砂(木質遺物を含む)
- 101 N8/0灰白色～5Y7/2灰白色粗砂～細砂(炭化物を含む、ラミナあり)
- 102 5GY6/1オリブ灰色～5GY7/1明オリブ灰色細砂～粘土(細砂ブロックをまばらに含む、木質遺物・炭化物を多く含む)
- 103 7.5Y6/1灰色～2.5GY7/1明オリブ灰色細砂～粘土(粗砂ブロック・炭化物を含む、層上部ほど粘質強い)
- 104 5Y7/1灰白色～5Y6/1灰色粗砂～細砂(木質遺物・炭化物を含む)



- 2a層
- 1 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y5/2暗灰黄色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、0.2～1cm白色偽礫をまばらに含む、炭化物をまれに含む)
 - 2 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y3/2黒褐色細砂まじりシルト～粘土(0.2～0.5cmの白色偽礫をまばらに、炭化物をまれに含む)
 - 3 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y4/2暗灰黄色シルト～細砂(粗砂わずかに含む)
- 2b層
- 4 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y7/1灰白色シルト～粗砂
 - 5 2.5Y4/2暗灰黄色～2.5Y7/2灰黄色シルト～細砂(細砂ブロック多く含む)
- 3-2a層
- 6 5Y5/1灰色～2.5Y5/1黄灰色シルト～粗砂(0.2～0.5cmの白色礫をまれに含む)
 - 7 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y5/1黄灰色シルト～粘土(0.2～0.5cmの白色偽礫を多く含む、炭化物まれに含む)
 - 8 2.5Y5/1黄灰色～5Y5/1灰色シルト～細砂(0.2cmの白色礫をまばらに含む)
 - 9 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y4/1黄灰色シルト～細砂(粗砂わずかに含む、0.5cmの白色礫をまれに含む)
 - 10 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y6/1黄灰色シルト～粗砂(0.2～0.5cmの白・黄色偽礫をまれに含む)
 - 11 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y5/1黄灰色シルト～細砂(0.2～0.5cmの白色偽礫をまばらに含む)
 - 12 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y5/1黄灰色シルト～粗砂(0.2～0.5cmの白色偽礫をまれに含む)
 - 13 5Y5/1灰色～2.5Y6/1黄灰色シルト～細砂
 - 14 2.5Y4/2暗灰黄色～2.5Y4/1黄灰色シルト～細砂(細砂ブロック・炭化物をまれに含む)
 - 15 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y3/2黒褐色シルト～粘土(細砂ブロックまれに含む、炭化物・木質遺物を含む)
 - 16 5Y4/1灰色～5Y5/1灰色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、細砂ブロックまばらに含む、炭化物・木質遺物含む)
 - 17 5Y4/1灰色～5Y3/1オリーブ黒色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、細砂ブロックまれに含む、炭化物・木質遺物含む)
 - 18 2.5Y5/1黄灰色～10YR6/1褐灰色シルト～細砂(粗砂ブロックをまばらに含む)
 - 19 2.5Y4/1黄灰色～5Y4/1灰色シルト～細砂(0.2～1.0cmの白色偽礫をまれに含む)
 - 20 2.5Y3/2黒褐色シルト～粘土(粗砂わずかに含む)
 - 21 2.5Y3/1黒褐色～2.5Y3/2黒褐色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、炭化物まばらに含む)
 - 22 10YR3/1黒褐色～10YR4/1褐灰色シルト～粘土(細砂ブロックまれに含む)
- 4a層
- 23 2.5Y3/2黒褐色～2.5Y4/2暗灰黄色シルト～細砂(細砂ブロック・炭化物をまれに含む)
 - 24 2.5Y3/2黒褐色～2.5Y4/1黄灰色シルト～粘土(細砂ブロックまれに含む、木質遺物含む)
 - 25 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y6/2灰黄色シルト～粘土(粗砂わずかに含む)
 - 26 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y4/2暗灰黄色粘土～シルト(灰白色粘土ブロック・炭化物をまれに含む)
 - 27 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y5/2暗灰黄色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、0.2～0.5cmの白色礫・炭化物・木質遺物をまれに含む)
 - 28 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y7/2灰黄色シルト～細砂(明青灰色粘土ブロック・黒褐色粘土ブロックを含む)
 - 29 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y6/1黄灰色細砂まじりシルト(木質遺物を含む、遺構埋土?)
 - 30 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y7/2灰黄色細砂まじりシルト～粘土(炭化物・灰白色粘土ブロックをまれに含む、遺構埋土?)
 - 31 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y5/2暗灰黄色細砂まじりシルト～粘土(明青灰色粘土ブロックをまばらに含む、遺構埋土?)

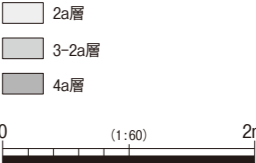
- 5a層以下
- 32 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y5/2暗灰黄色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、明青灰色粘土ブロックをまばらに含む、遺構埋土?)
 - 33 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y5/1黄灰色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、灰白色粘土ブロックまれに含む)
 - 34 5BG7/1明青灰色～7.5Y6/1細砂まじり粘土～シルト(炭化物をまれに含む、遺構埋土?)
- 149溝
- 35 2.5Y4/1黄灰色～2.5GY5/1オリーブ灰色粘土～細砂(灰白色細砂ブロック多く含む、炭化物・5.0cmの白色礫を含む。ラミナあり)
 - 36 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y7/1灰白色シルト～粗砂(灰白色粘土ブロックをまれに含む)
 - 37 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y6/1黄灰色粗砂まじりシルト～細砂(炭化物をまばらに、明緑灰色粘土ブロックをまれに含む)
 - 38 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y7/1灰白色シルト～細砂(粗砂わずかに含む、ラミナあり)
- 167溝
- 39 2.5Y6/1黄灰色～2.5Y5/1シルト～細砂(明緑灰色粘土ブロック多く含む)
 - 40 5BG6/1青灰色～10Y6/1灰色細砂まじり粘土(灰色土ブロックまばらに・炭化物をごくまれに含む)
 - 41 2.5GY7/1明オリーブ灰色～10Y7/1灰白色粘土～細砂(灰色土ブロック・炭化物をごくまれに含む)
 - 42 2.5GY7/1明オリーブ灰色～2.5GY8/1灰白色粘土～シルト(灰色土ブロック多く、炭化物をまばらに含む)
 - 43 10BG7/1明青灰色粘土～シルト(粗砂わずかに含む)
 - 44 10Y7/1灰白色～5Y7/1灰白色粘土～細砂(炭化物をまれに含む)
 - 45 7.5Y7/2灰白色～2.5GY8/1灰白色粘土～粗砂(炭化物をまれに含む)
 - 46 7.5GY7/1明緑灰色～7.5GY8/1明緑灰色粘土～シルト(細砂ブロックまばらに、炭化物をまれに含む)
 - 47 10GY7/1明緑灰色～2.5GY7/1明オリーブ灰色粘土～粗砂(炭化物をまれに含む)
 - 48 10BG7/1明青灰色～10BG6/1青灰色粘土～シルト(粗砂わずかに含む、炭化物をまれに含む)
 - 49 5BG7/1明青灰色～5BG6/1青灰色細砂まじり粘土～シルト(粗砂わずかに含む、炭化物をまれに含む)
 - 50 5BG7/1明青灰色～2.5Y7/1灰白色粘土～細砂(炭化物をまれに含む、層北側に細砂の割合多い)
 - 51 10Y7/1灰白色～2.5GY7/1明オリーブ灰色粘土～粗砂(細砂ブロックをまばらに含む)
 - 52 5GY7/1明オリーブ灰色～7.5Y6/1灰色粘土～粗砂(細砂ブロックをまばらに、炭化物をまれに含む)
 - 53 10Y6/1灰色～5GY7/1明オリーブ灰色シルト～粗砂(0.2～0.5cmの白色偽礫をまばらに、炭化物をまれに含む)
 - 54 10Y7/1灰白色～10Y6/1灰色シルト～粗砂(0.2～0.5cmの白色偽礫をまばらに含む)
 - 55 10Y6/1灰色～10BG7/1明青灰色粘土～細砂
 - 56 5BG7/1明青灰色～5BG6/1青灰色細砂まじり粘土
 - 57 10BG7/1明青灰色細砂まじり粘土
 - 58 5GY7/1明オリーブ灰色～7.5Y7/1灰白色粘土～シルト(細砂ブロック・黒褐色土ブロックをまばらに含む)
 - 59 5BG7/1明青灰色～7.5Y6/1灰色粘土～シルト(灰色土ブロックを多く含む、細砂ブロック・炭化物をまれに含む)
 - 60 10BG7/1明青灰色～10Y6/1灰色粘土～シルト(細砂ブロック・明緑灰色粘土ブロックまばらに含む、木質遺物・炭化物を含む)
 - 61 5Y6/2灰オリーブ色～5Y7/1灰白色粘土～粗砂
 - 62 2.5Y7/2灰白色～2.5Y7/1灰白色粗砂～細砂
 - 63 5BG7/1明青灰色～10Y6/1灰色粘土～シルト(粗砂わずかに含む、炭化物を含む)
 - 64 10BG7/1明青灰色粘土～細砂(細砂ブロックをまれに含む)
 - 65 10BG7/1明青灰色～10BG6/1青灰色粘土～細砂(細砂ブロック・炭化物をまれに含む、64層より細砂多い)
 - 66 10Y6/1灰色～5BG7/1明青灰色粘土～粗砂(炭化物をまれに含む)
 - 67 2.5Y7/2灰白色～2.5Y7/1灰白色粗砂～細砂
 - 68 2.5Y7/2灰白色～2.5Y7/1灰白色粗砂～細砂

第10図 直交トレンチ1断面図

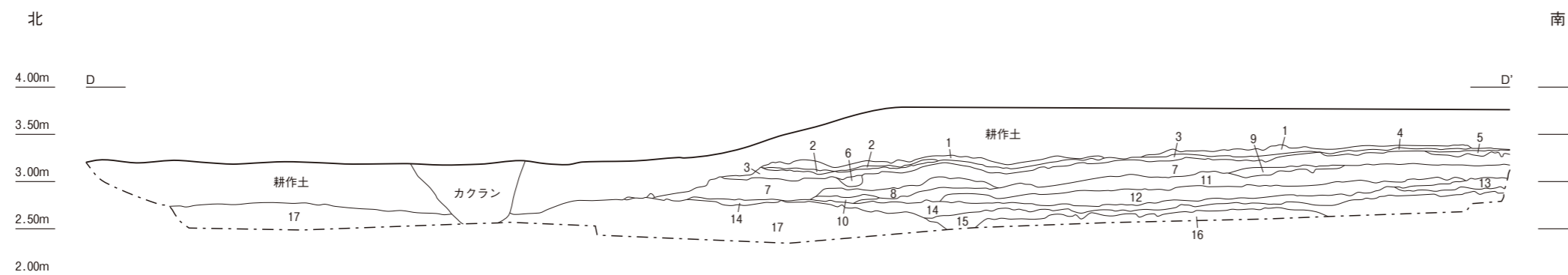


- 2a層
- 1 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y4/2暗灰黄色シルト～粗砂(0.2～0.5cmの礫・炭化物をまばらに含む)
 - 2 2.5Y5/1黄灰色～5Y7/1灰白色シルト～粗砂(0.2～0.5cmの白色礫を多く含む)
 - 3 2.5Y4/2暗灰黄色～2.5Y5/2暗灰黄色シルト～粗砂(細砂ブロックをまばらに、0.5cmの白色偽礫・炭化物をまれに含む)
 - 4 2.5Y4/1黄灰色シルト～粗砂(0.2～1.0cmの白色礫をまばらに含む)
- 3-2a層
- 5 2.5Y3/2黒褐色～2.5Y5/2暗灰黄色シルト～細砂(0.2～0.5cmの白色礫をまばらに含む)
 - 6 2.5Y4/1黄灰色～5Y5/1灰色粘土～細砂(0.2～0.5cmの白色礫・炭化物をまばらに含む)
 - 7 2.5Y3/2黒褐色～5Y7/2灰白色シルト～細砂
 - 8 2.5Y3/2黒褐色シルト～粘土(細砂ブロック・灰白色粘土ブロックを含む)
- 4a層
- 9 2.5Y4/1黄灰色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、0.2～1cmの白・黄色偽礫・炭化物をまばらに含む)
 - 10 2.5Y6/2灰黄色～2.5Y8/1灰白色細砂～粗砂(0.2～0.5cmの白色礫をまれに、炭化物をごくまれに含む)
 - 11 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y5/2暗灰黄色シルト～粗砂(炭化物をごくまれに含む)
- 87溝埋土
- 12 2.5Y6/2灰黄色～2.5Y7/1灰白色シルト～粗砂(0.2～1.5cmの白色礫をまばらに含む)
 - 13 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y6/1黄灰色粘土～シルト(細砂ブロックをまばらに含む)
 - 14 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y5/2暗灰黄色シルト～粗砂(細砂ブロック・灰白色粘土ブロック・0.2～1cmの白色礫をまばらに含む)
 - 15 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y7/2灰黄色細砂まじりシルト～粘土(粗砂わずかに含む)
 - 16 2.5Y4/2暗灰黄色～2.5Y5/1灰黄色シルト～粗砂(1～5cmの灰白色粘土ブロックを多く、炭化物をまばらに含む)
- 5a層以下
- 17 2.5Y6/1黄灰色～2.5Y7/2灰黄色細砂～シルト(ラミナあり、遺構埋土?)
 - 18 2.5Y4/1黄灰色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、遺構埋土?)
 - 19 10YR4/1褐灰色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、灰白色粘土ブロックをまばらに含む、遺構埋土?)
 - 20 2.5Y7/1灰白色～2.5Y8/1灰白色粘土～シルト(細砂ブロックを含む、遺構埋土?)
 - 21 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y6/1黄灰色シルト～粘土(炭化物をごくまれに含む、遺構埋土?)
 - 22 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y3/1黒褐色シルト～細砂(0.2cmの白色礫・炭化物をまばらに含む、遺構埋土?)
 - 23 2.5Y7/1灰白色～2.5Y4/1黄灰色シルト～細砂(粗砂わずかに含む、ラミナあり、遺構埋土?)
 - 24 2.5Y4/1黄灰色粘土～シルト(木質遺物を含む、遺構埋土?)
 - 25 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y4/1黄灰色シルト～細砂(灰白色粘土ブロック・炭化物をまれに含む、遺構埋土?)
 - 26 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y3/2黒褐色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、炭化物をごくまれに含む、遺構埋土?)
 - 27 5Y4/1灰色シルト～粘土(灰白色粘土を多く、炭化物をまれに含む)
 - 28 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y3/2黒褐色粘土～シルト(0.2～0.5cmの白色礫・1～2cmの灰白色粘土ブロックをまれに含む)
 - 29 2.5Y6/1黄灰色～2.5Y7/1灰白色粘土～シルト(木質遺物を含む)
 - 30 2.5Y7/1灰白色～2.5Y8/2灰白色シルト～細砂(細砂ブロック・2～15cmの灰白色粘土ブロックを多く含む、木質遺物を含む)
 - 31 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y5/1黄灰色シルト～粘土(細砂ブロック・5～15cmの灰白色粘土ブロックを多く含む、遺構埋土?)
 - 32 5GY8/1灰白色粘土～シルト(粗砂わずかに含む、灰色粘土ブロックをまれに含む)
 - 33 10Y7/2灰白色～7.5Y7/1灰白色細砂まじり粘土～シルト(炭化物・木質遺物を含む)
 - 34 10Y7/1灰白色～10Y6/1灰色粘土～シルト(層上部に細砂ブロックを含む、炭化物をごくまれに含む)
 - 35 5Y8/2灰白色～5Y7/1灰白色シルト～細砂
 - 36 5Y8/1灰白色～5Y7/1灰白色シルト～粗砂(酸化鉄)
 - 37 10Y7/1灰白色～10Y6/1灰色粘土～細砂(灰色土ブロックをまれに、1cmの白色礫をごくまれに含む)
 - 38 2.5Y7/2灰黄色～2.5Y8/1灰白色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、酸化鉄顕著)
 - 39 5Y7/2灰白色シルト～細砂(灰白色粘土ブロックをまばらに含む)
 - 40 5Y6/1灰色～5Y7/1灰白色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、炭化物をごくまれに含む)
 - 41 7.5Y7/1灰白色～7.5Y6/1灰色シルト～粘土(粗砂わずかに含む)
 - 42 5BG7/1明青灰色～2.5GY7/1明オリープ灰色粘土～細砂(0.2～1cmの白色偽礫・炭化物をまれに含む)
 - 43 10BG7/1明青灰色～5Y7/1灰白色シルト～粗砂(明青灰色粘土ブロックをまばらに、0.2～0.5cmの礫をまれに含む)
 - 44 10Y7/1灰白色～10Y6/1灰色シルト～粗砂(0.2～0.5cmの白色礫をまれに含む、酸化鉄顕著)

- 45 5B7/1明青灰色～N7/0灰白色粘土～シルト(粗砂わずかに含む)
- 46 7.5Y7/1灰白色～2.5Y6/1黄灰色細砂まじり粘土(木質遺物・炭化物を含む)
- 47 7.5Y7/1灰白色～2.5Y6/1黄灰色細砂まじり粘土(木質遺物・炭化物を含む)
- 48 7.5GY7/1明緑灰色～2.5GY7/1明オリープ灰色細砂まじり粘土～シルト(粗砂わずかに含む、層下部に細砂多い)
- 49 5GY7/1明オリープ灰色～2.5GY7/1明オリープ灰色粘土～細砂(細砂ブロック・炭化物をごくまれに含む)
- 50 10Y7/1灰白色～10Y6/1灰色粘土～細砂
- 51 5GY7/1明オリープ灰色～10Y6/1灰色粘土～細砂(粗砂わずかに含む)
- 52 5GY7/1明オリープ灰色～2.5GY7/1明オリープ灰色細砂まじり粘土(炭化物をごくまれに含む)
- 53 10Y7/1灰白色～10Y6/1灰色粘土～粗砂
- 54 10Y5/1灰色～5BG6/1青灰色粘土～細砂(粗砂わずかに含む、炭化物をごくまれに含む)
- 55 7.5GY7/1明緑灰色～10Y7/1灰白色シルト～粗砂(明緑灰色粘土ブロックをまばらに含む)
- 56 10BG7/1明青灰色～10Y6/1灰色シルト～粗砂(明青灰色粘土ブロックをまばらに含む)
- 57 5BG7/1明青灰色～10Y7/1灰白色シルト～細砂(明青灰色粘土ブロックをまばらに、0.2～0.5cmの白色礫をまれに含む)
- 58 10BG7/1明青灰色～10Y6/1灰色粘土(粗砂わずかに含む)
- 59 2.5Y6/1黄灰色～2.5Y5/1黄灰色シルト～粗砂(灰白色シルトブロック・0.2～0.5cmの白色偽礫をまばらに含む、遺構埋土?)
- 60 5Y8/2灰白色～5Y7/2灰白色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、灰色土ブロックをまれに含む、遺構埋土?)
- 61 7.5Y6/1灰色～5GY7/1明オリープ灰色細砂まじり粘土～シルト(粗砂わずかに含む、遺構埋土?)
- 62 10Y6/1灰色～5GY7/1明オリープ灰色細砂まじり粘土(炭化物をまれに含む、遺構埋土?)
- 63 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y6/1黄灰色シルト～粗砂(灰白色粘土ブロックをまれに含む、遺構埋土?)
- 64 10Y6/1灰色～10Y7/1灰白色粘土～シルト(細砂ブロックをごくまれに含む、遺構埋土?)
- 65 10Y6/1灰色～10Y7/1灰白色粘土～細砂(灰白色粘土ブロックをまばらに含む、遺構埋土?)
- 66 2.5Y5/1黄灰色～5Y6/1灰色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、遺構埋土?)
- 67 7.5Y7/1灰白色～5Y5/1灰色粘土～細砂(細砂ブロックをまれに含む、遺構埋土?)
- 68 5GY7/1明オリープ灰色～10Y7/1灰白色シルト～細砂(明緑灰色粘土ブロック・細砂ブロックを多く含む、木質遺物を含む)
- 69 10Y7/1灰白色～10Y6/1灰色細砂～シルト(灰白色粘土ブロック・0.5～0.2cmの白色礫・炭化物をまれに含む)
- 70 10Y6/1灰色～7.5Y8/1灰白色シルト～シルト(細砂ブロックを含む)
- 71 5Y3/1オリープ黒色～10Y6/1灰色粘土～シルト(細砂ブロック・木質遺物を多く含む)
- 72 5GY7/1明オリープ灰色～7.5Y6/1灰色細砂まじり粘土～シルト(炭化物・木質遺物を含む)
- 73 10BG7/1明青灰色細砂まじり粘土～シルト(粗砂わずかに含む、炭化物をまれに含む)
- 74 10BG7/1明青灰色～10Y6/1灰色粘土～シルト(細砂ブロックまばらに、炭化物まれに含む)
- 75 10Y6/1灰色～10Y7/1灰白色粘土～シルト(粗砂わずかに含む、炭化物をまれに含む)
- 76 10Y6/1灰色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、細砂ブロックをまばらに含む)
- 77 5BG6/1青灰色～10Y6/1灰色粘土～シルト(炭化物をまれに含む)
- 78 10Y7/1灰白色～5BG7/1明青灰色粘土～シルト(細砂ブロックをまばらに含む)
- 79 5BG6/1青灰色粘土～細砂
- 80 10Y7/1灰白色シルト～細砂
- 81 10Y7/1灰白色粘土～シルト
- 82 5BG7/1明青灰色粘土～シルト
- 83 10BG7/1明青灰色～10BG6/1青灰色粘土～細砂(炭化物をごくまれに含む)
- 84 10Y7/1灰白色～10YR7/1灰白色粘土～細砂(炭化物をまれに含む)
- 85 2.5Y6/2灰黄色～2.5Y7/1灰白色粗砂～粘土
- 86 2.5Y7/1灰白色～2.5Y6/2灰黄色粗砂～細砂(木質遺物を含む)
- 87 5Y6/2灰オリープ色～2.5Y6/1黄灰色粘土～細砂(炭化物・木質遺物を含む)
- 88 2.5Y3/2黒褐色～2.5Y5/2オリープ灰色粘土～細砂(88層よりも細砂の割合多い、層下層に腐植土を含む)
- 89 2.5Y7/1灰白色～2.5Y7/2灰黄色粗砂～細砂(炭化物・木質遺物をまれに含む)
- 90 5Y5/1灰色～5Y6/2灰オリープ色粘土～シルト(細砂ブロックまばらに含む、木質遺物を含む)
- 91 5Y7/2灰白色～5Y7/1灰白色(細砂～粗砂)
- 92 10BG7/1明青灰色～10Y6/1灰色粘土(細砂含む)

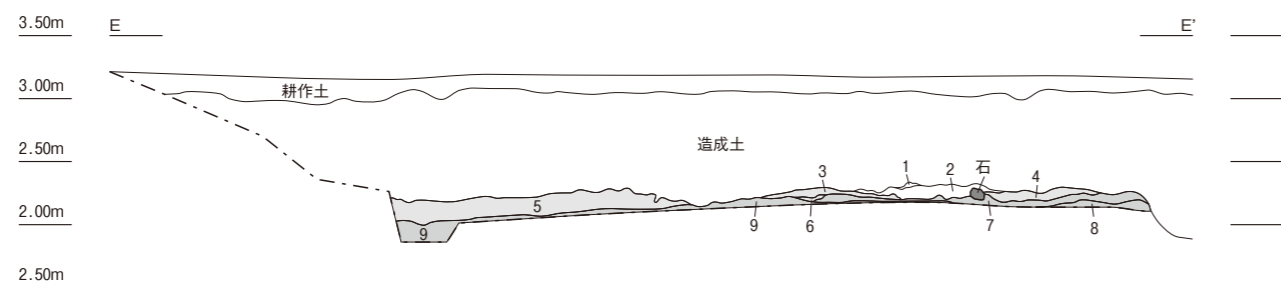


第11図 直交トレンチ2断面図

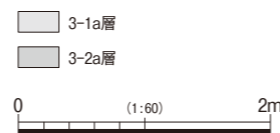


- a層
- 1 2.5Y5/1黄灰色粘土～細砂(粗砂わずかに含む、炭化物まれに含む)
 - 2 5Y6/1灰色シルト～細砂(粗砂わずかに含む、酸化鉄・マンガン沈着)
 - 3 2.5Y5/1黄灰色～5Y5/1灰色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、灰白色粘土ブロックまれに含む、マンガン斑顕著)
 - 4 2.5Y5/2暗灰黄色細砂～シルト(粗砂わずかに含む、0.5cmの粘土ブロックまれに含む、酸化鉄沈着)
 - 5 2.5Y6/1黄灰色シルト～粗砂(0.5～1cmの灰白色粘土ブロック含む、酸化鉄・マンガン斑沈着)
- 遺構埋土
- 6 5Y5/1～6/1灰色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、灰白色粘土ブロック含む)
- a層
- 7 5Y7/2～7/1灰白色粘土～細砂(粗砂・0.5cmの白色礫わずかに含む、マンガン斑顕著、酸化鉄沈着)
 - 8 5Y7/2灰白色シルト～細砂(粗砂・0.5cmの白色礫わずかに含む)
 - 9 5Y7/2灰白色粘土～シルト(粗砂わずかに含む、マンガン斑・酸化鉄沈着)
 - 10 5Y7/2灰白色シルト～粘土(細砂わずかに含む、炭化物まれに含む)
 - 11 5Y7/1～7/2灰白色粘土～細砂(粗砂わずかに含む、炭化物まれに含む、マンガン斑・酸化鉄沈着)
 - 12 5Y7/2～7/1灰白色粘土～粗砂(炭化物まれに含む、酸化鉄沈着、下方ほど砂の割合多)
 - 13 5Y7/2灰白色粘土～細砂(粗砂わずかに含む、酸化鉄沈着)
 - 14 5Y7/1灰白色～5BG7/1明青灰色粘土～シルト(細砂わずかに含む、炭化物まれに含む、北側に細砂含む、縄文土器が出土)
 - 15 2.5Y7/2灰黄色～N6/0灰色細砂～シルト(炭化物まれに含む)
 - 16 5BG7/1明青灰色粘土～シルト(細砂わずかに含む、炭化物まれに含む、14層より細砂少ない)
- b層
- 17 2.5Y7/1灰白色～10BG7/1明青灰色細砂～粗砂(粒度揃う、ラミナ見えないかb層か)

第12図 直交トレンチ3断面図



- 表土
- 1 5Y5/1灰色～2.5Y7/1灰白色シルト～細砂
 - 2 2.5Y5/1黄灰色～7.5Y6/1灰色シルト～細砂(灰白色細砂ブロックを多く、0.2～0.5cm白色礫をまばらに含む)
- 3-1a層
- 3 5Y5/1灰色～7.5Y4/1灰色シルト～細砂(0.2cm白色礫、木質遺物、炭化物をまれに含む)
 - 4 5Y5/1灰色～5Y3/1オリブ黒色シルト～粗砂(木質遺物、炭化物をまれに含む)
 - 5 5Y4/1灰色～2.5Y5/1黄灰色シルト～粗砂(0.2～0.3cmの白色礫・木質遺物を含む)
 - 6 5Y8/1灰白色～5Y5/1灰色細砂～シルト
- 3-2a層
- 7 7.5Y4/1灰色～5Y5/1灰色シルト～粘土(炭化物・細砂ブロックをまれに含む)
 - 8 5Y3/1オリブ黒色～5Y5/1灰色粘土～細砂(炭化物・木質遺物をまれに含む)
 - 9 10Y7/1灰白色～7.5Y8/1灰白色細砂～粗砂



第13図 北側トレンチ断面図

を伴う。

3-1a層

灰色～オリーブ黒色を呈するシルト～細砂層で有機物を多く含む。基本土層トレンチ、直交トレンチでは認められなかったが、調査区北端の6f-10E-4a・b、5a・bグリッドを中心に堆積が認められたため、トレンチを設定し、その堆積状況を記録した(第8図E-E')。耕作土と考えられる本層下面では、遺存状況は良くないが耕地段差が認められた。出土遺物はわずかではあるが、古代から中世の土器が認められる。

3-2a層

黄灰色～灰色を呈するシルト～細砂層。0.2～0.5cmの白色礫・偽礫を含む。圃場整備による削平のため調査区南側では確認できなかった。弥生時代後期から古墳時代後期の土器を伴う。弥生時代後期、古墳時代前期の土器が多く出土するものの、古墳時代後期の須恵器杯、甕も一定量出土することから、古墳時代後期の包含層とした。2a層と同様弥生土器、土師器は4a層からの混入である。

4a層

黒褐色～黄灰色を呈するシルト～粘土層。調査区の中央部でのみ確認されており、確認された範囲は3-2a層よりも狭い。下層の青灰色粘土が波打って4a層中に入りこんでおり、地震動による変形と思われる。弥生時代後期から古墳時代前期の土器を伴う。

5a層以下

調査中に計画が変更になったため掘削は行わず、断面のみで確認した。灰白色～黄灰色を呈する細砂まじりのシルト～粘土、シルト～細砂層を5a層とした。また、調査区北半では5a層下に細砂～粗砂の自然堆積層も存在する。

第3節 1区3-1a層下面の遺構

(1) 耕地段差

北端部の6f-10E-4a・b、5a・bグリッドで認められた段差地形である。確認できた範囲の地形は南東から北西方向に緩やかに傾斜した地形を呈するが、段差は等高線に平行するように認められること、耕作土と考えられる3-1a層下面にみられる地形であることから、棚田状の耕地段差と判断した。

段差は標高2.0m付近と2.2m付近にあり、いずれも14mほどの長さが認められたが、段差は7cmほどと浅く、東西では段差部分の高低差ほとんどなくなり不明瞭になる。

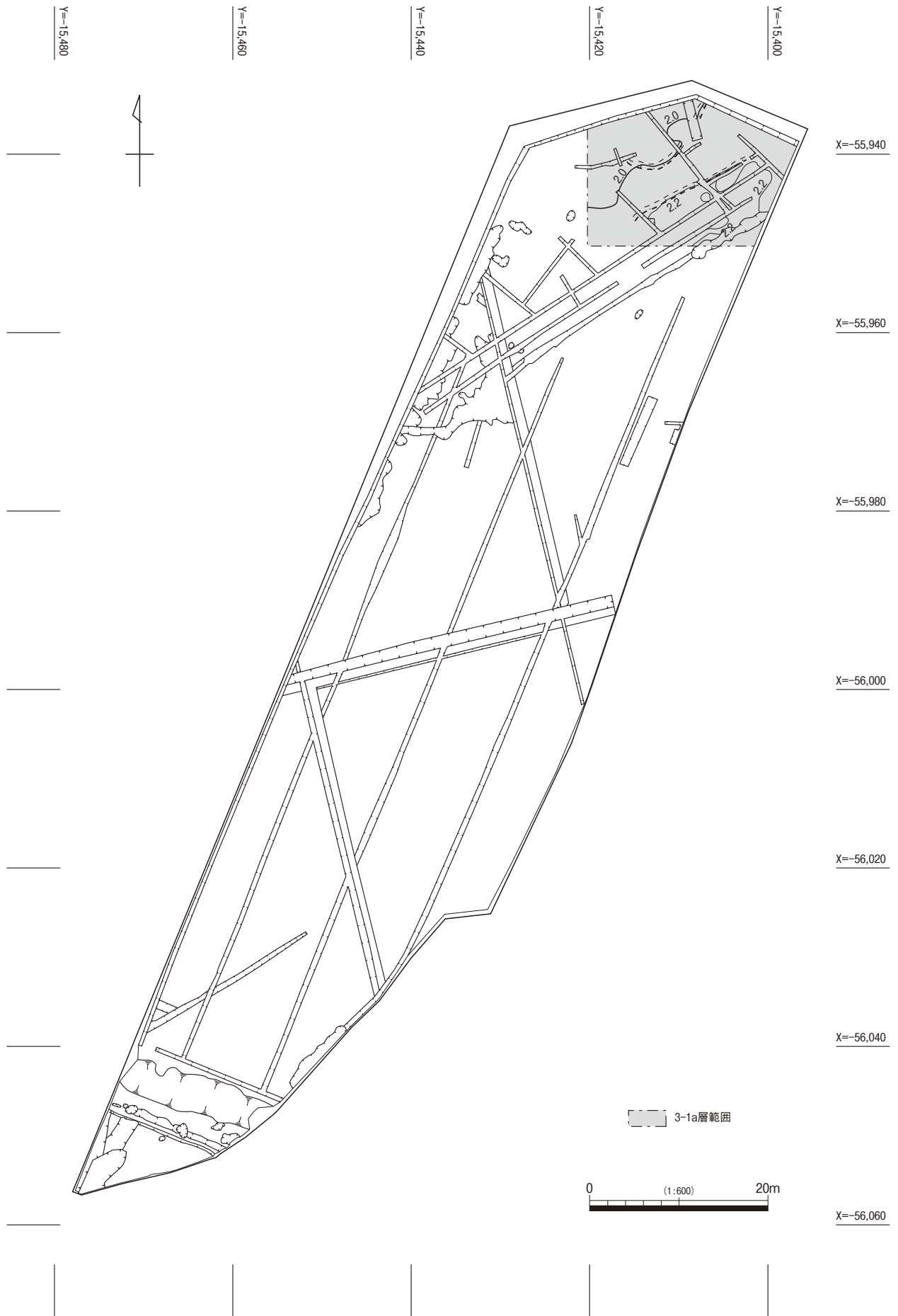
造成時期については、3-1a層から古代から中世の遺物が出土することから、中世以降の時期が考えられる。

第4節 1区3-2a層下面の遺構

(1) 擬似畦畔

3-2a層下面では、数条の擬似畦畔が検出された。北端部に位置する畦畔①・②はほぼ東西方向に延び、東壁付近に位置する畦畔③はほぼ南北方向に延びるが、いずれも等高線に平行するように認められる。また畦畔③の北側に位置する畦畔④は、等高線に平行する畦畔と、等高線に直交する畦畔の交

第4章 平成23年度の調査成果



第14図 3-1a層下面全体図

差部分であったほか、畦畔⑤も等高線にほぼ直交する畦畔であったが、遺存状況は良くない。

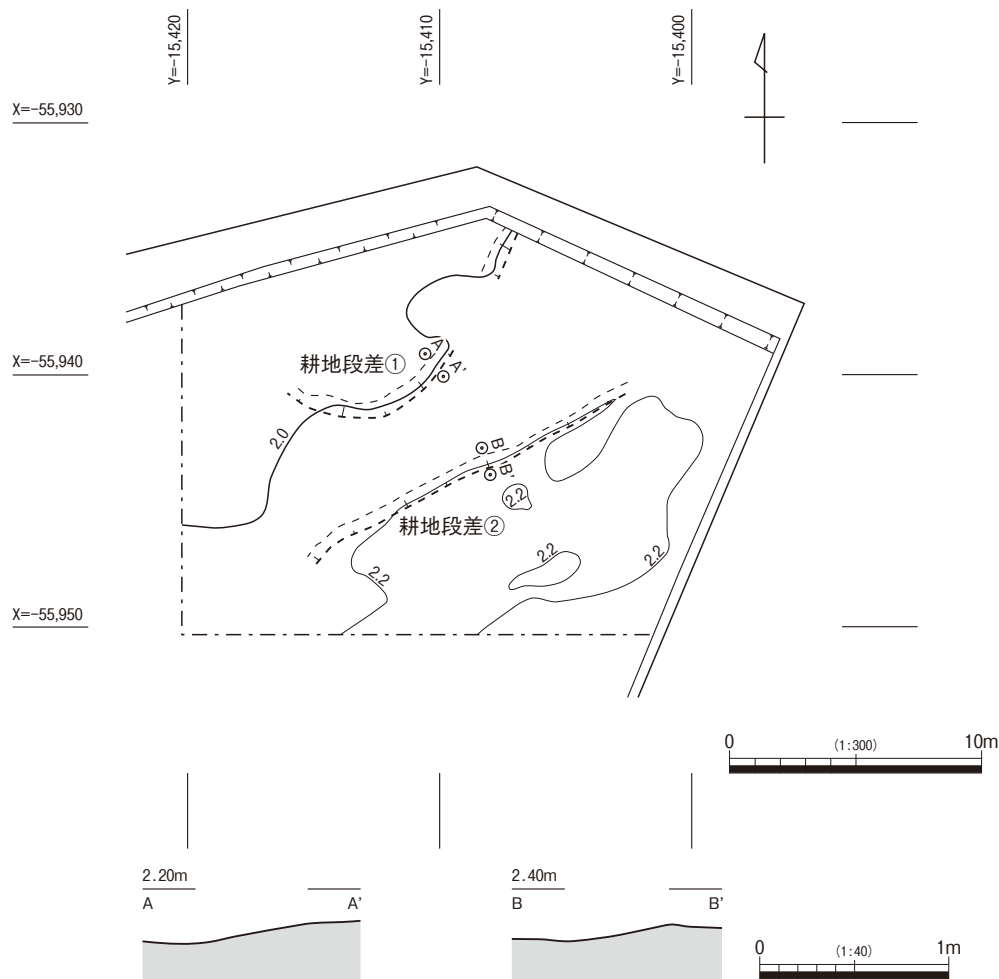
このうち、畦畔①、③、④の断面観察から、畦畔①は淘汰の良い細砂～粗砂、③はラミナが認められるシルト～細砂の自然堆積層を芯にした畦畔で、畦畔④は粘土～粗砂の攪拌された土を芯にした畦畔であったことが明らかとなった。

(2) 足跡

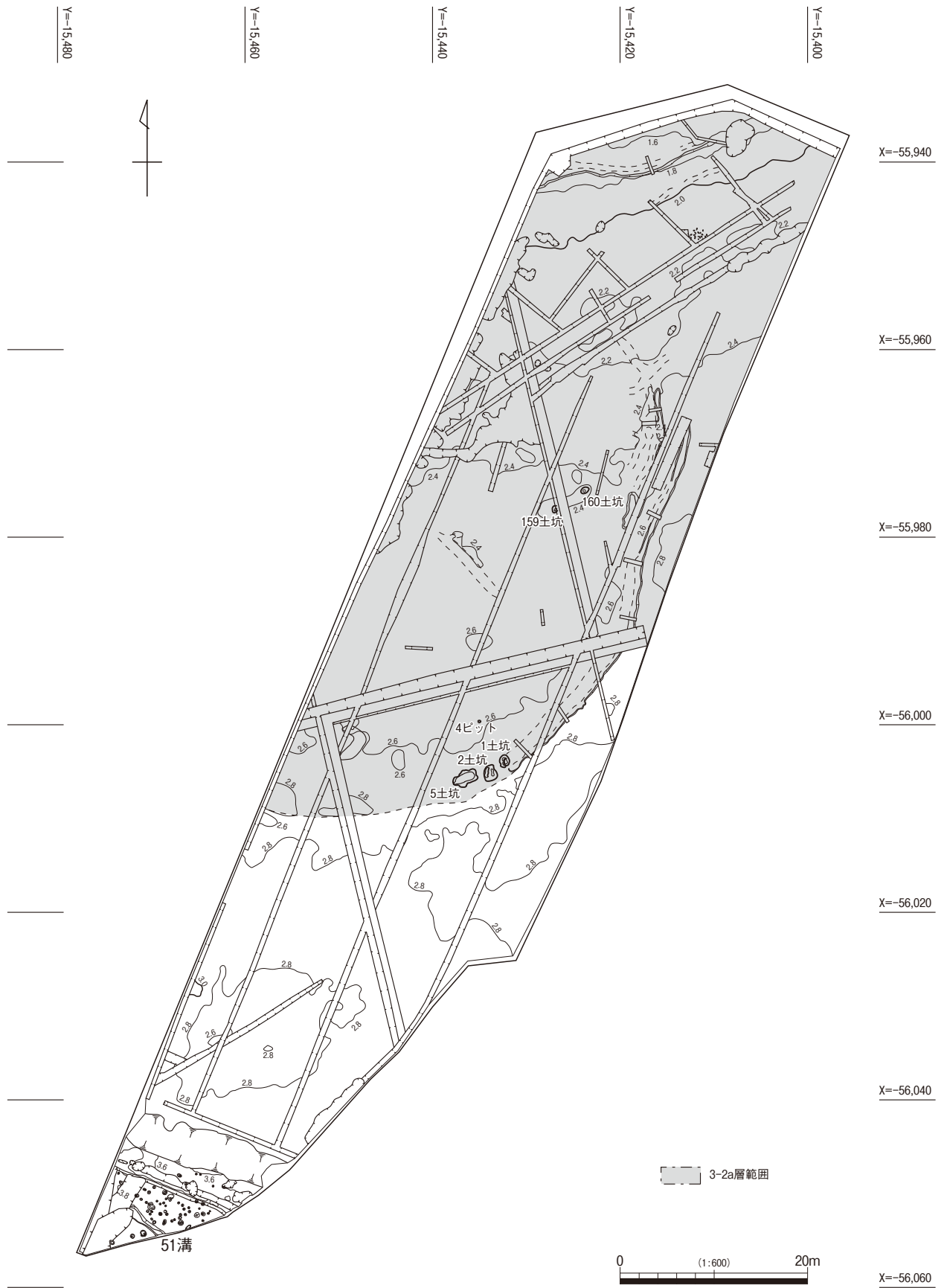
3-2a層下面では、6f-10E-5bグリッドで、3-2a層形成時の耕作によって残されたと考えられる人の足跡が検出された。確認された範囲は3㎡と狭く、足跡の方向等は不定である(PL.4-1)。

(3) 土坑

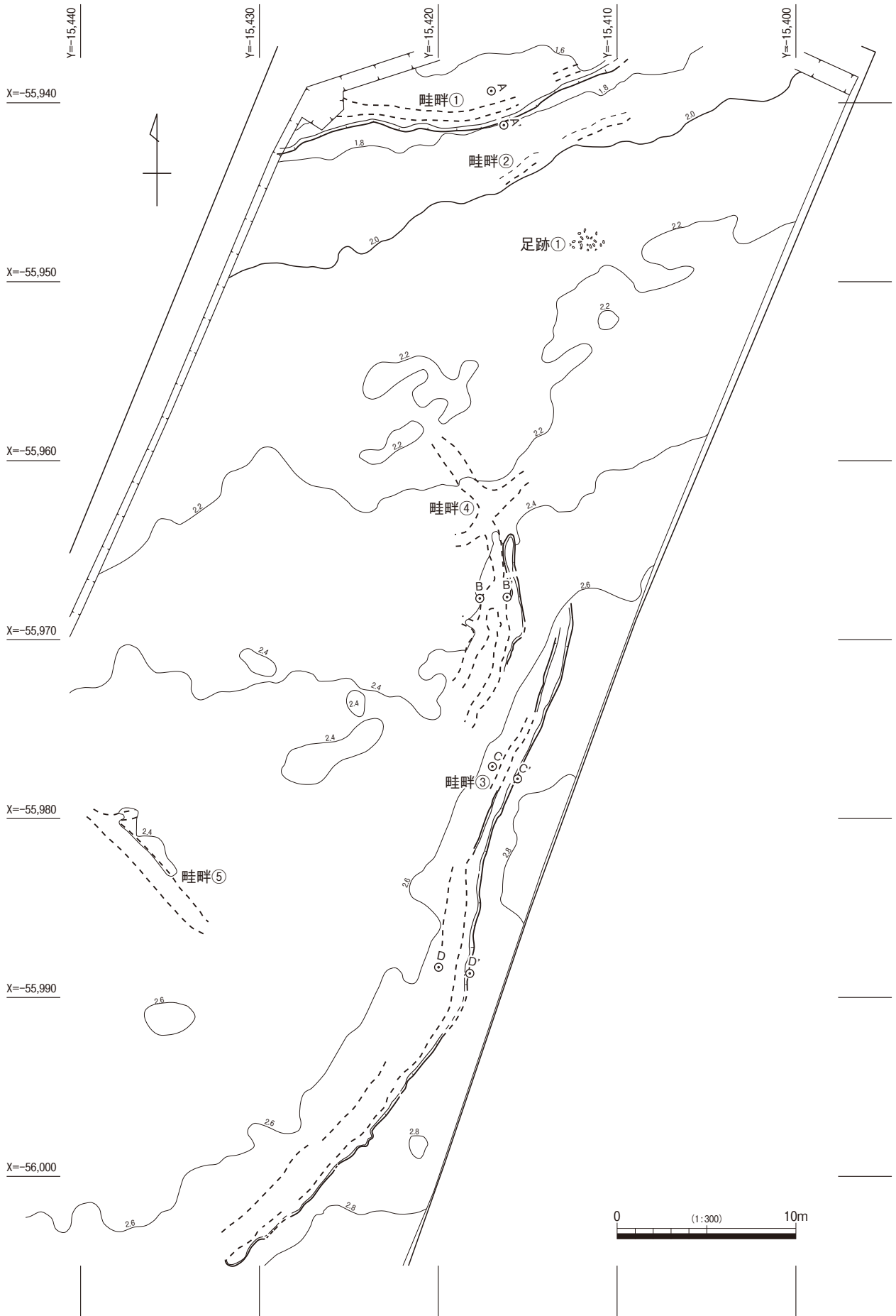
3-2a層下面では、遺構番号1・2・5の土坑をT23-7f-1E-1dグリッドで3基、159・160の土坑をT23-6f-10E-8cグリッドで2基の土坑を確認した。平面形はいずれも不整な楕円形である。埋土には3-2a層に近似する土が認められることから、埋没時期は3-2a層の形成、古墳時代後期以降の年代が考えられる。



第15図 3-1a層下面検出耕地段差

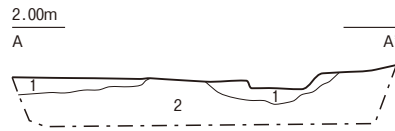


第16図 3-2a層下面全体図

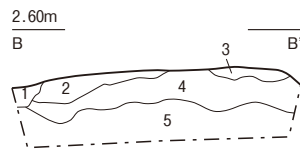


第17図 3-2a層下面検出擬似蛙群

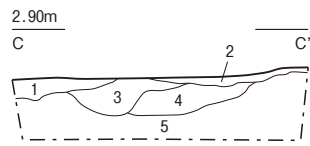
第4章 平成23年度の調査成果



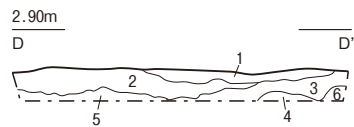
- 1 5Y4/1灰色～5Y5/1灰色粘土～細砂(灰白色粘土ブロックまばらに含む、炭化物まれに含む)
- 2 7.5Y7/1灰白色～10Y8/1灰白色細砂～粗砂(木質遺物多く含む、ラミナはみえないが淘汰良い、b層)



- 1 5Y5/1灰色～10Y6/1灰色シルト～細砂(明青灰色粘土ブロックまれに含む)
- 2 2.5Y7/2灰黄色～5Y7/1灰白色粗砂～細砂(灰白色粘土ブロックごくまれに含む)
- 3 10Y6/1灰色～5Y6/1灰色粗砂～シルト(粘土ブロックわずかに含む)
- 4 10Y7/1灰白色～5Y6/1灰色粗砂～粘土(灰褐色・青灰色粘土ブロックまれに含む)
- 5 5Y7/1灰白色～7.5Y8/1灰白色粗砂～細砂



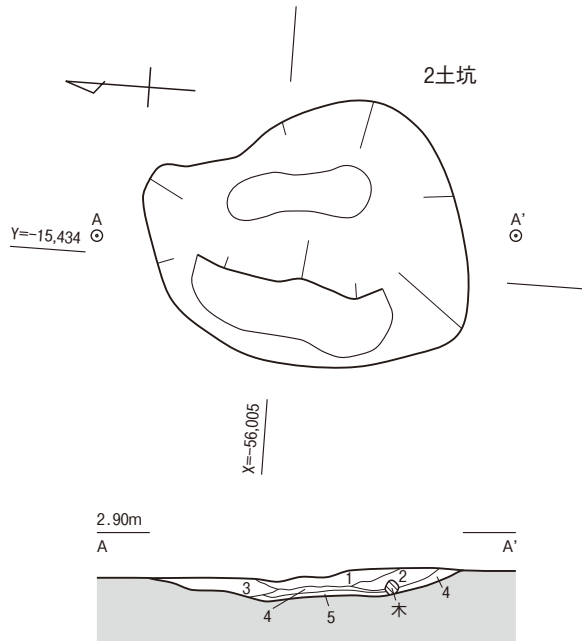
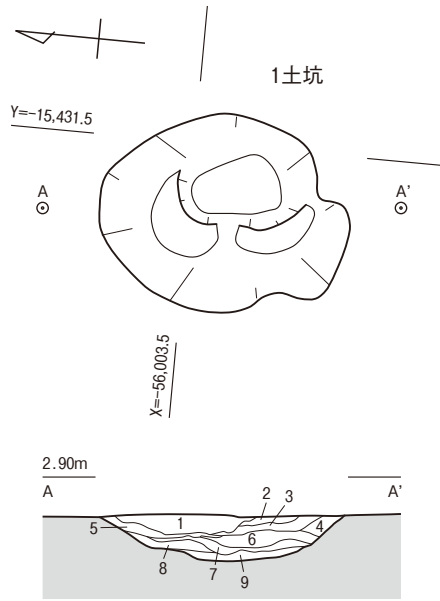
- 1 2.5Y6/1黄灰色～2.5Y7/2灰黄色細砂～シルト(粗砂わずかに含む、細砂～粗砂ブロック含む)
- 2 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y6/1黄灰色シルト～細砂(灰白色微砂ブロック含む)
- 3 2.5Y6/1黄灰色～2.5Y8/2灰白色シルト～細砂(炭化物含む、ラミナあり)
- 4 2.5Y7/1灰白色～2.5Y6/1黄灰色粗砂～細砂(灰褐色シルトブロックまれに含む)
- 5 2.5Y7/1灰白色～2.5Y8/2灰白色粗砂～細砂(わずかに酸化鉄沈着、b層)



- 1 2.5Y4/1黄灰色シルト～細砂(灰白色微砂ブロックまれに含む)
- 2 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y8/2灰白色シルト～細砂(粗砂わずかに含む、ラミナあり)
- 3 2.5Y5/1黄灰色シルトと2.5Y8/1灰白色～2.5Y6/1黄灰色細砂～シルト
(5cmの明青灰色粘土ブロック含む、灰色シルトブロック、炭化物まれに含む)
- 4 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y7/1灰白色シルト～細砂(1～5cmの明青灰色粘土ブロック多く、炭化物まばらに含む)
- 5 5BG6/1青灰色粘土～細砂(灰白色細砂ブロックまれに含む)
- 6 5BG7/1明青灰色粘土～細砂(炭化物含む)

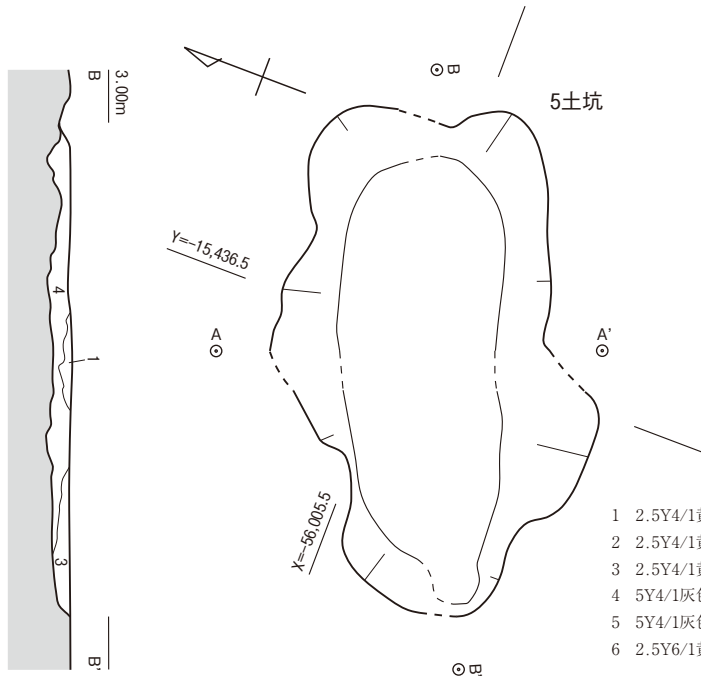


第18図 3-2a層下面検出疑似畦畔断面図

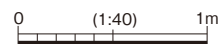
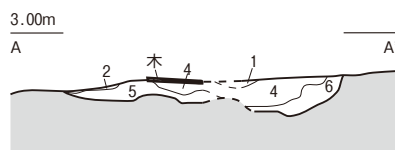


- 1 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y3/1黒褐色シルト～細砂
(0.2cmの白色礫をまばらに含む、炭化物ごくまれに含む、層最下部に薄く腐植土を含む)
- 2 5Y5/1灰色～2.5Y6/2灰黄色シルト～細砂
(細砂ブロックをまばらに含む、0.2cmの白色礫をまれに含む)
- 3 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y3/1黒褐色粘土～シルト(細砂わずかに含む、木質遺物まれに含む)
- 4 2.5Y5/1黄灰色～5Y6/1灰色細砂～粘土(炭化物ごくまれに含む、層下方に粘土の割合高い)
- 5 2.5Y5/1黄灰色～5Y7/1灰白色シルト～粘土(細砂ブロック含む、層南方に粘土の割合多い)
- 6 5Y5/1灰色～7.5Y7/1灰白色細砂～シルト
(1.0～2.0cmの灰白色粘土ブロックを含む、木質遺物・炭化物をごくまれに含む)
- 7 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y6/1灰色粘土～シルト
(細砂ブロックを含む、木質遺物・炭化物をごくまれに含む)
- 8 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y7/1灰白色シルト～粘土(細砂ブロックを含む、炭化物ごくまれに含む)
- 9 5Y5/1灰色細砂～シルト(炭化物ごくまれに含む、灰白色粘土ブロックまれに含む)

- 1 2.5Y3/1黒褐色～2.5Y4/1黄灰色シルト
(細砂わずかに含む、炭化物ごくまれに含む)
- 2 5Y5/1灰色～5Y7/1灰白色シルト～細砂(粗砂わずかに含む)
- 3 5Y5/1灰色～5Y6/1灰色シルト～粗砂
(木質遺物・0.2～0.3cmの白色礫をごくまれに含む)
- 4 2.5Y3/2黒褐色～2.5Y4/1黄灰色シルト～粘土(木質遺物まれに含む)
- 5 5Y5/1灰色～5Y4/1灰色粘土～シルト
(炭化物・灰白色粘土ブロックをまれに含む)

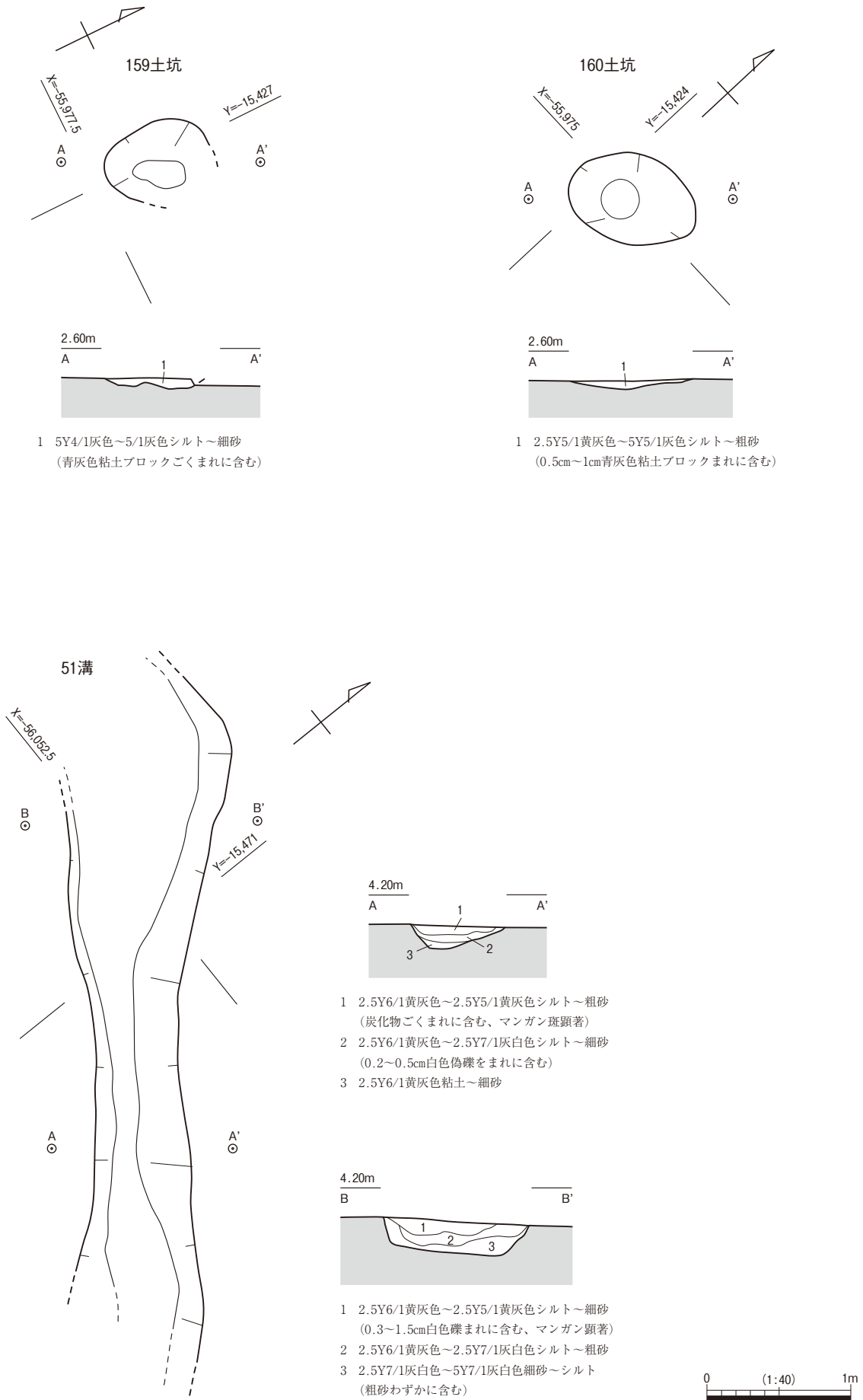


- 1 2.5Y4/1黄灰色～5Y5/1灰色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、有機物まれに含む)
- 2 2.5Y4/1黄灰色～5Y5/1灰色シルト～粘土(粗砂わずかに含む)
- 3 2.5Y4/1黄灰色～5Y5/1灰色シルト～細砂(炭化物・細砂ブロックまれに含む)
- 4 5Y4/1灰色～2.5Y4/1黄灰色粘土～シルト(細砂ブロック・炭化物・有機物をまれに含む)
- 5 5Y4/1灰色～2.5Y5/1黄灰色シルト～細砂(粗砂わずかに含む)
- 6 2.5Y6/1黄灰色～2.5Y5/1黄灰色粘土～シルト(粗砂わずかに含む)

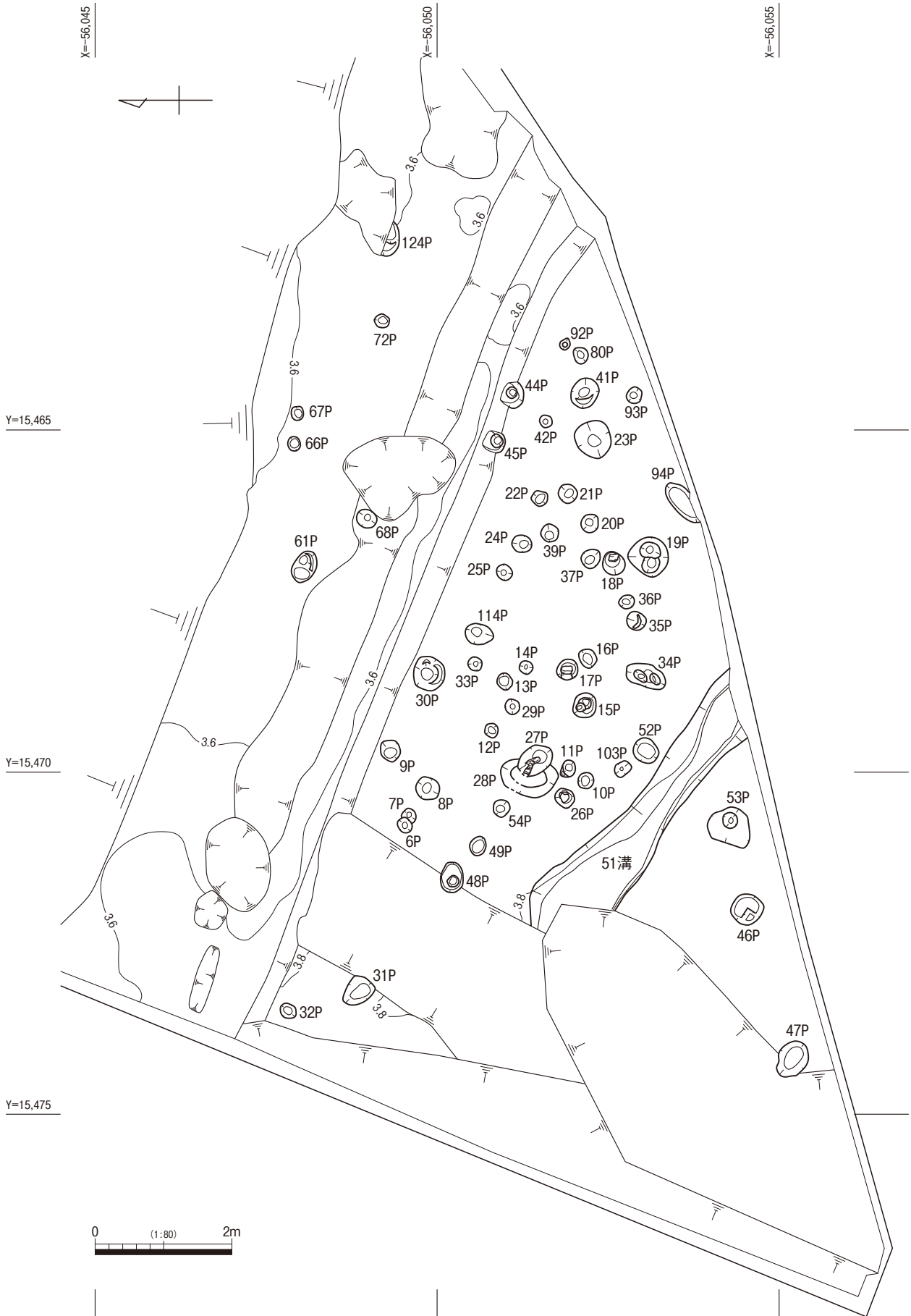


第19図 1・2・5土坑

第4章 平成23年度の調査成果



第20図 159・160土坑、51溝



第21図 1区南側3-2a層下面検出ピット群

表1 1区3-2a層下面ピット表

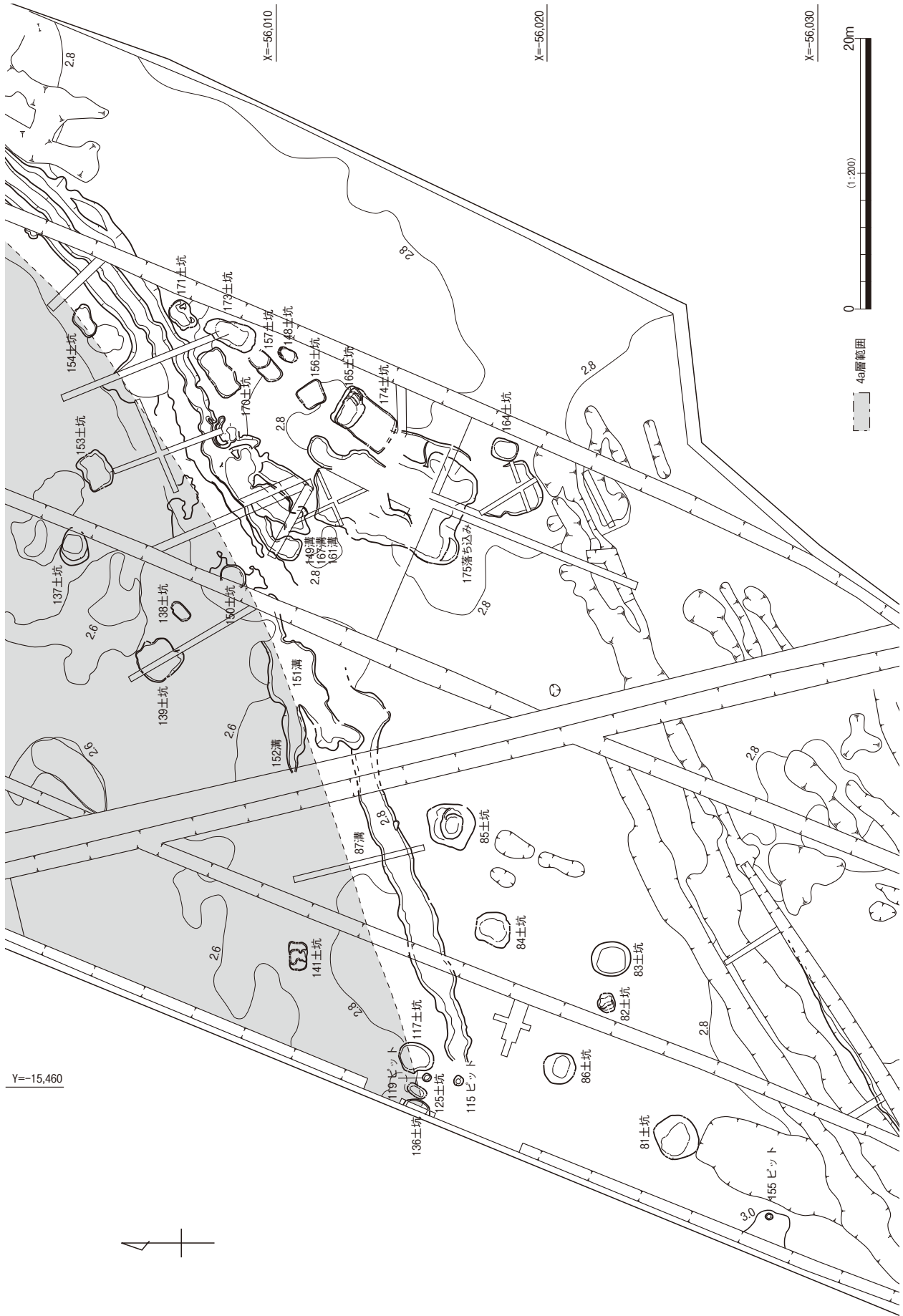
番号	グリッド	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	主な埋土	備考
4	6f-10E-10d	35	32	14	灰色シルト～粘土	
6	7f-1E-5h	23	20	20	黄灰色～灰白色シルト	
7	7f-1E-5h	23	—	20	黄灰色～灰白色シルト～細砂	
8	7f-1E-5h	36	33	36	上層：灰色～灰白色シルト～粗砂 中層：黄灰色シルト～粘土 下層：灰色～黄灰色粘土～粗砂	
9	7f-1E-5g	33	29	41	黄灰色～灰白色シルト	
10	7f-1E-6h	25	22	10	黄灰色～灰白色シルト～粘土	
11	7f-1E-6g	28	21	15	上層：黄灰色シルト～粘土 下層：灰白色シルト～細砂	
12	7f-1E-6g	20	20	12	黄灰色粘土～細砂	
13	7f-1E-6g	25	23	7	灰白色シルト～粘土	
14	7f-1E-6g	20	19	20	黄灰色～灰白色シルト～細砂	
15	7f-1E-6g	38	35	28	黄灰色シルト	
16	7f-1E-6g	28	26	17	灰白色シルト～細砂	
17	7f-1E-6g	31	30	16	上層：黄灰色シルト～粘土 下層：灰白色シルト～細砂	礎盤石？礫2点出土
18	7f-1E-6g	35	30	13	上層：黄灰色シルト～粘土 下層：灰色～灰白色シルト～細砂	礎盤石1点出土
19	7f-1E-6g	60	53	41	上層：黄灰色～灰白色シルト～細砂 下層：黄灰色シルト～粘土	
20	7f-1E-6g	26	25	6	灰白色シルト	
21	7f-1E-6g	28	27	33	灰白色～黄灰色シルト～粘土	
22	7f-1E-6g	23	23	23	灰白色～黄灰色シルト～細砂	
23	7f-1E-6g	56	53	57	上層：黄灰色～灰色シルト～細砂 下層：灰色シルト～粘土	
24	7f-1E-6h	28	25	35	黄灰色シルト～粘土	
25	7f-1E-6h	24	21	16	黄灰色～灰色シルト～粘土	
26	7f-1E-6h	30	26	17	黄灰色シルト～細砂	礎盤石1点出土
27	7f-1E-6g	62	38	58	上層：黄灰色シルト～粘土 下層：灰色粘土～シルト	
28	7f-1E-6g	75	59	15	黄灰色～灰色シルト～細砂	
29	7f-1E-6g	20	20	20	黄灰色～灰色シルト	
30	7f-1E-5g	51	46	54	上層：黄灰色シルト～粘土 下層：灰色～黄灰色粘土～細砂	
31	7f-1E-5h	50	37	47	上層：白色シルト～細砂 中層：黄灰色～灰白色シルト～細砂 下層：灰色粘土～シルト	
32	7f-1E-5h	25	21	40	黄灰色シルト～粘土	
33	7f-1E-6g	21	20	14	黄灰色シルト～粘土	
34	7f-1E-6g	60	33	15	灰白色～黄灰色シルト～粘土	

表1 1区3-2a層下面ピット表

番号	グリッド	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	主な埋土	備考
35	7f-1E-6g	28	26	11	上層：黄灰色～灰色シルト～粘土 下層：灰色～灰白色シルト～細砂	
36	7f-1E-6g	23	20	11	黄灰色～灰白色シルト	
37	7f-1E-6g	30	26	20	黄灰色～灰色シルト～粘土	
39	7f-1E-6g	25	25	10	黄灰色～灰白色シルト～細砂	
41	7f-1E-6g	45	40	25	上層：黄灰色～灰白色シルト～粘土 下層：黄灰色シルト～細砂	
42	7f-1E-6g	18	18	7	黄灰色シルト～粘土	
44	7f-1E-6g	38	—	36	灰白色シルト	
45	7f-1E-6g	—	33	49	上層：黄灰色～灰白色シルト 下層：黄灰色粘土～細砂	
46	7f-1E-6h	45	44	17	灰白色～灰色シルト	
47	7f-1E-6h	57	44	10	黄灰色～灰白色細砂～シルト	
48	7f-1E-6h	43	38	15	黄灰色～灰白色シルト～粗砂	
49	7f-1E-6h	25	22	8	黄灰色～灰白色シルト～細砂	
52	7f-1E-6g	38	35	11	黄灰色シルト～細砂	
53	7f-1E-6h	66	58	25	黄灰色～灰白色シルト～粘土	
54	7f-1E-6h	25	23	6	灰白色シルト～粗砂	
61	7f-1E-5g	48	33	33	上層：黄灰色～灰白色シルト～細砂 下層：灰色～灰白色シルト～粘土	
66	7f-1E-5g	20	19	11	黄灰色～灰色シルト	
67	7f-1E-5g	21	17	13	黄灰色～灰白色シルト～粘土	
68	7f-1E-5g	30	27	31	灰色粘土～シルト	
72	7f-1E-5g	22	20	7	灰黄色～灰白色シルト	
80	7f-1E-6g	23	23	8	灰白色シルト～細砂	
92	7f-1E-6g	18	15	20	黄灰色シルト～粘土	
93	7f-1E-6g	24	20	36	上層：黄灰色シルト～粘土 下層：灰白色シルト～細砂	
94	7f-1E-6g	73	32	10	黄灰色～灰黄色シルト～粘土	
103	7f-1E-6g	25	20	26	黄灰色～灰白色シルト～粘土	
114	7f-1E-6g	42	30	34	黄灰色シルト～粘土	
124	7f-1E-5g	53	—	13	黄灰色シルト～粘土	

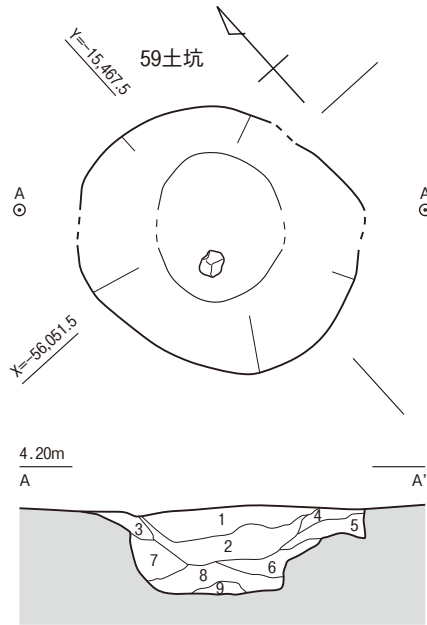


第22図 4a層下面全体図

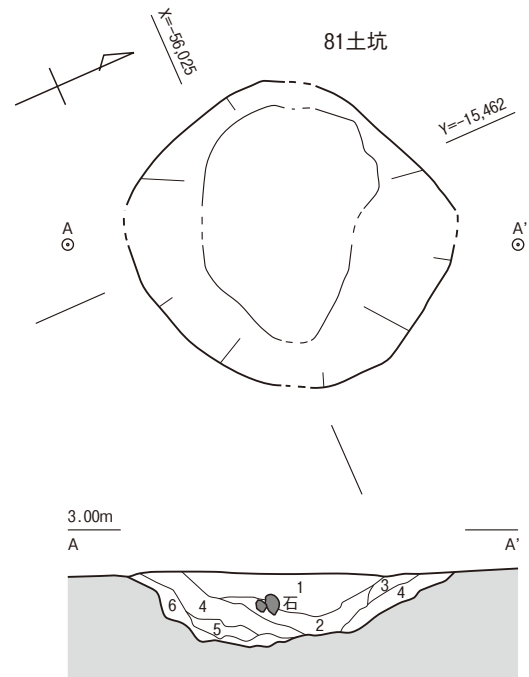


第23図 4a層下面調査区中央部拡大図

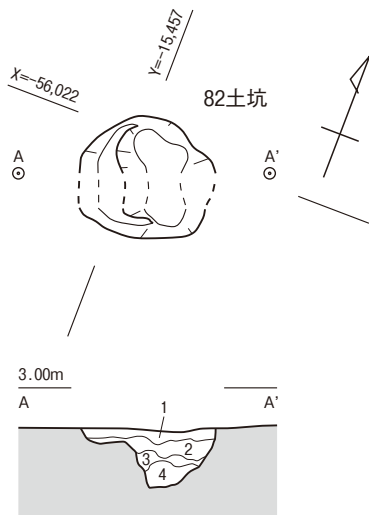
第4章 平成23年度の調査成果



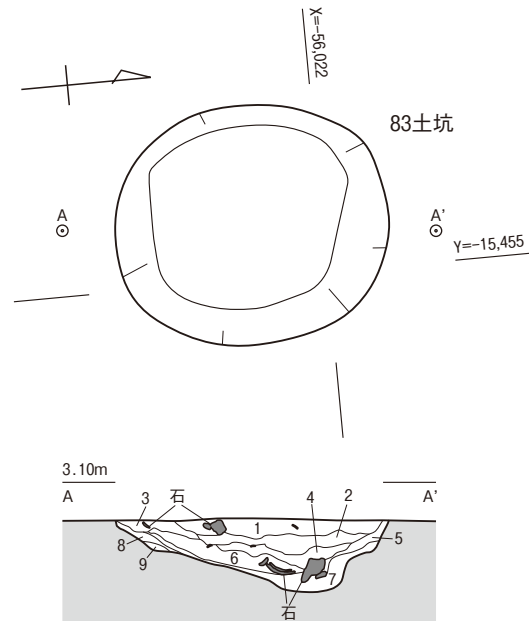
- 1 5Y6/1灰色～5Y8/1灰白色シルト～粘土
(0.2～0.5cmの白色礫、炭化物をわずかに含む)
- 2 5Y7/1灰白色～5Y5/1灰白色シルト～細砂(炭化物わずかに含む)
- 3 5Y5/1灰色～5Y7/1灰白色シルト～粗砂
- 4 5Y7/1灰白色～5Y6/1灰白色シルト
(0.2～0.5cmの白色・黄色偽礫、炭化物をわずかに含む)
- 5 5Y5/1灰色～5Y7/1灰白色シルト～細砂
(0.2～0.5cmの白色・黄色偽礫、炭化物をわずかに含む)
- 6 2.5Y7/2灰黄色～5Y5/1灰白色シルト～粘土
(0.5cmの白色礫、炭化物をわずかに含む)
- 7 5Y5/1灰色～5Y6/1灰白色シルト～粘土
(0.2cmの白色・黄色偽礫・炭化物をわずかに含む)
- 8 5Y5/1灰色～5Y7/1灰白色粘土～シルト(粗砂、炭化物をわずかに含む)
- 9 2.5Y7/1灰白色～5Y6/1灰白色シルト～細砂(炭化物をわずかに含む)



- 1 5YR2/1黒褐色～4/1褐灰色シルト～中砂(0.1cm前後の白色砂礫多く含む、炭化物含む)
- 2 5YR2/2黒褐色～2/4暗赤褐色シルト～粘土(有機質含む)
- 3 5YR5/褐灰色1～7/1明褐灰色シルト～粗砂(0.1cm前後白色砂礫多、有機質多く含む)
- 4 5YR4/1褐灰色～7/1明褐灰色シルト～粗砂(0.1cm前後白色砂礫多)
- 5 5YR3/1黒褐色～7/1明褐灰色シルト～粗砂(黒灰色粘質土が下層に溜まる)
- 6 7.5YR6/6橙色～8/6浅黄橙色シルト～粗砂



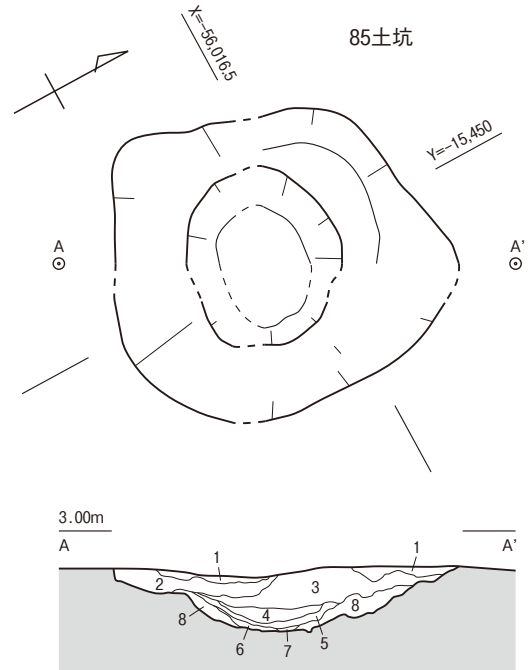
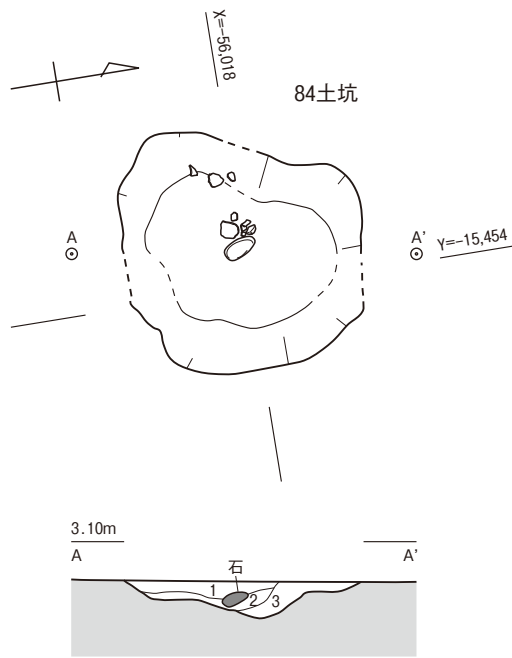
- 1 2.5Y6/1黄灰色～7/1灰白色シルト～粗砂(0.5cm以上の白色礫少量含む)
- 2 2.5Y5/1黄灰色～7/1灰白色シルト～粗砂
(灰色粘土ブロック多く含む、酸化鉄沈着)
- 3 2.5Y6/1黄灰色～7/1灰白色シルト～粗砂(0.5cm前後の白色礫含む)
- 4 2.5Y3/1黒褐色～7/2灰黄色シルト～粗砂
(下位では暗灰色土が斜方向に互層状になる部分あり、灰色黄灰色粘土ブロックを含む)



- 1 2.5Y5/1黄灰色～7/1灰白色シルト～粗砂
(1.0cm前後の白色砂礫混、拳大以下の礫含む、酸化鉄含む)
- 2 2.5Y2/1黒色～5/1黄灰色シルト～粗砂
(1.0cm前後黄褐色ブロック多く含む、白色砂礫混)
- 3 2.5Y4/1黄灰色～5Y6/2灰黄色粗～細砂(白色レキ少し含む)
- 4 2.5Y3/1黒褐色～5/1黄灰色シルト～粗砂(灰色、淡黄灰色土ブロック多く含む)
- 5 2.5Y2/1黒色～5/1黄灰色シルト～粗砂(灰白色土ブロック含む)
- 6 2.5Y2/1黒色～4/1黄灰色シルト～粗砂(1.0cm前後の白色砂礫多く含む)
- 7 2.5Y3/1黒褐色粘土～シルト(有機質多)
- 8 2.5Y3/1黒褐色～5/1黄灰色シルト～中砂(灰色ブロック多く含む)
- 9 2.5Y2/1黒色～3/1黒褐色シルト～中砂

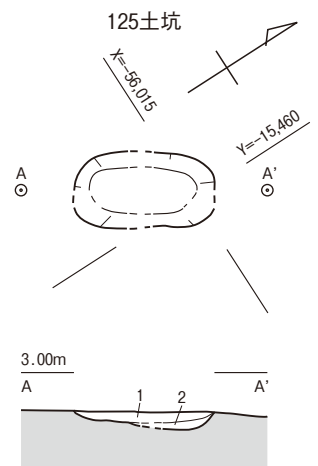
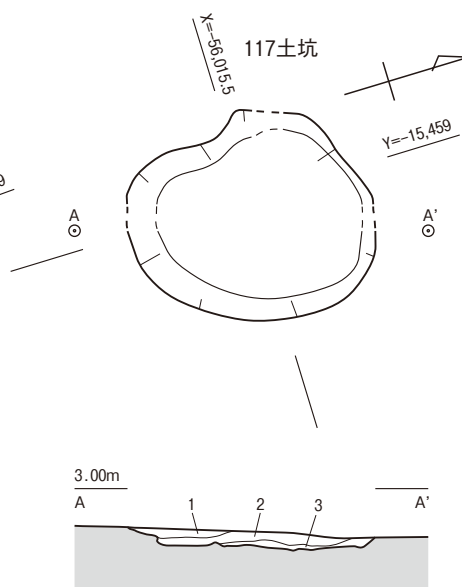
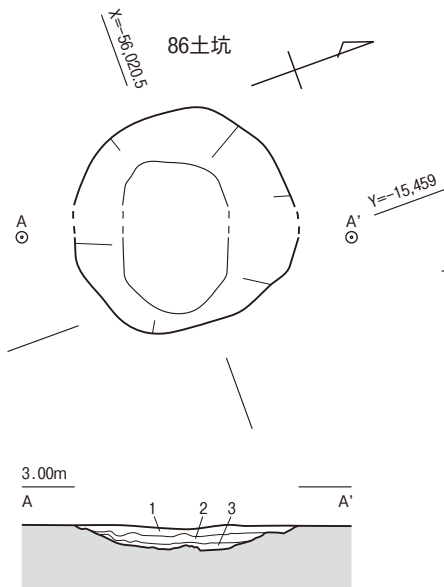


第24図 59・81～83土坑



- 1 2.5Y6/1黄灰色～4/1黄灰色シルト～粗砂
(0.2～0.5cm白色礫、炭化物をまばらに含む)
- 2 2.5Y3/1黒褐色粘土～細砂(炭化物、0.2cmの白色礫をまばらに含む)
- 3 2.5Y5/1黄灰色～10Y7/1灰白色細砂～シルト
(粗砂わずかに含む、0.2～0.5cmの白・黄色偽礫、1cmの灰色粘土ブロックまばらに含む)

- 1 7.5YR8/4浅黄橙色～8/8黄橙色シルト～粗砂(暗灰色粘土ブロック混)
- 2 2.5YR4/1赤灰色～4/4にぶい赤灰色シルト～粗砂(0.5mm前後白色砂粒多く含む)
- 3 2.5YR2/1赤黒色～5/1赤灰色シルト～粗砂(0.5mm前後白色砂粒多く含む)
- 4 2.5YR3/1暗赤灰色～3/3暗赤褐色シルト～粘土
(0.5mm前後白色砂粒わずかに含む、有機質多い)
- 5 2.5YR3/1暗赤灰色～4/1赤灰色シルト～粘土(0.5mm前後白色砂粒多く含む)
- 6 2.5YR2/1赤黒色～2/3極褐赤褐色シルト～粘土
(0.5mm前後白色砂粒わずかに含む、有機質多い)
- 7 2.5YR5/1赤灰色～7/1明赤灰色シルト～中砂
- 8 2.5YR3/1暗赤灰色～6/1赤灰色シルト～粗砂(0.5mm以下の白色砂粒多く含む)



- 1 2.5Y4/1赤灰色～7/1明赤灰色シルト～粗砂
(0.5cmの白色礫まばらに含む、炭化物 ごくまれに含む、酸化鉄沈着)
- 2 2.5Y3/1暗赤灰色～5/1赤灰色粘土～シルト
(粗砂わずかに含む、炭化物ごくまれに含む、酸化鉄沈着)
- 3 2.5Y5/1赤灰色粘土～シルト
(炭化物ごくまれに含む、粗砂わずかに含む)

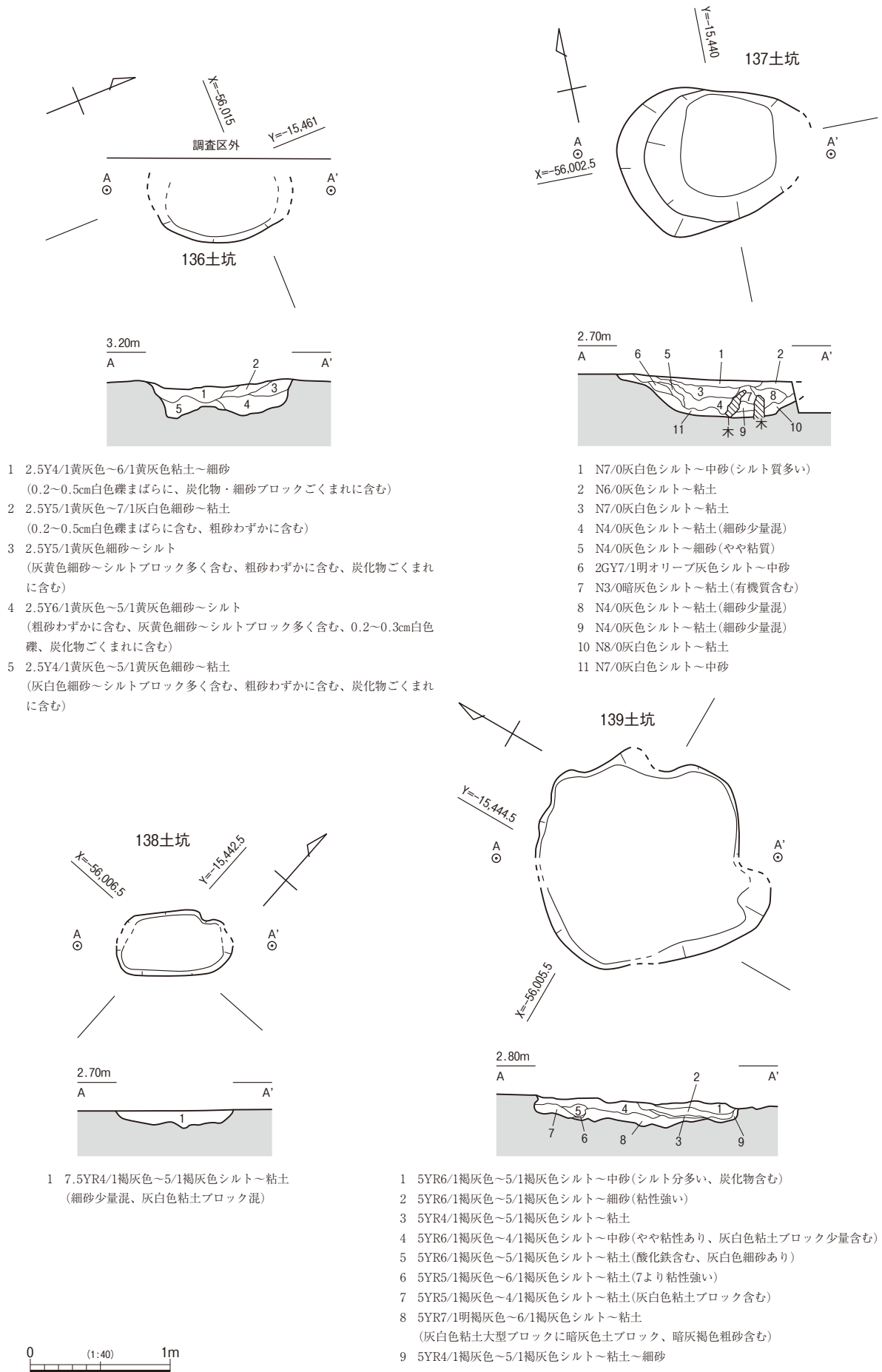
- 1 N7/灰白色～8/灰白色シルト～中砂
(白色砂粒少量混、酸化鉄沈着)
- 2 N6/灰色～7/灰白色シルト～中砂
(0.5mm前後白色砂粒多く含む、酸化鉄沈着)
- 3 2.5YR4/1赤灰色～4/1灰色シルト～粘土
(0.5mm前後白色砂粒少量含む)

- 1 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y5/1黄灰色シルト～細砂(炭化物0.2～0.3cm白色礫まばらに含む)
- 2 5Y7/1灰白色～6/1灰色細砂～シルト
(粗砂わずかに含む)

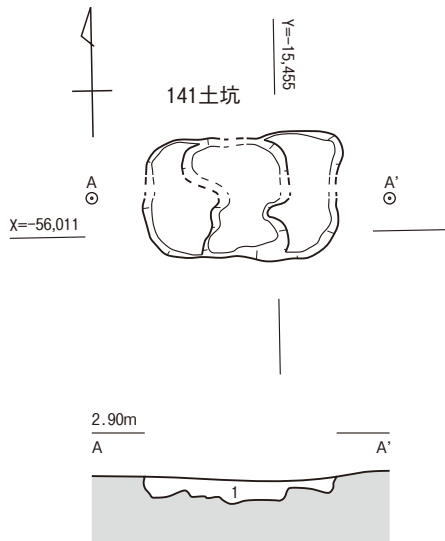


第25図 84～86・117・125土坑

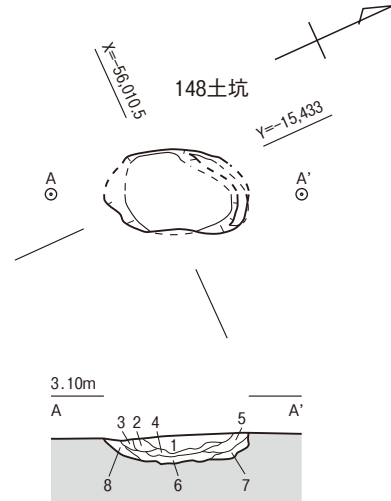
第4章 平成23年度の調査成果



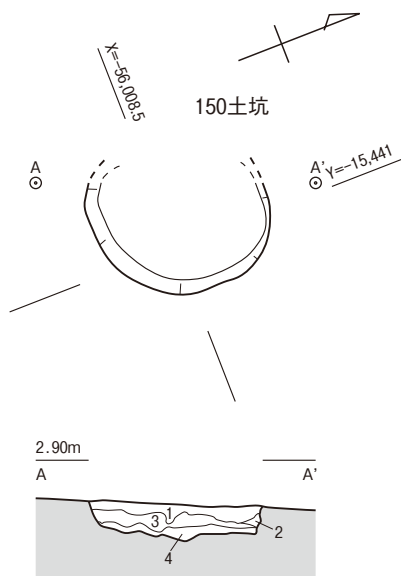
第26図 136~139土坑



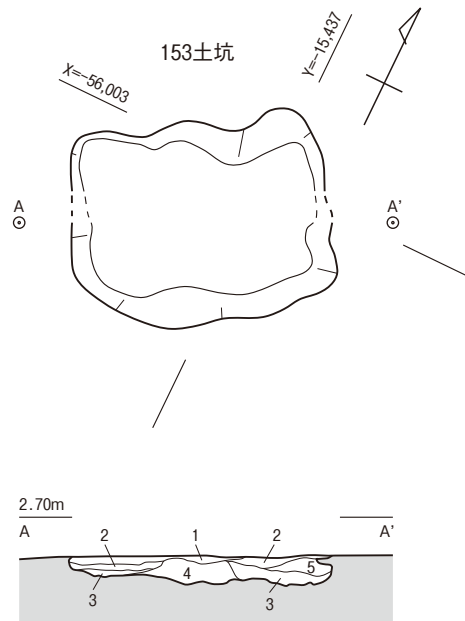
- 1 7.5YR4/1 褐灰色～5/1 褐灰色シルト～粘土～細砂
(灰色粘土ブロック多く含む)



- 1 7.5YR5/1 褐灰色～6/1 褐灰色細砂～粗砂 (淡黄灰色粘土ブロックを含む)
- 2 7.5YR7/2 明褐灰色～8/2 灰白色粘土ブロック (褐灰色中～粗砂混)
- 3 7.5YR6/2 灰褐色シルト～粘土 (ブロック状)
- 4 7.5YR4/1 褐灰色シルト～粘土
- 5 7.5YR6/2 灰褐色粗砂～中砂
- 6 7.5YR4/1 褐灰色～7/1 明褐灰色シルト～粘土
- 7 7.5YR4/1 褐灰色～5/1 褐灰色シルト～中砂 (粘土ブロック混)
- 8 7.5YR7/1 明褐灰色粗砂～細砂



- 1 2.5Y4/1 黄灰色～5/1 黄灰色シルト～粘土
(粗砂わずかに含む、1.5cmの粘土ブロックごくまれに含む)
- 2 5Y4/1 灰色粘土～シルト (粘土ブロックまばらに含む)
- 3 5Y4/1 灰色シルト～粘土
(細砂わずかに含む、1～5cmの粘土ブロック多く含む、炭化物まれに含む)
- 4 2.5Y7/2 灰黄色細砂 (1～3cmの粘土ブロック多く含む)

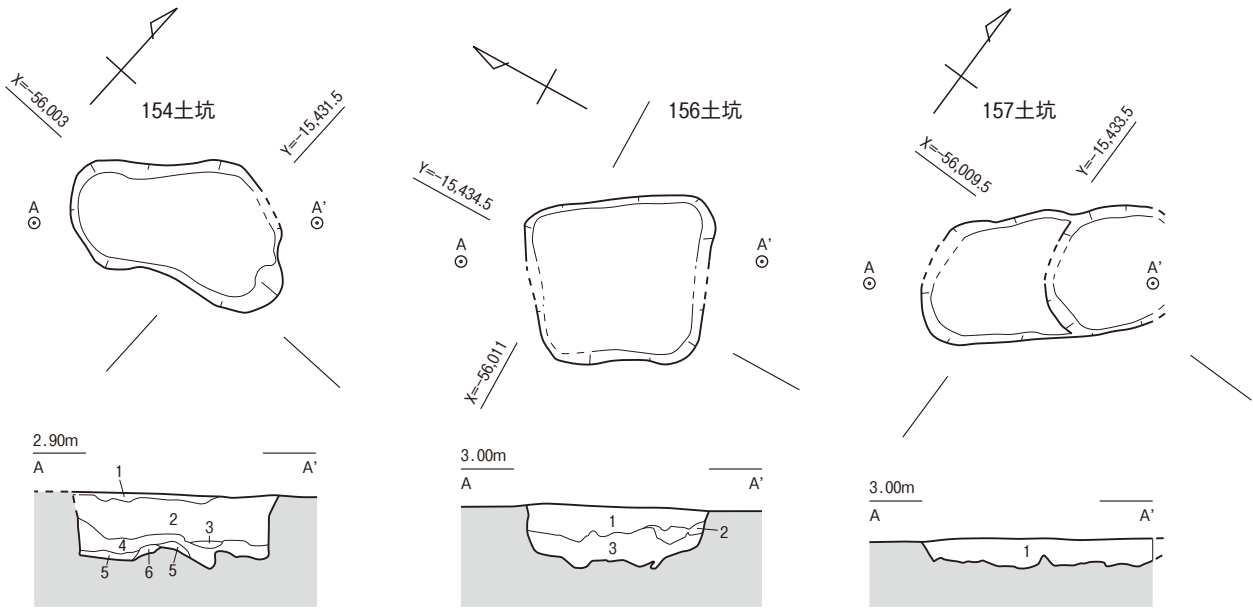


- 1 7.5YR3/2 黒褐色シルト～細砂 (粘性やや強い)
- 2 7.5YR3/1 黒褐色～3/2 黒褐色シルト～粘土 (細砂分やや多く含む、酸化鉄少量沈着)
- 3 7.5YR3/1 黒褐色～4/1 褐灰色シルト～粘土 (灰白色粘土ブロック少し含む)
- 4 7.5GY7/1 明褐灰色～6/1 褐灰色粘土 (ブロック)
- 5 7.5YR3/1～4/1 シルト～細砂 (粘性強い、灰白色粘土ブロック少し含む)



第27図 141・148・150・153土坑

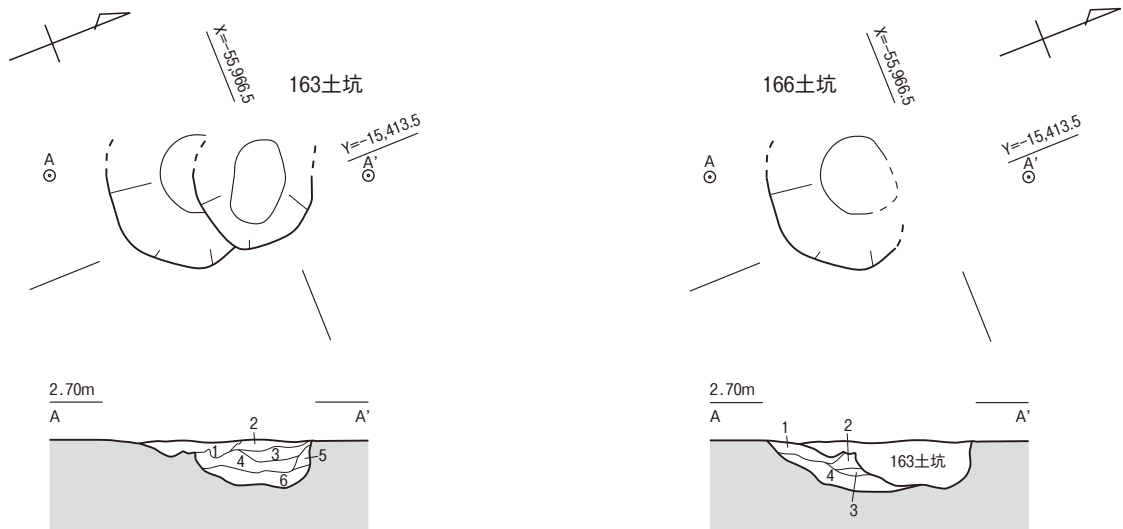
第4章 平成23年度の調査成果



- 1 7.5YR4/1 褐灰色細砂～シルト
- 2 7.5YR4/1 褐灰色シルト～粘土
(細砂多、灰白色粘土ブロック含む)
- 3 7.5YR3/2 黒褐色シルト～粘土(有機質分多く含む)
- 4 7.5YR3/1 黒褐色シルト～粘土
(細砂～極細砂含む、灰白色粘土ブロック多く含む)
- 5 7.5YR4/1 褐灰色中砂～シルト(粘性強い)
- 6 7.5YR7/1 明褐灰色～8/1 灰白色シルト～粘土
(ブロック状)

- 1 10YR4/1 褐灰色シルト～粗砂
(灰色粘質土ブロック多く含む)
- 2 10YR6/1 褐灰色シルト～粗砂(酸化鉄含む)
- 3 10YR5/1 褐灰色粗砂(灰色粘土ブロック多く含む)

- 1 7.5YR4/1 褐灰色シルト～中砂
(淡黄灰色シルトブロック含む、粗砂混)

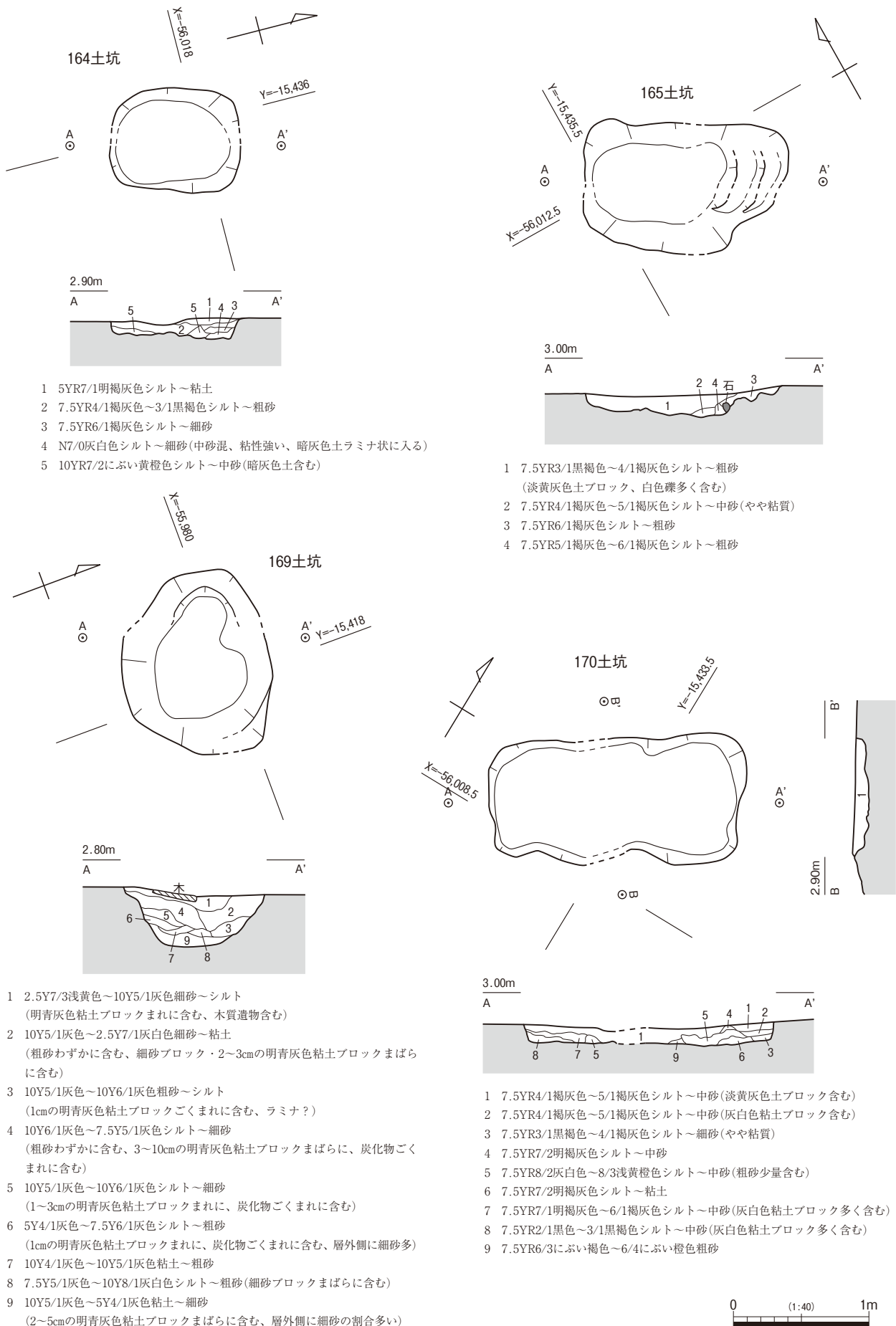


- 163土坑
- 1 5Y4/1 灰色シルトと2.5Y7/1 灰白色～2.5Y6/4にふい黄色細砂
(木質遺物、炭化物含む)
 - 2 2.5Y5/1 黄灰色～2.5Y6/1 黄灰色シルト～粗砂
(灰白色粘土ブロック、細砂ブロックごくまれ、木質遺物、炭化物含む)
 - 3 2.5Y5/1 黄灰色～2.5Y4/1 黄灰色シルト～細砂(木質遺物、炭化物含む)
 - 4 5Y4/1 灰色～7.5Y4/1 灰色粘土～細砂(1cm細砂ブロックまばら、木質遺物含む)
 - 5 5Y7/1 灰白～5Y7/2 灰白色細砂～粗砂(一部酸化)
 - 6 5Y4/1 灰色～N8/0 灰白色粘土～細砂(木質遺物含む)

- 166土坑
- 1 5Y4/1 灰色～2.5Y7/1 灰白色シルト～細砂(木質遺物、炭化物含む)
 - 2 2.5Y7/2 灰黄色～2.5Y5/1 黄灰色細砂～シルト(粗砂わずかに含む、木質遺物含む)
 - 3 5Y4/1 灰色～N7/0 灰白色シルト～細砂(1～2cmの細砂ブロックをまばらに含む)
 - 4 5Y4/1 灰色～2.5Y7/1 灰白色細砂～シルト(木質遺物含む、細砂ブロック含む)



第28図 154・156・157・163・166土坑



164土坑

165土坑

169土坑

170土坑

- 1 5YR7/1明褐色シルト～粘土
- 2 7.5YR4/1褐色～3/1黒褐色シルト～粗砂
- 3 7.5YR6/1褐色シルト～細砂
- 4 N7/0灰白色シルト～細砂(中砂混、粘性強い、暗灰色土ラミナ状に入る)
- 5 10YR7/2にぶい黄橙色シルト～中砂(暗灰色土含む)

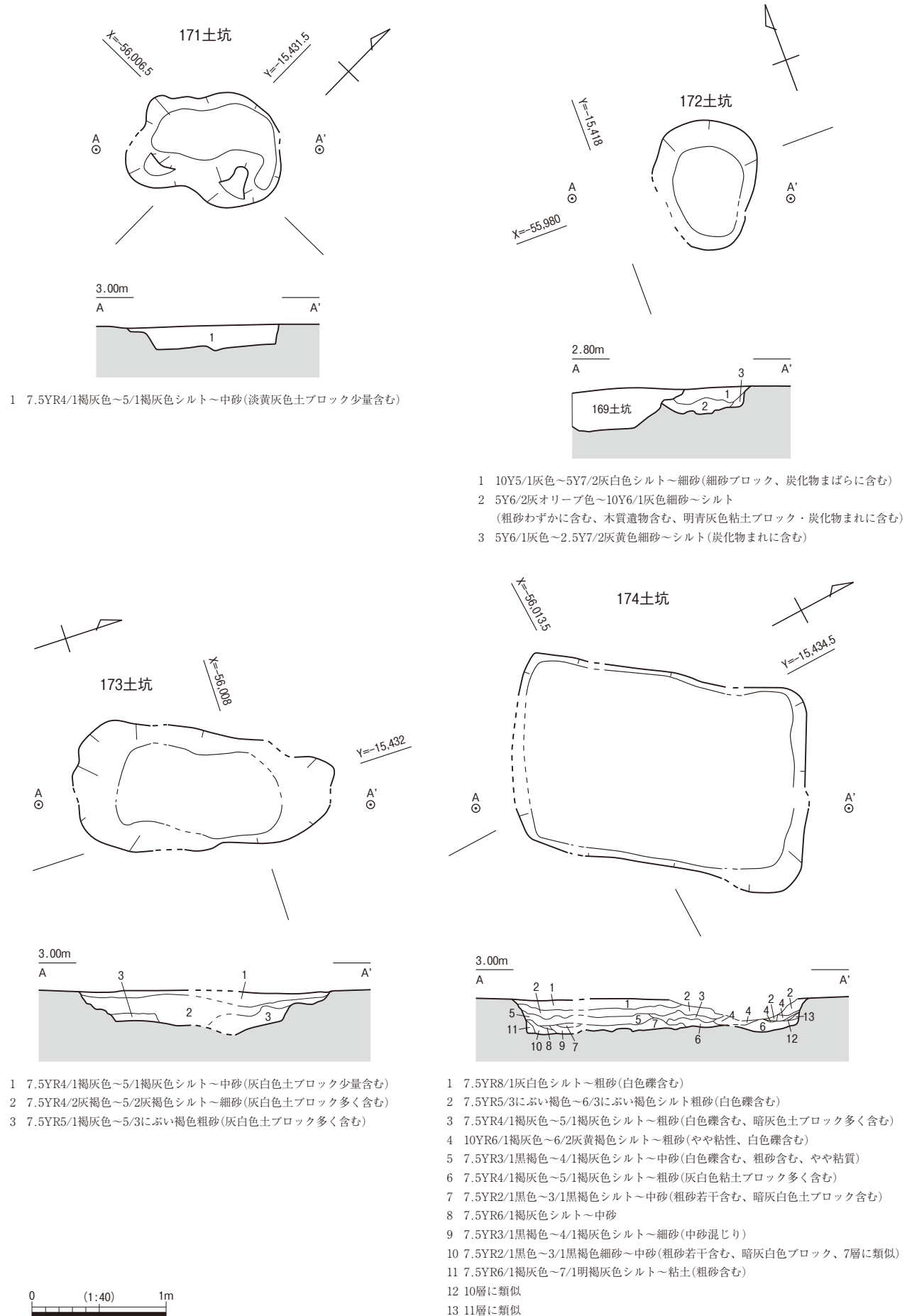
- 1 7.5YR3/1黒褐色～4/1褐色シルト～粗砂
(淡黄灰色土ブロック、白色礫多く含む)
- 2 7.5YR4/1褐色～5/1褐色シルト～中砂(やや粘質)
- 3 7.5YR6/1褐色シルト～粗砂
- 4 7.5YR5/1褐色～6/1褐色シルト～粗砂

- 1 2.5Y7/3浅黄色～10Y5/1灰色細砂～シルト
(明青灰色粘土ブロックまじりに含む、木質遺物含む)
- 2 10Y5/1灰色～2.5Y7/1灰白色細砂～粘土
(粗砂わずかに含む、細砂ブロック・2～3cmの明青灰色粘土ブロックまじりに含む)
- 3 10Y5/1灰色～10Y6/1灰色粗砂～シルト
(1cmの明青灰色粘土ブロックごくまじりに含む、ラミナ?)
- 4 10Y6/1灰色～7.5Y5/1灰色シルト～細砂
(粗砂わずかに含む、3～10cmの明青灰色粘土ブロックまじりに、炭化物ごくまじりに含む)
- 5 10Y5/1灰色～10Y6/1灰色シルト～細砂
(1～3cmの明青灰色粘土ブロックまじりに、炭化物ごくまじりに含む)
- 6 5Y4/1灰色～7.5Y6/1灰色シルト～粗砂
(1cmの明青灰色粘土ブロックまじりに、炭化物ごくまじりに含む、層外側に細砂多)
- 7 10Y4/1灰色～10Y5/1灰色粘土～粗砂
- 8 7.5Y5/1灰色～10Y8/1灰白色シルト～粗砂(細砂ブロックまじりに含む)
- 9 10Y5/1灰色～5Y4/1灰色粘土～細砂
(2～5cmの明青灰色粘土ブロックまじりに含む、層外側に細砂の割合多い)

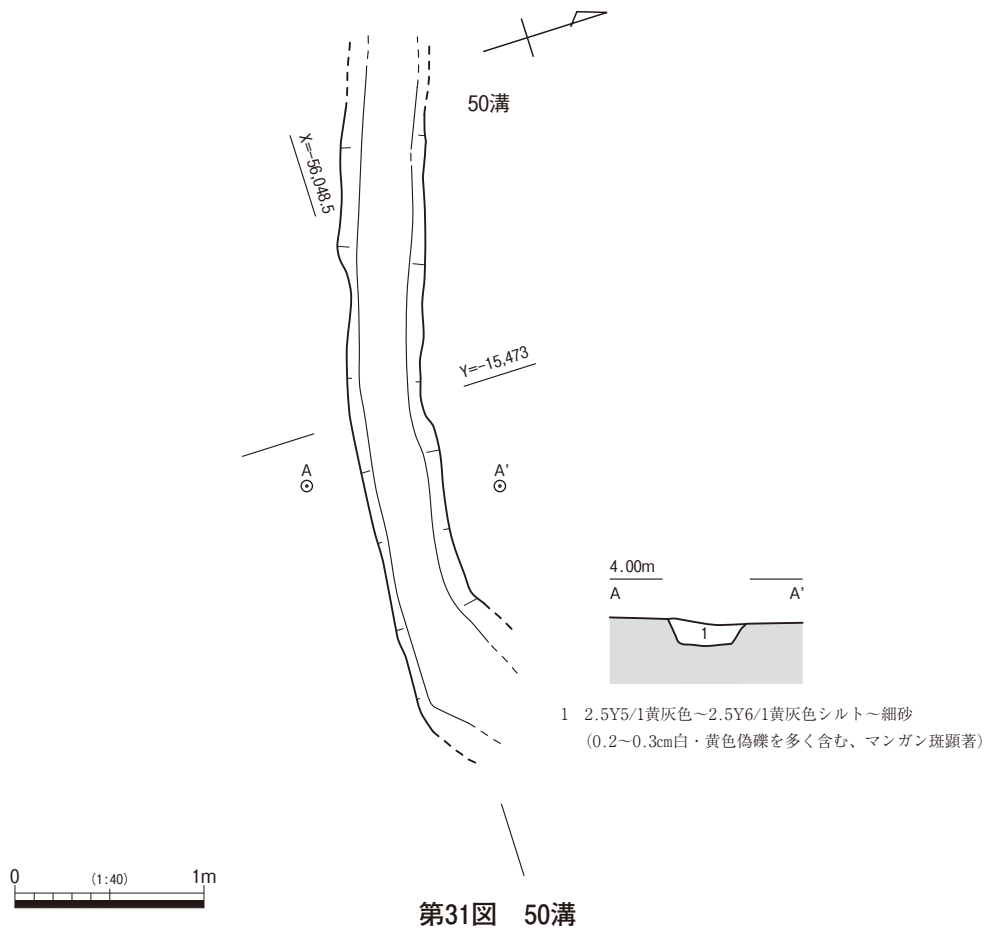
- 1 7.5YR4/1褐色～5/1褐色シルト～中砂(淡黄灰色土ブロック含む)
- 2 7.5YR4/1褐色～5/1褐色シルト～中砂(灰白色粘土ブロック含む)
- 3 7.5YR3/1黒褐色～4/1褐色シルト～細砂(やや粘質)
- 4 7.5YR7/2明褐色シルト～中砂
- 5 7.5YR8/2灰白色～8/3浅黄橙色シルト～中砂(粗砂少量含む)
- 6 7.5YR7/2明褐色シルト～粘土
- 7 7.5YR7/1明褐色～6/1褐色シルト～中砂(灰白色粘土ブロック多く含む)
- 8 7.5YR2/1黒色～3/1黒褐色シルト～中砂(灰白色粘土ブロック多く含む)
- 9 7.5YR6/3にぶい褐色～6/4にぶい橙色粗砂

第29図 164・165・169・170土坑

第4章 平成23年度の調査成果



第30図 171～174土坑



(4) 溝

調査区南端、7f-1E-6g・6hグリッドで南東から北西方向に走向する51溝を1条確認した。南東から北西方向に走向し、長さ約4.8m、幅最大1m、検出面からの深さ約20cmを測る。埋土上層は黄灰色から灰白色のシルト～細砂の3-2a層と思われる堆積物で、下層には流水によったと考えられる細砂～粗砂が堆積する。

(5) ピット

1区南側の7f-1E-5g・5h・6g・6hグリッドで56基のピットを確認した。この範囲では3-2a層、4a層の堆積は圃場整備に伴う削平により認められなかったため、ピット埋土により3-2a層下面の遺構として扱った。これらには建物跡などが復元できる配列は認められなかった。

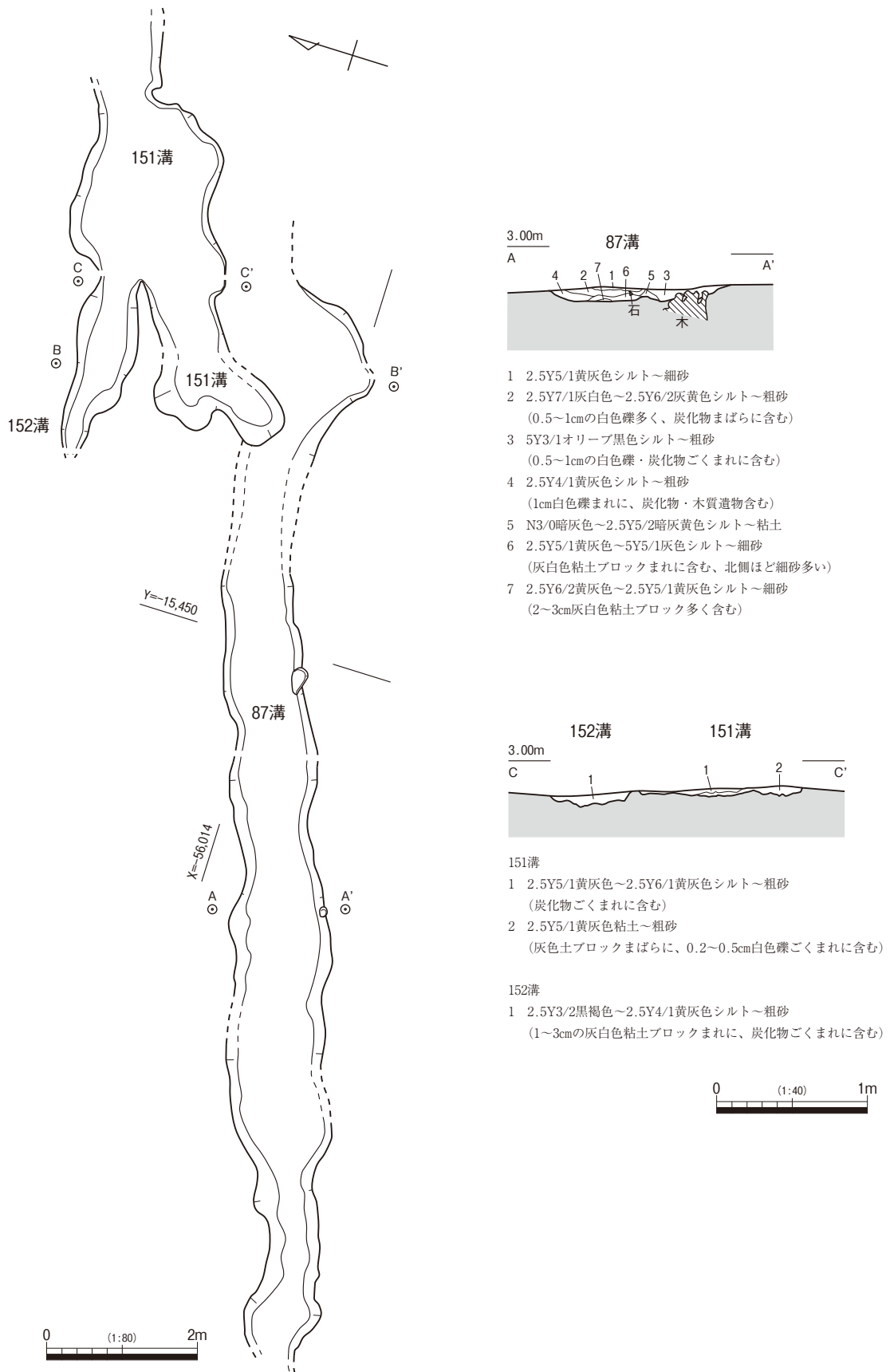
第5節 1区4a層下面の遺構

(1) 土坑

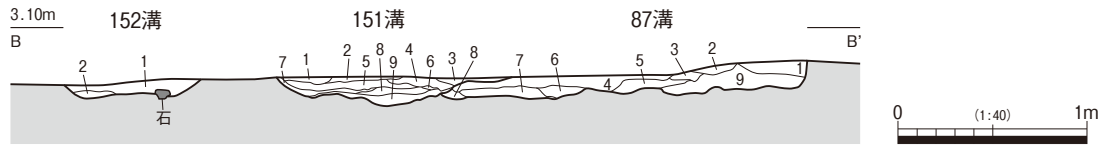
4a層下面では、59・81～86・117・125・136～139・141・148・150・153・154・156・157・163～166・169～175の遺構番号を付した土坑を検出した。これらの多くは調査区中央部に位置し、また4a層が堆積する範囲から外れるものが多いが、埋土中に4a層に近似する土が認められることから、4a層下面の土坑と判断した。

(2) 溝、落ち込み

4a層下面では、調査区中央部、調査区南端で、50・60・87・88・108・129・130・135・149・151・



第32図 87・151・152溝



87溝

- 1 5Y8/3淡黄色シルト～細砂(暗灰色土を互層状にわずかに含む)
- 2 10YR6/1褐灰色～10YR6/2灰黄褐色中砂～粗砂(暗灰白色土を含む)
- 3 10YR5/1褐灰色中砂～細砂(灰白色粘土ブロック多く含む)
- 4 10YR5/1褐灰色～10Y6/1褐灰色中砂(灰白色粘土ブロック少量含む)
- 5 10YR4/1褐灰色シルト～中砂(粘性おびる)
- 6 10YR4/1褐灰色シルト～中砂(灰白色粘土ブロック少量含む)
- 7 10YR6/1褐灰色シルト～極細砂(粘性強い、淡灰白色シルト層状に入る)
- 8 5Y5/1灰色～5Y7/1灰白色シルト～粗砂(1～0.5cm緑灰色粘土ブロックまばらに含む)
- 9 2.5Y5/1黄灰色～7.5GY7/1明緑灰色シルト～粗砂(灰黄色細砂ブロック1～10cmの明緑灰色粘土ブロック多く、炭化物まれに含む)

151溝

- 1 2.5Y5/1黄灰色～5Y5/1灰色シルト～細砂(0.2cm白色礫ごくまれに含む)
- 2 2.5Y5/1黄灰色粘土～シルト(層状の灰白色粘土ごくまれに含む)
- 3 5Y7/1灰白色～5Y6/1灰色シルト～細砂(0.2cm白色礫ごくまれに、灰色粘土ブロックまれに含む)
- 4 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y7/1灰白色シルト～粘土(粗砂わずかに含む)
- 5 5Y5/1灰色～5Y6/1灰色粗砂まじり粘土～シルト(炭化物ごくまれに含む)
- 6 2.5Y6/1黄灰色粘土～シルト(粗砂ごくまれに含む)
- 7 5Y5/1灰色～7.5Y5/1灰色粘土～シルト(細砂・炭化物ごくまれに含む)
- 8 5Y4/1灰色シルト～粗砂(1cmの明緑灰色粘土ブロック多く含む)
- 9 7.5Y5/1灰色～5Y5/1灰色細砂まじり粘土～シルト(0.2～0.3cm白色礫・炭化物まれに、1.5cm灰白色粘土ブロックごくまれに含む)

152溝

- 1 2.5Y3/2黒褐色～2.5Y5/1黄灰色シルト～粗砂(1cm灰白色粘土ブロック・炭化物まばらに含む、ラミナ?層状に細砂含む部分あり)
- 2 2.5Y7/2灰黄色～2.5Y7/1灰白色細砂～シルト(3～5cmの明緑灰色粘土ブロック多く、炭化物まれに含む)

第33図 87・151・152溝土層断面図

152・161・167の遺構番号を付した溝と短小な溝が重なり合ったような掘り方の175落ち込みを検出した。

これらの溝の延長は、最長のもので18m、大半のものが数mのものである。埋土は全体的に淘汰の悪い堆積物で構成されており、流水等の痕跡を示す堆積物は認められなかった。

(3) ピット

T23-7f-1E-5g・5h・6g・6hグリッドで53基のピットを確認した。この範囲では、先述したとおり、3-2a層、4a層の堆積は認められなかったため、ピット埋土により4a層下面の遺構として扱った。

第6節 1区出土遺物

(1) 土器、陶磁器

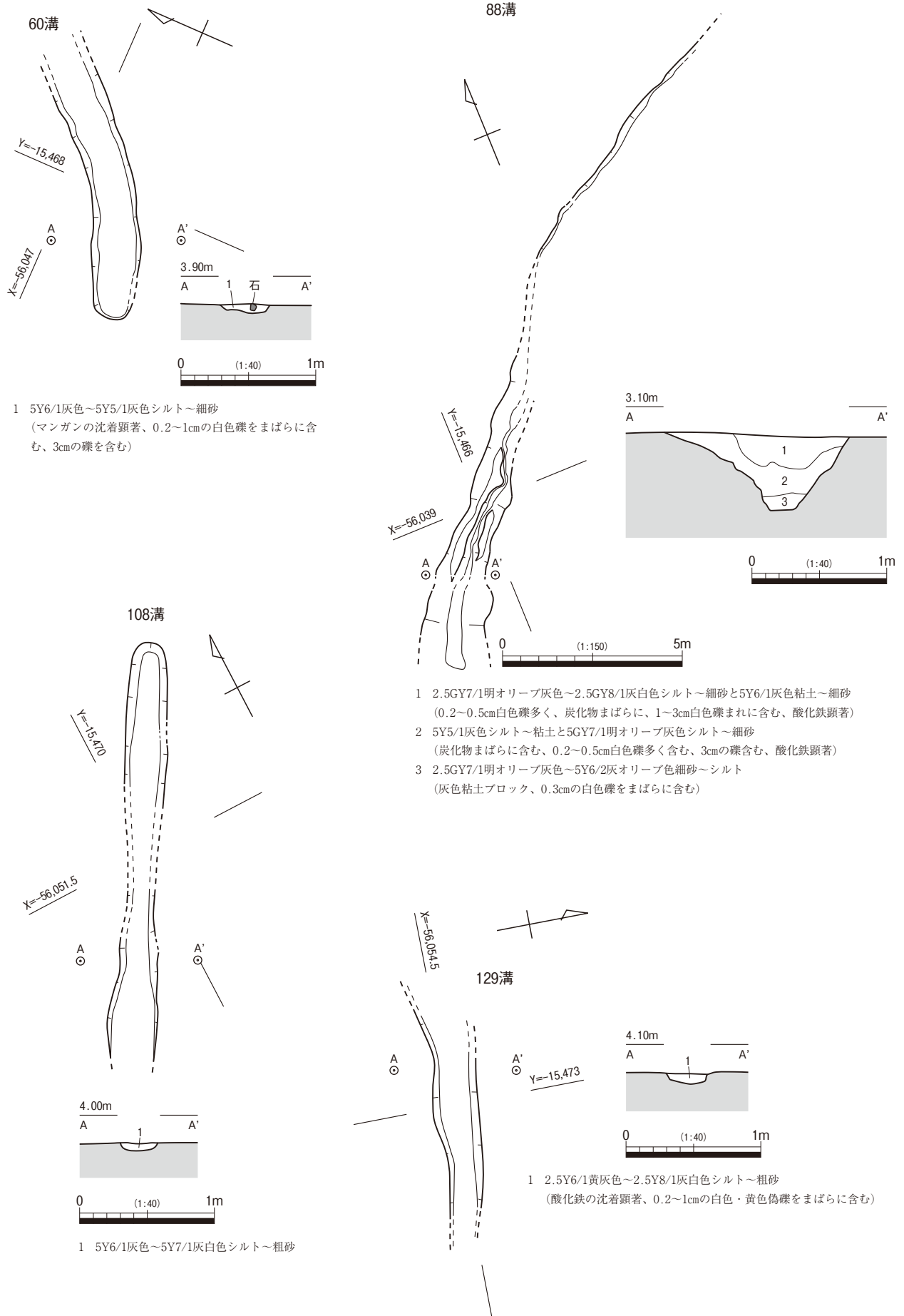
表土及び2a層の出土遺物

表土として扱った現耕作土から22層まで層中からは、瓦質羽釜43、東播系の須恵器捏鉢45、青磁碗48など中世の陶磁器類が出土した。また、2a層中からは、東播系須恵器捏鉢45、備前播鉢46、白磁碗49、青磁蓮弁文碗47などの中世の陶磁器類が出土したほか、下層から巻き上げられた弥生時代後期の注口土器50も認められた。

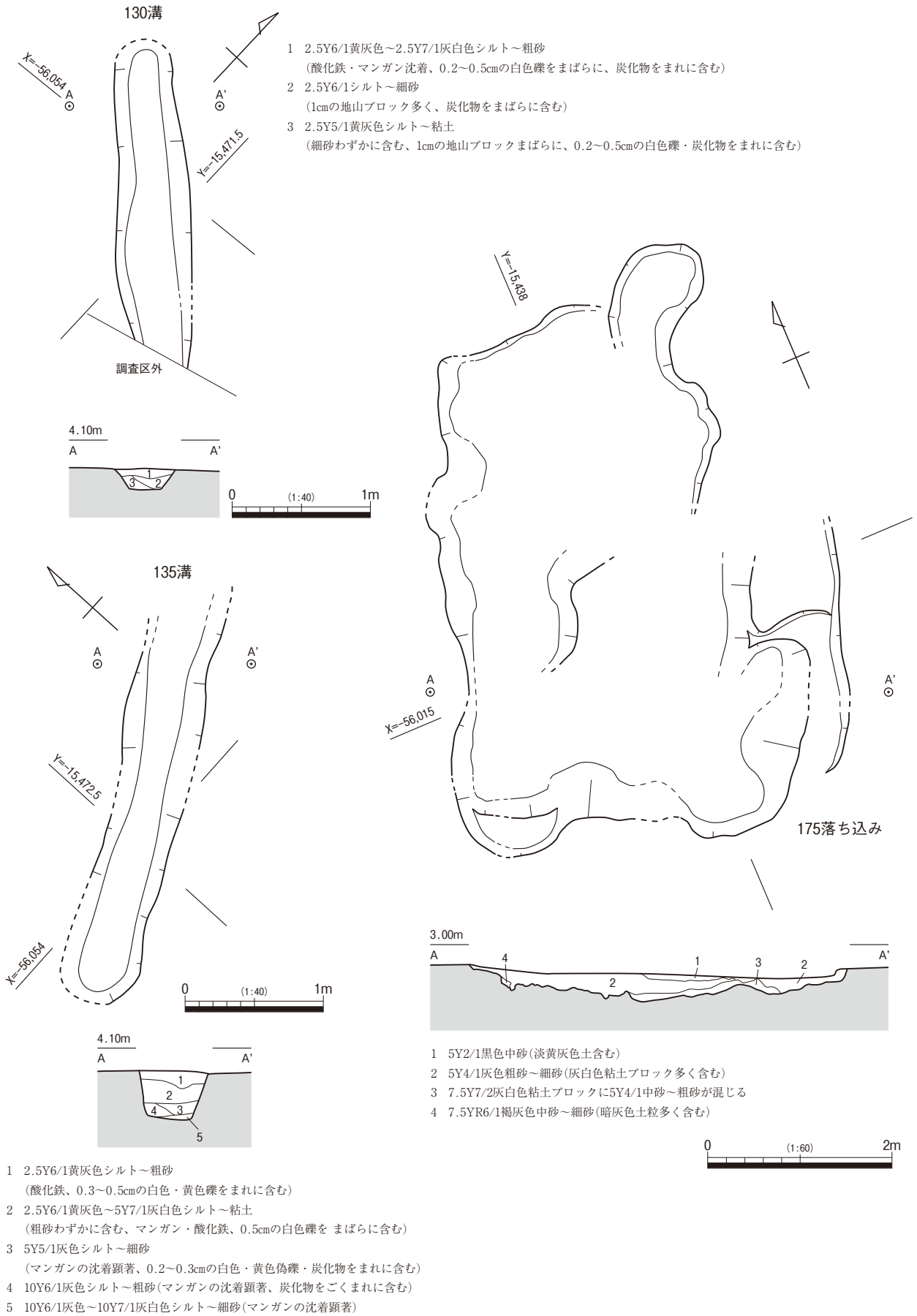
3-2a層下面遺構及び3-2a層出土遺物

3-2a層下面遺構の遺物に1土坑などで古墳時代前期の低脚杯の破片が認められたが、下層から巻き上げられて混入したものである。また、3-2a層中からは下層からの混入である弥生時代後期後葉から古墳時代前期の土器が多く出土するが、古墳時代後期の須恵器杯51・52や甕なども一定量認められ

第4章 平成23年度の調査成果

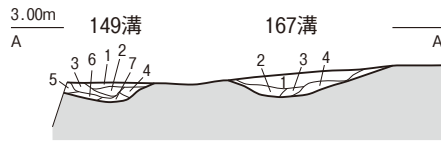
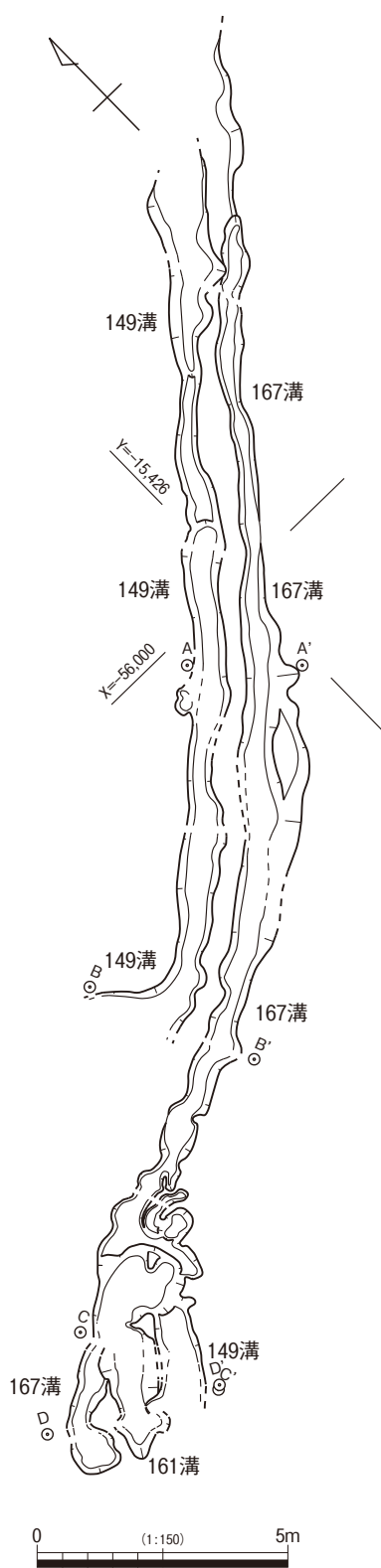


第34図 60・88・108・129溝



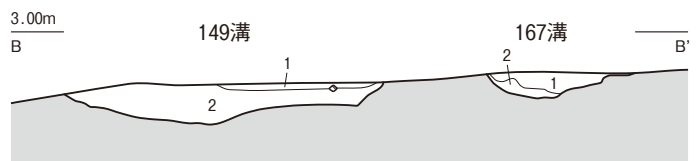
第35図 130・135溝、175落ち込み

第4章 平成23年度の調査成果



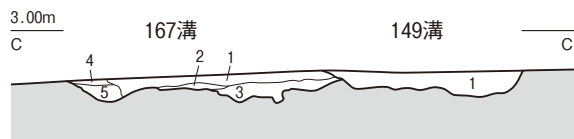
- 149溝
- 1 2.5Y4/1~7/2シルト~細砂(灰白色細砂ブロックまばら、木質遺物含む)
 - 2 2.5Y4/1細砂まじりシルト~粘土(炭化物ごくまれに含む)
 - 3 5Y5/1~2.5Y5/2シルト~細砂(0.5cm灰白色粘土ブロック、炭化物ごくまれに含む)
 - 4 10Y7/1~2.5GY7/1シルト~細砂(1cm灰白色粘土ブロックまれに含む)
 - 5 5Y6/1~7.5Y7/1シルト~細砂(0.2~0.3cm白色礫まばらに含む)
 - 6 5Y4/1~3/1シルト~粗砂(灰白色粘土ブロック、炭化物まれに含む)
 - 7 5Y5/1~3/1シルト~細砂

- 167溝
- 1 2.5Y4/1~3/2シルト~粗砂(1~2cm灰白色粘土ブロックまれに含む)
 - 2 2.5GY8/1~5Y4/1シルト~粗砂(灰白色粘土・灰色土ブロック・木質遺物含む)
 - 3 2.5Y4/1~5Y4/1シルト~細砂(1cm灰白色粘土ブロック・細砂ブロックまばら)
 - 4 5Y5/1~10Y7/1シルト~細砂(2~3cm灰白色粘土ブロックまばら)



- 149溝
- 1 7.5YR6/1シルト~中砂(粗砂少量混)
 - 2 7.5YR5/1シルト~中砂(粗砂少量混、炭化物少量混)

- 167溝
- 1 7.5YR6/3粗砂~中砂
 - 2 7.5YR7/1シルト~中砂(やや粗砂混)



- 149溝
- 1 7.5YR4/1褐灰色細砂~中砂(灰白色、橙灰色粘土ブロック多く含む)

- 167溝
- 1 7.5YR4/1褐灰色~4/2灰褐色中砂~細砂(灰黄色土がやや互層状に入る)
 - 2 7.5YR5/2中砂~細砂(粘性帯びる)
 - 3 7.5YR4/2灰褐色~4/3褐色中砂~細砂(灰白色ブロック少量、粗砂多く含む)
 - 4 7.5YR7/1明褐灰色中砂~粗砂
 - 5 7.5YR7/2明褐灰色シルト~粘土(しまり良い、粗砂少量含む)



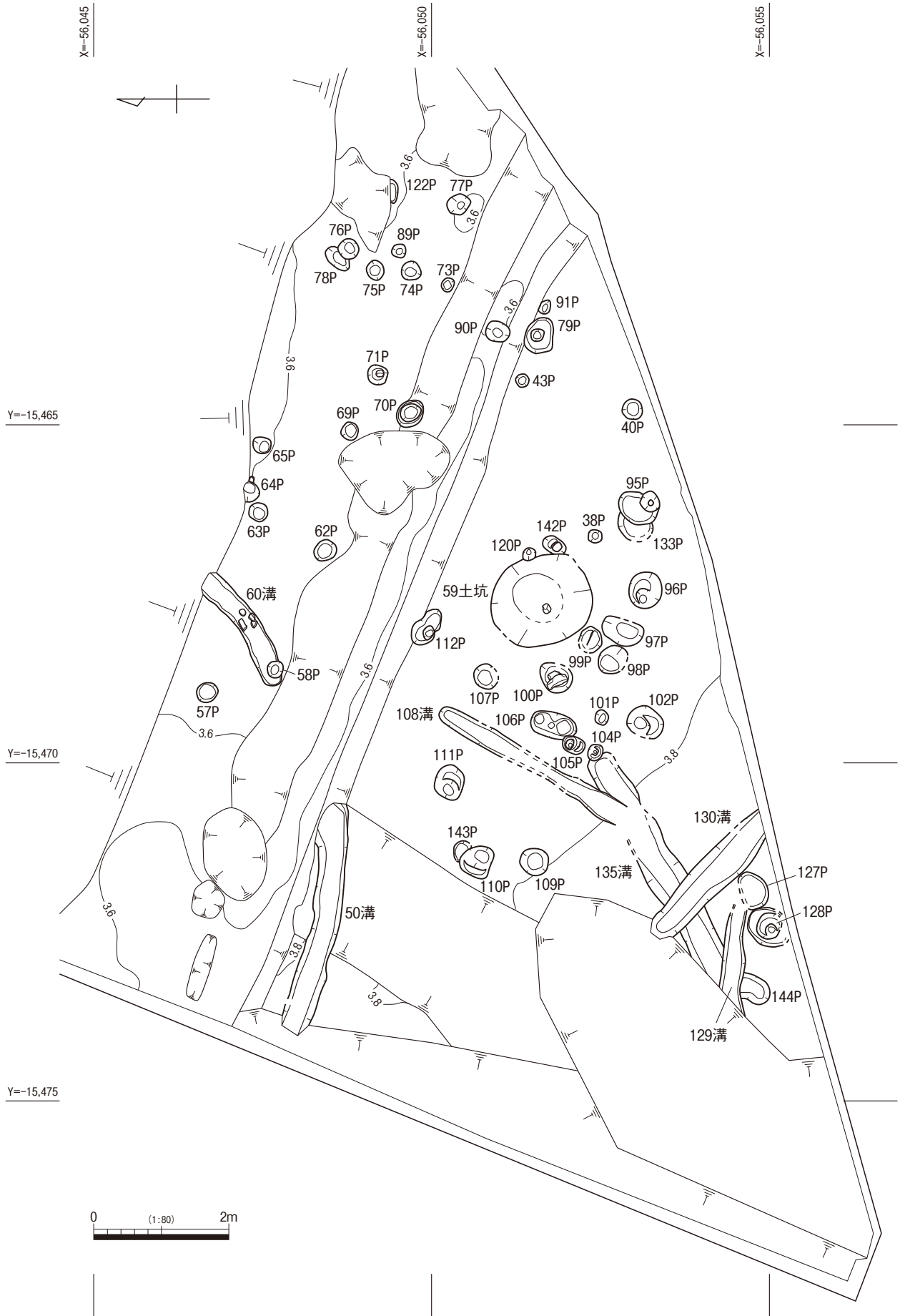
- 149溝
- 1 7.5YR7/2明褐灰色~7/4にぶい橙色シルト~中砂(粘性強)4層上層でスタンプ文鉢出土(P有)
 - 2 7.5YR7/1明褐灰色~7/2明褐灰色シルト~粘土(粗砂多く含む)

- 161溝
- 1 N4/灰色シルト~粗砂(灰色粘土ブロック多く含む)

- 167溝
- 1 7.5YR6/1褐灰色シルト~中砂(粗砂少量含む)
 - 2 7.5YR7/1明褐灰色シルト~粘土
 - 3 7.5YR4/1褐灰色シルト~中砂



第36図 149・161・167溝



第37図 1区南側4a層下面ピット

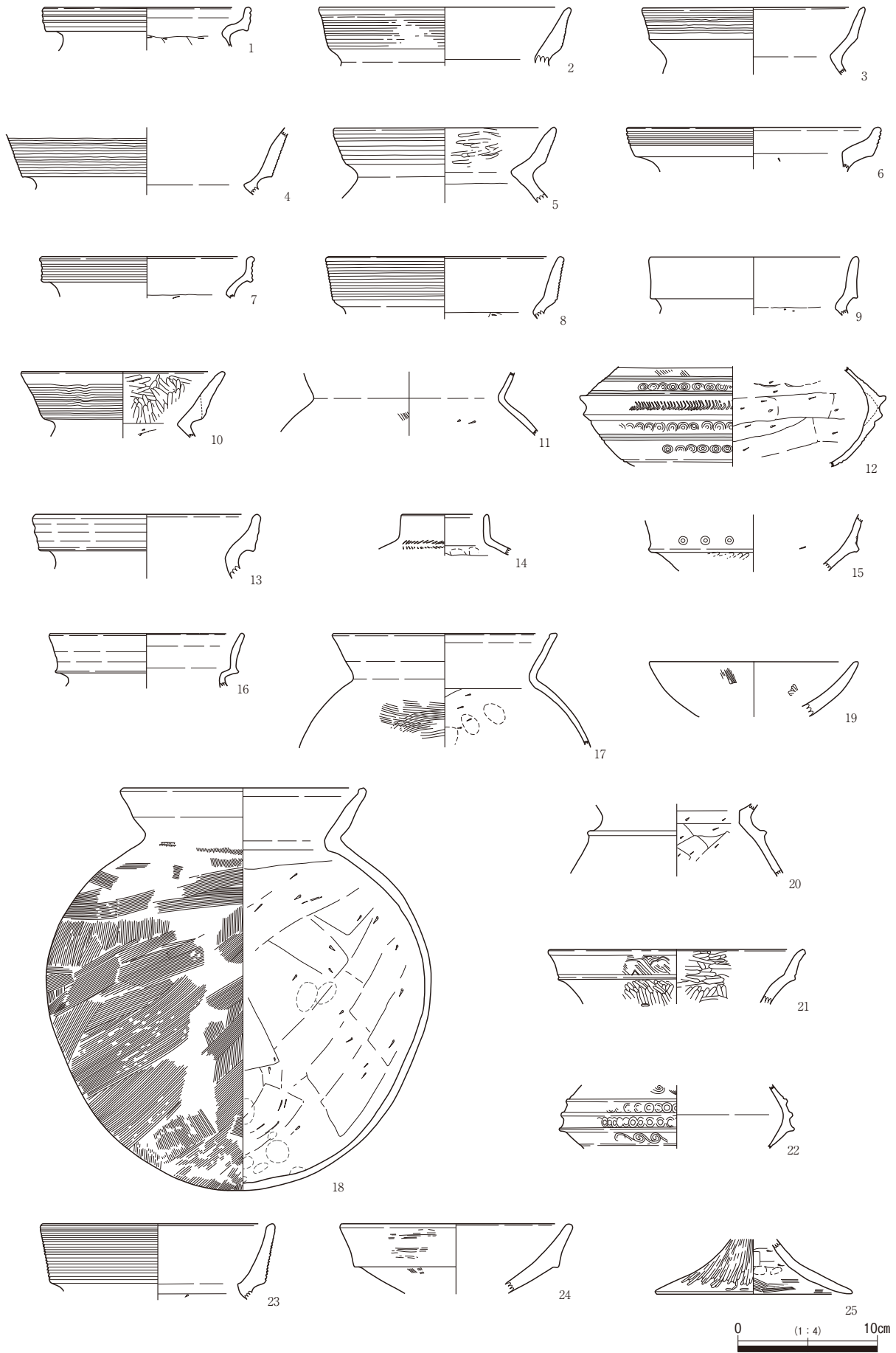
表2 1区4a層下面ピット表

番号	グリッド	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	主な埋土	備考
38	7f-1E-6g	20	19	13	灰色～灰白色シルト	
40	7f-1E-6g	30	28	20	黄灰色シルト～粘土	
43	7f-1E-6g	20	20	10	灰色～灰白色シルト～粗砂	
57	7f-1E-5g	33	28	22	灰色～灰白色シルト～粘土	
58	7f-1E-5g	26	23	13	灰色～灰白色シルト～粘土	
62	7f-1E-5g	34	30	23	灰色シルト	
63	7f-1E-5g	28	28	30	上層：灰色シルト～粗砂 下層：灰白色～灰色シルト～粘土	
64	7f-1E-5g	30	—	20	灰白色シルト～粘土	
65	7f-1E-5g	26	24	32	灰色粘土～シルト	
69	7f-1E-5g	26	25	11	灰色～灰白色シルト	
70	7f-1E-5g	45	36	24	上層：灰色シルト～粗砂 下層：灰色粘土～シルト	
71	7f-1E-5g	30	28	18	灰色～灰白色シルト～細砂	礎盤石？礫1点出土
73	7f-1E-6g	20	17	7	灰色粘土～細砂	
74	7f-1E-5g	27	26	32	上層：灰色～灰白色シルト～粗砂 下層：黄灰色～灰白色シルト～粘土	
75	7f-1E-5g	27	27	12	灰色シルト～粘土	
76	7f-1E-5g	30	30	17	灰色シルト	
77	7f-1E-6g	35	30	26	灰色シルト～粘土	
78	7f-1E-5g	43	24	8	灰色～灰白色シルト	
79	7f-1E-6g	50	44	23	灰色～灰白色シルト～細砂	
89	7f-1E-5g	21	21	16	灰色シルト～粘土	
90	7f-1E-6g	35	30	33	灰色粘土～粗砂	
91	7f-1E-6g	23	15	12	灰色～灰白色シルト～細砂	
95	7f-1E-6g	60	49	12	灰白色～灰色シルト～細砂	
96	7f-1E-6g	55	49	34	灰白色シルト～細砂	
97	7f-1E-6g	53	38	20	上層：灰色～灰白色シルト～粘土 下層：灰白色～灰色シルト～粗砂	
98	7f-1E-6g	47	40	42	上層：灰色～黄灰色シルト～細砂 下層：黄灰色～灰白色細砂～粘土	
99	7f-1E-6g	35	34	18	灰色～黄灰色シルト～細砂	
100	7f-1E-6g	52	44	23	上層：灰白色シルト～細砂 下層：黄灰色～灰白色シルト	礎盤石？礫3点出土
101	7f-1E-6g	21	20	26	上層：灰色～黄灰色シルト～粘土 灰色シルト～細砂	
102	7f-1E-6g	54	—	36	灰白色シルト～細砂	
104	7f-1E-6g	25	20	16	灰色～灰白色シルト	
105	7f-1E-6g	33	25	25	上層：灰色～灰白色シルト 下層：灰色粘土～粗砂	
106	7f-1E-6g	60	38	18	黄灰色シルト～細砂	

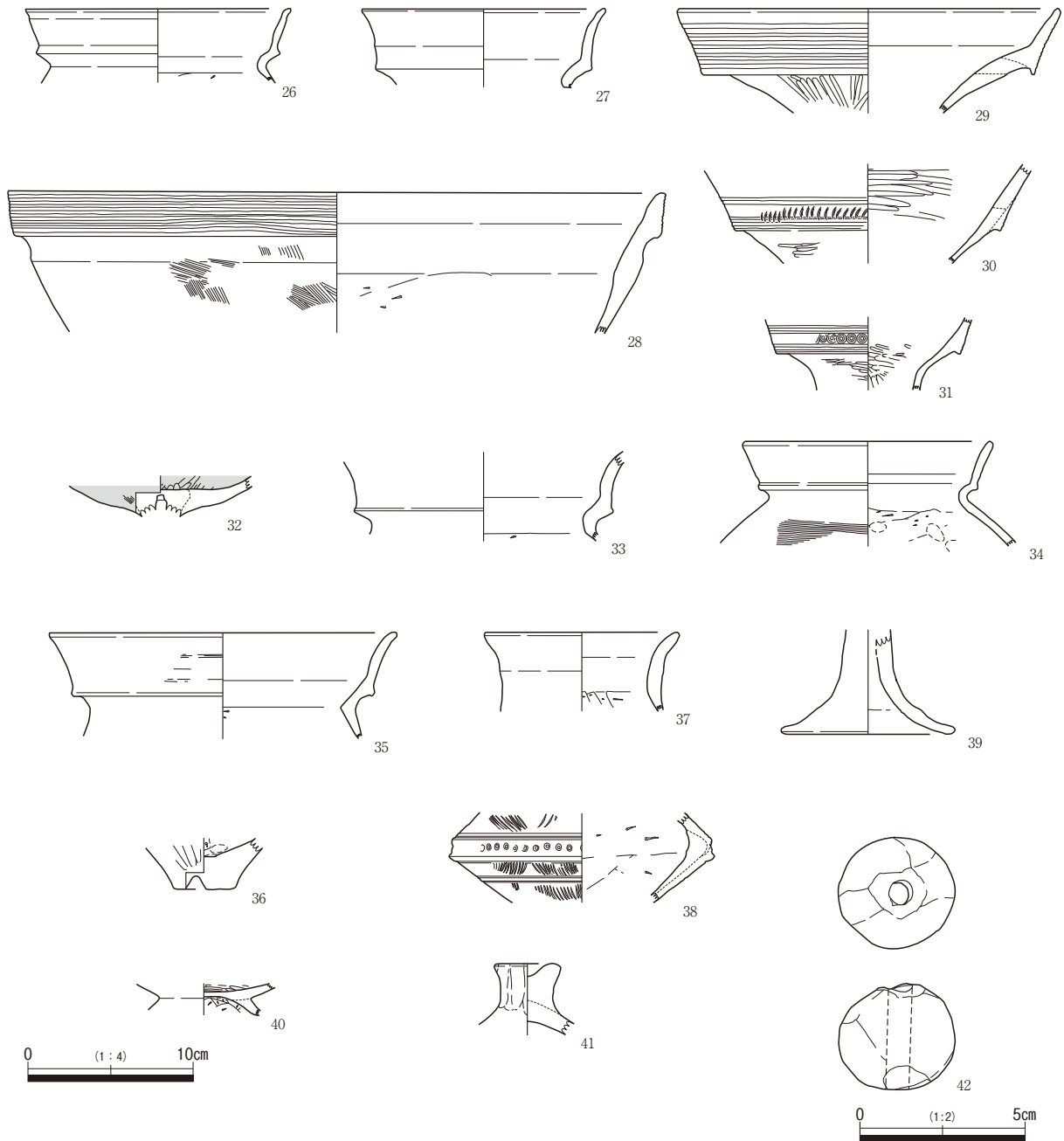
表2 1区4a層下面ピット表

番号	グリッド	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	主な埋土	備考
107	7f-1E-6g	38	35	26	灰色～灰白色シルト～細砂	
109	7f-1E-6h	42	40	12	黄灰色シルト～細砂	
110	7f-1E-6h	48	45	26	灰色細砂～シルト	
111	7f-1E-6h	51	41	30	灰色シルト～細砂	
112	7f-1E-5g	60	30	58	上層：灰色粘土～細砂 下層：灰色シルト～粘土	
115	7f-1E-2f	38	35	10	黄灰色細砂～シルト	
119	7f-1E-2f	32	29	8	黄灰色シルト～粘土	
120	7f-1E-6g	18	18	16	灰色～灰白色シルト～粘土	
122	7f-1E-5g	35	—	10	黄灰色シルト～粘土	
127	7f-1E-6h	56	—	12	黄灰色シルト～粘土	
128	7f-1E-6h	56	—	40	灰色シルト～粗砂	
133	7f-1E-6g	52	—	13	灰白色シルト～細砂	
142	7f-1E-6g	36	24	26	上層：灰白色シルト～粘土 下層：灰色シルト～粗砂	
143	7f-1E-6h	31	—	16	上層：灰色～灰白色シルト～粘土 下層：灰白色～灰色シルト～細砂	
144	7f-1E-6h	—	37	17	黄灰色～灰白色シルト～細砂	
155	7f-1E-3g	28	24	11	黄灰色～灰色シルト～粘土	
158	6f-10E-8c	38	30	16	灰色シルト～細砂	
162	6f-10E-7c	53	47	21	灰色シルト～細砂	
176	6f-10E-6c	29	27	17	灰色～オリーブ黒色細砂～シルト	
177	6f-10E-6c	41	41	14	灰色シルト～細砂	

第4章 平成23年度の調査成果



第38図 1区4a層下面遺構出土土器



第39図 1区4a層下面遺構出土遺物

る。

4a層下面遺構及び4a層出土遺物

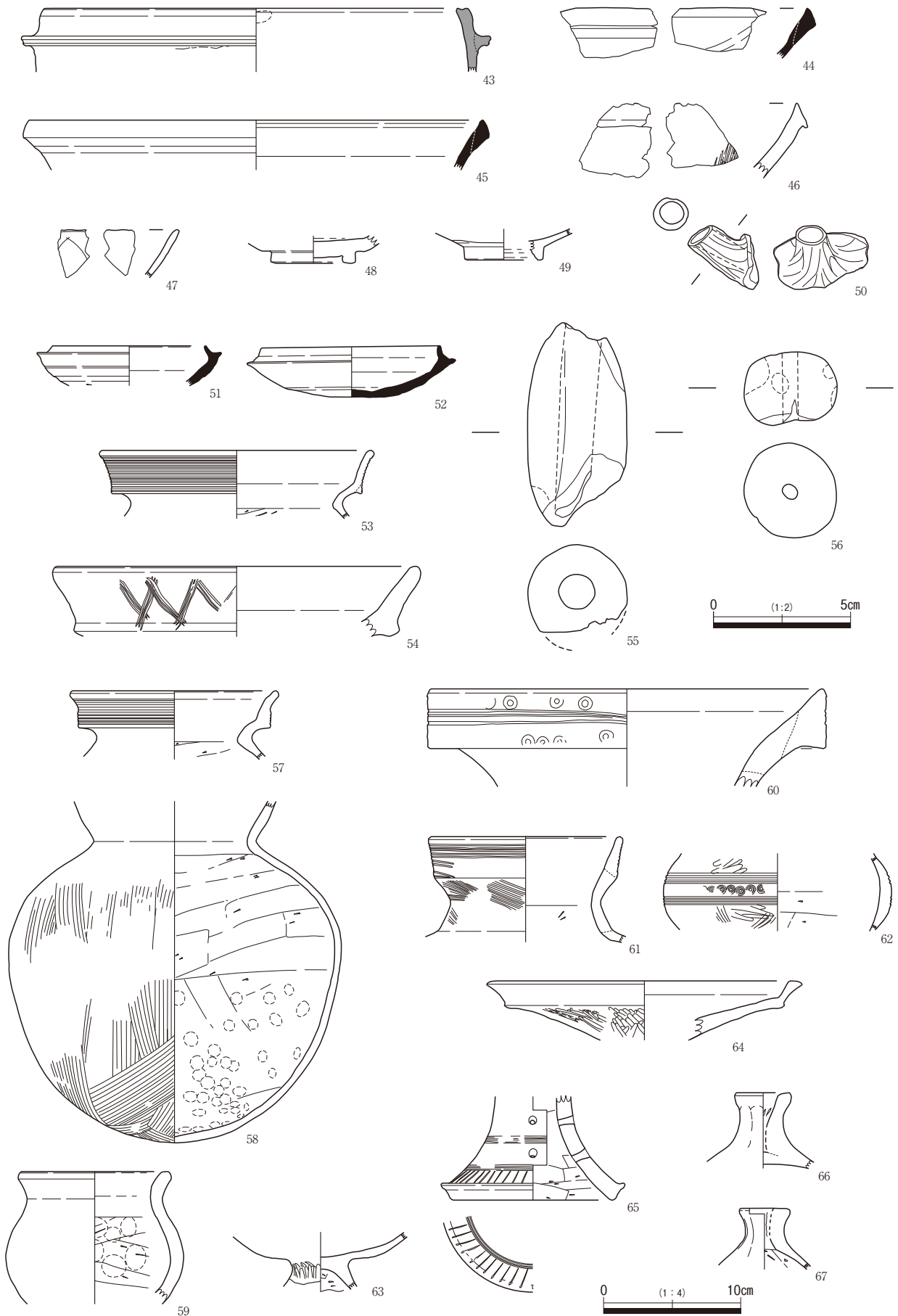
4a層下面遺構からは第38・39図のとおり、弥生時代後期から古墳時代前期の土器が主に認められる。このうち弥生土器は甕の破片のほか、スタンプ文等が施された台付壺や器台などの破片も多く認められる。また、4a層中遺物も同様の傾向を示すが、65など中期後葉の器台脚部も認められた。

層位不明遺物

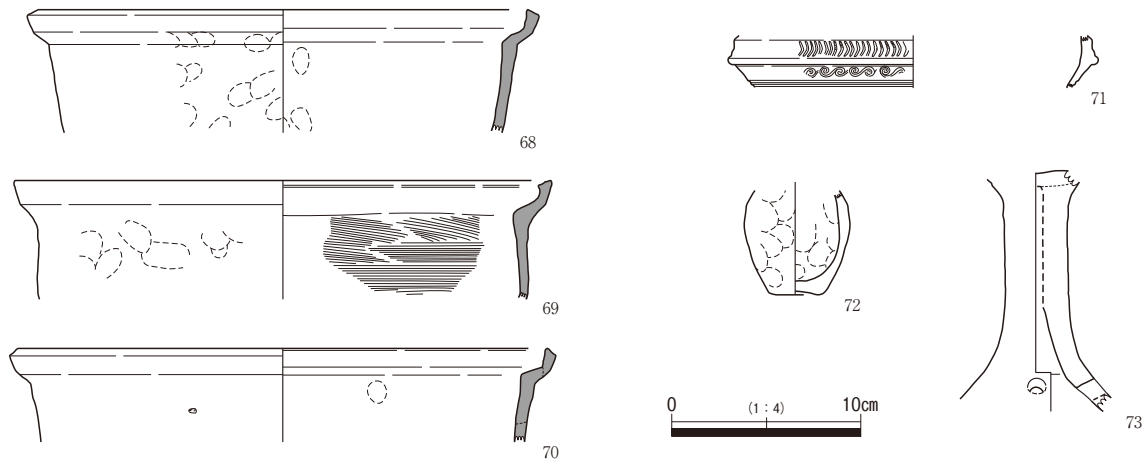
トレンチ掘削時等に出土したため、出土層位は2a～4a層のいずれに帰属するか不明であるが、第41図の遺物が出土した。土器類では68～70は瓦質の鍋、71は弥生時代後期の壺、73は弥生時代後期の高坏、72は弥生時代中期の壺のミニチュアなどがある。

(2) 石器

下層から巻き上げられた石器が表土、及び2a～4a層中から出土する。石鏃S1、石包丁S2・S3、磨



第40図 1区包含層出土遺物



第41図 1区包含層出土土器

製石斧、およびその未成品であるS4～S7、敲石S9などのほか、緑色凝灰岩の分割礫S8などが認められた。

(3) 木製品

出土木製品では、3-2a層下面遺構の2土坑から、端部を有頭状にわずかに加工し、その下位を斜めに削って加工した垂木とみられる建築部材W1が1点出土したほか、3-2a層中からは片側の側面に削り加工や、柄穴を数か所を穿った板状木製品W5～W8が出土する。

また4a層下面遺構から出土したものでは、81土坑から先端部を3方向から削った杭W3、169土坑から建築部材の可能性のある板状木製品W2、平面舟形で短軸断面山形に盛り上げた蓋とW4があるほか、4a層中からは、小舞と思われる建築部材W9、幅6.2cmで断面台形状に加工した斧台座と思われるW10、先端部を有頭状に加工するW11・W12、両側面2ヵ所ずつ抉りを入れた田下駄W13などが出土する。

第7節 平成23年度確認調査

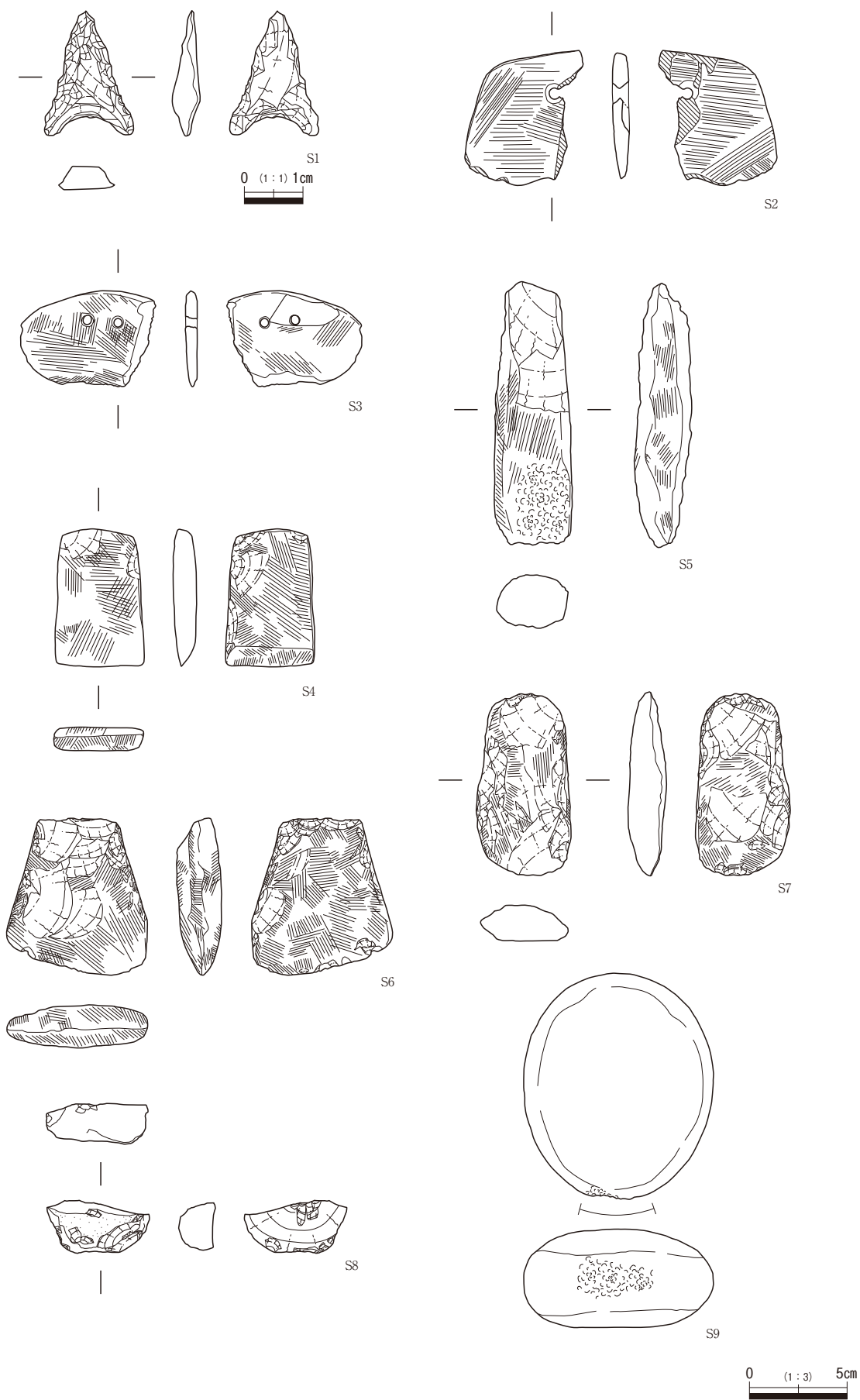
確認調査は1区内に8×8mの3G、2区内に14×14mの1G、10×10mの2Gの計3調査区を設定した。

調査地東側、谷の肩口に設定した1Gでは、現耕作土下面、2層下面で溝、土坑など遺構を確認した。また、出土遺物の年代から129層の堆積は弥生時代中期頃、2層堆積は古墳時代後期から終末期頃と思われるが、弥生時代中期は土器の出土状況から付近に居住地が、古墳時代後期から終末期頃は須恵質の切妻式家形陶棺片が出土するなど付近に古墳の存在が予想される。

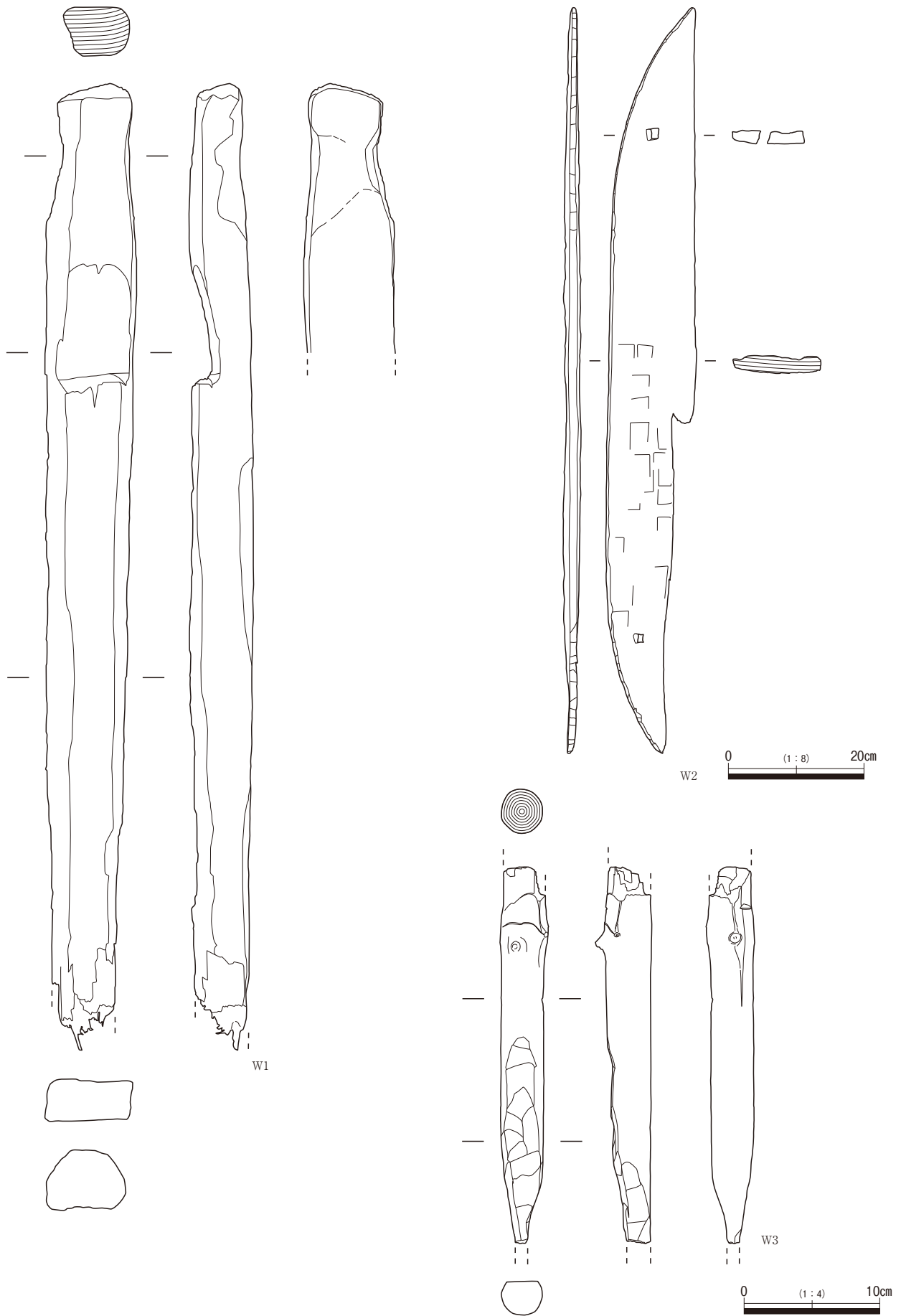
2G・3Gは、ほとんどはシルトと細砂～粗砂の互層であった。確認調査での掘削深度では、谷内の流水に伴い堆積したと判断されるが、3Gではこれらの堆積層が土壌化した層の下面でピット、擬似畦畔、2Gでは現耕作土、土壌化層下面でピット、足跡、溝が確認されたほか、陶器、縄文土器片などの遺物もわずかではあったが出土した。

(1) 1G

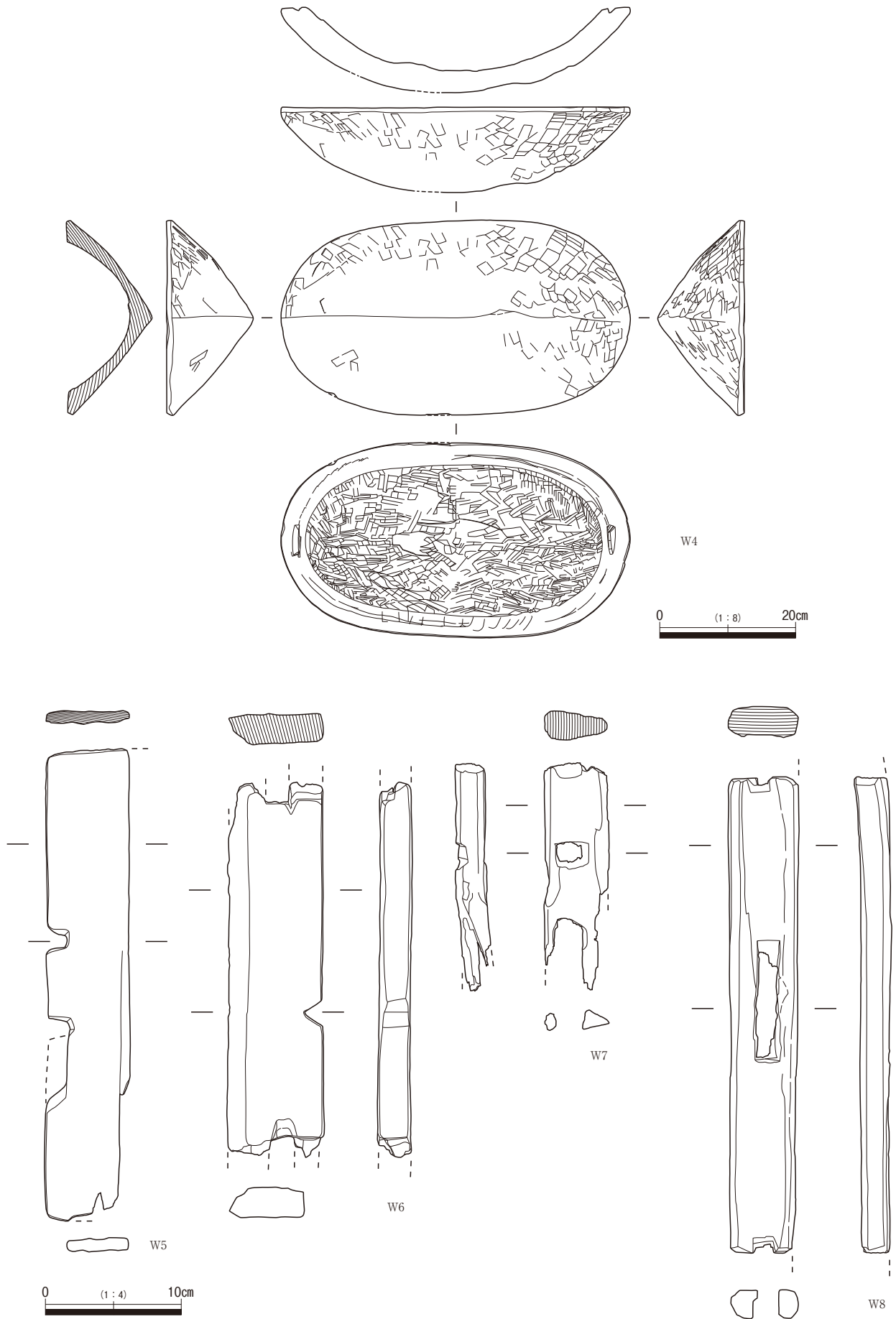
現耕作土直下で、土坑1基(1001土坑)、溝1条(1002溝)を検出した。いずれも南側にある平坦面上に位置し、溝は不定方向に屈曲する。



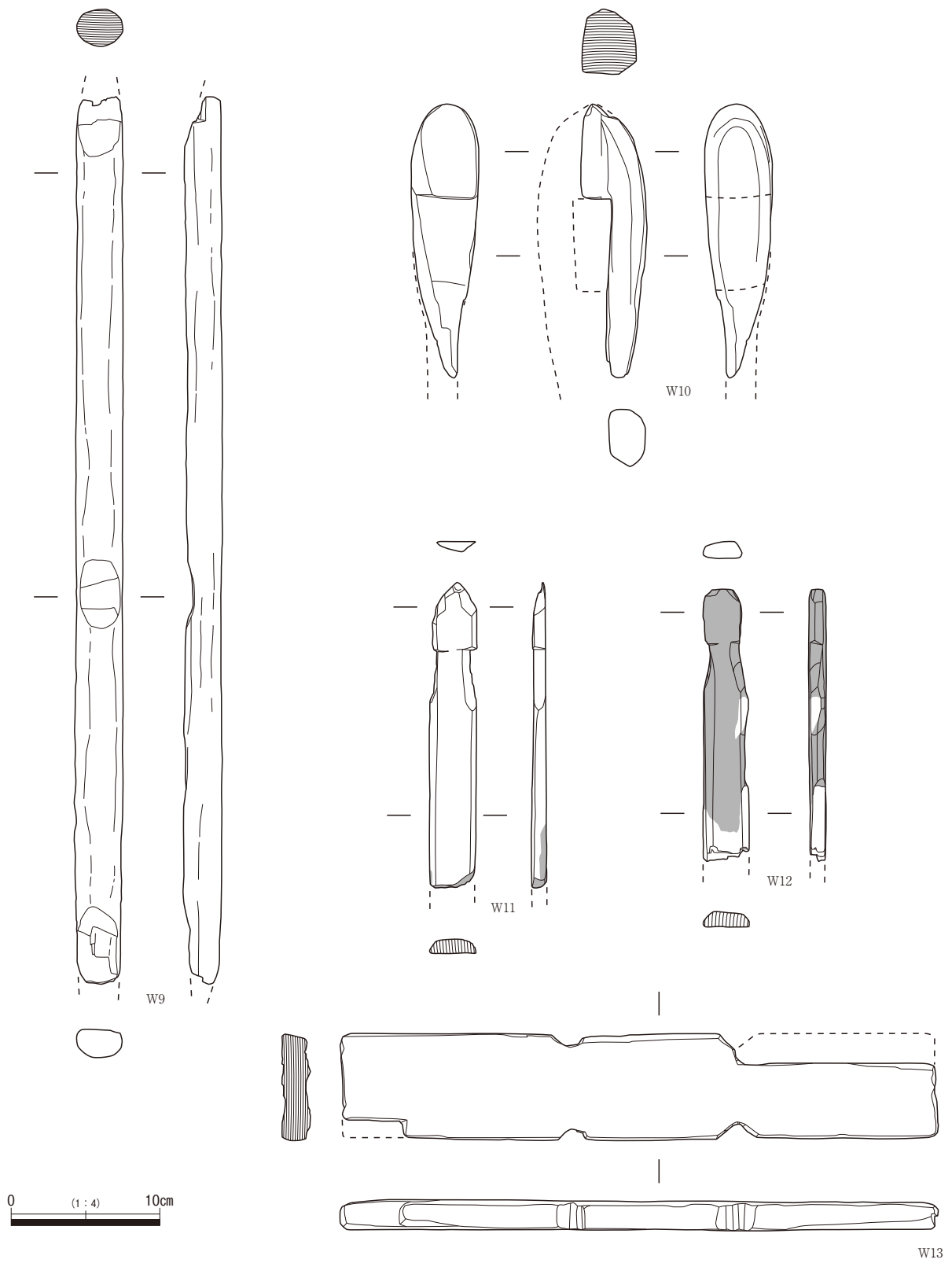
第42図 1区出土石器



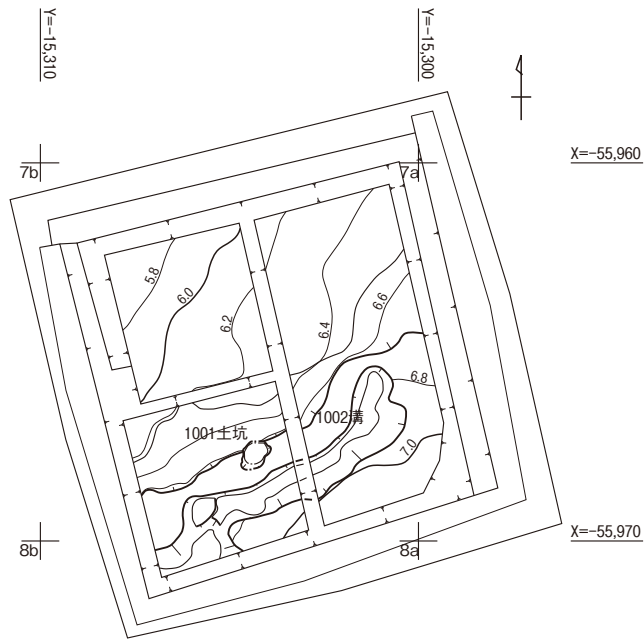
第43図 1区出土木製品1



第44図 1区出土木製品2



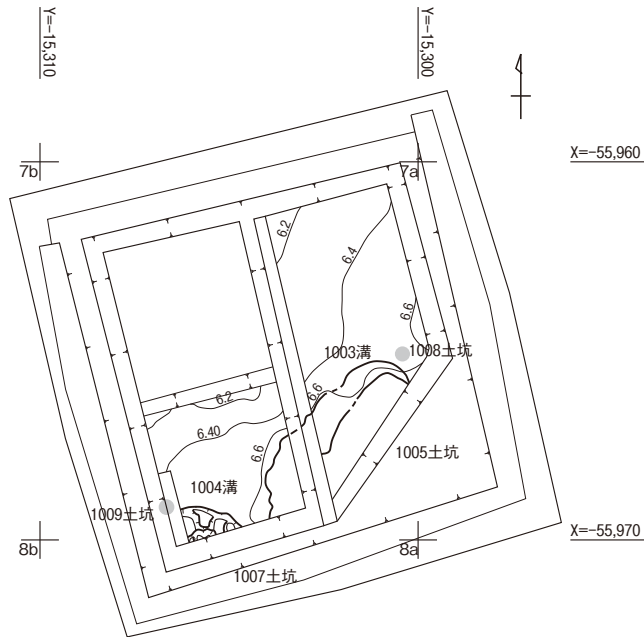
第45図 1区出土木製品3



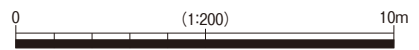
※第I区画から第II区画は「T23-6f」に属する。
 第III区画は「10C、10D」に属し、図面のIV区画名は10Dのみを表記した。



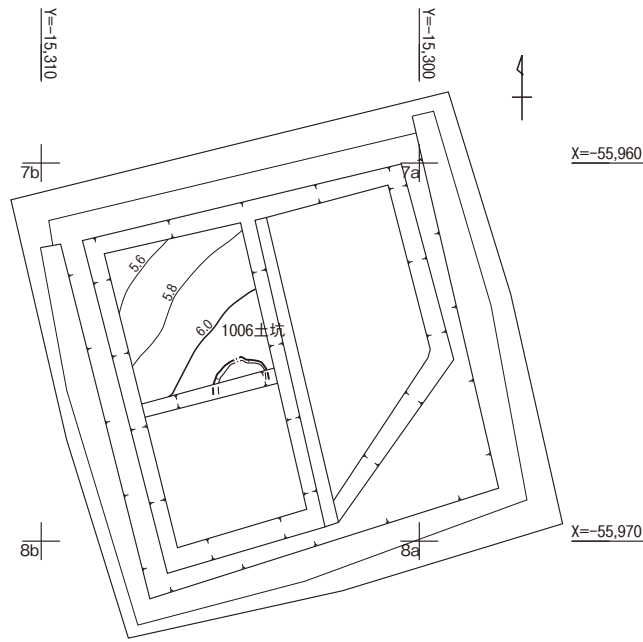
第46図 確認調査1G第1遺構面



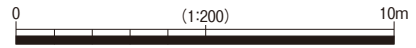
※第I区画から第II区画は「T23-6f」に属する。
 第III区画は「10C、10D」に属し、図面のIV区画名は10Dのみを表記した。



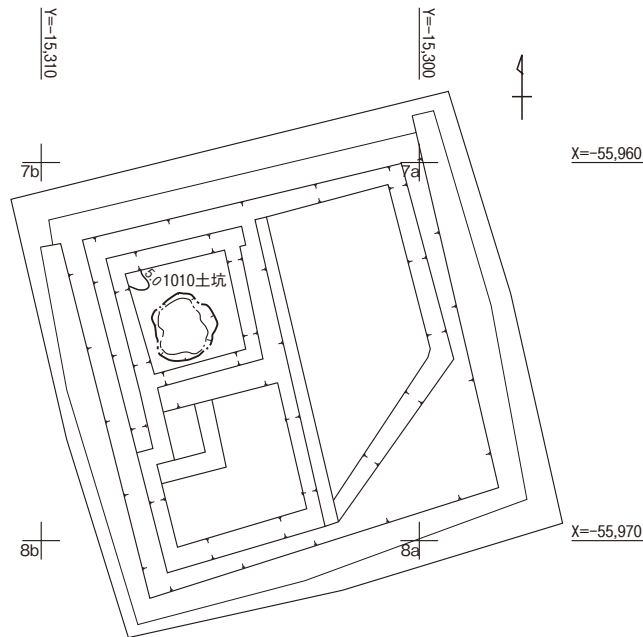
第47図 確認調査1G第2遺構面



※第I区画から第II区画は「T23-6f」に属する。
 第III区画は「10C、10D」に属し、図面のIV区画名は10Dのみを表記した。



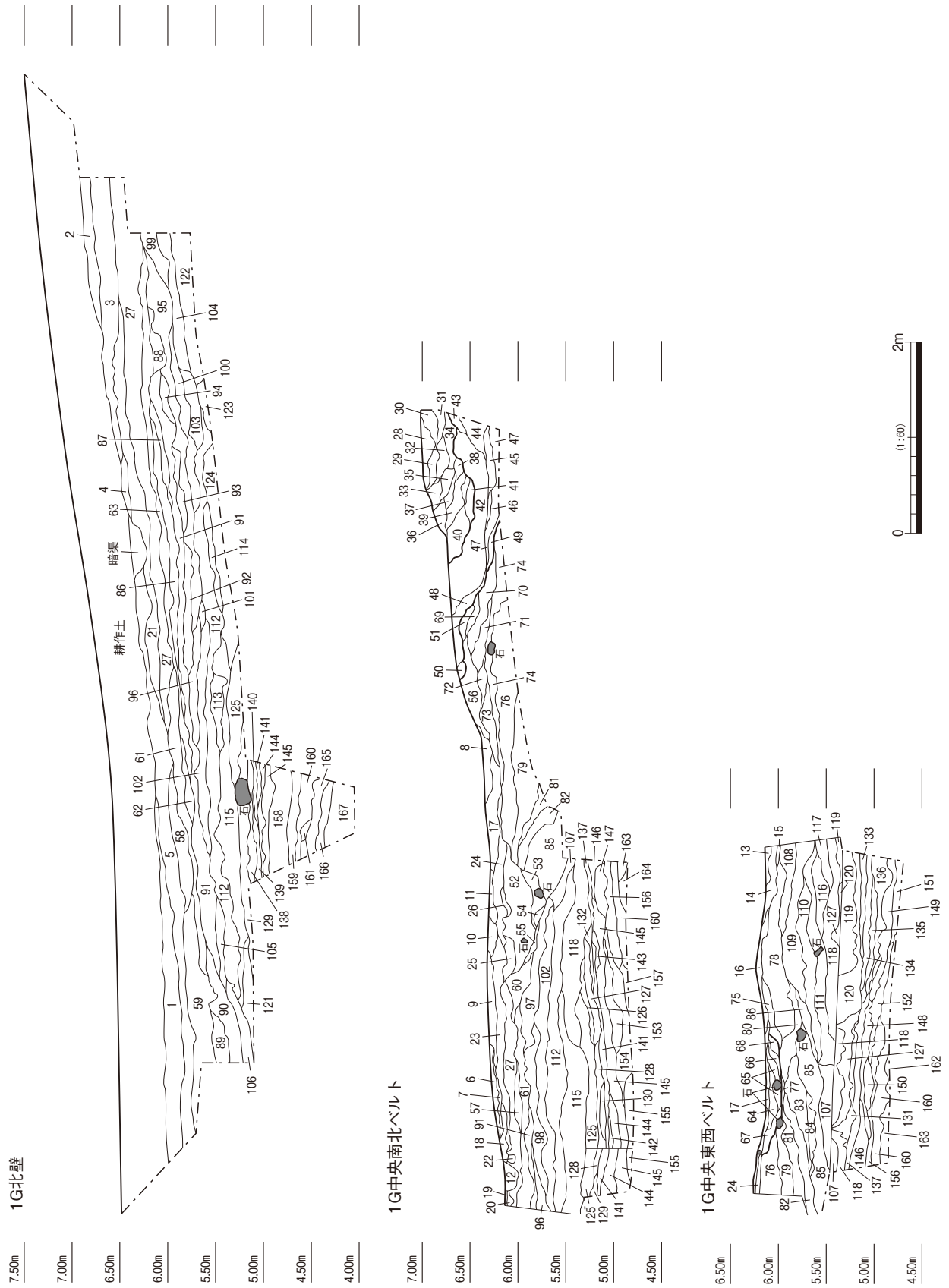
第48図 確認調査1G第3遺構面



※第I区画から第II区画は「T23-6f」に属する。
 第III区画は「10C、10D」に属し、図面のIV区画名は10Dのみを表記した。



第49図 確認調査1G第4遺構面



第50図 確認調査1G北壁、中央ベルト土層断面図

第50図確認調査1G北壁、中央ベルト土層注記

- 1 5Y6/1灰色～5Y7/1灰白色シルト～細砂(0.2～1cmの白色礫を多く、炭化物をまばらに含む)
- 2 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y6/1黄灰色シルト～粘土(細砂わずかに含む、0.2～0.5cmの白色礫・炭化物をまばらに含む)
- 3 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y5/1黄灰色シルト～細砂(0.2～1cmの白色礫をまばらに含む、灰白色細砂ブロック・炭化物をまばらに含む)
- 4 2.5Y5/1黄灰色～5Y6/1灰色シルト～細砂(0.2～0.5cmの白色礫をまばらに含む)
- 5 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y6/1黄灰色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、0.2～1.5cmの白色礫を多く含む)
- 6 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y5/1黄灰色シルト～細砂(0.2～0.5cmの白色偽礫をまばらに含む)
- 7 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y4/1黄灰色シルト～細砂(細砂ブロック・炭化物をまばらに含む)
- 8 2.5Y4/2暗灰黄色～2.5Y4/1黄灰色シルト～細砂(0.2cmの白色礫・炭化物・木質遺物をまばらに含む)
- 9 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y5/1黄灰色シルト～細砂(炭化物・0.2～0.5cmの白色偽礫をまばらに含む)
- 10 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y4/2暗灰黄色シルト～細砂(細砂ブロック多く含む、木質遺物含む、ラミナあり)
- 11 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y5/1黄灰色シルト～粘土(細砂ブロックをまばらに含む)
- 12 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y4/2暗灰黄色シルト～細砂(細砂ブロック・0.2～0.5cmの白色礫をまばらに含む)
- 13 5Y5/1灰色～5Y4/2暗灰黄色シルト～粘土(木質遺物・炭化物を含む)
- 14 2.5Y4/1黄灰色～5Y5/1灰色シルト～粘土(細砂ブロックを多く含む)
- 15 5Y4/1灰色粘土～細砂(木質遺物を含む)
- 16 5Y5/1灰色シルト～粗砂(木質遺物を含む)
- 17 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y5/2暗灰黄色シルト～細砂(0.2～1cmの偽礫・木質遺物をまばらに含む)
- 18 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y4/1黄灰色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、細砂ブロック・炭化物をまばらに含む)
- 19 2.5Y5/1黄灰色～5Y7/1灰白色シルト～細砂
- 20 2.5Y4/2暗灰黄色～2.5Y5/1黄灰色シルト～細砂
- 21 10YR4/1褐灰色～2.5Y4/1黄灰色粘土～細砂(0.5～2cmの白色礫・炭化物をまばらに含む)
- 22 2.5Y4/1黄灰色～5Y5/1灰色シルト～粘土(細砂わずかに含む)
- 23 5Y5/1灰色～5Y4/1灰色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、炭化物・木質遺物を含む)
- 24 5Y5/1灰色～5Y4/1灰色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、0.2～0.5cmの白色偽礫・炭化物をまばらに含む)
- 25 5Y4/1灰色～5Y3/1オリーブ黒色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、炭化物をまばらに含む)
- 26 5Y5/1灰色～5Y5/2灰オリーブ色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、木質遺物を含む)
- 27 2.5Y4/2暗灰黄色～2.5Y5/1黄灰色粘土～細砂(粗砂わずかに含む、細砂ブロック・1cmの白色礫・炭化物をまばらに含む)
- 28 2.5Y4/2暗灰黄色～2.5Y5/2暗灰黄色シルト～粘土(細砂わずかに含む、0.2～0.5cmの白色礫をまばらに含む)
- 29 2.5Y4/2暗灰黄色～2.5Y6/1黄灰色シルト～細砂(細砂ブロックをまばらに含む)
- 30 2.5Y4/2暗灰黄色～2.5Y4/1黄灰色シルト～細砂(0.2cmの白色偽礫・灰白色シルトブロックをまばらに含む、炭化物・木質遺物を含む)
- 31 2.5Y4/2暗灰黄色シルト～細砂(0.2cmの白色偽礫・灰白色シルトブロックをまばらに含む、炭化物を含む)
- 32 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y7/1粘土～シルト(灰白色細砂ブロックをまばらに含む・木質遺物を含む)
- 33 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y6/1黄灰色シルト～細砂(0.2cmの白色礫をまばらに含む)
- 34 5Y4/1灰色～2.5Y8/1灰白色細砂～シルト(0.2～0.5cmの白色偽礫・炭化物をまばらに含む、層上部に細砂の割合多い)
- 35 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y7/1灰白色粘土～シルト(灰白色細砂ブロックをまばらに含む、木質遺物を含む)
- 36 2.5Y5/2暗灰黄色～2.5Y4/1黄灰色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、木質遺物を含む)
- 37 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y3/1黒褐色シルト～細砂(粗砂わずかに含む)
- 38 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y6/1黄灰色シルト～細砂(粗砂わずかに含む、1cmの明緑灰色シルトブロックを多く含む)
- 39 2.5Y3/1黒褐色～2.5Y5/1黄灰色粘土～細砂(0.2cm白色偽礫・細砂ブロックをまばらに含む、木質遺物含む)
- 40 2.5Y5/1黄灰色～5Y5/1灰色シルト～細砂(0.2～0.5cmの白色偽礫を多く、明緑灰色シルトブロック・炭化物をまばらに含む)
- 41 5Y4/1灰色～5Y5/1灰色シルト～粗砂(明緑灰色シルトブロックを多く含む)
- 42 5BG7/1明青灰色～5GY7/1明オリーブ灰色粘土～シルト(細砂ブロック・灰色土ブロック・0.2～0.5cmの白色偽礫をまばらに含む)
- 43 2.5Y4/1黄灰色～5Y4/1灰色シルト～細砂(0.2～0.5cmの白色礫・明緑灰色シルトブロックをまばらに含む、木質遺物を含む)
- 44 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y3/1黒褐色シルト～細砂(木質遺物・炭化物を含む)
- 45 10BG7/1明青灰色～10GY7/1明緑灰色シルト～粘土(灰色土ブロック・木質遺物を含む)
- 46 2.5Y3/1黒褐色シルト～細砂(木質遺物を含む)
- 47 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y4/1黄灰色シルト～細砂(0.2cmの白色偽礫・炭化物をまばらに含む)
- 48 2.5Y3/1黒褐色～2.5Y4/1黄灰色シルト～細砂(灰白色細砂ブロックを多く、0.2cmの白色偽礫・木質遺物をまばらに含む)
- 49 5Y3/1オリーブ黒色～5Y3/2オリーブ黒色シルト～細砂(灰白色細砂ブロック・木質遺物・炭化物をまばらに含む)
- 50 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y5/2暗灰黄色シルト～細砂(0.2cm白色偽礫・炭化物をまばらに含む)
- 51 2.5Y3/2黒褐色粘土～細砂(細砂ブロック・炭化物をまばらに含む)
- 52 5Y4/1灰色～5Y5/2灰オリーブ色粘土～シルト(粗砂わずかに含む、黒褐色土ブロック多く、0.2～0.5cmの白色偽礫をまばらに含む)
- 53 5Y5/1灰色～5Y4/2灰オリーブ色粘土～細砂(灰白色細砂ブロック・0.2～1cmの白色礫・炭化物をまばらに含む、拳大の礫を含む)
- 54 5Y6/1灰色～5Y5/1灰色細砂～シルト(0.2～0.5cmの偽礫を多く、暗灰黄色土ブロックをまばらに含む)
- 55 5Y5/1灰色～7.5Y5/1灰色粘土～シルト
- 56 2.5Y5/2暗灰黄色～2.5Y7/1灰白色シルト～細砂(0.2～2cmの白色礫を多く、炭化物をまばらに含む)
- 57 2.5Y5/1黄灰色～5Y5/1灰色シルト～細砂
- 58 5Y5/1灰色～2.5Y6/1黄灰色粘土～細砂(0.2～0.5cmの白色礫・炭化物をまばらに含む)
- 59 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y5/1黄灰色細砂まじり粘土～シルト(0.2～1cmの白色偽礫をまばらに含む)
- 60 7.5Y4/1灰色～5Y5/1灰色粘土～シルト(0.2～0.5cmの偽礫をまばらに含む)
- 61 2.5Y4/1黄灰色～5Y5/1灰色粘土～細砂(浅黄色シルトブロックをまばらに、細砂ブロック・0.2～1cmの白色礫・炭化物をまばらに含む)
- 62 2.5Y4/1黄灰色シルト～粘土(灰白色細砂ブロックを多く、炭化物をよくまばらに含む)
- 63 5Y5/1灰色～2.5Y3/2オリーブ黒色シルト～粗砂(0.2～0.5cmの白色礫をまばらに含む)
- 64 5Y5/2灰オリーブ色～5Y5/1灰色シルト～細砂(細砂ブロックを多く含む、木質遺物を含む)
- 65 5Y4/1灰色～5Y5/1灰色シルト～細砂(細砂ブロック・0.5cmの偽礫・炭化物をまばらに含む、拳大の礫を含む)
- 66 5Y4/1灰色～5Y5/1灰色粘土～細砂(炭化物をまばらに含む)
- 67 5Y4/1灰色～5Y5/1灰色シルト～粘土(細砂わずかに含む、0.2cmの白色偽礫・炭化物をまばらに含む)
- 68 5Y5/1灰色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、炭化物をまばらに含む)
- 69 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y8/1灰白色粘土～細砂(細砂ブロック・木質遺物を含む)
- 70 2.5Y3/1黒褐色～2.5Y8/1灰白色シルト～細砂(細砂ブロック多く、炭化物をまばらに含む)
- 71 10Y7/1灰白色～2.5Y5/1黄灰色シルト～細砂(灰白色細砂ブロックを多く含む、0.2cmの白色礫・炭化物をまばらに含む)
- 72 2.5Y5/2暗灰黄色シルト～細砂(炭化物をよくまばらに含む)
- 73 2.5Y4/2暗灰黄色～2.5Y5/1黄灰色シルト～細砂(0.2～0.5cmの偽礫・細砂ブロック・炭化物をまばらに含む)
- 74 5Y4/1灰色～5Y5/1灰色シルト～細砂(灰白色細砂ブロック・炭化物をまばらに含む)
- 75 5Y5/1灰色～5Y5/2灰オリーブ色シルト～細砂(0.2～0.3cmの白色偽礫を多く含む、炭化物・木質遺物を含む)
- 76 5Y5/1灰色～5Y3/1オリーブ黒色シルト～細砂(灰白色細砂ブロック・0.2～0.5cmの白色偽礫・炭化物をまばらに含む)
- 77 5Y5/1灰色～5Y3/2オリーブ黒色シルト～細砂(灰色粘土ブロック・0.5cmの白色礫をまばらに含む)
- 78 5Y5/1灰色～5Y4/2灰オリーブ色粘土～シルト(暗褐色土ブロックを多く含む、0.2～0.5cmの白色礫をまばらに、炭化物をまばらに含む)
- 79 2.5Y4/1黄灰色～5Y5/2灰オリーブ色粘土～細砂(1cmの白色礫・明青灰色粘土ブロック・炭化物をまばらに含む)
- 80 2.5Y5/1黄灰色～5Y5/1灰色粘土～シルト(0.2～0.5cmの白色偽礫をまばらに、炭化物・細砂ブロックをまばらに含む)
- 81 2.5Y4/1黄灰色～5Y4/1灰色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、炭化物・灰白色粘土ブロックをまばらに含む)
- 82 10GY7/1明緑灰色～2.5Y5/2暗灰黄色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、0.2～1cmの白色偽礫をまばらに、炭化物をまばらに含む)
- 83 5GY7/1明オリーブ灰色～7.5Y6/1灰色シルト～細砂(0.2～1cmの白色偽礫を多く、明青灰色粘土ブロック・炭化物をまばらに含む)
- 84 7.5Y6/2灰オリーブ色～7.5Y6/1灰色シルト～細砂(灰色粘土ブロック・0.5cmの白色礫・炭化物・木質遺物を含む)

第4章 平成23年度の調査成果

第50図確認調査1G北壁、中央ベルト土層注記

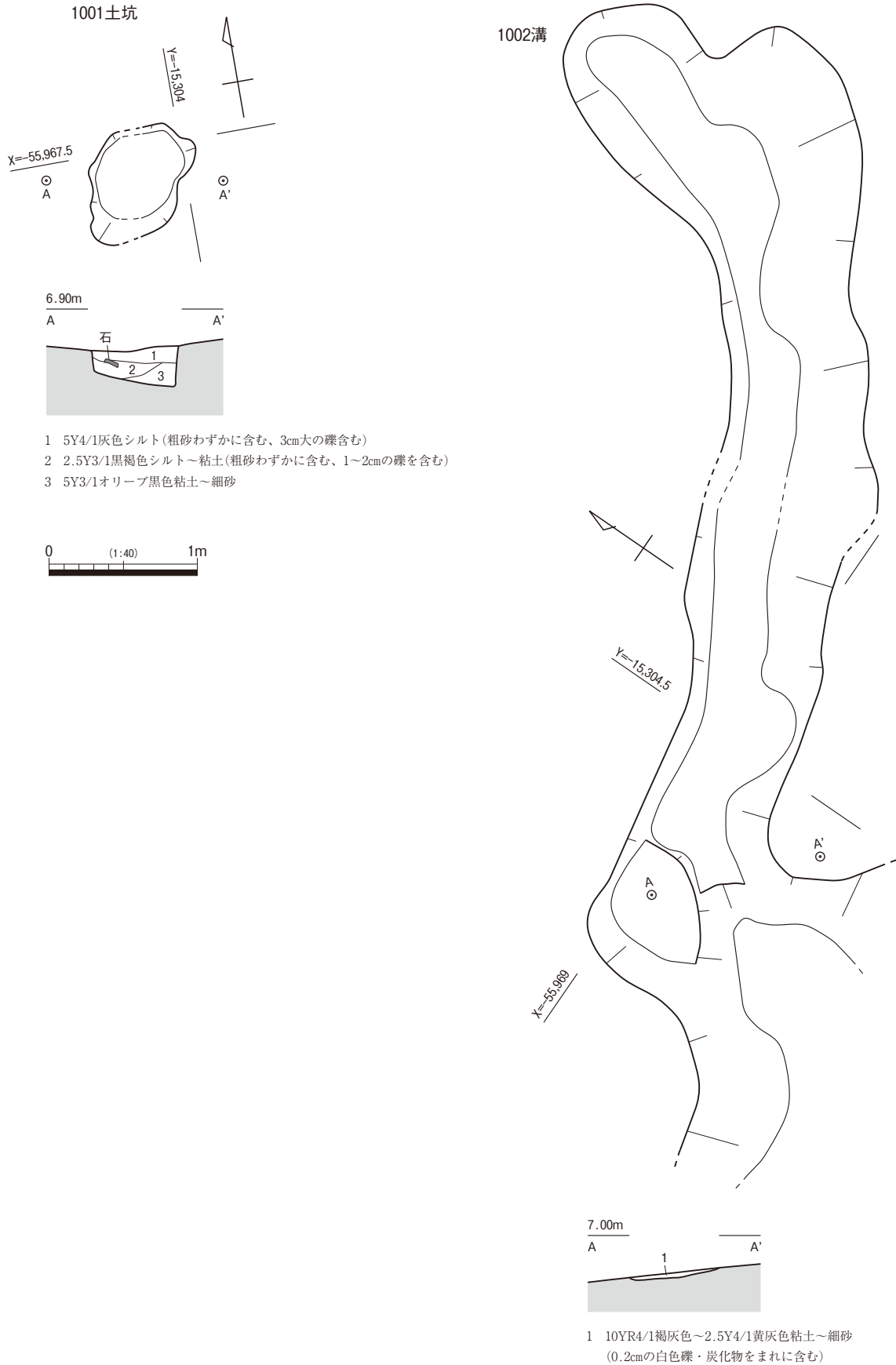
- 85 2.5GY7/1明オリブ灰色～2.5Y5/2暗灰黄色粘土～細砂(暗灰黄色土ブロック・0.2～0.5cmの白色偽礫をまばらに含む、15cmの礫を含む)
- 86 5Y5/1灰色～2.5Y5/1黄灰色シルト～細砂(0.2～0.5cmの礫・炭化物をまばらに含む)
- 87 2.5Y4/1黄灰色シルト～細砂(0.2cmの白色礫・炭化物をまばらに含む)
- 88 5Y4/1灰色～5Y5/1灰色シルト～細砂(0.2～0.5cmの白色礫をまばらに含む、炭化物・木質遺物を含む)
- 89 5Y3/1オリブ黒色～5Y4/1灰色粘土～シルト(粗砂わずかに含む、炭化物をごくまばらに含む)
- 90 5Y3/1オリブ黒色～5Y5/1灰色粘土～シルト(粗砂わずかに含む、細砂ブロック・炭化物を含む)
- 91 2.5Y4/1黄灰色～5Y5/1灰色シルト～細砂(0.2～0.5cmの白色礫をまばらに含む、木質遺物を含む)
- 92 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y4/2暗灰黄色シルト～粘土(0.2～0.5cmの白色礫・炭化物・木質遺物をまばらに含む)
- 93 2.5Y4/1黄灰色～5Y4/1灰色シルト～粘土(0.2～0.5cmの白色礫をまばらに含む、炭化物・木質遺物を含む)
- 94 2.5Y4/1黄灰色～5Y3/2オリブ黒色シルト～細砂(0.2～0.5cmの白色礫・炭化物をまばらに含む)
- 95 5Y4/1灰色～7.5Y5/1灰色シルト～細砂(0.2～1.5cmの礫をまばらに、炭化物をまばらに含む)
- 96 2.5Y4/1黄灰色～5Y4/1灰色シルト～細砂(0.2～0.5cmの白色礫をまばらに、炭化物をまばらに含む)
- 97 5Y4/1灰色～5Y5/1灰色粘土～シルト(粗砂わずかに含む、0.2～1cmの白色礫・5cmの礫・炭化物をまばらに含む)
- 98 5Y4/1灰色～5Y3/1オリブ黒色粘土～シルト(細砂ブロック・0.2cmの白色偽礫をまばらに含む)
- 99 7.5Y4/1灰色シルト～細砂(0.2～1cmの礫をまばらに含む)
- 100 5Y4/1灰色～5Y5/1灰色シルト～粘土(0.2～0.5cmの白色礫・炭化物・木質遺物をまばらに含む)
- 101 5Y4/1灰色～5Y4/2灰オリブ色シルト～細砂
- 102 5Y5/1灰色～2.5Y4/1黄灰色粘土～シルト(粗砂わずかに含む、0.5～1cmの白色偽礫・炭化物をまばらに含む)
- 103 7.5Y4/1灰色～7.5Y5/1灰色シルト～細砂(0.2cmの白色礫・炭化物をまばらに含む)
- 104 5Y4/1灰色～5Y4/2灰オリブ色粘土～細砂(0.2～0.5cmの白色礫・炭化物・木質遺物をまばらに含む)
- 105 5Y4/1灰色～5Y6/1シルト～細砂(灰白色細砂ブロック・0.2～0.5cmの白色礫をまばらに含む)
- 106 5Y3/1オリブ黒色～5Y6/1灰色粘土～細砂(0.2cmの白色礫・炭化物をまばらに含む)
- 107 5Y4/1灰色～2.5Y3/2黒褐色シルト～粘土(0.2～1cmの白色偽礫・灰白色土ブロック・炭化物・木質遺物をまばらに含む)
- 108 5Y4/1灰色～5Y5/2灰オリブ色シルト～細砂(0.2～1cmの偽礫をまばらに含む、木質遺物を含む)
- 109 5Y4/1灰色～5Y5/2灰オリブ色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、0.2～0.5cmの白色偽礫をまばらに含む、炭化物・木質遺物を含む)
- 110 5Y4/1灰色～5Y5/1灰色シルト～粘土(細砂わずかに含む、0.2～0.5cmの白色礫・炭化物をまばらに含む、木質遺物を含む)
- 111 5Y4/1灰色～5Y5/1灰色粘土～シルト(0.2～1cmの白色礫・炭化物をまばらに含む、10cmの礫を含む)
- 112 5Y5/1灰色～5Y3/1オリブ黒色粘土～シルト(0.2～1cmの白色礫をまばらに、炭化物・木質遺物をまばらに含む)
- 113 5Y4/1灰色～7.5Y4/1灰色シルト～細砂(0.2～0.5cmの白色礫を多く、炭化物をまばらに含む)
- 114 5Y4/2灰オリブ色～5Y5/1灰色粘土～細砂(0.2～0.5cmの白色礫をまばらに含む)
- 115 5Y3/1オリブ黒色～5Y4/1灰色粘土～シルト(0.2～0.5cmの白色偽礫・炭化物をまばらに含む、2cmの礫を含む)
- 116 5Y4/1灰色～5Y5/1灰色粘土～シルト(粗砂わずかに含む、炭化物をまばらに含む)
- 117 5Y4/1灰色～5Y4/2灰オリブ色粘土～シルト(細砂ブロック・0.2cmの白色礫をまばらに含む)
- 118 2.5Y4/1黄灰色～5Y4/1灰色粘土～シルト(0.2～1.5cmの白色偽礫をまばらに含む、炭化物・木質遺物を含む)
- 119 5Y4/1灰色～5Y3/1オリブ黒色シルト～粘土(0.2～1cmの白色偽礫をまばらに、炭化物をまばらに含む)
- 120 2.5Y4/1黄灰色シルト～粘土(細砂ブロック・0.2～1cmの白色偽礫・炭化物・木質遺物をまばらに、暗灰黄色土ブロックをまばらに含む)
- 121 2.5Y3/1黒褐色～5Y3/1オリブ黒色シルト～粘土(0.2cmの白色礫をまばらに、炭化物をまばらに含む)
- 122 5Y4/1灰色～2.5Y3/1黒褐色粘土～シルト(細砂ブロックをまばらに含む、層下部に黄灰色粘土ブロックを含む)
- 123 5Y3/1オリブ黒色粘土～シルト
- 124 5Y4/1灰色～5Y3/1オリブ黒色粘土～シルト(0.2～1.5cmの白色礫・炭化物をまばらに含む)
- 125 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y3/1黒褐色粘土～シルト(0.2～1cmの偽礫・炭化物・木質遺物をまばらに含む)
- 126 5Y4/1灰色～2.5Y4/2暗灰黄色シルト～粘土(0.2～0.5cmの白色偽礫・炭化物・木質遺物をまばらに含む)
- 127 5Y5/1灰色～5Y6/1灰色シルト～粘土(0.2～5cmの偽礫を密に含む、層下部に腐植土のブロックを含む)
- 128 2.5Y6/2灰黄色～2.5Y5/1黄灰色細砂～シルト(0.2～1.5cmの偽礫を多く、炭化物をまばらに含む。部分的に焼土を含む)
- 129 5Y5/1灰色～2.5Y4/2暗灰黄色粘土～細砂(0.2～10cmの偽礫を密に、細砂ブロックをまばらに含む)
- 130 5Y6/2灰オリブ色粗砂～細砂
- 131 2.5Y3/2黒褐色～2.5Y4/2暗灰黄色粘土～シルト(木質遺物を含む、腐植土層)
- 132 2.5Y4/2暗灰黄色～2.5Y3/2黒褐色粘土～細砂(0.5cmの白色礫・炭化物・細砂ブロックをまばらに含む)
- 133 5Y6/2灰オリブ色～5Y7/2灰白色細砂～粗砂(0.2～0.5cmの白色礫をまばらに含む)
- 134 2.5GY7/1明オリブ灰色～10Y7/1灰白色粘土～シルト(0.5cmの白色礫・炭化物・粗砂ブロックをまばらに含む)
- 135 7.5Y6/1灰色～7.5Y6/2灰オリブ色シルト～細砂(0.2～0.5cmの白色礫を多く、3cmの粘土ブロック・炭化物をまばらに含む)
- 136 10Y6/1灰色～10Y6/2オリブ灰色粘土～シルト(粗砂わずかに含む、細砂ブロック・1cmの礫・炭化物をまばらに含む)
- 137 2.5Y5/2暗灰黄色～2.5Y5/1黄灰色シルト～細砂(0.2～1cmの白色礫・粘土ブロック・炭化物・木質遺物をまばらに含む)
- 138 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y7/2灰黄色粘土～細砂(0.5～1cmの偽礫をまばらに含む)
- 139 2.5Y4/1黄灰色粘土～シルト(細砂ブロック・0.2～0.5cmの白色礫をまばらに含む)
- 140 2.5Y7/2灰黄色～2.5Y4/1黄灰色細砂～シルト(0.2～0.5cmの礫・木質遺物をまばらに含む)
- 141 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y3/2黒褐色粘土～細砂(0.2～0.5cmの白色礫・木質遺物をまばらに含む、灰白色粘土ブロック・炭化物をまばらに含む、ラミナあり)
- 142 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y6/2灰黄色シルト～細砂(0.2cmの白色偽礫をまばらに含む)
- 143 2.5Y5/2暗灰黄色シルト～粘土(明緑灰色粘土ブロックを多く、0.2～1.5cmの白色偽礫・炭化物をまばらに含む)
- 144 2.5GY7/1明オリブ灰色～2.5Y6/1黄灰色シルト～粗砂(0.5cmの白色礫・木質遺物・炭化物をまばらに含む)
- 145 2.5Y6/1黄灰色～5Y6/2灰オリブ色シルト～粗砂(明緑灰色シルトブロック・0.2～0.5cmの礫・木質遺物・炭化物をまばらに含む、弱い土壌化)
- 146 2.5Y7/2灰黄色～10Y6/1灰色細砂～粗砂(灰黄色粘土ブロック・0.2～0.5cmの白色礫・木質遺物をまばらに含む)
- 147 10Y7/1灰白色～2.5Y4/2暗灰黄色細砂～粘土(粗砂わずかに含む、木質遺物を含む、ラミナ顕著)
- 148 10Y6/1灰色～2.5Y7/2灰黄色細砂～粗砂(0.2～1cmの白色礫を多く、明緑灰色粘土ブロックをまばらに含む)
- 149 7.5Y6/2灰オリブ色～10Y6/1灰色粘土～細砂(炭化物をごくまばらに含む)
- 150 10Y6/1灰色～2.5Y8/2灰白色細砂～粗砂(木質遺物を含む)
- 151 10Y6/2灰オリブ色～5Y5/1灰色粘土～シルト(炭化物をごくまばらに含む)
- 152 5GY7/1明オリブ灰色～7.5Y7/1灰白色細砂～粗砂(炭化物・木質遺物を含む)
- 153 2.5Y7/2灰黄色～2.5Y8/2灰白色シルト～粗砂(0.2cmの白色礫をまばらに、炭化物をまばらに含む、ラミナあり)
- 154 5Y7/1灰白色～7.5Y6/1灰色シルト～粗砂(木質遺物・炭化物をまばらに含む、ラミナ顕著)
- 155 7.5Y6/1灰色～7.5Y7/2灰白色細砂～粗砂
- 156 10Y7/1灰白色～5Y7/2灰白色細砂～粗砂(灰白色細砂ブロック・0.2～0.5cmの白色礫をまばらに含む、ラミナあり)
- 157 7.5Y6/1灰色～7.5Y7/1灰白色粗砂～細砂
- 158 5Y7/2灰白色～7.5Y7/1灰白色細砂～粗砂(0.2～1.5cmの礫を多く、灰色粘土ブロックをまばらに含む、ラミナあり)
- 159 5Y7/2灰白色～5Y6/1灰色細砂～シルト(0.2～0.5cmの礫・炭化物・木質遺物をまばらに含む、ラミナあり)
- 160 2.5Y3/1黒褐色～2.5Y3/2黒褐色シルト～粘土(細砂ブロック・炭化物・木質遺物を含む、腐植土層)
- 161 5Y7/2灰白色～5Y5/1灰色シルト～細砂(粗砂ブロック・0.2～0.5cmの白色礫をまばらに含む)
- 162 5Y5/2灰オリブ色～5Y5/1灰色細砂～粗砂
- 163 5Y8/1灰白色～5Y8/2灰白色細砂～粗砂(0.5cmの白色礫をまばらに含む)
- 164 5Y5/2灰オリブ色～5Y5/1灰色シルト～細砂(炭化物をまばらに含む)
- 165 5Y7/2灰白色～5Y7/1灰白色細砂～粗砂(0.2～0.5cmの偽礫をまばらに含む、木質遺物を含む)
- 166 5Y7/2灰白色～5Y8/1灰白色細砂～粗砂(0.2～0.5cmの偽礫・木質遺物をまばらに含む)
- 167 7.5Y7/2灰白色～2.5Y5/1黄灰色細砂～シルト(炭化物・木質遺物を含む、ラミナ顕著)



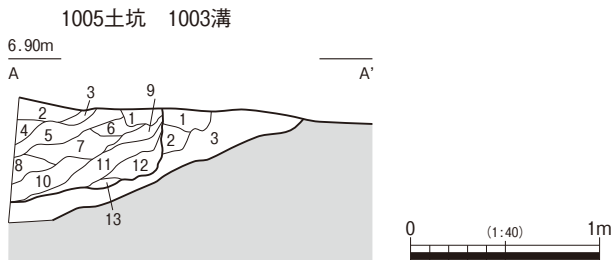
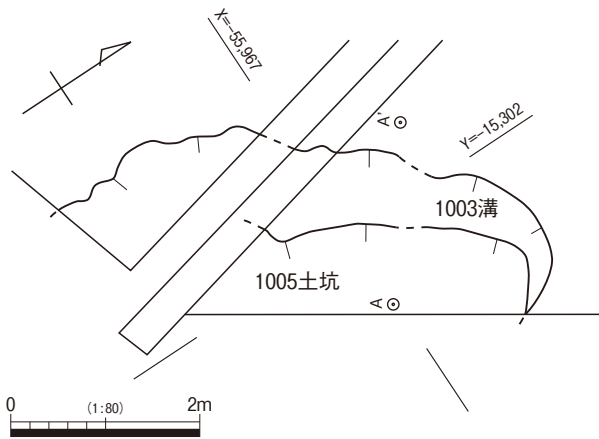
第51図 確認調査1G西壁土層断面図

- 1 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y4/1黄灰色シルト～粗砂(0.2～0.5cmの白色偽礫を多く、細砂ブロックをまれに含む)
- 2 2.5Y5/2暗灰黄色～2.5Y7/3黄灰色シルト～細砂
- 3 5GY7/1明オリーブ灰色～10Y6/1灰黒シルト～粘土(0.2～0.5cmの白色礫・灰色土ブロックをまばらに含む)
- 4 2.5Y7/1灰白色～2.5Y6/1黄灰色シルト(0.2～0.5cmの白色偽礫を密に含む)
- 5 5GY7/1灰白色～10Y6/1灰黒シルト～細砂(0.2～0.5cmの白色偽礫をまばらに、灰色土ブロックをまれに含む)
- 6 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y7/1灰白色シルト～細砂(0.2cmの白色礫をまばらに含む)
- 7 5BG7/1明青灰色～7.5Y6/1灰黒シルト～粗砂(灰色土ブロックを含む)
- 8 5GY7/1明オリーブ灰色～7.5Y6/1灰黒シルト～粘土
(細砂ブロックをまばらに、灰色土ブロック・0.2cmの白色偽礫をまれに含む)
- 9 5Y4/1灰黒～5Y5/1灰黒シルト～粘土(0.2～0.5cmの白色偽礫を多く、炭化物をまばらに含む)
- 10 7.5Y4/1灰黒～7.5Y3/1オリーブ黒色シルト～細砂(炭化物・木質遺物をまれに含む)
- 11 2.5Y5/1黄灰色～5Y5/1灰黒シルト～細砂(0.2～0.5cmの白色礫を多く、炭化物・木質遺物をまれに含む)
- 12 5Y4/1灰黒～5Y4/1灰黒シルト～粗砂(細砂ブロックをまばらに含む)
- 13 5Y5/1灰黒～5Y5/2灰オリーブ色シルト～粘土(木質遺物・炭化物を含む)
- 14 5Y5/1灰黒～5Y4/2灰オリーブ色シルト～粘土(粗砂わずかに含む、木質遺物を含む)
- 15 5Y4/1灰黒～5Y5/1灰黒シルト～粘土(粗砂わずかに含む、木質遺物を含む)
- 16 2.5Y4/1黄灰色～5Y5/1灰黒シルト～粘土(細砂ブロックを多く含む、層東側に細砂多い、ラミナあり)
- 17 5Y4/1灰黒～5Y5/1灰黒シルト～粗砂(木質遺物を含む)
- 18 7.5Y5/1灰黒～5Y5/1灰黒シルト～粘土(粗砂わずかに含む、細砂ブロックをまばらに含む)
- 19 5Y4/1灰黒～5Y3/1オリーブ黒色シルト～細砂(細砂ブロックをまれに含む)
- 20 2.5Y3/1黒褐色～5Y7/1灰白色シルト～粘土(細砂ブロックをまれに含む)
- 21 5Y4/1灰黒～2.5Y4/1黄灰色粘土～粗砂
- 22 5Y4/1灰黒～5Y5/2灰オリーブ色シルト～細砂(0.2～1.0cmの白色偽礫をまばらに含む、木質遺物を含む)
- 23 5Y4/1灰黒～5Y4/2灰オリーブ色シルト～細砂
(0.2～0.5cmの白色偽礫をまばらに、粘土ブロックをまれに含む)
- 24 5Y5/1灰黒～5Y4/1灰黒シルト～細砂(0.2～1.0cmの白色偽礫をまれに含む、炭化物・木質遺物を含む)
- 25 5Y3/2オリーブ黒色～5Y5/1灰黒シルト～粘土
(0.2～1.0cmの白色偽礫・炭化物・木質遺物・細砂ブロックをまれに含む)
- 26 5Y4/1灰黒～5Y4/2灰オリーブ色シルト～細砂(細砂ブロック・0.2cm白色礫をまれに含む)
- 27 2.5Y3/1黒褐色～5Y6/1灰黒シルト～細砂(灰白色細砂ブロック・黒褐色粘土ブロックをまれに含む)

- 29 5Y6/2灰オリーブ色～5Y6/1灰黒シルト～細砂(灰色粘土ブロック・炭化物を多くまれに含む)
- 30 5Y4/1灰黒～2.5Y5/1黄灰色シルト～粘土(細砂わずかに含む)
- 31 5Y4/1灰黒～7.5Y4/1灰黒シルト(粗砂わずかに混じる、炭化物をまれに含む)
- 32 2.5Y4/2暗灰黄色～5Y4/1灰黒シルト(0.2～0.5cm白色礫をまれに含む、木質遺物・炭化物を含む)
- 33 5Y4/1灰黒～5Y3/1オリーブ黒色シルト～粘土(0.2～1.0cmの白色偽礫をまばらに、炭化物をまれに含む)
- 34 5Y4/1灰黒～5Y4/2灰オリーブ色シルト(0.2～0.5cmの白色偽礫・炭化物・木質遺物をまばらに含む、木質遺物を含む)
- 35 5Y4/1灰黒～5Y5/2灰オリーブ色粘土～細砂(0.2～0.5cm白色偽礫・灰色土ブロックをまばらに含む、木質遺物を含む)
- 36 2.5Y4/1黄灰色シルト～粘土
(0.2～1.0cm白色偽礫をまばらに、暗灰黄色土ブロックをまれに含む、炭化物・木質遺物を含む)
- 37 7.5Y6/1灰黒～10Y7/1灰白色シルト～細砂(0.2～1.0cmの白色偽礫多く、灰色土ブロックをまれに含む)
- 38 2.5Y3/2黒褐色～2.5Y4/2暗灰黄色粘土～シルト(細砂ブロック・木質遺物を含む、腐植土層)
- 39 5Y6/2灰オリーブ色～5Y7/2灰白色細砂～粗砂(0.2～0.5cm白色礫をまれに含む)
- 40 5Y4/2灰オリーブ色～5Y6/2灰オリーブ色シルト～粗砂(木質遺物を含む、ラミナあり)
- 41 2.5GY7/1明オリーブ灰色～10Y7/1灰白色シルト(粗砂ブロック・0.5cm白色礫・炭化物を多くまれに含む)
- 42 5Y5/1灰黒～5Y5/2灰オリーブ色シルト～粗砂
(1～10cm明緑灰色シルトブロック多く含む、0.5～1.0cmの礫・木質遺物を多くまれに含む)
- 43 7.5Y6/2灰オリーブ色～5Y4/1灰黒シルト～細砂
(明緑灰色シルトブロックをまばらに、0.2～0.5cmの白色偽礫をまれに含む)
- 44 5Y4/1灰黒～5Y5/2灰オリーブ色シルト～粘土(細砂ブロック・炭化物をまれに含む)
- 45 5Y4/1灰黒～5Y5/1灰黒粘土～粗砂(炭化物・木質遺物をまれに含む)
- 46 5Y4/1灰黒～2.5Y3/1黒褐色粘土～細砂(細砂ブロックをまばらに含む、炭化物・木質遺物を含む)
- 47 5Y4/1灰黒～5Y5/1灰黒シルト～細砂(0.5～1.0cmの白色偽礫・炭化物をまれに含む、木質遺物を含む)
- 48 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y5/1黄灰色粘土～シルト(細砂ブロック・炭化物をまれに含む)
- 49 2.5Y4/2暗灰黄色～2.5Y4/1黄灰色粘土～細砂(炭化物・木質遺物をまれに含む)
- 50 7.5Y7/1灰白色～10GY7/1明緑灰色シルト～粘土
(0.2～1.0cmの白色偽礫・灰色土ブロックをまばらに含む、木質遺物を含む)
- 51 5BG7/1明青灰色～2.5Y6/1黄灰色粘土～シルト(0.2～1.0cmの白色偽礫をまばらに含む、炭化物・木質遺物を含む)
- 52 5BG7/1明青灰色～10BG7/1明青灰色粘土～シルト
(細砂～粗砂ブロックを多く含む、0.2～0.5cm白色偽礫・炭化物を含む)
- 53 5Y6/2灰オリーブ色～5Y4/2灰オリーブ色粘土～シルト(木質遺物をまばらに含む)
- 54 5GY7/1明オリーブ灰色～7.5Y7/2灰白色細砂～シルト(粗砂わずかに混じる、炭化物を含む)

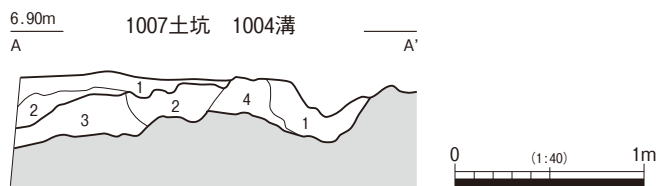
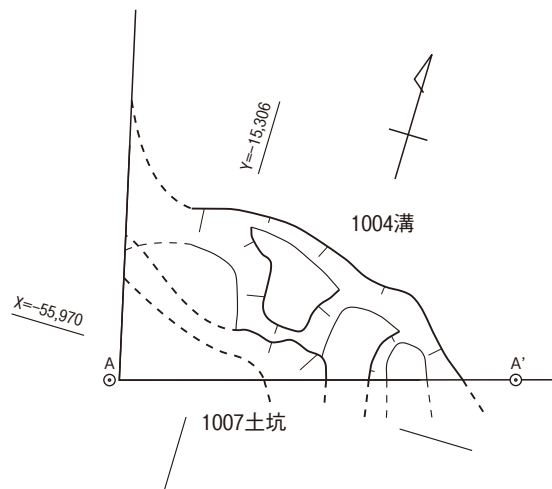


第52図 確認調査1G1001土坑、1002溝



- 1005土坑
- 1 2.5Y3/2黒褐色～2.5Y3/2黒褐色シルト～粘土(灰白色細砂ブロックをまばらに含む)
 - 2 5Y4/1灰色～5Y5/1灰色シルト(0.2～0.5cmの白色礫・炭化物をまばらに含む)
 - 3 5Y4/1灰色シルト～細砂(炭化物をこくまらに含む)
 - 4 5Y4/1灰色シルト～細砂(炭化物をまばらに含む)
 - 5 7.5Y4/1灰色～7.5Y5/1灰色シルト～細砂(0.2～0.5cmの白色偽礫・炭化物をまばらに含む)
 - 6 2.5Y4/1黄灰色シルト～細砂(0.2cmの白色偽礫をまばらに含む)
 - 7 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y5/1黄灰色シルト～細砂(炭化物をまばらに含む)
 - 8 5Y4/1灰色～7.5Y6/1灰色シルト～粘土(細砂ブロックまばらに、炭化物をまばらに含む)
 - 9 5Y4/1灰色～5Y5/1灰色シルト～細砂(灰白色細砂ブロックまばらに含む)
 - 10 10GY8/1明緑灰色～5Y5/1灰色粘土～シルト(粗砂わずかに混じる、0.2～0.5cmの白色礫をこくまらに含む)
 - 11 5Y3/1オリーブ黒色～5Y5/1灰色シルト～細砂(明緑灰色粘土ブロックを含む)
 - 12 5Y3/1オリーブ黒色～7.5Y6/1灰色シルト～細砂(0.2～0.5cmの白色礫をまばらに含む)
 - 13 5Y6/1灰色～5Y7/1灰白色シルト～細砂(灰色土ブロックをこくまらに含む)

- 1003溝
- 1 2.5Y3/2黒褐色～5Y4/1灰色シルト～細砂(明緑灰色シルトブロックをまばらに含む、木質遺物を含む)
 - 2 5Y5/1灰色～5Y4/1灰色細砂～シルト(0.2～1.0cmの白色偽礫をまばらに含む、3cmの礫を含む)
 - 3 10GY8/1明緑灰色～7.5Y6/1灰色シルト～細砂(明緑灰色粘土ブロック・0.2～0.5cmの白色礫をまばらに含む)

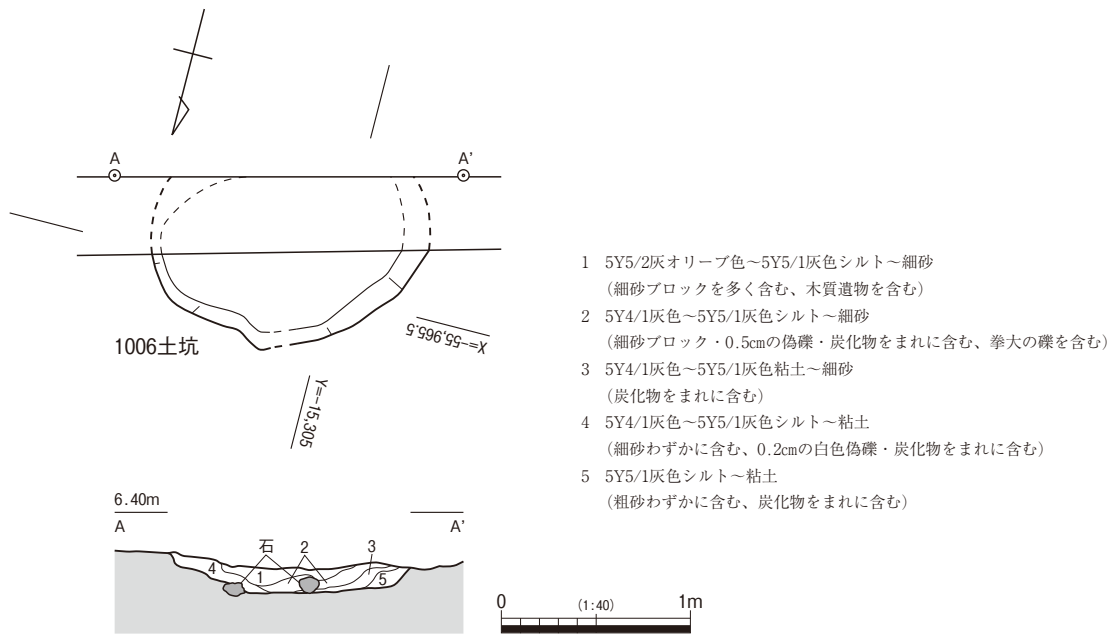


- 1007土坑
- 1 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y4/1黄灰色シルト～細砂(細砂ブロックをまばらに含む)
 - 2 5Y5/1灰色～5Y4/1灰色シルト～細砂(灰白色シルトブロックをまばらに含む)

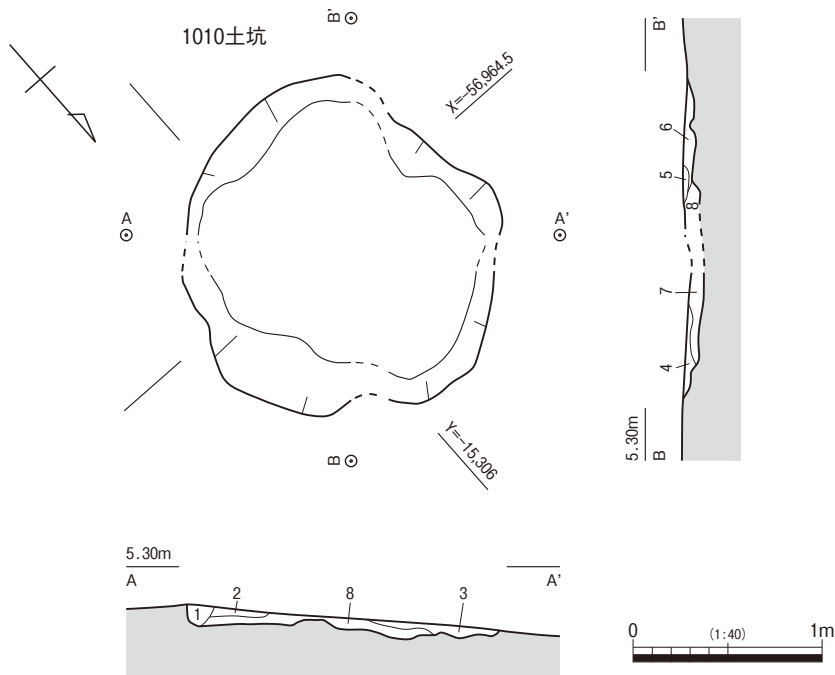
- 1004溝
- 1 5Y5/1灰色～5Y3/1オリーブ黒色シルト～粘土(灰白色シルトブロックをまばらに、0.2～0.5cmの白色礫をまばらに含む)
 - 2 5Y4/1灰色～2.5Y4/1黄灰色粘土～細砂(灰白色シルトブロック・炭化物をまばらに、0.2～0.5cmの白色礫をこくまらに含む)
 - 3 5BG7/1明青灰色～5Y8/2灰白色シルト～細砂と5Y4/1灰色～5Y3/1オリーブ黒色シルト～細砂(0.2cmの白色礫・細砂ブロックをまばらに、明青灰色粘土ブロックをまばらに含む)
 - 4 5BG7/1明青灰色～5Y8/1灰白色シルト～細砂(灰色土ブロック・0.2～0.5cmの白色偽礫をまばらに含む)

第53図 確認調査1G1003・1004溝、1005・1007土坑

第4章 平成23年度の調査成果

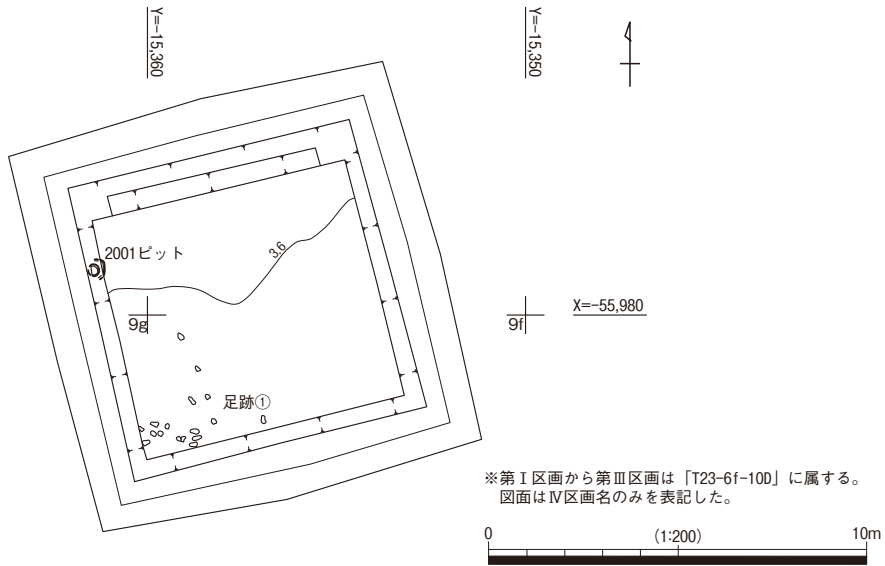


- 1 5Y5/2灰オリブ色～5Y5/1灰色シルト～細砂
(細砂ブロックを多く含む、木質遺物を含む)
- 2 5Y4/1灰色～5Y5/1灰色シルト～細砂
(細砂ブロック・0.5cmの偽礫・炭化物をまれに含む、拳大の礫を含む)
- 3 5Y4/1灰色～5Y5/1灰色粘土～細砂
(炭化物をまれに含む)
- 4 5Y4/1灰色～5Y5/1灰色シルト～粘土
(細砂わずかに含む、0.2cmの白色偽礫・炭化物をまれに含む)
- 5 5Y5/1灰色シルト～粘土
(粗砂わずかに含む、炭化物をまれに含む)

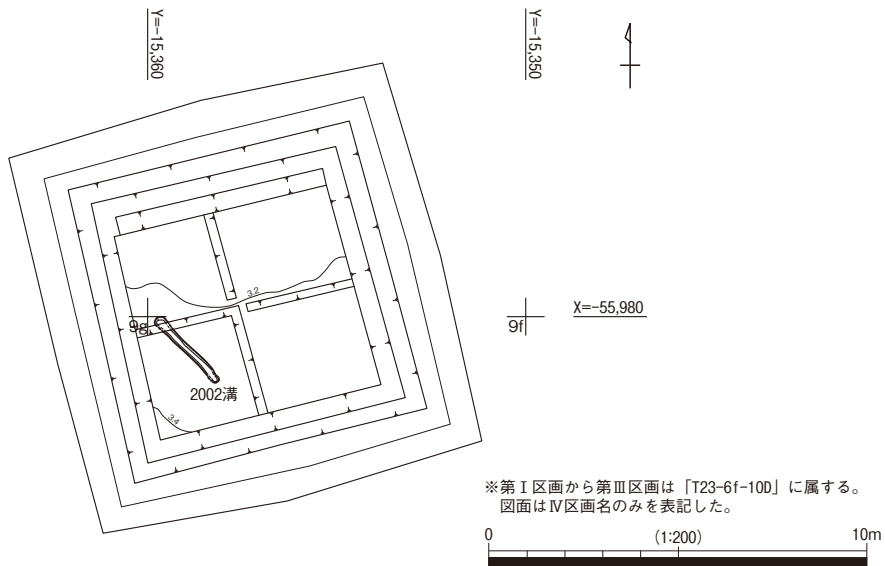


- 1 10Y7/1灰白色～10Y6/1灰色粗砂～細砂(0.2～0.5cmの礫を多く含む)
- 2 2.5Y4/1黄灰色～5Y6/1灰色シルト～粗砂
- 3 2.5Y6/1黄灰色～2.5Y5/1黄灰色シルト～粘土(細砂わずかに含む、木質遺物を含む)
- 4 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y4/2暗黄灰色細砂～シルト(0.5cmの白色礫をまばらに含む)
- 5 2.5Y4/1黄灰色シルト～細砂(明緑灰色シルトブロックを含む)
- 6 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y6/2灰黄色シルト～粗砂(黄灰色粘土ブロックをまばらに含む)
- 7 10Y7/1灰白色～2.5Y5/1黄灰色シルト～粗砂
- 8 5Y5/1灰色～2.5Y7/2灰黄色シルト～細砂(灰色粘土ブロックをまばらに、炭化物をまれに含む)

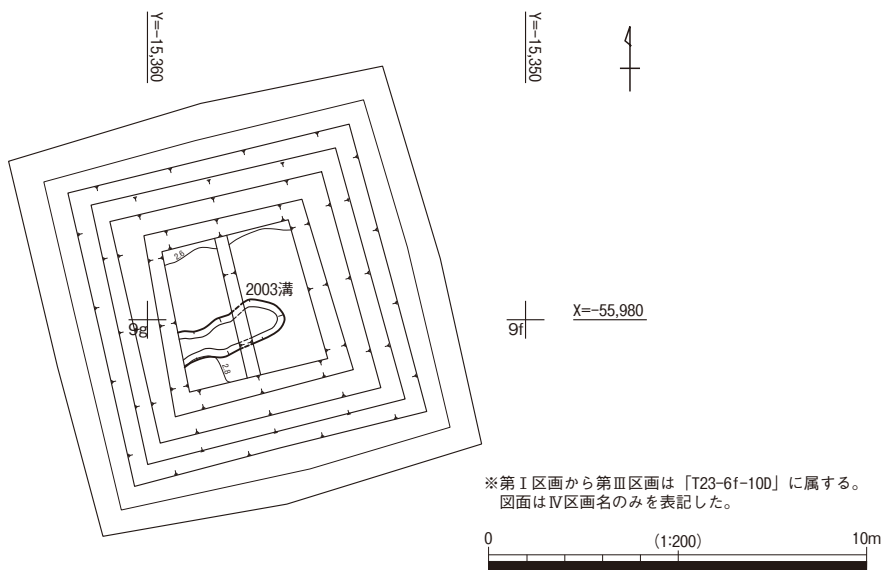
第54図 確認調査1G1006・1010土坑



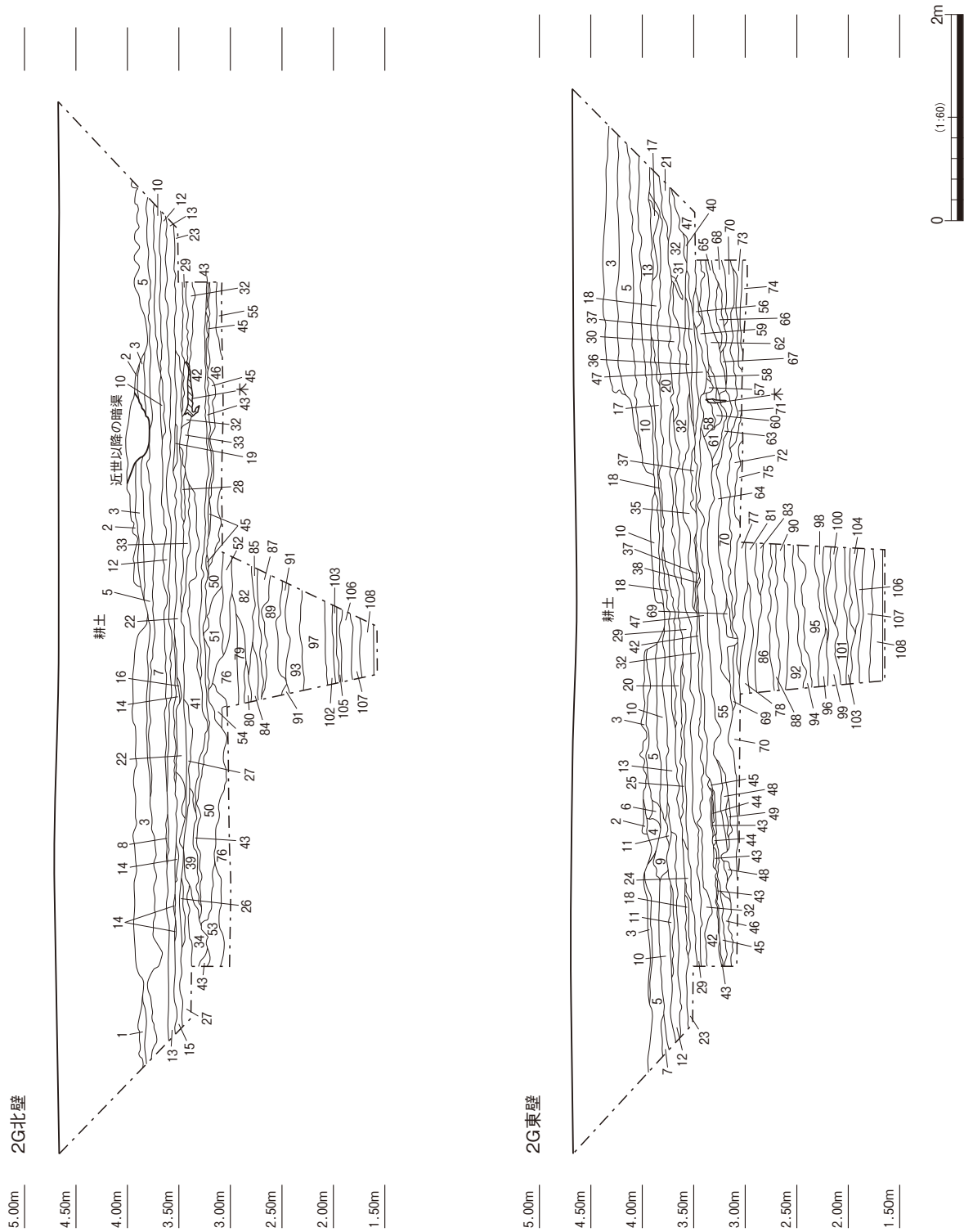
第55図 確認調査2G第1遺構面



第56図 確認調査2G第2遺構面



第57図 確認調査2G第3遺構面



第58図 確認調査2G北壁、東壁土層断面図

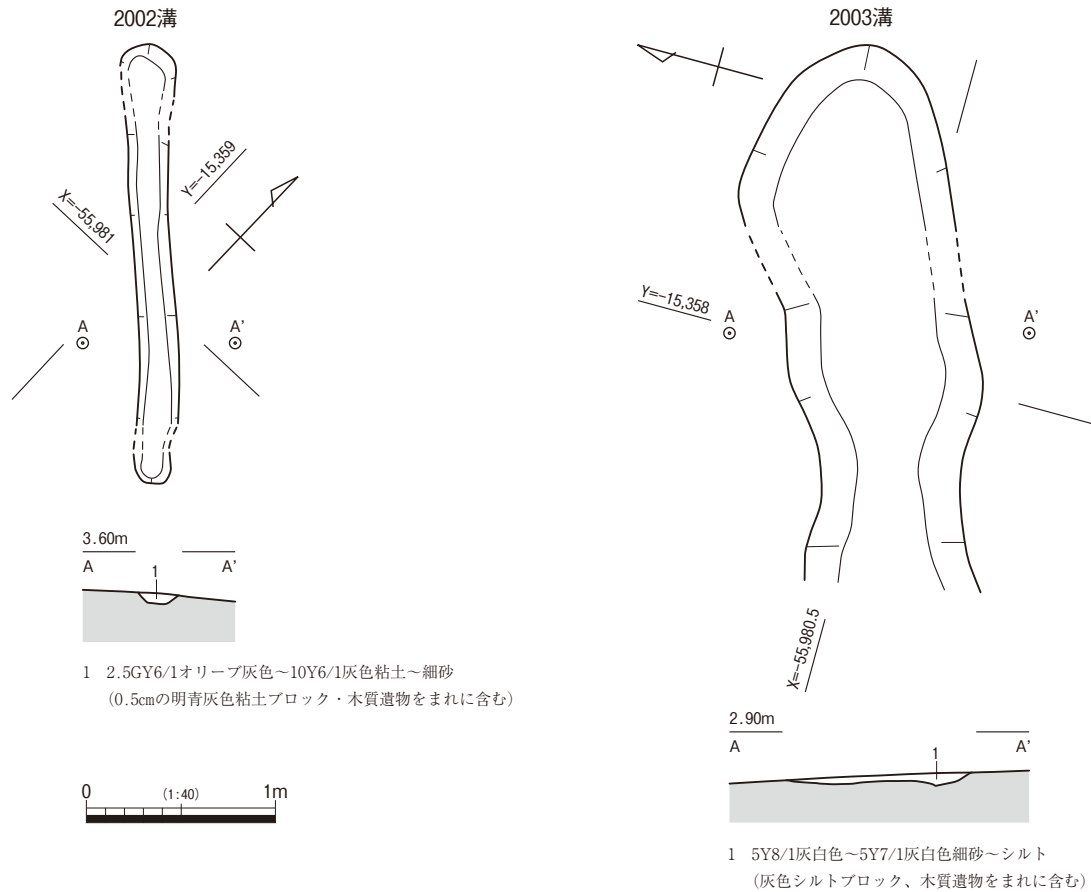
第58図確認調査2G北壁、東壁土層注記1

- 1 7.5YR6/1 褐灰色シルト～細砂(しまりよい、粘性帯びる、酸化鉄多い)
- 2 10YR6/1 褐灰色シルト～細砂(酸化鉄多い)
- 3 7.5YR6/1 褐灰色シルト～細砂(しまりよい、砂分多い、酸化鉄多い)
- 4 7.5YR6/2 褐灰色シルト～粗砂(しまりよい、粘性あり、酸化鉄多く含む)
- 5 5YR5/1 褐灰色シルト～粘土(粗砂を多く含む)
- 6 7.5YR6/1 褐灰色シルト～細砂(しまりよい、粘性あり、粗砂わずかに含む)
- 7 7.5YR5/1 褐灰色シルト～細砂(粘性あり、粗砂多く含む)
- 8 5YR6/4にぶい橙色粗砂
- 9 7.5YR5/1 褐灰色細砂～粘土(粘性あり、砂分多い、炭化物少し含む)
- 10 7.5YR3/1 黒褐色シルト～細砂(粘性強い、炭化物少量含む、a層)
- 11 7.5YR6/2 灰褐色中砂(炭化物わずかに含む)
- 12 7.5YR6/3にぶい褐色細砂～中砂(淡灰色粘土小ブロック多く含む)
- 13 7.5YR6/1 褐灰色シルト～中砂(粘性あり、炭化物少量含む)
- 14 7.5YR7/2 明褐灰色極細砂
- 15 7.5YR7/1 明褐灰色シルト～粘土に淡褐色粗砂混じる
- 16 7.5YR5/1 褐灰色粗砂
- 17 7.5YR6/3にぶい褐色粗砂
- 18 7.5YR8/2 灰白色シルト～細砂
- 19 7.5YR5/1 褐灰色シルト～細砂(粘性あり、淡褐色中砂多く含む)
- 20 7.5YR5/2 灰褐色細砂～中砂(褐色粘土ブロック含む、a層)
- 21 7.5YR6/1 褐灰色シルト～粘土(炭化物含む、a層)
- 22 7.5YR7/1 明褐灰色シルト～中砂(粘性あり、炭化物少量含む)
- 23 7.5YR4/1 褐灰色シルト～中砂(やや粘性あり、わずかに炭化物含む、a層)
- 24 7.5YR4/2 灰褐色シルト～細砂(粘性あり、中砂わずかに含む、a層)
- 25 7.5YR3/1 黒褐色粘土(炭化物多く含む、シルト～細砂を含む、a層)
- 26 7.5YR6/2 灰褐色粗砂
- 27 7.5YR7/1 明褐灰色シルト～中砂(やや粘性あり、粗砂多く含む)
- 28 7.5YR7/3にぶい橙色中砂～粗砂
- 29 N5/0 灰色細砂～粘土(中砂を含む、炭化物多く含む、a層)
- 30 7.5YR6/1 褐灰色シルト～粗砂(やや粘性あり、炭化物わずかに含む、a層)
- 31 7.5YR5/1 褐灰色粘土～シルト
- 32 7.5YR7/1 明褐灰色細砂～中砂(やや粘性あり、粗砂をわずかに含む)
- 33 7.5YR6/1 褐灰色細砂～中砂(やや粘性あり、a層)
- 34 7.5YR5/2 灰褐色粘土(中～粗砂多く含む、炭化物少量含む)
- 35 7.5YR7/1 明褐灰色シルト～細砂(やや粘性あり、中砂を少し含む、炭化物少し含む)
- 36 7.5YR7/2 明褐灰色細砂～シルト(中砂をわずかに含む)
- 37 7.5YR6/1 褐灰色シルト～粘土
- 38 7.5YR3/1 黒褐色粗砂
- 39 7.5YR7/3にぶい橙色中砂～粗砂
- 40 7.5YR4/1 褐灰色粘土～中砂(炭化物少し含む)
- 41 7.5YR8/2 灰白色中砂～粗砂
- 42 7.5YR7/2 明褐灰色粗砂(ラミナ状に淡灰色シルト層が入る)
- 43 7.5YR7/1 明褐灰色粘土(やや中～粗砂含む)
- 44 7.5YR5/3にぶい褐色中砂～細砂
- 45 N7/0 灰白色細砂～中砂(やや粘性あり、粗砂をわずかに含む)
- 46 N7/0 灰白色中砂
- 47 N7/0 灰白色細砂～中砂(粘性あり、炭化物少量含む、a層)
- 48 7.5YR6/1 褐灰色細砂～中砂
- 49 7.5YR7/1 明褐灰色細砂(粘性あり)
- 50 7.5YR6/3にぶい褐色シルト～粘土に粗砂礫を多く含む
- 51 7.5YR6/1 褐灰色粗砂(礫を多く含む、淡褐色粘土少量)
- 52 10GY6/1 緑灰色～7.5Y6/1 灰色細砂～シルト(炭化物をまばらに、細砂ブロックをまれに含む)
- 53 7.5YR6/1 褐灰色粗砂(礫多く含む)
- 54 N6/0 灰色中砂～粗砂
- 55 N8/0 灰白色細砂～中砂(炭化物わずかに含む、a層?)
- 56 7.5YR6/3にぶい褐色細砂～中砂(褐色粘土ブロック含む、粘性あり)
- 57 7.5YR7/4にぶい橙色シルト～細砂
- 58 7.5YR6/1 褐灰色シルト～細砂(粘性あり、中砂少し含む)
- 59 7.5YR7/1 明褐灰色細砂～中砂(粘性あり、炭化物少し含む)
- 60 7.5YR8/1 灰白色細砂～シルト(中砂少し含む、炭化物わずかに含む)
- 61 7.5YR6/1 褐灰色細砂(粘性少しあり、炭化物含む)
- 62 N7/0 灰白色細砂～シルト(粘性あり、しまる、中砂少し含む、炭化物多い)
- 63 7.5YR7/1 明褐灰色細砂～中砂(炭化物わずかに含む)
- 64 N8/0 灰白色中砂(粘性あり、粗砂少し含む)
- 65 7.5YR7/1 明褐灰色細砂～シルト(粘性あり、ややしまり良い、炭化物わずかに含む)

第4章 平成23年度の調査成果

第58図確認調査2G北壁、東壁土層注記2

- 66 7.5YR7/2明褐色細砂～中砂
- 67 7.5YR7/1明褐色細砂
- 68 7.5YR7/1明褐色細砂(中砂少し含む、炭化物わずかに含む)
- 69 7.5YR6/4にぶい橙色中砂～細砂
- 70 N7/0灰白色中砂～粗砂(灰色粘質土ブロックを少し含む)
- 71 7.5YR7/2明褐色中砂～細砂
- 72 7.5YR6/1褐色粗砂(礫を多く含む)
- 73 7.5YR6/1褐色粘土
- 74 7.5YR7/1明褐色中砂～細砂(炭化物少し含む)
- 75 7.5YR6/1褐色粗砂
- 76 N7/0灰白色細砂～中砂(部分的に淡褐色粗砂含む)
- 77 2.5Y7/1灰白色～10Y6/1灰白色細砂～粗砂(0.5～1.0cmの礫・偽礫をブロック状に多く含む)
- 78 10Y6/1灰色～2.5Y8/1灰白色細砂～粗砂(灰白色細砂ブロックを多く、0.2～1.0cmの礫・炭化物を多く含む)
- 79 5BG7/1明青灰色～10Y7/1灰白色細砂～シルト(細砂～粗砂ブロックをまばらに、炭化物をまれに含む)
- 80 10GY7/1明緑灰色～10Y8/1灰白色極細砂(細砂ブロック・炭化物をまれに含む)
- 81 7.5Y6/1灰色～7.5Y7/1灰白色細砂～粗砂(0.2～1.0cmの礫を多く、明青灰色シルトブロックをまばらに含む、木質遺物含む)
- 82 7.5GY7/1明緑灰色～10Y7/1灰白色細砂～シルト(粗砂～細砂ブロック・0.2～0.5cm白色礫を多く含む)
- 83 10GY6/1緑灰色細砂～粗砂(木質遺物を含む)
- 84 10Y6/1灰色～10GY8/1明緑灰色シルト～粘土(粗砂わずかに混じる、細砂ブロックをまばらに、炭化物をまれに含む)
- 85 10Y6/1灰色～2.5Y4/1黄灰色シルト～細砂(細砂ブロック・明青灰色土ブロックをまばらに含む、弱い土壌化)
- 86 10GY7/1明緑灰色～10Y6/1灰白色細砂～粗砂(炭化物・木質遺物を含む)
- 87 10Y6/1灰色～5Y5/1灰色細砂～シルト(粗砂わずかに混じる、炭化物をまれに含む)
- 88 10Y6/1灰色～10Y7/1灰白色粘土～細砂(炭化物をまばらに含む、弱い土壌化)
- 89 10Y6/1灰色～7.5Y5/1灰色細砂まじり粘土～シルト(炭化物をまばらに、灰白色細砂ブロックをまれに含む)
- 90 5GY6/1オリーブ灰色～10Y6/1灰色粘土～粗砂(0.2～0.5cmの白色礫をまばらに、炭化物をまれに含む)
- 91 10Y6/1灰色～5Y6/1灰色細砂～シルト(粗砂わずかに混じる、炭化物をまれに含む)
- 92 7.5GY6/1緑灰色～10Y7/1灰白色細砂～粘土(細砂ブロックまばらに、炭化物をまれに含む)
- 93 7.5Y6/1灰色～5BG7/1明青灰色細砂～シルト(細砂ブロック・炭化物・木質遺物をまれに含む)
- 94 7.5Y6/1灰色～10Y7/1灰白色細砂まじりシルト～粘土(炭化物をまれに含む)
- 95 5BG7/1明青灰色～2.5Y5/1黄灰色細砂～粘土(細砂ブロック・炭化物をまれに含む。層上部が弱い土壌化)
- 96 5GY7/1明オリーブ灰色粘土～細砂(炭化物をまれに含む)
- 97 5BG7/1明青灰色～5Y6/1灰白色細砂まじり粘土～シルト(層上部に炭化物を含む、層下部ほど土色暗い)
- 98 7.5Y7/1灰白色～7.5Y6/1灰色細砂～粗砂(灰色粘土ブロック・炭化物をまばらに含む)
- 99 2.5Y5/1黄灰色～5Y7/1灰白色粘土～細砂(炭化物をまばらに含む、ラミナあり)
- 100 2.5Y5/1黄灰色～7.5Y7/2灰白色粘土～細砂(炭化物をまばらに含む、弱い土壌化、99層より細砂の割合少ない)
- 101 2.5Y5/2暗灰黄色～2.5Y4/2暗灰黄色粘土～シルト(明青灰色粘土ブロックを含む、炭化物・木質遺物を多く含む)
- 102 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y4/1黄灰色粘土～シルト(0.5～3cmの灰白色粘土ブロック・炭化物・木質遺物を含む)
- 103 2.5Y3/2黒褐色～2.5Y5/1灰色粘土～シルト(木質遺物非常に多く含む、炭化物・灰白色粘土ブロックをまれに含む)
- 104 2.5GY7/1明オリーブ灰色～2.5Y5/1黄灰色細砂まじり粘土～シルト(木質遺物・炭化物を含む)
- 105 2.5Y5/1黄灰色粘土～シルト(木質遺物多く、0.2cmの灰白色粘土ブロックをまばらに含む)
- 106 2.5Y4/1黄灰色～5Y6/1灰色粘土～シルト(灰白色粘土ブロックをまれに含む、炭化物・木質遺物を含む)
- 107 2.5Y5/1黄灰色～5Y7/2灰白色細砂～シルト(木質遺物・炭化物・黒褐色粘土ブロックをまれに含む、ラミナ顕著)
- 108 2.5Y6/1黄灰色～5Y4/1灰色粘土～細砂(炭化物・木質遺物を含む)



第59図 確認調査2002・2003溝

表3 確認調査2Gピット表

番号	グリッド	検出面	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	主な埋土	備考
2001	6f-10D-8g	第1遺構面	45	—	24	上層：褐灰色～灰色シルト～細砂 下層：褐灰色シルト～粘土	

北壁断面の2層、およびそれに相当する地層の掘削後の第2遺構面調査では、土坑2基（1005・1007土坑）、溝2条（1003・1004溝）が平面的に検出される。また、調査区壁面の崩落により未調査となったが、東壁および西壁で土坑（1008・1009土坑）と思われる2つの落ち込みを確認した。

第3遺構面以下は、調査区壁の著しい崩落から、調査区北西部のみの調査となった。中央南北ベルト24～27層下面で土坑1基（1006土坑）、北壁、中央南北ベルト129層下面で土坑1基（1010土坑）検出した。

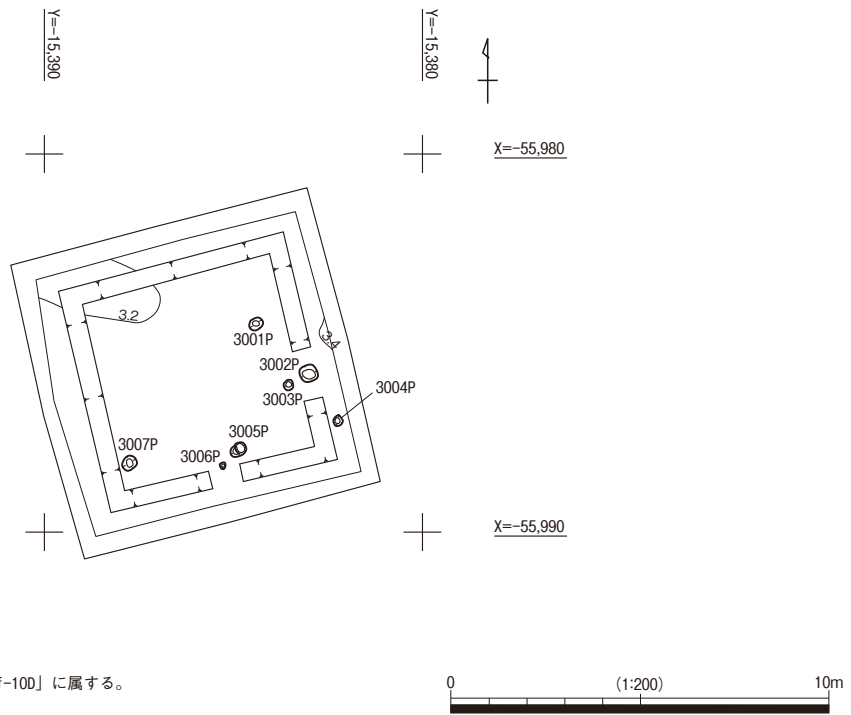
(2) 2G

現耕作土直下で、ピット1基（2001ピット）、及び人と動物の足跡を確認した。いずれも現耕作土の下面の遺構であり、近世以降のものと思われる。

また、50～55層下面、89・90層下面でも溝を1条検出した（2002・2003溝）。いずれも出土遺物はなく帰属時期は判断できなかった。

(3) 3G

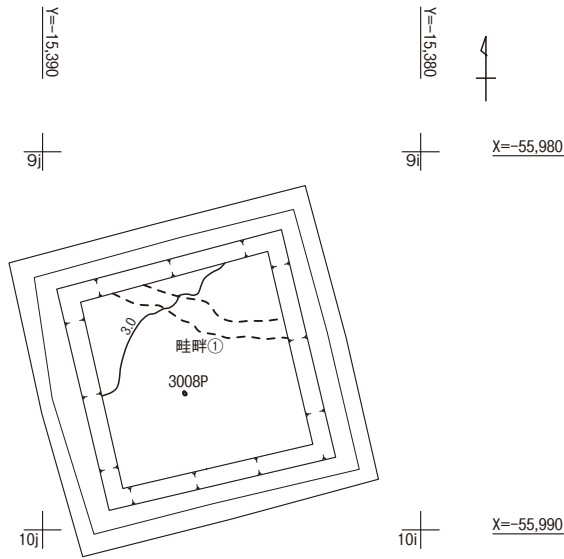
3Gの確認調査では、表土下40cm、3～5層下面で7基のピット（3001～3007ピット）を確認した。この3～5層は1区の調査で現水田耕作土下から2a層までに認められる耕作土であり、このこと



第60図 確認調査3G第1遺構面

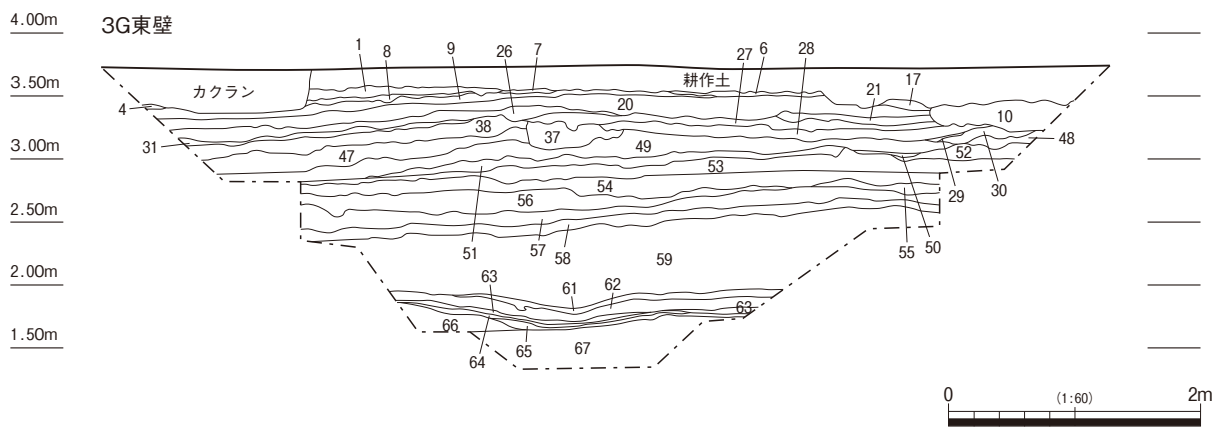
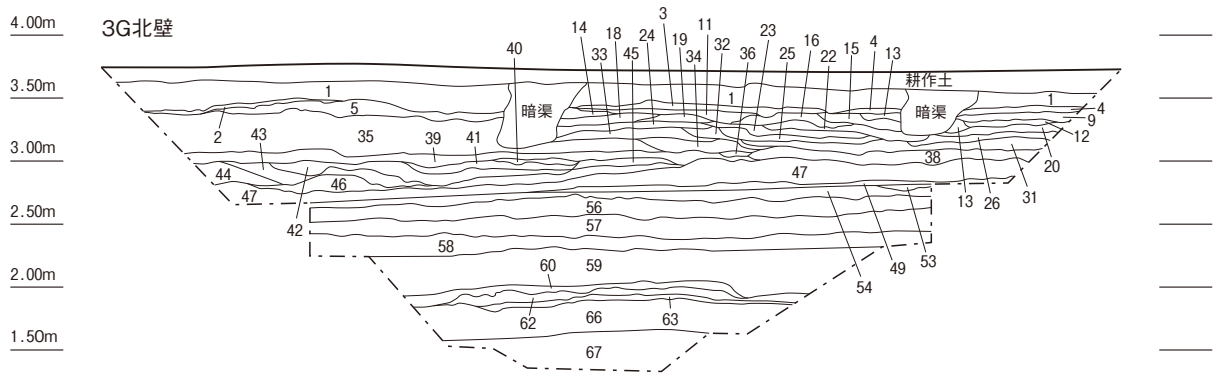
表4 確認調査3Gピット表

番号	グリッド	検出面	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	主な埋土	備考
3001	6f-10D-9i	第1遺構面	38	30	34	上層：灰白色シルト～細砂 中層：灰色シルト～粘土 下層：黒褐色粘土～シルト	
3002	6f-10D-9i	第1遺構面	50	38	24	上層：灰白色シルト～粘土 下層：灰白色シルト～細砂	
3003	6f-10D-9i	第1遺構面	26	26	11	上層：灰色～灰色シルト～細砂 下層：灰色シルト～粘土	
3004	6f-10D-9i	第1遺構面	26	25	12	上層：黄灰色～灰白色シルト～粘土 下層：灰色～灰白色シルト～細砂	
3005	6f-10D-9i	第1遺構面	46	34	15	灰色～灰白色シルト～細砂	
3006	6f-10D-9i	第1遺構面	18	16	9	灰色～灰色シルト～粗砂	
3007	6f-10D-9i	第1遺構面	41	35	15	灰白色～灰色シルト～細砂	
3008	6f-10D-9i	第2遺構面	13	9	4	灰白色～灰白色細砂～粗砂	



※第Ⅰ区画から第Ⅲ区画は「T23-6f-10D」に属する。
図面はⅣ区画名のみを表記した。

第61図 確認調査3G第2遺構面

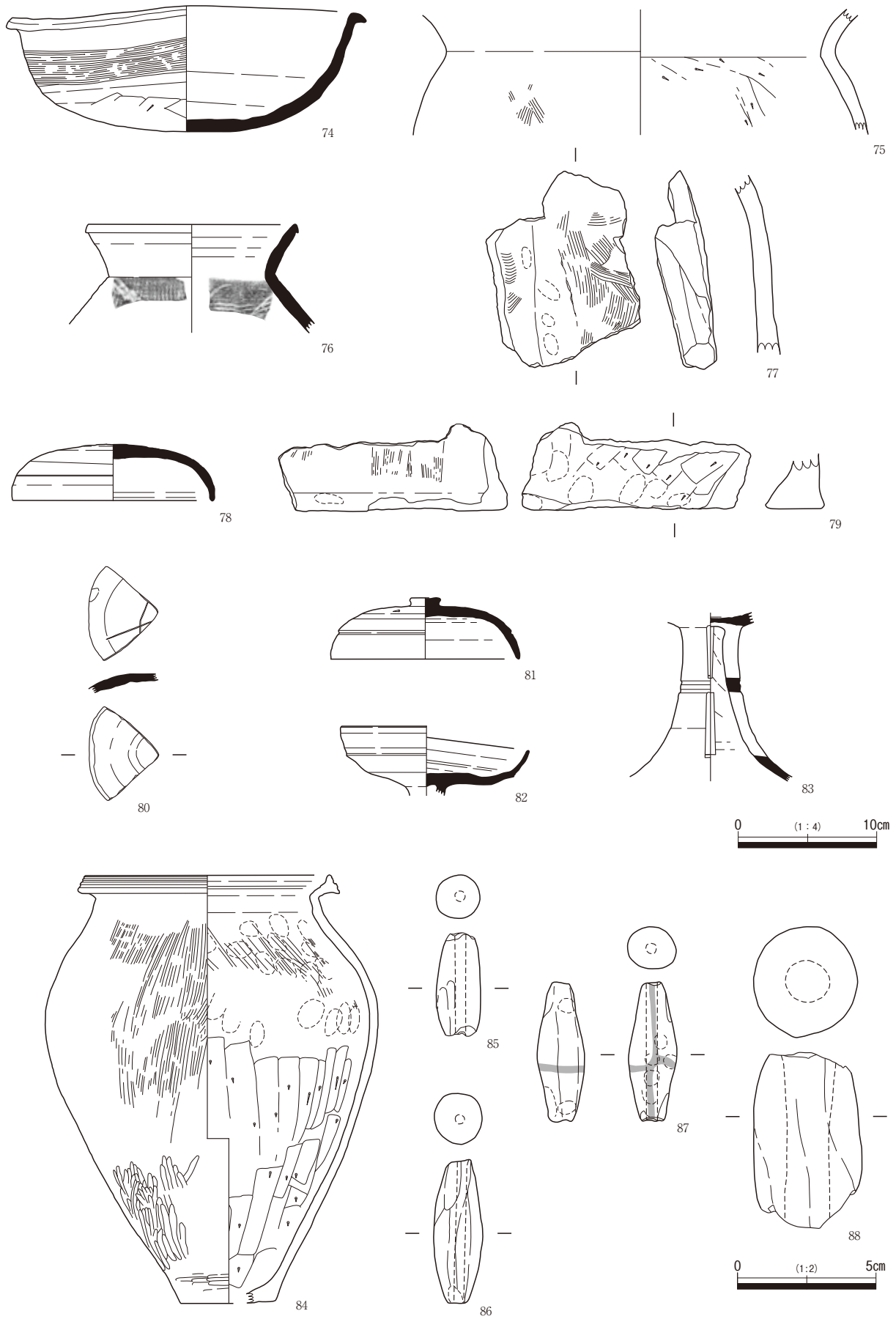


第62図 確認調査3G北壁、東壁土層断面図

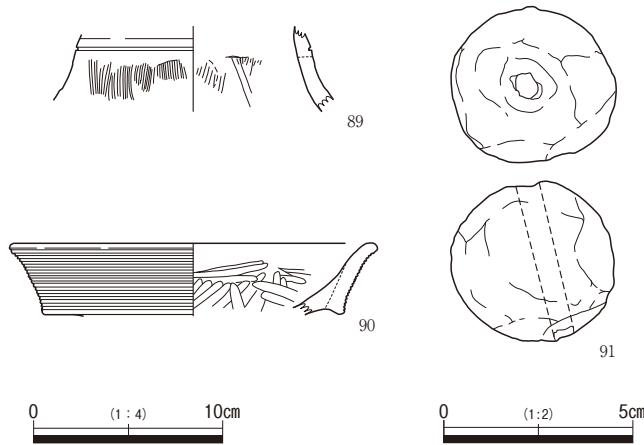
第4章 平成23年度の調査成果

第62図確認調査3G北壁、東壁土層注記

- 1 2.5Y5/1黄灰色～2.5Y4/1黄灰色シルト～粗砂(2～15cmの灰白色粘土ブロック・炭化物をまれに含む、マンガン斑顕著)
- 2 2.5Y6/1黄灰色シルト～細砂
- 3 2.5Y6/1黄灰色～2.5Y7/1灰白色シルト～粗砂(0.2～0.5cmの白・黄色偽礫をまれに含む)
- 4 2.5Y6/1黄灰色～2.5Y6/2灰黄色シルト～粗砂(マンガン斑顕著)
- 5 2.5Y6/1黄灰色～2.5Y7/1灰白色シルト～粗砂(細砂ブロック・炭化物をまれに含む、酸化鉄)
- 6 2.5Y7/2灰黄色～2.5Y7/1灰白色細砂まじりシルト(粗砂わずかに混じる)
- 7 5Y7/2灰白色～5Y7/1灰白色シルト～細砂(0.2～0.3cmの白色偽礫をまばらに含む)
- 8 2.5Y7/2灰黄色～2.5Y7/1灰白色シルト～粗砂(0.2～0.5cmの白色偽礫を多く、炭化物をこくまれに含む)
- 9 2.5Y7/1灰白色～10YR7/1灰白色細砂～シルト(細砂ブロックまばらに含む、マンガン斑)
- 10 5Y7/1灰白色～5Y7/2灰白色シルト～粗砂(粗砂～1.0cm礫のブロックをまばらに含む)
- 11 5Y7/1灰白色～5Y8/2灰白色シルト～細砂(0.2～0.3cm白色偽礫を多く、灰色粘土ブロック・炭化物をまれに含む)
- 12 5Y7/1灰白色シルト～細砂(0.2～0.5cm白色礫をまれに、炭化物をこくまれに含む)
- 13 5Y7/2灰白色～7.5Y7/1灰白色シルト～細砂(0.5～0.2cm白色礫を多く、炭化物をまれに含む)
- 14 5Y8/1灰白色～5Y8/2灰白色シルト(0.2cm白色礫をまばらに含む)
- 15 5Y7/1灰白色～5Y8/1灰白色シルト(0.2～0.5cmの白色礫をまばらに含む)
- 16 7.5Y7/1灰白色～7.5Y6/1灰色シルト～粘土(0.2～0.5cmの白色偽礫を多く含む)
- 17 5Y7/1灰白色～5Y7/2灰白色シルト～細砂
- 18 5Y7/1灰白色～5Y7/2灰白色細砂まじりシルト(0.2～0.3cmの白色偽礫をまばらに含む)
- 19 5Y8/2灰白色～5Y7/1シルト(粗砂わずかに混じる)
- 20 2.5Y7/2灰黄色～5Y7/1灰白色シルト～細砂(炭化物をまれに含む)
- 21 5Y7/1灰白色～5Y6/1灰色シルト～粗砂(0.2～0.5cmの白色偽礫を多く、炭化物をこくまれに含む)
- 22 10Y7/1灰白色～5Y7/2灰白色シルト～細砂(0.2～0.5cmの白色偽礫をまばらに含む、酸化鉄)
- 23 5Y7/1灰白色～5Y8/1灰白色シルト～粗砂(0.2～0.5cm白色礫をまれに含む)
- 24 7.5Y7/1灰白色シルト～粗砂(炭化物をこくまれに含む)
- 25 5Y7/1灰白色～5Y8/2灰白色シルト(粗砂わずかに含む)
- 26 2.5Y7/1灰白色細砂まじりシルト(粗砂わずかに混じる、炭化物をまれに含む)
- 27 7.5Y6/1灰色～7.5Y7/1灰白色シルト～粗砂(0.2～0.5cmの白色偽礫をこくまれに含む)
- 28 10Y6/1灰色～7.5Y7/1明緑灰色シルト(0.2～0.5cmの白色偽礫・炭化物をこくまれに含む)
- 29 5GY7/1明オリーブ灰色シルト(細砂ブロック・0.2～0.5cmの白色礫をまれに含む)
- 30 10Y7/1灰白色～10Y6/1灰色シルト～粗砂(0.2～0.5cmの白色礫をまばらに含む、炭化物・木質遺物を含む)
- 31 5Y7/1灰白色～5Y8/1灰白色シルト～細砂(0.2～0.5cmの白色偽礫をまれに、炭化物をこくまれに含む)
- 32 5Y7/2灰白色～5Y7/1灰白色細砂～シルト(0.2～0.5cm白色礫をまばらに含む)
- 33 5Y7/1灰白色～2.5Y7/1灰白色シルト(粗砂わずかに混じる)
- 34 5Y7/2灰白色～5Y7/1灰白色シルト～粗砂(炭化物をこくまれに含む)
- 35 7.5Y7/1灰白色シルト～粗砂(0.2～0.5cm白色偽礫を多く含む、酸化鉄)
- 36 2.5Y6/1黄灰色～2.5Y7/1灰白色シルト～粗砂
- 37 2.5Y7/1灰白色～2.5Y8/1灰白色細砂～粗砂(0.2～1.0cmの礫を多く含む)
- 38 5Y7/1灰白色～5Y7/2灰白色シルト～粘土(炭化物をまばらに、0.2～0.5cmの白色礫をまれに含む)
- 39 5Y7/1灰白色～5Y7/2灰白色シルト～粘土(粗砂わずかに混じる、0.5cm白色偽礫・炭化物をまれに含む)
- 40 7.5Y6/1灰色～7.5Y8/1灰白色細砂～シルト(粗砂わずかに混じる)
- 41 2.5Y7/1灰白色シルト～細砂(細砂ブロック・0.2～0.5cmの白色偽礫を含む)
- 42 2.5Y7/1灰白色～5GY7/1明オリーブ灰色シルト(0.2～0.5cm白色礫を多く、細砂ブロックをまれに含む)
- 43 7.5Y6/1灰色～7.5Y7/1灰白色細砂まじりシルト～粘土(0.2～0.5cm白色礫・炭化物をまばらに含む)
- 44 5Y7/2灰白色～5Y7/1灰白色細砂～粗砂(0.5cmの白色礫をまばらに含む)
- 45 10Y7/1灰白色～10Y6/1灰色シルト(粗砂わずかに混じる、炭化物をまれに含む)
- 46 2.5Y6/1黄灰色～5Y6/1灰色粘土～細砂(0.2～0.5cm白色偽礫・炭化物をまれに含む)
- 47 2.5Y7/1灰白色～10YR7/1灰白色シルト～粗砂(0.2cmの白色偽礫・炭化物をまれに含む)
- 48 2.5Y7/2灰黄色～2.5Y7/1灰白色細砂～シルト(粗砂わずかに混じる、木質遺物を含む)
- 49 7.5Y7/1灰白色～5Y6/1灰色シルト～粗砂(炭化物・木質遺物をこくまれに含む)
- 50 7.5Y6/1灰色シルト～粗砂
- 51 2.5GY7/1明オリーブ灰色～10Y7/1灰白色シルト(炭化物をまれに含む)
- 52 10Y6/1灰色～10Y7/1灰白色シルト～細砂(0.2～1.0cmの白色礫をまばらに、炭化物・木質遺物をまれに含む)
- 53 2.5GY7/1明オリーブ灰色シルト～粗砂(0.2～0.5cmの白色礫を多く、炭化物をまれに含む)
- 54 2.5GY7/1明オリーブ灰色～5Y6/1灰色シルト～粗砂(細砂ブロック・0.2～0.3cm白色礫をまばらに、炭化物・木質遺物をまれに含む)
- 55 7.5Y5/1～2.5GY7/1明オリーブ灰色シルト～粗砂(炭化物をこくまれに含む)
- 56 7.5Y5/1灰色～2.5GY7/1明オリーブ灰色粘土～粗砂(0.2～0.5cm白色礫・木質遺物・炭化物をまれに含む、層北側は粘土の割合多い、層上部が弱い土壌化)
- 57 10Y5/1灰色～7.5GY5/1緑灰色細砂～シルト(粗砂わずかに混じる、木質遺物・炭化物をこくまれに含む、層上部が弱い土壌化)
- 58 5BG7/1明青灰色～7.5GY7/1明緑灰色粘土～シルト(細砂ブロックをまばらに、0.2～0.3cmの白色礫・炭化物・木質遺物をまれに含む)
- 59 5BG7/1明青灰色～5Y5/1灰色粗砂～細砂(木質遺物を含む、ラミナはみえないが砂粒の粒径揃う)
- 60 10Y4/1灰色～10Y6/1灰色粗砂～粘土(炭化物をまれに含む、層上部が弱い土壌化)
- 61 7.5Y7/1灰白色～10Y6/1灰色細砂～シルト(明青灰色粘土ブロックをまれに含む、木質遺物・炭化物を含む)
- 62 5BG7/1明青灰色～7.5Y6/1灰色粘土～シルト(木質遺物を多く含む)
- 63 5Y7/2灰白色～5Y7/1灰白色細砂～シルト(木質遺物をまばらに含む)
- 64 7.5Y7/1灰白色～7.5Y7/2灰白色粘土～シルト(木質遺物・炭化物をまれに含む)
- 65 2.5Y3/2黒褐色シルト～粘土(粗砂わずかに混じる、木質遺物を多く含む)
- 66 5Y7/1灰白色～5Y8/1灰白色粗砂～細砂(木質遺物を含む)
- 67 5Y7/1灰白色～5Y6/1灰色粗砂～細砂と2.5GY6/1オリーブ灰色シルトの互層(0.2～1.0cmの礫を含む、シルトの中に木質遺物を層状に多く含む)



第63図 確認調査1G遺構、包含層出土遺物 1



第64図 確認調査1G遺構、包含層出土遺物2

そのほか、47・48層下面では、遺構の検出はなかったが、2か所で炭化物がまとまって認められる範囲があった。

(4) 確認調査出土遺物

確認調査では、3Gでは打欠石錘、2Gもわずかに縄文土器片や中世の陶器片、平基式の石鏃などが出土したのみであった（第67・68図）。

1Gでは、第1遺構面検出の1001土坑埋土中から古代のものと思われる須恵器の鉢74や土師器甕75が出土する。

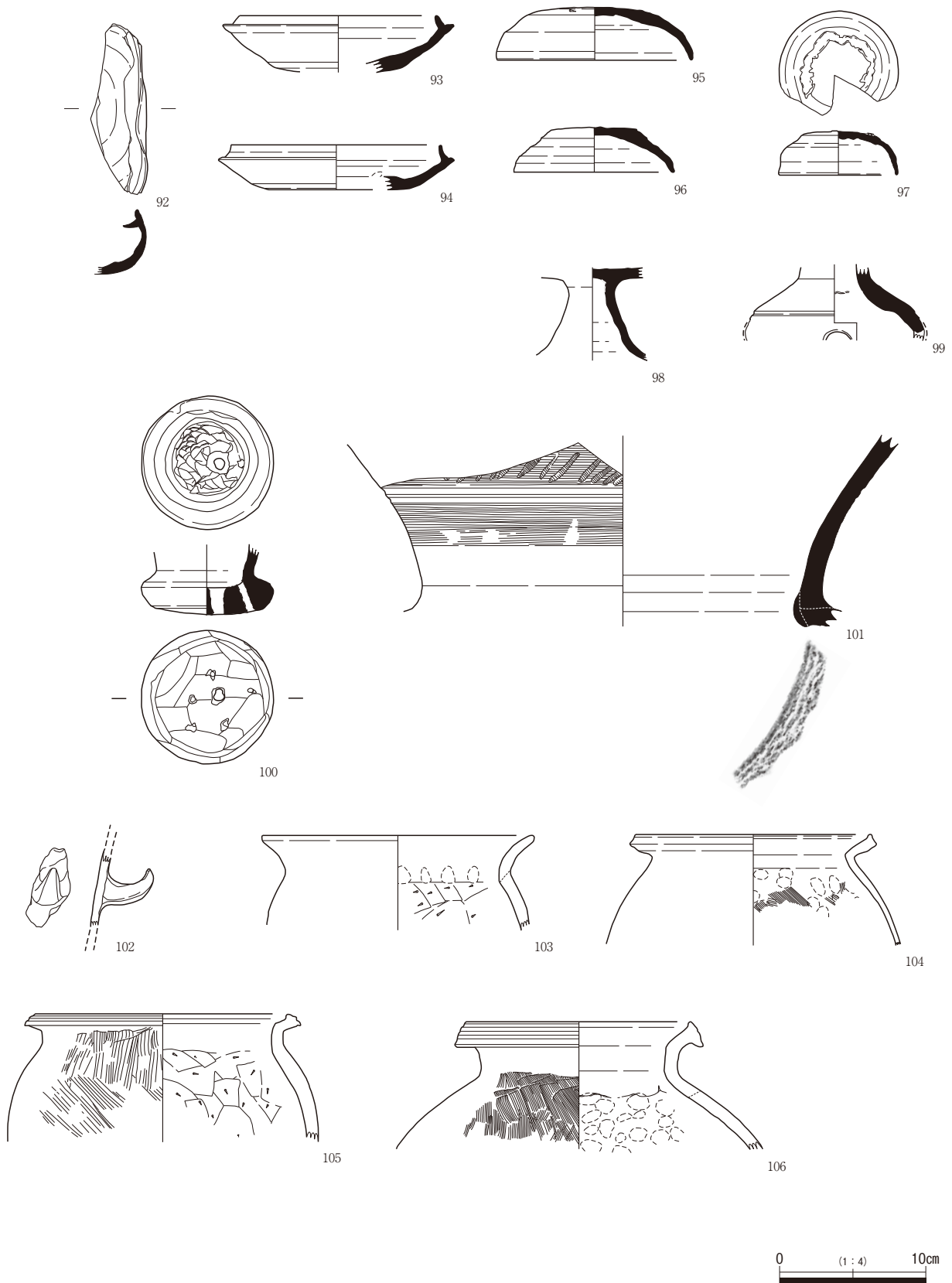
第2遺構面検出の土坑、溝からは、古墳時代後期から終末期にかけての須恵器杯78、甕76、竈片77などが出土するほか、第2遺構面直上でヘラ記号がある須恵器の蓋80、上層の2層中からは、古墳時代後期の須恵器の蓋81、高坏82・83などが出土する。

第3遺構面では、1006土坑から土玉91、第4遺構面検出の1010土坑では弥生時代中期の壺の破片が出土するほか、遺構面直上からは後期の器台、もしくは高坏の口縁部片90が出土している。

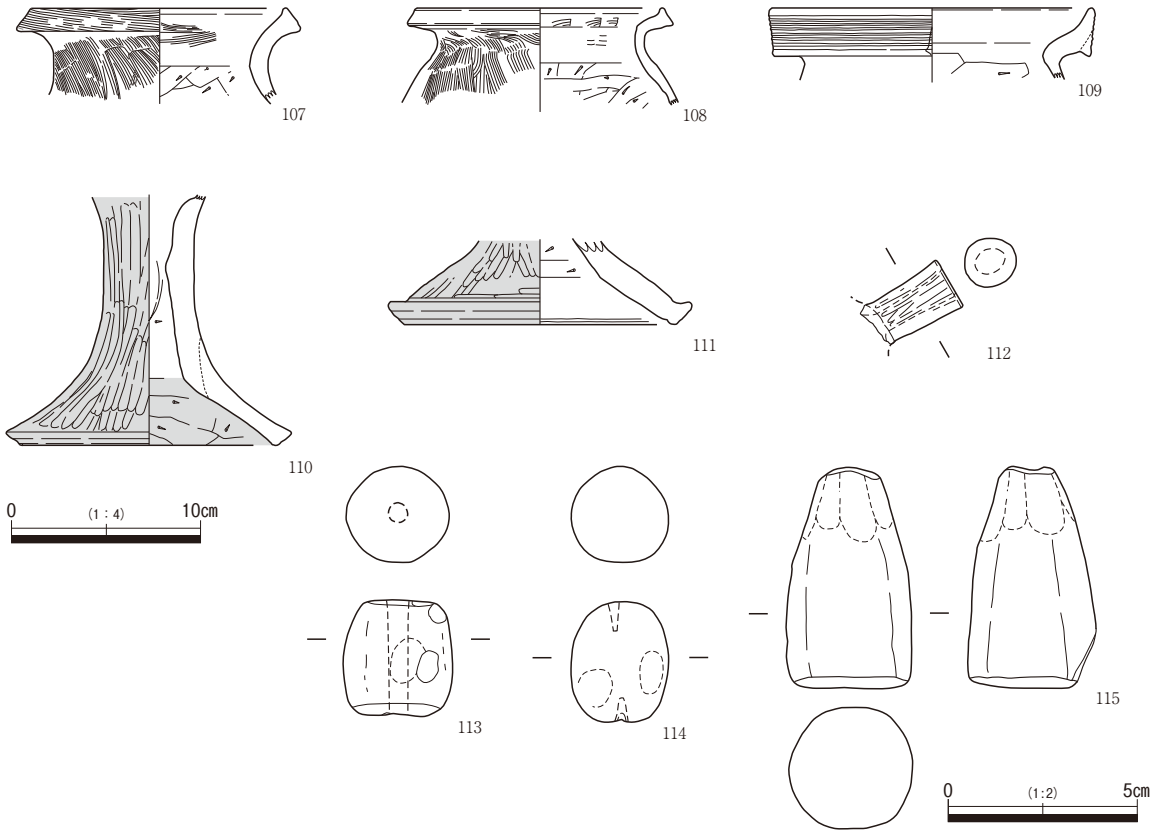
また、トレンチ掘削時の出土のため出土層位不明であるが、第65・66図のとおり弥生時代中期から後期、古墳時代終末期の土器多く認められた。須恵質の切妻家形陶棺の屋根部の破片も2点出土したが、陶棺片については平成24年度調査で出土したものと接合したため、第124図161として合わせて掲載した。そのほか磨製石斧2点が出土する。

から近年、もしくは近世頃の耕作土と思われる。7基のピットは、配置ならびに埋土ともに柱穴となるようなものではなかった。

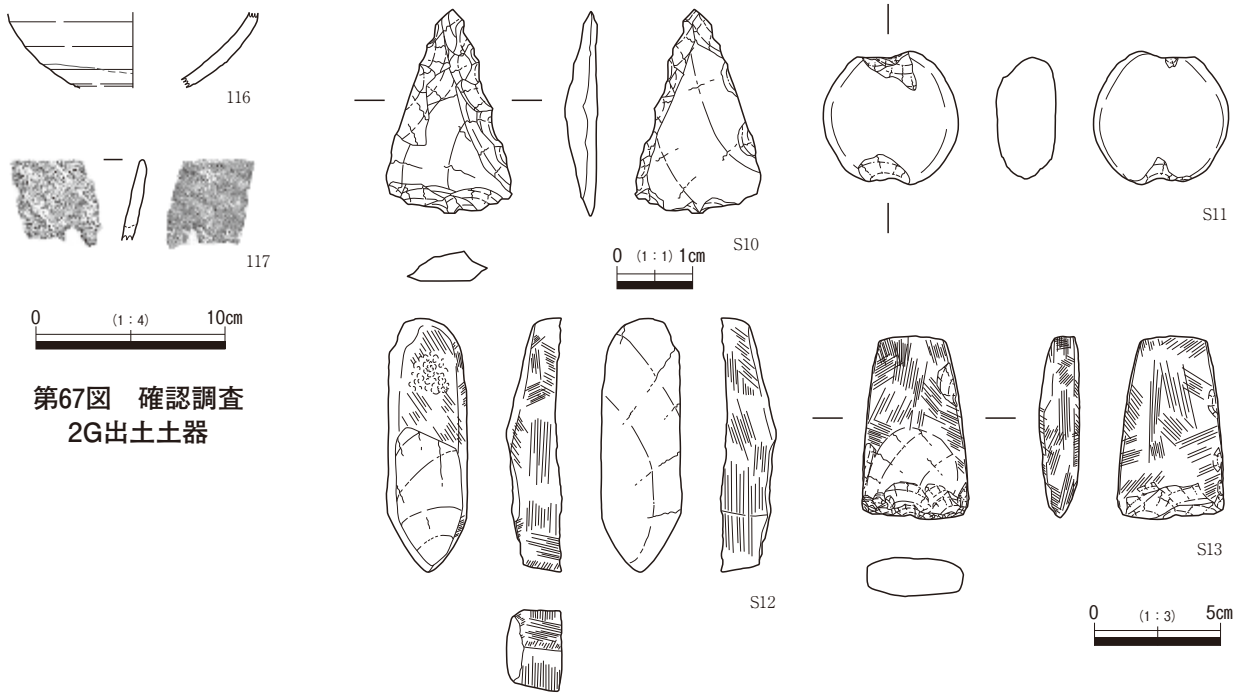
また、38・39層下面では、ピット1基（3008ピット）と擬似畦畔と思われる砂層（37層）の高まり1条を検出した。このうち擬似畦畔は東から北西に走向する。擬似畦畔として残る土層は、東壁では礫混じりの灰白色細砂～粗砂、北壁で偽礫混じりの灰白色シルト～細砂で、ともに攪拌を受けた土層である。また、後述する24年度調査でも同じ標高で擬似畦畔を確認している。



第65図 確認調査1Gトレンチ出土土器



第66図 確認調査1Gトレンチ出土遺物



第67図 確認調査
2G出土土器

第68図 確認調査出土石器

第5章 平成24年度の調査成果

第1節 調査の概要

平成24年度の調査は、平成23年度調査の直交トレンチ3で確認された堆積状況や確認調査の成果を受け、第7図のとおり、道路橋脚部分3地点を対象に実施した。A1区は丘陵裾部に、P1・P2区は三山口川右岸の谷底平野に位置する。調査の記録としては、調査区の配置から、A1区からP2区までの連続した層序の作成は困難であったため、基本層序の作成はしていない。土層の観察、分層は土色、碎屑物を基本に行い、さらに谷部に位置するP1・P2区については堆積時の構造が遺存する自然堆積層にb、人的活動などによって攪拌されたりした土壌化層をaに分け、土層注記に付した。

調査の結果、A1区では弥生時代から近世までの遺構と遺物、P1・P2区では縄文時代後期から近世までの遺構と遺物を確認した。

第2節 A1区の調査

A1区は平野部から丘陵裾部の斜面地に位置し、北東から南西にかけて傾斜する地形である。南西側は谷地形の傾斜が著しく、調査では弥生時代中期から近世までの自然堆積層、造成土層、耕作土層などが堆積する状況であった。遺構確認は11面で古墳時代から近世までの遺構の調査を行った。また、調査区南西側は周囲に打設された鋼矢板の強度の問題から、標高およそ5.6mで平成24年度の調査を終了とした。

(1) 第1遺構面（2層下面）の調査

北西部を除いて、ほぼ調査区全体に堆積する圃場整備以前の耕作土、2層除去後の遺構面である。2基のピットが確認されたほか、調査区中央にはほぼ南北に耕地段差と思われる低い段差が認められ、南側の一部では8石列が確認された。

1・2ピット、8石列

1ピットは調査区北西部の崖下の平坦面で検出した。平面は不整な方形状を呈し、1辺約60cmを測る。2ピットは調査区南東部に位置し、平面径20cm前後の不整な円形の小ピットである。

8石列は調査区中央南辺の耕地段差の肩部から下段にかけて検出した。10～30cm大の石からなる石群が列状になって北東から南西方向に延びる。検出長4.1m、検出幅0.4～0.7m。また、古墳時代終末期の陶棺の破片が混入遺物として出土する。

(2) 第2遺構面（5層上面）の調査

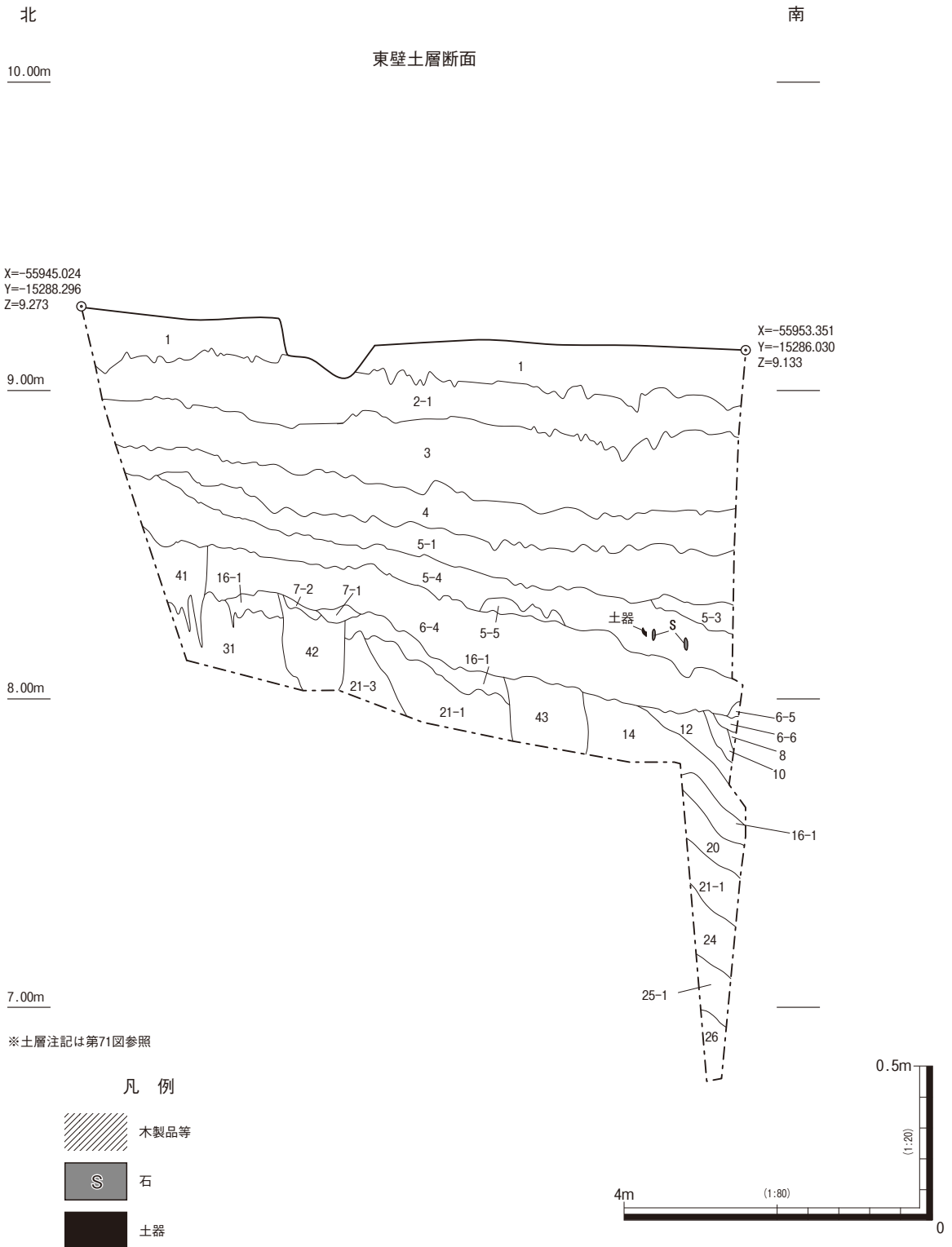
調査区東側の緩斜面地に認められる中世以降の耕作土層3・4層除去後、5層上面を遺構面とする。3～5・7の4基のピットを確認した。

3～5・7ピット

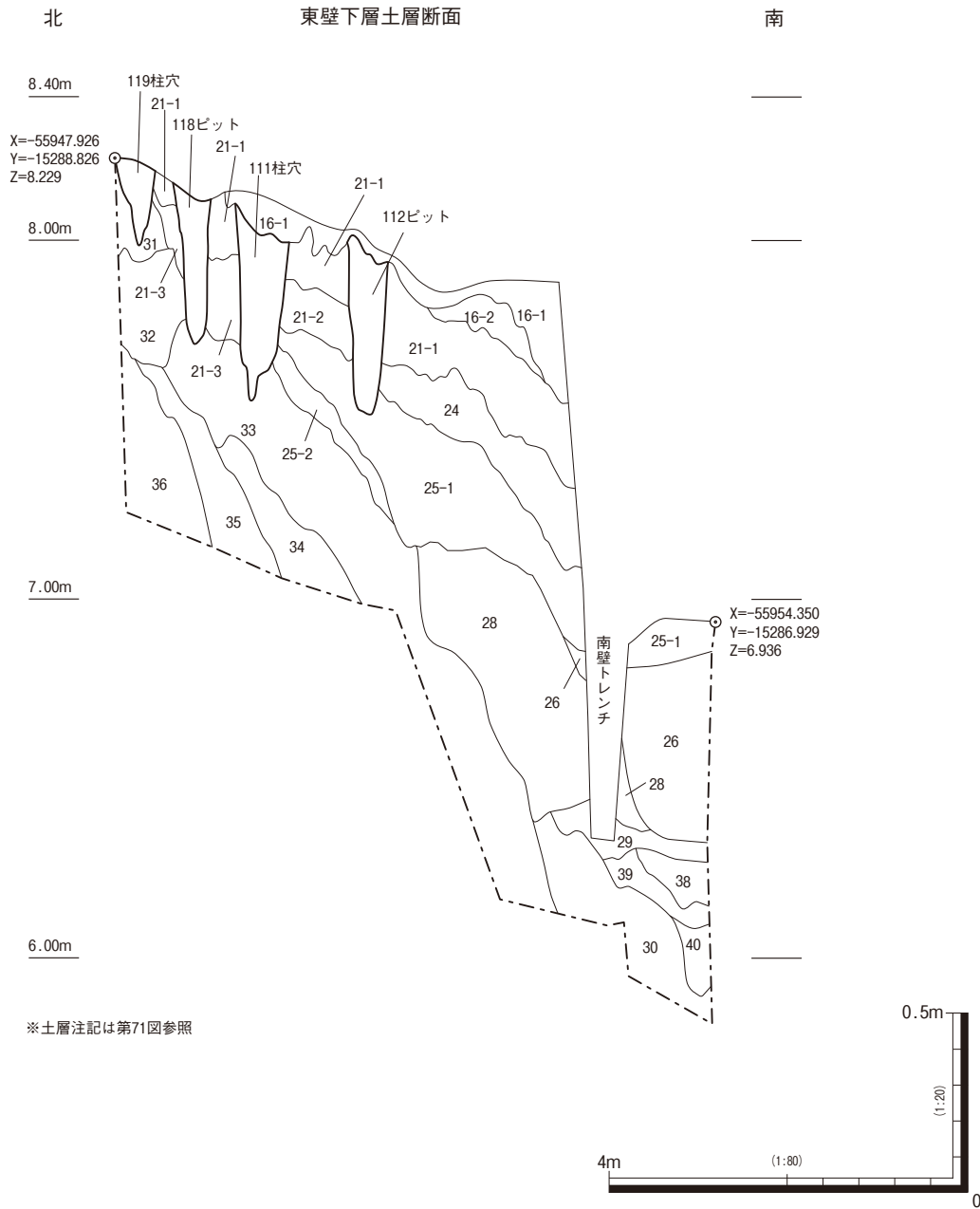
3～5・7ピットは平面がやや不整な円形、楕円形を呈し、径はおよそ30cm前後、深さは20～60cmほどである。4・5ピットは4層である黒褐色土が埋土として認められる。

(3) 第3遺構面（5層下面）の調査

調査区の北西部を除く、ほぼ全面にわたって認められた中世の耕作土層5層下面を遺構面とする。



第69図 A1区東壁上層土層断面図



第70図 A1区東壁下層土層断面図

また、本遺構面の基盤をなす6層も中世の時期が考えられ、瓦質の羽釜片などが出土する。北東から南西にかけて傾斜する地形で、調査区中央西寄りでは、南北に耕地段差とみられる段がある。遺構の大半はこの段の東側で認められ、掘立柱建物跡1棟、溝4条のほか、土坑、柱穴、ピットを25基検出した。

掘立柱建物跡1

調査区のほぼ中央に位置する梁行2間以上、桁行3間、主軸をN-9°-Wとする総柱掘立柱建物跡である。規模は桁行5.6m（柱間1.87m）を測るが、梁行は5層段階での耕作によるためか、南西側でピット底面に根石状に10~20cmの礫、中央に20×25cmほどの平坦面を持つ礎石が配置される39柱穴のみが確認でき、南辺側で3.5m（柱間1.85m）を測る。柱穴掘り方は、平面円形、もしくは楕円形のものが多く、規模は55~90cmであるが、南西の柱穴39柱穴は平面隅丸方形、1辺120cmを測る。埋土では44・69柱穴で柱痕跡、45柱穴で柱のあたり痕跡が認められた。また、柱穴底面標高は、39柱穴が礎石上面で6.97m、58ピットが7.14m、それ以外は7.30~7.60mと南西の柱穴の標高が低くなる。

本遺構の時期は、出土遺物に43・44柱穴、39柱穴から古墳時代から一部古代に降る可能性のある土器が認められるが、検出面の基盤層である6層中から瓦質、土師質の羽釜片が出土することから中世以降である。

9・10・14土坑、40柱穴、16~24・29・30・32・33・36~38・41・42・53・55・56ピット

9・10・14土坑はいずれも調査区南辺の中央の位置で確認した。柱穴及びピットとした遺構よりも大きく、平面がやや不定形な遺構である。検出規模は60~140cm、深さは30cm前後を測る。埋土はいずれも暗灰黄色の細砂~シルトで、混入するシルトブロックや小礫によって分層ができる。

柱穴及びピットとした遺構は、16~24・29・30・32・33・36~38・40~42・53・55・56の22基である。すべて調査区中央から東側に位置する。平面形は円形もしくは楕円形で、規模は径15~60cmである。40柱穴では柱材が認められるが、調査区内には、本柱穴と構成して建物等になる遺構の配列は認められなかった。

11・12・25・35溝

11・12溝は調査区の中央南寄り、10C-6jに位置する。南東から北西方向に平行に走向し、確認した規模は、11溝が長さ1.7m、幅0.3m、12溝が長さ3.0m、0.4mを測る。25・35溝は10C-5jから10C-6jにかけて位置する。両者はほぼ南北に直線状に位置し、規模は25溝が、長さ2.0m、幅0.3m、35溝が長さ1.0m、幅0.25mを測る。埋土はいずれも暗灰黄色の細砂~シルトの単層が堆積する。

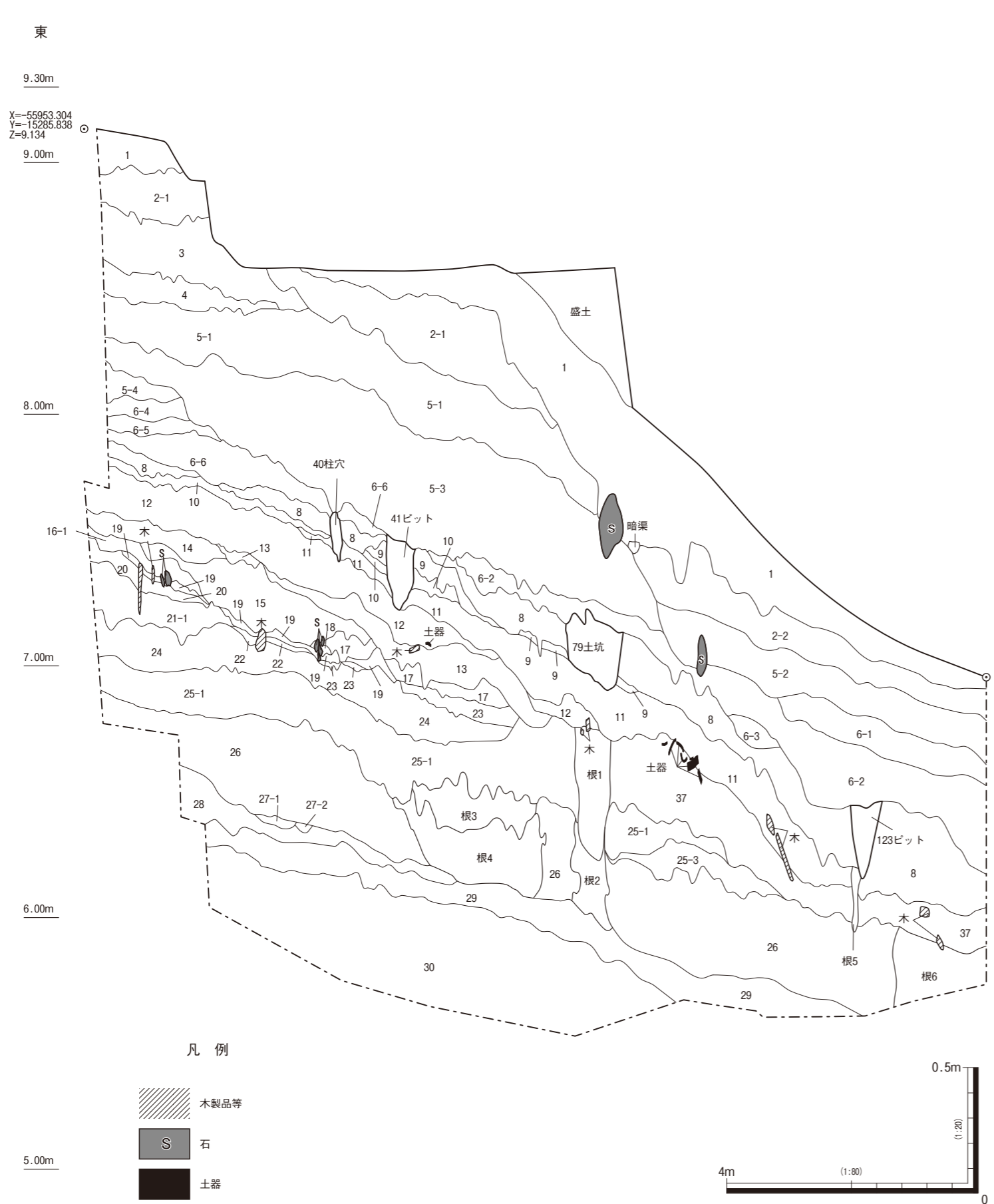
(4) 第4遺構面（6層下面）の調査

中世の羽釜片や鍋の破片を包含する6層除去後の遺構面である。本遺構面の基盤をなす土層には、主だったものに7・8・16層などがみられる。7層は北東部の平坦面に堆積しており、後述する竪穴住居跡1に係わる土層である。8層は南部の斜面に堆積する造成土とみられるほか、16層は整地土と思われ、調査区東側で平坦面を形成する。

遺構は調査区中央部、南辺部、及び北東部で土坑1基（79土坑）、柱穴4基（47・61・64・74柱穴）、ピット11基（49~51・57・62・63・67・68・80・81・123ピット）の合計16基を確認した。

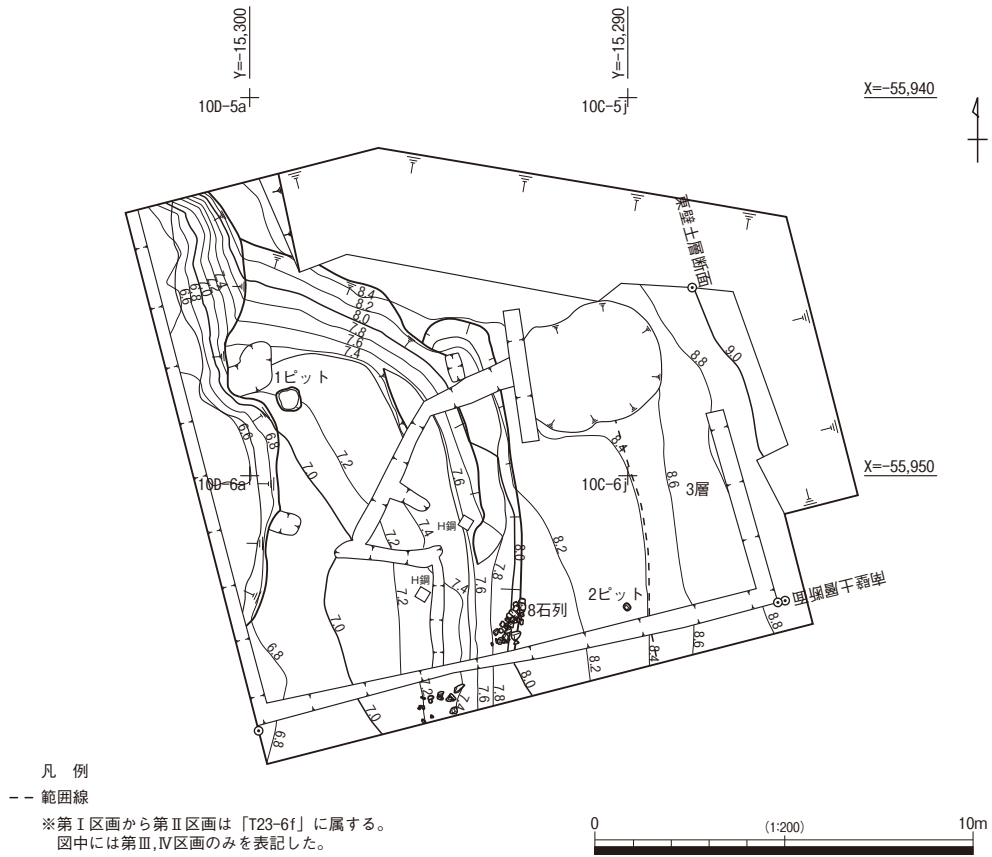
79土坑、47・61・64・74柱穴、49~51・57・62・63・67・68・80・81・123ピット

79土坑は調査区南壁側に位置する。トレンチにより遺構の北側半分ほどを掘削してしまっただが、確認できた規模で、東西90cm、深さ20cmを測る。

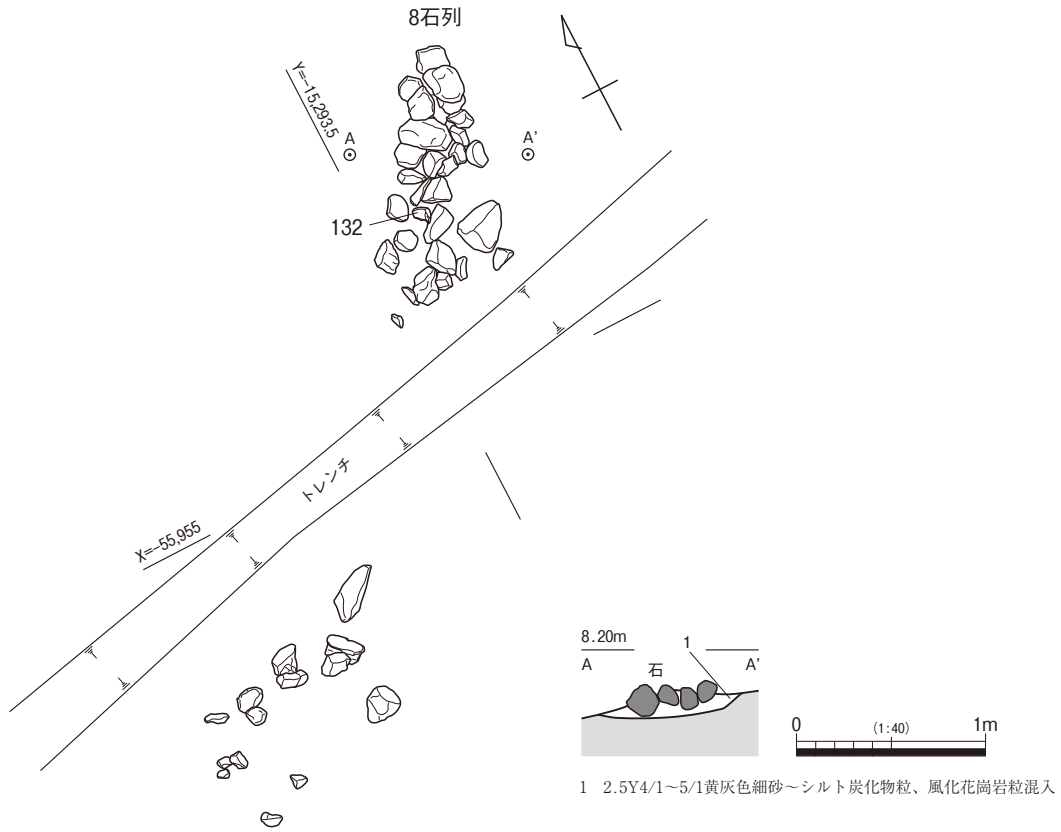


- 西
- 1 2.5Y4/1~5/1黄灰色細砂~シルト 粗砂含む(表土)
 - 2-1 2.5Y4/2~5/2暗灰黄色細砂~シルト 旧耕土、炭化物粒・土器・須恵器等・他キセル煙管含む(耕作土)
 - 2-2 10YR5/3~4/3にぶい黄褐色細砂~シルト 炭化物粒・φ0.2~1.0cm大の風化礫混入(耕作土)
 - 3 10YR3/2黒褐色~10YR3/3暗褐色細砂~シルト 0.2~6.0cm大の白色礫・炭化物粒含む(耕作土)
 - 4 10YR3/1~5/3/2黒褐色細砂~シルト 炭化物粒・0.2~2.0cm大の風化礫混入(造成土か)
 - 5-1 10YR4/1褐色~10YR4/2灰黄褐色細砂~シルト 炭化物粒・0.2~1.0cm大の風化礫混入(耕作土)
 - 5-2 10YR3/3暗褐色細砂~シルト 炭化物粒・φ0.2~1.0cm風化小礫・シルトブロック混入(耕作土)
 - 5-3 2.5Y4/1~5/1黄灰色細砂~シルト 炭化物粒・φ0.3~1.0cm大の風化小礫混入(耕作土)
 - 5-4 10YR4/1~5/1褐色細砂~シルト 炭化物粒、φ0.2~3.0cm大の風化小礫混入(耕作土)
 - 5-5 10YR4/3~5/3にぶい黄褐色細砂~シルト 風化花崗岩粒混入
 - 6-1 10YR3/1~3/2黒褐色細砂~シルト 炭化物粒・φ0.2~0.5cm大の風化小礫・細砂小ブロック少量混入(造成土か)
 - 6-2 10YR2/3~3/2黒褐色細砂~シルト 炭化物粒・φ0.2~0.3cm大の風化小礫少量混入(造成土か)
 - 6-3 2.5Y4/1~5/1黄灰色細砂~シルト 炭化物粒・φ0.2~1.0cm大の風化小礫少量混入(造成土か)
 - 6-4 2.5GY3/1~4/1暗オリーブ灰色細砂~シルト(粘質) 炭化物粒・φ0.2~0.5cm大の風化小礫・黄褐色シルト小ブロック混入
 - 6-5 5GY3/1~4/1暗オリーブ灰色細砂~シルト(粘質) 炭化物粒・φ0.1~0.3cm大の風化小礫・粘土小ブロック混入
 - 6-6 2.5GY3/1~4/1暗オリーブ灰色細砂~シルト(粘質) 炭化物粒・φ0.2~1.0cm大の風化小礫・黄褐色粘土小ブロックやや多量に混入
 - 7-1 10YR2/2黒褐色と10YR4/1褐色細砂~シルト(流水堆積) 互層状堆積(ラミナ)・炭分含有
 - 7-2 10YR6/2灰黄褐色~10YR5/3にぶい黄褐色細砂~シルト(流水堆積)
 - 8 5GY3/1~4/1暗オリーブ 灰色細砂~シルト(粘質) 炭化物粒(φ0.2~1.0cm)・黄褐色粗砂ブロック・風化白色礫粒やや多量に混入
 - 9 2.5GY3/1黒褐色~2.5Y2/1黒色細砂~シルト(粘質) 炭化物粒(φ0.2~0.3cm)・風化白色礫粒・黄褐色粘土~シルト小ブロック混入
 - 10 2.5Y4/2暗灰黄色~2.5Y3/1黒褐色細砂~シルト(粘質) 風化花崗岩粒(φ0.5~1.0cm)・炭化物粒混入
 - 11 10YR3/3暗褐色~10YR2/3黒褐色細砂~シルト(有機質) 風化花崗岩粒(φ0.2~1.0cm)少量混入
 - 12 2.5Y4/1黄灰色~2.5Y3/1黒褐色シルト~粘土 炭化物粒(φ0.1~0.2cm)・風化花崗岩粒(φ0.2~0.3cm)混入
 - 13 10YR3/3暗褐色~10YR2/3黒褐色シルト~粘土(有機質) 炭化物粒(0.1~0.2cm)・灰色粘土小ブロック混入
 - 14 5Y3/1オリーブ黒色~5Y4/1灰色細砂~シルト(粘質) 炭化物粒・風化花崗岩粒少量混入
 - 15 2.5Y4/1黄灰色~2.5Y3/1黒褐色シルト~粘土 炭化物粒(φ0.2~0.5cm)・風化花崗岩粒(0.2~2.0cm)・黄褐色・黒褐色シルト~粘土小ブロック多量に混入(造成土)
 - 16-1 10YR4/1褐色~10YR4/2灰黄褐色細砂~シルト 炭化物粒(φ0.2~0.5cm)・風化花崗岩粒(0.2~0.5cm)・黄褐色・黒褐色シルト~粘土小ブロック多量に混入(造成土)
 - 16-2 2.5Y3/1~3/2黒褐色細砂~シルト(粘質) 炭化物粒・風化花崗岩粒・灰色シルト~粘土小ブロック混入
 - 17 2.5Y3/1黒褐色~2.5Y2/1黒色細砂~シルト(粘質) 炭化物粒・風化花崗岩粒・灰色シルト~粘土ブロック混入
 - 18 10YR3/1~3/2黒褐色細砂 シルト・有機物・小礫(φ4~5cm)混入
 - 19 10YR3/1~2/2黒褐色シルト~粘土(有機質) 有機物混入
 - 20 2.5Y2/1黒色~2.5Y3/1黒褐色シルト~粘土 細砂・炭化物粒・風化花崗岩粒混入
 - 21-1 7.5YR3/1黒褐色シルト~粘土 炭化物粒(φ0.2~0.5cm)・風化花崗岩粒・黄褐色・黒褐色シルト~粘土小ブロック混入(造成土)
 - 21-2 7.5YR3/1~3/2黒褐色シルト~粘土 炭化物粒・風化花崗岩粒・黄灰色シルト小ブロック混入
 - 21-3 21-1層と31~33層の混成土
 - 22 5Y4/1灰色~5Y4/2灰オリーブ色細砂 シルト・有機物・炭化物混入
 - 23 10YR4/1褐色~10YR4/2灰黄褐色細砂 シルト・炭化物粒・有機物粒少量混入
 - 24 10YR4/2灰黄褐色~10YR5/3にぶい黄褐色細砂~シルト(粘質) 炭化物粒・風化花崗岩粒(φ0.2~8.0cm)・黄褐色粘土~シルトブロック混入(造成土)
 - 25-1 2.5Y4/1黄灰色~2.5Y3/1黒褐色シルト~粘土 炭化物粒混入、風化花崗岩粒(φ2.0~3.0cm)少量混入
 - 25-2 25-1と33との混成土
 - 25-3 2.5Y3/1黒褐色~2.5Y2/1黒色シルト~粘土 炭化物粒・風化花崗岩粒・黄灰色シルト~粘土小ブロック混入
 - 26 2.5Y5/2暗灰黄色~2.5Y5/3黄褐色シルト~粘土 炭化物粒・風化花崗岩粒少量混入
 - 27-1 10YR3/1黒褐色~10YR3/3暗褐色シルト~細砂(粘質・有機質)
 - 27-2 26層と同質、ブロック状
 - 28 10YR3/1~2/2黒褐色シルト~粘土 炭化物粒・風化花崗岩粒混入
 - 29 2.5Y3/1黒褐色~2.5Y4/1黄灰色細砂~シルト(粘質) 炭化物粒・風化花崗岩粒混入
 - 30 2.5Y5/1~6/1黄灰色シルト~粘土(地山か)
 - 31 2.5Y6/2灰黄色~7.5YR4/6褐色粘土 シルト混(地山)
 - 32 2.5Y6/2灰黄色~2.5Y5/2暗灰黄色シルト~粘土(地山)
 - 33 2.5Y5/1黄灰色~2.5Y5/2暗灰黄色粘土~シルト(地山)
 - 34 33層と類似、やや砂質
 - 35 5Y5/1灰色~5Y5/2灰オリーブ色細砂~シルト(粘質)(地山)
 - 36 5Y5/2灰オリーブ色~5Y5/1灰色細砂~シルト 粘質・風化花崗岩ブロック混入
 - 37 10YR3/1~2/2黒褐色細砂~シルト 炭化物粒・風化花崗岩粒・有機物小片混入(13層に対応、相当層か)
 - 38 5GY4/1暗オリーブ灰色~5GY5/1オリーブ灰色細砂 炭化物粒混入
 - 39 2.5Y4/1黄灰色~2.5Y3/1黒褐色シルト~粘土 炭化物粒・風化花崗岩粒・黄灰色シルト小ブロック混入
 - 40 5Y4/2~5/2灰オリーブ色細砂~シルト(粘質) 炭化物粒・風化花崗岩粒混入
 - 41 2.5Y4/1~5/1黄灰色細砂~シルト 炭化物粒・風化花崗岩粒・黄褐色~灰黄色シルト~粘土小ブロック混入(土坑か)
 - 42 10Y4/1~5/1灰色細砂~シルト(粘質) 炭化物粒・風化花崗岩粒・黄灰色シルト~粘土小ブロック混入(土坑か)
 - 43 2.5GY4/1暗オリーブ灰色~2.5GY5/1オリーブ灰色細砂~シルト(粘質) 炭化物粒・風化花崗岩粒・黄褐色シルト小ブロック混入(土坑か)
 - 根1 2.5Y3/1黒褐色~2.5Y2/1黒色細砂~シルト(有機質) 炭化物粒・風化花崗岩粒・有機物片混入、根攪乱
 - 根2 2.5Y3/1~3/2黒褐色細砂~シルト 炭化物粒・風化花崗岩粒・26層ブロック混入、根攪乱
 - 根3 26層ベースに、2.5Y3/1~3/2黒褐色シルト~粘土ブロックが少量混入、根攪乱
 - 根4 2.5Y3/1黒色~2.5Y3/1黒褐色シルト~粘土 炭化物粒・風化花崗岩粒・26層ブロックと混成、根攪乱
 - 根5 5Y4/1灰色~5Y3/1オリーブ黒色粗砂~細砂 炭化物粒混入、根攪乱
 - 根6 2.5Y3/1~3/2黒褐色シルト~粘土(有機質) 炭化物粒混入(29層の舞い上がり)、根攪乱

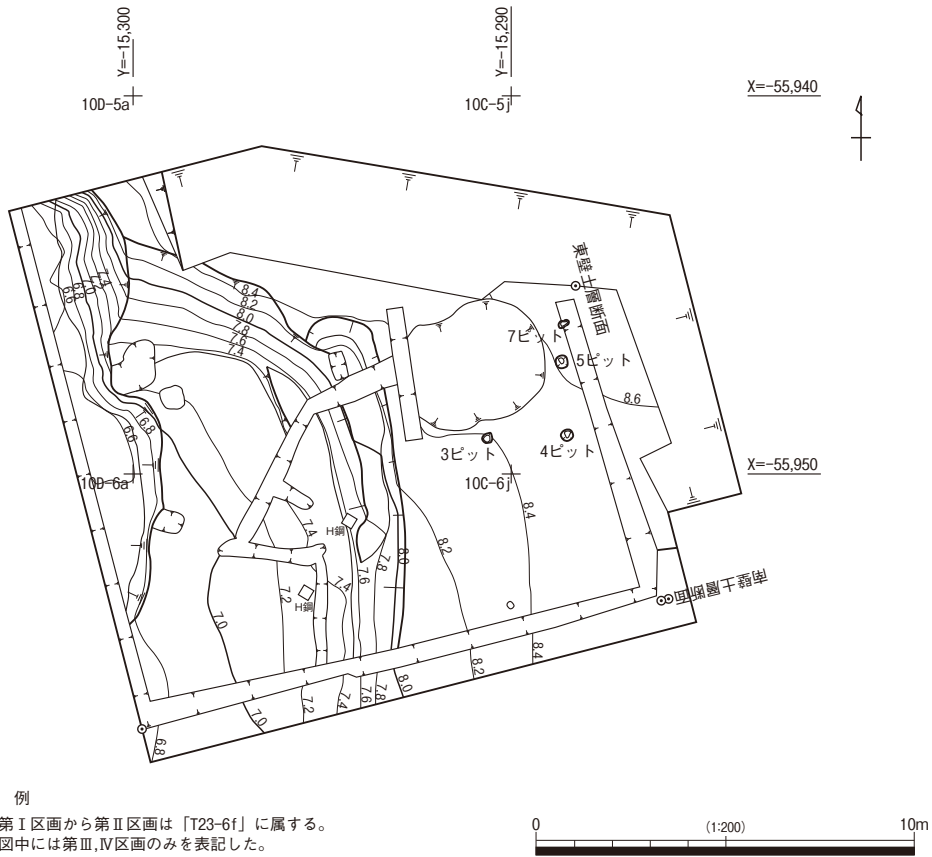
第71図 A1区南壁土層断面図



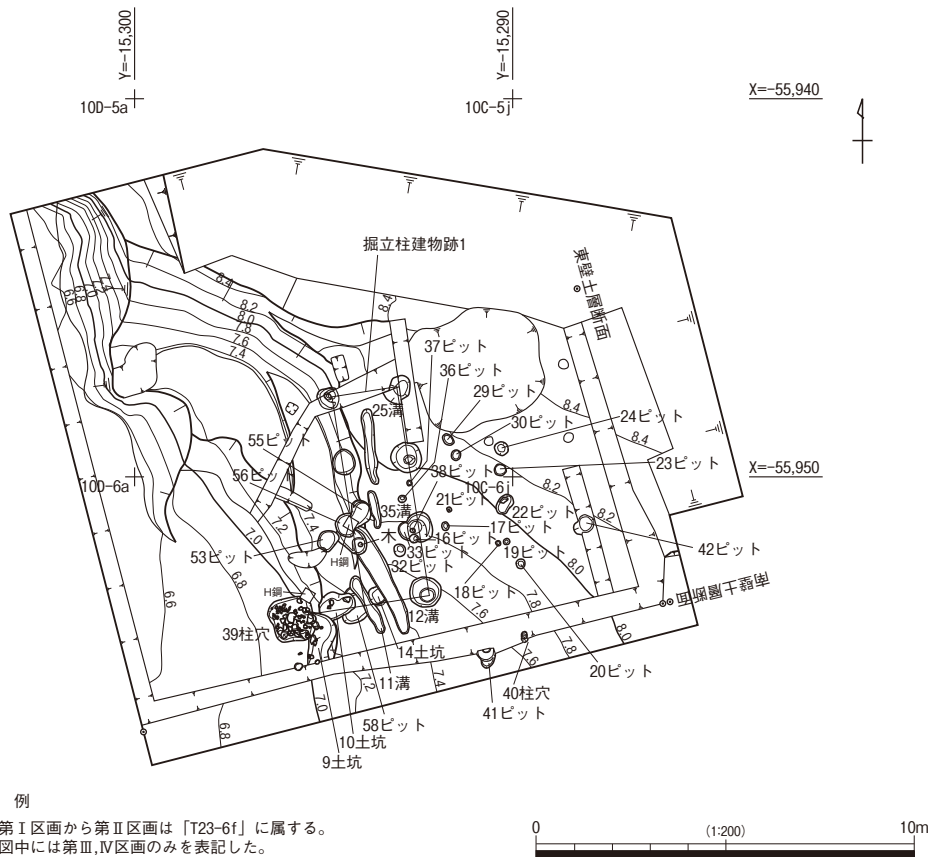
第72図 A1区第1遺構面全体図



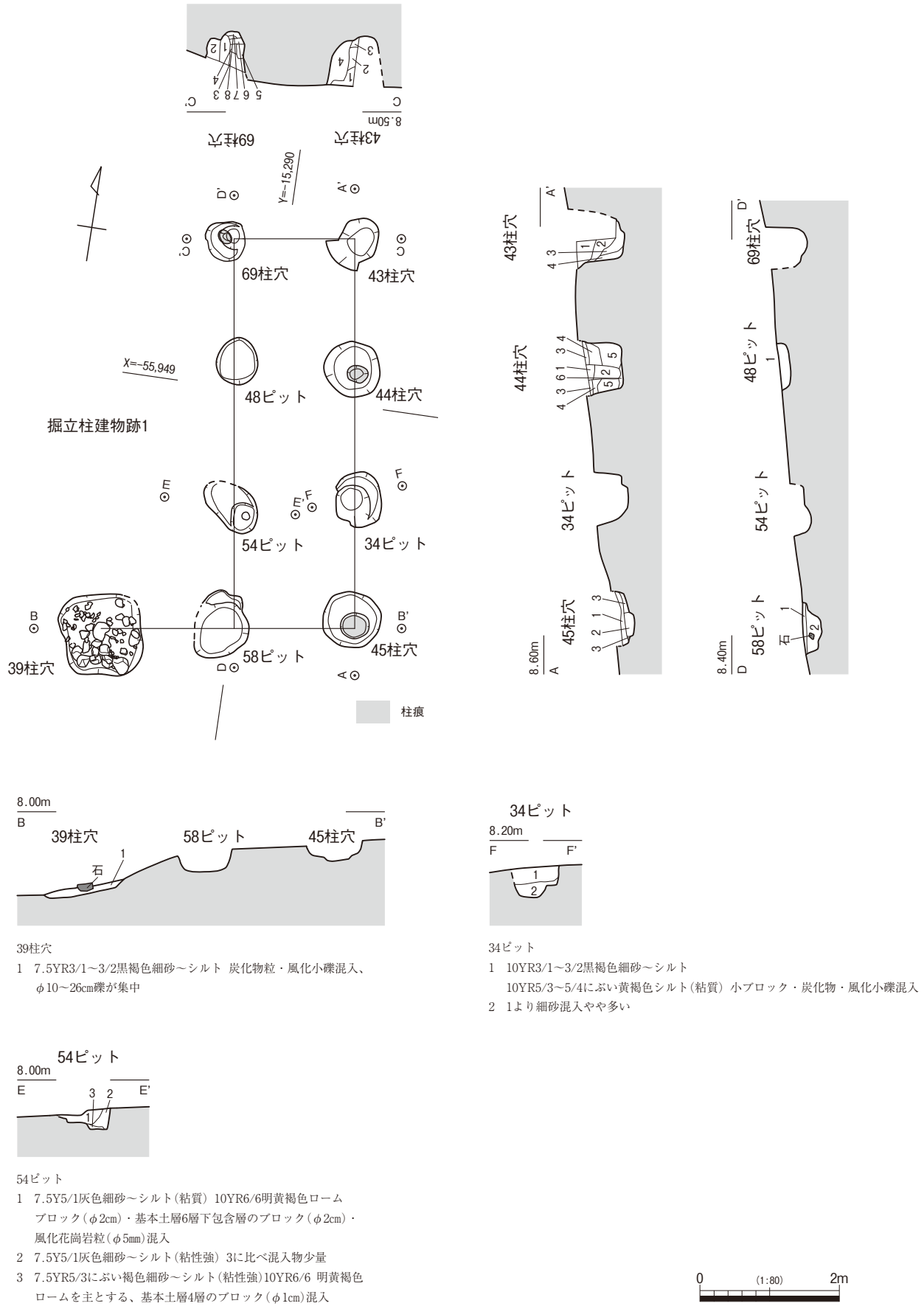
第73図 A1区8石列



第74図 A1区第2遺構面全体図



第75図 A1区第3遺構面全体図



第76図 A1区掘立柱建物跡1

39柱穴遺物出土状況図



43柱穴

- 1 10YR4/1~5/1褐色細砂~シルト 炭化物粒混入、上部、白色風化礫粒混入多い
- 2 10YR3/2黒褐色細砂~シルト 炭化物粒・白色風化礫粒・褐色シルト小ブロック混入
- 3 10YR3/1~3/2黒褐色細砂~シルト(粘質) 炭化物粒・白色風化礫粒・灰黄褐色シルト小ブロック混入
- 4 10YR4/3~5/4にぶい黄褐色細砂~シルト(粘質) 炭化物粒・黒褐色細砂~シルト小ブロックと褐色シルト小ブロックが互層状に堆積

44柱穴

- 1 2.5Y4/2~5/2暗灰黄色細砂~シルト(粘質) 炭化物粒・白色風化礫粒混入
- 2 2.5Y3/1~3/2黒褐色細砂~シルト(粘質) 炭化物粒・白色風化礫粒少量混入
- 3 10YR4/2~5/2灰黄褐色細砂~シルト(粘質) 炭化物粒・白色風化礫粒・灰色・黄褐色・黒褐色シルト小ブロック混入
- 4 2.5Y3/2黒褐色~2.5Y3/3暗オリーブ褐色細砂~シルト(粘質) 炭化物粒・白色風化礫粒少量混入、褐色・黒褐色シルト小ブロック混入
- 5 10YR3/1~3/2黒褐色細砂~シルト(粘質) 炭化物粒・白色風化礫粒少量混入、灰黄褐色・褐色シルト小ブロック混入
- 6 10YR5/3にぶい黄褐色~10YR5/2灰黄褐色シルト~粘土(砂質)

45柱穴

- 1 2.5Y4/1黄灰色~2.5Y4/2暗灰黄色細砂~シルト(やや粘質) 炭化物粒・黄褐色風化礫・白色風化礫小片・灰色粘土小ブロック等々多く混入
- 2 2.5Y4/1黄灰色~2.5Y3/1黒褐色細砂~シルト(やや粘質) 炭化物粒・黄褐色風化小礫・灰色粘土小ブロック混入
- 3 2.5Y4/1黄灰色~2.5Y3/2黒褐色細砂~シルト(やや粘質) 炭化物粒・黄褐色風化小礫・白色風化小礫・灰色シルト小ブロック混入

48ピット

- 1 2.5Y4/1黄灰色~2.5Y4/2暗灰黄色シルト~粘土(やや砂質) 炭化物粒・黄褐色風化小礫・白色風化小礫・灰色シルト小ブロック混入

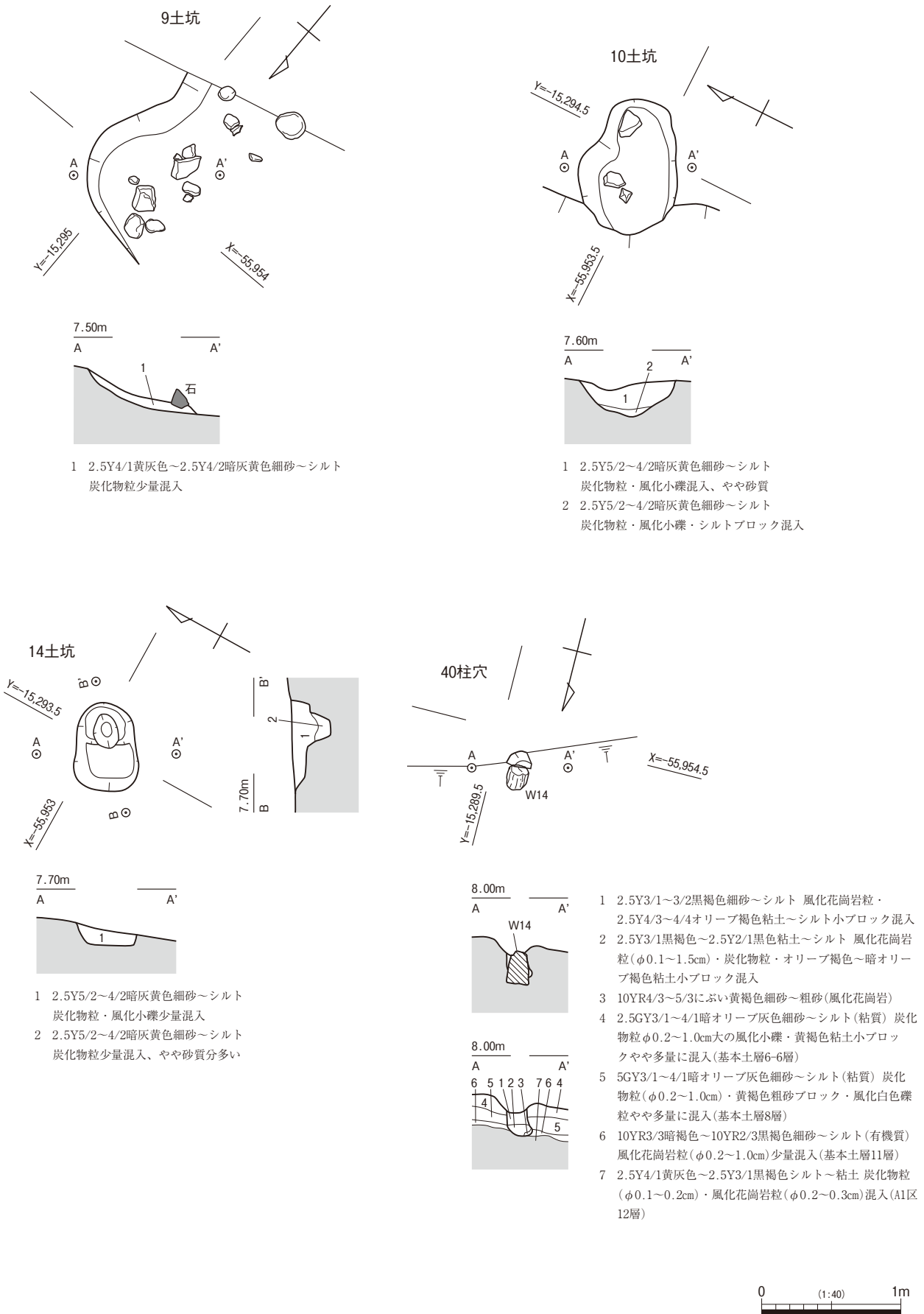
58ピット

- 1 2.5Y3/1~3/2黒褐色細砂~シルト(粘質) 炭化物粒・白色風化礫粒混入
- 2 10YR3/1~3/2黒褐色細砂~シルト(粘質) 炭化物粒・白色風化礫粒・灰黄褐色粘土小ブロック混入

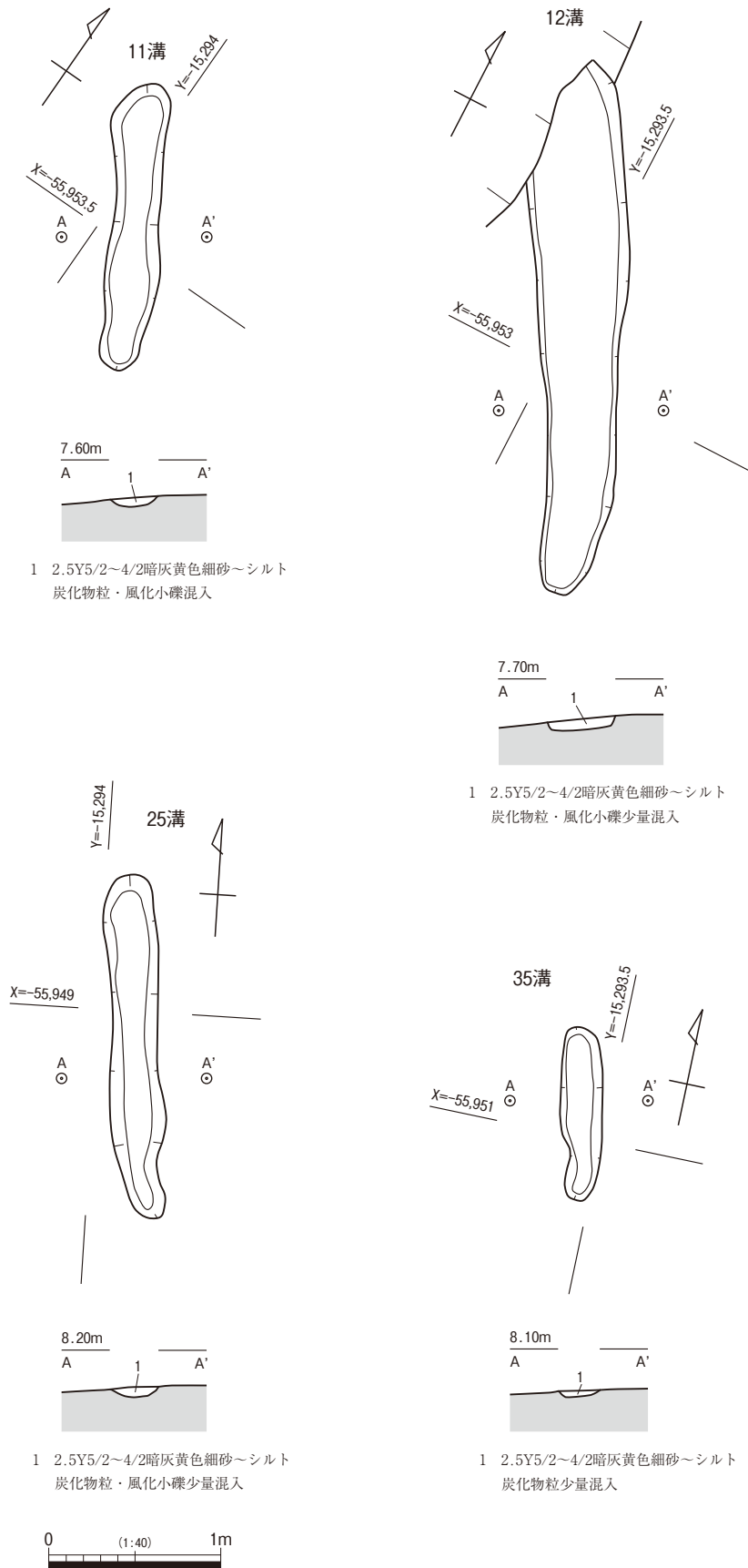
69柱穴

- 1 10YR3/2黒褐色細砂~シルト(粘質) 炭化物粒・白色~黄褐色風化礫粒混入
- 2 10YR4/3にぶい黄褐色~10YR4/4褐色細砂~シルト(粘質) 炭化物粒・白色風化礫粒・黒褐色シルト小ブロック混入
- 3 10YR4/4~4/6褐色細砂~シルト(粘質) 炭化物粒・白色~黄褐色風化礫粒混入
- 4 10YR4/2灰黄褐色~10YR4/1褐色細砂~シルト(粘質) 炭化物粒・灰色~黄褐色シルト小ブロック混入
- 5 10YR5/6~5/8黄褐色 細砂~シルト(粘質) 炭化物粒・白色~褐色風化礫粒・黒褐色シルト小ブロック混入
- 6 10YR5/3~5/4にぶい黄褐色細砂~シルト(粘質) 黄褐色・黒褐色シルト小ブロック混入
- 7 10YR5/2灰黄褐色~10YR5/3にぶい黄褐色細砂~シルト
- 8 10YR5/6~5/8黄褐色細砂~シルト 黒褐色シルト小ブロック少量混入

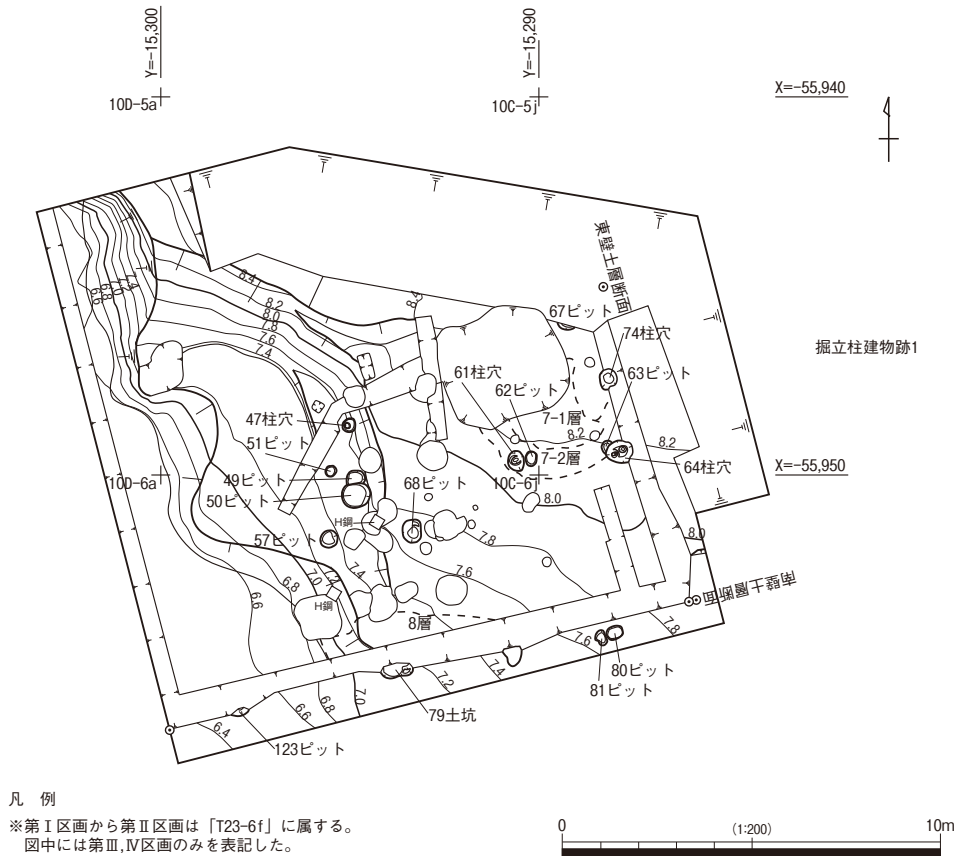
第77図 A1区掘立柱建物跡1 39柱穴



第78図 A1区9・10・14土坑、40柱穴



第79図 A1区11・12・25・35溝



第80図 A1区第4遺構面全体図

47柱穴は中央部北側で確認した。平面は不整な円形を呈し、径30~40cm、深さ10cmを測る。埋土の観察では直径15cm、深さ4cmの柱のあたり痕跡を確認したが、本柱穴と構成して建物等になる遺構は認められなかった。

61・64・74柱穴は調査区東側に位置する。平面は楕円形を呈し、規模は61柱穴が径42~54cm、深さ41cm、64柱穴は径60~71cm、深さ53cm、74柱穴は径42~52cm、深さ76cmを測る。埋土の観察では、61柱穴では柱痕跡が確認でき、64・74柱穴からは柱材が出土する。これらの柱穴は付近の攪乱や調査区際での確認であったことから不明な部分があるが、その位置関係から掘立柱建物跡になる可能性がある。

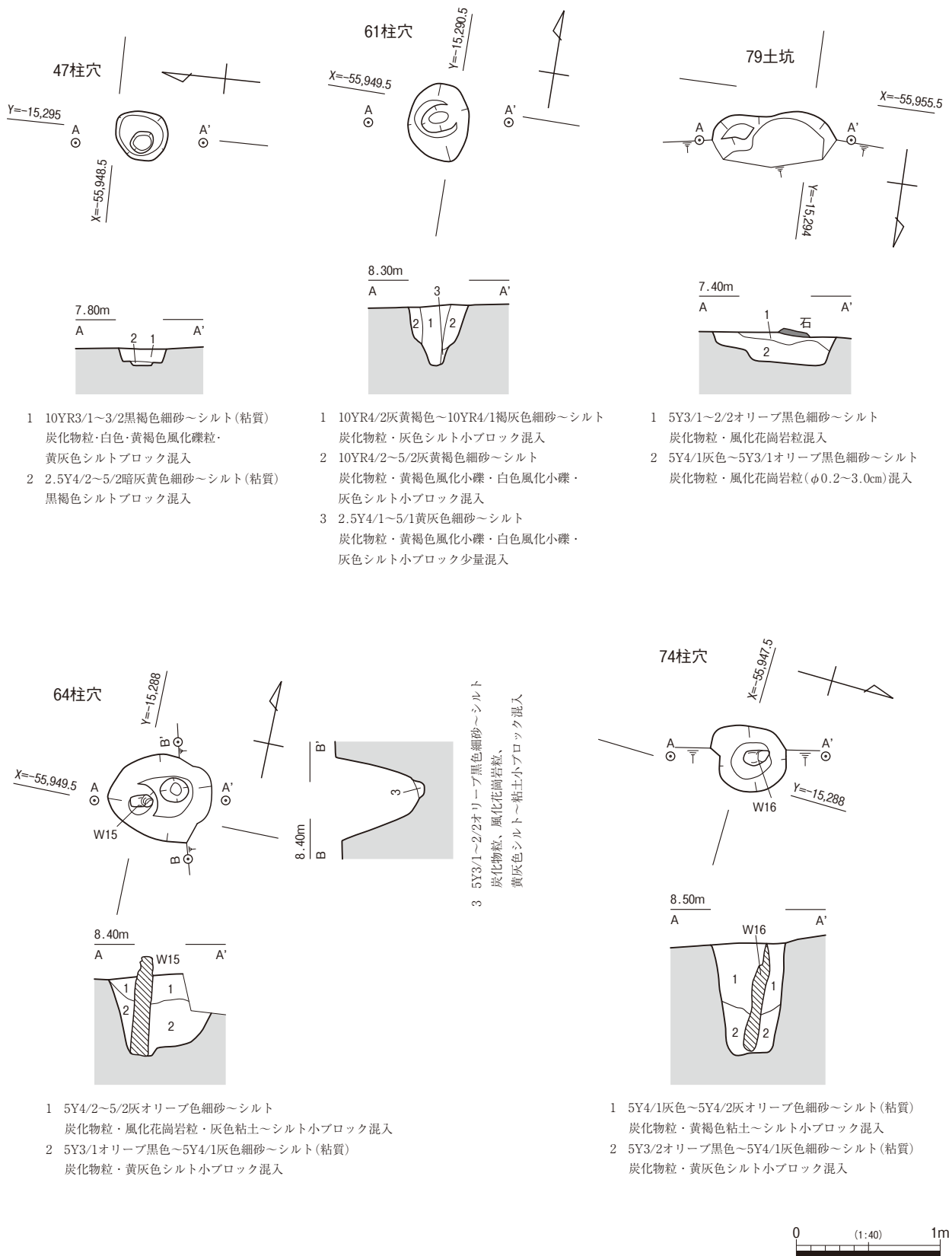
49~51・57・62・63・67・68・80・81・123ピットの計13基は主に調査区中央部以東に分布する。平面は円形から不整な円形で、規模は径30~80cmまでが認められる。

(5) 第5・6遺構面(7-1・8層下面、7-2・11層下面)の調査

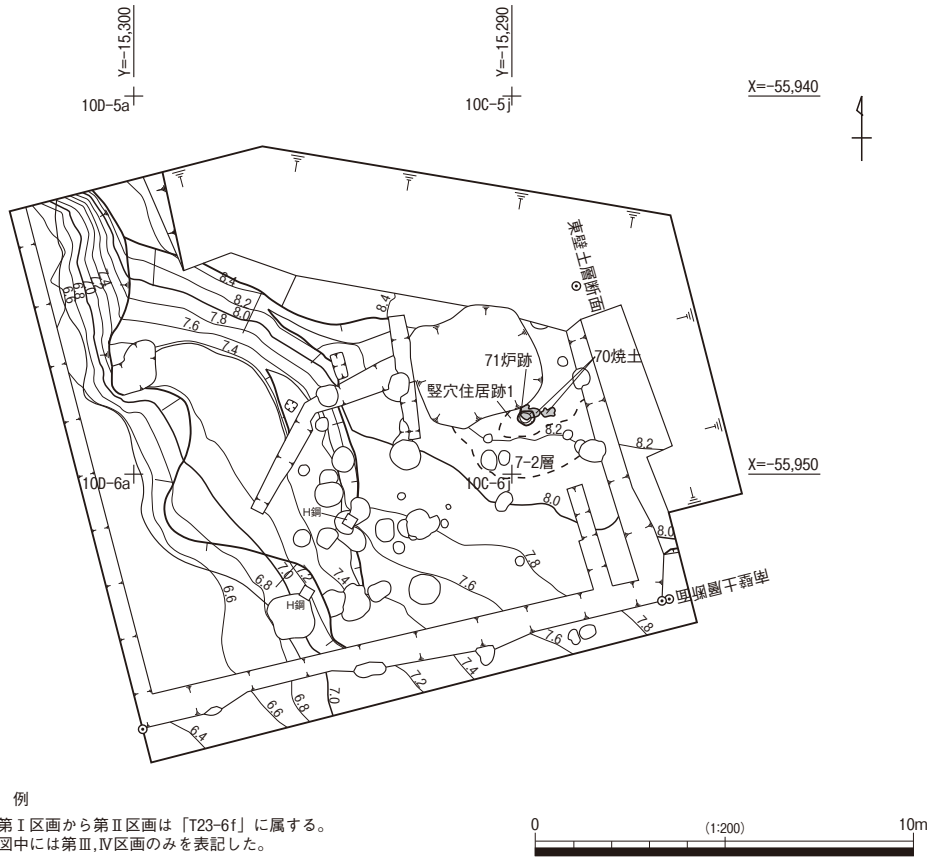
7層は北東部の平坦面に堆積しており、炭化物を多量に含む黒色~黒褐色の細砂~シルトと黄褐色の細砂~シルトが互層状に水平堆積する層を7-1層(下面を第5遺構面)、その下位に堆積する灰黄褐色~褐灰色の細砂~シルトを7-2層(下面を第6遺構面)とし、調査を行った。

第5遺構面では、焼土面1面、炉跡1基、第6遺構面では、炭化物集中範囲2面、周壁溝1条、柱穴1基を確認した。また、7-2層の下位に堆積する第85図C-C'3層下面では柱のあたり痕跡がある90ピット1基を検出した。

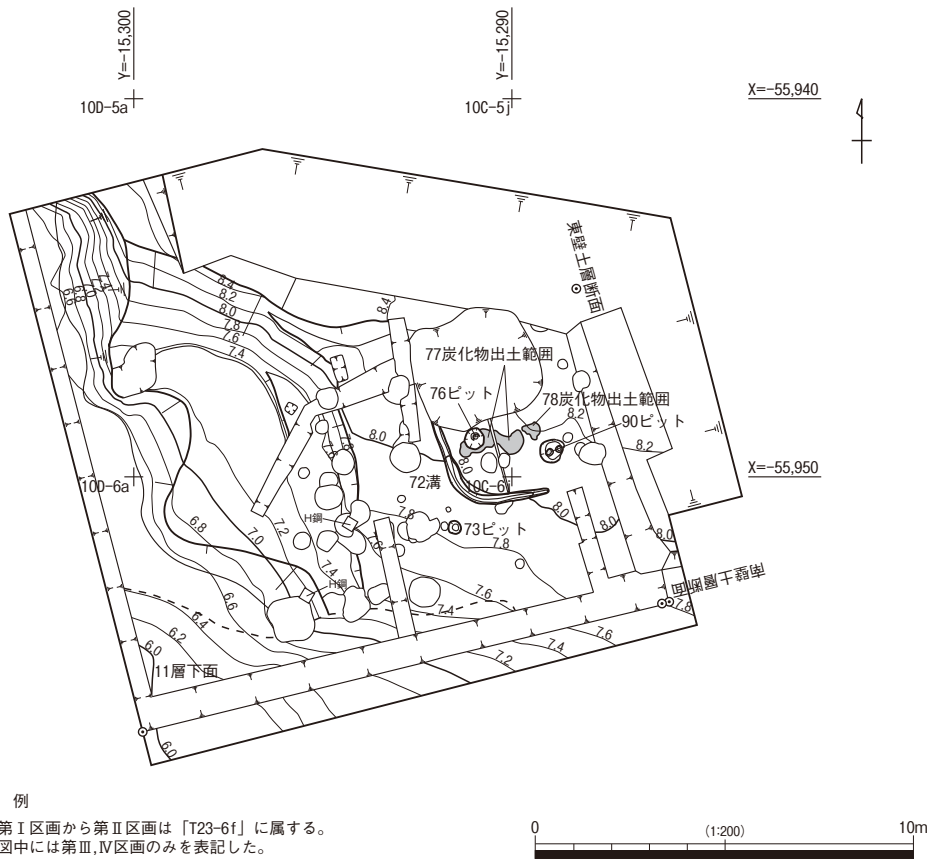
これらは主に2面にわたっての調査となったが、炉跡、周壁溝、柱穴などが確認されることから、ともに同一の竪穴住居跡を構成したものと思われる。また2面にわたって焼土面、炭化物集中範囲などが認められることから、生活面が2面以上あったものと思われる。



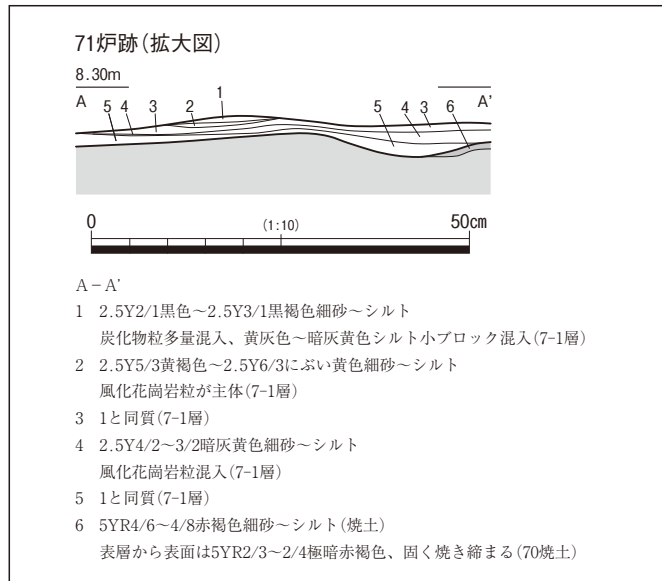
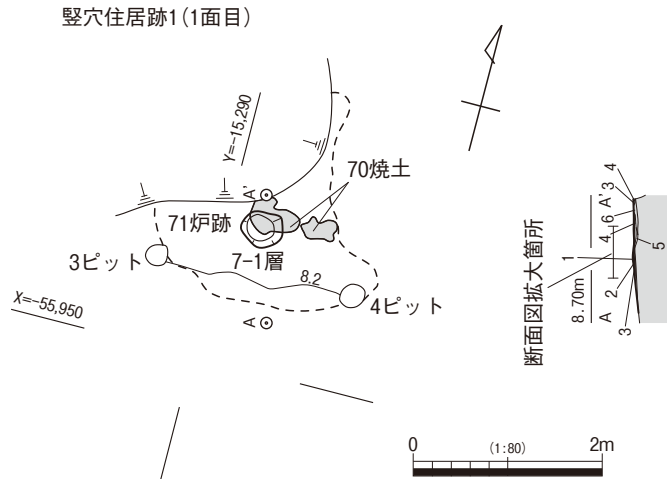
第81図 A1区47・61・64・74柱穴、79土坑



第82図 A1区第5遺構面全体図



第83図 A1区第6遺構面全体図



第84図 A1区豎穴住居跡1(1面目)

豎穴住居跡1

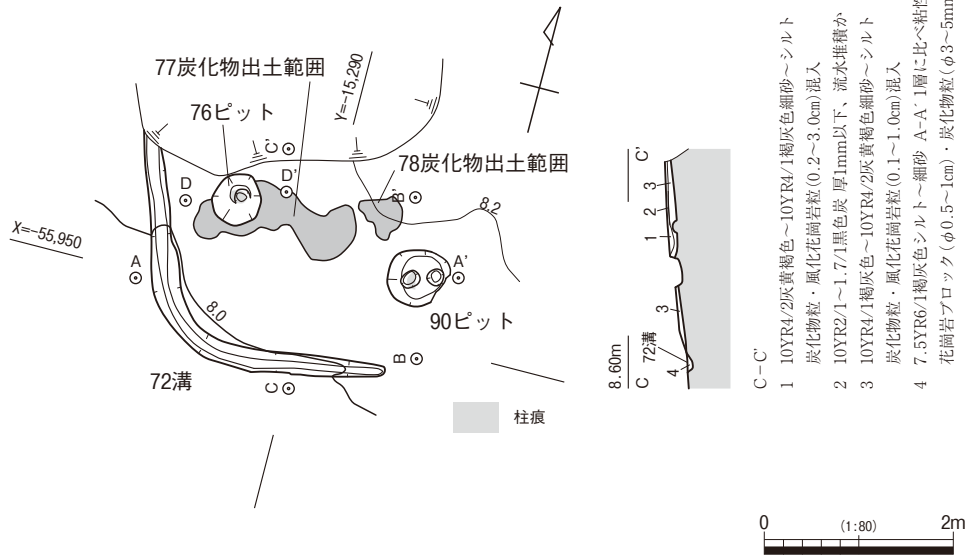
7-1層下面では焼土面及び炉跡と思われる落ち込みを確認した。焼土面の範囲は1.0×0.4mを測り、被熱を受ける層厚は1cm程度である。炉跡と思われる落ち込みは、径およそ40cmで、検出した周囲より3cmほど窪む。柱穴は7-1層下面検出段階で確認できなかったため判然としないが、7-2層、及び第85図C-C'断面1層の下面で検出した76ピットには柱痕跡が認められた。

7-2層、及びC-C'1層掘削後では、2.2×0.4mほどの範囲で認められる炭化物集中範囲と周壁溝、76ピットを確認した。上記のとおり、76ピットは柱痕跡が確認され、炭化物集中範囲を掘削していることから、7-1層下面段階の柱穴であった可能性がある。また、周壁溝は7-1層、7-2層の堆積範囲外での検出であるが、周壁溝埋土が7-1・2層の下位に堆積するC-C'1・3層などと類似するから本遺構面に帰属させた。

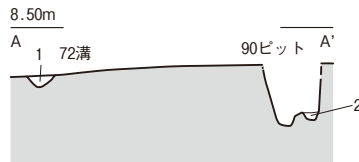
そのほか7-2層、及びC-C'1層下面での柱穴の検出はできなかったが、7-2層の下位に堆積するC-C'3層掘削後に確認した90ピットには柱のあたり痕跡が認められることから、90ピットが本遺構面での住居柱穴として機能していた可能性がある。

本遺構の時期は、C-C'3層出土の須恵器坏128から7世紀の前半頃と思われる。

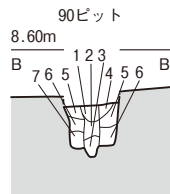
竪穴住居跡1(2面目)



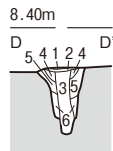
- C-C'
- 1 10YR4/2灰黄褐色～10YR4/1褐灰色細砂～シルト 炭化物粒・風化花崗岩粒(0.2～3.0cm)混入
 - 2 10YR2/1～1.7/1黒色炭 厚1mm以下、流水堆積か
 - 3 10YR4/1褐灰色～10YR4/2灰黄褐色細砂～シルト 炭化物粒・風化花崗岩粒(0.1～1.0cm)混入
 - 4 7.5YR6/1褐灰色シルト～細砂 A-A' 1層に比べ粘性強、風化花崗岩ブロック(φ0.5～1cm)・炭化物粒(φ3～5mm)を含む



- A-A'
- 1 7.5YR6/2灰褐色シルト～細砂 風化花崗岩ブロック(φ1cm)・炭化物粒(φ3mm)を含む
 - 2 5Y3/1～2/2オリーブ黒色細砂～シルト 炭化物粒・風化花崗岩粒・黄灰色シルト～粘土小ブロック混入

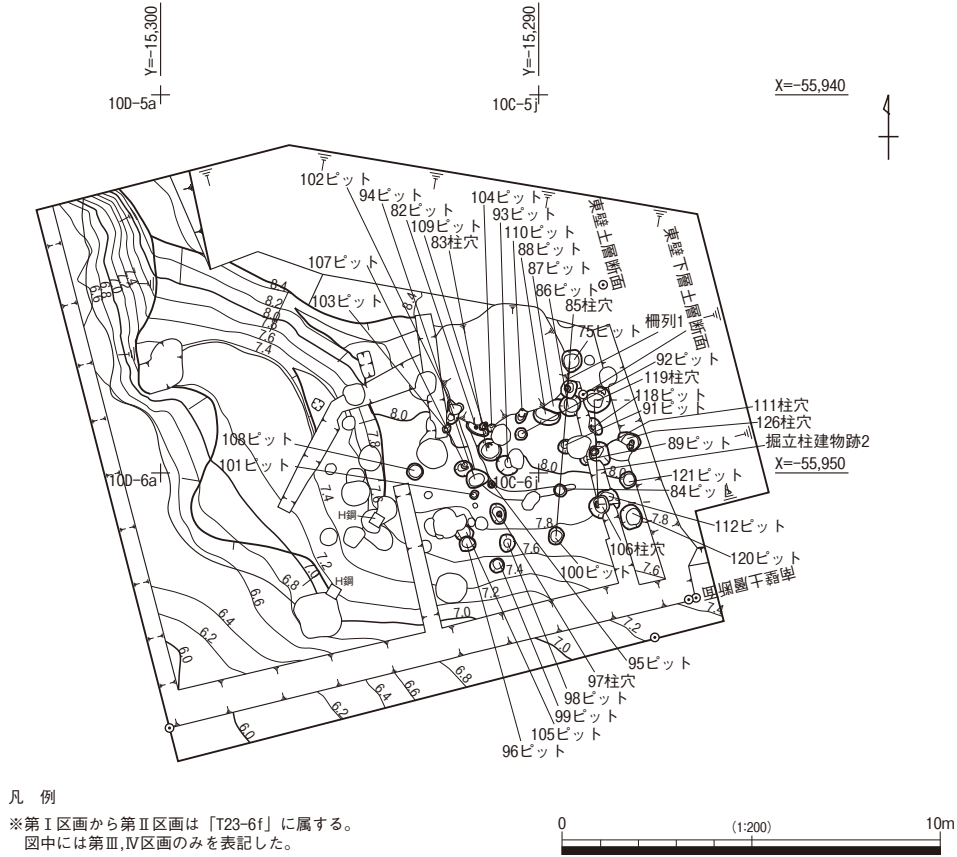


- B-B'
- 1 10YR4/2灰黄褐色～10YR3/1黒褐色粗砂～シルト やや粘質強い、炭化物粒・風化花崗岩粒
 - 2 10YR3/1～3/2黒褐色精砂～シルト やや粘質、炭化物粒・風化花崗岩粒混入
 - 3 2.5Y3/1黒褐色～2.5Y4/1黄灰色細砂～シルト やや粘質、炭化物粒混入
 - 4 2.5Y3/1～3/2黒褐色粗砂～シルト 炭化物粒・風化花崗岩粒・黄褐色シルト小ブロック混入
 - 5 2.5Y3/1～3/2黒褐色粗砂～シルト 黄褐色・黒褐色シルト小ブロック(1～3cm大)混入
 - 6 2.5Y3/1～3/2黒褐色粗砂～シルト 黄灰色～灰色シルト小ブロック(2～3cm大)混入
 - 7 2.5Y3/1～3/2黒褐色粗砂～シルト 黄灰色シルト小ブロック混入多い



- D-D'
- 1 7.5YR3/1～3/2黒褐色シルト～粘土 風化花崗岩粒・シルト小ブロック混入
 - 2 10YR6/3～6/4にぶい黄橙色粗砂～細砂
 - 3 10YR5/1褐灰色～10YR5/2灰黄褐色粗砂～シルト 風化花崗岩粒・シルト小ブロック混入
 - 4 10YR5/2灰黄褐色～10YR5/3にぶい黄褐色細砂～シルト 炭化物粒混入
 - 5 10YR4/1褐灰色～10YR4/2灰黄褐色細砂～シルト 風化花崗岩粒・シルト小ブロック混入
 - 6 10YR4/1褐灰色～10YR3/1黒褐色細砂～シルト 炭化物粒・炭片(4～5cm大)混入

第85図 A1区竪穴住居跡1(2面目)



第86図 A1区第7遺構面全体図

(6) 第7遺構面(21層上面)の調査

本遺構面は調査区東側認められる造成土21層上面を検出面とする。掘立柱建物跡の柱穴を構成したと思われる柱列、掘立柱建物跡2と柵列1、柱穴、ピット28基を確認した。本遺構面の時期は21層出土須恵器坏229や104ピット出土須恵器蓋129から古墳時代後期頃と思われる。

掘立柱建物跡2

掘立柱建物跡2とした柱列は調査区東側で確認した。確認した柱穴は3基で、106柱穴では埋土に柱痕跡、111柱穴では底面に柱のあたり痕跡を確認した。桁側、梁側の判別は不明であるが、調査範囲の東側に続いて建物になったと思われる。柱列の主軸はN-2°-Wとほぼ南北を主軸とし、規模は2.8m(柱間1.4m)を測る。

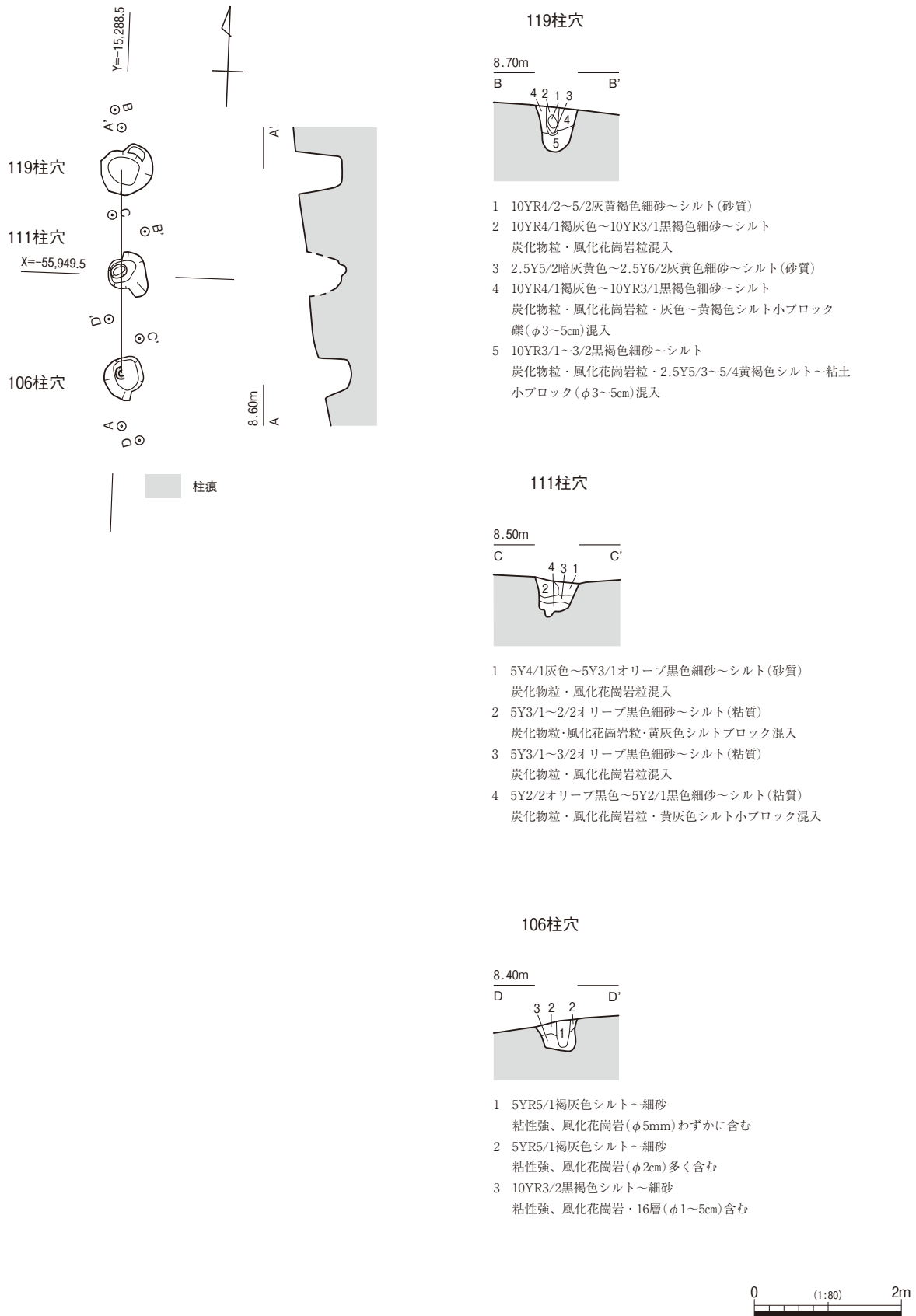
柵列1

柵列1は調査区東側、掘立柱建物跡2の西側1mほどで確認した。確認したピットは5基で、埋土の観察からは柱痕跡等は確認できなかったが、N-4°-Eの傾きで直線状に並ぶ。規模は4.6m、ピット間は1.1~1.2mを測る。

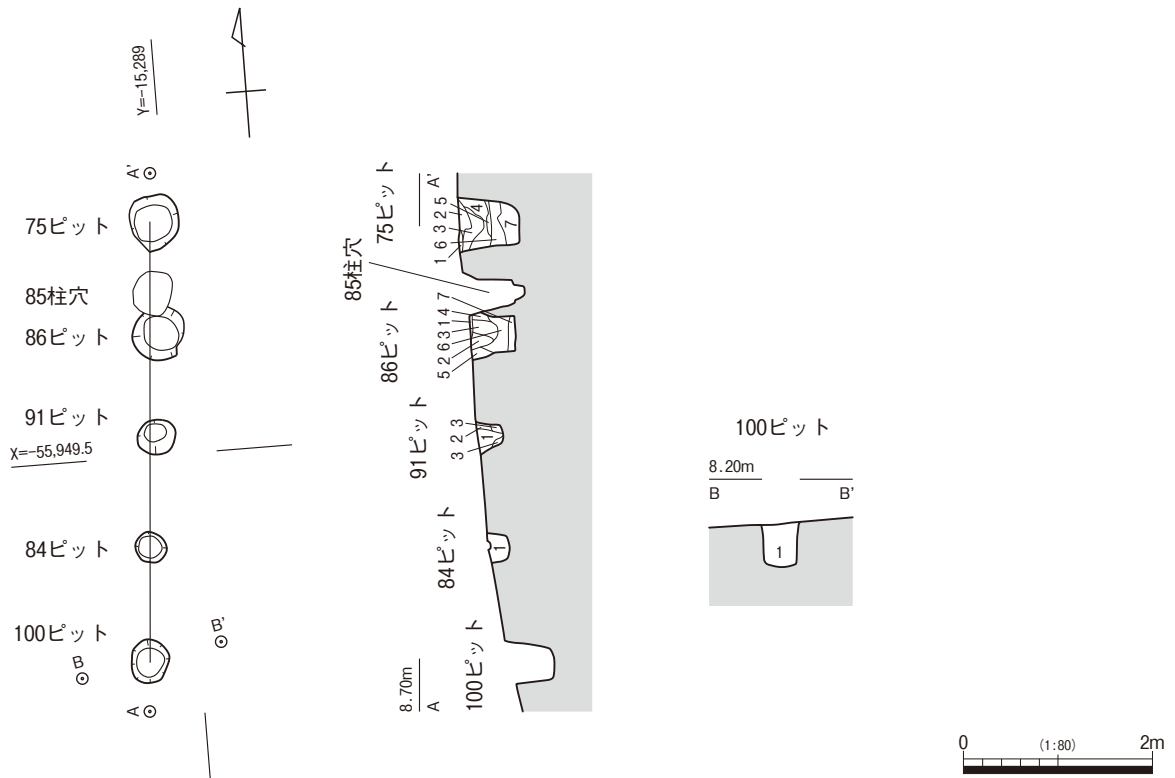
83・85・97・126柱穴

82・87~89・92~96・98・99・101~105・107~110・112・118・120・121ピット

計28基の柱穴とピットを検出した。調査区中央部以東に分布する。平面は円形、楕円形、もしくは不整な楕円形で、規模は径18~65cmまでが認められる。また、建物等になる遺構の配列は確認できなかったが、83柱穴で柱痕跡、85、97、126柱穴で柱痕跡、および柱のあたり痕跡を確認した。



第87図 A1区掘立柱建物2



75ピット

- 1 10YR3/2黒褐色細砂～シルト 炭化物粒・風化花崗岩粒混入
- 2 10YR3/1黒褐色細砂～シルト(粘質) 炭化物粒・風化花崗岩粒・黄褐色シルト小ブロック混入
- 3 10YR3/2黒褐色細砂～シルト 炭化物粒・風化花崗岩粒・黄褐色シルト小ブロック多量に混入
- 4 10YR3/2黒褐色細砂～シルト 炭化物粒・風化花崗岩粒・黄褐色シルト小ブロック多量に混入
- 5 10YR3/1黒褐色細砂～シルト 炭化物粒・風化花崗岩粒・黄褐色シルト小ブロック混入
- 6 10YR3/2黒褐色細砂～シルト 炭化物粒・風化花崗岩粒・黄褐色シルト小ブロック混入
- 7 2.5Y3/1～3/2黒褐色細砂～シルト 炭化物粒・風化花崗岩粒混入

86ピット

- 1 10YR4/2灰黄褐色～10YR3/2黒褐色細砂～シルト 炭化物粒・風化花崗岩粒混入
- 2 10YR4/2～5/2灰黄褐色細砂～シルト 炭化物粒・風化花崗岩粒・灰色シルト小ブロック混入
- 3 10YR3/1黒褐色～10YR4/1褐色細砂～シルト 炭化物粒・風化花崗岩粒混入
- 4 2.5Y3/1黒褐色～2.5Y4/1灰黄色細砂～シルト 炭化物粒・風化花崗岩粒・黄褐色粘土～シルト小ブロック混入
- 5 10YR4/2灰黄褐色～10YR5/3にぶい黄褐色細砂～シルト 炭化物粒・風化花崗岩粒・黄褐色黒褐色シルト小ブロック混入
- 6 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y3/2黒褐色細砂～シルト 炭化物粒・風化花崗岩粒・黒褐色シルト小ブロック(3～5cm大)混入
- 7 7.5Y4/1～5/1灰色シルト～粘土 炭化物粒・5BG5/1青灰色シルト小ブロック(3～5cm大)混入

91ピット

- 1 10YR4/1褐色～10YR4/2灰黄褐色細砂～シルト 炭化物粒・風化花崗岩粒・黄褐色シルト小ブロック混入
- 2 10YR3/1～2/2黒褐色細砂～シルト 炭化物粒・風化花崗岩粒・黄褐色シルト小ブロック混入
- 3 10YR4/1褐色～10YR3/1黒褐色細砂～シルト 炭化物粒・風化花崗岩粒・黄灰色シルト～細砂小ブロック混入

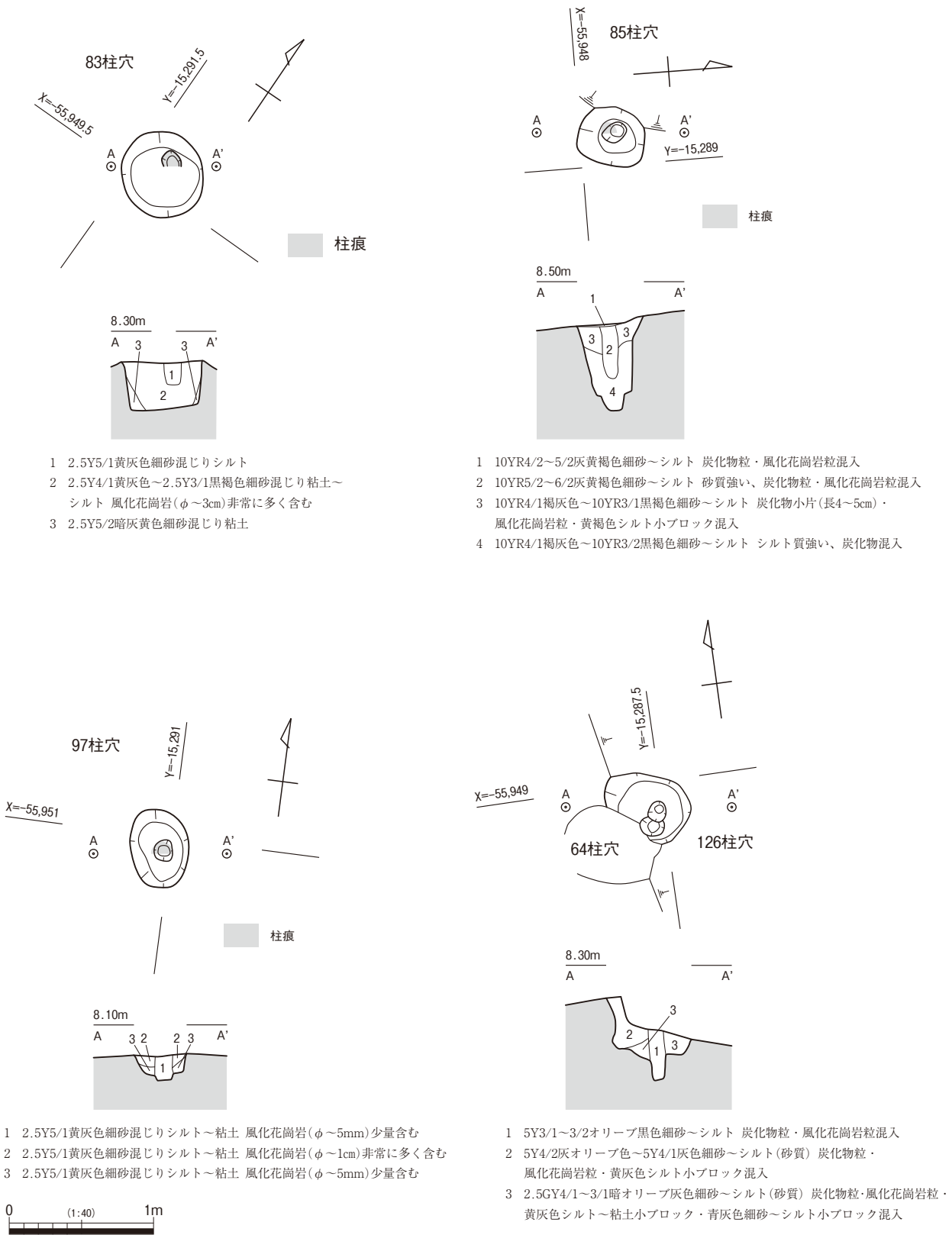
84ピット

- 1 7.5YR3/1黒褐色～7.5YR4/1褐色細砂～シルト 炭化物粒・風化花崗岩粒・黄灰色シルト小ブロック混入

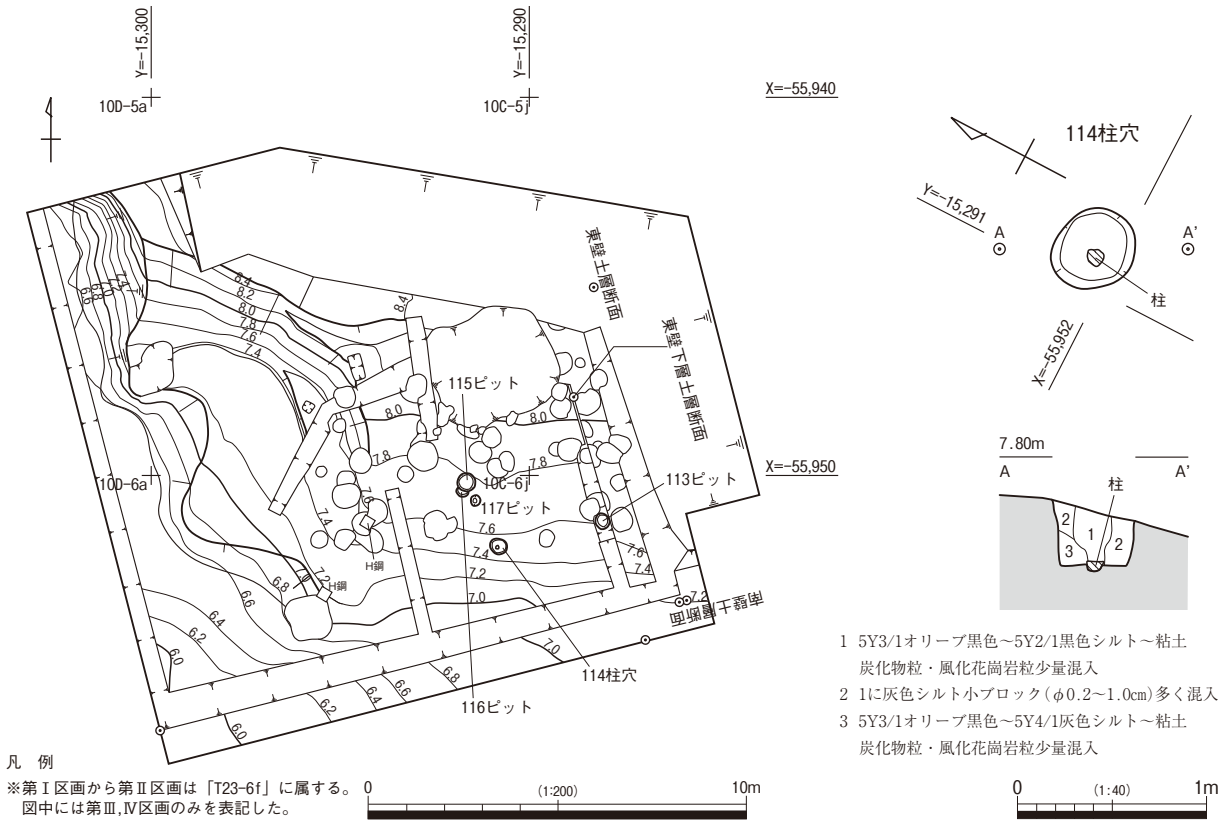
100ピット

- 1 2.5Y4/1黄灰色～2.5Y4/2暗灰黄色細砂～シルト 炭化物粒・風化花崗岩粒・黄灰色シルト小ブロック混入

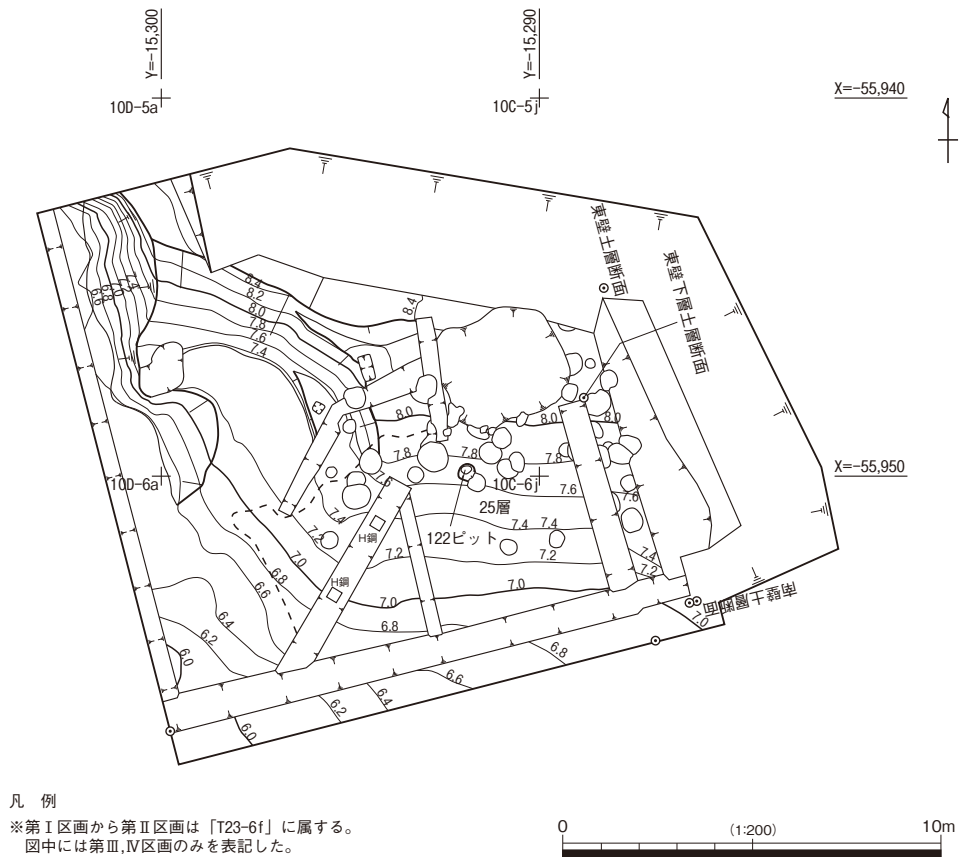
第88図 A1区柵列 1



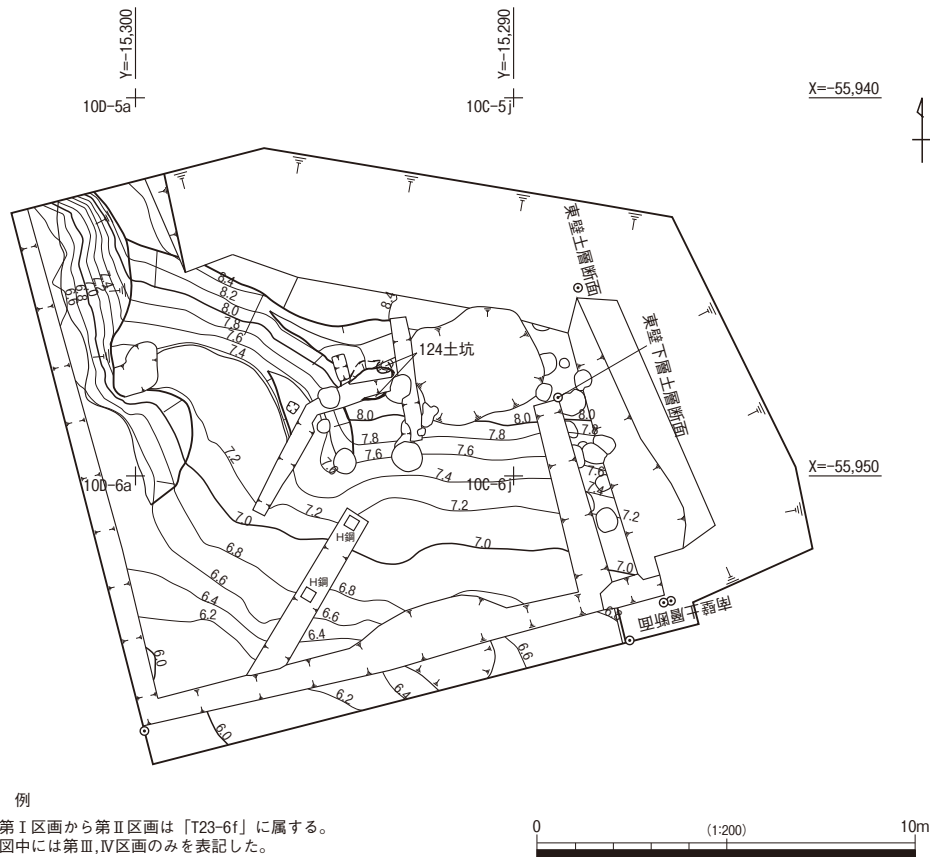
第89図 A1区83・85・97・126柱穴



第90図 A1区第8遺構面全体図、114柱穴



第91図 A1区第9遺構面全体図



凡例
 ※第I区画から第II区画は「T23-6f」に属する。
 図中には第III,IV区画のみを表記した。

第92図 A1区第10遺構面全体図

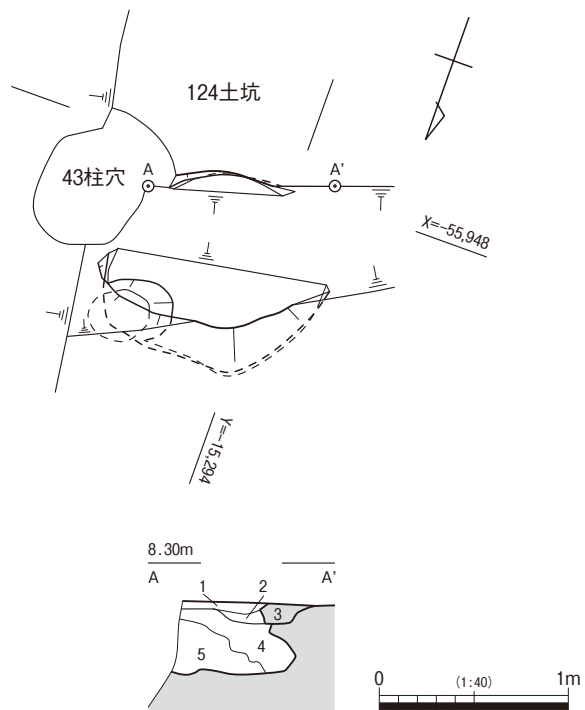
(7) 第8～11遺構面の調査

第8遺構面は、調査区東側に認められる造成土21層下面を検出面とする。113～117のピットと柱穴5基を確認した。平面は円形、もしくは楕円形で、25～50cmを測る。このうち114柱穴では、柱痕跡が確認されたほか、柱痕跡下部のピット底面では柱材の一部が残存していたが、建物等になる遺構の配列は確認できなかった。

第9遺構面は、調査区中央から南東にかけて堆積する25層上面を検出面とする。確認された遺構は122のピット1基で、平面は不整な円形で、およそ50cmを測る。

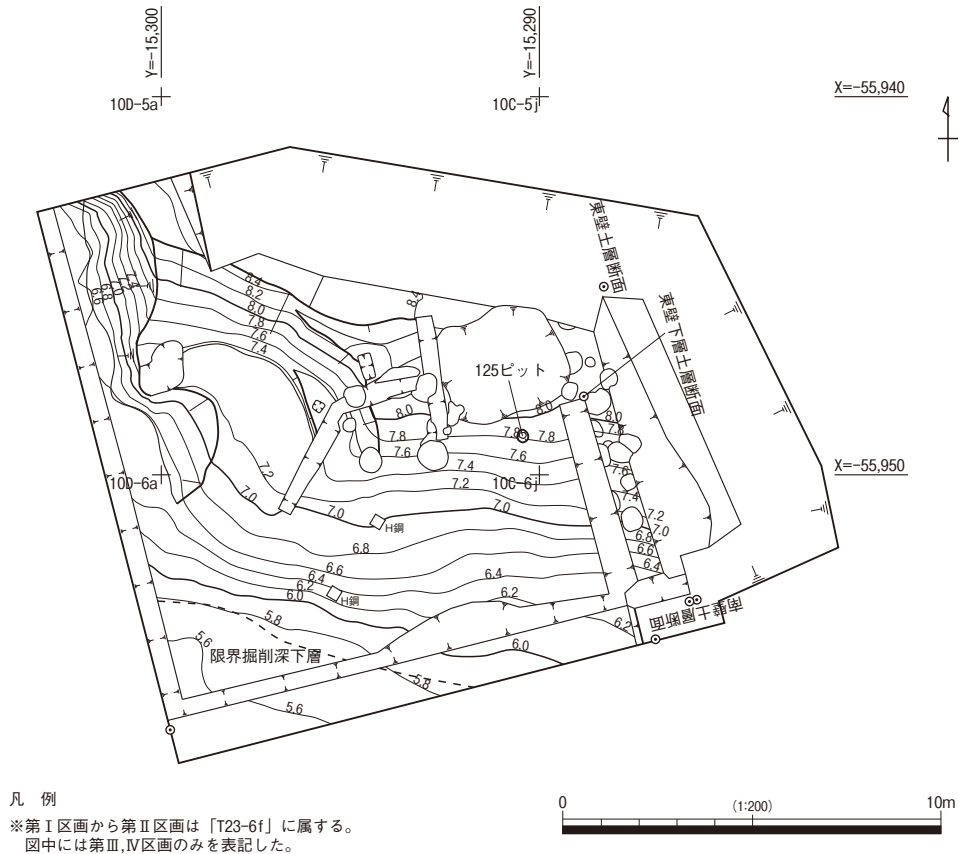
第10遺構面は、第9遺構面の基盤層である25層除去後を遺構面とする。本遺構面に帰属させた124土坑は調査時に認められた25層の分布範囲外に位置するが、埋土は25層の再堆積土を主体とすることから本遺構面に帰属させた。

124土坑は調査区中央北寄りの斜面部に位置するが、標高およそ8mと高い位置にあるた



- 1 根攪乱
- 2 根攪乱
- 3 地山
- 4 7.5YR5/2灰褐色シルト～細砂 ロームブロック・風化花崗岩粒を含む
- 5 7.5YR5/1褐色シルト～細砂 風化花崗岩粒・炭化物(φ5mm)を含む

第93図 A1区124土坑



第94図 A1区第11遺構面全体図

め、遺構の中央部は近年の耕作に伴う暗渠により掘削を受ける。確認は遺構の南辺と北辺部で、主に暗渠壁面部分をえぐるように認められ、遺存する掘り方形状からフラスコ状土坑と考えられる。土坑下部の規模は110～120cm、深さは40cmを測る。埋土中からは底面付近からは古墳時代前期の土師器甕の破片が出土した。

第11遺構面は30～33層の地山、もしくはその再堆積層の上面を検出面とする。確認された遺構は125のピット1基で、平面は円形で、およそ30cmを測る。時期は不明である。

第3節 P1区の調査

P1区は谷部に位置する。調査では縄文時代後期から近世までの自然（河川）堆積層、整地土層、耕作土層などが認められた。遺構として取り扱ったものは、縄文時代から古墳時代のもので、遺構を確認した面としては5面となったが、1層下面では、近世以降の耕地段差に伴ったと思われる石列、及び竹製の構造物も認められたほか、6層や14層など主たる耕作土層の下面や土壌化層の上面および下面など計15面で、地形測量を実施した。

調査区内の堆積は、1層が表土で、2層が近世以降の耕作土である。3層以下は6層までが攪拌された土層の状況から耕作土層として判断したが、時期は不明で、下層から巻き上がった土師器や須恵器の破片がわずかに認められる。

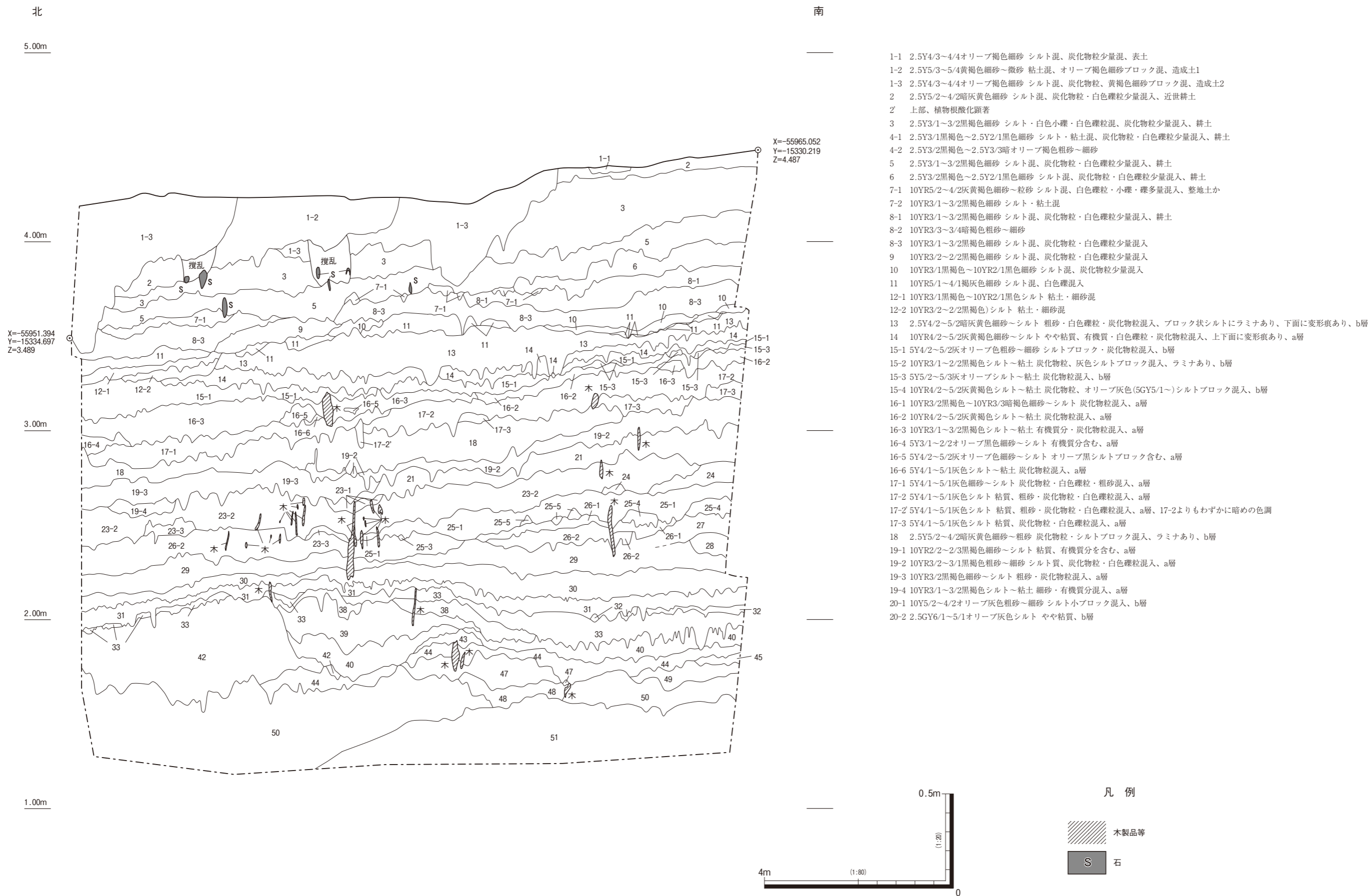
7-1層は整地土層と考えられ、下層の土を母材としない灰褐色の細砂～中粒砂、混入物を含んだ土が、調査区内の広い範囲に認められる。また、7-2層は7-1層のような混入物は含まず、整地土とする様相は呈さないが、7-1層下面に部分的にしか堆積しないことから、7層の枝番として扱った。

表5 A1区ピット表

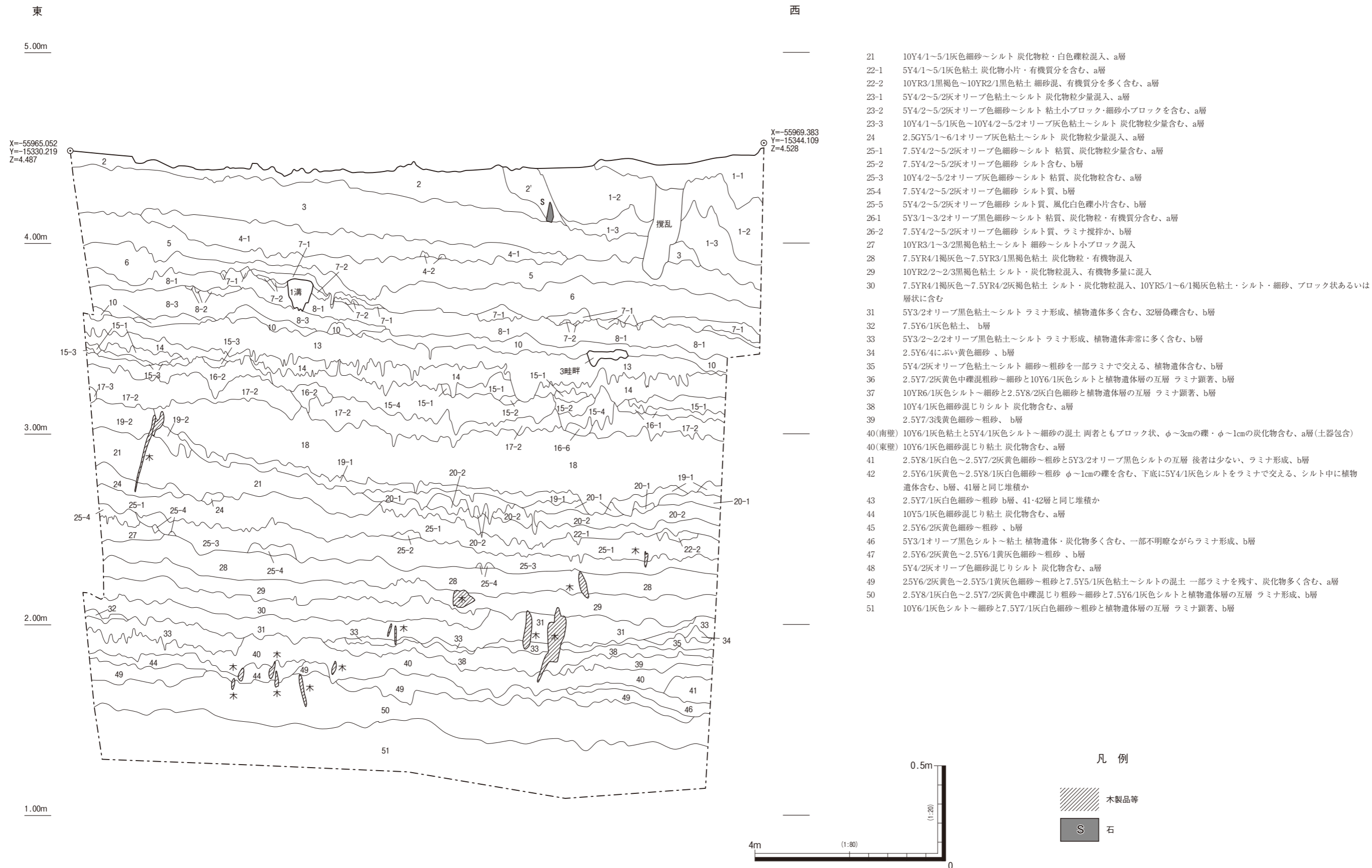
番号	グリッド	検出面	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	主な埋土	備考
1	10C-5j	1面2層下面	62	60	10	暗灰黄色～シルト	
2	10C-6j	1面2層下面	20	18	10	暗灰黄色細砂～シルト	
3	10C-5j	2面5層上面	28	28	22	褐灰色、灰黄褐色細砂～シルト	
4	10C-5i	2面5層上面	34	32	32	黒褐色～黒色細砂～シルト	
5	10C-5i	2面5層上面	34	32	56	黒褐色細砂～シルト	
7	10C-5i	2面5層上面	32	20	22	灰黄褐色細砂シルト	
16	10C-6j	3面5層下面	24	22	26	黄灰色細砂～シルト	
17	10C-6j	3面5層下面	24	20	18	褐灰色細砂～シルト	
18	10C-6j	3面5層下面	16	14	6	黄灰色細砂～シルト	
19	10C-6j	3面5層下面	18	18	5	黄灰色細砂～シルト	
20	10C-6i	3面5層下面	28	26	17	暗灰黄色細砂～シルト	
21	10C-6j	3面5層下面	15	14	11	灰黄褐色細砂～シルト	
22	10C-6j	3面5層下面	58	38	13	黄灰色細砂～シルト	
23	10C-5j	3面5層下面	34	33	8	黄灰色～暗灰黄色細砂～シルト	
24	10C-5j	3面5層下面	38	36	9	黄灰色細砂～シルト	
29	10C-5j	3面5層下面	35	28	11	暗灰黄色細砂～シルト	
30	10C-5j	3面5層下面	30	24	12	黄灰色細砂～シルト	
32	10C-6j	3面5層下面	34	30	18	暗灰黄色細砂～シルト	
33	10C-6j	3面5層下面	52	40	22	暗灰黄色細砂～シルト	
36	10C-6j	3面5層下面	22	20	16	暗灰黄色細砂～シルト	
37	10C-6j	3面5層下面	14	14	6	暗灰黄色細砂～シルト	
38	10C-6j	3面5層下面	14	12	22	暗灰黄色細砂～シルト	
41	10C-6j	3面5層下面	52	46	30	黒褐色シルト～粘土	
42	10C-6i	3面5層下面	60	46	26	黄灰色細砂混じりシルト～粘土	
53	10C-6j	3面5層下面	56	54	18	灰黄褐色細砂～シルト	
55	10C-6j	3面5層下面	70	62	52	褐灰色～灰黄褐色細砂～シルト	
56	10C-6j	3面5層下面	64	48	14	灰色細砂～シルト	
49	10C-6j	4面6層下面	52	34	12	灰褐色細砂～シルト	
50	10C-6j	4面6層下面	76	64	12	灰オリーブ色～灰色細砂～シルト	
51	10C-6j	4面6層下面	30	30	10	黒褐色細砂～シルト	
57	10C-6j	4面6層下面	48	46	24	褐灰色シルト～粘土	
62	10C-5j	4面6層下面	40	30	12	灰黄褐色細砂～シルト	
63	10C-5i	4面6層下面	34	18	10	褐灰色～黒褐色細砂～シルト	
67	10C-5i	4面6層下面	48	14	46	黒褐色～暗オリーブ褐色細砂～シルト	
68	10C-6j	4面6層下面	62	48	52	灰黄褐色～黒褐色細砂～シルト	
80	10C-6i	4面6層下面	44	34	14	オリーブ黒色～灰色シルト	
81	10C-6i	4面6層下面	42	30	6	オリーブ黒色～灰色シルト	
123	10C-6i	4面6層下面	50	20	30	黒褐色細砂～シルト	
73	10C-6j	6面7-2層、 11層下面	34	34	20	暗黄灰色～黄灰色細砂～シルト	

表5 A1区ピット表

番号	グリッド	検出面	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	主な埋土	備考
82	10C-5j	7面21層上面	64	28	20	黒褐色～灰黄褐色細砂～シルト	
87	10C-5i	7面21層上面	52	38	12	黒褐色細砂～シルト	
88	10C-5i	7面21層上面	70	42	12	褐灰色シルト～細砂	
89	10C-5i	7面21層上面	30	20	8	褐灰色細砂～シルト	
92	10C-5j	7面21層上面	34	32	20	黄灰色細砂混じり粘土～シルト	
93	10C-5j	7面21層上面	58	30	22	黄灰色細砂混じり粘土～シルト	
94	10C-6i	7面21層上面	60	50	22	黄灰色細砂～シルト	
95	10C-6j	7面21層上面	18	17	10	黄灰色細砂混じり粘土～シルト	
96	10C-6j	7面21層上面	44	40	20	黄灰色細砂混じり粘土～シルト	
98	10C-6j	7面21層上面	46	40	12	黄灰色細砂混じりシルト	
99	10C-6j	7面21層上面	38	38	20	黒褐色細砂～シルト	
101	10C-6j	7面21層上面	24	20	12	暗灰黄色細砂混じりシルト～粘土	
102	10C-5j	7面21層上面	64	32	48	黄褐色細砂混じり粘土～シルト	
103	10C-5j	7面21層上面	24	18	18	黄褐色粘土～シルトと暗灰黄色シルト～粘土の混土	
104	10C-5j	7面21層上面	24	20	16	暗灰黄色細砂混じりシルト～粘土	
105	10C-6j	7面21層上面	50	20	20	にぶい褐色粘土と黄灰色粘土～シルトの混土	
107	10C-5j	7面21層上面	48	42	12	黄褐色粘土～シルトと暗灰黄色シルト～粘土の混土	
108	10C-5j	7面21層上面	44	42	42	暗黄褐色細砂混じり粘土と灰黄褐色粘土～シルトの混土	
109	10C-5j	7面21層上面	18	17	24	褐灰色細砂～シルト	
110	10C-5j	7面21層上面	40	28	32	灰褐色シルト～細砂	
112	10C-6i	7面21層上面	60	40	50	灰色～オリーブ黒色細砂～シルト	
113	10C-6i	8面21層下面	44	38	14	オリーブ黒色～灰色細砂～シルト	
115	10C-6j	8面21層下面	50	48	22	黄灰色～黒褐色細砂～シルト	
116	10C-6j	8面21層下面	40	28	22	黄灰色～暗灰黄色細砂～シルト	
117	10C-6j	8面21層下面	30	26	8	黒褐色～褐灰色細砂～シルト	
118	10C-5i	7面21層上面	52	32	46	灰色細砂～シルト	
120	10C-6i	7面21層上面	62	55	47	暗灰色シルト～細砂	
121	10C-6i	7面21層上面	42	40	22	灰色シルト～細砂	
122	10C-5j	9面25層上面	47	42	38	上層：浅黄橙色シルト～中砂 下層：黒褐色シルト～細砂	
125	10C-5j	11面30層上面	35	30	26	褐灰色～黒褐色細砂～シルト	



第95図 P1区東壁土層断面図



第96図 P1区南壁土層断面図

(1) 第1遺構面（7層下面）の調査

調査区の広い範囲で認められた7層除去後、8層上面を遺構面とする。溝1条を検出した。本遺構面の時期は、基盤となる8層から古墳時代前期の土師器が出土すること、上位に堆積する7層からは出土遺物は認められないが、A1区で認められた整地土層8層に相当すると思われることから、古墳時代前期から古代以前の間の時期である。

1 溝

調査区の南東に位置し、南西から北東に走向する。北東側では埋土、及び遺構底面の状況から2条以上に分岐している状況が認められるが、遺存状況は悪い。埋土は暗灰黄色、黒褐色の細砂～シルト、細砂～粗砂を主とし、遺存の良い遺構南西側の埋土ではラミナが観察された。前記のとおり、遺構北東側の遺存状況は悪いが、暗灰黄色の細砂～粗砂は、長さおよそ5.5mの範囲で確認された。

(2) 第2遺構面（8・9層下面）の調査

調査区全体に堆積がみられる耕作土8-1～3層、及び8-3層に様相の近い9層を含めた下面を遺構面とし、擬似畦畔を1条確認した。

2 畦畔

調査区北西に位置する擬似畦畔で、8層形成時（古墳時代前期以降）のものである。南東から北西に向き、8層下面の等高線とは直交する。擬似畦畔は灰黄褐色の細砂～粗砂を芯とするが、この灰黄褐色の細砂～粗砂は8～10層間では認められないことから、10層形成後に調査地内に洪水砂として堆積し、その後耕作されたものと思われる。擬似畦畔として畦畔の基礎が確認できたのは長さ約6.5m、幅は0.4～1.1mあまりである。

(3) 第3遺構面（10～11層下面）の調査

調査区南半に堆積する耕作土10層、調査区東側に部分的に堆積する耕作土11層下面を遺構面とする。検出遺構は、10層下面で擬似畦畔2条、11層下面でピット1基を確認した。10層中出土遺物には弥生時代中期から後期の遺物が認められる。

3・4 畦畔、6ピット

3・4 畦畔とも調査区南西に位置する擬似畦畔で、南西から北東方向にほぼ平行して伸びる。調査面等高線とは斜交する。

3 畦畔は灰色シルト～細砂の耕作土と思われる層を芯とし、一部では灰白色シルトが面的に認められる。10層耕作時による擬似畦畔と考えられ、規模は長さ約9m、幅は0.8～1.6mである。

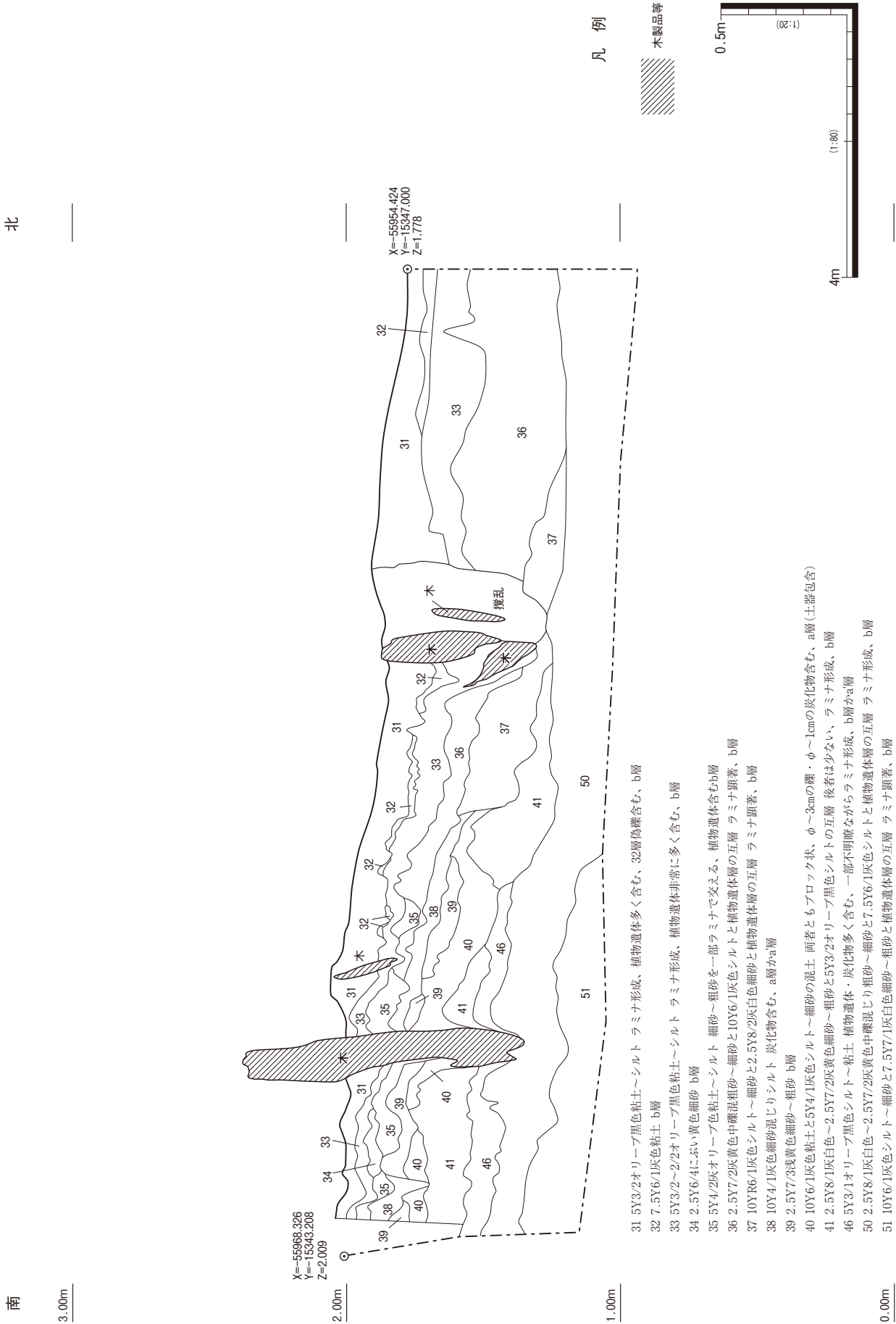
4 畦畔は、3 畦畔の北西2.5mの位置にある。下層にオリーブ黒色の細砂～シルト、上層に3 畦畔にみられる灰白色シルトがブロック状に混ざる灰色シルト～細砂を芯とする。3 畦畔同様、10層耕作時による擬似畦畔である。

6ピットは調査区東側に単独で位置する。平面は不整な楕円形で規模は20～25cm、深さ10cmを測る。

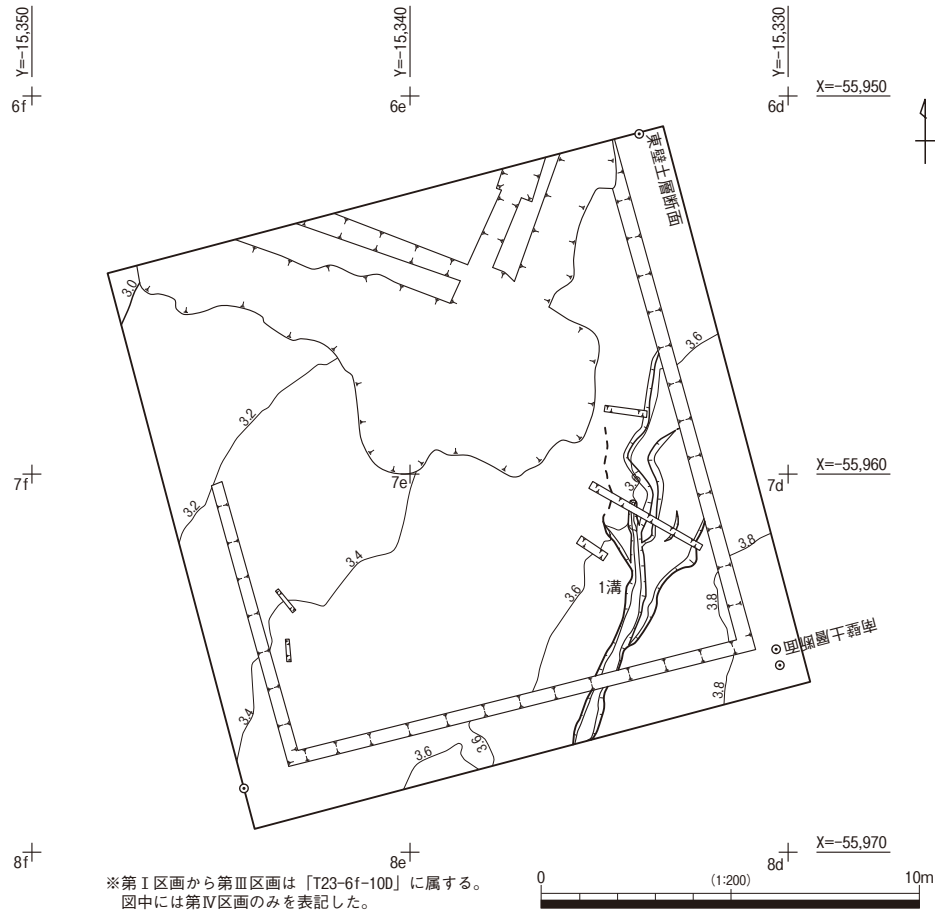
(4) 第4遺構面（29層下面）の調査

第3遺構面から第4遺構面までの12～29層は自然堆積層であるb層、またはそのb層が土壌化したa層の連続であり、一部28層などで遺物の出土がみられるものの、遺構は認められない状況である。

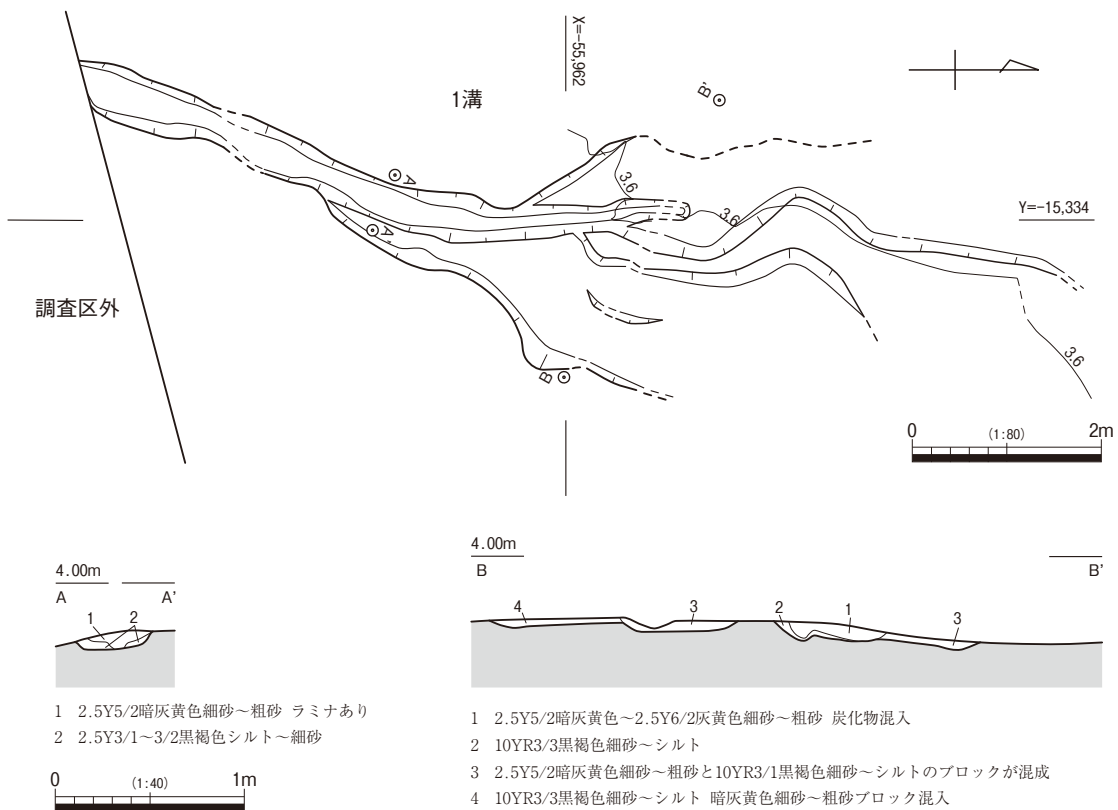
さて、第4遺構面である29層下面では貯蔵穴である7土坑、8土坑の2基の土坑を確認した。29層中出土遺物には、縄文時代後期前半の中津式の浅鉢片が出土するが、出土ドングリの放射性炭素年代



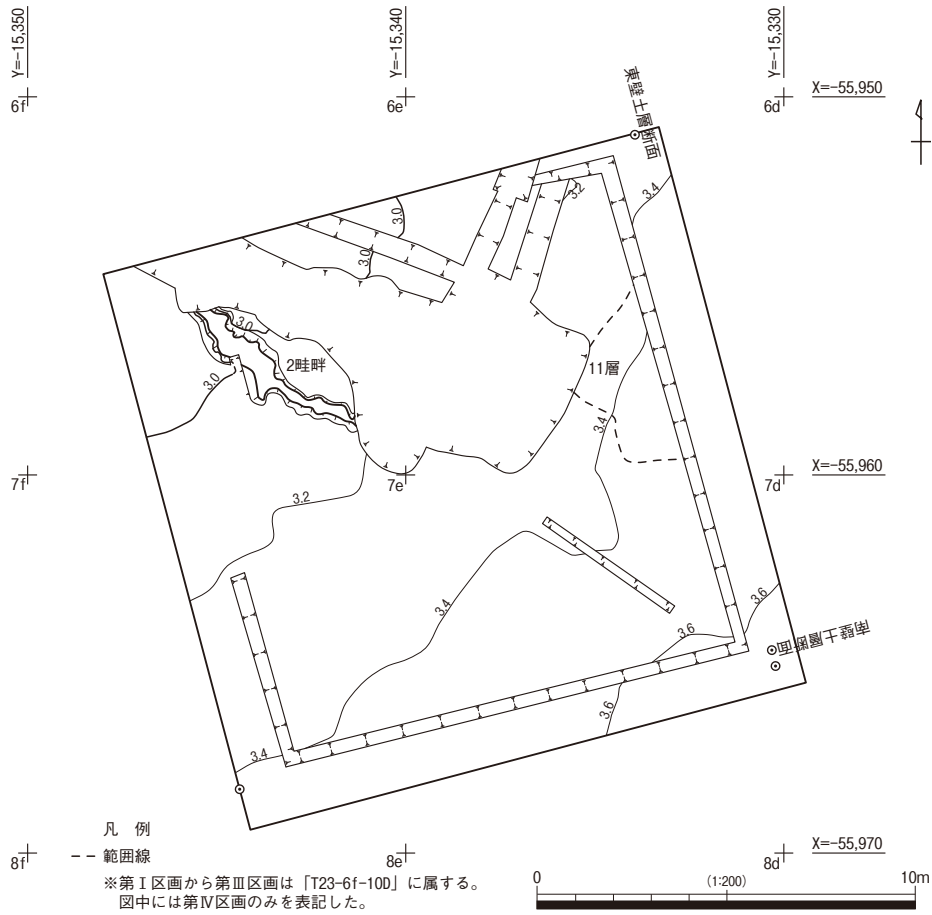
第97図 P1区西壁土層断面図



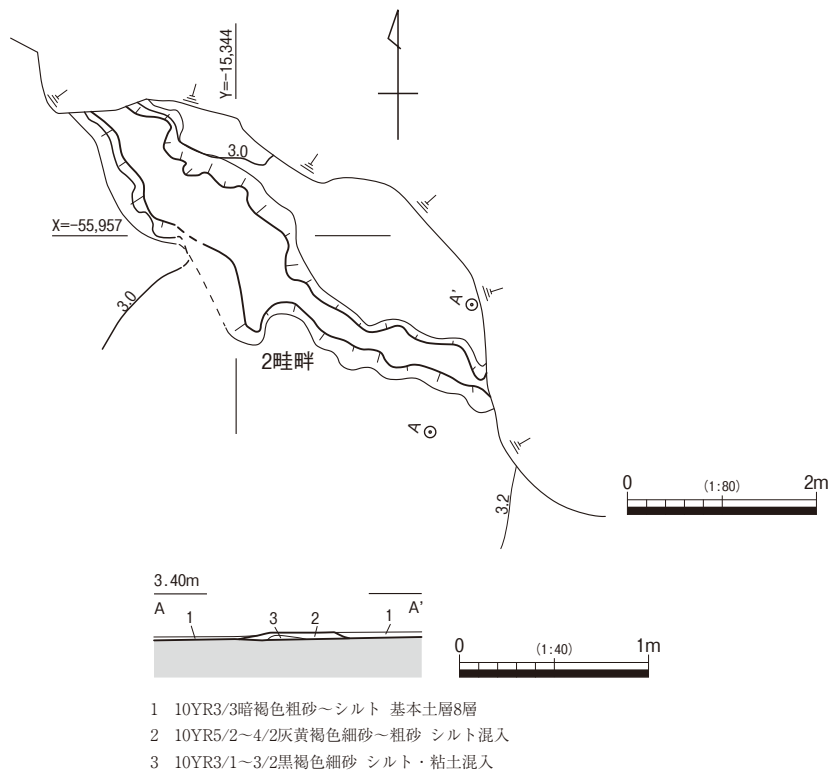
第98図 P1区第1遺構面全体図



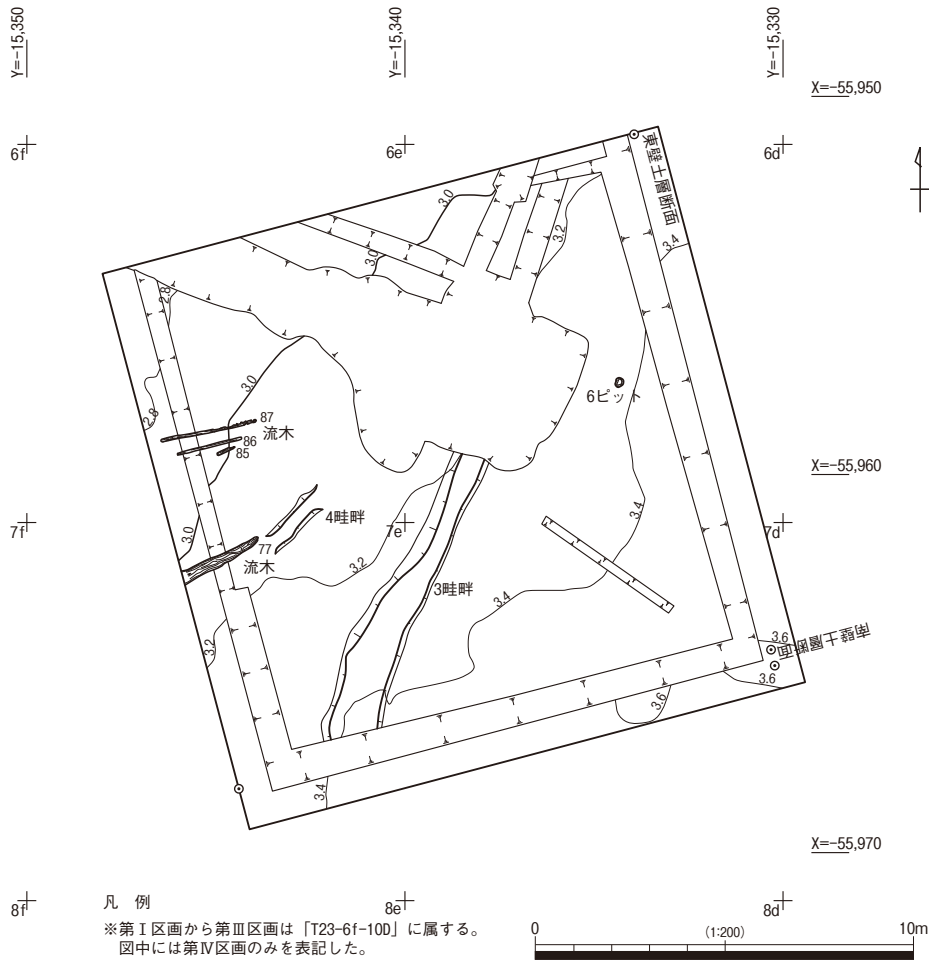
第99図 P1区1溝



第100図 P1区第2遺構面全体図



第101図 P1区2畦畔



第102図 P1区第3遺構面全体図

表6 P1区ピット表

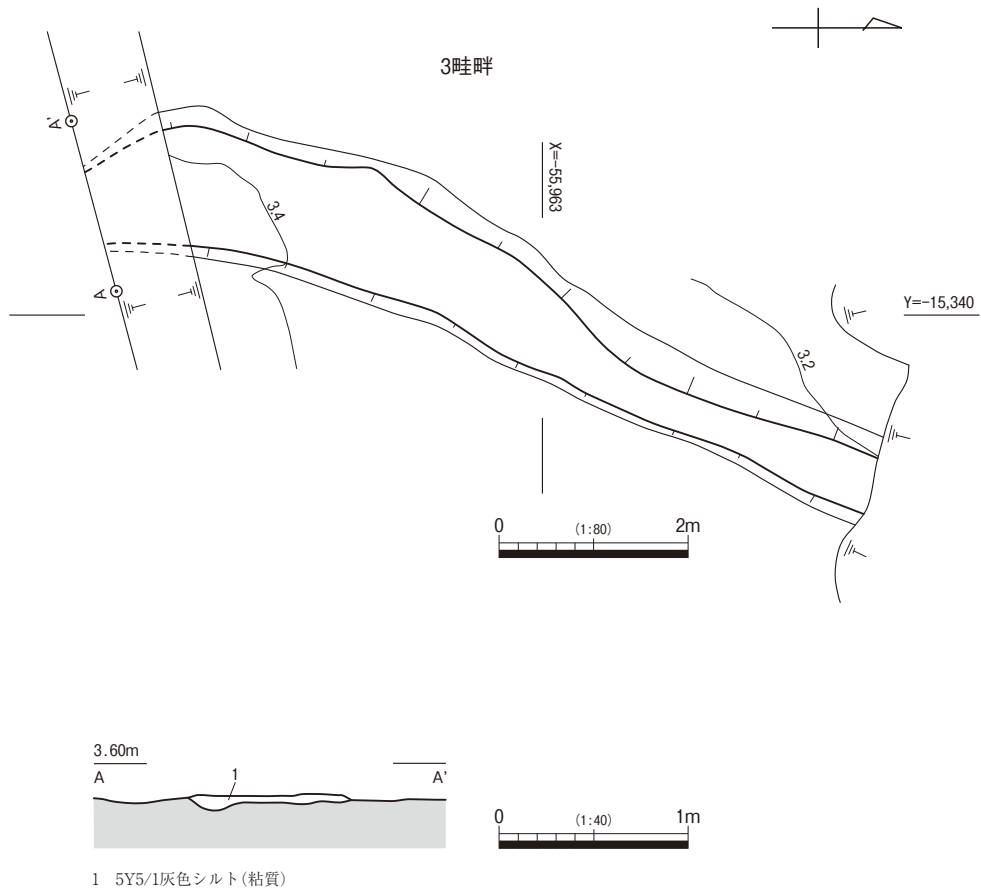
番号	グリッド	検出面	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	主な埋土	備考
6	10D-6d	3面10・11層下面	26	22	12	黒褐色粘土～細砂	

測定分析においては、第6章で詳述するように、補正年代で7土坑の上層で $3,420 \pm 30BP$ 、下層で $3,390 \pm 30BP$ 、8土坑下層が $3,510 \pm 30BP$ の測定値が示されている。

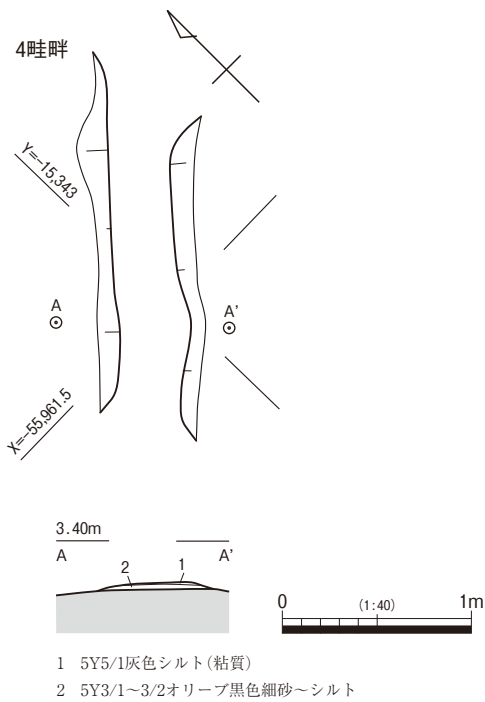
7土坑、8土坑

上述のとおり、縄文時代後期前半の貯蔵穴である。遺構を検出した29層下面は標高2.0～2.2mと低位に立地しており、西日本に多くみられる「低湿地型貯蔵穴」といわれるもので、調査を行った際は層中から地下水の浸み出る滞水層中にあった。

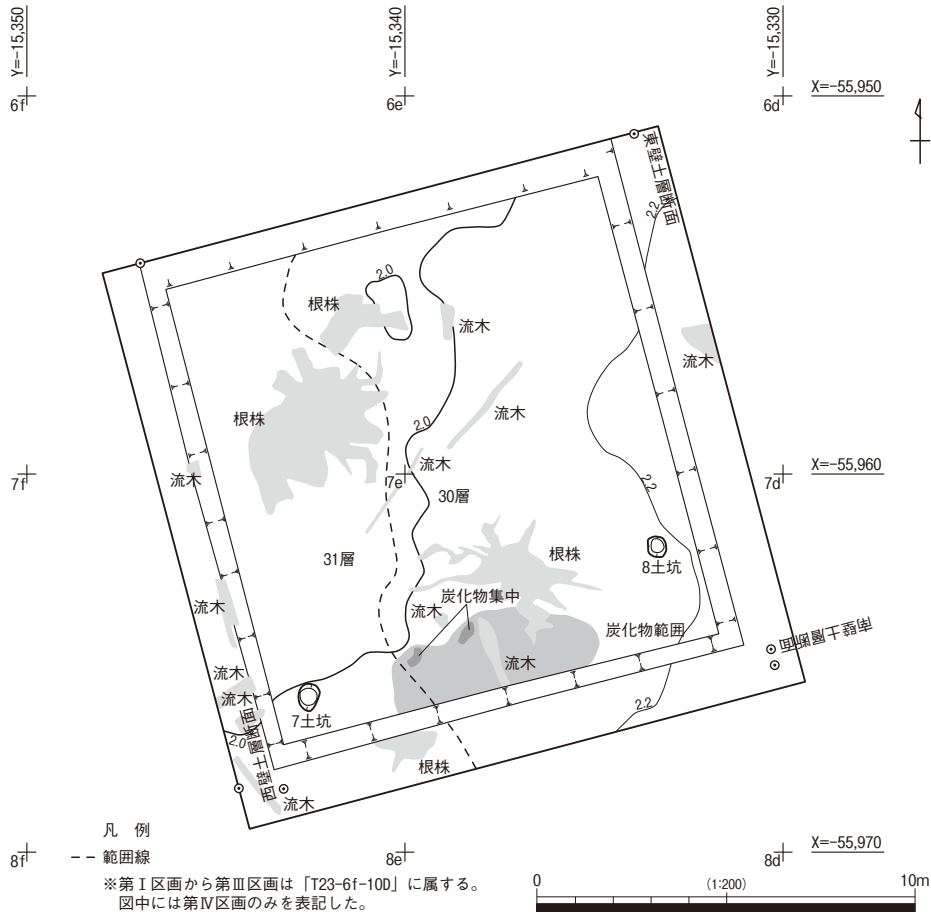
7土坑は平面不整な楕円形で、長径70cm、短径53cmを測る。検出面から底面までの深さは10cmあまりと浅く、断面皿状の形態である。埋土は暗褐色～黒褐色粘土の単層で、木葉片などが混入するが、人為により埋められたような痕跡は認められない。また、埋土及び土坑底面からは多量のドングリを検出したことから、出土大型植物遺体の同定分析を委託したが、結果はカシ類の果実のほか、イヌガヤなどの針葉なども確認された。出土カシ類は遺存状態が良好なものはすべてアカガシ・ツクバネガシに同定される。アカガシ、ツクバネガシとも水さらしのみでアク抜きが可能なドングリであることから、低湿地型貯蔵穴である本貯蔵穴の機能に適しており、ドングリを選択して貯蔵したものと考え



第103図 P1区 3畦畔



第104図 P1区 4畦畔



第105図 P1区第4遺構面全体図

られる。

8土坑も7土坑同様、平面不整な楕円形で、長径55cm、短径48cm、深さ10cmを測り、断面形は皿状である。埋土は黒褐色粘土の単層で、埋土及び土坑底面からは多量のドングリを検出した。このことから8土坑においても出土大型植物遺体の同定分析を行ったが、針葉が1個も確認されないなど、若干の違いは認められたものの、出土ドングリはすべてカシ類でアカガシ・ツクバネガシに同定されることから、8土坑もドングリをアク抜き仕方によって選択的に貯蔵したものと思われる。

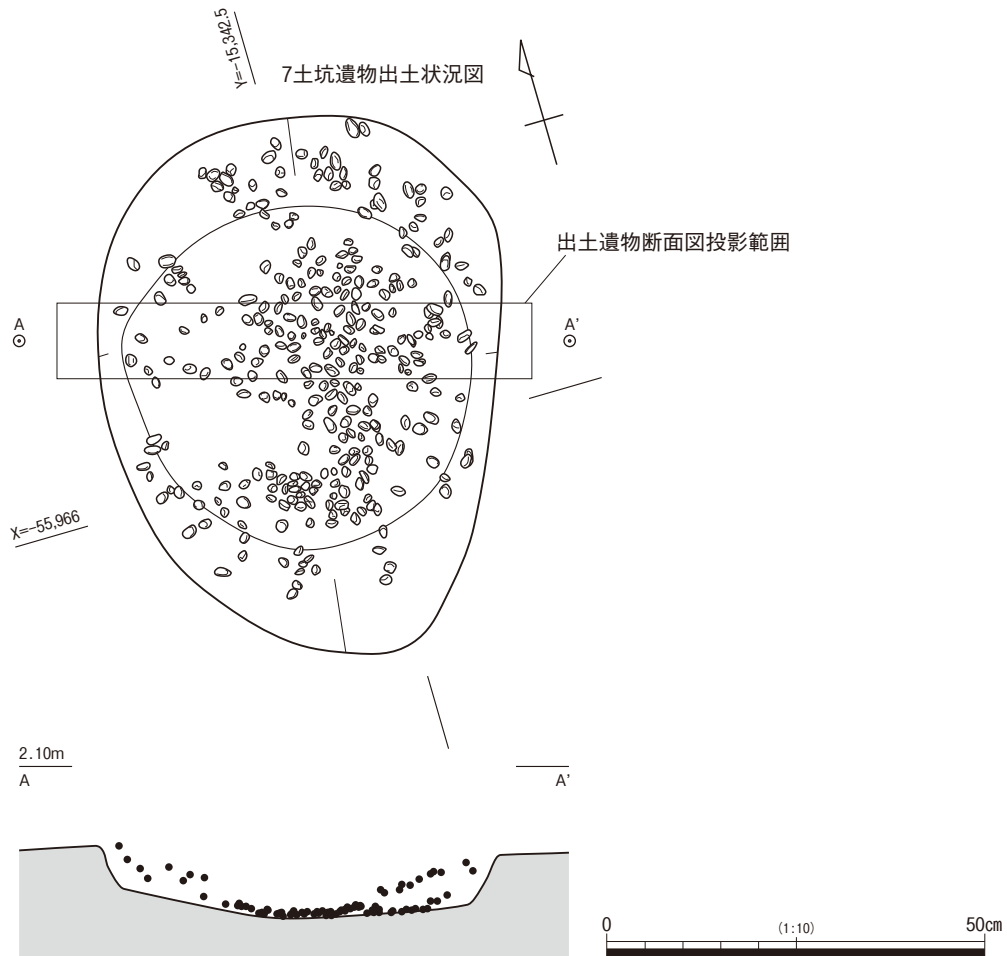
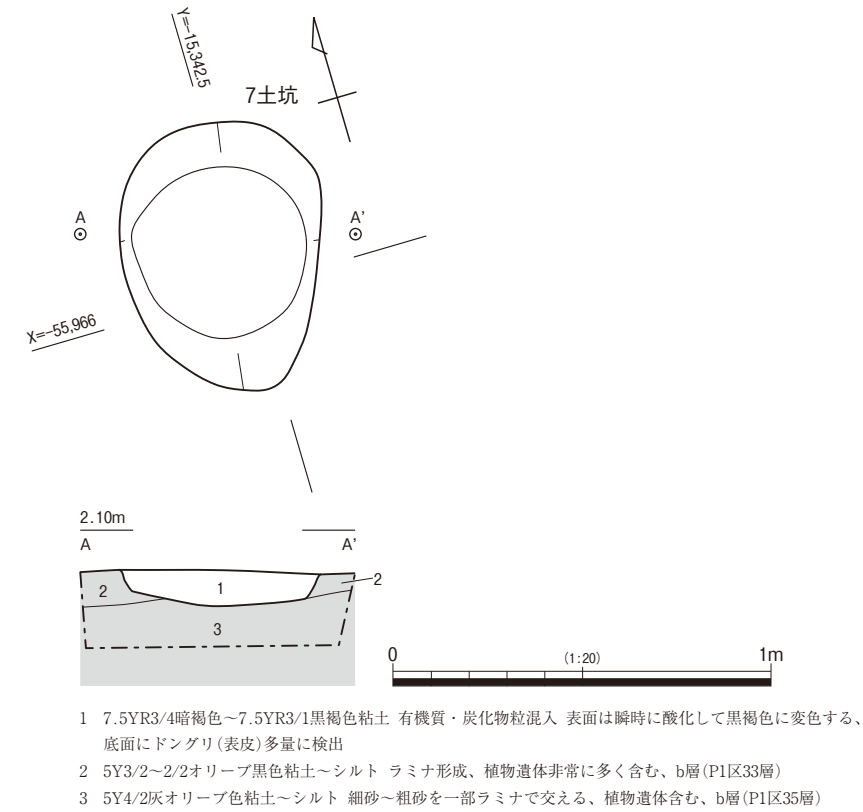
(5) 第5遺構面(49層下面)の調査

第4遺構面から第5遺構面までの30~49層は自然堆積層であるb層、またはそのb層が土壌化したa層の連続である。33層下面では9河川(36・37層)、40層中では縄文土器が認められるものの、人為の遺構は認められず、49層下面で10柱穴が1基確認された。

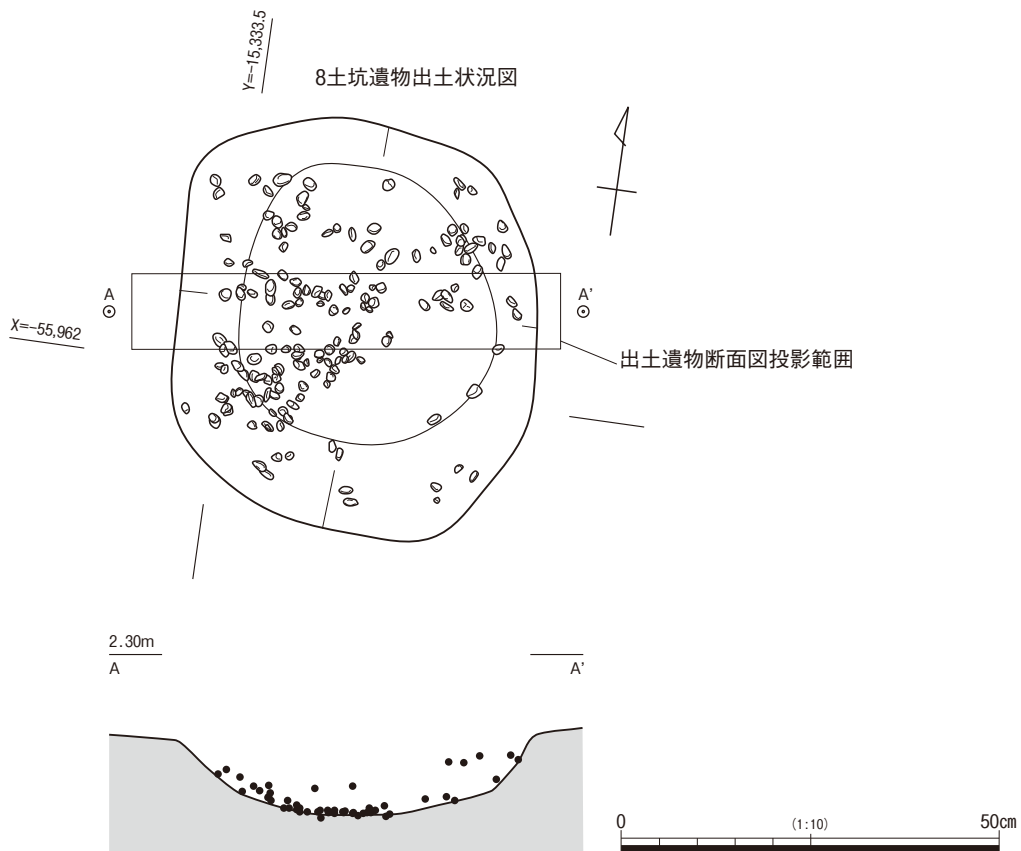
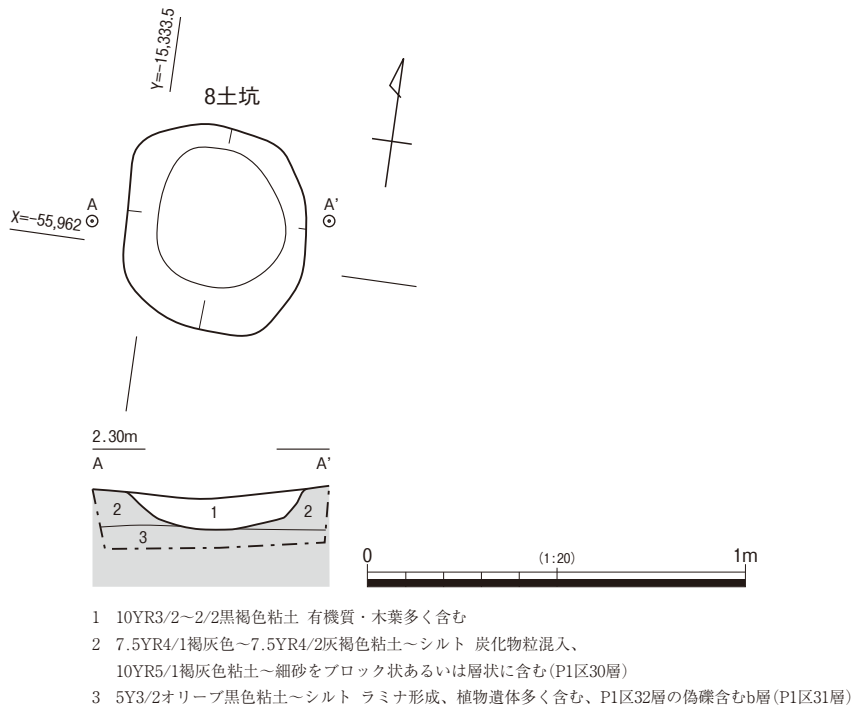
10柱穴

49層下面では、調査区中央やや南東寄りでも10柱穴1基を確認した。49層は土壌化層、50層は自然堆積層であることから、10柱穴は49層形成以前、もしくは49層形成中の柱穴と思われる。

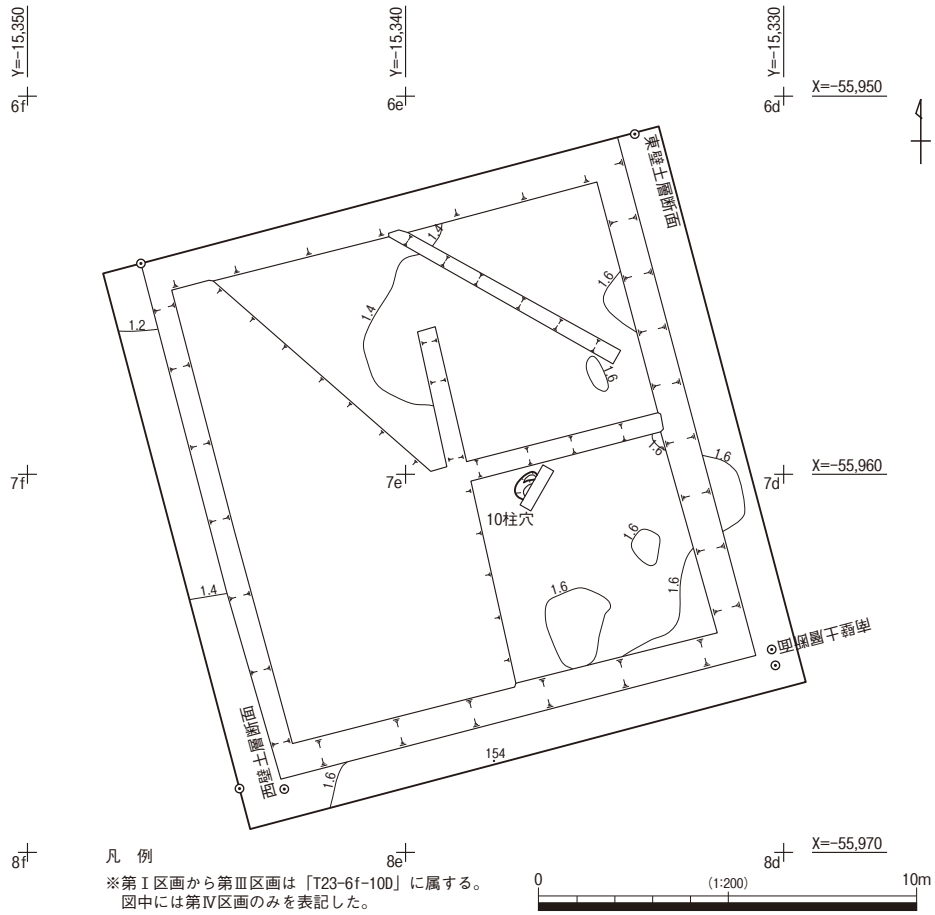
平面は楕円形で、長軸およそ80cm、深さ18cmを測る。埋土は粘土ブロックが混ざる灰色シルト~粗砂を主とし、一部に柱状加工木が傾倒した際に巻き上げられた基盤層50層が認められる。遺存した柱状加工木は、長さ65cm、幅13cmを測る樹皮付きの丸太材で、上端部には伐採痕が明瞭に認められる。



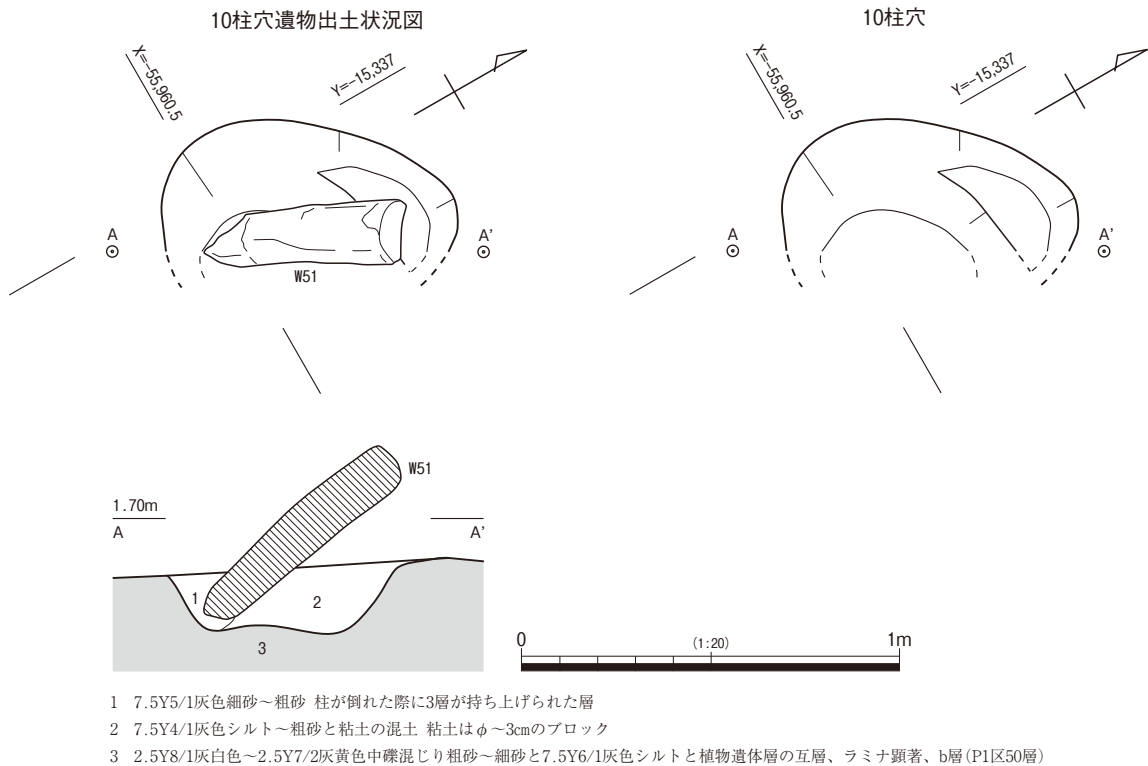
第106図 P1区7土坑



第107図 P1区8土坑



第108図 P1区第5遺構面全体図



第109図 P1区10柱穴

第4節 P2区の調査

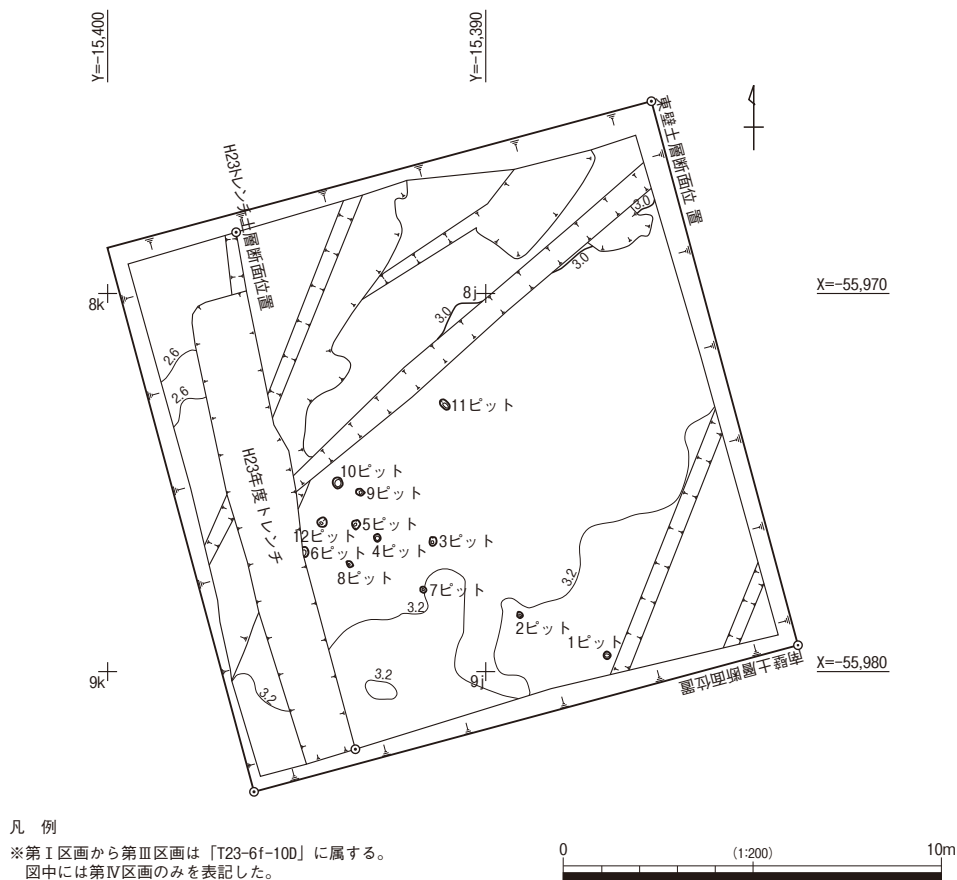
P2区は谷部に位置し、平成23年度の直交トレンチ3と調査範囲が一部重複する。平成23年度の調査成果では、現耕作土下は、標高およそ2.6mから3.4mは土壌化層が連続して堆積していることが確認されており、標高およそ2.7mの高さに堆積する14層中（平成24年度調査では6-1層）からは縄文時代晩期の土器が出土している。

さて、平成24年度調査は、上記のとおり、平成23年度の調査成果を参考としながら、標高およそ0.7mの高さまで調査にあたった。調査では、縄文時代後期から近世までの自然(河川)堆積層、耕作土層のほか、遺物を包含する土壌化層などが認められた。遺構としては、近世以降のピットと時期の詳細は不明であるが近世以前の擬似畦畔、ピットが確認された。土層断面図10-1層から下位は縄文時代後期以前の遺物を含んだ河川堆積層であり、16-3層中の樹皮付自然木(クリ)をウイグルマッチング法による放射性炭素年代測定した結果、最外試料年代でcal BC 2,314-2,244(95.4%)であった。(詳細は本遺跡試料と合わせて分析を行った高住井手添遺跡報告時に掲載)。また、19層中にはヨシ、アシ、マコモなどの水生植物の根が多量に遺存していたことから、湿地化していた状況が考えられる。

(1) 第1遺構面(1層下面)の調査

1~12ピット

現耕作土である1層除去後に12基のピットを確認した。ピットは平面がやや不整な円形か楕円形を呈し、径は17~30cm、深さは10~20cmである。調査区の中央西寄りにやや集中して認められるが、建



第110図 P2区第1遺構面全体図



第111図 P2区第2遺構面全体図

物等を構成するピットの配列は確認できなかった。

また、精査中（2層上面）、銅製と思われる耳環が出土したが、A1区で出土した陶棺片と同様、後世の耕作によって破壊された古墳の副葬品であったと思われる。

（2）第2遺構面（4層下面）の調査

調査区南側に設けた土層観察用の壁面では、3層下面、および4層下面で畦畔状の高まりが確認された。このうち3層下面に位置する調査区南東側の高まり（5-2層）については、土層断面では確認できたものの、平面的には検出ができなかったことから、遺構として取り扱わなかった。

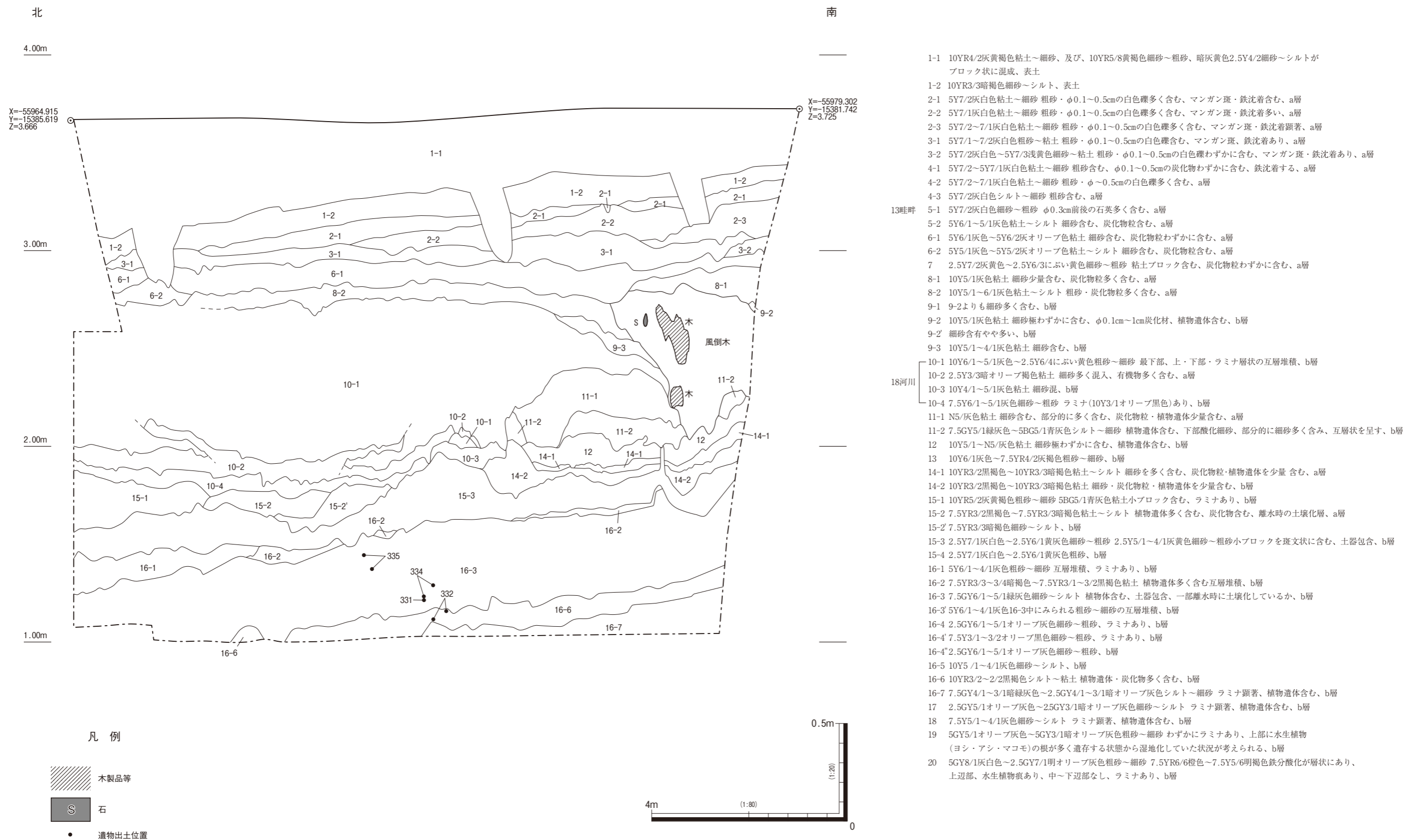
13畦畔

3層下面でその上端を確認した畦畔である。4-1層とした耕作土により削り残された擬似畦畔であり、5-1層とした細砂～粗砂を芯とする。確認できた範囲は、調査区の南西部分で、南西から北東方向に高まりが主に認められるほか、一部が平成23年度トレンチにより削平を受けるものの、南東から北西に向かう高まりも確認でき、十字状に確認できた。

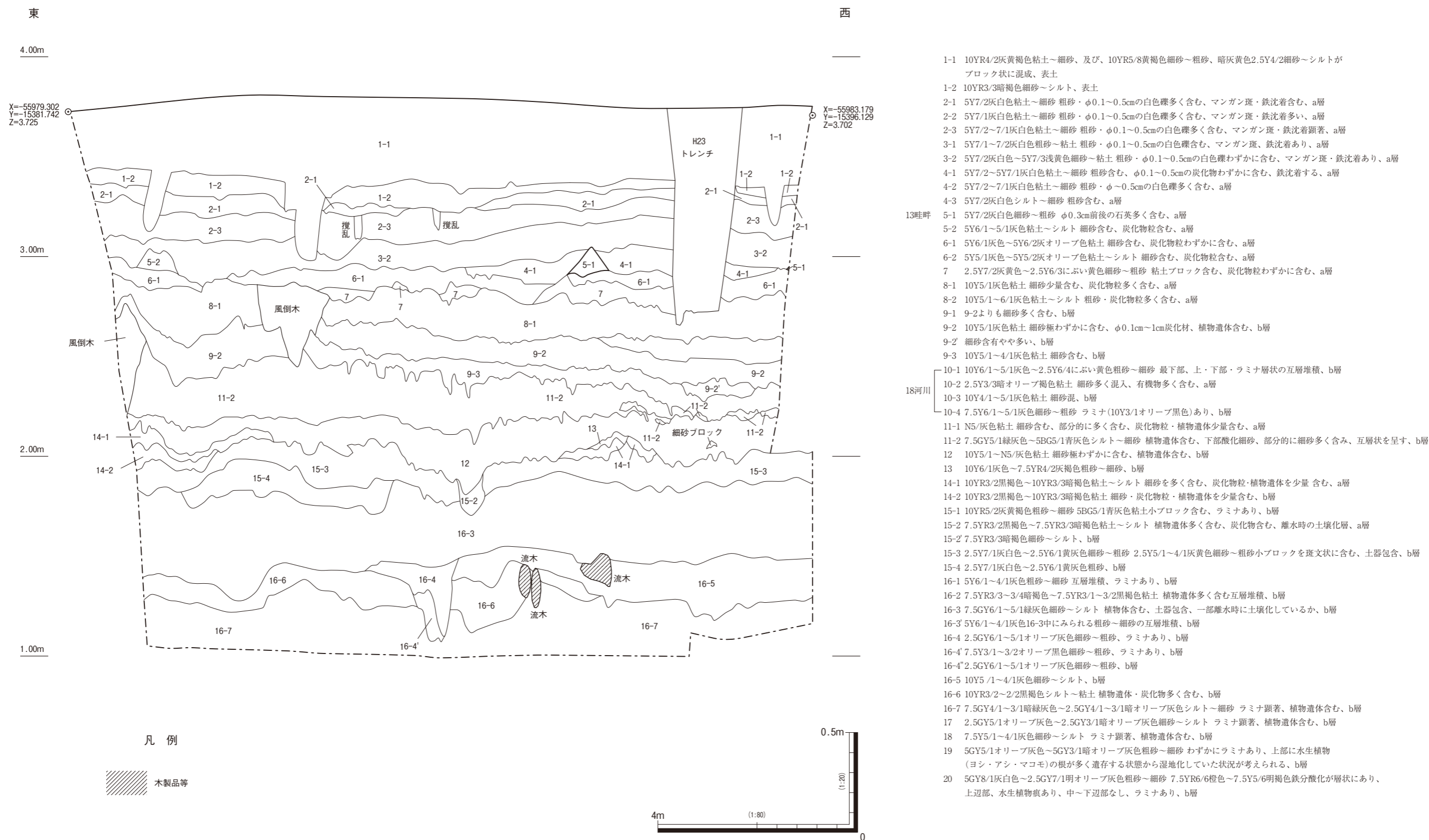
（3）第3遺構面（8層下面）の調査

14ピット

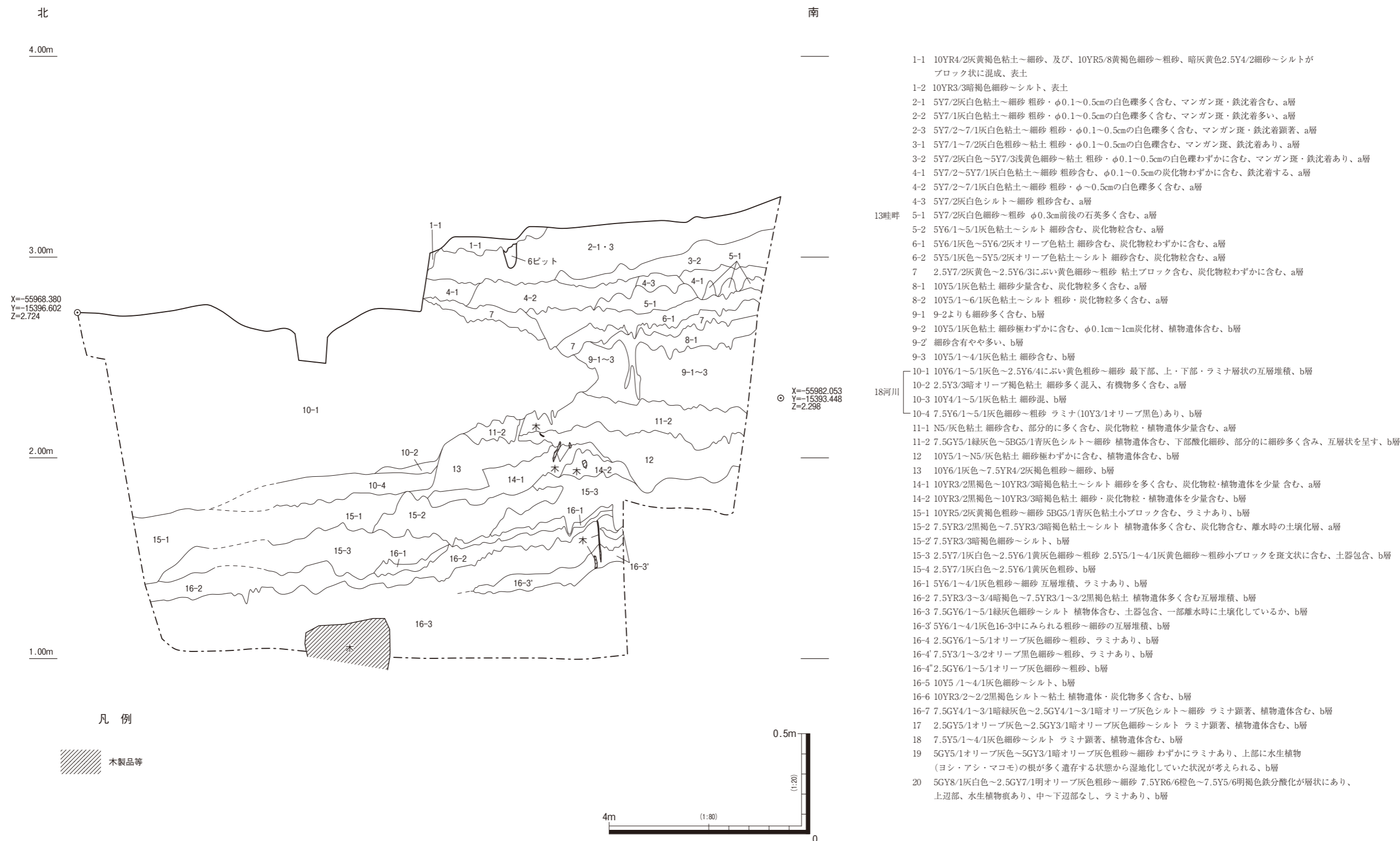
8層下面では、調査区中央やや北寄りにピット1基を確認した。径25cm、深さ6cmほどで人為の遺構であるかは、不明であるが、ピット東側の8層中には当調査区では比較的多く遺物が出土することから遺構として扱った。



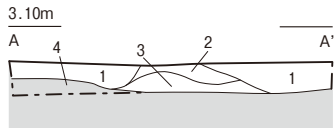
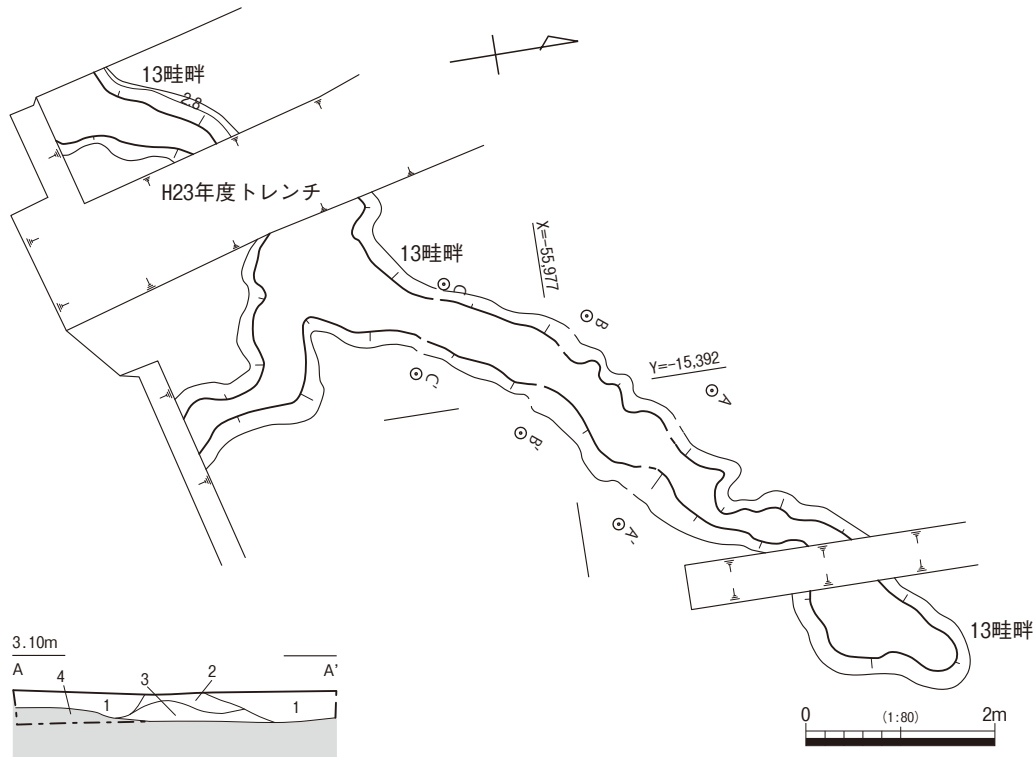
第112図 P2区東壁土層断面図



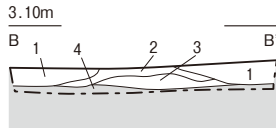
第113図 P2区南壁土層断面図



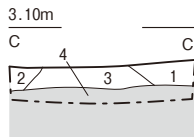
第114図 平成23年度直交トレンチ3延長断面



- 1 5Y7/2~7/1灰白色細砂~粘土 粗砂含む、P2区4-1層(a層)に対応
- 2 5Y7/2灰白色細砂~シルト 粗砂含む、畦畔盛土、もしくは擬似畦畔
- 3 5Y7/2灰白色粗砂~細砂 $\phi \sim 0.3\text{cm}$ 前後の石英含む、P2区5-1層(a層)に対応、擬似畦畔
- 4 5Y6/1灰色粘土 細砂含む、P2区6-1層(a層)に対応

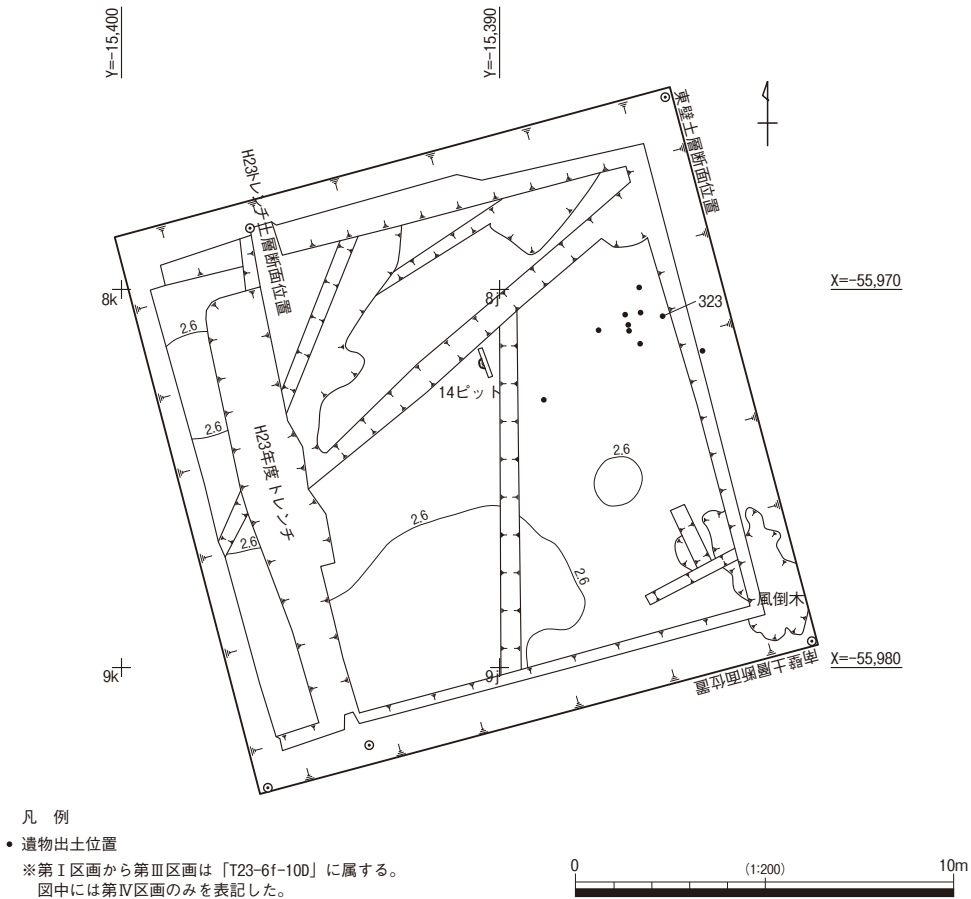


- 1 5Y7/2~7/1灰白色細砂~粘土 粗砂含む、P2区4-1層(a層)に対応
- 2 5Y7/2灰白色細砂~シルト 粗砂含む、畦畔盛土、もしくは擬似畦畔
- 3 5Y7/2灰白色粗砂~細砂 $\phi \sim 0.5\text{cm}$ の石英多く含む、P2区5-1層(a層)に対応、擬似畦畔
- 4 5Y6/1灰色粘土 細砂含む、P2区6-1層(a層)に対応



- 1 5Y7/2~7/1灰白色粘土~細砂 粗砂含む、P2区4-1層(a層)に対応
- 2 5Y7/2~7/1灰白色粘土~細砂 粗砂 $\phi \sim 0.5\text{cm}$ の白色礫多く含む、P2区4-2層(a層)に対応
- 3 5Y7/2灰白色細砂~粗砂 $\phi \sim 0.5\text{cm}$ の石英多く含む、P2区5-1層(a層)に対応、擬似畦畔
- 4 5Y6/1灰色粘土 細砂含む、P2区6-1層(a層)に対応

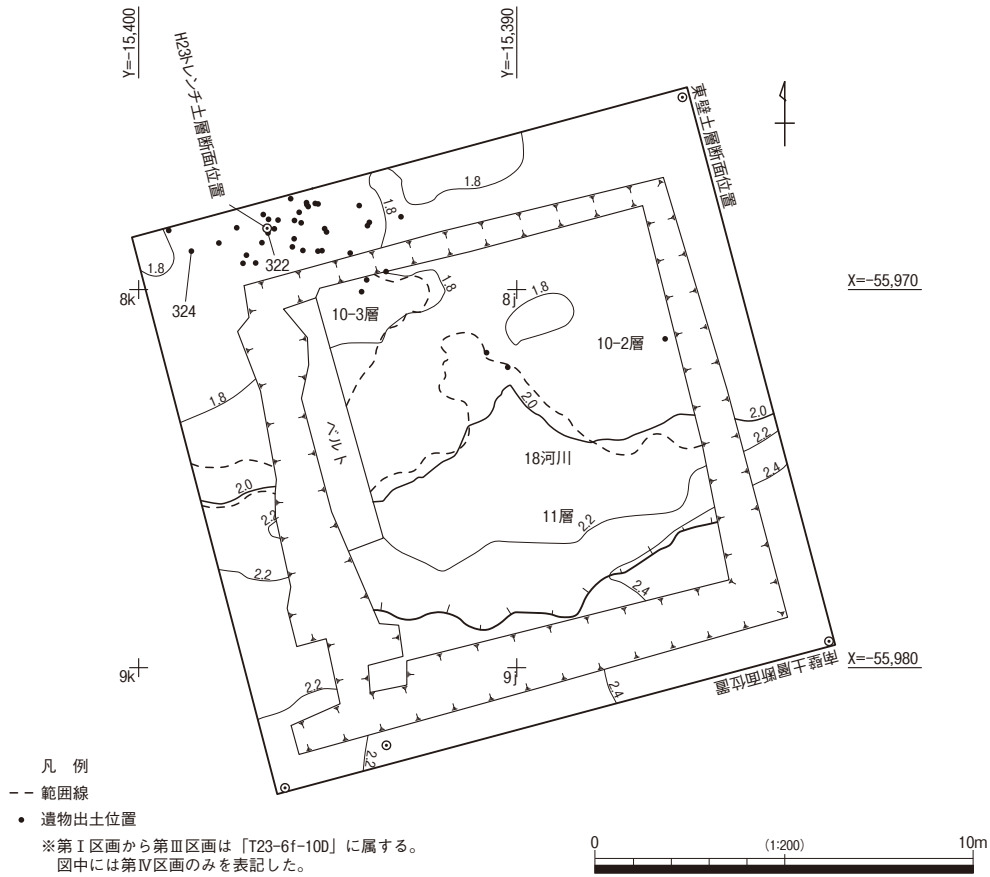
第115図 P2区13畦畔



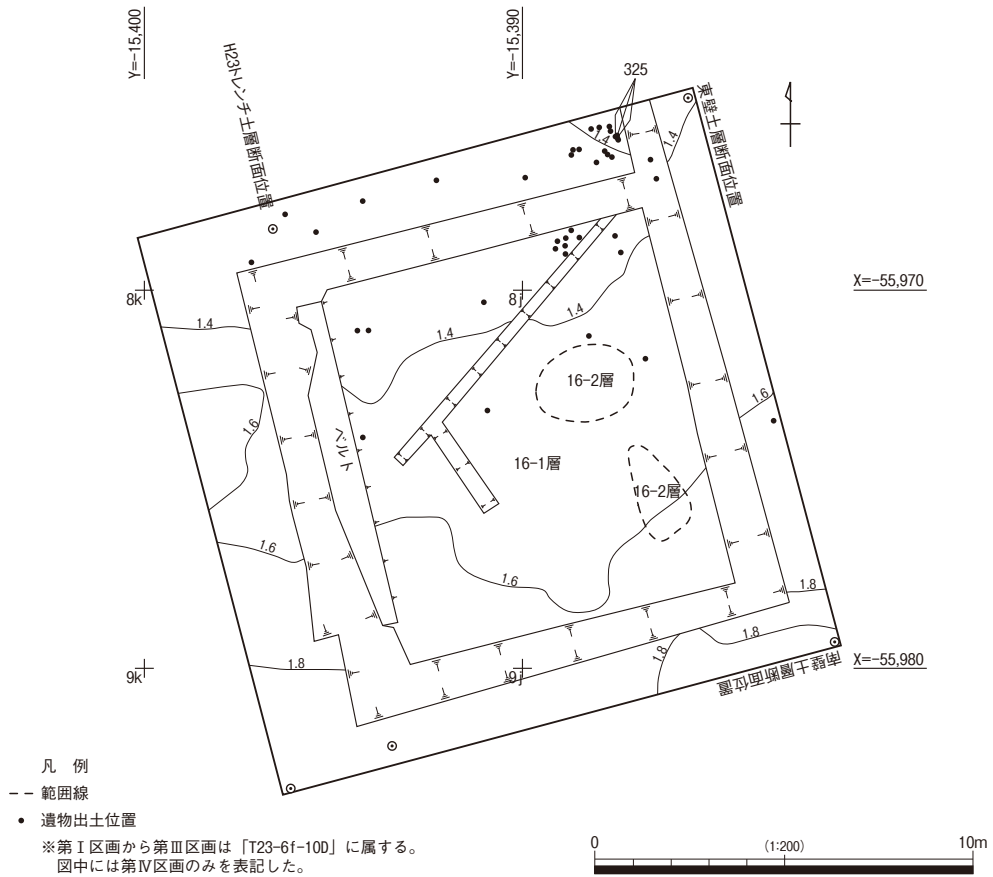
第116図 P2区第3遺構面全体図

表7 P2区ピット表

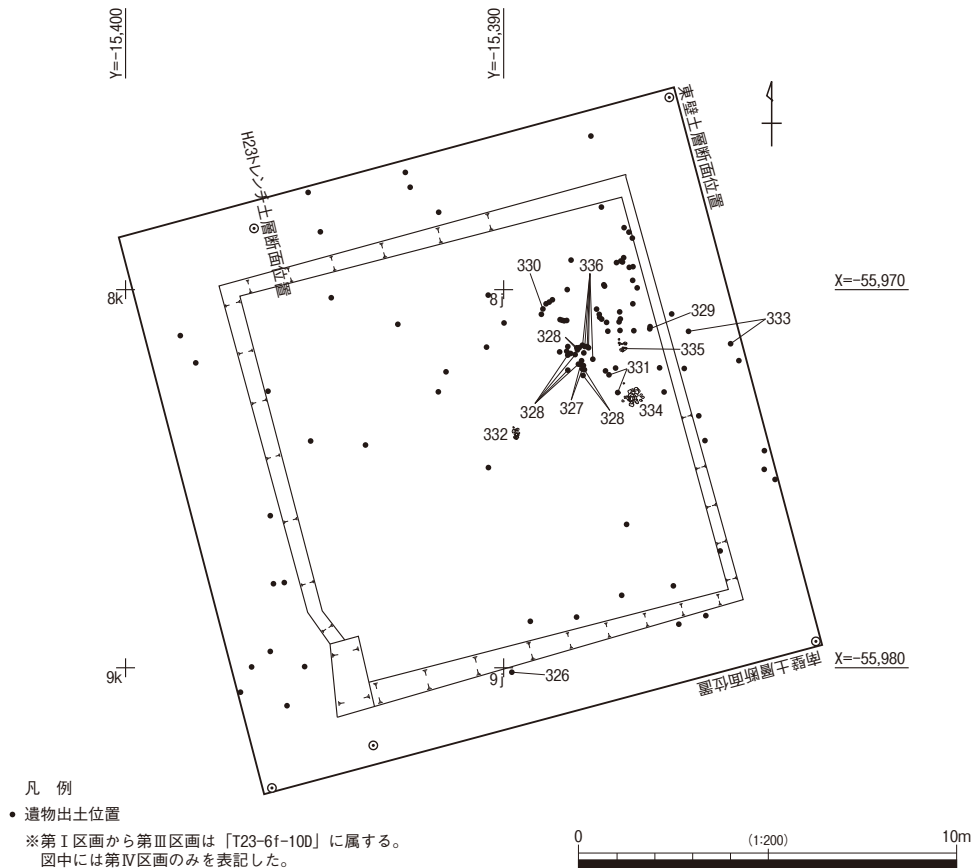
番号	グリッド	検出面	長径	短径	深さ	主な埋土	備考
1	10D-8i	1面1層下面	12	10	12	灰色シルト～粘土	
2	10D-8i	1面1層下面	16	16	12	黄灰色シルト～粘土	
3	10D-8j	1面1層下面	24	18	20	灰色シルト～粘土	
4	10D-8j	1面1層下面	20	18	14	灰色シルト～粘土	
5	10D-8j	1面1層下面	26	22	10	灰色シルト～粘土	
6	10D-8j	1面1層下面	28	16	12	灰色シルト～粘土	
7	10D-8j	1面1層下面	16	16	8	灰色シルト～粘土	
8	10D-8j	1面1層下面	18	14	8	灰色シルト～粘土	
9	10D-8j	1面1層下面	22	18	20	灰色シルト～粘土	
10	10D-8j	1面1層下面	30	26	16	灰色シルト～粘土	
11	10D-8j	1面1層下面	32	18	10	灰色シルト～粘土	
12	10D-8j	1面1層下面	26	26	16	灰色シルト～粘土	
14	10D-8j	3面8層下面	30	12	6	オリーブ黄色細砂～シルト	



第117図 P2区10-2層上面遺物出土状況図



第118図 P2区15層遺物出土状況図



第119図 P2区16-1、16-3層出土状況

第5節 出土遺物

(1) A1区の出土遺物

丘陵裾部に位置するA1区の出土遺物には、遺構出土遺物も若干認められるが、多くは包含層出土遺物である。以下遺構出土遺物、包含層出土遺物について触れる。

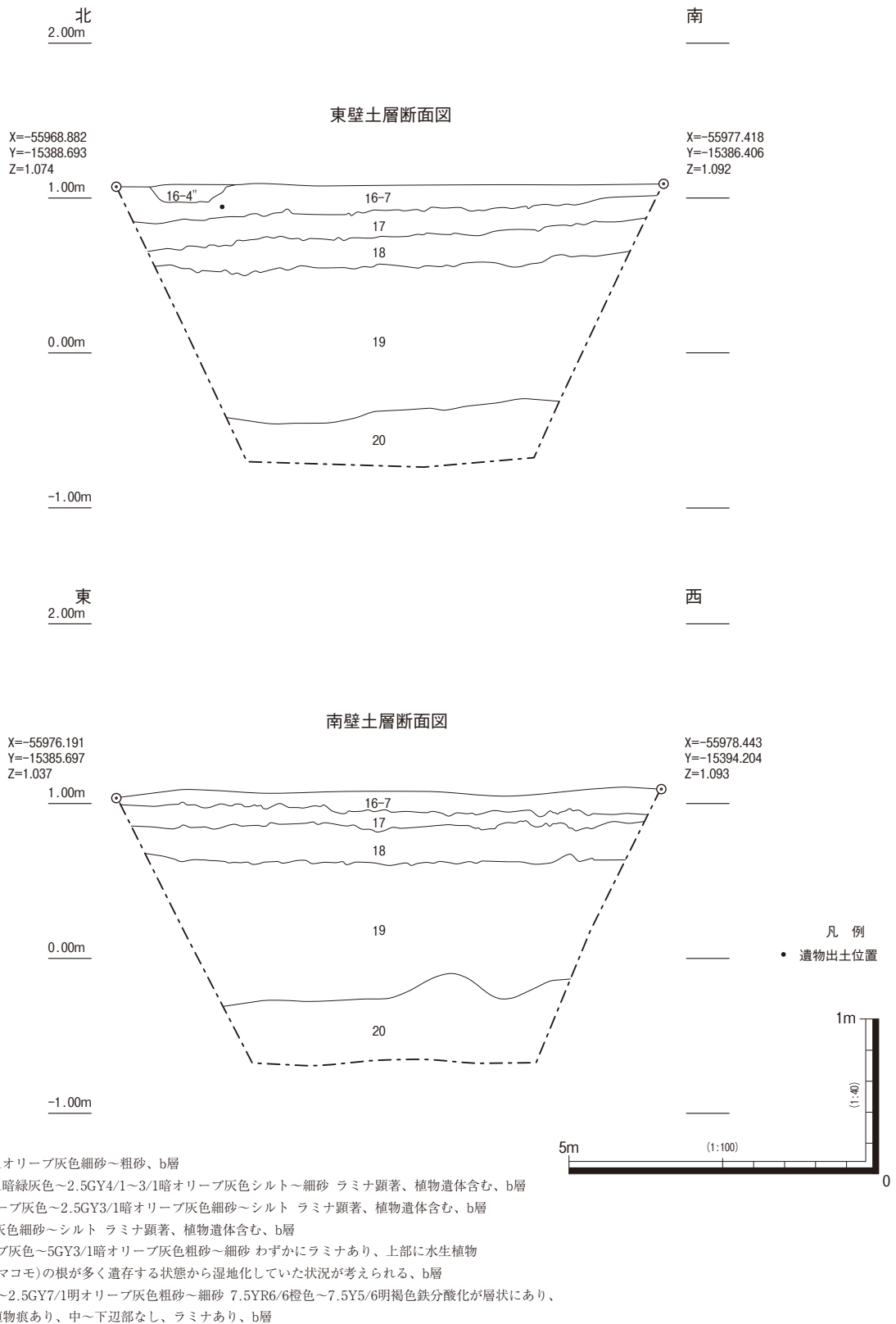
遺構出土遺物

遺構出土遺物には第121図のとおり、ピット等から若干の出土遺物が認められるが、それらの多くは遺構上層に堆積する包含層の年代から、混入遺物と判断でき、包含層の年代との整合性から遺構の伴うものと考えられるものは、124土坑、104ピット、竪穴住居跡1の出土土器や、柱穴出土の柱である。

124土坑から出土した131は胴部から底部にかけての土師器甕の破片で、埋土に古墳時代前期の遺物包含層である25層が堆積することから、前期の土師器甕と判断した。104ピット出土の須恵器の蓋129は口縁部と天井部の境界に明瞭に段が付けられつつも、口縁部の形態などから陶邑編年TK43併行期頃、また竪穴住居跡1から出土した須恵器蓋128はやや新しく、陶邑編年のTK209～217併行のものと思われる。

中近世包含層の遺物

2～6層中からは、中世から近世にかけての遺物や下層から巻き上げられた遺物が出土する。このうち、2層からは青磁の高台付碗139、真鍮製のキセルの吸口M1など近世頃までの遺物が出土する。



第120図 P2区余掘調査東壁、南壁土層断面図

耕作土と思われる5層中からは、瓦質の鍋137のほか、土師質の羽釜片135など13世紀以降の遺物が出土する。また、下層から巻き上げられた須恵器には、古墳時代後期から7世紀頃にかけての無蓋高坏144、高坏脚部146、高台付壺147が出土する。

6層からも5層と同様、土師質の鍋136、瓦質の羽釜133・134など13世紀以降の遺物が出土するほか、下層から巻き上げられた土器も出土する。土師器では小型器台142、9世紀、もしくは10世紀ころの高台杯140、須恵器では底部に「×」のヘラ記号が刻まれる杯145、無蓋高坏143などがみられた。

土器、土製品

8層中からは古墳時代後期から奈良時代までの土器が出土する。図化したのはいずれも須恵器で、奈良時代のものでは須恵器蓋163、古墳時代後期から終末期では蓋164、杯165・166、甕168がみられた。なお、調査では7-2層下面の調査時に8層から11層までを掘削し、地形測量図の作図を行ったが、出土遺物の年代から8層は7-1層堆積後の堆積であったと考えられる。

また、8石列、5～8層中からは陶棺片と考えられる破片がいくつか認められた。このうち8石列出土の132は須恵質の亀甲形の蓋で、側面から正面の角部分の破片と思われ、下端部には幅4cm、厚さ1cmほどの突帯が横方向に伸び、角部分では上方に幅6cm、厚さ0.8～1.4cmほどの突帯が伸びる。

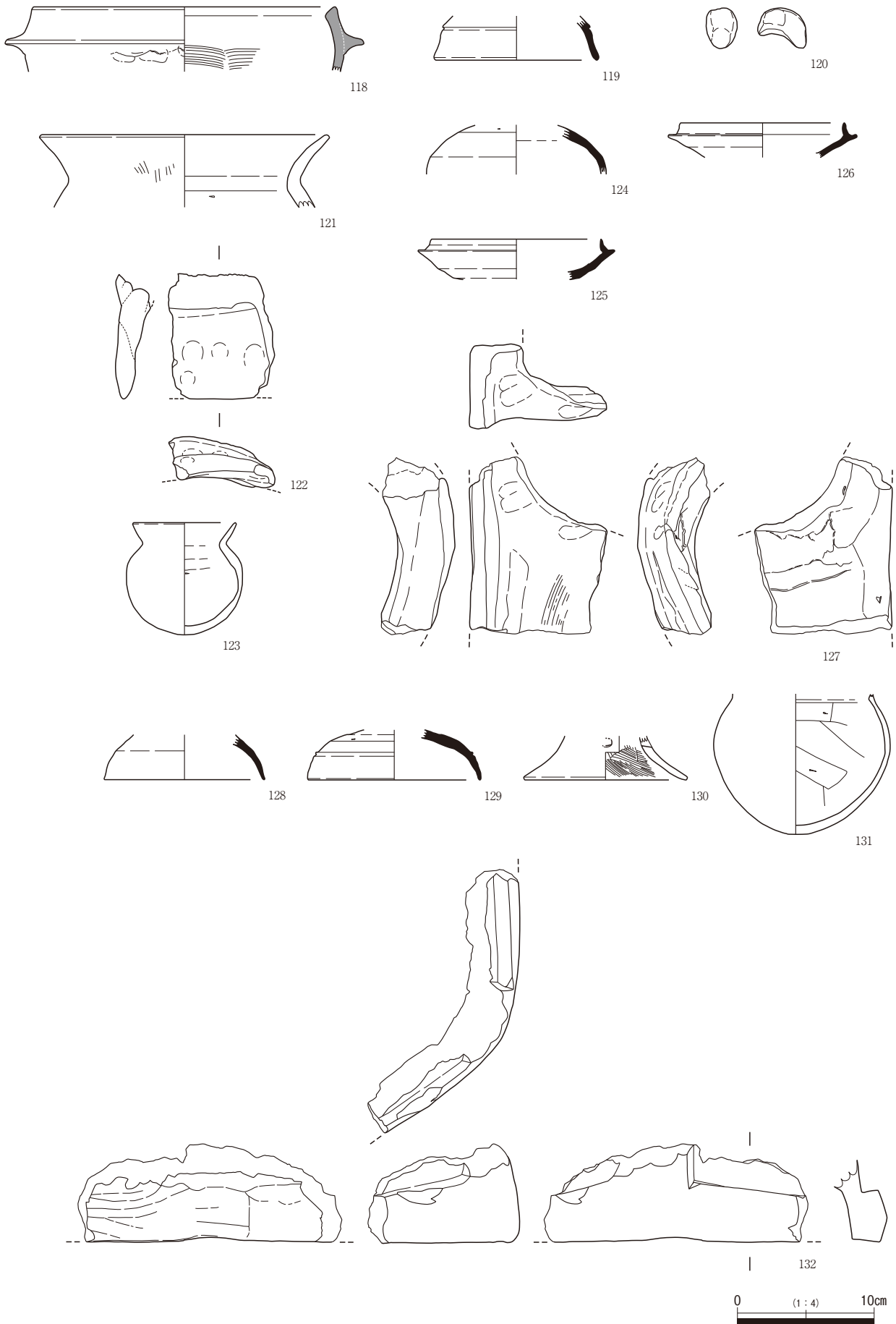
5層から8層中からは、切妻家形陶棺と考えられる破片が出土する。いずれも須恵質で、蓋の下位の部分であり、6層出土の161・162、8層出土の174は平側の屋根の部分の破片である。このうち161・174では、屋根部分に縦方向に突帯が付けられている。

9～13・37層中からの出土土器は、古墳時代後期後半の時期のものが中心となる。杯、蓋、提瓶等陶邑編年のTK43併行と考えられるが、無蓋高坏194は長脚化になりつつも、二段構成にならない。また口唇部は丸く、内面に段を持たないことからTK10併行期頃のものと思われる。土師器では単純口縁の甕が多く認められたほか、207など下方から上方に向かって逆ハの字状に開いた機能的には甑として用いられたものと思われるものもある。

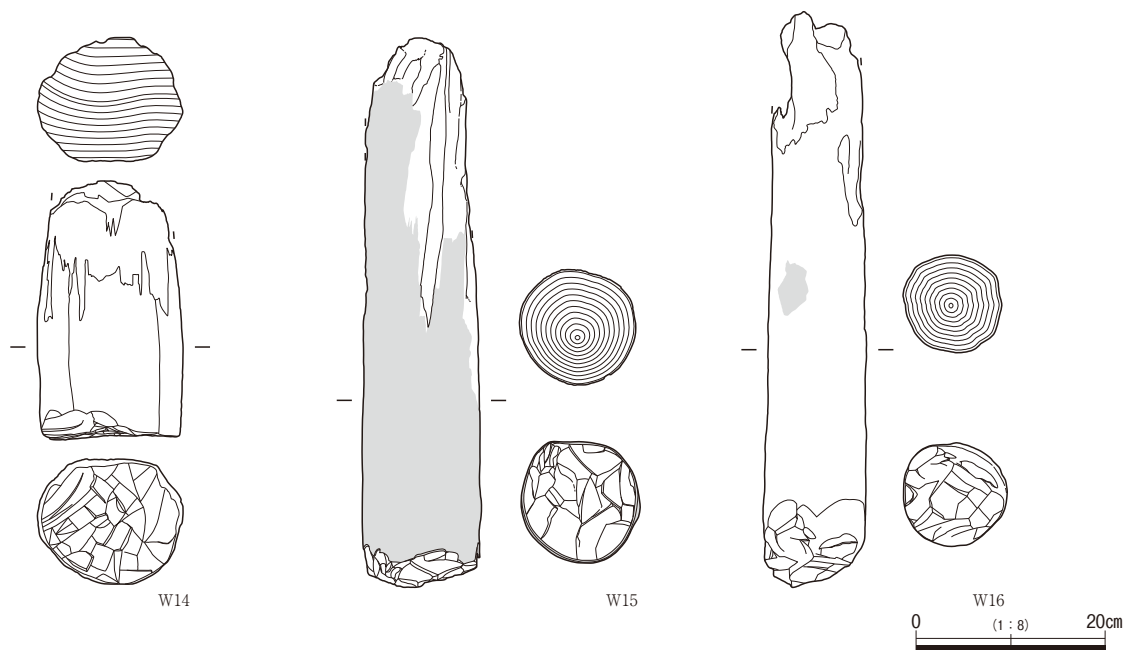
このほか9～13・37層中からの出土土器で特筆されるものに移動式竈がある。移動式竈は37層から出土した209がほぼ完形の状態で復元でき、通有の移動式竈本体の斜め後方に一回り小さい付属のカマド（掛け口）が取り付けられた形態である。移動式竈本体は高さ33.6cm、底部の径36cm、掛け口の径30.4cmを測る。掛け口はわずかに内傾した形状である。焚口は高さ24.4cm、幅21.6cmの長方形で、側方から上方には庇を付ける。焚口を正面からみて右後方には小型の付属竈が取り付けられる。付属竈は長さ24cm、幅24cm、高さ22.8cmを測り、竈本体に比べ、一段低い位置に掛け口を設ける。掛け口上端には、遺存する爪、またはその痕跡や他の破片などから4つほど粘土紐による爪が付けられており、コンロの五徳を彷彿させる。また付属竈と本体竈の接合部分であるが、熱の分散を防ぐためか、付属竈側にも長さ5.2cm、幅18.4cmの庇を取り付けており、本体側との接合部はややものを掛け難い構造となっている。また、他の竈片の観察では、210など掛け口をやや外反させた如意形に近い形態のものも認められる。

21層中出土土器には、古墳時代前期から後期の遺物が認められる。出土した須恵器では、杯229が出土するが、13層出土遺物などに比べ、ほとんど時期差は認められない。ただし、21層上面検出の104ピットの出土須恵器杯蓋129は、天井部と口縁部の境界には明瞭に段が残り、わずかに古い要素も認められる状況である。

25層中出土土器は、古墳時代前期の土師器を中心に出土遺物が認められる。多くは甕の破片で、有



第121図 A1区遺構出土遺物



第122図 A1区柱穴出土柱

段口縁と単純口縁の二者がみられる。また直口壺261や鉢285・286、碗282～284、小型丸底壺、小型甕270、高坏、器台271などが出土する。また、山陰型甑形土器と呼ばれる下端、上端両側に吊手を付けた290も出土したほか、下層巻き上げの弥生土器甕287、高坏286、器台289など中後期の土器も認められた。とくに鼓形器台289の加飾は、鳥取県東部の特徴をよく示している。

26層から28層までの出土土器は、主に弥生時代中期から古墳時代前期の土器が認められる。弥生時代中期では幅広の凹線文が巡り、鋸歯文が線刻されている301の壺頸部片や、299の甕口縁部片、口縁部が肥厚する297・298など、およそIV様式の土器である。また、土師器は口縁部内面に段の付く甕293・294のほか高坏295など古墳時代前期後半頃の土器の様相と思われる。

出土石器

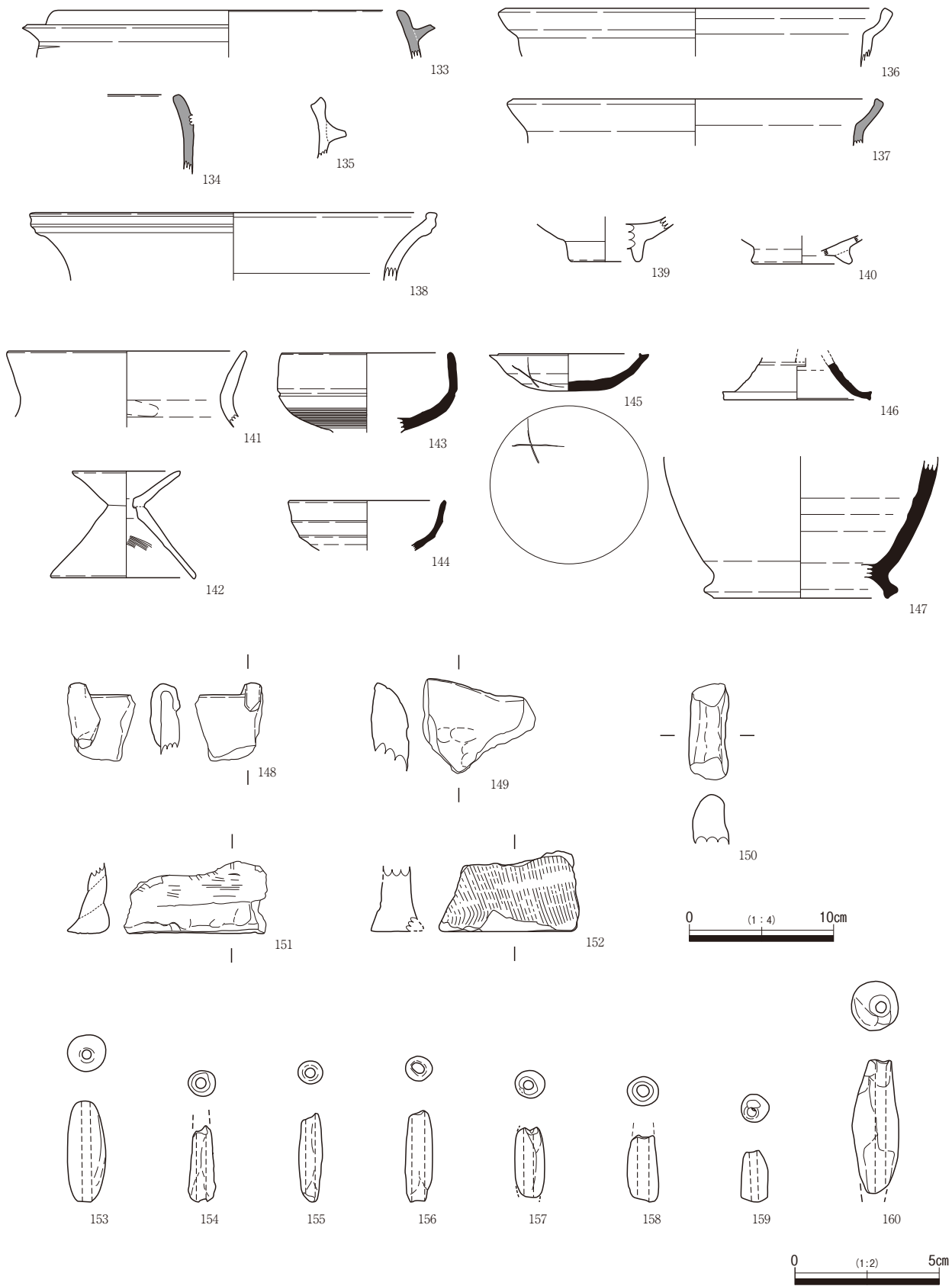
出土した石器はわずかである。このうち攪乱から出土した磨製石斧S14以外は、古墳時代前期の包含層から出土し、安山岩製の打欠石錘S15、磨製石斧の刃部S16・S17などが出土する。

出土木製品

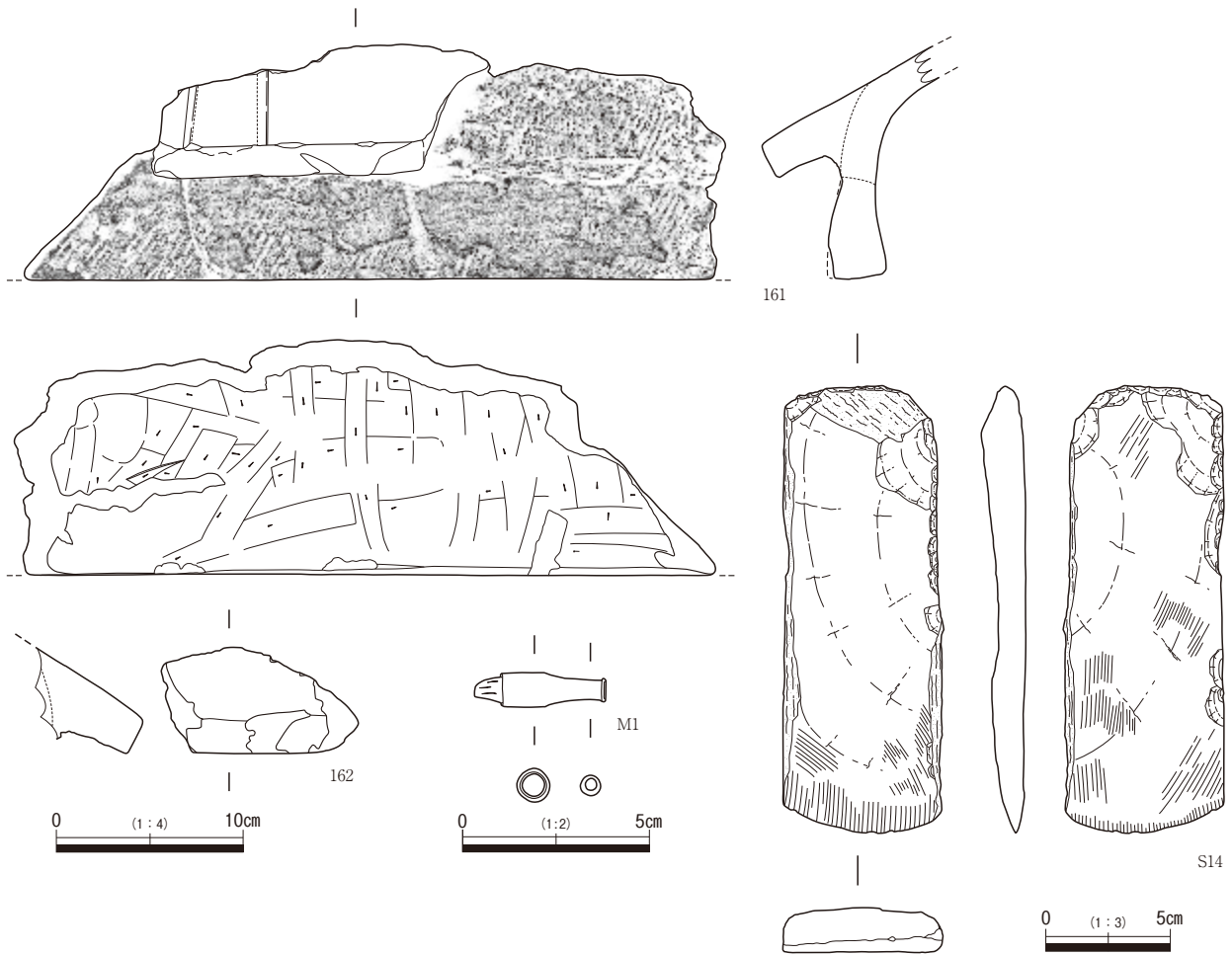
遺構出土の木製品には、ピット、柱穴内から遺存した柱の下部がある。このうち40柱穴から出土したW14は芯去材を用いており、伐採後の加工痕とみられる調整痕が下面に認められる。64ピットから出土したW15、74柱穴から出土したW16は外面に部分的に樹皮を残した芯持材を用い、下部には伐採痕が認められる。法量は、W14は残存長27.3cm、径15.3cm、W15は残存長57.8cm、径12.8cm、W16は残存長60.6cm、径10.9cmである。

包含層では古墳時代後期から古代の土器が出土する8層中からは、W17の板状木製品が出土する。残存長19cm、幅3cm、厚さ1.1cmを測る。下端部は正面から長さ6.4cmにわたり、削って薄く作る。用途は不明である。

出土土器から古墳時代後期の時期が考えられる11～13・18・20・37層中からは多くの木製品が出土する。このうち用途の明らかな製品では、37層から出土したW35の下駄がある。一木作りの連歯下駄で、台部分は残存長24.9cm、幅10.4cm、厚さ1.4cmを測り、歯は長さ10cm、幅1.8～5.2cm、高さ4.6cmを測る（台部を入れた高さは6cm）。台の平面形は楕円形を呈するが、右側面は直線的に作られ、ま



第123図 A1区中近世包含層出土遺物 1



第124図 A1区中近世包含層出土遺物2

た台に空けられた前緒穴は中央よりやや右側に空けられることから左足用である。木取りは芯持材を使用する。

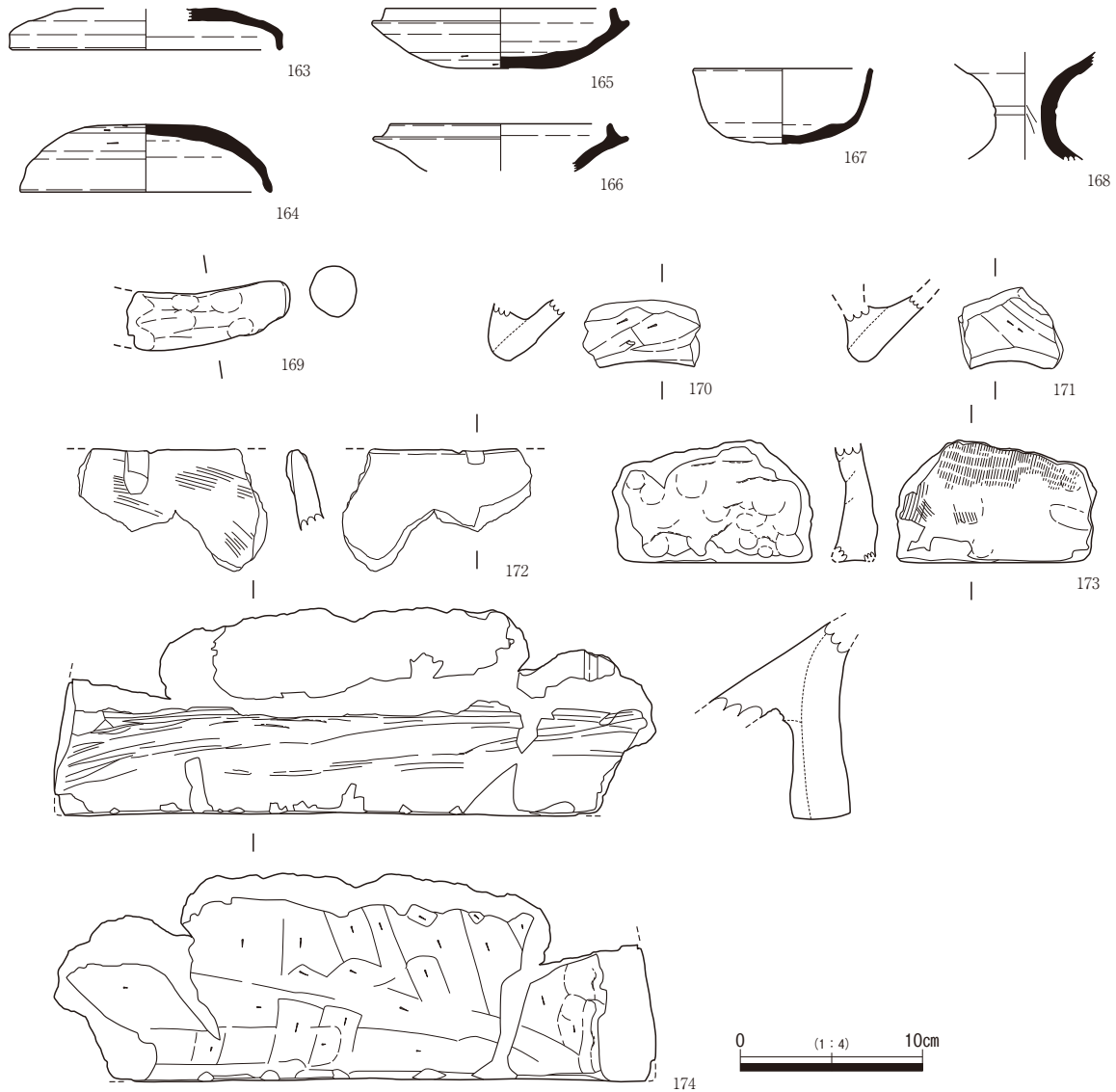
W19～W22・W36は11・37層から出土した木錘である。長さ14～15cm、直径5～6cmほどの丸木材を用い、中央部を抉り、亜鈴のような形となる。

W30は11層から出土した。円盤形の上半部分に鱗が付いた形状をしており、円盤形の外縁部分はおよそ幅10.8cm、厚さ3.8cmと肥厚させ、内側部分は厚さ2.8cmと薄く削る。また、上半と下半を分ける位置には幅4.8cmで溝が彫られ、こちらも外縁と内側の境界部分で段が付く。裏面は表面にみられた外縁の肥厚帯はなく平滑に作られるが、表面の中端に彫られる溝と同じ位置に、表面肥厚帯付近まで溝が彫られる。鱗部分は判然としないが、側面に加工痕など認められないことからさらに右方にのびると思われる。

W33は13層出土の板状木製品で残存長41.3cm、幅21.6cm、厚さ2cmを測る。半円状の平面形をしており、右端部は欠損。桶底板と思われる。

W23・W24・W38は杭で、W23・W38は芯持材で、W24は芯去材を用いている。また杭、もしくは矢板として転用されたW40・W41は遺存する端部先端を削り出し、側面にはほぞ穴、もしくは切り込みの加工がみられる。

そのほか表面に残る切痕から作業台として用いられたと思われるW39などのほか、用途不明の棒状、板状の木製品が出土する。



第125図 A1区 8層出土遺物

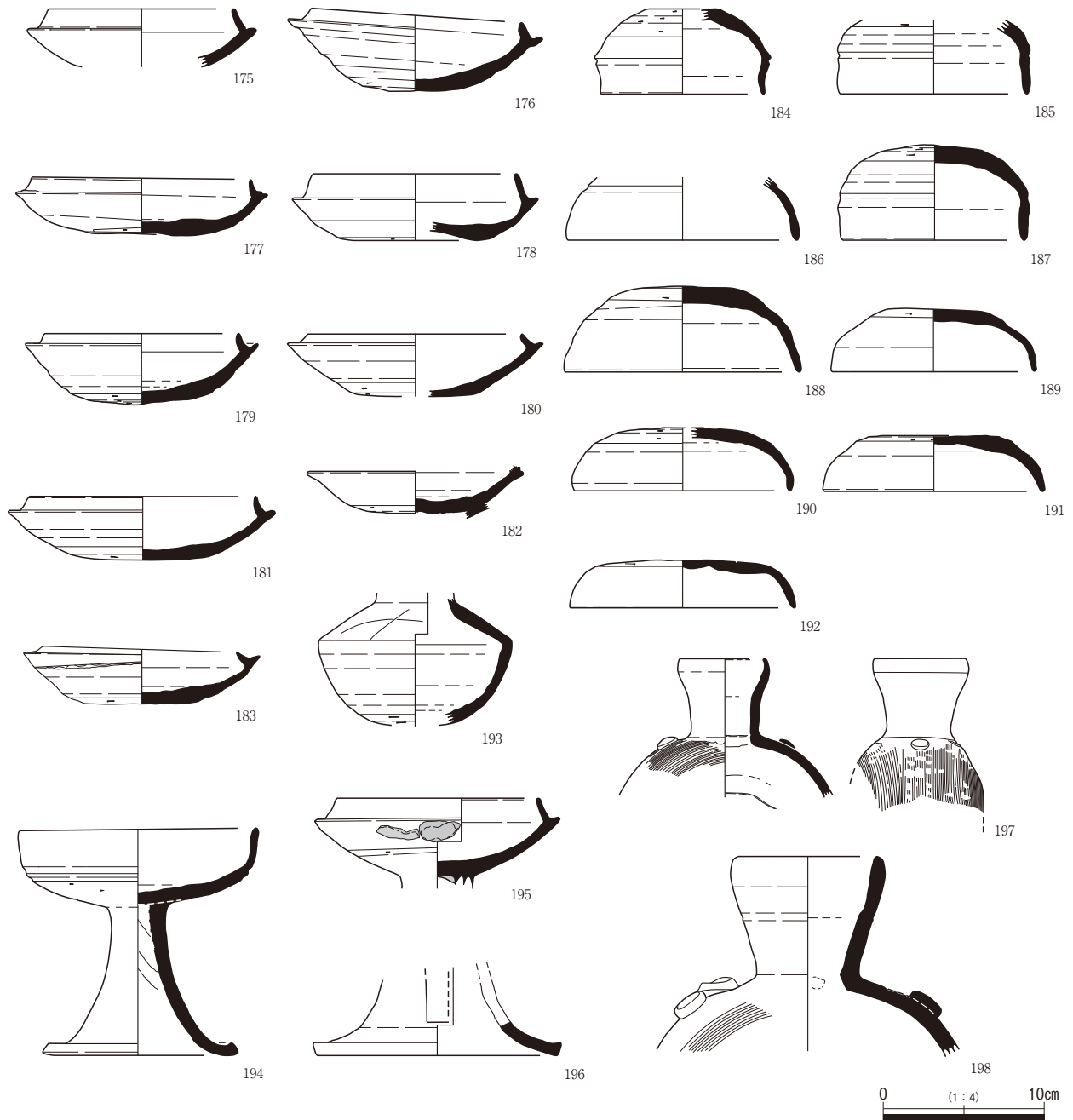
出土土器から古墳時代前期の包含層と考えられる25層から29層でも古墳時代後期の包含層に比して量は少ないものの、木製品が出土する。W43は木錘であるが、前述した古墳時代後期の木錘に比べ、やや大きく、形状も垂鈴形ではあるが、中間部分が柱状に作られる。そのほか建物の転用材であろうか、表面が被熱で炭化した板状木製品W45、右上端部を隅切りするほか、残存部下端も左端から右端付近まで欠いたW44が認められた。

(2) P1区の出土遺物

P1区は、遺構出土の遺物は7土坑、8土坑出土の堅果類などの植物遺体、10柱穴出土の柱W51以外は認められず、土器などはすべて包含層出土である。以下、各包含層出土遺物について触れる。

中近世包含層の遺物

2～3層中からは、中世から近世にかけての遺物がわずかではあるが出土する。305は瓦質の鍋で13世紀以降の年代と思われる。そのほか在地産と思われる播鉢304や東丘陵部からの流れ込みと考えられる古墳時代後期の須恵器杯306なども出土したほか、土製品に土錘307・308、金属製品ではキセル吸口M2、鉄釘M3が認められた。



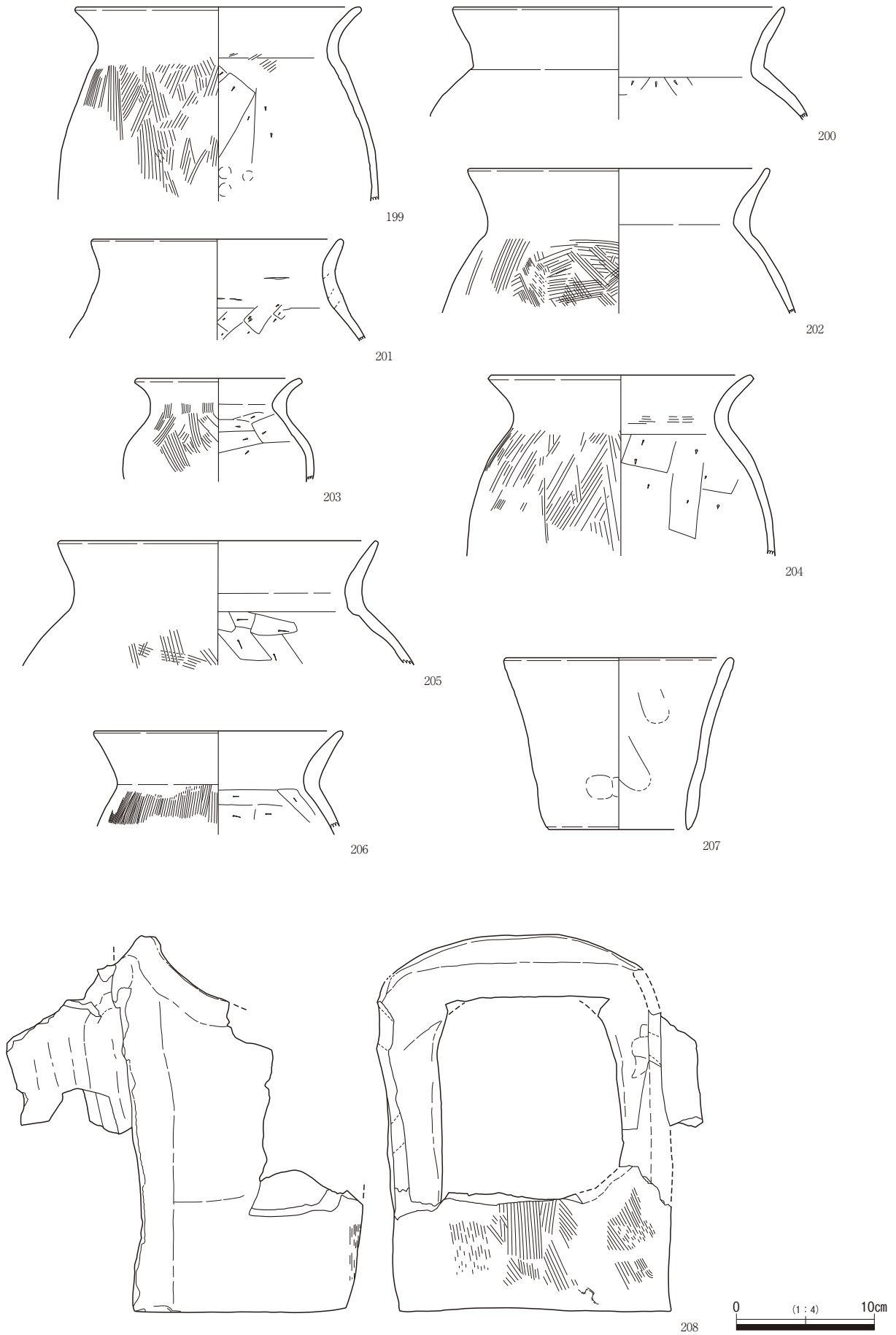
第126図 A1区9～13・37層出土土器 1

土器

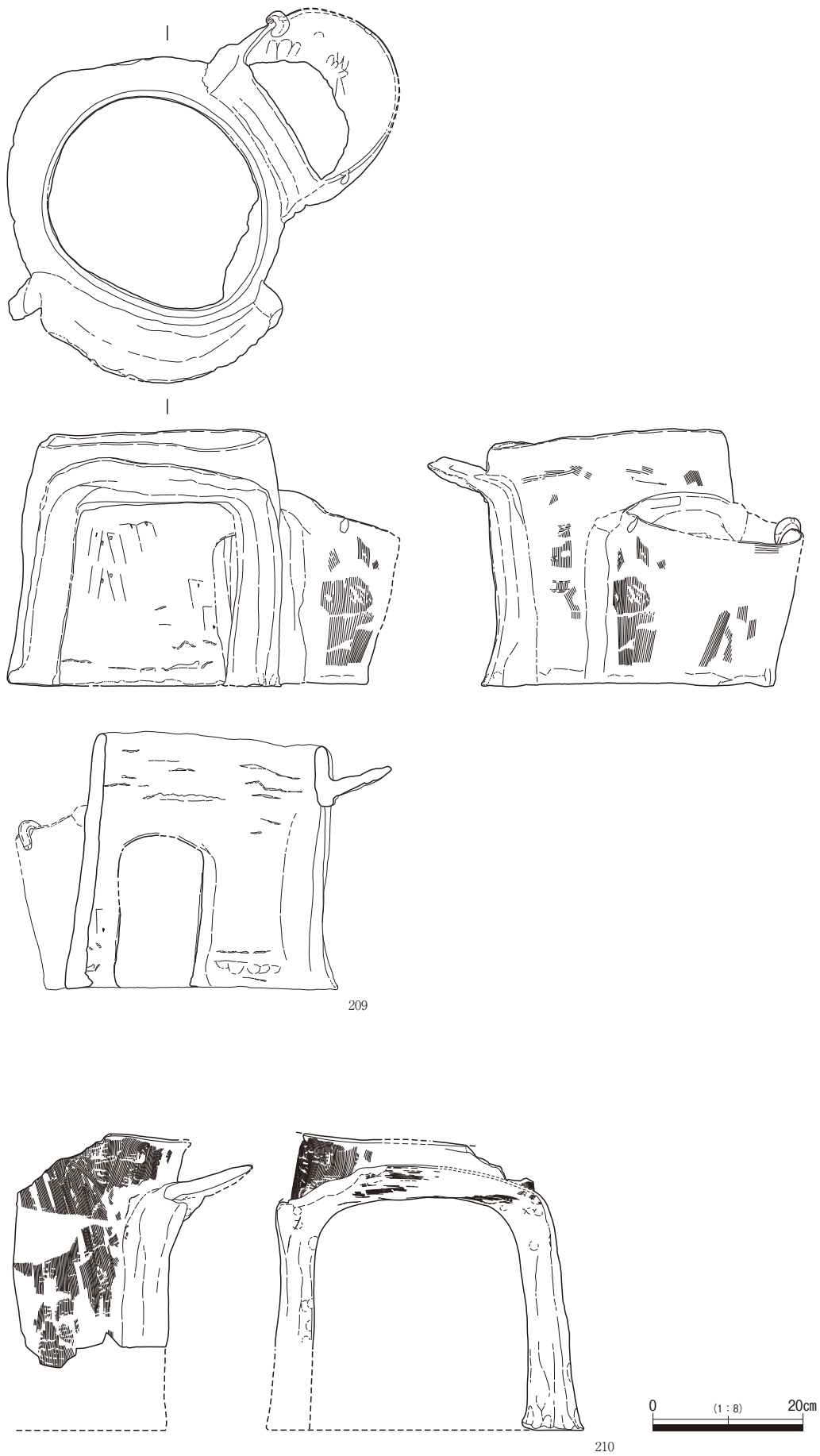
5層中から古代の須恵器、高台杯309が出土する。底面は丁寧な回転ナデが施され、糸切痕の有無等は確認できないが、高台の位置などから8世紀代のものと思われる。本層の下位には、整地土層と思われる7層があるが、この7層はA1区にみられる8層に相当すると思われ、出土遺物からおよそ古代の年代が考えられる。よって309は下層からの巻き上げ、もしくは5層も含め古代の堆積層であったと思われる。

下面で2畦畔を検出した8層中からは古墳時代前期の土師器が認められる。有段口縁の甕10、単純口縁の311が認められ、311の口縁部は折り返えされる。312・313は蓋の摘み部で、北陸地方からの搬入品の可能性がある。

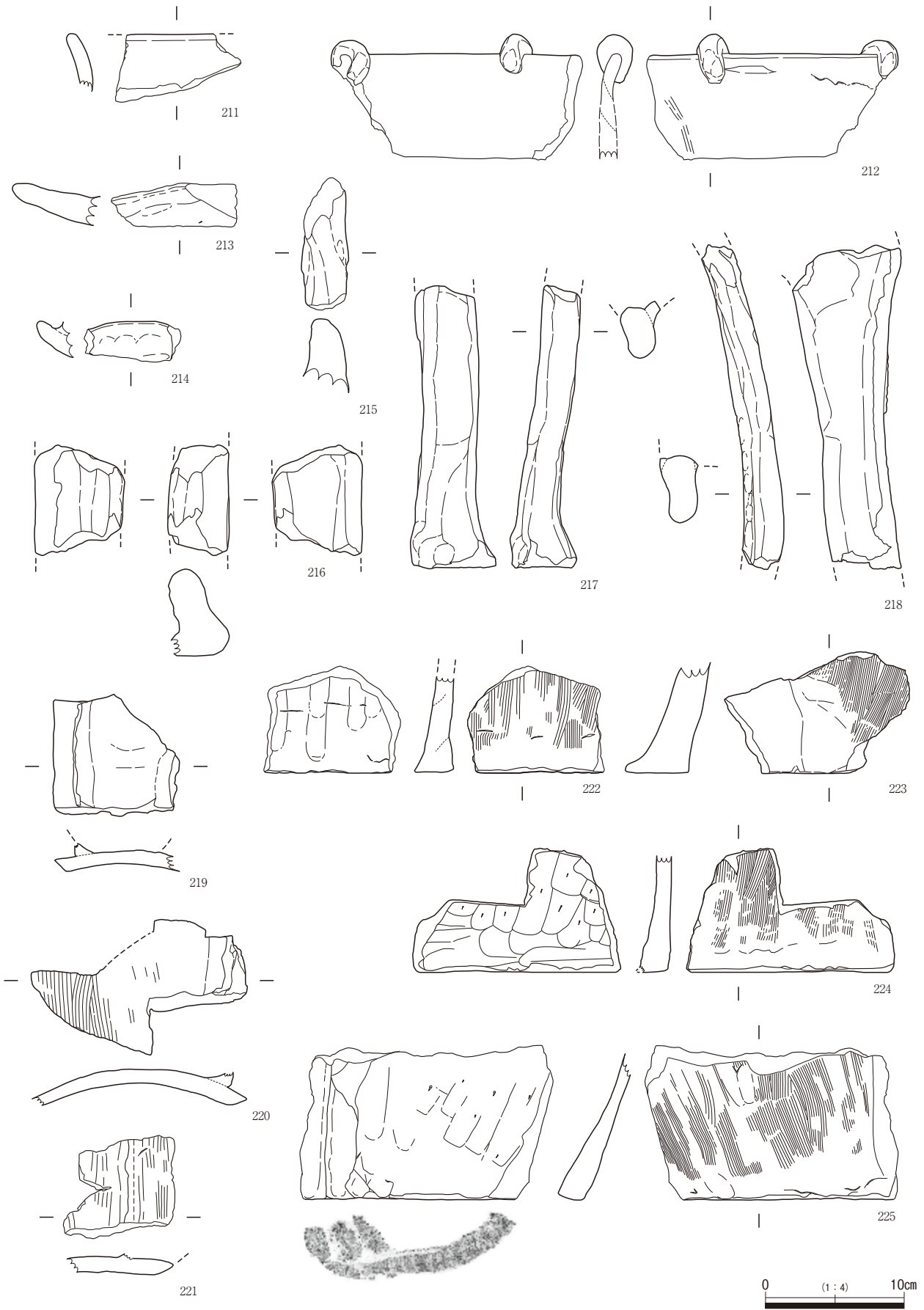
下面で3・4畦畔、6ピットを検出した10層中からは弥生時代中期から後期までの土器が出土する。甕314・315は、口縁部は肥厚し、315は3条の凹線が施される。316は後期末の高坏、317は器台



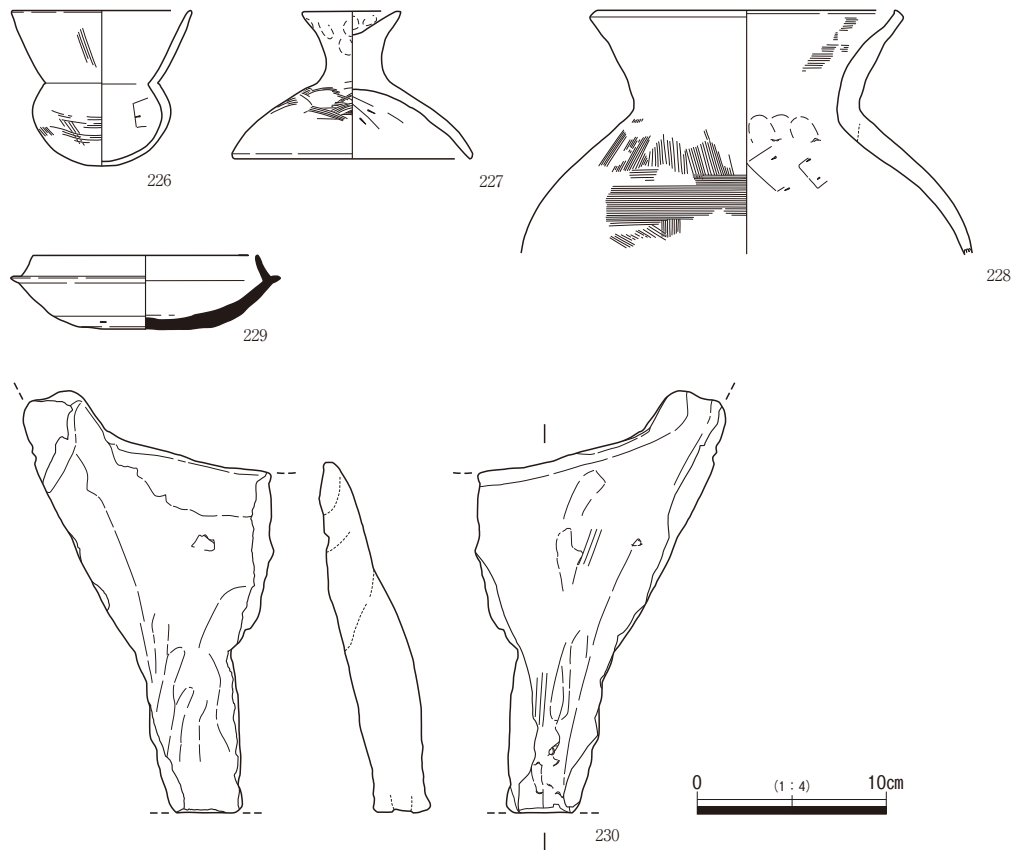
第127図 A1区9~13・37層出土土器2



第128図 A1区9～13・37層出土土器3



第129図 A1区9~13・37層出土土器4



第130図 A1区21～24層出土土器

である。また、正面及び側面に格子状や縦、横、斜めに線刻を入れた板状土製品321も認められる。

そのほか、318～320の縄文土器が出土する。29層中から出土した深鉢胴部片318は中津式と思われるが、本層下面の7土坑、8土坑出土の堅果類の放射性炭素年代ではおよそ3,500年前の測定値を得ており、下層からの混入の可能性が高い。

出土石器

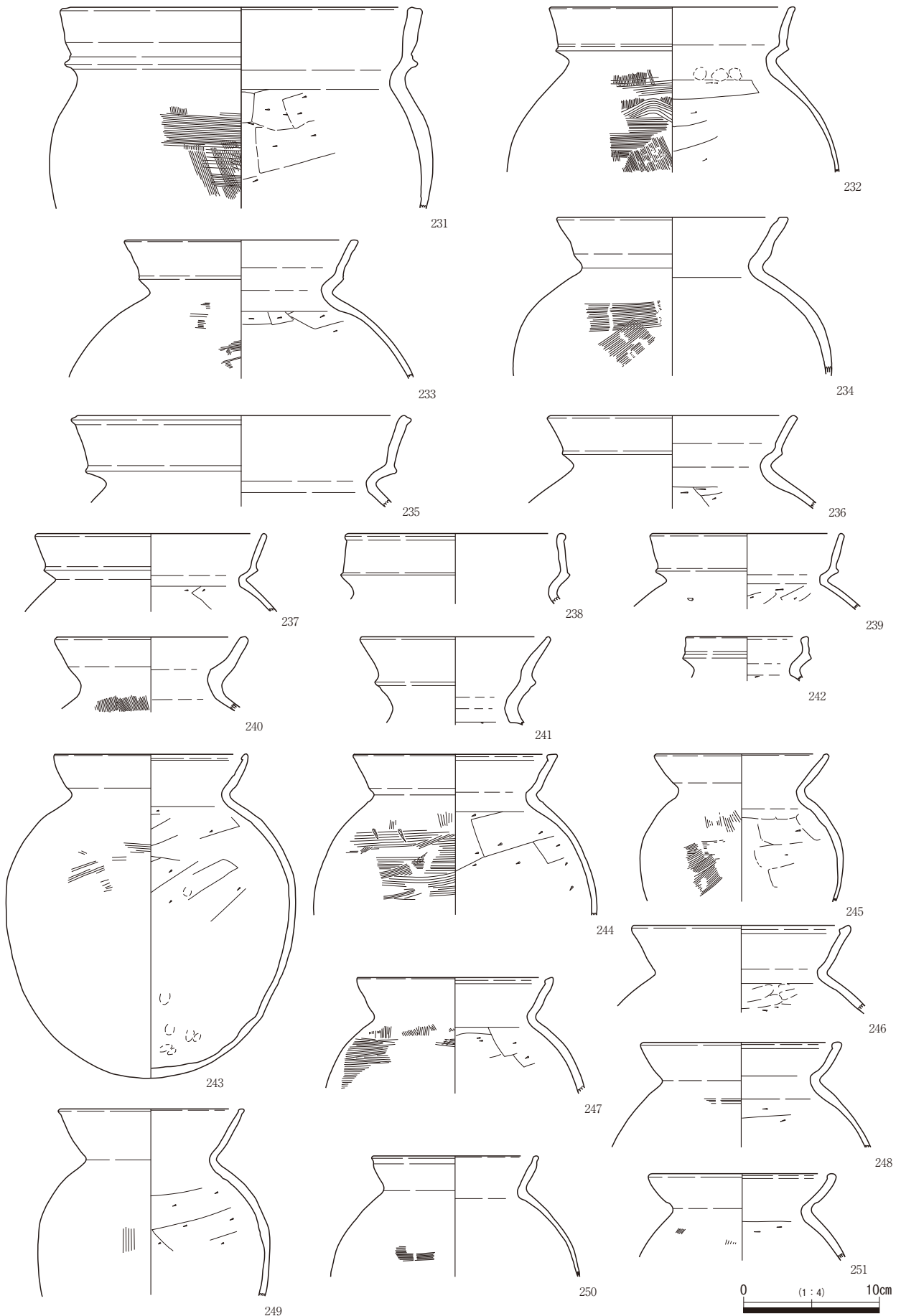
弥生時代中期から後期までの土器が出土する10層からは、緑色片岩製の石包丁S18が出土する。片側の一部が欠損するものの、持ち手の紐を通す孔は2孔認められ、やや遺存する部分に寄る位置に穿孔される。そのほか40層からS19、51層からS20の打欠石錘が出土する。

木製品

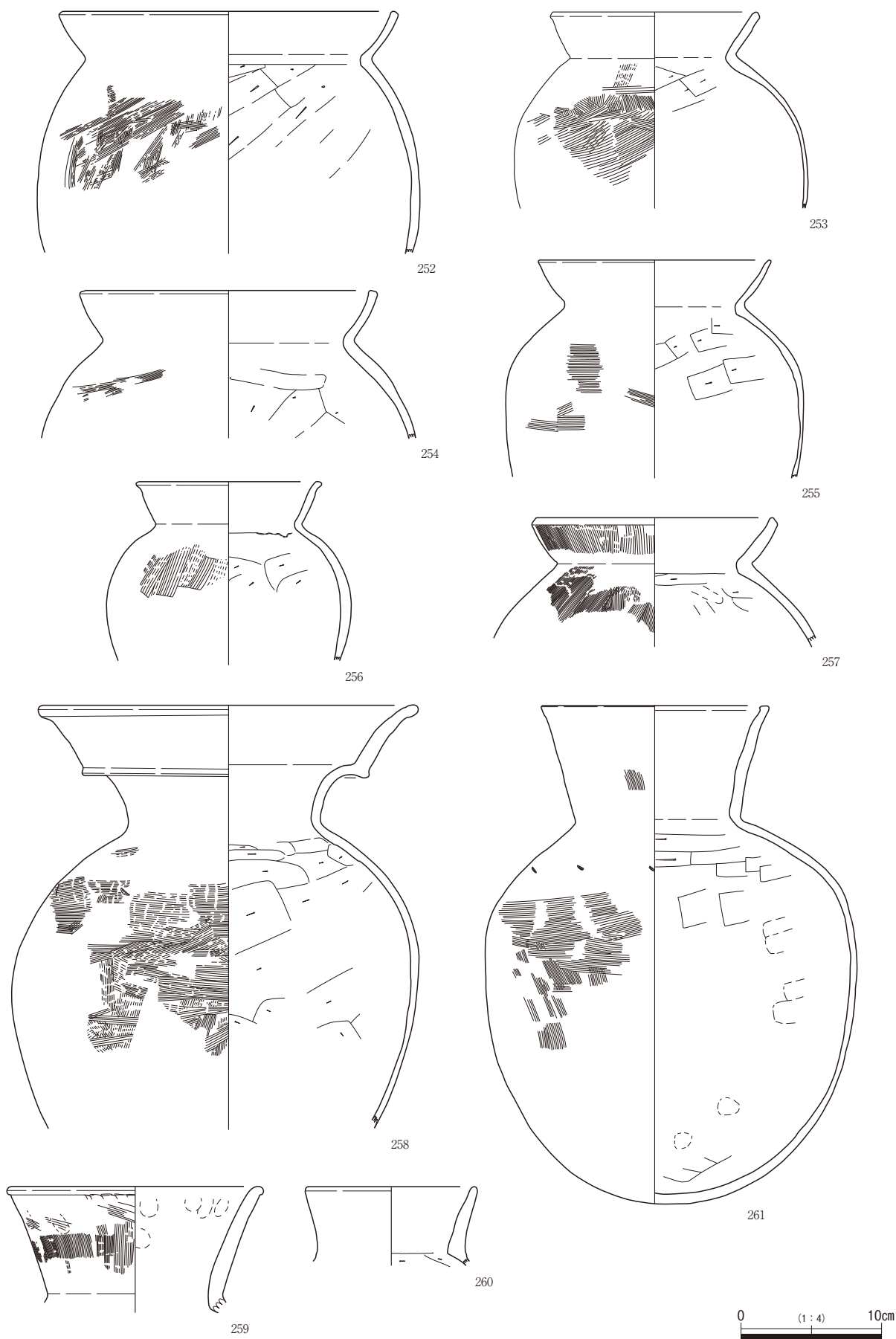
遺構から出土ものでは、10柱穴に遺存した柱状加工木W51がある。芯持材を用い、外面には樹皮が残る。上端部には伐採痕が認められる。残存長65.3cm、径16.7cmを測る。

包含層出土の木製品では、古代の土器が出土した5層中からは、下辺には左隅を切り込みほか、存存部右端にも方形の抉りを入れた板状の製品W46が出土する。残存長23.6cm、幅8.1cm、厚さ2cmを測る。また、6層中からは先端部に被熱による炭化が認められる火付け木と思われる不整形な木片W47が出土する。土器の項で述べたとおり、P1区では7層まで古代の包含層と思われることから、本製品も古代以降の遺物と思われる。残存長13.9cm、幅1.2cm、厚さ0.7cmを測る。

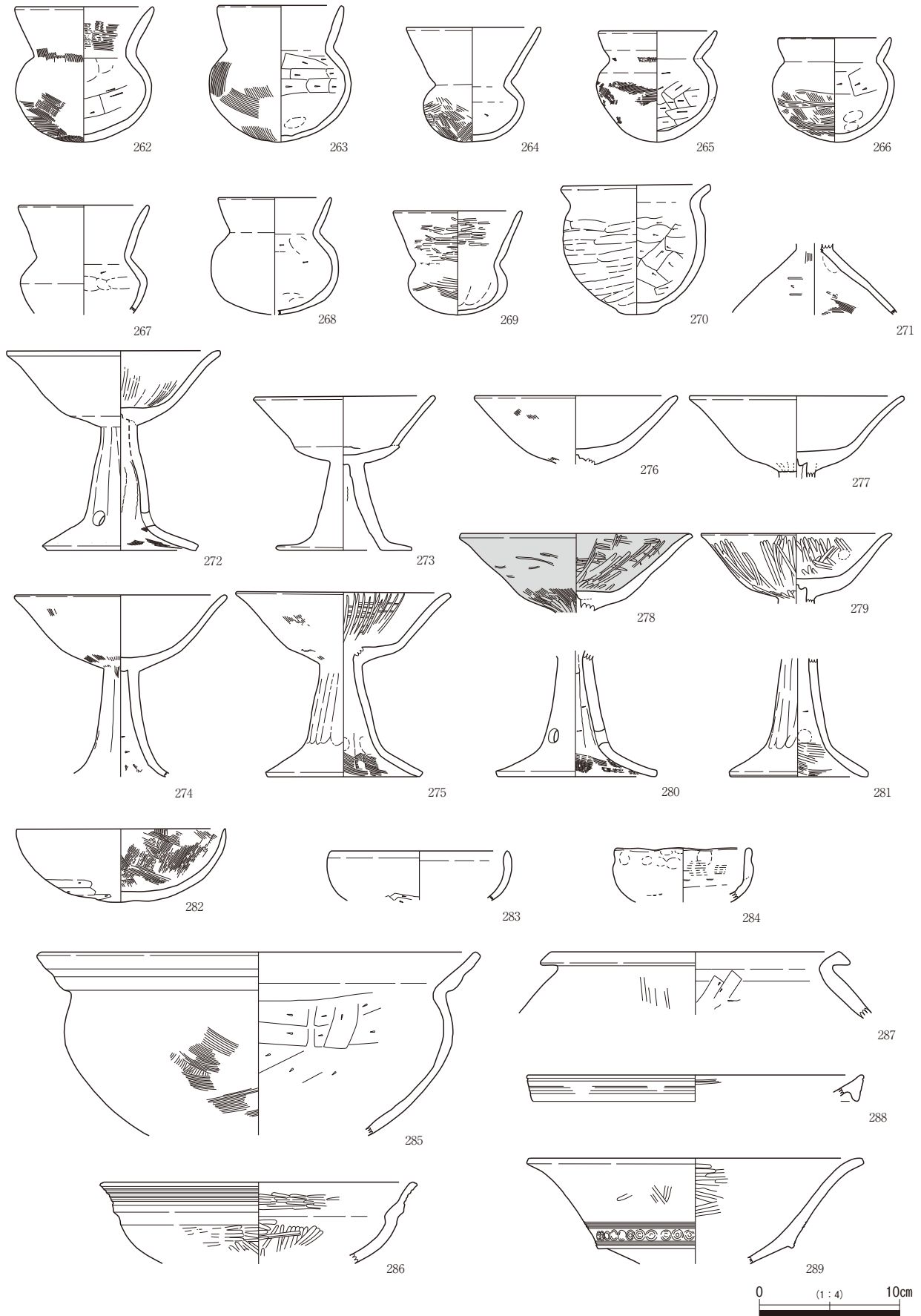
古墳時代前期の土器が出土する8層中からはW48～W50の木製品が認められた。W48は長さ12.3cm、幅2.5cm、厚さ0.9cmの板状木製品で、残存する先端部は正面と裏面。側面から圭頭状に削る。W49は残存する平面形では半円形の木製品で、長さ15.5cm、幅3.9cm、厚さ3.3cmを測る。正面、下面ともに



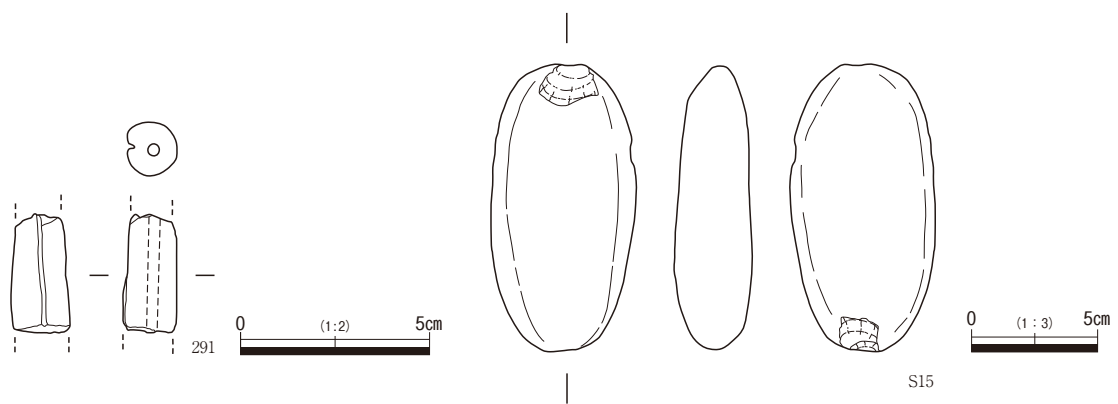
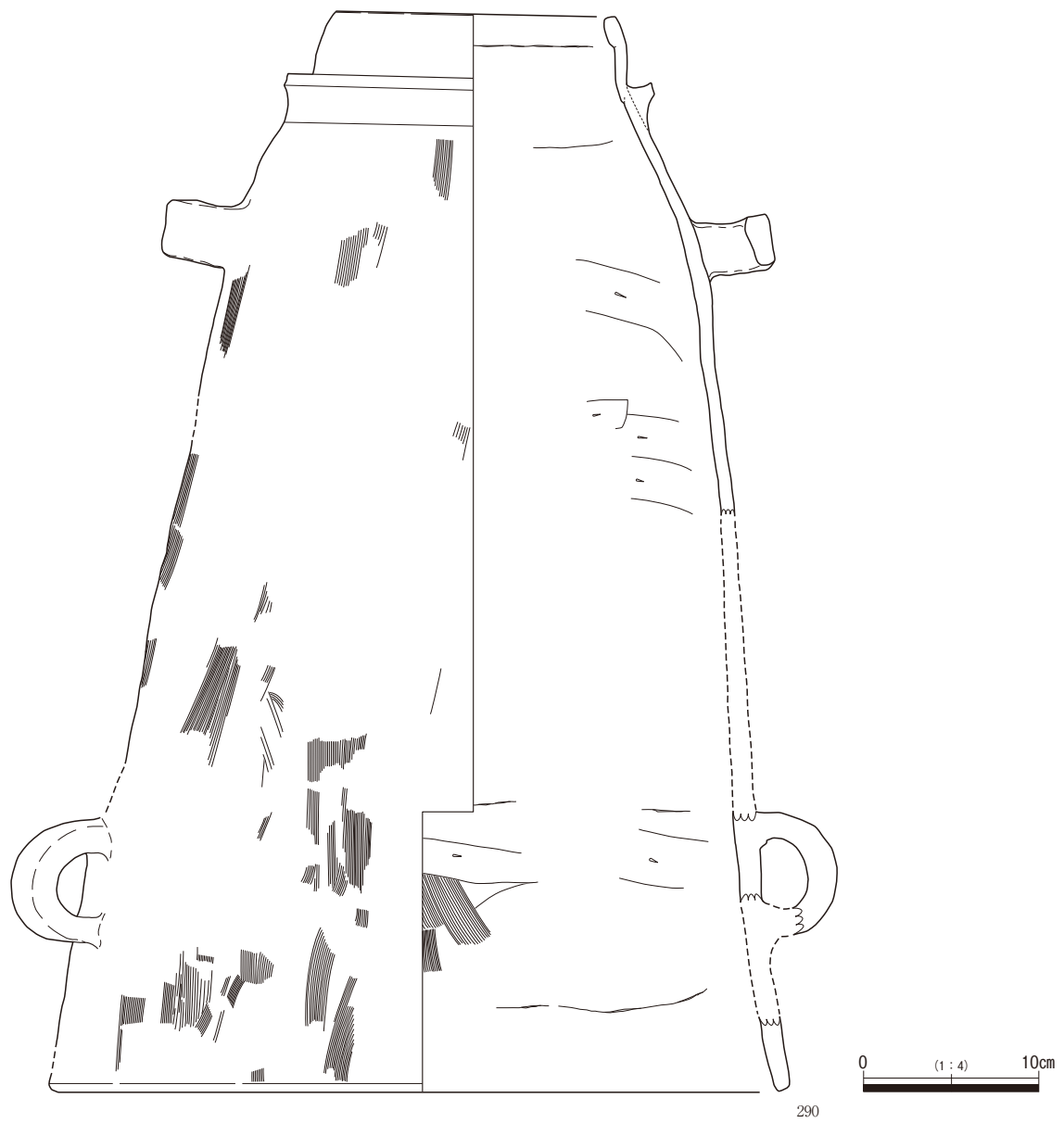
第131図 A1区25層出土土器 1



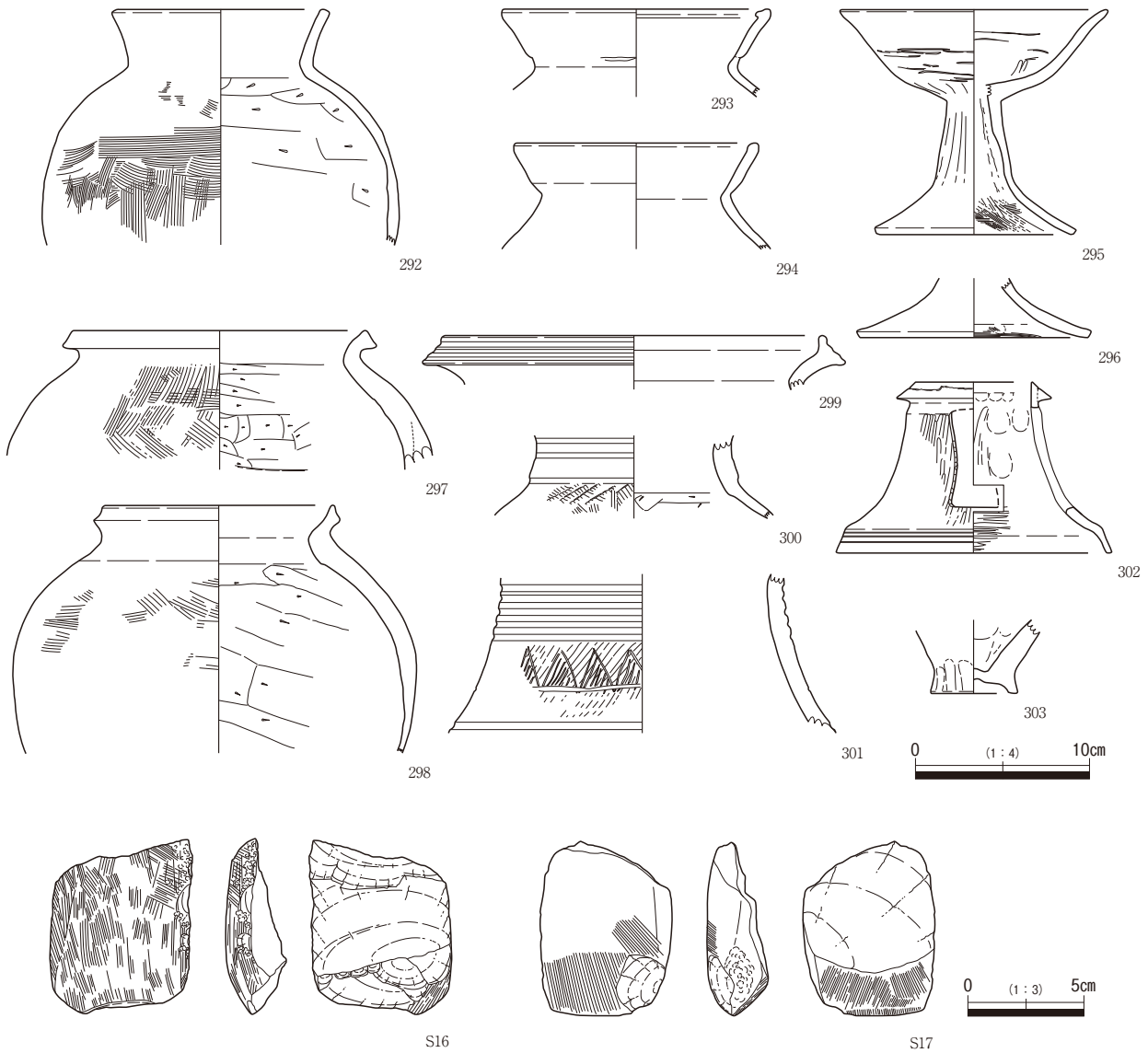
第132図 A1区25層出土土器2



第133図 A1区25層出土土器3



第134図 A1区25層出土遺物



第135図 A1区26～29層出土遺物

平滑な面を作り、右辺は弧状に、左方は欠損である。残存部半端には外縁までは抜けない溝が彫られる。W50は下辺に台形状に抉りを2カ所入れた板状木製品で、残存長30.7cm、幅8.3cm、厚さ1cmを測る。

(3) P2区の出土遺物

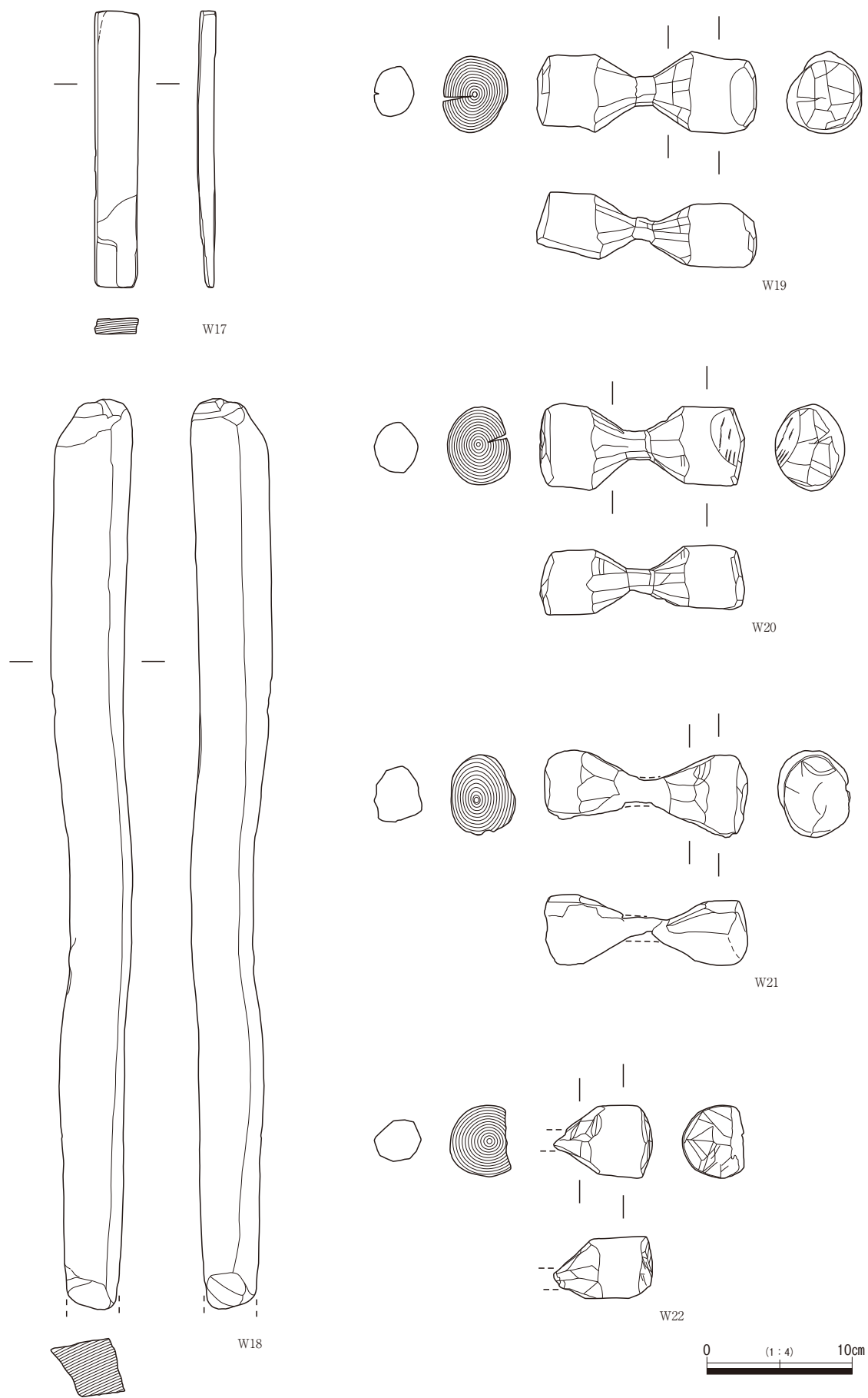
P2区では、近世以降の堆積と考えられる2層中から古墳副葬品と思われる銅製の耳環M4が認められるが、丘陵裾部に位置するA1区でも陶棺片が確認されるように、後世の耕作等により、削平された古墳の副葬品が流れ込んだものと思われる。

土器

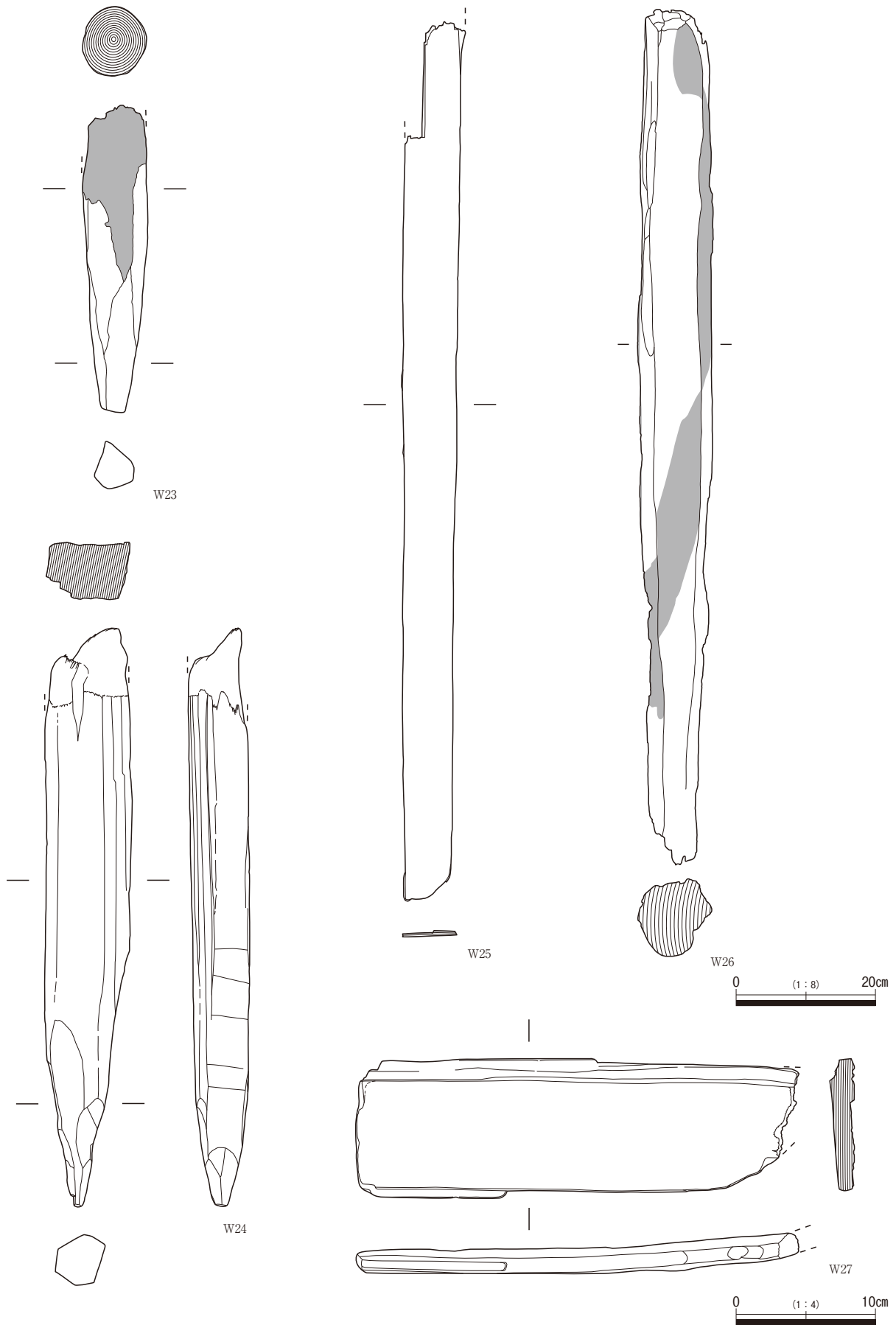
主に河川性の堆積である10層（18河川）、16層から出土するが、16-3層など河川による堆積が離水し、土壌化した層準での出土が多い。

10層（18河川）中では10-1・3層から縄文時代後期中葉の権現山式と考えられる土器片が出土する。322は口縁部下、胴部には沈線が横走り、磨消し縄文が施される。

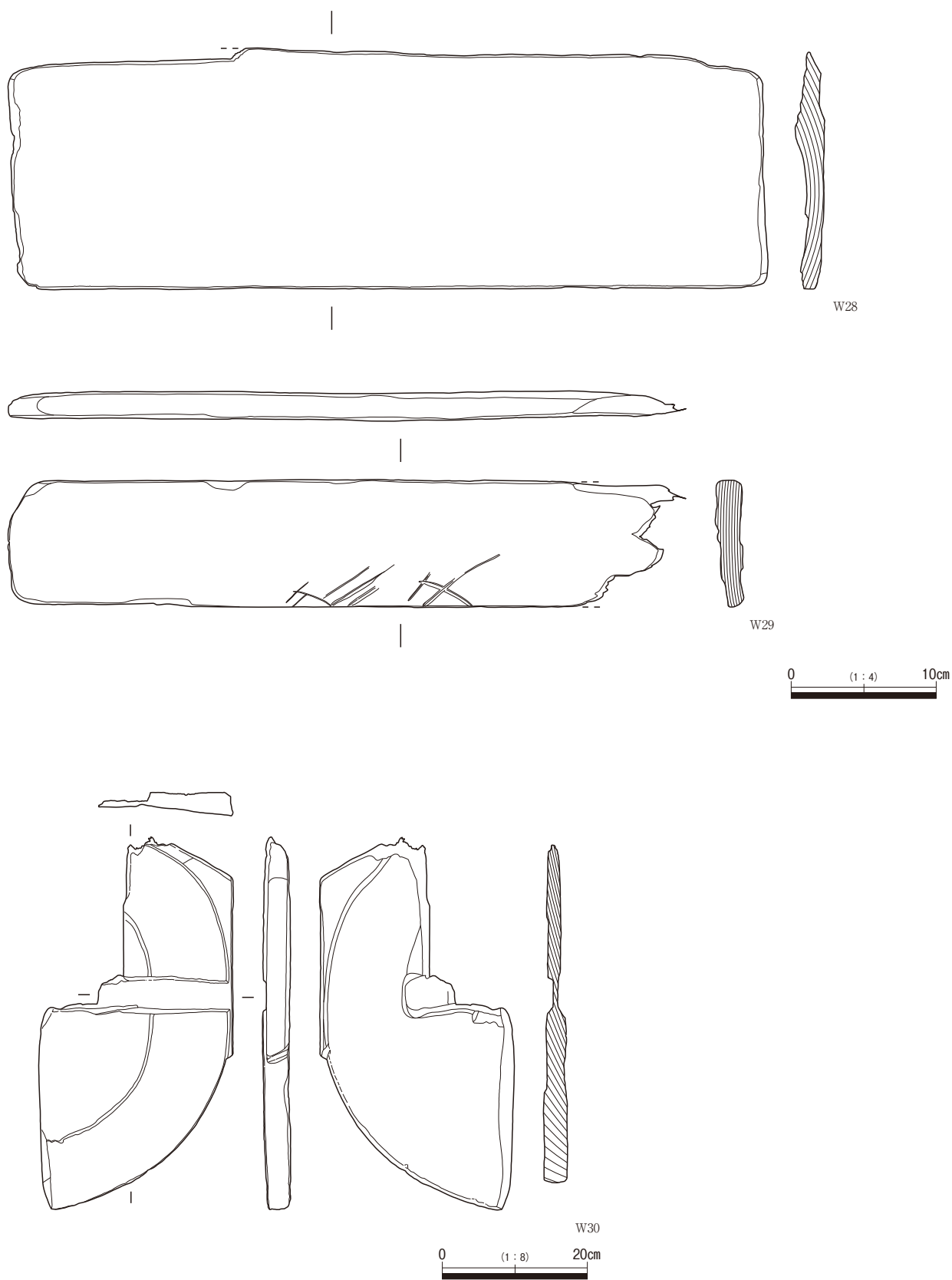
16層中からは福田K2式に併行する鳥式、及びそれに後続する縁帯文土器が認められる。鳥式の



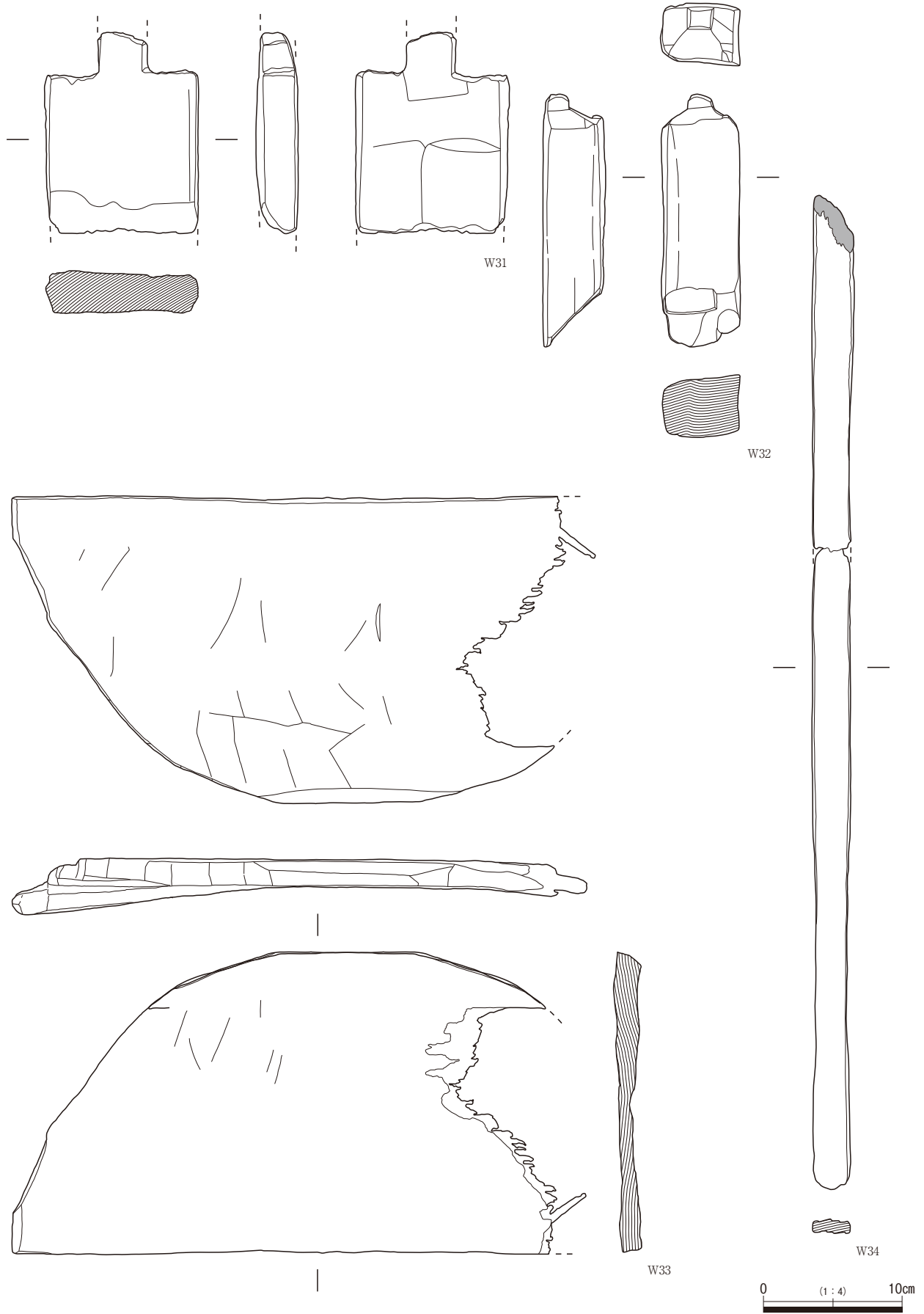
第136図 A1区 8・11層出土木製品



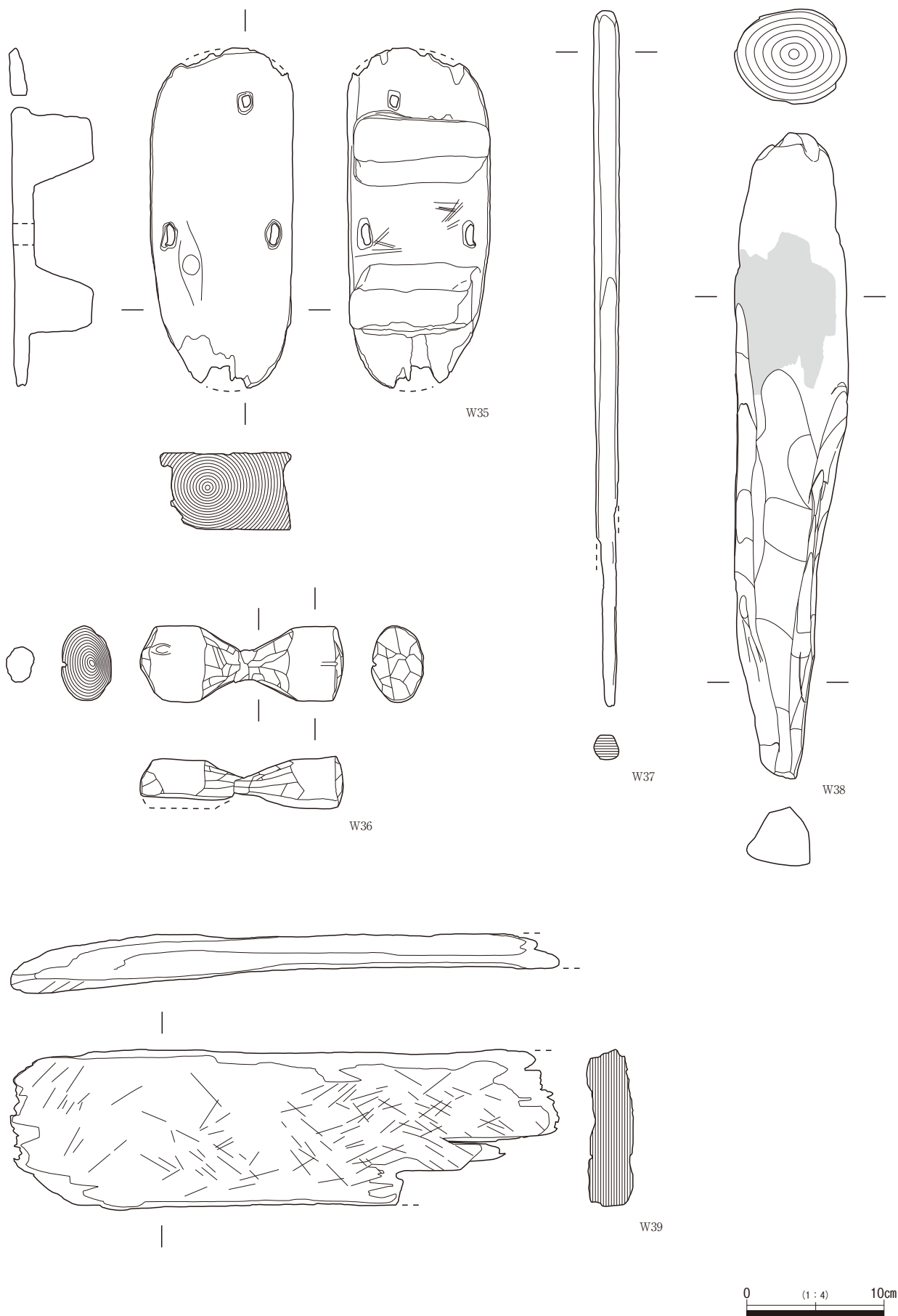
第137図 A1区11層出土木製品 1



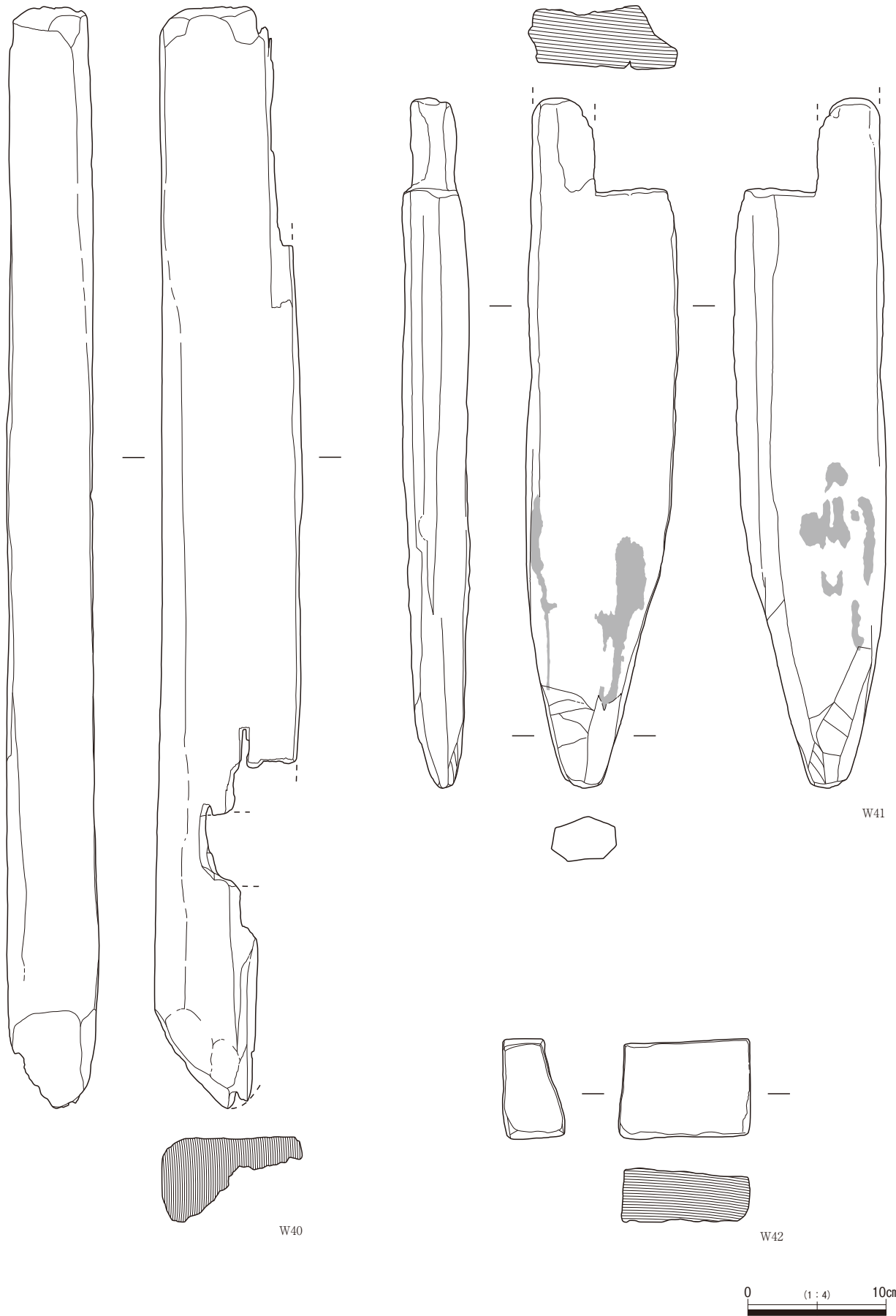
第138図 A1区11層出土木製品2



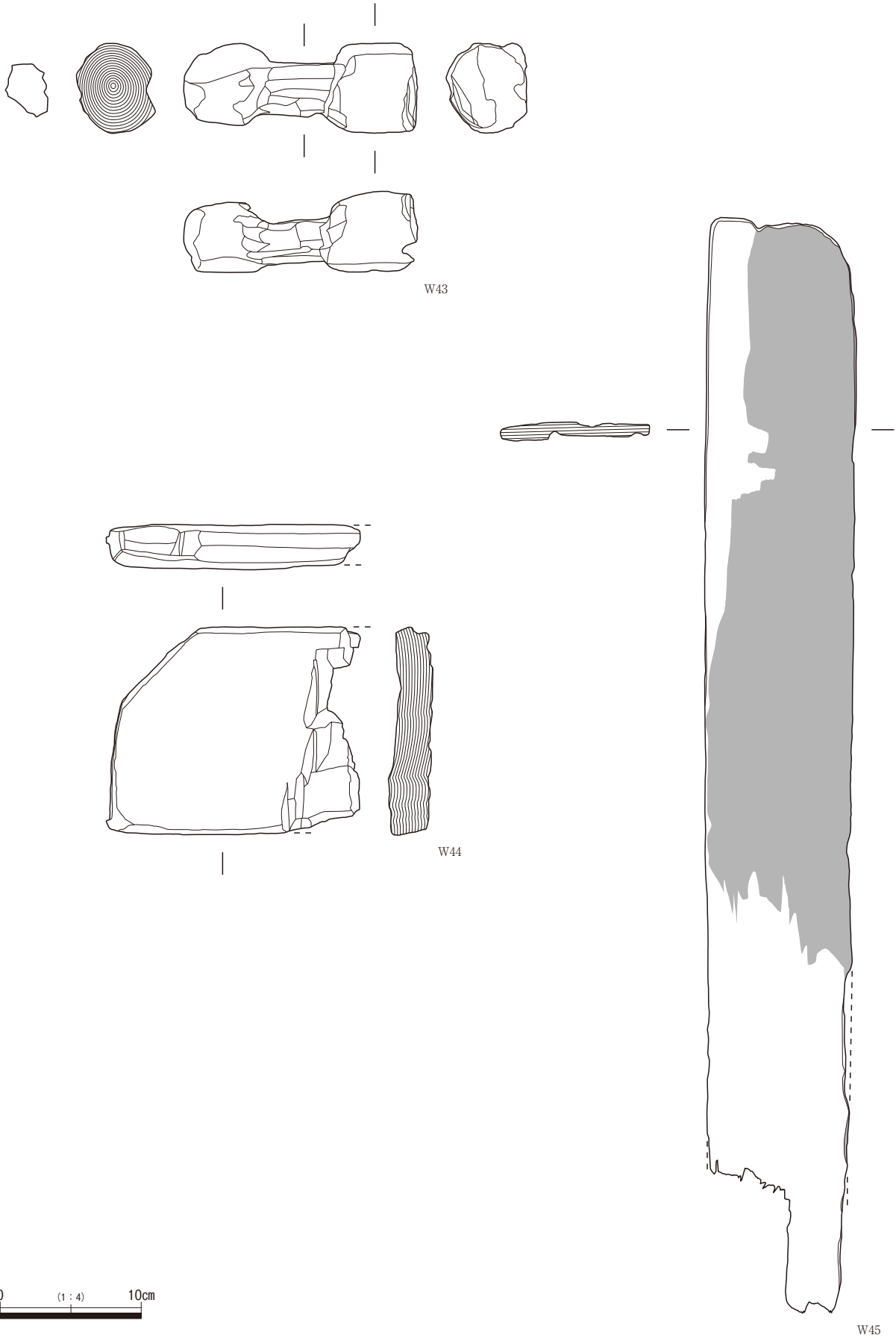
第139図 A1区12・13層出土木製品



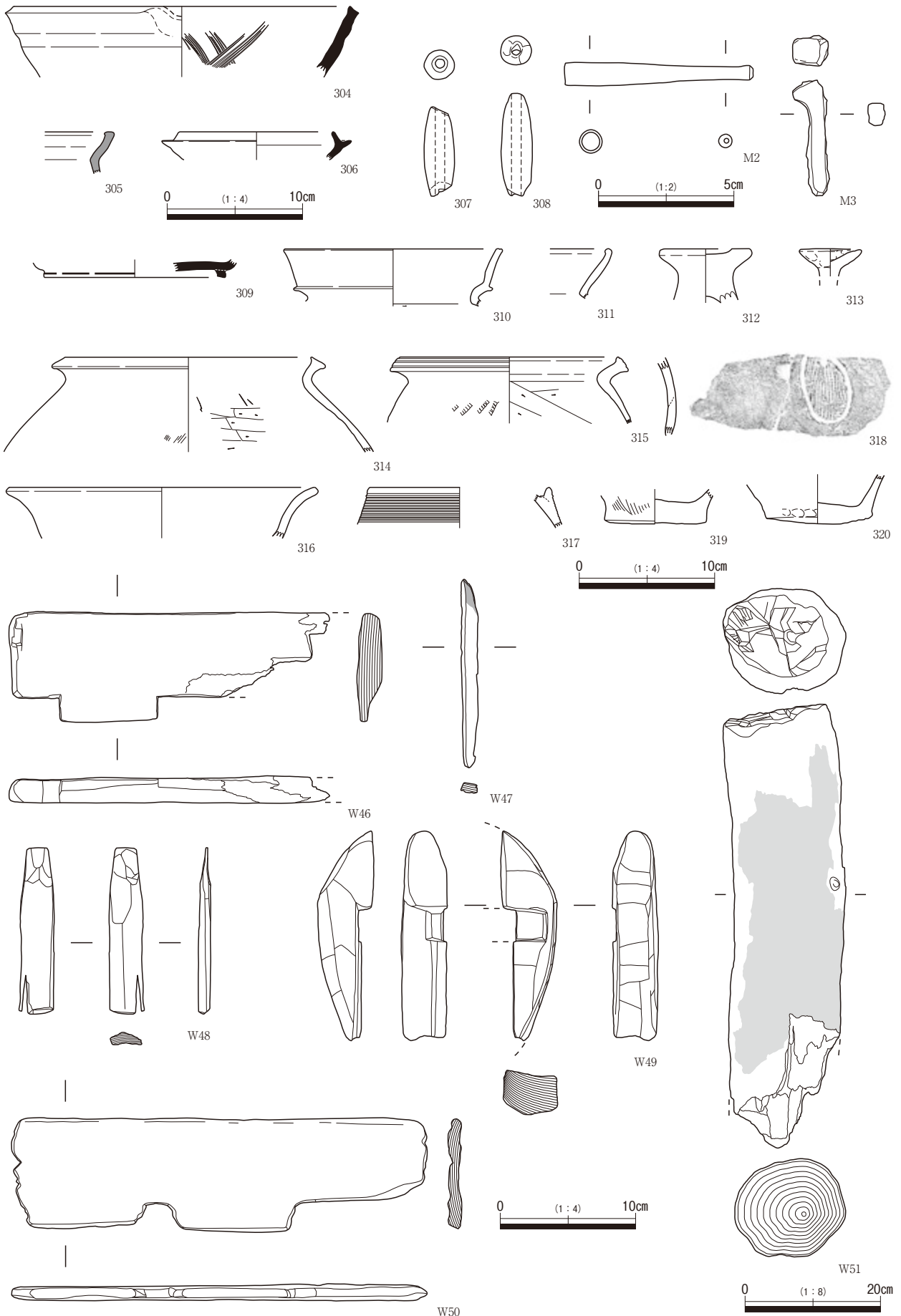
第140図 A1区37層出土木製品



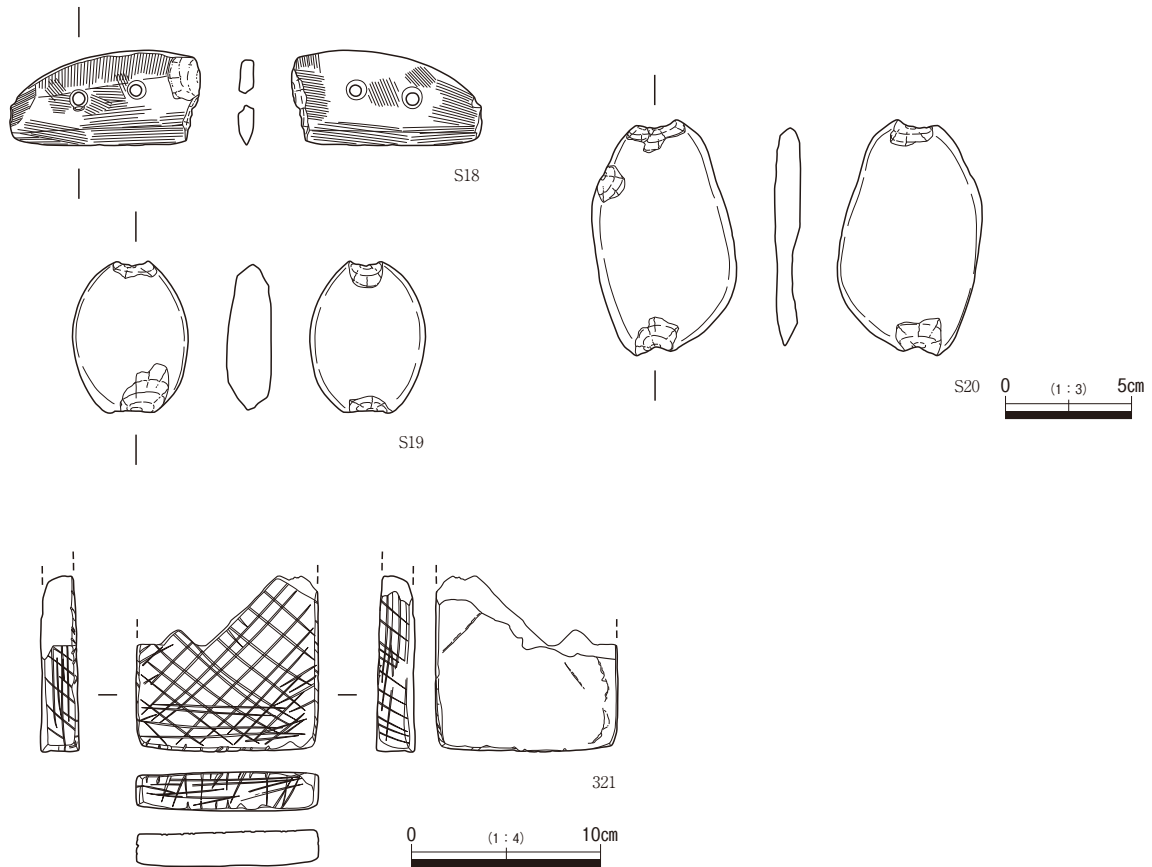
第141図 A1区18・20層出土木製品



第142図 A1区25・29層出土木製品



第143図 P1区出土遺物 1



第144図 P1区出土遺物2

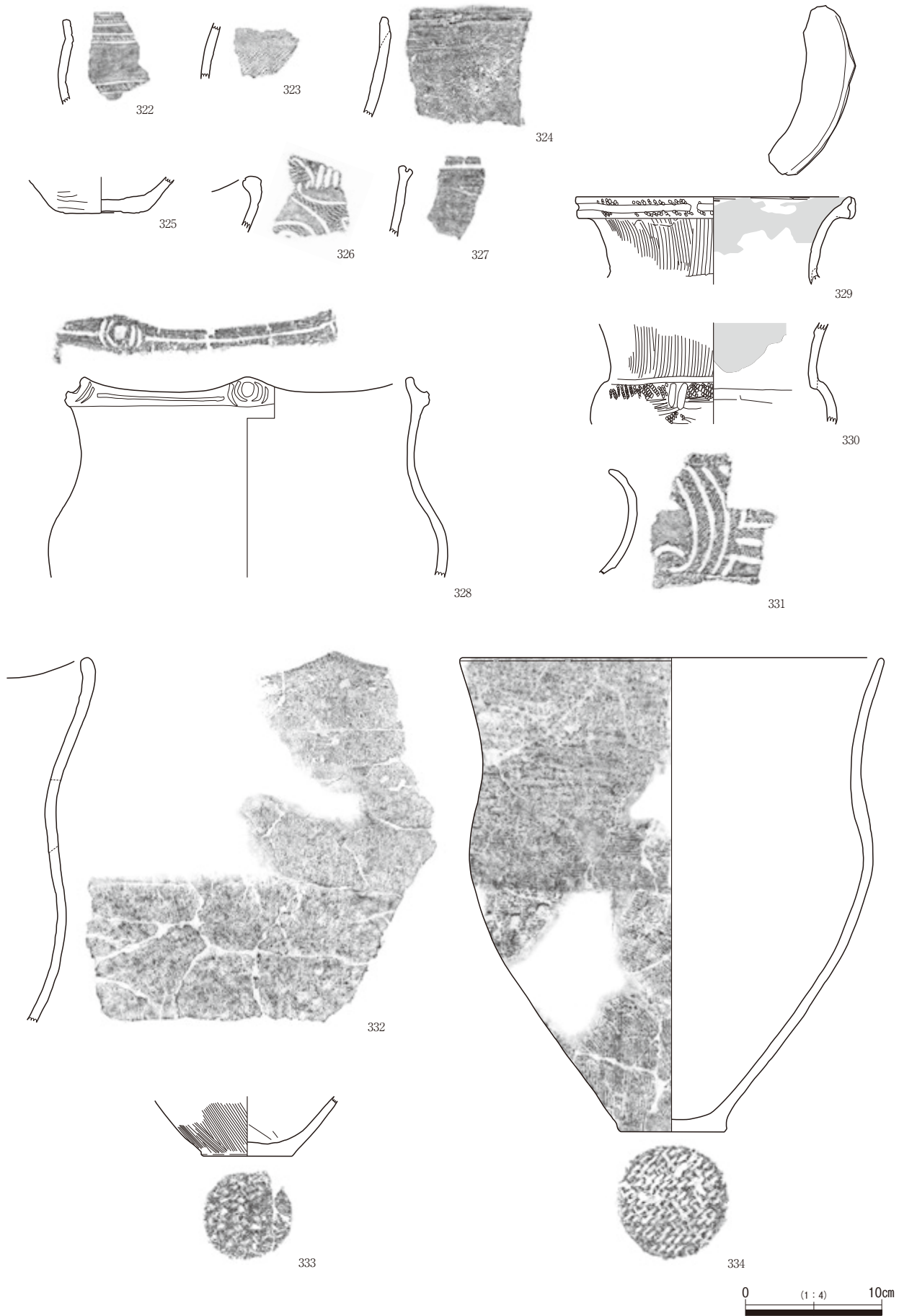
326・328の口縁端部には、同心円文や沈線文などが施文される。縁帯文土器では頸部に条痕文、胴部に縄文と沈線文を施した330、口縁部に縄文と沈線文、頸部条痕文の329があるほか、壺もしくは浅鉢の4条の沈線間を縄文で施文した鈎状、弧状の模様が認められる。また、粗製土器では333・334の底部に網代の圧痕を残すものが認められる。

出土石器

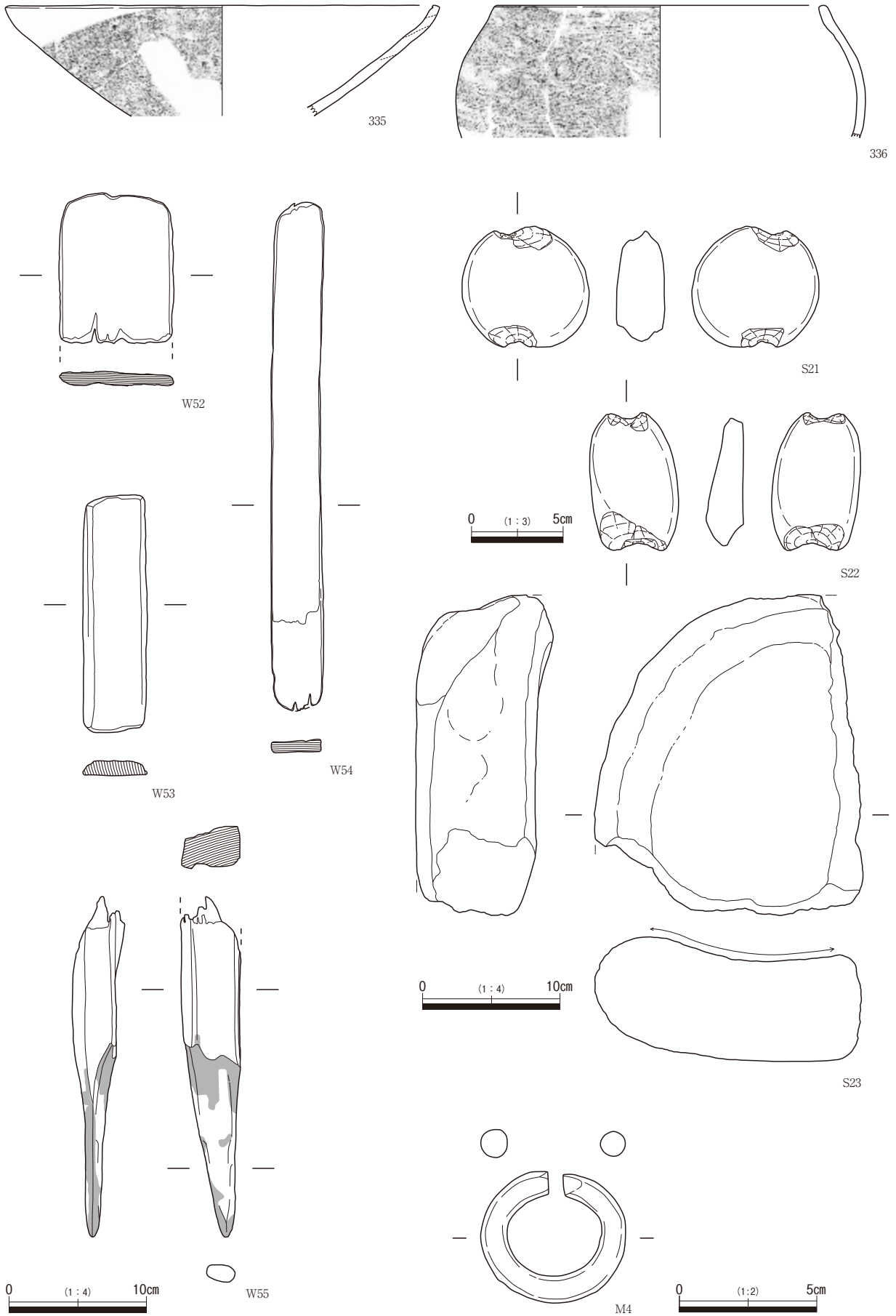
縄文時代後期前半の土器が出土する16層からは、台石S23が出土した。また、層中に水生植物の根が多量に遺存し、湿地化していた環境が想定される19層からは打欠石錘S22が出土した。

木製品

縄文時代後期前葉から中葉に堆積した15・16層中では、4点の出土木製品を図化した。W52は平面方形で上端部の両端はやや丸みを持つ板状木製品で、残存長10.8cm、幅9.3cm、厚さ1cmを測る。W53は残存長17.3cm、幅4.7cm、厚さ1.1cmを測る板状木製品で、上下端部は欠損している。W54は両端部は隅丸に加工した板状木製品で、残存長37.9cm、幅3.8cm、厚さ0.9cmを測る。W55は杭で芯去材を用いる。先端部は正面、両側面から削られており、先端部の一部に被熱による炭化が認められる。



第145図 P2区出土土器



第146図 P2区出土遺物

第6章 自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

高住牛輪谷遺跡（鳥取県鳥取市高住所在）は、湖山池に注ぐ三山口川の右岸に位置する。発掘調査では、2.5mより下位の29層から、貯蔵穴(ドングリピット)や縄文時代後期初頭の中津式、同じく後期の粗製土器が出土している。今回の分析調査では、層位的に採取された貯蔵穴内堆積物を水洗選別し、種実や葉などの大型植物遺体および木材の抽出、同定と、抽出した種実を対象に放射性炭素年代測定を実施し、当時の植物利用や植生、埋没年代に関する資料を作成する。

1. 試料

調査地点の状況を第147図に、分析試料一覧を表8に示す。

試料は、T23-6f-10D-7e地区の7土坑の北側、北側上層(上半部分)、北側下層(下半部分)、北側底面、南側、南側底面と、T23-6f-10D-7dの8土坑の北側上層(上半部分)、北側下層(下半部分)、北側底面、南側下層～底面、南側底面、南側1層下面より採取されたドングリ混じりの堆積物16点である。各試料は湿った状態でポリ袋に入っており、袋込みの重量は4.7～4,860g、合計25,976gを量る。同一記載試料が複数点あるため、便宜上仮番号を付している。

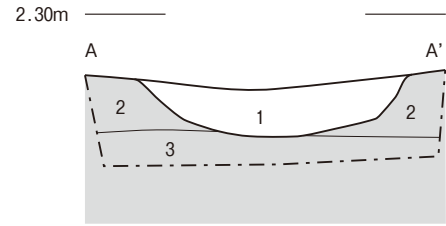
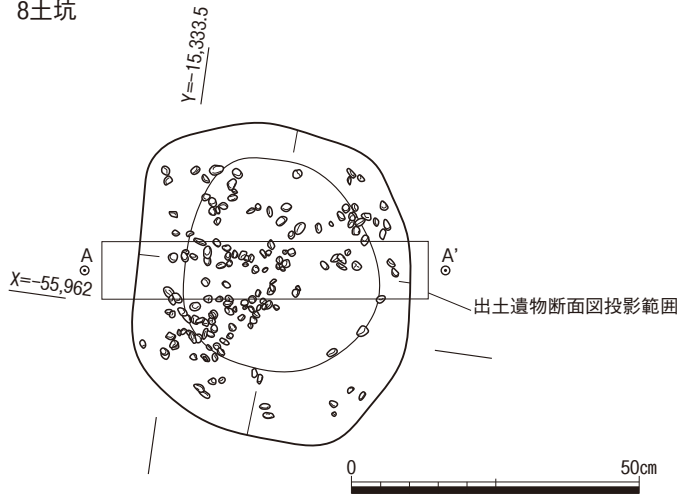
堆積物試料の水洗選別および大型植物遺体分析は、全16点を対象に実施する。樹種同定は、水洗選別で得られた木片を対象とする。いずれの試料も多くの木片が回収されているが、その多くが5mm未満の微細片である。各試料を観察し、7土坑の北側、北側上層(上半部分)、北側下層(下半部分)、北側底面と、8土坑の北側上層(上半部分)、北側底面より、切片作成可能な大きさの木片14点を選択する。

放射性炭素年代測定は、7土坑北側の上層(上半部分)、北側底面、8土坑の北側底面の水洗選別より抽出、同定されたアカガシ-ツクバネガシの果実各1個、計3個(写真3-10～12)を対象に実施する。

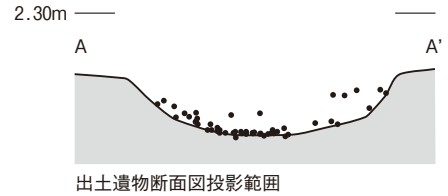
表8 分析試料一覧

試料情報						当社付与 仮番号	試料 (袋込み) 湿重(g)	水洗 選別	種実 同定	樹種 同定	年代 測定	年代測定試料の種類・重量
地区名	遺構	位置	層位	年月日	種別							
T23-6f-10D-7e	7土坑	北側		12.11.06	土	1	4860	1	1	2	-	
T23-6f-10D-7e	7土坑	北側	上層(上半部分)	12.11.07	土	2	3660	1	1	2	-	
T23-6f-10D-7e	7土坑	北側	上層(上半部分)	12.11.07	土	3	1560	1	1	-	1	アカガシ-ツクバネガシ 果実1個(1.1g)
T23-6f-10D-7e	7土坑	北側	上層(上半部分)	12.11.07	ドングリ	4	40	1	1	-	-	
T23-6f-10D-7e	7土坑	北側	下層(下半部分)	12.11.07	土	5	1440	1	1	2	-	
T23-6f-10D-7e	7土坑	北側	下層(下半部分)	12.11.07	土+ドングリ	6	1000	1	1	2	-	
T23-6f-10D-7e	7土坑	北側	底面	12.11.07	土+ドングリ	7	1800	1	1	2	1	アカガシ-ツクバネガシ 果実1個(0.8g)
T23-6f-10D-7e	7土坑	南側		12.11.06	ドングリ	8	26.5	1	1	-	-	
T23-6f-10D-7e	7土坑	南側	底面	12.11.07	土	9	3240	1	1	-	-	
T23-6f-10D-7e	7土坑	南側	底面	12.11.07	ドングリ	10	36.5	1	1	-	-	
T23-6f-10D-7d	8土坑	北側	上層(上半部分)	12.11.07	土+ドングリ	11	3940	1	1	2	-	
T23-6f-10D-7d	8土坑	北側	下層(下半部分)	12.11.07	土+ドングリ	12	2520	1	1	-	-	
T23-6f-10D-7d	8土坑	北側	底面	12.11.08	土+ドングリ	13	840	1	1	2	1	アカガシ-ツクバネガシ 果実1個(0.4g)
T23-6f-10D-7d	8土坑	南側	下層～底面	12.11.07	土+ドングリ	14	1000	1	1	-	-	
T23-6f-10D-7d	8土坑	南側	底面	12.11.06	ドングリ	15	4.7	1	1	-	-	
T23-6f-10D-7d	8土坑	南側	1層下面	12.11.06	ドングリ	16	8.5	1	1	-	-	
合計								16	16	14	3	

8土坑

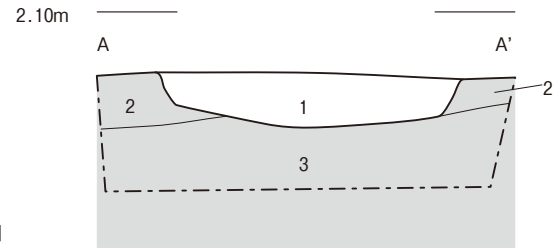
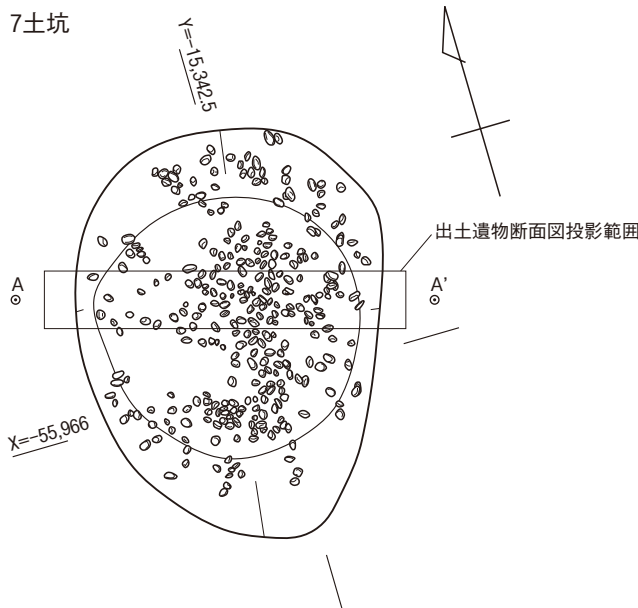


断面図

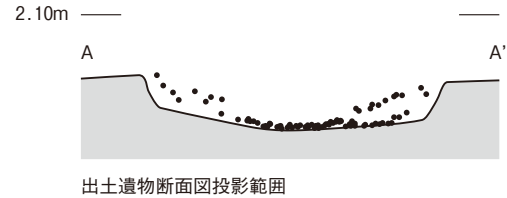


- 1 10YR3/2~2/2黒褐色粘土 有機質・木葉多く含む
- 2 7.5YR4/1褐灰色~7.5YR4/2灰褐色粘土~シルト 炭化物粒混入、
10YR5/1褐灰色粘土~細砂をブロック状あるいは層状に含む(P1区30層)
- 3 5Y3/2オリーブ黒色粘土~シルト ラミナ形成、植物遺体多く含む、P1区32層の偽礫含むb層(P1区31層)

7土坑



断面図



- 1 7.5YR3/4暗褐色~7.5YR3/1黒褐色粘土 有機質・炭化物粒混入 表面は瞬時に酸化して黒褐色に変色する、
底面にドングリ(表皮)多量に検出
- 2 5Y3/2~2/2オリーブ黒色粘土~シルト ラミナ形成、植物遺体非常に多く含む、b層(P1区33層)
- 3 5Y4/2灰オリーブ色粘土~シルト 細砂~粗砂を一部ラミナで交える、植物遺体含む、b層(P1区35層)

第147図 調査地点の状況

2. 分析方法

(1)大型植物遺体分析

試料全量の容積(cc)と湿重(g)を量る。少量の5試料は全量、多量の11試料は200ccと残りの全量とに分けて量る。堆積物から種実や葉などの大型植物遺体を分離して抽出するために、試料を水に浸し、粒径0.5mmの篩を通して水洗する。水洗後の篩内の試料を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕

顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な種実や葉などの大型植物遺体を抽出する。抽出対象の粒径は、5試料および11試料の各200ccは0.5mm以上、11試料の残量(計16,710cc)は1.0mm以上とする。

大型植物遺体の同定は、現生標本および岡本(1973)、石川(1994)、中山ほか(2000)、伊藤(2001)、徳永(2004)等を参考に実施し、部位別、状態別に個数を数えて結果を一覧表と図で示す。実体顕微鏡下による区別が困難な複数種間は、ハイフォンで結んで示す。

本分析で最も多いカシ類は、状態を完形、完形未満(～半分)、(半分以下の)破片、基部の着点が残る破片に細分し、各々の容積と湿重を求めて結果を一覧表と図で示す。カシ類が最も多く出土した7土坑の北側底面では、微細な果皮片も多量確認されている。これらはコナラ属主体の果実等として一括し、個数は数えずに容積と湿重を求める。

分析残渣は、植物片主体と砂主体に大きく分け、粒径別の容積と重量を求める。砂主体の残渣は70℃48時間乾燥後の重量を求める。

分析後は、大型植物遺体を分類群毎に容器に入れ、約70%のエタノール溶液で液浸保存し、返却する。分析残渣は、袋に入れて返却する。

(2)樹種同定

剃刀を用いて木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール(抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)、Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

(3)放射性炭素年代測定

試料に土壌や根等の目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄等により物理的に除去する。その後HClによる炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHによる腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する(酸、アルカリ、酸処理)。試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅(II)と銀箔(硫化物を除去するため)を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃(30分)850℃(2時間)で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。化学処理後のグラファイト、鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。

測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX-II)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に¹³C/¹²Cの測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}\text{C}$ を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1,950年を基点とし

た年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma;68%)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0.0(Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer)を用いる。暦年較正結果は、測定誤差 σ 、 2σ (σ は統計的に真の値が68%、 2σ は真の値が95%の確率で存在する範囲)双方の値を示す。また、表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い(^{14}C の半減期5,730 \pm 40年)を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算や再検討に対応するため、1年単位で表している。

3. 結果

(1)大型植物遺体分析

a)出土状況

大型植物遺体分析結果を表9(分析残渣およびカシ類の量)と表10(同定結果)に示す。また、各遺構の大型植物遺体群集の層位分布を第148図に、カシ類とその他の重量・容積・個数のヒストグラムを第149図、相対比を第150図に示す。

全16試料18,985cc(25,159.3g)を通じて、裸子植物3分類群(針葉樹のアカマツ、イヌガヤ、カヤ)579個の葉と、被子植物55分類群(広葉樹のオニグルミ(?), ハンノキ亜属、イヌシデ、イヌシデ-アカシデ、ムクノキ、ケヤキ、アカガシ-ツクバネガシアカガシ亜属、コナラ属、クワ属、カジノキ、ヒメコウゾ、サルナシ近似種、マタタビ近似種、マタタビ属、サカキ、ヒサカキ属、フユイチゴ類、キイチゴ属、アカメガシワ、カラスザンショウ、サンショウ、ウルシ属、イロハモミジ類、カエデ属、ゴンズイ、ブドウ属、ノブドウ、ツタ、イイギリ、クマノミズキ、タラノキ、エゴノキ、ハクウンボク、トネリコ属、ムラサキシキブ属、ニワトコ、ヤブデマリ、ウグイスカグラ節(?), 草本のイネ科(A、B)、アゼスゲ類、ヌカスゲ類、スゲ属、ホタルイ属、ミズ属、ミゾソバ、ミズオトギリ、ネコノメソウ類、キジムシロ類、スマレ属、セリ科、シソ属-イヌコウジュ属、ナス属、キク科)7,375個の種実の、合計7,954個の大型植物遺体が抽出・同定された。28個は同定ができなかったが、同一分類群と考えられる2個を不明A、9個を不明B、4個を不明Cとしている。その他に、炭化材や双子葉類の葉片、蘚苔類の茎・葉、菌核、昆虫類などが確認された。

分析残渣は、植物片主体(粒径0.5mm以上)が3,365.1cc(湿重2,502.7g)と、砂主体(粒径2~0.5mm)が1,250cc(乾重1,463.4g)を量る。容積・重量ともに、7土坑で砂が多い傾向を示す。

大型植物遺体群は、常緑カシ類(アカガシ-ツクバネガシ、アカガシ亜属、コナラ属)が最も多く、全体の63.4%(5,046個)を占める。次いで、木本種実が1,767個(22.2%)と多く、針葉が579個(7.3%)、草本種実が562個(7.1%)と次ぐ。以下に、大型植物遺体の遺構別出土状況を述べる。

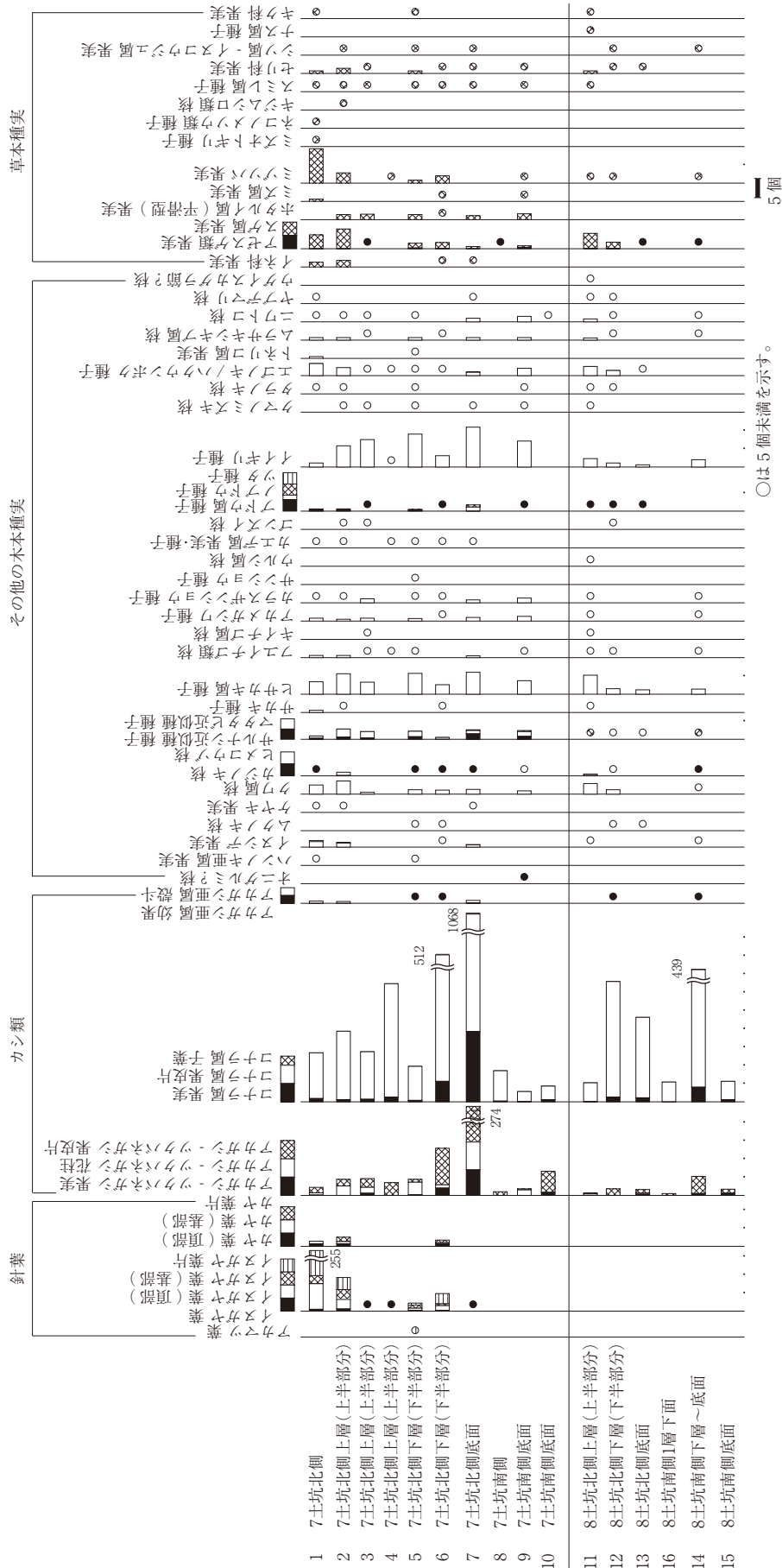
・7土坑

10試料12,790cc(17,205.9g)より、カシ類3,726個、カシ類以外の木本種実1,456個、草本種実473個、針葉579個の、合計6,234個の大型植物遺体が確認された。

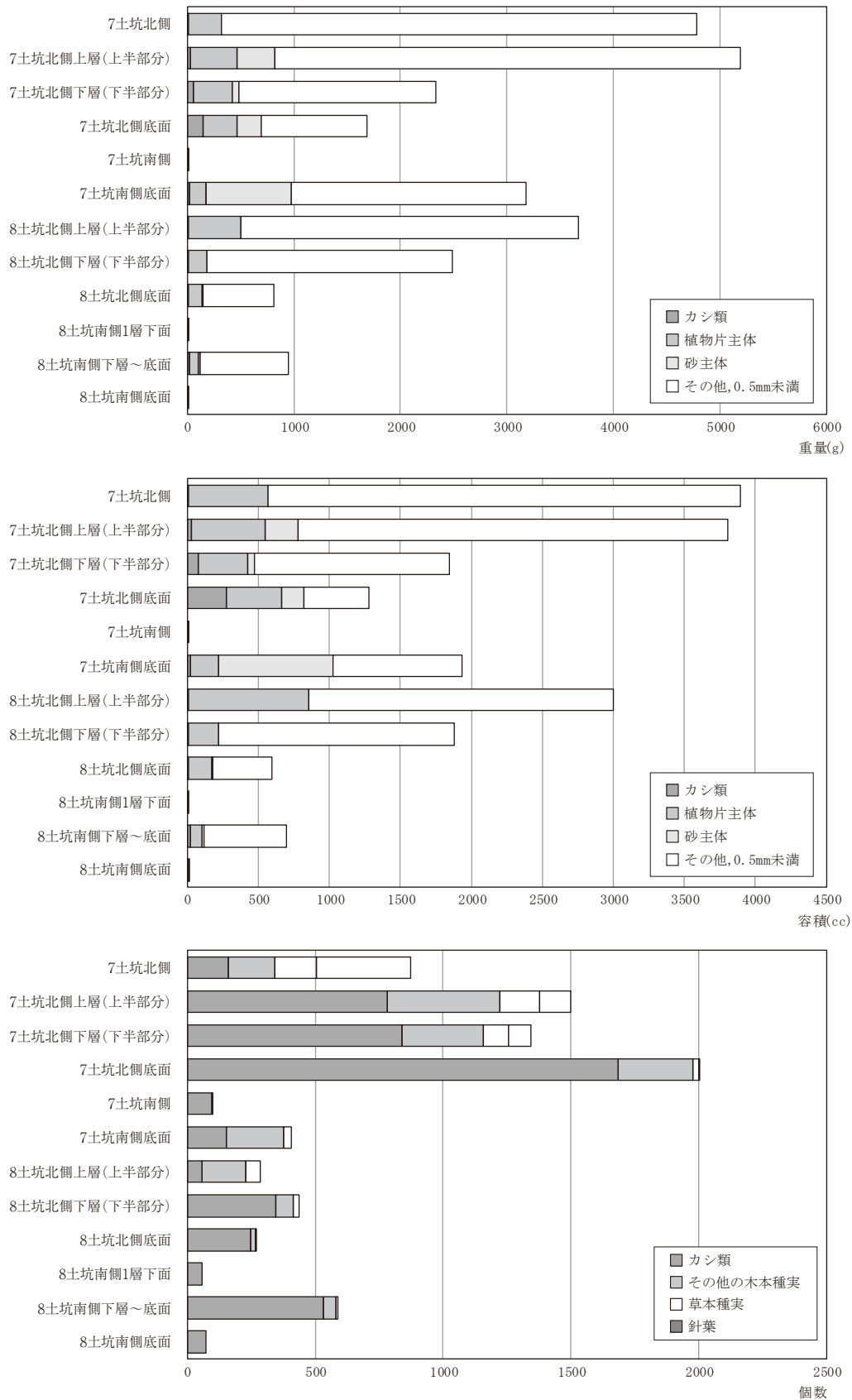
カシ類は、南側よりも北側で多産し、底面が最も多く、下層(下半部分)が次いで多い。7土坑のカ

表9 大型植物遺体分析結果 (分析残渣およびカシ類の量)

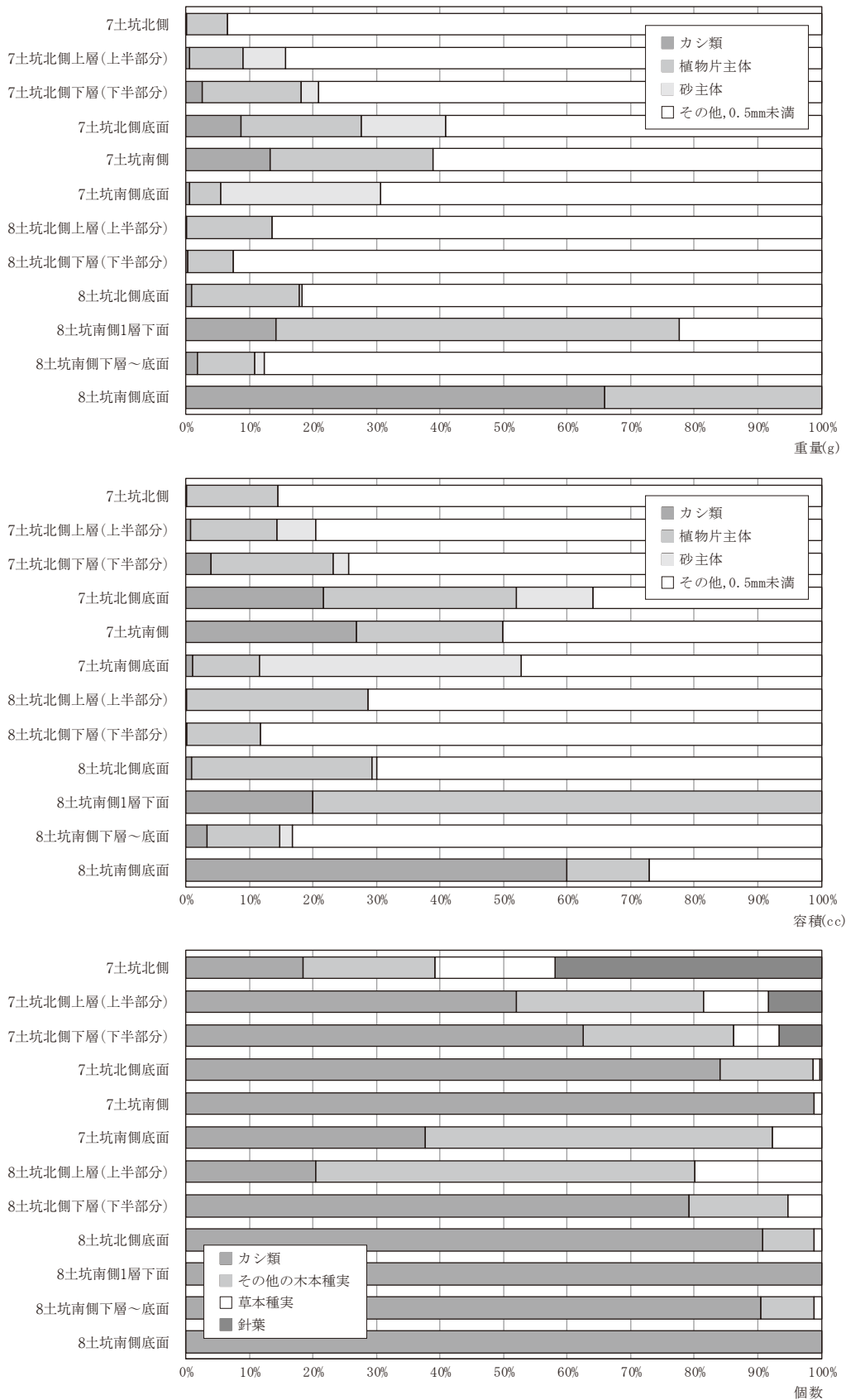
分類群	部位	状態	T23-6F-10D-7e												T23-6F-10D-7d												地区名							
			北側						南側						北側						南側							位置						
			上層(上半部分)			下層(下半部分)			底面			上層(上半部分)			下層(下半部分)			底面			上層(上半部分)			下層(下半部分)					底面					
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	1	2	3	4	5	6	7	8			9	10	11	12	13	14
分析残渣 植物片主体(g)	4mm超	-	22.9	-	-	-	-	-	-	-	-	22.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29.5	130.8	41.3	-	58.9	-	23.6	-	-	湿重(g)			
	4-2mm	5.4	126.7	13.4	80.5	10.5	17.0	1.1	10.3	38.3	16.0	40.3	7.7	89.6	2.3	-	-	-	-	-	-	9.2	78.6	6.1	13.7	6.2	10.4	1.5	16.4	1.4	1.8	湿重(g)		
	2-1mm	6.1	71.6	7.4	102.5	8.2	31.8	3.4	14.1	55.2	13.5	45.8	11.1	107.1	0.7	3.1	34.9	0.9	19.3	104.2	25.2	35.7	11.9	18.3	2.5	21.2	-	-	-	-	1.7	湿重(g)		
	1-0.5mm	8.5	74.1	9.2	104.7	8.1	32.0	6.3	10.1	41.8	8.3	67.7	11.9	72.2	1.4	4.4	71.4	0.2	11.2	119.6	12.1	44.0	12.4	19.7	6.6	13.7	0.1	1.9	湿重(g)					
	4mm超	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	300.0	50.0	-	80.0	-	14.0	-	-	容積(cc)			
	4-2mm	3.0	160.0	12.0	110.0	10.0	20.0	2.0	10.0	25.0	20.0	50.0	8.0	110.0	1.5	4.0	50.0	0.5	15.0	100.0	20.0	25.0	7.0	15.0	0.5	13.0	1.0	2.0	容積(cc)					
	2-1mm	7.0	160.0	12.0	100.0	7.0	30.0	3.0	10.0	50.0	10.0	50.0	15.0	125.0	0.5	2.5	50.0	2.5	30.0	160.0	7.0	50.0	5.0	25.0	1.0	20.0	-	1.0	容積(cc)					
	1-0.5mm	10.0	175.0	18.0	150.0	7.0	35.0	3.0	5.0	69.0	5.0	50.0	10.0	100.0	0.3	4.0	90.0	0.5	5.0	200.0	5.0	60.0	8.0	30.0	8.0	24.0	0.3	1.0	容積(cc)					
	2-1mm	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	37.7	186.4	-	-	12.3	-	-	-	-	-	-	-	-	0.8	-	-	-	乾重(g)			
	2-1mm	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	63.9	-	-	127.1	657.1	4.9	-	-	-	-	-	-	-	4.5	6.2	7.8	-	-	乾重(g)		
1-0.5mm	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	45.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.0	-	-	-	容積(cc)			
カシ類(g)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	容積(cc)		
アカガシ亜属	幼果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	湿重(g)	
アカガシ-ツクハネガシ	殻斗	0.3	-	0.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	湿重(g)	
果実-子葉	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	湿重(g)	
果実	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	湿重(g)	
花柱	花柱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	湿重(g)	
コナラ属	果実	0.0	0.5	0.0	0.2	0.1	0.6	0.7	0.0	0.1	0.4	4.3	1.6	6.4	0.1	0.0	-	0.9	-	0.1	-	0.5	0.4	0.4	0.5	1.9	0.1	-	-	-	-	湿重(g)		
基部	基部	0.5	2.4	0.4	3.0	0.5	5.0	10.8	0.7	0.7	4.4	21.8	16.8	33.4	1.9	-	0.9	1.5	0.5	0.6	0.5	5.6	2.2	2.4	1.1	8.4	1.3	1.1	0.2	-	-	湿重(g)		
コナラ属主体	子葉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	湿重(g)	
果実等	果実等	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	湿重(g)	
アカガシ亜属	幼果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	容積(cc)
アカガシ-ツクハネガシ	殻斗	0.1	-	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	容積(cc)
果実-子葉	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	容積(cc)
果実	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	容積(cc)
花柱	花柱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	容積(cc)
コナラ属	果実	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.5	1.0	0.0	0.0	1.0	4.0	2.0	8.0	0.0	0.0	-	4.0	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	容積(cc)
基部	基部	0.1	2.0	0.1	3.0	0.3	4.0	10.0	1.0	0.5	4.0	20.0	12.0	75.0	2.5	-	1.0	1.0	1.0	0.0	0.0	5.0	3.0	3.0	1.0	10.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	容積(cc)
コナラ属主体	子葉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	容積(cc)
果実等	果実等	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	容積(cc)



第148図 各遺構の大型植物遺体群集の層位分布



第149図 カシ類とその他の重量・容積・個数のヒストグラム



第150図 カシ類とその他の重量・容積・個数の相対比

第6章 自然科学分析

シ類は、容積(413.8cc)、重量(272.7g)ともに、カシ類全体(456.3cc、313.6g)の約9割を占める。

カシ類以外の木本種実は、常緑広葉樹は、高木になるサカキ、小高木または低木のヒサカキ属、低木のフユイチゴ類などの、常緑広葉樹林内に生育する分類群が確認された。落葉広葉樹は、高木になる河畔林要素のオニグルミ(?)、ムクノキ、ケヤキ、クマノミズキ、河畔林要素を含むハンノキ亜属、トネリコ属、河畔や林縁等の明るく開けた場所に生育する高木のイヌシデ、イヌシデ-アカシデ、クワ属、カジノキ、アカメガシワ、カラスザンショウ、イイギリ、高木または小高木のイロハモミジ類、カエデ属、小高木のゴンズイ、エゴノキ、ハクウンボク、低木のヒメコウゾ、キイチゴ属、サンショウ、タラノキ、ムラサキシキブ属、ニワトコ、ヤブデマリ、籐本のサルナシ近似種、マタタビ近似種、マタタビ属、ブドウ属、ノブドウ、ツタが確認され、オニグルミの核と思われる破片1個が炭化している。木本種実の産状に位置や層位間の差は認められないが、南側底面のみでカシ類よりも高い割合を占める。

針葉は、7土坑北側のみで出土している。7試料から、常緑高木のアカマツ、イヌガヤ、カヤが確認され、イヌガヤを主体とする。イヌガヤ、カヤは、日本海側の多雪地に適応した変種で常緑低木のハイイヌガヤ、チャボガヤである可能性が高い。

草本種実は、抽水植物(根が水底に固着し、植物体の一部が水面を突き抜けて空気中に出る植物)を含むホタルイ属が、北側・南側ともに底面から上層まで確認されるほかに、アゼスゲ類、ミズ属、ミゾソバ、ミズオトギリ、セリ科などの水湿地生植物や、林床などに生育するネコノメソウ類、スマレ属、湿った場所にもやや乾いた場所にも生育可能な中生植物のイネ科、ヌカスゲ類、スゲ属、キジムシロ類、シソ属-イヌコウジュ属、キク科が確認された。

分析残渣は、植物片主体が2,032.3cc(1,592.0g)、砂主体が1,231.5cc(1,444.1g)で、南側底面をはじめ、7土坑全体で砂が多い状況が顕著に確認された。

・8土坑

6試料6,195cc(7,953.4g)より、カシ類1,320個、カシ類以外の木本種実311個、草本種実89個の、合計1,720個の大型植物遺体が確認された。7土坑よりも少なく、針葉は1個も確認されなかった。

カシ類は、南側下層~底面で最も多く、次いで北側下層(下半部分)が多く、北側底面と次ぐ。

カシ類以外の木本種実は、常緑広葉樹林内に生育する高木のサカキ、小高木または低木のヒサカキ属、低木のフユイチゴ類などの常緑広葉樹や、河畔や林縁等の明るく開けた場所に生育する高木のイヌシデ、ムクノキ、クワ属、カジノキ、アカメガシワ、カラスザンショウ、イイギリ、クマノミズキ、高木または低木のウルシ属、小高木のゴンズイ、エゴノキ、低木のヒメコウゾ、キイチゴ属、タラノキ、ムラサキシキブ属、ニワトコ、ヤブデマリ、ウグイスカグラ節(?)、籐本のサルナシ近似種、マタタビ近似種、ブドウ属、ノブドウなどの落葉広葉樹が確認され、北側上層(上半部分)でカシ類よりも高い割合を示す。

草本種実は、アゼスゲ類、ミゾソバ、セリ科などの湿生植物や、ヌカスゲ類、スゲ属、スマレ属、シソ属-イヌコウジュ属、ナス属、キク科などの中生植物が確認された。

分析残渣は、植物片主体が1,332.8cc(910.7g)、砂主体が18.5cc(19.3g)で、北側上層(上半部分)で植物片がやや多い状況が確認された。

b) 主な大型植物遺体の記載

大型植物遺体の保存状態は良好で、特にカシ類で顕著である。各分類群の写真を写真3~5に示

し、主な分類群の形態的特徴等を以下に述べる。

・アカガシ(*Quercus acuta* Thunb. ex Murray)-ツクバネガシ(*Quercus sessilifolia* Blume) ブナ科コナラ属アカガシ亜属

本分析で確認されたカシ類全体の容積は456.3cc、重量は313.6gを量る。大半が成熟した果実(ドングリ)(写真3-10~12,15,17)で、果実の完形が42個、完形未満が124個、破片が4,852個(頂部の花柱189個、基部の着点322個を含む)+3ccと、子葉(写真3-15,16)が3個確認された。食用にならない部位は、幼果(写真3-8)が1個、殻斗(写真3-9)が25個の、計26個が確認されるのみであった。

出土果実は破片が多いものの、完全な形状をとどめた個体(写真3-10~12)や、内部に子葉が残る個体(写真3-15)も確認されるため、良好な保存状態と判断される。これらの保存状態が良好な果実は、アカガシ-ツクバネガシに同定され、その他のカシ類は確認されなかった。アカガシ亜属やコナラ属にとどめた果実も、アカガシ-ツクバネガシに由来する可能性が高い。

果実は黒褐色、長さ1.5~2.0cm、径1.2~1.3cmの倒卵状楕円体で、最大径は果実の長さの半分の位置からやや上の位置にある。果実頂部には、殻斗の圧痕である輪状紋が長さ2~3mm、径5mm程度と大きく突出する。果実頂部の中央には、細長い花柱基部が長さ1mm程度残る個体がみられるが、先端部の柱頭を欠損する。花柱のみの出土個体には、柱頭が徐々に開く細長い3花柱が確認される(写真3-13,14)。果皮表面は平滑で微細な縦筋があり、食痕と考えられる丸い孔があいた個体もみられる(写真3-11)。果実基部は切形またはやや突出し、果皮とは別組織の木質で灰褐色、径5~7mm程度の円形で維管束の穴が輪状に並ぶ着点がある(写真3-18)。

米子市目久美遺跡第10次調査で同定されたコナラ属アカガシ亜属の果実(株式会社古環境研究所,2003)や、大山町文殊遺跡(弥生時代)で同定されたアカガシ亜属(イチイガシやアラカシ以外)の果実(パリノ・サーヴェイ株式会社,2010)も、輪状紋が大きく突出する状態が写真図版で確認され、同一の分類群と考えられる。

果実内に1個入る子葉は灰褐色を呈し、長さ1.1cm、径0.7cm程度の楕円体で、2枚からなる子葉の合わせ目に沿って縦半分に分かれた破片もみられる。子葉は極めて脆弱で、表面には縦方向に走る維管束の圧痕がみられる(写真3-15,16)。

・シソ属(*Perilla*)-イヌコウジュ属(*Mosla*) シソ科

果実は淡~灰褐色、倒広卵体。出土果実5個のうち、計測可能な4個の大きさは、7土坑の北側上層(上半部分)が径1.4mm、北側下層(下半部分)が径1.5mm、北側底面が径1.6mm、8土坑の南側下層~底面が長さ1.7mm、径1.2mmであった。基部に着点部があり、舌状に突出する。果皮表面には浅く大きく不規則な網目模様がある。

シソ属には、栽培種で軟実のエゴマと、硬実のシソのほかに、硬実の雑草型エゴマがあり、雑草型エゴマの果実の大きさはエゴマとシソの中間型を示す(新田,2001)。また、シソ属と野生種のイヌコウジュ属の果実の大きさの変異も連続的である。本分析では、笠原(1982)の基準(長さ1.4~1.5mm、幅1.1~1.2mmをシソ、長さ2.0~2.8mm、幅1.8~2.5mmをエゴマ)や中山ほか(2000)の計測値を参考に、シソ属-イヌコウジュ属としている。エゴマの可能性は低いと考えられる。

・ナス属(*Solanum*) ナス科ナス属

種子は淡灰褐色、長さ1.7mm、幅2.2mm、厚さ0.2mmの偏平で歪な腎臓形。基部はやや肥厚し、くびれた部分に臍がある。種皮表面には微細な星形状網目模様が臍から同心円状に発達する。ナスなどの

栽培種よりも小型であるため、野生種と考えられる。

(2)樹種同定

樹種同定結果を表11に示す。木片には、広葉樹4種類(ヤナギ属・ハンノキ属ハンノキ亜属・アサダ・イボタノキ属)に同定された。このうち、アサダには根材も認められる。このほか、針葉樹や広葉樹が認められたが、保存が悪く種類は不明である。同定された各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・ヤナギ属(*Salix*) ヤナギ科

散孔材で、道管は単独または2-3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減少させる。道管は、単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1-15細胞高。

・ハンノキ属ハンノキ亜属(*Alnus subgen. Alnus*) カバノキ科

散孔材で、管孔は単独または2-4個が放射方向に複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと集合放射組織とがある。

・アサダ(*Ostrya japonica* Sarg.) カバノキ科アサダ属

<幹・枝>

散孔材で、道管は単独または放射方向に2-4個が主として放射方向に複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1-2細胞幅、1-30細胞高。

<根材>

散孔材で、道管壁は幹・枝に比べて薄く、木口面では多角形、単独または2-3個が放射方向に複合して散財する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高。

・イボタノキ属(*Ligustrum*) モクセイ科

環孔性を帯びた散孔材で、道管は単独または2個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅱ型、1-2細胞幅、1-20細胞高。

(3)放射性炭素年代測定

放射性炭素年代測定および暦年較正結果を表12、暦年較正曲線図を第151図に示す。測定対象としたアカガシ-ツクバネガシ果実の補正年代は、7土坑北側上層が3,420±30BP、7土坑北側底面が3,390±30、8土坑北側底面が3,510±30BPである。また、補正年代に基づく暦年較正結果(2σの確率

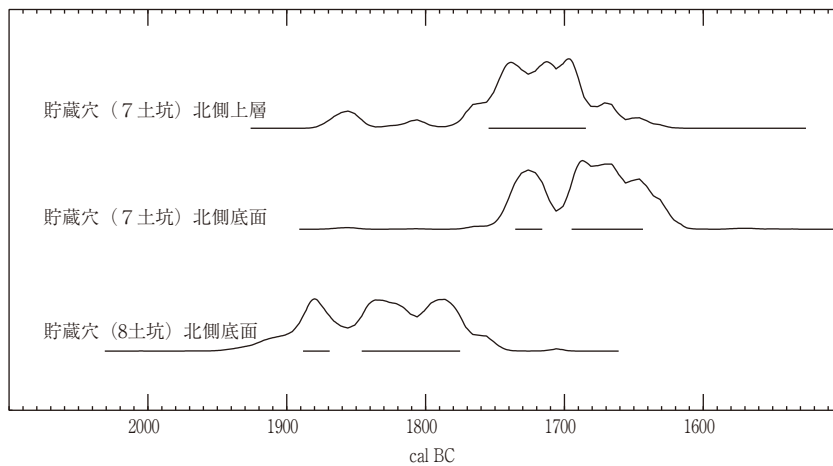
表11 樹種同定結果

地区名	遺構		層位	仮番号	形状		備考	
T23-6f-10D-7e	7土坑	北側		1	芯持丸木(直径7mm)	ヤナギ属		
						芯持丸木(直径3mm)	針葉樹	
			上層(上半部分)	2	芯持丸木(直径7mm)	アサダ		
					小破片	広葉樹		
			下層(下半部分)	5	芯持丸木(直径4mm)	アサダ		
					小破片	アサダ		
			下層(下半部分)	6	芯持丸木(直径1mm)	広葉樹		
					小破片	広葉樹		
			底面	7	小破片	アサダ<根材>		
					小破片	イボタノキ属		
T23-6f-10D-7d	8土坑	北側	上層(上半部分)	11	芯持丸木(直径3.5cm)	ハンノキ属ハンノキ亜属		
					小破片	アサダ<根材>		
			底面	13	芯持丸木(直径3.5cm)	ハンノキ属ハンノキ亜属	仮11-1と接合	
					小破片	アサダ		

表12 放射性炭素年代測定および暦年較正結果

地点名 深度	種類	処理 方法	測定年代 BP	δ13C (‰)	補正年代 (暦年較正用)	暦年較正結果				Code No.
						誤差	cal BC/AD	cal BP	相対比	
貯蔵穴 (7土坑) 北側上層	果実 アカガシ- ツクバネガシ	AAA	3500±30	-29.60±0.43	3420±30 (3423±28)	σ	cal BC 1,755 - cal BC 1,685	cal BP 3,704 - 3,634	1.000	IAAA- 130753
						2σ	cal BC 1,871 - cal BC 1,845	cal BP 3,820 - 3,794	0.062	
							cal BC 1,812 - cal BC 1,803	cal BP 3,761 - 3,752	0.012	
							cal BC 1,776 - cal BC 1,640	cal BP 3,725 - 3,589	0.926	
貯蔵穴 (7土坑) 北側底面	果実 アカガシ- ツクバネガシ	AAA	3440±30	-28.15±0.64	3390±30 (3389±28)	σ	cal BC 1,735 - cal BC 1,716	cal BP 3,684 - 3,665	0.265	IAAA- 130754
						2σ	cal BC 1,695 - cal BC 1,643	cal BP 3,644 - 3,592	0.735	
							cal BC 1,746 - cal BC 1,624	cal BP 3,695 - 3,573	1.000	
							cal BC 1,888 - cal BC 1,869	cal BP 3,837 - 3,818	0.215	
貯蔵穴 (8土坑) 北側底面	果実 アカガシ- ツクバネガシ	AaA	3580±30	-28.37±0.47	3510±30 (3514±27)	σ	cal BC 1,846 - cal BC 1,775	cal BP 3,795 - 3,724	0.785	IAAA- 130755
						2σ	cal BC 1,914 - cal BC 1,753	cal BP 3,863 - 3,702	1.000	

1)処理方法のAAAは酸処理-アルカリ処理-酸処理を示す。
 2)年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用した。
 3)BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。付記した誤差は、測定誤差σ(測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。
 4)暦年の計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.0(Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer)を使用した。
 5)暦年の計算には、補正年代に0で暦年較正用年代として示した、一桁目を丸める前の値を使用している。年代値は、1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、暦年較正用年代値は1桁目を丸めていない。統計的に真の値が入る確率はσは68.3%、2σは95.4%である。相対比は、σ、2σのそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。



第151図 暦年較正結果

1位)は、7土坑北側上層がcal BC 1,776-1,640、7土坑北側底面がcal BC 1,746-1,624、8土坑北側底面がcal BC 1,914-1,753を示す。このように7土坑の上部と底部の年代値は誤差範囲内で一致している。また、7土坑と8土坑の年代値は補正年代値で約100年、暦年較正年代で約150年程度の年代差が生じている。

4. 考察

7土坑と8土坑の貯蔵穴内堆積物からは、アカガシ-ツクバネガシなどのカシ類の果実(ドングリ)を主体とする大型植物遺体群が確認された。また、出土したアカガシ-ツクバネガシの果実の(補正)年代は、7土坑の北側底面が3,390±30BP、北側上層(上半部分)が3,420±30BP、8土坑の北側底面が3,510±30BPで、いずれも縄文時代後期に相当する値を示した。7土坑は、北側底面、北側上層(上半部分)ともほぼ同時期を示すのに対して、8土坑は100年ほど古い値を示した。この年代差については構築時期差を反映している可能性がある。

ツクバネガシやアカガシは、現在の本地域にも分布する常緑高木で、ツクバネガシは、山地の沢沿いの急斜面を好んで生育する傾向があり、アカガシは、しばしば温帯域に生えるブナと接して生えるように、山の斜面のかなり高いところにも生育する。これらの種間雑種と考えられる個体もあり、特に混生地に多い。当時の本遺跡周辺域にも、アカガシ-ツクバネガシが生育する常緑広葉樹林(照葉樹

林)が存在したと考えられる。

また、アカガシやツクバネガシの果実は、水にさらすなどのあく抜き工程により、内部の子葉が食用可能となる。貯蔵穴とされる各土坑より出土した多量の果実は、殆どが成熟した果実から成り、食用にならない幼果や殻斗はわずかに確認されるのみであることから、当時の遺跡周辺の照葉樹林より、成熟果実が選択的に採取され、土坑内に持ち込まれた植物質食料と示唆される。また、出土果実は破片の状態が多いものの、完全な形状をとどめた果実や、極めて稀な果実内の子葉の残存も確認されることから、良好な保存状態であったと判断され、土坑内の嫌気的環境下で食用されることなく埋積、残存したと考えられる。

カシ類以外の分類群は、7土坑、8土坑ともに、木本主体の組成を示す。木本類は、落葉広葉樹が多く、高木になるオニグルミ(?)、ハンノキ亜属、イヌシデ、イヌシデ-アカシデ、ムクノキ、ケヤキ、クワ属、カジノキ、アカメガシワ、カラスザンショウ、イイギリ、クマノミズキ、トネリコ属や、高木または小高木のイロハモミジ類、カエデ属、高木または低木のウルシ属、小高木のゴンズイ、エゴノキ、ハクウンボク、低木のヒメコウゾ、キイチゴ属、サンショウ、タラノキ、ムラサキシキブ属、ニワトコ、ヤブデマリ、ウグイスカグラ節(?)、籐本のサルナシ近似種、マタタビ近似種、マタタビ属、ブドウ属、ノブドウ、ツタなどの種実が確認された。その他に、常緑広葉樹で高木になるサカキ、小高木または低木のヒサカキ属、低木のフユイチゴ類の種実や、常緑針葉樹で高木になるアカマツ、常緑低木のイヌガヤ(ハイイヌガヤ)、カヤ(チャボガヤ)の葉が確認された。これらの樹種は、当時のアカガシ-ツクバネガシが生育する常緑広葉樹林(照葉樹林)内や、河畔等に分布する落葉広葉樹林やその林縁等の明るく開けた場所に生育していたと考えられる。

草本類は、ホタルイ属、アゼスゲ類、ミズ属、ミゾソバ、ミズオトギリ、セリ科などの水湿地生植物や、林床などに生育するネコノメソウ類、スミレ属、湿った場所にもやや乾いた場所にも生育可能な中生植物のイネ科、ヌカスゲ類、スゲ属、キジムシロ類、シソ属-イヌコウジュ属、ナス属、キク科などの種実が確認された。これらは、当時の調査区周辺域の明るく開けた草地環境や、森林の林縁、林床などに生育していたと考えられる。

各土坑の大型植物遺体群は、出土個数、分類群ともに8土坑よりも7土坑が多く、特にカシ類の9割が7土坑からの出土であった。また、7土坑の北側のみでイヌガヤなどの針葉が出土し、砂主体の分析残渣も7土坑で多い傾向が認められた。このような貯蔵穴内堆積物の組成の違いは、埋積時の周辺環境を反映していると考えられるが、測定年代で示された100年程度の違いによるものかは、判断が困難である。

植物片主体の分析残渣は、7土坑、8土坑ともに、5mm角以下の木片を主体とする。7土坑の植物片の実体顕微鏡下観察では、道管が認められる木片が多いことから、広葉樹を主体とすることがうかがえる。このうち、切片作成可能な大きさの木片について樹種同定を実施した結果、ヤナギ属、アサダ、イボタノキ属、種類不明の針葉樹が認められた。アサダが上層と下層から確認されており、上層と下層とで共通する種類が含まれている。アサダは、河畔に生育する落葉高木であり、ヤナギ属にも河畔に生育する種類が含まれる。イボタノキ属は、林縁に生育する落葉低木である。アサダには、根材が含まれることから、遺跡周辺に生育していたと推定される。

8土坑の植物片の実体顕微鏡下観察では、広葉樹の木片や樹皮の破片が多い。その一方で、直径3.5cmの比較的大きな木片も認められる。これらの木片には、ハンノキ亜属とアサダが認められた。

ハンノキ亜属は、上層と底面の試料が接合しており、上層と底面の木片に時間差が無いことを示している。ハンノキ亜属には湿地林構成種が含まれており、アサダに根材が含まれることから、周辺の河畔に生育していた樹木の破片が土坑内に流れ込んでいる可能性もある。

引用文献

- 林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
- 石川茂雄,1994,原色日本植物種子写真図鑑.石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.
- 伊藤ふくお,2001,どんぐりの図鑑,北川尚史監修,トンボ出版,79p.
- 伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
- 伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所.66-176.
- 伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
- 株式会社古環境研究所,2003,目久美遺跡第9次・第10次調査における種実同定.目久美遺跡Ⅸ・Ⅹ,(財)米子市教育文化事業団文化財発掘調査報告書45,財団法人米子市教育文化事業団,164-168,図版37.
- 笠原安夫,1982,鳥浜貝塚の植物種実の検出とエゴマ・シソ種実タール状塊について.鳥浜貝塚1980年度発掘調査概報・研究の成果－縄文前期を主とする低湿地遺跡の調査2－,福井県教育委員会,65-87.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志,2000,日本植物種子図鑑.東北大学出版会,642p.
- 新田みゆき,2001,シソとエゴマの分化と多様性.栽培植物の自然史－野生植物と人類の共進化－,山口裕文・島本義也編,北海道大学図書刊行会,165-175.
- 岡本素治,1973,どんぐりのはなし(3).Nature Study,19巻8号,大阪市立自然科学博物館編,大阪自然科学研究会,7-10.
- パリノ・サーヴェイ株式会社,2010,古環境調査.文殊領遺跡発掘調査報告書Ⅱ-町道山村文殊領線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査-,大山町文化財調査報告書第7集,大山町教育委員会,52-82.
- Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(編),2006,針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修),海青社,70p. [Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification] .
- 島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.
- 徳永桂子,2004,日本どんぐり大図鑑.偕成社,156p.
- 渡辺 誠,1975,縄文時代の植物食.雄山閣出版,187p.
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特

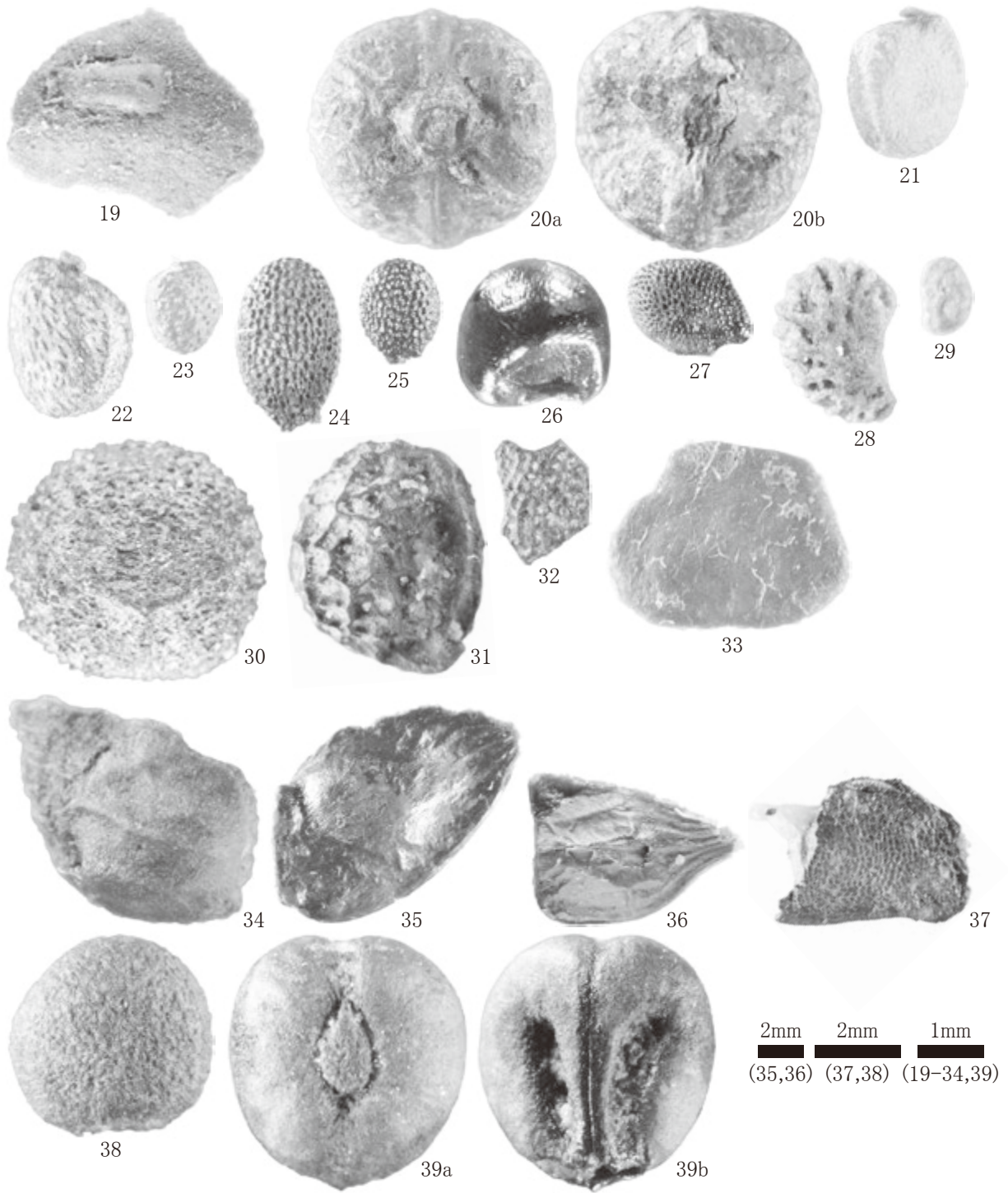
第6章 自然科学分析

徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification]



- | | |
|---|---------------------------------------|
| 1 . アカマツ 葉(7土坑北側;下層(下半部分)) | 2 . イヌガヤ 葉(7土坑北側;上層(上半部分)) |
| 3 . カヤ 葉(7土坑北側;上層(上半部分)) | 4 . カヤ 葉(7土坑北側;上層(上半部分)) |
| 5 . オニグルミ? 核(7土坑南側;底面) | 6 . ハンノキ亜属 果実(7土坑北側;下層(下半部分)) |
| 7 . イヌシデ 果実(7土坑北側;上層(上半部分)) | 8 . アカガシ亜属 幼果(7土坑北側;底面) |
| 9 . アカガシ亜属 穀斗(7土坑北側;底面) | |
| 10 . アカガシ-ツクバネガシ 果実(年代測定対象)(7土坑北側;上層(上半部分)) | 12 . アカガシ-ツクバネガシ 果実(年代測定対象)(8土坑北側;底面) |
| 11 . アカガシ-ツクバネガシ 果実(年代測定対象)(7土坑北側;底面) | 14 . アカガシ-ツクバネガシ 果実頂部(花柱)(7土坑北側;底面) |
| 13 . アカガシ-ツクバネガシ 果実頂部(花柱)(7土坑北側;底面) | 15 . アカガシ-ツクバネガシ 果実・子葉(7土坑南側;底面) |
| 16 . コナラ属 子葉(7土坑北側;底面) | 18 . コナラ属 果実基部(着点)(7土坑北側;底面) |

写真3 大型植物遺体 (1)



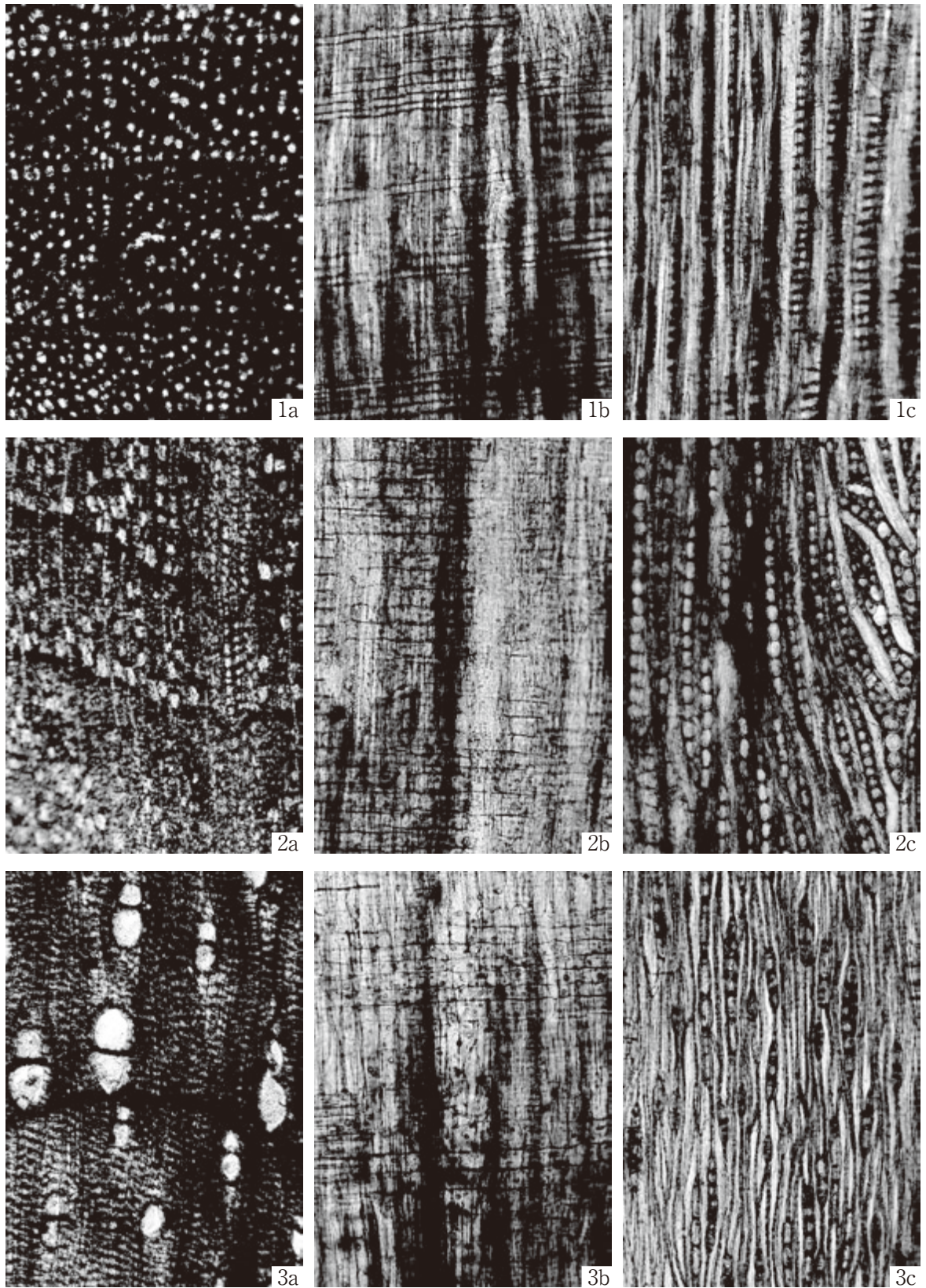
- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 19 . ムクノキ 核(7土坑北側;下層(下半部分)) | 20 . ケヤキ 果実(7土坑北側;上層(上半部分)) |
| 21 . クワ属 核(8土坑北側;上層(上半部分)) | 22 . カジノキ 核(7土坑北側;下層(下半部分)) |
| 23 . ヒメコウゾ 核(7土坑北側;上層(上半部分)) | 24 . サルナシ近似種 種子(7土坑北側;底面) |
| 25 . マタタビ近似種 種子(7土坑北側;下層(下半部分)) | 26 . サカキ 種子(7土坑北側;上層(上半部分)) |
| 27 . ヒサカキ属 種子(7土坑北側;底面) | 28 . フユイチゴ類 核(7土坑北側;上層(上半部分)) |
| 29 . キイチゴ属 核(7土坑北側;上層(上半部分)) | 30 . アカマガシワ 種子(7土坑南側;底面) |
| 31 . カラスザンショウ 種子(7土坑南側;底面) | 32 . サンショウ 種子(7土坑北側;下層(下半部分)) |
| 33 . ウルシ属 核(8土坑北側;上層(上半部分)) | 34 . イロハモミジ類 果実(7土坑北側;上層(上半部分)) |
| 35 . カエデ属 果実(7土坑北側;上層(上半部分)) | 36 . カエデ属 果実(7土坑北側;下層(下半部分)) |
| 37 . カエデ属 種子(7土坑北側;底面) | 38 . ゴンズイ 核(7土坑北側;上層(上半部分)) |
| 39 . ブドウ属 種子(7土坑南側;底面) | |

写真4 大型植物遺体 (2)



- | | |
|------------------------------------|------------------------------------|
| 40 . ノブドウ 種子(7土坑北側;底面) | 41 . ツタ 種子(7土坑北側) |
| 42 . イイギリ 種子(7土坑北側;底面) | 43 . クマノミズキ 核(7土坑北側;上層(上半部分)) |
| 44 . タラノキ 核(7土坑北側;上層(上半部分)) | 45 . エゴノキ 種子(8土坑北側;上層(上半部分)) |
| 46 . ハクウンボク 種子(食痕)(7土坑北側;底面) | 47 . トネリコ属 果実(7土坑北側) |
| 48 . トネリコ属 果実(7土坑北側) | 49 . ムラサキシキブ属 核(7土坑北側;下層(下半部分)) |
| 49 . ムラサキシキブ属 核(7土坑北側;下層(下半部分)) | 50 . ニワトコ 核(8土坑北側;上層(上半部分)) |
| 50 . ニワトコ 核(8土坑北側;上層(上半部分)) | 51 . ヤブデマリ 核(8土坑北側;上層(上半部分)) |
| 51a . ヤブデマリ 核(8土坑北側;上層(上半部分)) | 51b . ヤブデマリ 核(8土坑北側;上層(上半部分)) |
| 51b . ヤブデマリ 核(8土坑北側;上層(上半部分)) | 52 . イネ科A 果実(7土坑北側;上層(上半部分)) |
| 52 . イネ科A 果実(7土坑北側;上層(上半部分)) | 53a . イネ科B 果実(7土坑北側;上層(上半部分)) |
| 53a . イネ科B 果実(7土坑北側;上層(上半部分)) | 53b . イネ科B 果実(7土坑北側;上層(上半部分)) |
| 53b . イネ科B 果実(7土坑北側;上層(上半部分)) | 54 . アゼスゲ類 果実(7土坑南側;底面) |
| 54 . アゼスゲ類 果実(7土坑南側;底面) | 55 . スカスゲ類 果実(8土坑北側;下層(下半部分)) |
| 55 . スカスゲ類 果実(8土坑北側;下層(下半部分)) | 56 . スゲ属(3面型) 果実(7土坑北側;上層(上半部分)) |
| 56 . スゲ属(3面型) 果実(7土坑北側;上層(上半部分)) | 57 . ホタルイ属(平滑型) 果実(7土坑北側;上層(上半部分)) |
| 57 . ホタルイ属(平滑型) 果実(7土坑北側;上層(上半部分)) | 58 . ミズ属 果実(7土坑北側;下層(下半部分)) |
| 58 . ミズ属 果実(7土坑北側;下層(下半部分)) | 59 . ミゾソバ 果実(7土坑北側;上層(上半部分)) |
| 59 . ミゾソバ 果実(7土坑北側;上層(上半部分)) | 60 . ネコノメソウ類 種子(7土坑北側) |
| 60 . ネコノメソウ類 種子(7土坑北側) | 61 . スミレ属 種子(7土坑北側;上層(上半部分)) |
| 61 . スミレ属 種子(7土坑北側;上層(上半部分)) | 62 . キジムシロ類(粗面型) 核(7土坑北側;上層(上半部分)) |
| 62 . キジムシロ類(粗面型) 核(7土坑北側;上層(上半部分)) | 63 . セリ科 果実(7土坑北側;上層(上半部分)) |
| 63 . セリ科 果実(7土坑北側;上層(上半部分)) | 64a . ナス属 種子(8土坑北側;上層(上半部分)) |
| 64a . ナス属 種子(8土坑北側;上層(上半部分)) | 64b . ナス属 種子(8土坑北側;上層(上半部分)) |
| 64b . ナス属 種子(8土坑北側;上層(上半部分)) | 65 . シソ属-イヌコウジュ属 果実(8土坑南側;下層~底面) |
| 65 . シソ属-イヌコウジュ属 果実(8土坑南側;下層~底面) | 66 . キク科 果実(7土坑北側) |
| 66 . キク科 果実(7土坑北側) | 67 . キク科 果実(7土坑北側) |

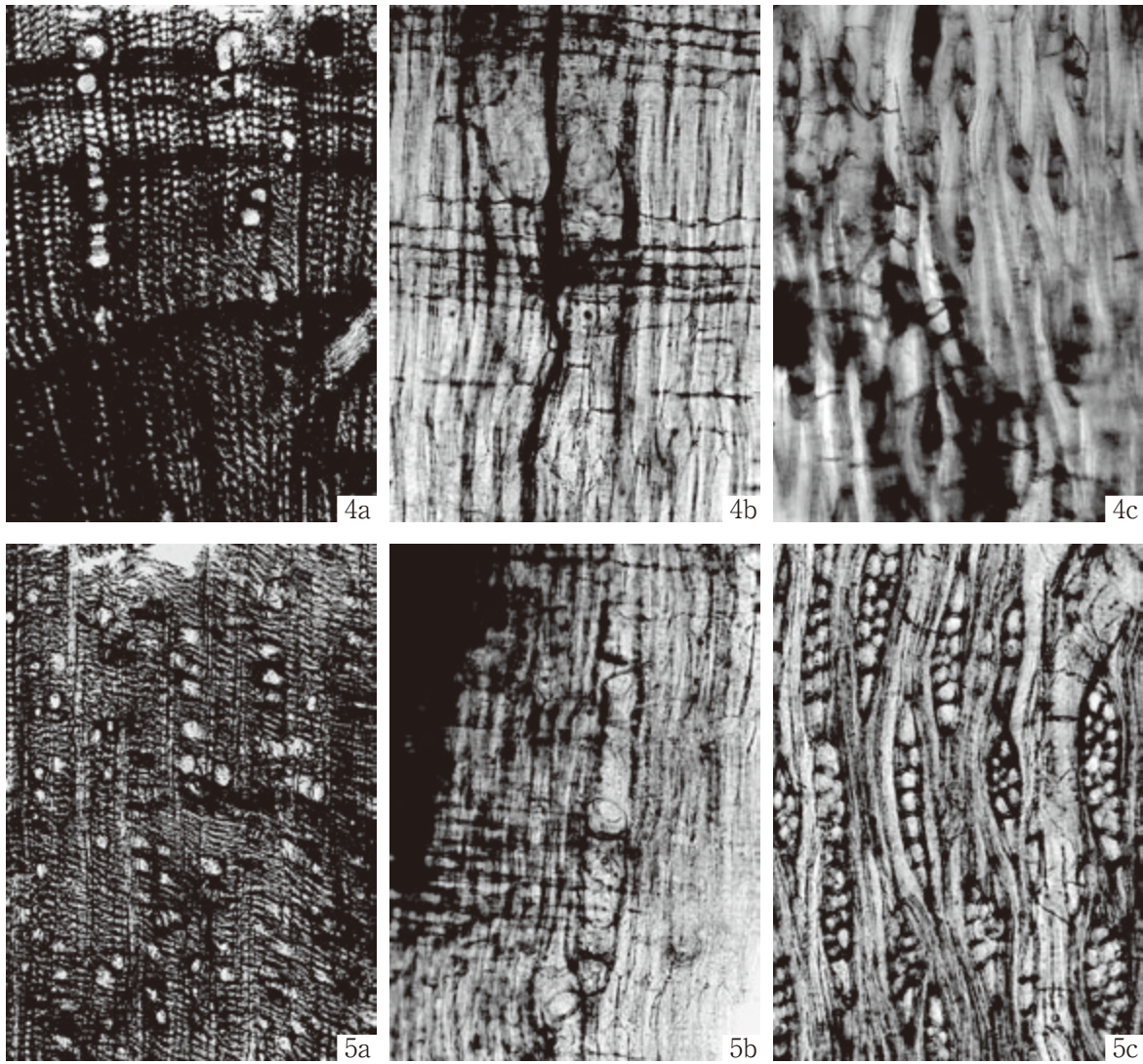
写真5 大型植物遺体 (3)



1. ヤナギ属(7土坑北側)
 2. ハンノキ属ハンノキ亜属(8土坑北側底面)
 3. アサダ(7土坑北側下層)
 a:木口, b:柁目, c:板目

100 μ m:a
 100 μ m:b,c

写真6 木材(1)



4. アサダ<根材>(7土坑北側底面)

5. イボタノキ属(7土坑北側底面)

a:木口,b:柁目,c:板目

100μm:a
100μm:b,c

写真7 木材(2)

第7章 総括

高住牛輪谷遺跡は、第1章第2節でも述べたとおり、平成23年度における調査範囲は、盛土工法による道路予定地6,850㎡であったが、調査地内で当初想定をしていなかった縄文時代に帰属する土壌化層が確認されたことから、およそ半分程度3,750㎡で調査を中止し、6月にボーリング調査を実施するとともに、10月から3箇所の確認調査を行った。また、平成24年度は、平成23年度の調査成果を受け、道路建設の工法が盛土から橋脚に変更となったことから、橋脚範囲の3箇所の調査を行った。本報告はこの2カ年分の調査成果をまとめたものである。本章では、遺跡の変遷、および出土遺物について若干触れる。

第1節 遺跡の変遷

平成23・24年度の調査において、高住牛輪谷遺跡では縄文時代後期から中近世までの遺構を確認した。

縄文時代

高住牛輪谷遺跡が位置する湖山池南岸は、これまで桂見遺跡などで前期末葉の土器がわずかに認められていたが、近年、高住牛輪谷遺跡とは三山口川を挟んだ対岸に位置する高住平田遺跡（鳥取県教育委員会 2013）で自然河川内からの出土遺物であるが、縄文時代前期中葉の北白川下層式土器が確認されたことにより、湖山池南岸地域での人的活動が前期中葉に遡ることが明らかとなった。また続く中期においても、本遺跡に隣接する高住井手添遺跡で船元式土器が遺構に伴うかは判断がつかないものの、面的に多量に出土し（(財)鳥取県教育文化財団 2011）、また高住平田遺跡では、前期から開口し続けた自然河川が中期の里木式の段階で埋没したことが出土土器から明らかになるなど、住居跡等の遺構の確認はできないものの、縄文人の活動域であった。

高住牛輪谷遺跡で遺構、遺物が確認されるのは縄文時代後期からである。平成24年度調査のP1区、P2区である。P1区では2基の貯蔵穴（7土坑、8土坑）が確認された。これまで県東部で縄文時代の貯蔵穴が確認された遺跡は、大路川遺跡、桂見遺跡、栗谷遺跡、布勢第1遺跡、本高下ノ谷遺跡などが知られ、いずれも後晩期の時期に属する（久保 2011、鳥取県教育委員会 2013）。これらの遺跡のなかでは、栗谷遺跡で、貯蔵穴を編組製品で覆うなど、当時の貯蔵方法の一端が確認されている（福部村教育委員会 1989）。牛輪谷遺跡の調査では編組製品などの確認はできず、また木の葉を敷いたり、覆うなど簡易な貯蔵の可能性も想定し、埋土を水洗して大型植物遺体分析も試みたが、木片、樹皮等は確認されたものの、その多くは5mm未満の微細片であることから、何かで覆って貯蔵した可能性は低い。

また、種実同定の結果、これら2基の貯蔵穴から出土した堅果類は、アカガシ・ツクバネガシで、水さらしのみでアク抜きができる堅果類が選別されて貯蔵されたようであり、貯蔵、アク抜き作業を兼ねたものであったことが窺える。

そのほか、直上に堆積する29層中からは中津式と思われる土器片が出土する。貯蔵穴出土の堅果類の放射性炭素年代の測定値を参考とするならば、混入遺物と思われるが、後期前葉も高住地区では人的活動があったものと考えられる。

また、P1区、P2区で確認された自然河川が離水した際に形成された土壌化層からは後期前葉の鳥式から後期中葉の権現山式までの土器が確認できた。

弥生時代

高住牛輪谷遺跡では、平成23年度調査1区でピットや土坑、平成24年度調査P1区で後期の耕作土である10層下面で擬似畦畔などが確認された。ただし隣接する高住井手添遺跡では、中期の溝に木製構造物による堰や護岸などの水利施設が確認されるなど、高住牛輪谷遺跡周辺では弥生時代中期以降に水田開発が積極的に進められたと思われる。

古墳時代

古墳時代においては、高住牛輪谷遺跡で前期と後期の時期の遺構、遺物が主に認められる。平成23年度調査1区では前期のピット、土坑や、後期の耕作土である3-2a層下面で擬似畦畔が確認された。また、平成24年度調査では、前期の遺構として、P1区で擬似畦畔が確認されたほか、A1区で袋状土坑などが確認される。後期においてはA1区で竪穴住居跡、掘立柱建物跡と考えられる柱列など確認されたほか、遺物包含層中からは多量の土器が出土し、後述する管見では類例を見ない移動式竈などが認められる。また、後世の遺物包含層中からの出土ではあるが当該期の遺物として、陶棺片も認められたことから、調査区周辺に、消滅した古墳があったと思われる。

古代以降

高住牛輪谷遺跡では、古代の遺構や遺物は散見される程度であるが、三山口川東岸の高住平田遺跡（鳥取県教育委員会 2012）では当該期に遡る可能性の高い水田跡が調査されている。また、自然河川中からは完形土器を含む多量の土器片等が出土しており、祭祀行為による投棄の可能性も考えられている。続く中世においては、高住平田遺跡、高住牛輪谷遺跡A1区で掘立柱建物跡などの遺構が確認されるが、谷部では水田畦畔や耕地段差などが確認されるなど、中世以降は谷部には水田などの生産域として利用されつづけたと思われる。

第2節 出土遺物

陶棺

高住牛輪谷遺跡では、平成23年度の確認調査1Gと平成24年度のA1区で、亀甲形と切妻家形の陶棺片が出土した。いずれも谷部から東側の丘陵にかかる斜面に設けられた調査区である。調査では古墳は確認することができなく、また、現況の丘陵裾部に古墳の存在が窺える痕跡は認められないが、本遺跡東側の丘陵上には古墳時代前期、および後期の古墳が築造された倉見古墳群が存在すること、平成24年度調査P2区で古墳の副葬品と思われる耳環が出土するなど、かつて付近にも古墳があったのではないと思われる。

さて、上記のとおり、高住牛輪谷遺跡で出土した陶棺片には、亀甲形と切妻家形陶棺の2種類の陶棺が認められた。亀甲形、切妻家形とも蓋の破片で、棺身との合わせ部やその付近のものである。また、いずれも須恵質の破片である。

亀甲形陶棺の蓋の合せ部片132（第121図）は四隅のコーナー部分の破片と思われる。合せ部下面は糸切、もしくはヘラ状工具により平坦に作られ、合せ部下端外面には幅4cm、厚さ1cmの横方向の突帯が認められるが、割れ口の観察では、内傾接合により積んだ粘土紐を削って突帯を形作っているこ

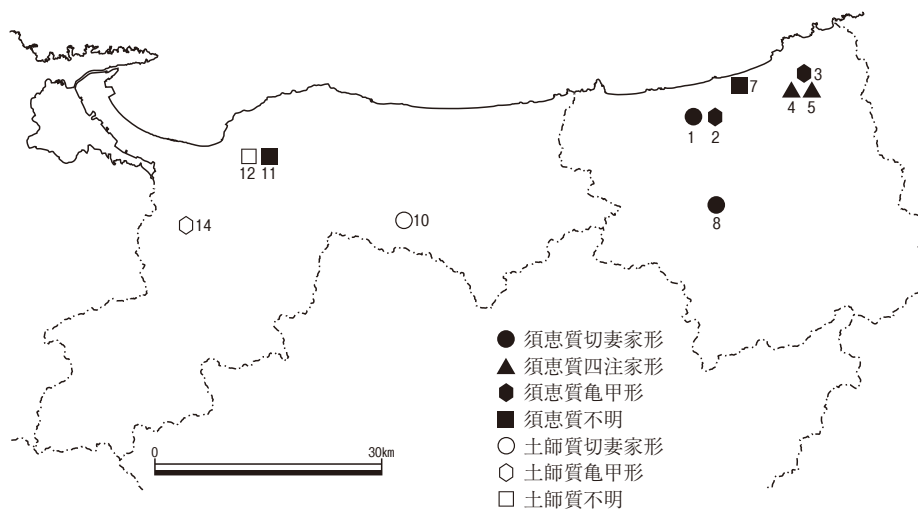
とから、貼り付け突帯ではなく、削り出し突帯である。またコーナー部分から上方に向かって幅6cm、厚さ0.8~1.4cmの縦方向の突帯が付けられるが、こちらはやや観察し難いものの蓋壁面に突帯が貼り付けられたと思われる痕跡が認められることから、貼り付け突帯であったと思われる。

切妻家形では、161（第161図）や174（第125図）など資料には軒側から棟にかけて突帯が付いたものやその痕跡が確認される。174では高さ2mmほど、161では幅3.2~3.5cmの突帯がついたことが確認でき、174の突帯と壁面の境界に接合痕が認められることや、161の突帯が剥離することから貼り付け突帯である。また、棺身との合せ部下面を糸切、もしくはヘラ状工具によって平坦に作っているほか、161側面には薄く撫でつけられた化粧土の下に平行タタキが認められる。

これまで鳥取県下の陶棺の出土は第152図、表13のとおりである。形式は亀甲形、切妻家形、四注式家形が認められ、一部の陶棺においては岡山県出土の陶棺との関連が指摘される（鳥取県 1972、下江 2005）。本遺跡で出土した陶棺に関しても、これまでの陶棺研究（豊島・平井2013、間壁 1982・1983、光本 2001、横田1996・2003）によれば、ほぼその分布が岡山県南東部に限られる須恵質切妻家形陶棺が確認されたこと、岡山県の陶棺にみられる蓋の合せ部下面を平坦にした一体成形と考えられることから、岡山県出土の陶棺との共通性が窺われる。

岡山県における陶棺の様相については、その分布は令制国の備前、備中、美作の地域に限られるが、県東部を流れる吉井川流域に集中する。さらに中流域の美作地域では、土師質亀甲形が6世紀後半代に装飾性の高いものから低いものへと変化の過程を経て、7世紀に定型化して以降、急激に普及したほか、下流域の備前地域では須恵質切妻家形が他の形式の陶棺よりも卓越するなど、使用された陶棺にも地域的に様相が異なることが指摘される。また形態以外にも、切妻家形にはタタキ調整やロクロ成形など須恵器製作に用いる技法が認められるなど、製作技法の面でも違いが認められる。

さて、上記の岡山県の陶棺の様相に対して、高住牛輪谷遺跡で出土した陶棺は、亀甲形、切妻家形ともに須恵質である。須恵質の亀甲形については岡山県でもその出土は少なく、具体的な比較はできないが、亀甲形陶棺の突帯が扁平化するなど、美作地域で検討されている土師質亀甲形陶棺の形態変化のなかで、定型化以降のものとその特徴が合致することから、焼成方法は異なるものの、岡山県の土師質亀甲形陶棺の影響の下に製作されたものと思われる。また、切妻家形陶棺については、その形態や製作にあたりタタキを用いるなど、岡山県の陶棺のなかでも、従来から指摘されているとおり、



第152図 鳥取県出土陶棺分布図

表13 鳥取県出土陶棺一覧表（下江 20005一部改変）

No.	所在地	出土遺跡名	焼成	形式	備考
1	鳥取県鳥取市高住	高住牛輪谷遺跡	須恵質	切妻家形	
2	鳥取県鳥取市高住	高住牛輪谷遺跡	須恵質	亀甲形	
3	鳥取県岩美郡岩美町岩常	不明	須恵質	亀甲形	
4	鳥取県鳥取市福部町	蔵見2号墳	須恵質	四注家形	
5	鳥取県鳥取市福部町	蔵見3号墳	須恵質	四注家形	鴟尾付き
6	鳥取県鳥取市国府町玉鉾				詳細不明
7	鳥取県鳥取市浜坂	荒神山横穴墓	須恵質?	不明	
8	鳥取県鳥取市河原町佐貫	太平2号墳	須恵質	切妻家形?	
9	鳥取県東伯郡湯梨浜町野方				詳細不明
10	鳥取県倉吉市関金町	佐野山2号墳	土師質	切妻家形	赤色塗彩
11	鳥取県米子市淀江町稲吉	不明	須恵質	不明	屋根形?
12	鳥取県米子市淀江町稲吉	不明	土師質	不明	
13	鳥取県米子市博労町				詳細不明
14	鳥取県西伯郡南部町	寺内8号墳	土師質	亀甲形	
15	鳥取県日野郡日南町				詳細不明

備前地域との関連が窺われる。しかし、美作地域においても、備前地域との交流のなかで製作されたとする、須恵質切妻家形、土師質切妻家形が認められることから、本遺跡の陶棺が直接的に備前地域の影響を受け、製作されたものかは不明である。

以上、高住牛輪谷遺跡出土の陶棺について、岡山県出土の陶棺の様相から、美作地域、備前地域との関連性について触れた。ただし、亀甲形陶棺、切妻家形陶棺とも岡山県のものに比べ陶棺の器壁が薄いこと、亀甲形陶棺の突帯断面が岡山県のものとはなだらかな台形状を呈するのに対し、本遺跡のものは長方形状を呈し、シャープな作りであることなど相違も認められることから、その製作にあたり、影響は見受けられるものの、直接陶棺が運ばれたり、工人の移動があったというものではないと思われる。

陶棺の時期については、岡山県での陶棺の変遷を参考にするならば、亀甲形陶棺は突帯の扁平化がすすみ、定型化したものであることから、7世紀以降の時期が考えられる。また、切妻家形についても、岡山県での製作される時期が7世紀代と考えられることから、7世紀以降のものと考えられる。

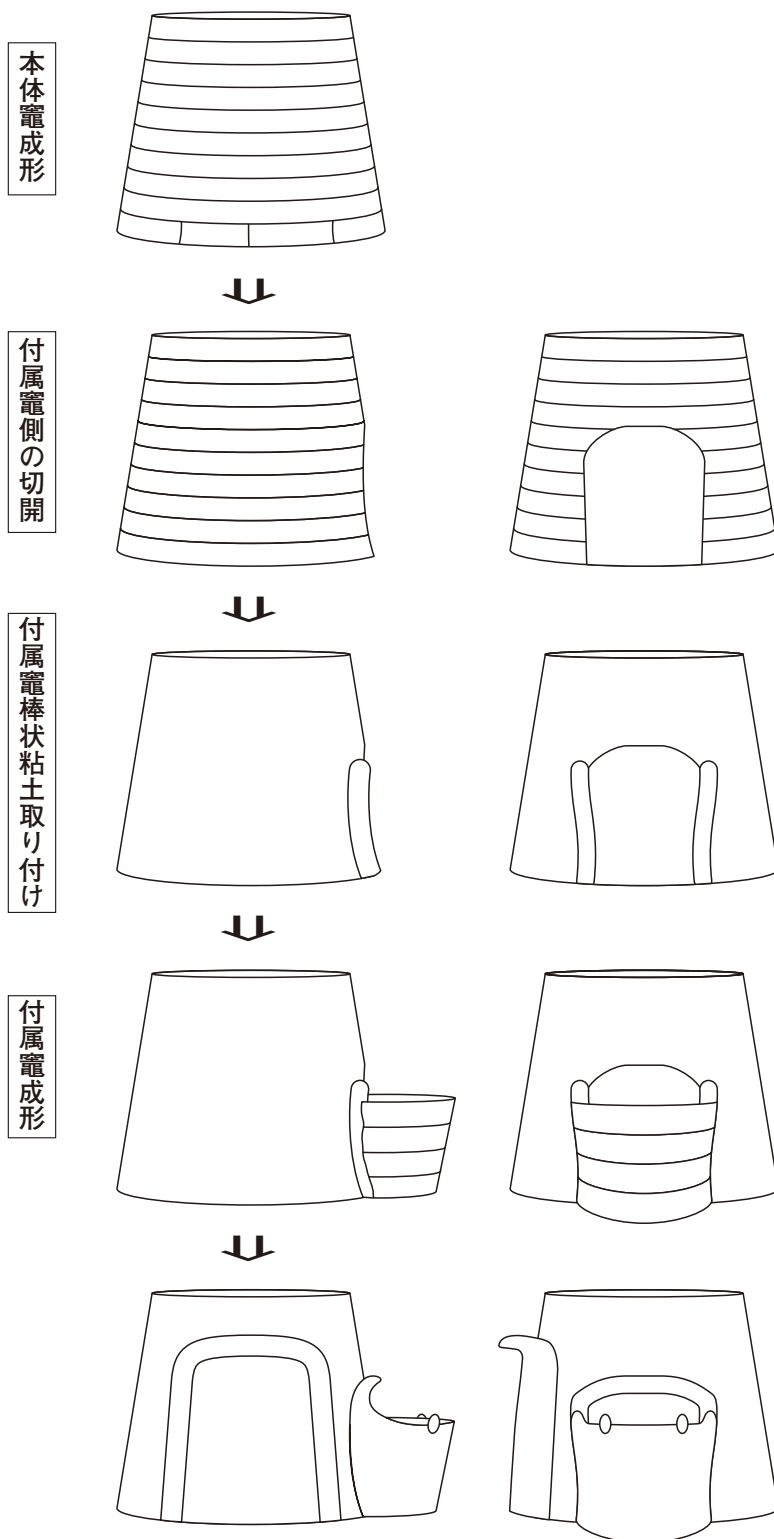
移動式竈

高住牛輪谷遺跡A1区では、古墳時代後期の遺物包含層中から多くの移動式竈の破片が出土した。これらの移動式竈片はほぼ完形に復元できた209の竈と同様、移動式竈本体の斜め後方、もしくは横方向に付属の竈（掛け口）を設けるもの、または付属の竈部分のもので、これまで全国で確認されている移動式竈には認められない構造を持つ。

本項では、出土した移動式竈の主だった資料から、その製作方法を確認し、今後発見が期待される類例の基礎資料としたい。

209（第128図）

ほぼ完形に復元できた資料である。竈本体部分の粘土紐の積み上げは、粘土板などによる基部は作らず、幅2～4cm、厚さ2～2.5cmほどの粘土紐を積み上げる。また最下段の粘土紐は底面の観察では1本の粘土紐を作ってから丸めるのではなく、長さ4～20cmの粘土塊、粘土紐を接合して最下段を作る。内傾気味に直立させた掛け口まで積み上げたのち、付属竈側の穴の切開をする。付属竈の付く部分には外側の左右に先ず棒状の粘土を貼り付け、この棒状粘土に粘土紐を接合、積み上げをして、付属竈を成形する。付属竈最上段の粘土紐は、付属竈底部まで連続して製作する（竈本体の焚口の切



第153図 高住牛輪谷遺跡出土移動式竈の製作工程模式図

開、底部の成形はどの工程で行われたかは不明)。

210 (第128図)

竈本体の焚口部分の底部から口縁部までの資料である。積み上げた粘土紐の幅は遺存する破片の観察からは不明であるが、厚さは1~1.5cmほどで薄手の粘土紐を積み上げて作る。掛け口の形態は如意形で、焚口の上部の付く底部は切開後折り曲げて作られている。付属の竈は焚口右の底部から10cmほどに作られ、焚口とは近接した位置にある。

208 (第127図)

本体竈と付属の竈の接合部分の破片で、主に付属竈側の破片が残る。竈本体と付属竈の接合部分は、竈本体の付属竈側開口部に貼り付けられた、長さ21cm、長径2cm程度の断面楕円形の棒状粘土が認められる。付属竈の成形については観察し難いところもあるが、この棒状粘土に、幅2.5cm程度の粘土紐を貼り付け、積み上げを繰り返して成形したようであり、最上段の粘土は付属竈側底部と合わせて成形する。

230 (第130図)

本体竈と付属竈の接合部の破片で、付属竈側の破片のみが残る。破片では、まず本体竈に貼り付けた長さ23cm以上、長径3cm程度の断面楕円形の棒状粘土が認められ、付属竈の成形は、遺存する付属竈の上半部分の観察であるが、棒状粘土に幅1.5~3cmの粘土紐を貼り付けながら、積み上げて成形される。

225 (第129図)

付属竈の底部の破片である。粘土

紐積み上げによって成形される部分は下部をナデ、上部をケズリの調整によって粘土紐の単位は不明瞭であるが、割れ口、壁面の凹凸の観察では、2～3cm程度の粘土紐を積み上げて成形したようである。本体竈への接合では、他の資料（208・230）と同じく、本体竈側に貼り付けた棒状粘土に取り付けられるが、棒状粘土の端部から外側に部分的に被せるように接合され、接合部の内外面から粘土帯、粘土塊で補強する。

223（第129図）

本体竈と付属竈の接合部の底部である。底面の観察では、他の破片の観察同様、本体竈に長径3cmほどの棒状粘土を貼り付け、この棒状粘土に付属竈の粘土紐を取り付けている。また、棒状粘土を介した接合部の外側には粘土塊による補強がみられる。

127（第121図）

本体竈と付属竈の接合部の上端の破片である。本体竈には長径2.5cm、短径1～1.5cmの棒状粘土が貼り付けられ、棒状粘土に2～4cm程度の粘土紐を取り付けて、積み上げながら付属竈を成形する。また、上端の成形は、不明瞭ではあるが、芯となる棒状粘土は確認し難く、付属竈上端の粘土紐積み上げから連続して付属竈の底部を成形したものと思われる。

212（第129図）

付属竈上部の破片で、掛け口部分には五徳の爪のように粘土紐の取り付けが2箇所認められる。間隔はおよそ12cmである。1.5～2cmほどの粘土紐を積み上げている。

以上、高住牛輪谷遺跡で出土した移動式竈について、完形復元資料、破片資料から観察できる製作方法について触れた。破片資料から考えられる製作方法は、主に付属の竈の製作方法であったが、いずれも共通する部分が多く、ほぼ完形に復元できた209で確認した製作方法と同様であったと思われる。以下の手順が考えられる。

- ・本体竈を粘土紐の積み上げにより成形
- ・本体竈を作成した後、付属竈側の切開（焚口側の切開、底部の成形はどの段階で行われたかは不明）
- ・付属竈が付く側の外面左右に断面楕円形の棒状粘土を縦に貼り付ける。
- ・底部に取り付けるように粘土紐積み上げで付属竈作成。また、付属の竈につく底部は、付属竈の最上段の粘土紐積み上げ後に合わせて成形。

上記のことから付属竈の接続方法や粘土の積み方など、その製作は定式化していたものと思われる。これまで類例をみない移動式竈ではあるが、製作方法が定式化していることからすると、当地域の古墳時代後期の移動式竈として、ある程度普及していた移動式竈であった可能性が考えられる。

ただし、本調査の出土遺物では掛け口の形状を直立する209と如意形に広げる210が認められた。掛け口の形状の違いについては山陰地方では、内傾気味に直立するものが令制国の因幡地域に、頸部が「く」の字形や如意形になるものが出雲地域に、直立、「く」の字、如意形のいずれもが伯耆西部に認められ、用いられた竈に地域性があることが指摘されている（岩橋 2003、加藤 2005）。今回の調査で認められた掛け口形態の相違がどのような意味をもつのか不明であるが、今後の類例の増加による検討が期待される。

第7章 総括

〈参考文献〉

- 岩橋孝典 2003「山陰地方の古墳時代後期～奈良時代の炊飯具について」『古代文化研究』第11号
- 加藤裕一 2005『名和中畝遺跡』財団法人鳥取県教育文化財団
- 久保穰二郎 2011『旧石器・縄文時代』鳥取県の考古学第1巻鳥取県埋蔵文化財センター
(財)鳥取県教育文化財団 2011『発掘通信 鳥取西道路の遺跡を掘る!』第26号
- 下江健太 2005「佐野山2号墳出土陶棺について」『関金町の文化財―指定・登録文化財 埋蔵文化財―』関金町文化財調査報告書第36集
- 鳥取県 1972『鳥取県史』第1巻 原始古代
- 鳥取県教育委員会 2012『高住平田遺跡Ⅰ』
- 鳥取県教育委員会 2013『高住平田遺跡Ⅱ』
- 鳥取県教育委員会 2013『本高下ノ谷遺跡』
- 豊島雪絵 平井泰明 2013『土の棺に眠る～美作の陶棺～』津山郷土博物館
- 福部村教育委員会 1989『栗谷遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
- 間壁葎子 1982「切妻家形陶棺―7世紀における地方支配形態推測への一資料―」『倉敷考古館研究集報』第17集 倉敷考古館
- 間壁葎子 1983「岡山の陶棺―白猪屯倉への一私見―」『岡山の歴史と文化』藤井駿先生喜寿記念会編
- 光本 順 2001「6・7世紀における陶棺の変容とその特質―定東塚・定西塚古墳出土陶棺の評価によせて―」『定東塚・定西塚古墳』岡山県北房町教育委員会
- 横田美香 1996「吉備地域の家形陶棺の系列と編年」『古代吉備』第18集 古代吉備研究会
- 横田美香 2003「吉備地域の土師質亀甲形陶棺」『古代吉備』第24集 古代吉備研究会

表14 土器観察表 (平成23年度)

遺物 No.	挿図 PL	地区 遺構・層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	部位	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	第38図 PL24	1 81土坑	弥生土器 甕	※14.6 △2.6	口縁部～頸部	外面：口縁部3条の平行沈線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ヘラケズリ	密	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙～褐色	良好	
2	第38図 PL24	1 117土坑	弥生土器 甕	※17.8 △4.2	口縁部～頸部	外面：口縁部12条の平行沈線後ナデ 内面：口縁部ナデ	密	外面：にぶい黄橙色 内面：褐灰色	良好	
3	第38図 PL24	1 125ピット	弥生土器 甕	※15.8 △4.8	口縁部～頸部	外面：口縁部9条の平行沈線、頸部ナデ 内面：ナデ	密	外面：浅黄色 内面：灰黄色	良好	
4	第38図 PL24	1 141土坑	弥生土器 甕	— △4.8	口縁部～頸部	外面：口縁部14条の平行沈線、頸部ナデ 内面：ナデ	密	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
5	第38図 PL24	1 148土坑	弥生土器 甕	※16.0 △5.4	口縁部～頸部	外面：口縁部7条の平行沈線、頸部ナデ 内面：口縁部ヘラミガキ、頸部ナデ	密	外面：にぶい黄橙色 内面：灰黄褐色	良好	外面に煤附着
6	第38図 PL24	1 157土坑	弥生土器 甕	※17.6 △3.0	口縁部～頸部	外面：口縁部4条の平行沈線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密	外面：にぶい黄橙色 内面：褐色	良好	
7	第38図 PL24	1 173土坑	弥生土器 甕	※15.0 △2.9	口縁部～頸部	外面：口縁部4条の平行沈線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密	外面：にぶい橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
8	第38図 PL24	1 174土坑	弥生土器 甕	※16.5 △4.6	口縁部～頸部	外面：口縁部14条の平行沈線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密	外面：浅黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
9	第38図 PL24	1 152溝	土師器 甕	※14.7 △4.1	口縁部～頸部	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密	外面：橙色 内面：明赤褐色	良好	
10	第38図 PL24	1 161溝	弥生土器 甕	※14.2 △4.7	口縁部～頸部	外面：口縁部15条の平行沈線、頸部ナデ 内面：口縁部ヘラミガキ、頸部ケズリ	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好	
11	第38図 PL24	1 161溝	土師器 甕	— △4.6	頸部～肩部	外面：ナデ、ハケ 内面：頸部ナデ、肩部ヘラケズリ	密	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	
12	第38図 PL24	1 161溝	弥生土器 壺	— △6.7	胴部	外面：6条の突帯、沈線間を同心円文（スタンプ文）、連続爪形文 内面：ヘラケズリ	密	外面：灰白～浅黄色 内面：灰白色	良好	
13	第38図 PL24	1 167溝	土師器 甕	※15.8 △4.6	口縁部～頸部	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
14	第38図 PL24	1 167溝	弥生土器 短頸壺	※6.0 △2.9	口縁部～肩部	外面：口縁部ナデ、肩部2段の貝殻腹縁文 内面：ナデ	密	外面：にぶい黄褐色 内面：褐灰色	良好	
15	第38図 PL24	1 167溝	弥生土器 器台	— △4.0	受部	外面：受部ナデ、竹管文、ミガキ 内面：ナデ後ミガキ	密	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
16	第38図 PL24	1 82土坑	土師器 甕	※13.8 △3.9	口縁部～頸部	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：黄灰～黒色 内面：灰白～黒色	良好	
17	第38図 PL24	1 83土坑	土師器 甕	※15.7 △8.2	口縁部～胴部	外面：口縁部ナ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ後ナデ	密	外面：にぶい黄橙～黒色 内面：灰黄～浅黄色	良好	外面に煤附着
18	第38図 PL26	1 83土坑	土師器 甕	※17.2 28.8	口縁部～底部	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ後ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密	外面：暗灰黄色 内面：黄褐色	良好	外面に煤附着
19	第38図 PL24	1 83土坑	土師器 椀	※14.8 △3.9	口縁部	外面：ハケ後ナデ 内面：ミガキ	密	外面：褐灰色 内面：褐灰色	良好	
20	第38図 PL24	1 83土坑	土師器 器台	— △5.1	脚部	外面：ナデ 内面：ケズリ	密	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
21	第38図 PL24	1 83土坑	土師器 壺	※18.0 △4.0	口縁部～頸部	外面：口縁部櫛描文、頸部ミガキ 内面：ミガキ	密	外面：淡黄色 内面：灰黄色	良好	頸部にイネの圧痕
22	第38図 PL24	1 83土坑	弥生土器 壺	— △4.5	胴部	外面：3条の突帯、4段の同心円文、連続渦文（スタンプ文） 内面：ナデ	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好	
23	第38図 PL24	1 84土坑	弥生土器 甕	※16.4 △5.4	口縁部～頸部	外面：口縁部20条の平行沈線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密	外面：にぶい黄 内面：灰黄色	良好	
24	第38図 PL24	1 84土坑	弥生土器 器台	※16.7 △5.0	受部	外面：ハケ後ナデ 内面：ナデ	密	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
25	第38図 PL24	1 84土坑	土師器 高杯	— △3.9	脚部	外面：ミガキ 内面：ケズリ、ハケ	密	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
26	第39図 PL25	1 85土坑	土師器 甕	※16.0 △5.5	口縁部～頸部	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ヘラケズリ	密	外面：灰黄褐色 内面：褐灰色	良好	
27	第39図 PL25	1 85土坑	土師器 甕	※14.7 △4.8	口縁部～頸部	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：灰黄色 内面：灰色	良好	
28	第39図 PL25	1 85土坑	弥生土器 鉢	※39.8 △8.5	口縁部～胴部	外面：口縁部11条の平行沈線、胴部ハケ後ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ後ナデ	密	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
29	第39図 PL25	1 85土坑	弥生土器 器台	※13.0 △7.3	受部	外面：12条の平行沈線、ミガキ 内面：ナデ	密	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	
30	第39図 PL25	1 85土坑	弥生土器 器台	— △6.0	受部	外面：沈線間爪形文、ミガキ 内面：ミガキ	密	外面：灰黄色 内面：灰黄色	良好	
31	第39図 PL25	1 85土坑	弥生土器 器台	— △4.3	受部	外面：沈線間同心円文（スタンプ文）、ミガキ 内面：ケズリ後ヘラミガキ	密	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	

遺物観察表

表14 土器観察表 (平成23年度)

遺物 No.	挿図 PL	地区 遺構・層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	部位	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
32	第39図 PL25	1 139土坑	土師器 高坏	— △2.4	坏部	外面：ハケ後ナデ 内面：ミガキ	密	外面：橙色 内面：明赤褐色	良好	内面に赤彩
33	第39図 PL25	1 153土坑	土師器 甕	— △5.4	口縁部～頸部	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密	外面：にぶい黄褐色 内面：褐灰色	良好	外面に煤付着
34	第39図 PL25	1 166土坑	土師器 甕	※14.8 △6.8	口縁部～肩部	外面：口縁部ナデ、肩部ハケ 内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ	密	外面：にぶい黄橙 内面：にぶい黄褐色	良好	
35	第39図 PL25	1 87溝	土師器 甕	※21.0 △7.4	口縁部～頸部	外面：口縁部平行沈線後ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密	外面：浅黄色 内面：淡黄色	良好	
36	第39図 PL25	1 87溝	弥生土器 甕	— △3.0	底部	外面：ミガキ 内面：ケズリ	密	外面：赤橙～橙色 内面：にぶい橙色	良好	底面に穿孔（未貫通）
37	第39図 PL25	1 87溝	弥生土器 直口壺	※11.6 △4.7	口縁部～頸部	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密	外面：にぶい黄褐色 内面：橙～にぶい黄褐色	良好	
38	第39図 PL25	1 87溝	弥生土器 壺	— △4.5	胴部	外面：沈線文間を爪形文、竹管文 内面：ケズリ後ナデ	密	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
39	第39図 PL25	1 87溝	土師器 高坏	— △6.3	脚部	外面：風化のため調整不明 内面：シボリ、ナデ	密	外面：橙色 内面：橙色	良好	
40	第39図 PL25	1 149溝	土師器 低脚坏	— △1.9	底部～脚部	外面：ナデ、ミガキ 内面：ミガキ、脚部ケズリ	密	外面：にぶい黄褐色 内面：灰黄褐～黒褐色	良好	
41	第39図 PL25	1 60溝	蓋	— △4.3	つまみ	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：灰褐色 内面：灰褐色	良好	
43	第40図 PL26	1 表土	瓦質土器 羽釜	※29.4 △4.5	口縁部	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：暗灰色 内面：暗灰色	良好	外面に煤付着
44	第40図 PL26	1 表土	須恵器 捏鉢	— △3.6	口縁部	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：灰色 内面：灰色	良好	
45	第40図 PL26	1 2a層	須恵器 捏鉢	※33.0 △3.6	口縁部	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：青灰色 内面：明青灰色	良好	
46	第40図 PL26	1 2a層	備前焼 播鉢	— △5.3	口縁部	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：灰褐色 内面：灰褐色	良好	内面に擦り目
47	第40図 PL26	1 2a層	青磁 碗	— △3.4	口縁部	外面：施釉 蓮弁文 内面：施釉	密	外面：明緑灰色 内面：緑灰色	良好	
48	第40図 PL26	1 表土	青磁 碗	— △2.0	底部	外面：施釉、高台部露胎 内面：施釉	密	釉：緑灰色 露胎：灰白色	良好	
49	第40図 PL26	1 2a層	白磁 碗	— △2.2	底部	外面：施釉、高台部露胎 内面：施釉	密	釉：灰白色 露胎：灰白色	良好	
50	第40図	1 2a層	弥生土器 注口土器	— △4.6	注口部	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：黄灰色 内面：灰白色	良好	
51	第40図 PL27	1 3a層	須恵器 坏	※11.2 △2.9	口縁部～体部	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好	
52	第40図 PL26	1 3-2a層	須恵器 坏	13.0 3.8	口縁部～底部	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	外面：にぶい赤褐色 内面：橙色	良好	
53	第40図 PL27	1 3-2a層	弥生土器 甕	※19.6 △4.8	口縁部～頸部	外面：口縁部12条の平行沈線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ヘラケズリ	密	外面：褐灰色 内面：にぶい黄橙	良好	外面に煤付着
54	第40図 PL27	1 3-2a層	弥生土器 甕	※26.0 △5.1	口縁部	外面：櫛描文（鋸歯状）、ナデ 内面：ナデ	密	外面：灰黄色 内面：灰黄色	良好	
57	第40図 PL28	1 4a層	弥生土器 甕	※14.8 △5.0	口縁部～頸部	外面：口縁部12条の平行沈線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密	外面：にぶい黄褐色 内面：灰黄色	良好	
58	第40図 PL26	1 4a層	土師器 甕	— △24.9	頸部～底部	外面：頸部ナデ、胴部ハケ 内面：頸部ナデ、胴部ケズリ後ナデ	密	外面：灰黄色 内面：灰黄色	良好	外面に煤付着
59	第40図 PL28	1 4a層	土師器 小型壺	※11.2 △9.7	口縁部～胴部	外面：ナデ 内面：ナデ、胴部ケズリ	密	外面：灰黄色 内面：褐灰色	良好	外面に黒斑
60	第40図 PL28	1 4a層	弥生土器 壺	※28.4 △7.2	口縁部～頸部	外面：3条の沈線、竹管文 内面：ナデ	密	外面：にぶい黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	外面に黒斑
61	第40図 PL28	1 4a層	弥生土器 壺	※13.8 △7.7	口縁部～頸部	外面：口縁部5～9条の平行沈線、頸部ハケ 内面：ナデ	密	外面：にぶい黄褐色 内面：灰黄色	良好	内面は風化不鮮明
62	第40図 PL28	1 4a層	弥生土器 壺	— △5.5	胴部	外面：ミガキ、沈線間同心円文（スタンプ文） 内面：ナデ、ケズリ	密	外面：暗灰黄色 内面：黄灰色	良好	外面に黒塗り
63	第40図 PL28	1 4a層	土師器 低脚坏	— △4.4	底部～脚部	外面：ナデ、ミガキ 内面：ナデ、脚部ケズリ	密	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
64	第40図 PL28	1 4a層	弥生土器 高坏	※21.2 △4.3	坏部	外面：ナデ、ハケ後ミガキ 内面：調整不明	密	外面：灰白色 内面：にぶい橙色	良好	
65	第40図 PL28	1 4a層	弥生土器 高杯	— △7.5	脚部	外面：横位の櫛描文、縦位のキザミ 内面：ケズリ	密	外面：にぶい橙色 内面：浅黄褐色	良好	透かし縦2箇所に穿孔
66	第40図 PL28	1 4a層	蓋	※3.8 △5.5	つまみ	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	
67	第40図 PL28	1 4a層	蓋	— △4.4	つまみ	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	

表14 土器観察表 (平成23年度)

遺物 No.	挿図 PL	地区 遺構・層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	部位	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
68	第41図 PL27	1 2a~3a層	瓦質土器 鍋	※25.9 △6.5	口縁部~胴部	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：暗灰色 内面：灰色	良好	外面に煤付着
69	第41図 PL27	1 2a~3a層	瓦質土器 鍋	※28.4 △6.3	口縁部~胴部	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：灰色 内面：灰黄色	良好	外面に煤付着
70	第41図 PL27	1 2a~3a層	瓦質土器 鍋	※28.0 △5.0	口縁部~胴部	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：黒色 内面：灰色	良好	外面に煤付着
71	第41図 PL27	1 2a~4a層	弥生土器 壺	— △2.9	胴部	外面：爪形文、連続渦文 (スタンプ文) 内面：ナデ	密	外面：灰白色 内面：にぶい黄橙色	良好	
72	第41図 PL27	1 2a~4a層	弥生土器 壺	— △5.5	胴部~底部	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：黒褐色 内面：黒褐色	良好	ミニチュア
73	第41図 PL27	1 3a~4a層	弥生土器 高坏	— △12.8	脚部	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好	円形の透かし
74	第63図 PL31	1G 1001土坑	須恵器 鉢	※26.0 △9.0	口縁部~底部	外面：口縁部回転ナデ、体部掻目、ケズリ 内面：回転ナデ	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好	
75	第63図 PL29	1G 1001土坑	土師器 甕	— △9.0	頸部~肩部	外面：頸部ナデ、肩部ハケ後ナデ 内面：頸部ナデ、肩部ケズリ	密	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	やや良	外面に煤付着
76	第63図 PL29	1G 1003溝	須恵器 壺	※14.8 △7.9	口縁部~肩部	外面：口縁部回転ナデ、肩部タタキ 内面：口縁部回転ナデ、肩部アテ具痕	密	外面：灰白色 内面：灰白色	やや良	
77	第63図 PL29	1G 1003溝	土師器 甕	— —	胴部	外面：ハケ、ナデ 内面：ケズリ	密	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	内面に煤付着
78	第63図 PL31	1G 1005土坑	須恵器 蓋	※4.0 △14.0	天井部~口縁部	外面：天井部回転ヘラケズリ、回転ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：青灰色 内面：青灰色	良好	
79	第63図 PL31	1G 1008土坑	土師器 甕	— —	底部	外面：ナデ 内面：ケズリ後ナデ	密	外面：浅黄色 内面：黄褐色	良好	底面から外面煤付着
80	第63図 PL29	1G 2層	須恵器 蓋	— △1.3	天井部	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：灰色 内面：灰色	良好	天井部外面ヘラ記号「×」あり
81	第63図 PL29	1G 2層	須恵器 蓋	※13.4 △4.4	天井部~口縁部	外面：天井部回転ヘラケズリ、回転ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：灰色 内面：灰色	良好	
82	第63図 PL29	1G 2層	須恵器 無蓋高坏	※13.5 △5.0	坏部	外面：回転ナデ、坏底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	外面：灰色 内面：灰色	良好	
83	第63図 PL29	1G 2層	須恵器 高坏	— △12.2	脚部	外面：回転ナデ 2条の沈線 内面：シボリ、回転ナデ	密	外面：灰色 内面：灰色	良好	2方向の長脚 2段透かし
84	第63図 PL31	1G 1009土坑	弥生土器 甕	※17.5 △30.9	口縁部~底部	外面：口縁部3条の凹線、胴部ハケ、ミガキ 内面：口縁部ナデ、胴部ハケ、ケズリ	やや密	外面：浅黄褐色 内面：橙色	良好	
89	第64図 PL29	1G 1010土坑	弥生土器 壺	— △4.5	頸部	外面：1条の凹線、ハケ 内面：ハケ後ナデ	密	外面：灰黄色 内面：灰黄色	良好	
90	第64図 PL29	1G トレンチ	弥生土器 器台	※18.5 △3.8	受部	外面：20条の沈線 内面：ナデ、ミガキ	密	外面：灰黄色 内面：灰黄色	良好	
92	第65図 PL30	1G トレンチ	須恵器 坏	— △4.6	口縁部~底部	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	外面：灰色 内面：灰色	良好	
93	第65図 PL30	1G トレンチ	須恵器 坏	※15.8 △3.9	口縁部~底部	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	外面：灰色 内面：灰黄褐色	良好	
94	第65図 PL30	1G トレンチ	須恵器 坏	※14.4 △3.5	口縁部~底部	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	外面：灰色 内面：灰色	良好	
95	第65図 PL31	1G トレンチ	須恵器 蓋	※13.4 △3.6	天井部~口縁部	外面：天井部回転ヘラケズリ、回転ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：灰色 内面：灰色	良好	
96	第65図 PL30	1G トレンチ	須恵器 蓋	※10.4 △3.1	天井部~口縁部	外面：天井部回転ヘラケズリ、回転ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：灰色 内面：灰色	良好	
97	第65図 PL31	1G トレンチ	須恵器 蓋	※8.2 △3.0	天井部~口縁部	外面：天井部ナデ、回転ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好	
98	第65図 PL30	1G トレンチ	須恵器 高坏	— △6.4	脚部	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：灰~オリーブ灰色 内面：灰~オリーブ灰色	良好	
99	第65図 PL30	1G トレンチ	須恵器 甕	— △5.2	胴部	外面：回転ナデ、1条の沈線 内面：回転ナデ	密	外面：にぶい橙色 内面：橙	良好	穿孔あり
100	第65図 PL31	1G トレンチ	須恵器 播鉢	— △4.8	底部	外面：回転ナデ、底部ケズリ 内面：回転ナデ、底部ナデ、オサエ	密	外面：灰色 内面：灰色	良好	外面6箇所、内面2箇所穿孔
101	第65図 PL30	1G トレンチ	須恵器 甕	— △13.0	頸部~肩部	外面：横位櫛描文、2条の沈線、ヘラ状工具によるキザミ 内面：回転ナデ 肩部アテ具痕	密	外面：灰色 内面：灰色	良好	
102	第65図 PL30	1G トレンチ	須恵器 甕	— △	把手	外面：ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好	
103	第65図 PL30	1G トレンチ	土師器 甕	※18.3 △6.5	口縁部~胴部	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密	外面：橙色 内面：にぶい黄褐色	良好	
104	第65図 PL30	1G トレンチ	弥生土器 甕	※16.0 △7.6	口縁部~胴部	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、肩部ハケ後ナデ	密	外面：灰黄褐~黒色 内面：褐灰色	良好	外面に煤付着

遺物観察表

表14 土器観察表 (平成23年度)

遺物 No.	挿図 PL	地区 遺構・層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	部位	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
105	第65図 PL30	1G トレンチ	弥生土器 甕	※17.2 △8.6	口縁部 ~胴部	外面：口縁部2条の凹線、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密	外面：橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	外面に煤付着
106	第65図 PL30	1G トレンチ	弥生土器 甕	※15.3 △8.5	口縁部 ~肩部	外面：口縁部3条の凹線、肩部ハケ 内面：ナデ	密	外面：橙色 内面：橙色	良好	
107	第66図	1G トレンチ	弥生土器 壺	※13.4 △4.9	口縁部 ~頸部	外面：ハケ、ナデ 内面：ハケ、頸部ケズリ	密	外面：暗灰黄色 内面：灰黄色	良好	
108	第66図 PL30	1G トレンチ	弥生土器 甕	※5.5 △13.0	口縁部 ~肩部	外面：口縁部ナデ、肩部ハケ 内面：口縁部ナデ、ハケ、肩部ケズリ	密	外面：にぶい黄橙色 内面：灰黄褐色～黒色	良好	外面に煤付着
109	第66図 PL30	1G トレンチ	弥生土器 甕	※16.8 △3.8	口縁部 ~頸部	外面：口縁部7条の平行沈線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密	外面：黒褐色 内面：にぶい黄～黄褐色	良好	外面煤付着
110	第66図 PL31	1G トレンチ	弥生土器 高杯	— △13.1	脚部	外面：ミガキ 内面：ケズリ	密	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	内外面に赤彩
111	第66図	1G トレンチ	弥生土器 高杯	— △4.6	脚部	外面：ミガキ、脚端部2条の凹線 内面：ケズリ後ナデ	密	外面：にぶい赤褐色 内面：にぶい黄橙	良好	外面に赤彩
112	第66図	1G トレンチ	弥生土器 注口土器	— △5.0	注口部	外面：ナデ	密	外面：にぶい黄橙 内面：にぶい黄褐色	良好	
116	第67図 PL31	2G 1層	天目茶碗	— △4.0	体部	外面：施釉 一部露胎 内面：施釉	密	外面：暗褐色 内面：暗褐色	良好	
117	第67図 PL31	2G 1層	縄文土器 粗製深鉢	△4.6	口縁部	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：灰黄褐色 内面：黒褐色	良好	1箇所穿孔あり

表15 土製品観察表 (平成23年度)

遺物 No.	挿図・PL	地区	遺構・層位	種別	法量		調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
					長さ(cm)	幅(cm) 厚さ(cm)					
42	第39図・PL25	1	50溝	土玉	3.3	3.5	ナデ オサエ	密	にぶい黄橙色	良好	
55	第40図・PL27	1	3-2a層	土錘	7.4	3.6	ナデ オサエ	密	灰黄色	良好	
56	第40図・PL27	1	3-2a層	土玉	2.5	3.5	ナデ オサエ	密	灰白	良好	
85	第63図・PL29	1	2層下面	土錘	△3.7	1.6	ナデ オサエ	密	にぶい橙色	良好	外面半分程度黒斑
86	第63図・PL29	1	2層	土錘	5.1	1.7	ナデ オサエ	密	褐灰色	良好	外面一部黒斑
87	第63図・PL29	1	2層	土錘	5.0	1.8	ナデ オサエ	密	灰褐色	良好	外面紐の痕跡
88	第63図・PL29	1	2層	土錘	△6.3	4.3	ナデ オサエ	密	にぶい黄橙色	良好	
91	第64図・PL29	1	1006土坑	土玉	4.1	4.3	ナデ オサエ	密	にぶい黄褐色	良好	
113	第66図・PL30	1G	トレンチ	土錘	3.0	2.7	ナデ オサエ	密	にぶい黄橙	良好	
114	第66図・PL30	1G	トレンチ	土錘	3.2	2.5	ナデ オサエ	密	灰色	良好	未成品
115	第66図・PL30	1G	トレンチ	柱状土製品	6.8	3.3	ナデ オサエ	密	灰白色	良好	外面一部黒斑

表16 石器観察表 (平成23年度)

遺物 No.	挿図・PL	地区	遺構・層位	型式	法量			重量(g)	石材	備考
					長(cm)	幅(cm)	厚(cm)			
S1	第42図・PL32	1	2a~4a層	石鏃	1.8	1.4	0.4	1	サヌカイト	
S2	第42図・PL32	1	表土	石包丁	6.5	5.2	0.8	43	変成岩	
S3	第42図・PL32	1	2a~4a層	石包丁	4.9	6.6	0.6	32	変成岩	
S4	第42図・PL32	1	4a層	磨製石斧	7.0	4.5	1.2	74	緑色凝灰岩	
S5	第42図・PL32	1	3~2a層	磨製石斧未成品	13.3	4.0	2.8	216	変成岩(結晶片岩)	
S6	第42図・PL32	1	2a層	磨製石斧	8.0	7.2	2.2	168	頁岩	
S7	第42図・PL32	1	2a層	磨製石斧or打製石斧	9.3	4.8	1.9	102	流紋岩~デイサイト	
S8	第42図・PL32	1	2a~4a層	分割礫	2.7	5.1	1.7	26	緑色凝灰岩	
S9	第42図・PL32	1	4a層	敲石	11.5	9.7	5.0	825	デイサイト	
S10	第68図・PL32	2G	7層	石鏃	2.7	1.7	0.4	1	サヌカイト	
S11	第68図・PL32	3G	59層	石錘	5.3	5.4	2.3	73	デイサイト~安山岩	
S12	第68図・PL32	1G	トレンチ	磨製石斧	10.0	3.2	2.0	104	安山岩か玄武岩	
S13	第68図・PL32	1G	トレンチ	磨製石斧	7.2	4.2	1.7	79	凝灰岩	

表17 木製品観察表 (平成23年度)

遺物 No.	挿図・PL	地区	遺構・層位	種別	法量			備考
					長さ(cm)	幅(cm)	高さ・厚さ(cm)	
W1	第43図・PL33	1	2土坑	垂木	△71.3	6.5	厚さ4.7	端部有頭状と斜めの加工
W2	第43図・PL33	1	169土坑	板状木製品	△109.7	14.0	厚さ2.5	両端部に孔、建築部材か
W3	第43図・PL33	1	81土坑	杭	△27.7	3.1	—	先端部削り込み
W4	第44図・PL33	1	169土坑	蓋	51.3	29.5	高さ12.7	
W5	第44図・PL32	1	3a層	板状木製品	△34.8	△6.1	厚さ1.1	側面に2ヶ所の切り込み、田下駄か
W6	第44図・PL32	1	3-2a層	板状木製品	△27.7	7.0	厚さ2.2	両端部に孔。中央部に1ヶ所切り込み
W7	第44図・PL32	1	3-2a層	田下駄か	△16.5	4.7	厚さ2.2	田下駄の枠か
W8	第44図・PL32	1	3-2a層	棒状木製品	△35.0	5.2	厚さ2.2	両端部・中央部に孔
W9	第45図・PL33	1	4a層	小舞か	△54.6	3.2	厚さ2.6	3ヶ所を削り加工
W10	第45図・PL33	1	4a層下面	斧台座	△18.4	4.5	厚さ4.3	
W11	第45図・PL33	1	4a層	板状木製品	△20.5	3.2	厚さ1.0	端部有頭状に加工。一部被熱痕あり
W12	第45図・PL33	1	4a層	板状木製品	△13.3	3.1	厚さ1.1	端部有頭状に加工。一部被熱痕あり
W13	第45図・PL33	1	4a層	田下駄	40.2	7.1	厚さ2.0	両側面に2ヶ所ずつ切り込みあり

表18 土器観察表 (平成24年度)

遺物 No.	挿図 PL	地区 遺構・層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	部位	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
118	第121図 PL34	A1 9土坑	瓦質土器 羽釜	※22.0 △4.7	口縁部 ～体部	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：灰色 内面：灰色	良好	
119	第121図 PL34	A1 9土坑	須恵器 蓋	※11.7 △3.2	天井部～ 口縁部	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：灰色 内面：灰色	良好	
120	第121図	A1 10土坑	付属竈	— △2.9	掛口の ツメ	外面：ナデ、オサエ	密	外面：にぶい黄橙色	良好	
121	第121図 PL34	A1 39柱穴	土師器甕	※20.8 △5.3	口縁部 ～肩部	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：灰黄色 内面：灰黄～浅黄色	良好	
122	第121図	A1 39柱穴	竈	— △9.1	庇部	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：にぶい黄橙色 内面：黄灰色	良好	焚口側煤付着
123	第121図 PL34	A1 39柱穴	土師器 小型壺	※7.4 8.1	口縁部 ～底部	外面：ナデ 内面：ナデ、ヘラケズリ後ナデ	密	外面：にぶい橙～明褐色 内面：にぶい橙色	良好	
124	第121図 PL34	A1 43柱穴	須恵器 蓋	— △3.6	天井部	外面：天井部回転ヘラケズリ、回転ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：にぶい褐色 内面：にぶい褐色	良好	
125	第121図 PL34	A1 44柱穴	須恵器 坏	※12.3 △2.9	口縁部 ～体部	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：灰白色～灰色 内面：灰色	良好	
126	第121図 PL34	A1 12溝	須恵器 坏	※11.9 △2.5	口縁部 ～体部	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：灰色 内面：灰色	良好	
127	第121図 PL43	A1 64柱穴	付属竈	— △12.8	掛口	外面：ハケ、ナデ、オサエ 内面：ナデ、オサエ	密	外面：橙色 内面：橙色	良好	
128	第121図 PL34	A1 竈穴住居1	須恵器 蓋	※11.6 △3.3	天井部～ 口縁部	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：青灰色 内面：青灰色	良好	出土遺構第85図 C-C' 3層中
129	第121図 PL34	A1 104ピット	須恵器 蓋	※12.5 △3.8	天井部～ 口縁部	外面：天井部回転ヘラケズリ、回転ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：灰色 内面：灰色	良好	
130	第121図 PL34	A1 83柱穴	土師器 高坏	— △3.2	脚部	外面：ナデ 内面：ハケ	やや 密	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	円形の透かし
131	第121図 PL34	A1 124土坑	土師器 甕	— △11.2	胴部～ 底部	外面：ナデ、ヘラミガキ 内面：ヘラケズリ	やや 密	外面：明褐色 内面：灰白～黒色	良好	外面に煤付着
133	第123図 PL35	A1 6層	瓦質土器 羽釜	※23.3 △3.4	口縁部 ～体部	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：灰色 内面：灰色	良好	外面に煤付着
134	第123図 PL35	A1 6-1-3層	瓦質土器 羽釜	— △5.5	口縁部 ～体部	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：黒褐色 内面：黄灰色	良好	外面に煤付着
135	第123図 PL35	A1 5層	土師器 羽釜	— △4.2	口縁部 ～体部	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：灰黄色 内面：黄灰色	良好	
136	第123図 PL35	A1 6-1-3層	土師器 鍋	※26.2 △4.0	口縁部 ～体部	外面：ナデ 内面：ナデ	やや 良	外面：黒色 内面：灰黄褐～黒色	良好	外面に煤付着
137	第123図 PL35	A1 5層下面	瓦質土器 鍋	※17.4 △3.3	口縁部 ～体部	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：灰色 内面：灰白色	良好	
138	第123図 PL35	A1 6層	陶器 甕	※27.1 △4.7	口縁部 ～頸部	外面：ナデ 内面：ナデ	やや 良	外面：褐灰色 内面：にぶい赤褐色	良好	
139	第123図 PL35	A1 2層	青磁 碗	— △3.1	高台	外面：施釉 内面：施釉	密	釉：オリープ色 露胎：灰色	良好	
140	第123図 PL35	A1 6-2-3層	土師器 高台坏	— △1.9	台部	外面：ナデ 内面：ナデ、オサエ	密	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	
141	第123図 PL35	A1 6層	土師器 甕	※16.4 △5.3	口縁部 ～頸部	外面：ナデ 内面：ナデ、ヘラケズリ	密	外面：にぶい橙色 内面：黒褐色	良好	

遺物観察表

表18 土器観察表 (平成24年度)

遺物 No.	挿図 PL	地区 遺構・層位	器種	口径 (cm) 器高 (cm)	部位	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
142	第123図 PL36	A1 6~11層	土師器 小型器台	7.4 7.4	口縁部 ~底部	外面：ナデ 内面：ナデ、ハケ	密	外面：にぶい橙~橙色 内面：にぶい橙~橙色	良好	
143	第123図 PL36	A1 6層	須恵器 無蓋高坏	11.0 △5.5	坏部	外面：回転ナデ、底部カキ目 内面：回転ナデ	密	外面：灰色 内面：灰色	良好	
144	第123図 PL35	A1 5層	須恵器 高坏	※8.8 △3.5	口縁部 ~坏部	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：青灰色 内面：灰白色	良好	
145	第123図 PL36	A1 6-4層	須恵器 坏	9.8 2.6	口縁部 ~底部	外面：回転ナデ、底部ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：灰白~灰色 内面：灰色	良好	外面にヘラ記号「×」
146	第123図 PL35	A1 5層	須恵器 高坏	— △2.9	脚部	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：灰色 内面：灰白色	良好	透孔あり
147	第123図 PL35	A1 5層	須恵器 高台付壺	— △10.3	底部	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：灰色 内面：灰色	良好	
148	第123図	A1 6~10層	付属甕	— △5.4	掛口	外面：ナデ 内面：ナデ	やや密	外面：灰褐色 内面：にぶい褐色	良好	ツメ貼付
149	第123図	A1 5層	付属甕	— △6.1	掛口	外面：ナデ 内面：ナデ	やや密	外面：明黄褐色 内面：浅黄橙~灰色	良好	
150	第123図	A1 5層	甕	— △6.6	庇部	外面：ナデ 内面：ナデ	やや密	外面：にぶい黄橙色 内面：暗褐色	良好	
151	第123図	A1 5層	甕	— △5.0	底部	外面：ハケ後ナデ 内面：ナデ	密	外面：にぶい橙色 内面：褐灰色	良好	
152	第123図	A1 6層	甕	— △5.2	底部	外面：ハケ 内面：ナデ	密	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい橙色	良好	
163	第125図 PL37	A1 8層	須恵器 蓋	※14.6 △2.3	天井部~ 口縁部	外面：天井部回転ヘラケズリ、回転ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：青灰色 内面：青灰色	良好	
164	第125図 PL38	A1 8層	須恵器 蓋	※13.6 3.7	天井部~ 口縁部	外面：天井部回転ヘラケズリ、回転ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：灰白~灰色 内面：灰白色	良好	
165	第125図 PL38	A1 8層	須恵器 坏	※12.6 3.3	口縁部 ~底部	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	外面：灰白色 内面：浅黄褐色	やや不良	
166	第125図 PL37	A1 8層	須恵器 坏	※12.0 △2.6	口縁部 ~体部	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：灰色 内面：灰色	良好	
167	第125図 PL38	A1 8層	須恵器 坏	9.6 4.1	口縁部 ~底部	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：灰色 内面：灰色	良好	回転ヘラケズリ
168	第125図 PL37	A1 8層	須恵器 ハソウ	— △5.9	頸部	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：灰色 内面：灰色	良好	頸部に沈線 絞り
169	第125図 PL37	A1 8層	把手			外面：オサエ	密	外面：灰黄褐色	良好	外面に一部煤付着
170	第125図	A1 8層	付属甕	— △4.0	庇部	外面：ナデ 内面：ケズリ	やや密	外面：にぶい黄橙色	良好	
171	第125図	A1 8層	付属甕	— △4.4	庇部	外面：ナデ 内面：ケズリ	やや密	外面：にぶい黄橙~にぶい橙色	良好	
172	第125図	A1 8層	付属甕	— △6.7	掛口	外面：ナデ 内面：ハケ後ナデ	やや密	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい橙~黒褐色	良好	ツメの痕跡あり
173	第125図	A1 8層	甕	— △6.6	底部	外面：ハケ後ナデ 内面：ナデ	密	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	内面に一部煤付着
175	第126図 PL38	A1 9層	須恵器 坏	※11.4 △3.6	口縁部 ~体部	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：灰色 内面：灰白~灰色	良好	
176	第126図 PL39	A1 11層	須恵器 坏	13.0 5.1	口縁部 ~底部	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	外面：灰白~灰色 内面：灰白~灰色	良好	
177	第126図 PL39	A1 11層	須恵器 坏	13.5 3.6	口縁部 ~底部	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	外面：黄灰色 内面：黄灰色	良好	口縁部に蓋の一部付着
178	第126図 PL39	A1 12層	須恵器 坏	※12.6 △4.1	口縁部 ~底部	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	外面：灰白~灰色 内面：灰色	良好	
179	第126図 PL39	A1 12層	須恵器 坏	※12.0 4.4	口縁部 ~底部	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	外面：灰白~灰色 内面：灰色	良好	
180	第126図 PL39	A1 12層	須恵器 坏	※13.4 △3.9	口縁部 ~底部	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	外面：にぶい褐色 内面：にぶい褐色	やや不良	
181	第126図 PL39	A1 12層	須恵器 坏	14.0 3.9	口縁部 ~底部	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好	
182	第126図 PL39	A1 12層	須恵器 坏	— △3.0	口縁部 ~底部	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	外面：灰白色 内面：灰色	良好	外面に別個体の破片付着
183	第126図 PL39	A1 13層	須恵器 坏	12.0 3.6	口縁部 ~底部	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	外面：灰色 内面：灰色	良好	外面に重ね焼の痕跡あり
184	第126図 PL38	A1 11層	須恵器 蓋	※10.2 △5.3	天井部~ 口縁部	外面：天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	外面：灰色 内面：灰色	良好	
185	第126図 PL38	A1 11層	須恵器 蓋	※11.4 △4.6	天井部~ 口縁部	外面：天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	外面：灰色 内面：灰色	良好	

表18 土器観察表 (平成24年度)

遺物 No.	挿図 PL	地区 遺構・層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	部位	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
186	第126図 PL38	A1 11層	須恵器 蓋	※14.1 △3.9	天井部～ 口縁部	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	やや軟	外面：灰白～褐灰色 内面：灰白色	良好	
187	第126図 PL40	A1 12層	須恵器 蓋	11.2 5.9	天井部～ 口縁部	外面：天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	外面：青灰色 内面：灰色	良好	
188	第126図 PL40	A1 12層	須恵器 蓋	14.6 5.3	天井部～ 口縁部	外面：天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	外面：灰白～灰色 内面：灰白色	良好	
189	第126図 PL40	A1 12層	須恵器 蓋	12.8 3.9	天井部～ 口縁部	外面：天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	外面：灰白～灰色 内面：灰白色	良好	
190	第126図 PL40	A1 13層	須恵器 蓋	※13.3 △3.9	天井部～ 口縁部	外面：天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	外面：灰色 内面：灰色	良好	
191	第126図 PL40	A1 37層	須恵器 蓋	13.6 3.4	天井部～ 口縁部	外面：天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	外面：灰白～灰色 内面：灰色	良好	
192	第126図 PL38	A1 37層	須恵器 蓋	13.8 2.9	天井部～ 口縁部	外面：天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	外面：暗灰色 内面：灰色	良好	
193	第126図 PL40	A1 12層	須恵器 甗	— △8.2	体部	外面：回転ナデ、下部回転ヘラケズリ後ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好	
194	第126図 PL40	A1 13層	須恵器 高坏	14.5 9.0	口縁部～脚部	外面：回転ナデ、坏底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ、脚部シボリ	密	外面：灰色 内面：灰色	良好	
195	第126図 PL40	A1 11層	須恵器 高坏	※12.5 △5.6	坏部	外面：回転ナデ、坏底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	外面：灰色 内面：灰色	良好	内外面に自然釉一部付着
196	第126図 PL38	A1 12層	須恵器 高坏	— △4.7	脚部	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：灰色 内面：灰色	良好	透孔あり
197	第126図 PL41	A1 11層	須恵器 提瓶	5.3 △9.5	口縁部～胴部	外面：回転ナデ、胴部カキ目 内面：回転ナデ	密	外面：灰色 内面：灰色	良好	
198	第126図 PL41	A1 13層	須恵器 提瓶	※8.6 △12.5	口縁部～肩部	外面：回転ナデ、胴部カキ目 内面：回転ナデ	密	外面：暗青灰～灰白色 内面：青灰～灰白色	良好	外面に別個体の須恵器の一部付着
199	第127図 PL42	A1 12層	土師器 甗	※20.4 △13.9	口縁部～胴部	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	密	外面：にぶい黄橙～黒色 内面：黄褐～黒褐色	良好	外面に一部煤付着
200	第127図 PL42	A1 12層	土師器 甗	※23.8 △8.1	口縁部～肩部	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、肩部ヘラケズリ	密	外面：灰黄～浅黄色 内面：灰黄色	良好	外面に一部煤付着
201	第127図 PL42	A1 12層	土師器 甗	※18.0 △7.1	口縁部～胴部	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	密	外面：にぶい黄橙～黒色 内面：明黄褐～灰黄褐色	良好	外面に一部煤付着
202	第127図 PL41	A1 13層	土師器 甗	※21.4 △10.4	口縁部～胴部	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ	密	外面：灰黄色 内面：黄灰色	良好	
203	第127図 PL42	A1 12層	土師器 甗	※11.7 7.5	口縁部～肩部	外面：口縁部ナデ、肩部ハケ 内面：口縁部ナデ、肩部ヘラケズリ	密	外面：黄灰～黒褐色 内面：黄灰～黒褐色	良好	
204	第127図 PL41	A1 13層	土師器 甗	※18.8 △13.1	口縁部～胴部	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	密	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
205	第127図 PL41	A1 13層	土師器 甗	※22.8 △9.0	口縁部～肩部	外面：口縁部ナデ、肩部ハケ後ナデ 内面：口縁部ナデ、肩部ヘラケズリ	密	外面：灰黄～黒色 内面：灰黄色	良好	
206	第127図 PL42	A1 37層	土師器 甗	※17.6 △7.5	口縁部～胴部	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	密	外面：黒褐～黒色 内面：黒褐～黒色	良好	内外面に煤付着
207	第127図 PL42	A1 13層	土師器 甗	※16.2 △14.4	口縁部～底部	外面：ナデ 内面：ナデ	やや密	外面：灰黄色 内面：にぶい黄～黄褐色	良好	
208	第127図 PL45	A1 37層	付属甗	— △27.3	掛口～底部	外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ	密	外面：浅黄橙褐色 内面：明褐灰～褐灰色	良好	
209	第128図 PL44	A1 11層	付属甗 付き甗	29.0 34.3	掛口～底部	外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ	密	外面：灰白～黒褐色 内面：にぶい黄橙色	良好	
210	第128図 PL45	A1 12層	甗	— △39.4	掛口～底部	外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ	密	外面：橙～にぶい黄橙色 内面：橙～褐灰色	良好	焚口側煤付着
211	第129図	A1 37層	甗	— △4.9	掛口	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	
212	第129図 PL43	A1 13層	付属甗	— △9.0	掛口	外面：ハケ後ナデ 内面：ナデ	密	外面：にぶい橙色 内面：にぶい黄橙～黒色	良好	内面に煤付着、ツメ2箇所
213	第129図	A1 9層	甗	— △6.3	底部	外面：ケズリ後ナデ 内面：ケズリ後ナデ	密	外面：灰黄～褐灰色 内面：浅黄色	良好	外面に煤付着
214	第129図	A1 11層	付属甗	— △2.6	底部	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：にぶい黄褐色	良好	内面に煤付着
215	第129図	A1 11層	甗	— △9.4	底部	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：にぶい黄褐色	良好	
216	第129図	A1 37層	甗	— △7.9	底部	外面：ナデ ケズリ 内面：ナデ ケズリ	やや密	外面：灰白色 内面：黄灰色	良好	
217	第129図	A1 11層	甗	— △20.3	底部	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：浅黄橙～枚褐灰色 内面：ナデ	良好	内面に一部煤付着
218	第129図	A1 13層	甗	— △23.4	底部	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：にぶい橙～黒色 内面：にぶい橙～黒色	良好	内面に煤付着

遺物観察表

表18 土器観察表 (平成24年度)

遺物 No.	挿図 PL	地区 遺構・層位	器種	口径 (cm) 器高 (cm)	部位	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
219	第129図	A1 11層	甕	— △8.8	胴部	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：にぶい橙～黒褐色 内面：灰褐～黒褐色	良好	底部分と子甕の接合部
220	第129図	A1 11層	甕	— △9.8	胴部	外面：ハケ後ナデ 内面：ナデ	密	外面：褐灰色 内面：にぶい橙色	良好	底の接合部
221	第129図	A1 13層	甕	— △6.5	胴部	外面：ハケ後ナデ 内面：ナデ	密	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい橙色	良好	底接合部
222	第129図	A1 13層	甕	— △7.6	底部	外面：ハケ、ナデ 内面：ナデ	密	外面：灰色 内面：にぶい黄橙～灰色	良好	
223	第129図 PL43	A1 13層	甕	— △8.7	底部	外面：ハケ、ナデ 内面：ハケ、ナデ、ケズリ	密	外面：にぶい黄橙色 内面：灰白色	良好	
224	第129図	A1 11層	甕	— △8.4	底部	外面：ハケ、ナデ 内面：ケズリ、ナデ	密	外面：黒色～浅黄色 内面：にぶい黄橙色	良好	内外面に煤付着
225	第129図 PL43	A1 13層	付属甕	— △11.1	底部	外面：ハケ、ナデ 内面：ケズリ、ナデ	密	外面：灰～黒褐色 内面：にぶい黄橙色	良好	内外面に煤付着
226	第130図 PL41	A1 21層	土師器 小型壺	※9.4 8.2	口縁部～底部	外面：ハケ後ナデ 内面：口縁部ハケ後ナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好	
227	第130図 PL41	A1 21層	土師器 蓋	※12.4 7.8	天井部～口縁部	外面：ナデ、ハケ後ナデ 内面：ヘラケズリ後ナデ	密	外面：灰黄褐色 内面：にぶい黄橙色	良好	
228	第130図	A1 21層	土師器 壺	※15.7 △12.8	口縁部～肩部	外面：口縁部ナデ、肩部ハケ 内面：口縁部ハケ後ナデ、肩部ヘラケズリ	密	外面：橙色 内面：橙色	良好	
229	第130図 PL41	A1 21層	須恵器 坏	※11.7 3.9	口縁部～底部	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	外面：灰白～灰色 内面：灰色	良好	
230	第130図 PL43	A1 21層	付属甕	— △22.3	掛口	外面：ハケ後ナデ 内面：ケズリ、ナデ	密	外面：灰黄～黄灰色 内面：灰黄～黄灰色	良好	内面に煤付着
231	第131図 PL46	A1 25層	土師器 甕	※25.0 △14.4	口縁部～胴部	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	密	外面：にぶい黄橙～黒色 内面：浅黄～黒色	良好	
232	第131図 PL49	A1 25層	土師器 甕	※17.4 △12.1	口縁部～胴部	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ、櫛波状文 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ	密	外面：にぶい黄橙～黒色 内面：にぶい黄橙色	良好	
233	第131図 PL46	A1 25層	土師器 甕	※16.7 △10.1	口縁部～胴部	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ後ナデ 内面：口縁部ナ、胴部ヘラケズリ	密	外面：にぶい黄橙～黒色 内面：にぶい黄橙色	良好	外面に煤付着
234	第131図 PL49	A1 25層	土師器 甕	※16.0 △11.6	口縁部～胴部	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、風化調整不鮮明	やや粗	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	良好	
235	第131図 PL46	A1 25層	土師器 甕	※24.0 △6.7	口縁部～頸部	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ	密	外面：浅黄～浅黄橙色 内面：灰黄～浅黄色	良好	
236	第131図 PL46	A1 25層	土師器 甕	※17.6 △6.9	口縁部～肩部	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、肩部ヘラケズリ	密	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
237	第131図 PL46	A1 25層	土師器 甕	※16.6 △5.2	口縁部～肩部	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、肩部ヘラケズリ	密	外面：にぶい黄色 内面：にぶい黄色	良好	
238	第131図 PL46	A1 25層	土師器 甕	※15.7 △5.2	口縁部～頸部	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
239	第131図 PL46	A1 25層	土師器 甕	※13.8 △5.6	口縁部～肩部	外面：口縁部ナデ、肩部刺突文 内面：口縁部ナデ、肩部ヘラケズリ後ナデ	密	外面：灰黄褐～褐灰色 内面：にぶい黄橙色	良好	
240	第131図	A1 25層	土師器 甕	※13.2 △5.2	口縁部～肩部	外面：口縁部ナデ、肩部ハケ 内面：口縁部ナデ、肩部ヘラケズリ	やや密	外面：にぶい黄橙～黒色 内面：にぶい黄橙～黒色	良好	内外面に煤付着
241	第131図 PL46	A1 25層	土師器 甕	※13.6 △6.5	口縁部～頸部	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ヘラケズリ	密	外面：にぶい黄色 内面：灰黄色	良好	
242	第131図	A1 25層	土師器 甕	※8.8 △3.3	口縁部～頸部	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ヘラケズリ	密	外面：浅黄色 内面：浅黄～灰色	良好	
243	第131図 PL49	A1 25層	土師器 甕	※14.2 23.9	口縁部～底部	外面：区縁部ナデ、胴部ハケ後ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ	密	外面：にぶい橙～黒色 内面：にぶい黄橙～黒色	良好	内外面に煤付着
244	第131図 PL49	A1 25層	土師器 甕	※14.8 △11.8	口縁部～胴部	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ、肩部にキザミ 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	密	外面にぶい黄橙～黒色 内面にぶい黄橙～黒色	良好	外面に煤付着
245	第131図 PL49	25層	土師器 甕	※12.4 △10.9	口縁部～胴部	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ後ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ後ナデ	密	外面：浅黄橙～灰赤色 内面：にぶい橙色	良好	
246	第131図 PL47	A1 25層	土師器 甕	※15.8 △6.5	口縁部～肩部	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、肩部ヘラケズリ後ナデ	密	外面：浅黄～にぶい橙色 内面：浅黄色	良好	
247	第131図 PL47	A1 25層	土師器 甕	※14.3 △8.1	口縁部～肩部	外面：口縁部ナデ、肩部ハケ 内面：口縁部ナデ、肩部ヘラケズリ	密	外面：にぶい黄橙色 内面：灰黄色	良好	
248	第131図 PL47	A1 25層	土師器 甕	※14.4 △7.7	口縁部～肩部	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、肩部ヘラケズリ後ナデ	密	外面：にぶい黄橙色 内面：灰黄褐色	良好	
249	第131図 PL49	A1 25層	土師器 甕	※13.5 △13.8	口縁部～胴部	外面：口縁部ナデ、肩部ハケ後ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	密	外面：浅黄橙～黒色 内面：浅黄橙～褐灰色	良好	外面に煤付着
250	第131図 PL49	A1 25層	土師器 甕	※12.0 △8.9	口縁部～胴部	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ後ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ハケ後ナデ	密	外面：橙～にぶい橙色 内面：にぶい橙～褐灰色	良好	

表18 土器観察表 (平成24年度)

遺物 No.	挿図 PL	地区 遺構・層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	部位	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
251	第131図 PL47	A1 25層	土師器 甕	※13.3 △6.4	口縁部 外側：ナデ ～肩部 内側：口縁部ナデ、肩部ヘラケズリ後ナデ		密	外面：灰黄色 内面：灰黄色	良好	外面に煤付着
252	第132図 PL49	A1 25層	土師器 甕	※23.2 △17.2	口縁部 外側：口縁部ナデ、胴部ハケ後ナデ ～胴部 内側：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ		密	外面：にぶい黄橙色 内面：明黄褐色	良好	外面に一部黒斑
253	第132図 PL50	A1 25層	土師器 甕	14.4 △14.0	口縁部 外側：口縁部ナデ、胴部ハケ ～胴部 内側：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ		やや密	外面：浅黄橙～黒色 内面：にぶい橙色	良好	
254	第132図 PL50	A1 25層	土師器 甕	※20.0 △10.5	口縁部 外側：口縁部ナデ、肩部ハケ後ナデ ～肩部 内側：口縁部ナデ、肩部ヘラケズリ後ナデ		密	外面：浅黄橙色 内面：明黄褐色	良好	
255	第132図 PL50	A1 25層	土師器 甕	※16.0 △15.4	口縁部 外側：口縁部ナデ、胴部ハケ後ナデ ～胴部 内側：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ		密	外面：灰白～黒褐色 内面：にぶい橙色	良好	
256	第132図 PL50	A1 25層	土師器 甕	※12.7 △12.7	口縁部 外側：口縁部ナデ、胴部ハケ後ナデ ～胴部 内側：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ		密	外面：にぶい黄橙～黄灰色 内面：にぶい黄褐色	良好	外面に煤付着
257	第132図 PL47	A1 25層	土師器 甕	※16.6 △9.3	口縁部 外側：ハケ後ナデ ～肩部 内側：口縁部ナデ、肩部ヘラケズリ後ナデ		密	外面：にぶい黄橙～黒色 内面：灰黄褐色	良好	外面に煤付着
258	第132図 PL50	A1 25層	土師器 壺	26.3 △30.1	口縁部 外側：口縁部ナデ、胴部ハケ、肩部に貝殻刺 ～胴部 内側：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	突文	密	外面：にぶい橙～にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	内外面に一部煤付着。
259	第132図 PL47	A1 25層	土師器 壺	※17.4 △9.0	口縁部 外側：ナデ、ハケ ～頸部 内側：ナデ		密	外面：明赤褐～灰黄褐色 内面：明赤褐～灰黄褐色	良好	
260	第132図 PL47	A1 25層	土師器 壺	※11.8 △5.6	口縁部 外側：ナデ ～頸部 内側：口縁部ナデ、頸部ヘラケズリ		密	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
261	第132図 PL50	A1 25層	土師器 直口壺	15.0 35.4	口縁部 外側：ハケ後ナデ、肩部に貝殻刺突文 ～底部 内側：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ		やや密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好	
262	第133図 PL50	A1 25層	土師器 小型壺	9.6 9.6	口縁部 外側：ナデ ～底部 内側：口縁部ハケ後ナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ		密	外面：灰白～黒褐色 内面：灰黄色	良好	外面に煤付着
263	第133図 PL50	A1 25層	土師器 小型壺	8.7 9.7	口縁部 外側：口縁部ナデ、胴部ハケ後ナデ ～底部 内側：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ		やや密	外面：橙色 内面：橙色	やや良	
264	第133図 PL51	A1 25層	土師器 小型甕	9.2 8.2	口縁部 外側：口縁部ナデ、胴部ハケ ～底部 内側：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ		密	外面：浅黄褐色 内面：灰白色	良好	
265	第133図 PL51	A1 25層	土師器 小型壺	8.2 7.9	口縁部 外側：口縁部ナデ、胴部ハケ後ナデ ～底部 内側：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ		密	外面：橙～にぶい橙色 内面：橙～にぶい橙色	良好	
266	第133図 PL51	A1 25層	土師器 小型壺	7.9 7.4	口縁部 外側：口縁部ナデ、胴部ハケ ～底部 内側：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ		密	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
267	第133図 PL51	A1 25層	土師器 小型壺	※9.1 △7.7	口縁部 外側：ナデ ～胴部 内側：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ		密	外面：浅黄橙～黒色 内面：にぶい黄褐色	やや良	外面に煤付着
268	第133図 PL51	A1 25層	土師器 小型壺	※8.8 △8.3	口縁部 外側：風化調整不明瞭 ～底部 内側：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ		やや密	外面：橙色 内面：橙～にぶい橙色	やや良	
269	第133図 PL51	A1 25層	土師器 小型壺	※9.0 7.4	口縁部 外側：口縁部ミガキ、胴部ハケ、ナデ ～底部 内側：口縁部ミガキ、胴部ヘラケズリ後ナデ		密	外面：にぶい黄橙～褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
270	第133図 PL51	A1 25層	土師器 小型甕	10.2 9.2	口縁部 外側：ナデ ～底部 内側：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ		密	外面：灰黄～黒色 内面：にぶい黄～黒褐色	良好	外面に煤付着
271	第133図 PL48	A1 25層	土師器 小型器台	— △5.0	脚部 外側：ハケ後ナデ 内側：ハケ後ナデ		密	外面：橙色 内面：橙色	良好	
272	第133図 PL52	A1 25層	土師器 高坏	※14.4 14.2	口縁部 外側：ナデ ～脚部 内側：坏部ミガキ、脚部シボリ、ハケ後ナデ		密	外面：にぶい橙～にぶい黄褐色 内面：にぶい橙色	良好	三方に円形の透かし
273	第133図 PL52	A1 25層	土師器 高坏	12.6 11.0	口縁部 外側：ナデ ～底部 内側：坏部ナデ、脚部ヘラケズリ、ナデ		密	外面：にぶい橙色 内面：浅黄褐色	良好	
274	第133図 PL52	A1 25層	土師器 高坏	14.9 △12.9	口縁部 外側：坏部ナデ、ハケ、脚部ナデ ～脚部 内側：坏部ナデ、脚部ヘラケズリ、ナデ		密	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	
275	第133図 PL52	A1 25層	土師器 高坏	15.1 13.2	口縁部 外側：坏部ナデ、ハケ、脚部ナデ ～底部 内側：坏部ミガキ、脚部シボリ、ナデ、ハケ		密	外面：にぶい橙～褐色 内面：浅黄橙～褐色	良好	
276	第133図 PL52	A1 25層	土師器 高坏	14.2 △4.9	坏部 外側：ハケ後ナデ 内側：ナデ		密	外面：橙色 内面：褐色	良好	
277	第133図 PL52	A1 25層	土師器 高坏	15.1 △5.8	坏部 外側：ナデ 内側：風化調整不明瞭		密	外面：橙～にぶい褐色 内面：橙～にぶい褐色	良好	
278	第133図 PL52	A1 25層	土師器 高坏	16.0 △5.6	坏部 外側：ナデ後ミガキ、ハケ 内側：ミガキ		密	外面：褐色 内面：褐色	良好	内外面に赤彩
279	第133図 PL52	A1 25層	土師器 高坏	13.4 △5.0	坏部 外側：ミガキ 内側：ミガキ		密	外面：にぶい黄褐色 内面：明赤褐色	良好	
280	第133図 PL53	A1 25層	土師器 高坏	— △8.9	脚部 外側：ナデ 内側：ヘラケズリ、ハケ後ナデ		密	外面：にぶい褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	三方に円形の透かし
281	第133図	A1 25層	土師器 高坏	— △8.4	脚部 外側：ナデ 内側：ヘラケズリ、ハケ		密	外面：浅黄色 内面：灰黄色	良好	

遺物観察表

表18 土器観察表 (平成24年度)

遺物 No.	挿図 PL	地区 遺構・層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	部位	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
282	第133図 PL51	A1 25層	土師器 椀	14.8 5.2	口縁部 ～底部	外面：ナデ、底部ヘラケズリ 内面：ハケ	密	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
283	第133図 PL48	A1 25層	土師器 椀	※12.5 △3.5	口縁部 ～体部	外面：ナデ、底部ヘラケズリ後ナデ 内面：ナデ	密	外面：橙色 内面：にぶい橙色	良好	
284	第133図 PL48	A1 25層	土師器 椀	※9.2 △4.9	口縁部 ～体部	外面：ナデ 内面：ナデ、ハケ後ナデ	密	外面：にぶい黄橙～橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
285	第133図 PL48	A1 25層	土師器 鉢	※31.0 △13.1	口縁部 ～胴部	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ。胴部ヘラケズリ後ナデ	密	外面：灰黄～浅黄色 内面：灰黄～浅黄色	良好	
286	第133図 PL48	A1 25層	弥生土器 高坏	※22.0 △5.8	口縁部 ～体部	外面：口縁部5条の平行沈線、胴部ミガキ 内面：ミガキ	密	外面：にぶい黄褐色 内面：灰黄褐～灰白色	良好	
287	第133図 PL48	A1 25層	弥生土器 甕	※20.4 △4.7	口縁部 ～肩部	外面：口縁部ナデ、肩部ハケ 内面：ナデ	密	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
288	第133図 PL48	A1 25層	弥生土器 器台	※23.8 △1.8	口縁部	外面：3条の平行沈線 内面：ミガキ	密	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
289	第133図 PL48	A1 25層	弥生土器 器台	※23.0 △7.5	坏部	外面：ミガキ、櫛描文間同心円文（スタンプ文） 内面：ミガキ	密	外面：灰白～灰黄色 内面：灰白色	良好	
290	第134図 PL53	A1 25層	甗形土器	※15.6 61.8	口縁部 ～底部	外面：ナデ、ハケ後ナデ 内面：ケズリ、ハケ後ナデ	密	外面：にぶい黄橙 内面：にぶい黄褐色	良好	
292	第135図 PL54	A1 29層	土師器 壺	※11.6 △13.5	口縁部 ～胴部	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	密	外面：黄褐～黒色 内面：黄褐色	良好	外面に煤付着
293	第135図 PL54	A1 29層	土師器 甕	※15.2 △5.0	口縁部 ～肩部	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：黒色 内面：にぶい黄褐色	良好	外面に漆塗布
294	第135図 PL54	A1 29層	土師器 甕	※13.8 △6.1	口縁部 ～肩部	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、肩部ヘラケズリ後ナデ	密	外面：黄褐色 内面：黄褐色	良好	
295	第135図 PL53	A1 29層	土師器 高坏	15.0 12.9	口縁部 ～底部	外面：坏部ナデ後ミガキ、脚部ナデ 内面：坏部ミガキ、脚部シボリ、ハケ後ナデ	密	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
296	第135図	A1 28層	土師器 高坏	— △3.4	脚部	外面：ナデ 内面：ナデ、ハケ	密	外面：にぶい黄褐色 内面：灰黄褐色	良好	
297	第135図 PL54	A1 28層	弥生土器 甕	※16.6 △8.0	口縁部 ～胴部	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	密	外面：橙～にぶい黄褐色 内面：橙～にぶい黄褐色	良好	外面に一部黒斑
298	第135図 PL53	A1 29層	土師器 短頸壺	※13.0 △14.2	口縁部 ～胴部	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ後ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	密	外面：灰褐～黒色 内面：灰褐色	良好	外面に煤付着
299	第135図 PL54	A1 28層	弥生土器 甕	※21.6 △2.6	口縁部 ～頸部	外面：3条の凹線 内面：ナデ	密	外面：橙色 内面：黄褐色	良好	
300	第135図 PL54	A1 28層	弥生土器 壺	— △4.6	頸部	外面：3条の凹線、ハケ状工具よる刺突文 内面：ナデ、ヘラケズリ	密	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
301	第135図 PL54	A1 27層	弥生土器 壺	— △9.1	頸部	外面：5条の凹線、鋸歯文 内面：ナデ	密	外面：灰白色 内面：灰黄色	良好	
302	第135図 PL53	A1 26層	弥生土器 異形器台	※6.8 9.7	口縁部 ～底部	外面：口縁部ナデ、筒部ミガキ、脚部3条の沈線 内面：ナデ、ミガキ	密	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄橙～灰黄褐色	良好	三方に方形の透かし
303	第135図 PL54	A1 28層	弥生土器 甕	— △4.2	底部	外面：ナデ、オサエ 内面：ナデ、オサエ	密	外面：浅黄色 内面：浅黄色	良好	
304	第143図 PL59	P1 3層	須恵器 捏鉢	※24.8 △5.2	口縁部	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ、擋目あり	密	外面：オリブ黒色 内面：灰色	良好	
305	第143図 PL59	P1 3層	瓦質土器 鍋	— △3.0	口縁部	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：暗黄灰色 内面：暗黄灰色	良好	
306	第143図	P1 3層	須恵器 坏	※11.2 △2.0	口縁部 ～体部	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	外面：にぶい橙～灰黄色 内面：にぶい橙色	良好	
309	第143図 PL59	P1 5層	須恵器 高台坏	— △1.3	底部	外面：回転ナデ、底部回転糸切り後ナデ 内面：ナデ	密	外面：灰黄色 内面：灰黄褐色	良好	
310	第143図 PL59	P1 8層	土師器 甕	※15.3 △4.2	口縁部 ～頸部	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐～褐色	良好	
311	第143図 PL59	P1 8層	土師器 甕	— △3.6	口縁部	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：にぶい黄褐～黒色 内面：にぶい黄褐～黒色	良好	外面に煤付着
312	第143図 PL59	P1 8層	土師器 蓋	— △3.4	摘み	外面：ナデ 内面：ヘラケズリ後ナデ	密	外面：黄灰色 内面：黄灰色	良好	
313	第143図 PL59	P1 8層	土師器 蓋	4.4 △2.0	摘み	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：灰黄褐色 内面：灰黄褐色	良好	内外面に一部黒斑
314	第143図 PL59	P1 10層	弥生土器 甕	※18.0 △7.0	口縁部 ～肩部	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、肩部ヘラケズリ	密	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
315	第143図 PL59	P1 10層	弥生土器 甕	※16.0 △4.9	口縁部 ～肩部	外面：口縁部3条の凹線、肩部貝殻腹縁文 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	密	外面：暗黄灰色 内面：灰黄色	良好	
316	第143図 PL59	P1 10層	弥生土器 高坏	※22.5 △3.7	口縁部	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：灰黄褐色 内面：灰黄褐色	良好	外面に煤付着

表18 土器観察表 (平成24年度)

遺物 No.	挿図 PL	地区 遺構・層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	部位	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
317	第143図	P1 10層	弥生土器 器台	※13.2 △3.0	脚部	外面：11条の平行沈線 内面：ヘラケズリ	密	外面：黄褐色 内面：黄褐色	良好	
318	第143図 PL59	P1 29層	縄文土器 浅鉢	— △5.5	胴部	外面：磨消縄文 内面：ナデ	やや密	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	外面に煤付着
319	第143図 PL59	P1 28層	縄文土器 深鉢	— △2.5	底部	外面：条痕、ナデ 内面：ナデ	密	外面：灰黄色 内面：灰黄～黄灰色	良好	
320	第143図 PL59	P1 40層	縄文土器 深鉢	— △3.7	底部	外面：ナデ 内面：ナデ	やや密	外面：にぶい黄橙色 内面：明黄褐～黒色	やや良	
322	第145図 PL60	P2 10-1層	縄文土器 深鉢	— △6.3	口縁部	外面：磨消縄文 内面：ミガキ	密	外面：灰褐～黒色 内面：黒褐色	良好	外面に煤付着
323	第145図 PL60	P2 10-3層	縄文土器 鉢	— △4.6	胴部	外面：縄文、ナデ 内面：ナデ	密	外面：暗黄灰～灰黄色 内面：灰黄色	良好	
324	第145図 PL60	P2 10層	縄文土器 浅鉢	— △7.3	口縁部	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：灰黄褐色 内面：灰黄褐色	良好	内外面に煤付着
325	第145図 PL60	P2 15-1層	縄文土器 深鉢	— △2.4	底部	外面：条痕、ナデ 内面：ナデ	密	外面：にぶい黄橙色 内面：暗黄灰色	良好	
326	第145図 PL60	P2 16-1層	縄文土器 深鉢	— △4.1	口縁部	外面：磨消縄文、口縁部にキザミ 内面：ナデ	やや密	外面：灰黄褐～黒褐色 内面：黒褐色	やや良	
327	第145図 PL60	P2 16-3層	縄文土器 深鉢	— △5.2	口縁部	外面：ナデ、口縁部に押引沈線文 内面：ミガキ	密	外面：暗灰黄～黒色 内面：暗灰黄色	良好	外面に煤付着
328	第145図 PL60	P2 16-3層	縄文土器 深鉢	※23.2 △14.6	口縁部～胴部	外面：ナデ、口縁部に押引沈線、同心円文 内面：ナデ	密	外面：暗灰黄色 内面：暗灰黄～黒褐色	良好	外面に煤付着
329	第145図 PL60	P2 16-3層	縄文土器 深鉢	※19.7 △6.4	口縁部～頸部	外面：口縁部に押引沈線文後縄文、頸部条痕 内面：ナデ	密	外面：にぶい黄褐色 内面：灰黄褐～黒色	良好	内面に炭化物
330	第145図 PL60	P2 16-3層	縄文土器 深鉢	— △7.4	頸部～胴部	外面：縄文後沈線、頸部に条痕 内面：ナデ	密	外面：灰黄褐～黒色 内面：褐灰～黒色	良好	内面に炭化物
331	第145図 PL60	P2 16-3層	縄文土器 深鉢	— △7.6	胴部	外面：磨消縄文 内面：ナデ	やや密	外面：暗オリーブ褐色 内面：暗オリーブ褐色	やや良	内外面に煤付着
332	第145図 PL61	P2 16-3層	縄文土器 深鉢	— △26.7	口縁部～胴部	外面：条痕、ナデ 内面：ナデ	やや密	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐～褐灰色	やや良	
333	第145図	P2 16-3層	縄文土器 深鉢	— △4.0	底部	外面：条痕 内面：ナデ	密	外面：オリーブ褐色 内面：黒褐色	良好	底部にアジロ痕あり
334	第145図 PL61	P2 16-3層	縄文土器 粗製深鉢	※30.4 34.6	口縁部～底部	外面：条痕、ナデ 内面：ナデ	密	外面：にぶい黄褐色 内面：明黄褐～黒褐色	良好	外面に煤付着。底部にアジロ痕
335	第146図 PL61	P2 16-3層	縄文土器 浅鉢	※30.6 △8.0	口縁部～胴部	外面：ナデ 内面：ナデ	やや密	外面：灰黄褐～黒色 内面：灰黄褐～黒色	良好	内外面に煤付着
336	第146図 PL61	P2 16-3層	縄文土器 浅鉢	※13.0 △9.6	口縁部～胴部	外面：条痕 内面：条痕、ナデ	密	外面：黄褐色 内面：黄褐～褐灰色	良好	

表19 土製品観察表 (平成24年度)

遺物 No.	挿図 PL	地区	遺構 層位	種別	長さ(cm)	法量 高さ(cm) 幅(cm)	厚さ(cm)	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
132	第121図・PL37	A1	8石列	陶棺	△19.2	高さ△7.2	2.0	外面：ケズリ後ナデ、ナデ 内面：ケズリ後ナデ	密	外面：灰白色 内面：灰色	良好	
153	第123図・PL36	A1	3層	土鉢	3.5	幅1.3	—	ナデ、オサエ	密	橙色	良好	
154	第123図・PL36	A1	4層	土鉢	△2.6	幅0.9	—	ナデ、オサエ	密	褐色	良好	両端欠損。煤付着
155	第123図・PL36	A1	4層	土鉢	3.0	幅0.8	—	ナデ、オサエ	密	灰色	良好	
156	第123図・PL36	A1	4層	土鉢	3.1	幅0.9	—	ナデ、オサエ	密	灰白色	良好	一部煤付着
157	第123図・PL36	A1	5層	土鉢	△2.9	幅1.0	—	ナデ、オサエ	密	橙色	良好	両端欠損
158	第123図・PL36	A1	5層	土鉢	△2.3	幅1.0	—	ナデ、オサエ	密	灰色	良好	両端欠損
159	第123図・PL36	A1	5層	土鉢	△1.7	幅0.9	—	ナデ、オサエ	密	灰黄色	良好	片端欠損
160	第123図・PL36	A1	6層	土鉢	4.6	幅1.7	—	ナデ、オサエ	密	にぶい橙色	良好	
161	第124図・PL37	A1	5層	家形陶棺(蓋)	△37.5	高さ△12.7	2.5～3.1	外面：タタキ後粘土貼付け 内面：ケズリ後ナデ	やや密	外面：灰黄色 内面：灰黄色	良好	
162	第124図・PL37	A1	6層	家形陶棺(蓋)	△10.5	高さ△5.6	2.0～2.5	外面：ケズリ後ナデ	密	外面：灰色	良好	棒状工具による削ぎ痕
174	第125図・PL37	A1	8層	家形陶棺(蓋)	△33.0	高さ△11.4	3.1	外面：ケズリ後ナデ 内面：ケズリ後ナデ	密	外面：灰色 内面：灰白色	良好	外面を棒状工具で削ぐ
291	第134図・PL48	A1	25層	土鉢	△3.1	幅△1.5	—	ナデ、オサエ	密	にぶい黄橙色	良好	切れ目あり
307	第143図	P1	2層	土鉢	△3.3	幅1.1	—	ナデ、オサエ	密	灰白色	良好	鉄分の詰まり、片端欠損
308	第143図	P1	3層	土鉢	3.7	幅1.0	—	ナデ、オサエ	密	灰黄褐色	良好	
321	第144図・PL59	P1	10層	板状土製品	△9.1	幅9.5	2.0	上面：格子状横位斜位線刻 側面：横位斜位縦位線刻	密	褐灰色	良好	

遺物観察表

表20 石器観察表 (平成24年度)

遺物 No.	挿図 PL	地区	遺構・層位	型式	法量				石材	備考
					長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)		
S14	第124図・PL55	A1	表土	磨製石斧	17.9	6.3	1.7	348	緑色片岩	
S15	第134図・PL55	A1	25層	石錘	11.4	5.8	3.0	200	安山岩	
S16	第135図・PL55	A1	28層	磨製石斧	7.5	6.0	2.6	122	頁岩	
S17	第135図・PL55	A1	28層	磨製石斧	7.5	5.7	2.6	154	安山岩	
S18	第144図・PL55	P1	10層	石包丁	△ 3.8	7.3	0.6	29	緑色片岩	
S19	第144図・PL55	P1	40層	石錘	6.0	4.6	1.8	66	安山岩	
S20	第144図・PL55	P1	51層	石錘	9.1	5.5	1.0	68	シルト岩	
S21	第146図・PL55	P2	18層	石錘	6.6	6.9	2.6	174	花崗岩	
S22	第146図・PL55	P2	19層	石錘	7.4	4.7	2.0	88.66	流紋岩	
S23	第146図・PL55	P2	16-3層	石皿	△ 23.3	△ 19.5	10.0	5750	花崗岩	

表21 木製品観察表 (平成24年度)

遺物 No.	挿図 PL	地区	遺構・層位	種類	長さ(cm)	法量幅(cm)	高さ・厚さ(cm)		備考
							高さ	厚さ	
W14	第122図・PL55	A1	40柱穴	柱	△27.3	15.3	—	—	下端部に伐採痕と加工痕
W15	第122図・PL55	A1	64柱穴	柱	△57.8	12.6	—	—	下端部に伐採痕。一部に樹皮
W16	第122図・PL55	A1	74柱穴	柱	△60.6	10.8	—	—	下端部に伐採痕。一部に樹皮
W17	第136図	A1	8層	板状木製品	19.0	3.0	厚さ1.1	—	端部削り加工
W18	第136図	A1	11層	垂木か	△62.5	5.3	厚さ4.1	—	
W19	第136図・PL56	A1	11層	木錘	15.1	5.5	厚さ4.4	—	
W20	第136図・PL56	A1	11層	木錘	14.1	5.7	厚さ4.4	—	
W21	第136図・PL56	A1	11層	木錘	14.0	5.7	厚さ4.8	—	
W22	第136図・PL56	A1	11層	木錘	△6.8	4.9	厚さ△4.2	—	中央部分で欠損
W23	第137図・PL58	A1	11層	杭	△22.0	4.6	—	—	先端部削り込み。一部被熱痕あり
W24	第137図・PL58	A1	11層	杭	△41.4	6.1	厚さ3.9	—	先端部削り込み
W25	第137図	A1	11層	板状木製品	△63.0	4.0	厚さ0.5	—	
W26	第137図	A1	11層	棒状木製品	△122.6	10.2	—	—	一部被熱痕あり
W27	第137図・PL58	A1	11層	板状木製品	△31.7	10.0	厚さ2.0	—	
W28	第138図・PL58	A1	11層	板状木製品	52.2	16.5	厚さ2.0	—	
W29	第138図・PL58	A1	6~11層	板状木製品	△46.5	8.7	厚さ2.0	—	
W30	第138図・PL57	A1	11層	不明木製品	△51.2	22.0	厚さ3.8	—	円盤状か。鱗部や溝などの加工あり
W31	第139図・PL58	A1	12層	建築部材か	△14.4	10.9	厚さ3.0	—	端部にホゾを作る
W32	第139図・PL58	A1	12層	建築部材か	18.2	5.7	厚さ4.5	—	端部にホゾを作る
W33	第139図・PL57	A1	13層	鼠返し	△41.3	21.6	厚さ2.0	—	
W34	第139図	A1	12層	棒状木製品	71.6	3.0	厚さ1.0	—	端部に被熱痕あり
W35	第140図・PL56	A1	37層	下駄	24.9	10.4	高さ6.0	—	連歯式
W36	第140図・PL56	A1	37層	木錘	14.8	4.5	厚さ3.7	—	
W37	第140図	A1	37層	棒状木製品	△50.5	1.8	—	—	
W38	第140図・PL58	A1	37層	杭	△46.9	8.1	—	—	先端部に削り込み。一部に樹皮
W39	第140図	A1	37層	板状木製品	△39.8	11.6	厚さ3.4	—	片面に切痕。作業台として使用か
W40	第141図・PL58	A1	18層	建築部材転用杭	79.6	10.0	厚さ6.6	—	孔あり
W41	第141図・PL58	A1	20層	建築部材転用杭	△49.8	10.8	厚さ4.7	—	切り込み加工。一部被熱痕あり
W42	第141図	A1	20層	角状木製品	7.0	9.5	厚さ4.4	—	
W43	第142図・PL56	A1	25層	木錘	16.5	6.4	厚さ5.6	—	
W44	第142図・PL58	A1	29層	板状木製品	△17.8	14.7	厚さ3.1	—	建築部材か
W45	第142図・PL58	A1	25-1層	板状木製品	△77.4	16.5	厚さ1.2	—	建築部材か。一部被熱痕あり
W46	第143図・PL62	P1	5層	板状木製品	△23.6	8.1	厚さ2.0	—	建築部材か。側面突起状に加工
W47	第143図・PL62	P1	6層	付け木	13.9	1.2	厚さ0.7	—	
W48	第143図・PL62	P1	8層	板状木製品	△12.3	2.5	厚さ0.9	—	端部削り加工
W49	第143図・PL62	P1	8層	不明木製品	△15.5	△3.9	厚さ3.3	—	半円状。溝などの加工あり
W50	第143図・PL62	P1	8層	板状木製品	△30.7	8.3	厚さ1.0	—	田下駄か
W51	第143図・PL62	P1	10柱穴	柱状加工木	△65.3	16.7	—	—	上端部に伐採痕。一部に樹皮
W52	第146図・PL62	P2	15-3層	板状木製品	△10.8	8.3	厚さ1.0	—	
W53	第146図・PL62	P2	16-3層	板状木製品	17.3	4.7	厚さ1.1	—	
W54	第146図・PL62	P2	16-3層	板状木製品	△37.9	3.8	厚さ0.9	—	
W55	第146図・PL62	P2	16層	杭	△24.6	4.3	厚さ3.2	—	下端部に削り込み。一部に樹皮

表22 金属製品観察表 (平成24年度)

遺物 No.	挿図 PL	地区	遺構・層位	種類	長(cm)	法量			備考
						幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	
M1	第124図	A1	2層	煙管	△ 3.3	0.9	0.8	3.6	真鍮製
M2	第143図	P1	1層	煙管	△ 6.9	0.9	0.9	9.4	真鍮製
M3	第143図	P1	3層	鉄折頭釘	△ 4.2	1.2	0.8	9.9	
M4	第146図・PL61	P2	2-1a層	耳環	2.4	2.6	0.5	9.0	銅製品

PLATE





1.3-1a 下面耕地段差 (南から)



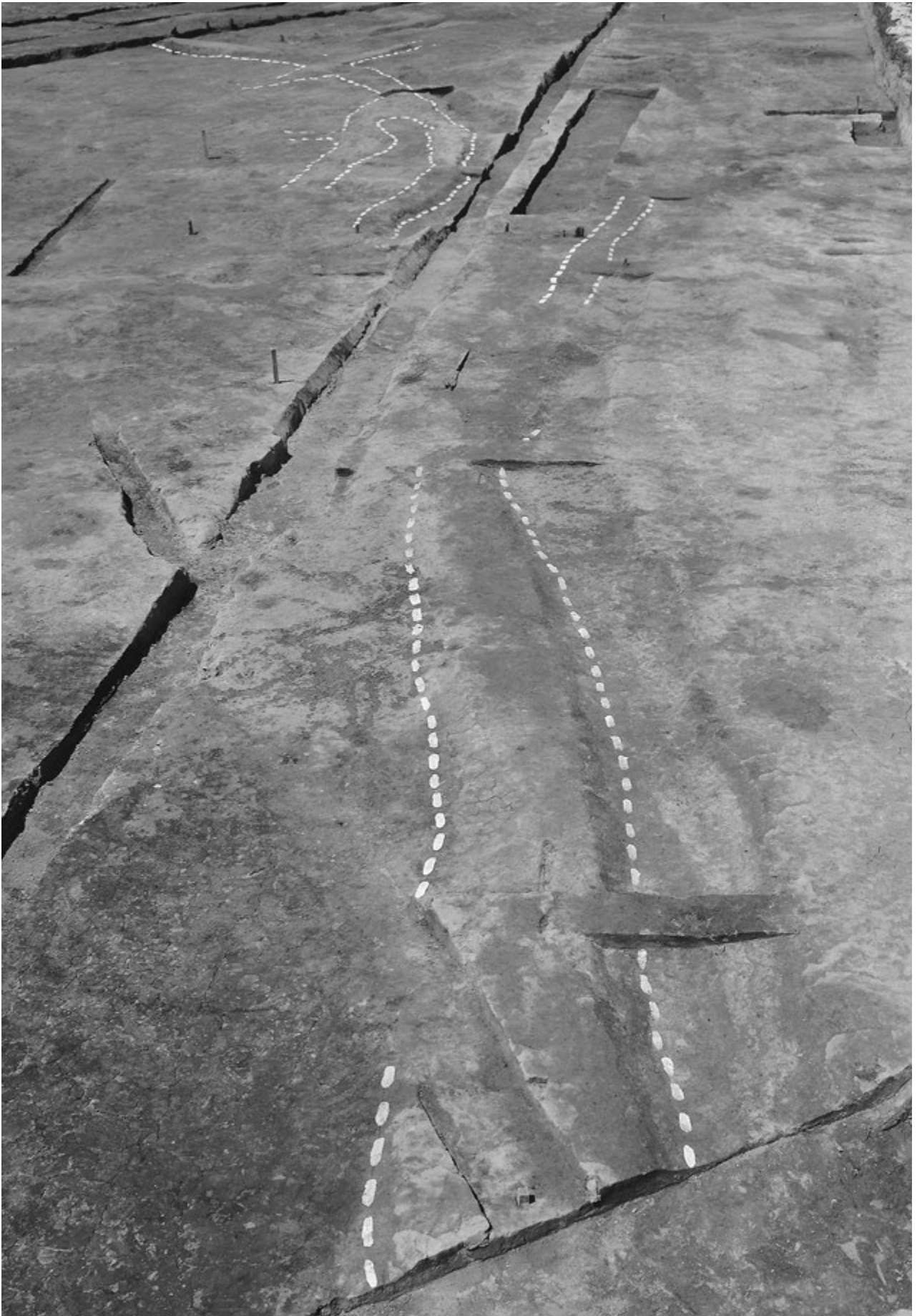
2.3-2a 下面検出疑似畦畔 (北から)



3.3-2a 下面検出疑似畦畔 (北から)

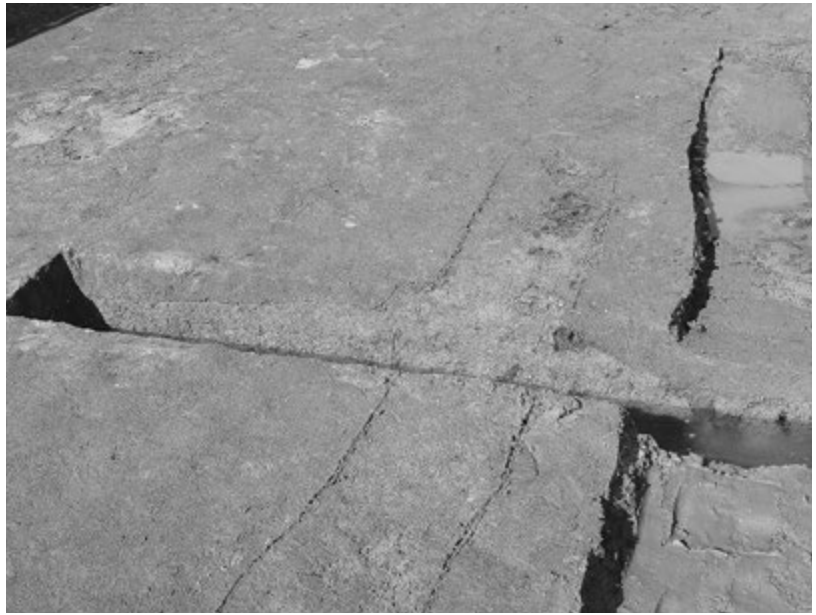
PL.2

1
区

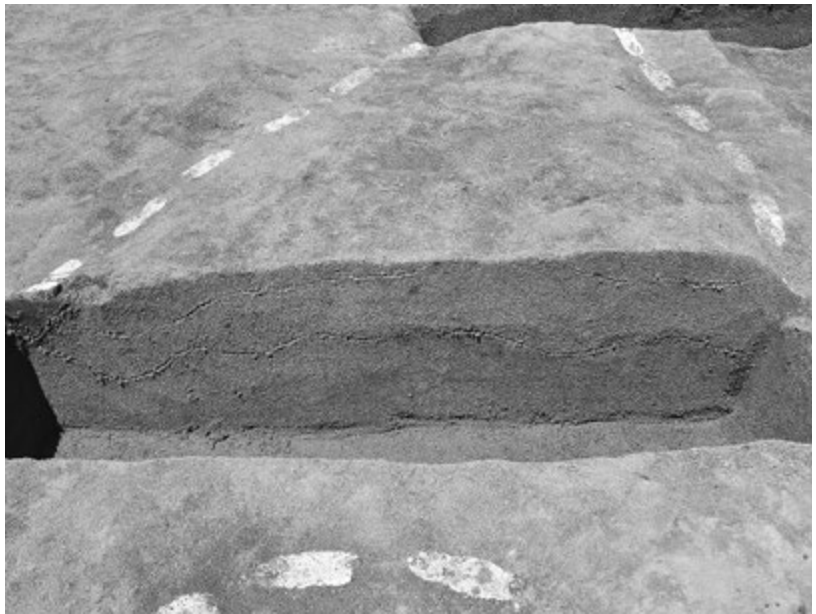


3-2a下面検出疑似畦畔(南から)

1.3-2a下面検出疑似畦畔
A-A'セクション(西から)



2.3-2a下面検出疑似畦畔
B-B'セクション(南から)



3.3-2a下面検出疑似畦畔
D-D'セクション(南から)



PL.4

1
区



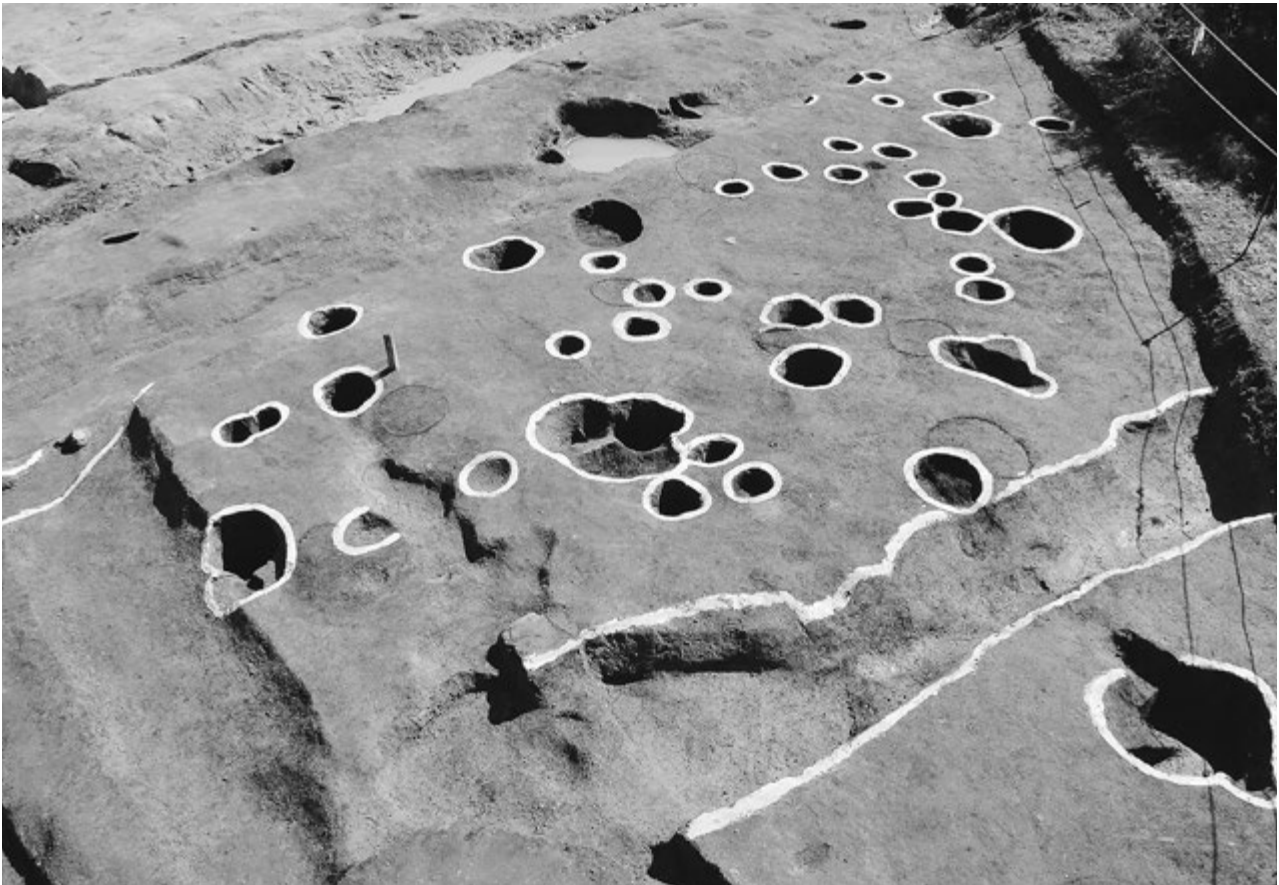
1.3-2a下面検出足跡(南から)



2.3-2a下面検出1土坑(西から)



3.3-2a下面検出2土坑(西から)



1. 調査区南側3-2a層下面完掘状況(南西から)



2. 4a層下面完掘状況(北東から)



1.4a層下面完掘状況(北東から)



2. 調査区南部4a層下面完掘状況(南西から)



1. 4a下面検出83土坑
遺物出土状況(南から)



2. 4a下面検出85土坑
遺物出土状況(南から)



3. 4a下面検出169土坑
遺物出土状況(南から)



1.基本土層トレンチ断面
(北東から)



2.直交トレンチ3断面(南から)



3.直交トレンチ3遺物出土状況
(北西から)



1. 第1遺構面
完掘状況(南西から)



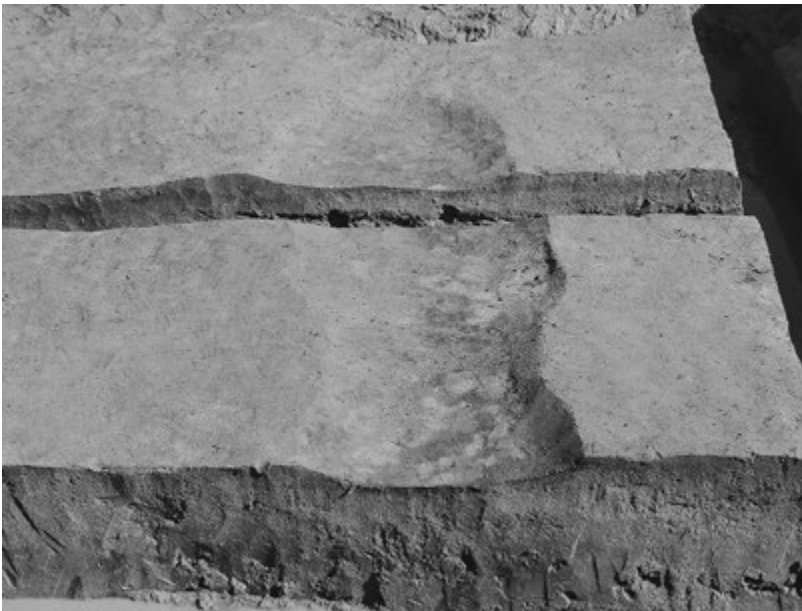
2. 1001土坑
遺物出土状況(南西から)



3. 調査区完掘状況(北から)



1.2002溝完掘状況(南東から)



2.2003溝完掘状況(西から)



3.2003溝完掘状況(南西から)



1. 第2遺構面完掘状況(南から)



2. 擬似畦畔①
完掘状況(南から)



3. 調査区完掘状況(南西から)



1. 8石列完掘状況(北東から)



2. 第4遺構面完掘状況(北から)



3. 39柱穴(掘立柱建物跡1)
完掘状況(西から)

1. 竪穴住居跡 1 炉跡、焼土面
完掘状況 (南から)



2. 竪穴住居跡 1 炭化物
検出状況 (西から)



3. 竪穴住居跡 1 炭化物
検出状況 (南西から)





1. 竪穴住居跡 1
完掘状況(西から)



2. 第7遺構面完掘状況(北から)



3. 11層遺物出土状況(西から)



1.11層遺物出土状況(西から)



2.12層遺物出土状況(西から)



3.37層遺物出土状況(北西から)



1.124土坑土層断面(北から)



2.124土坑
遺物出土状況(南西から)



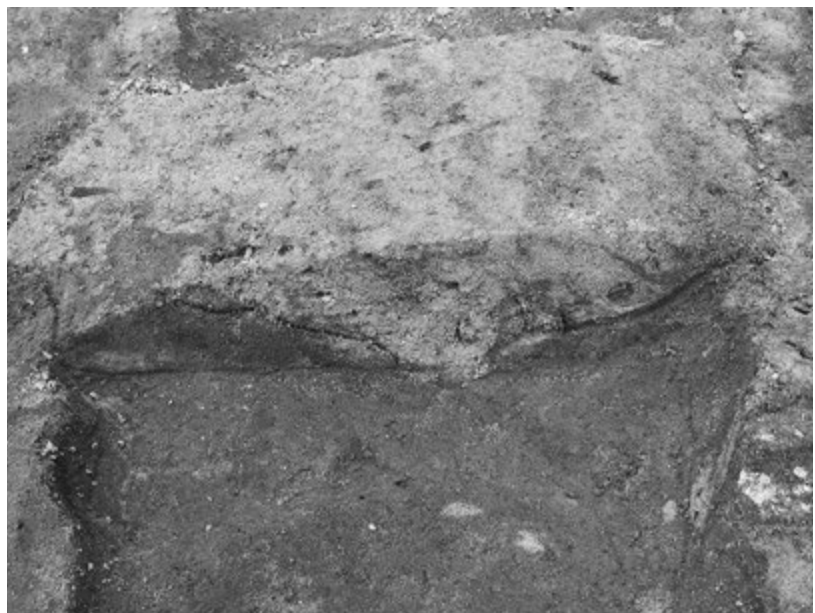
3.124土坑完掘状況(南西から)



1.1 溝検出状況(南西から)



2.1 溝土層断面(北西から)



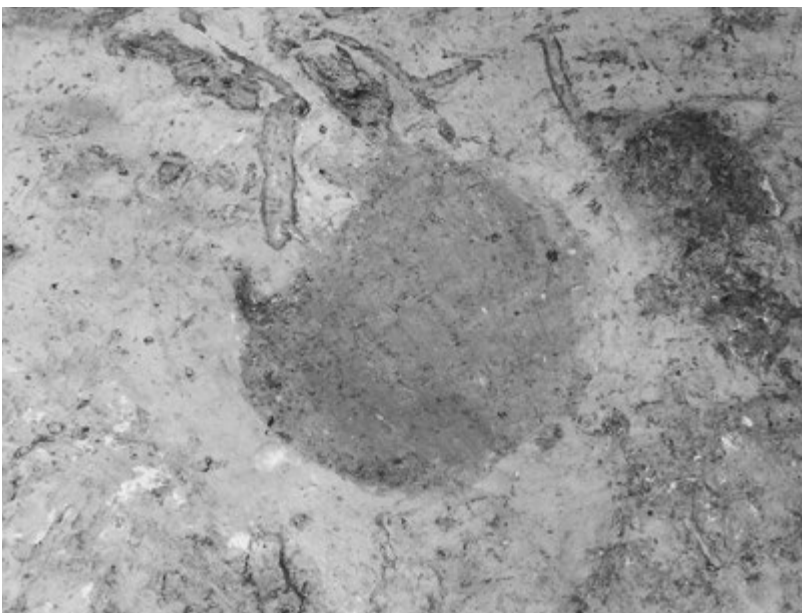
3.1 溝土層断面(南から)



1.2 畦畔検出状況(東から)



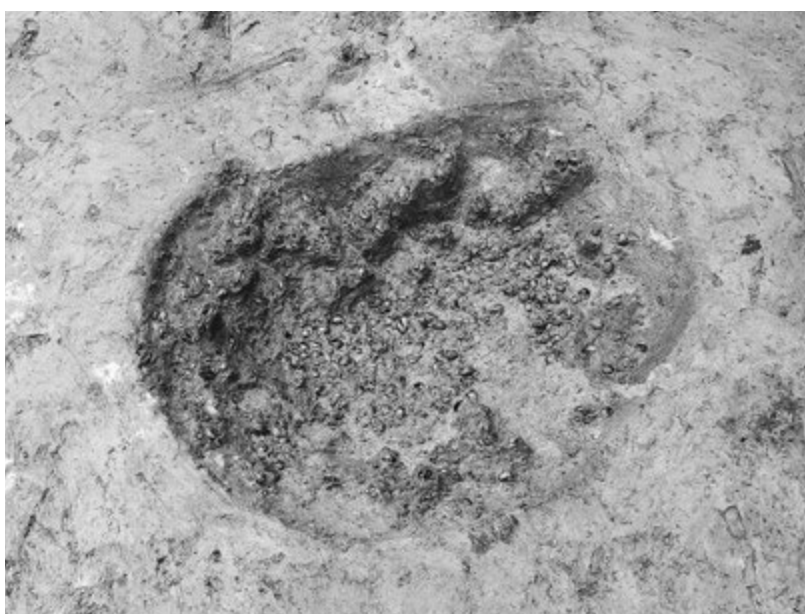
2.3・4 畦畔検出状況(東から)



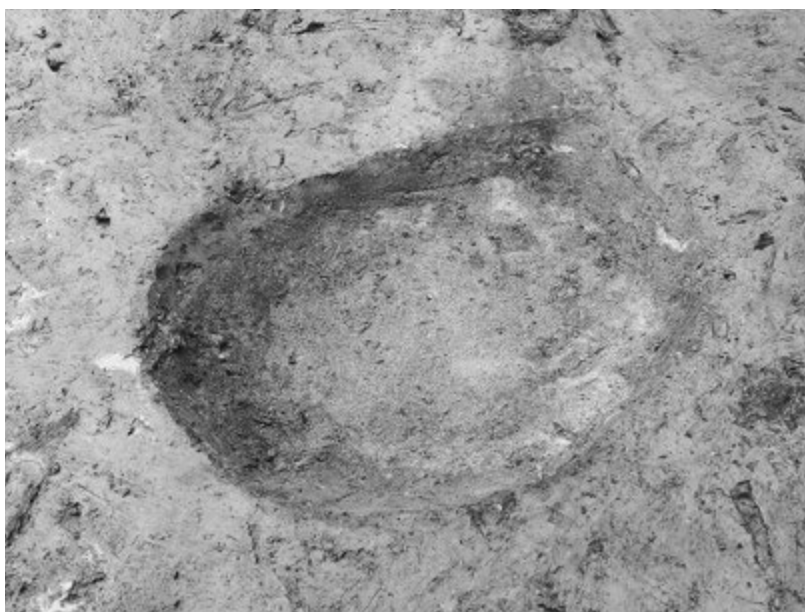
3.7 土坑検出状況(北から)



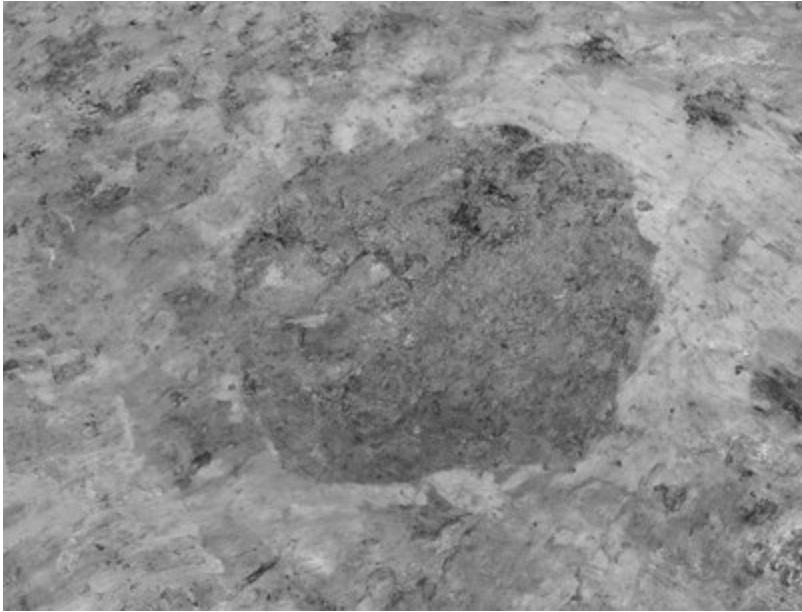
1. 7 土坑土層断面(南から)



2. 7 土坑堅果類
出土状況(北西から)



3. 7 土坑完掘状況(北西から)



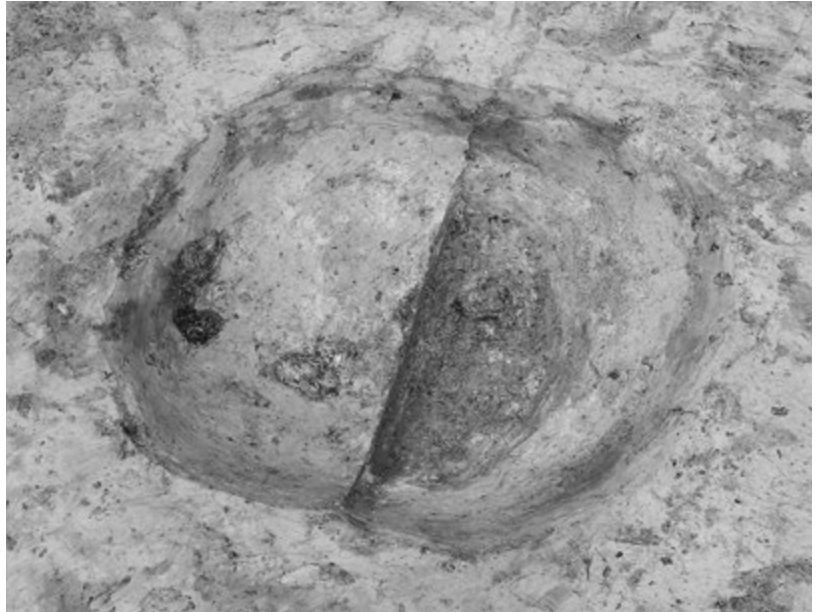
1. 8 土坑検出状況(北から)



2. 8 土坑堅果類
出土状況(西から)



3. 8 土坑土層断面(南から)



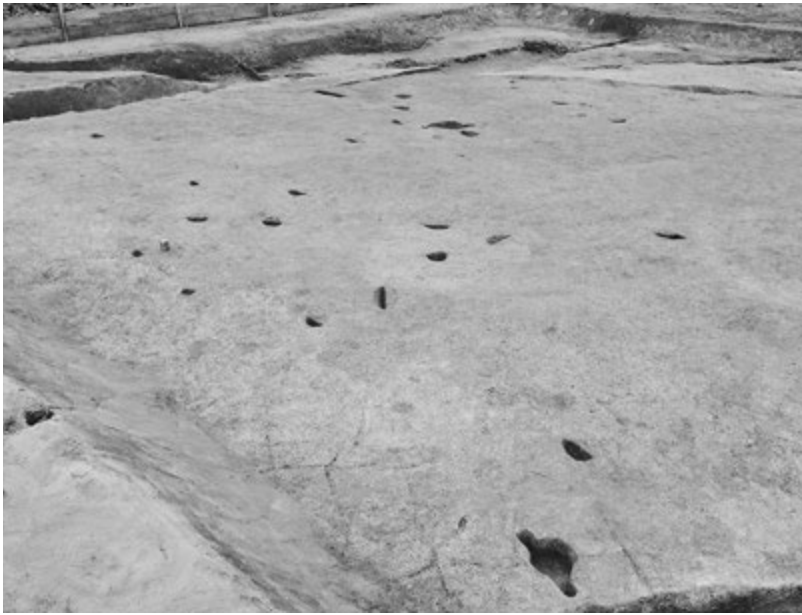
1. 8 土坑完掘状況 (西から)



2. 9 河川完掘状況 (南東から)



3. 10 柱穴半裁状況 (南東から)



1. 第1遺構面検出ピット
完掘状況(南東から)



2. 13畦畔完掘状況(東から)



3. 13畦畔土層断面(北から)



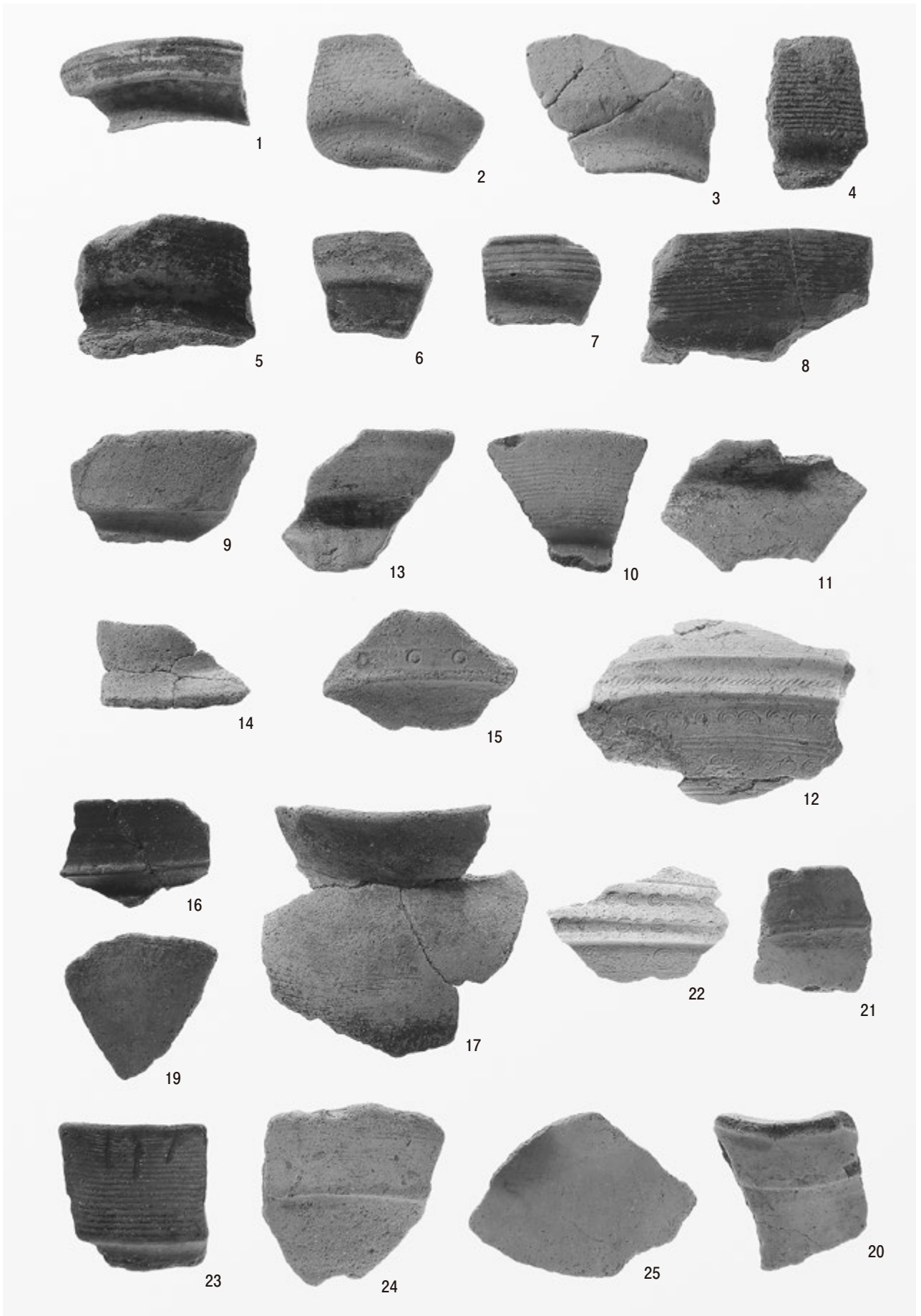
1. 18河川10-1層
除去状況(北東から)



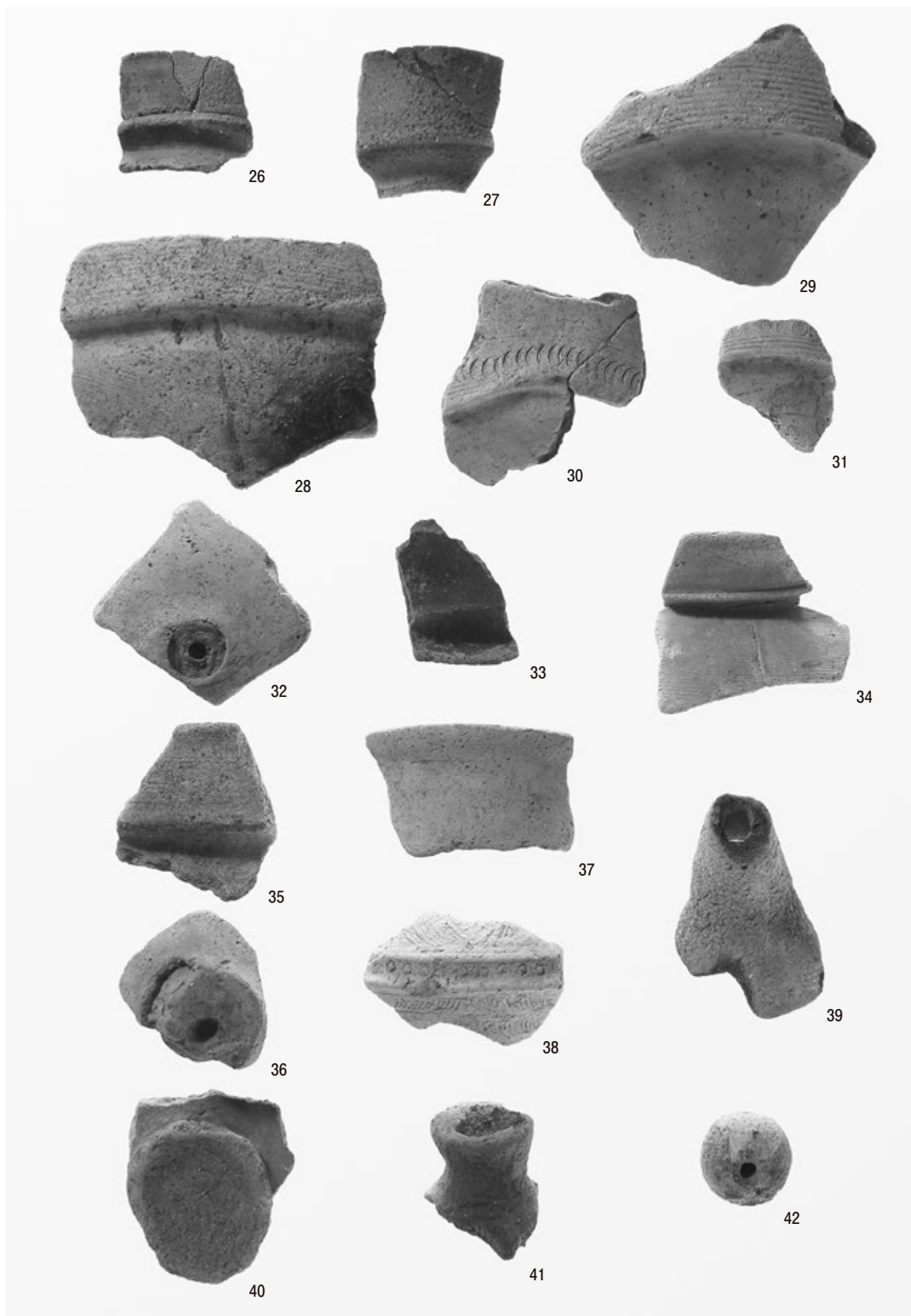
2. 18河川10-1層下面
遺物出土状況(南から)



3. 16-3層遺物出土状況(東から)



1区遺構出土土器



1区遺構出土遺物



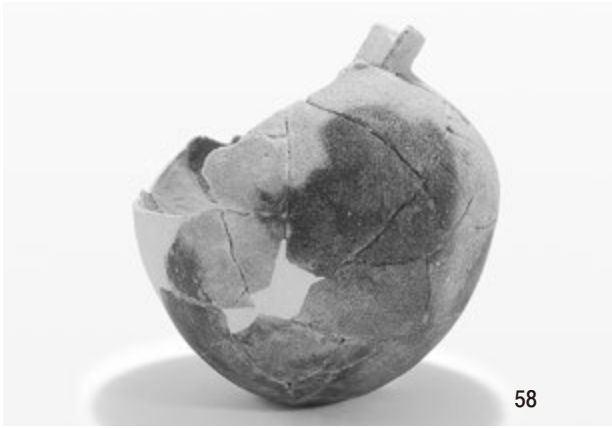
18

1.83土坑出土土器



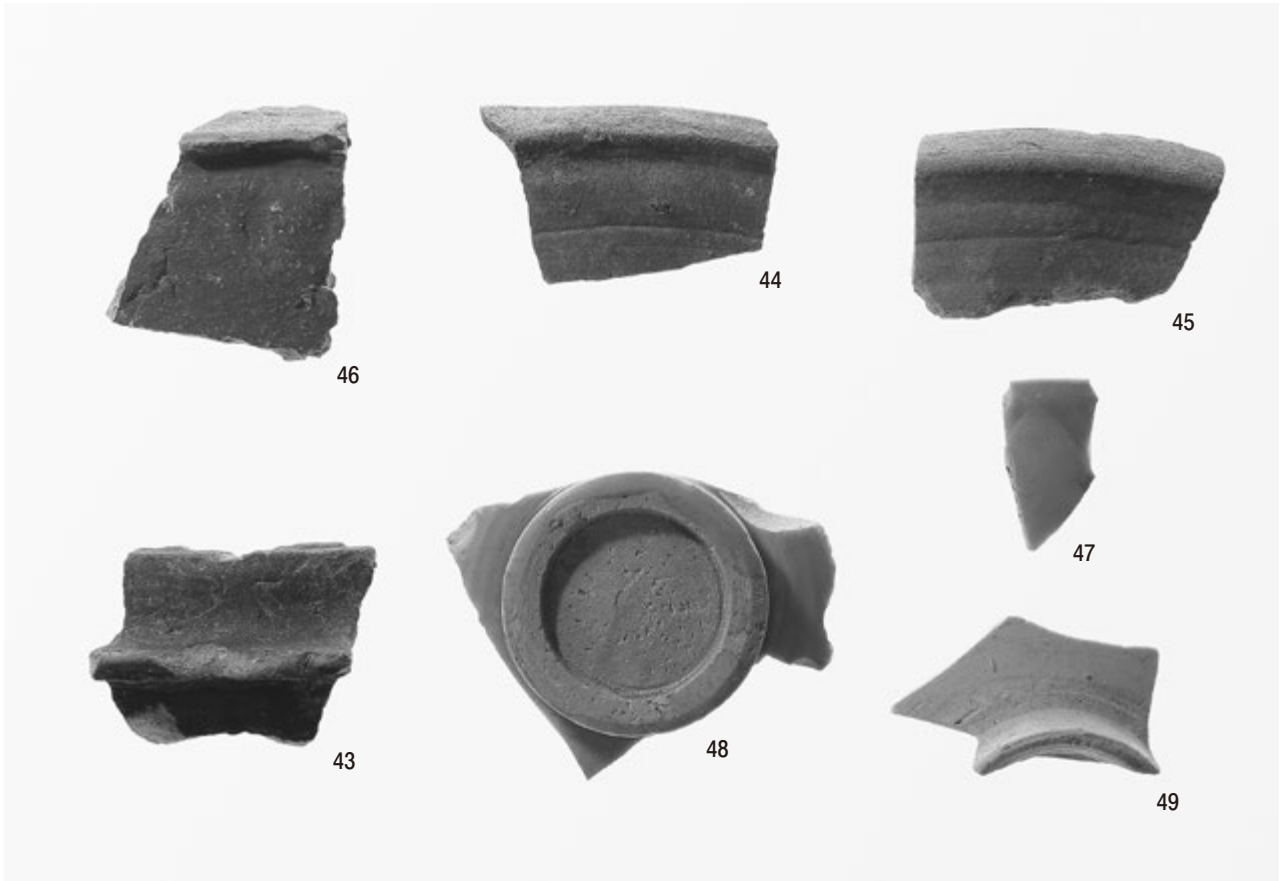
52

2.1区3-2a層出土土器



58

3.1区4a層出土土器



46

44

45

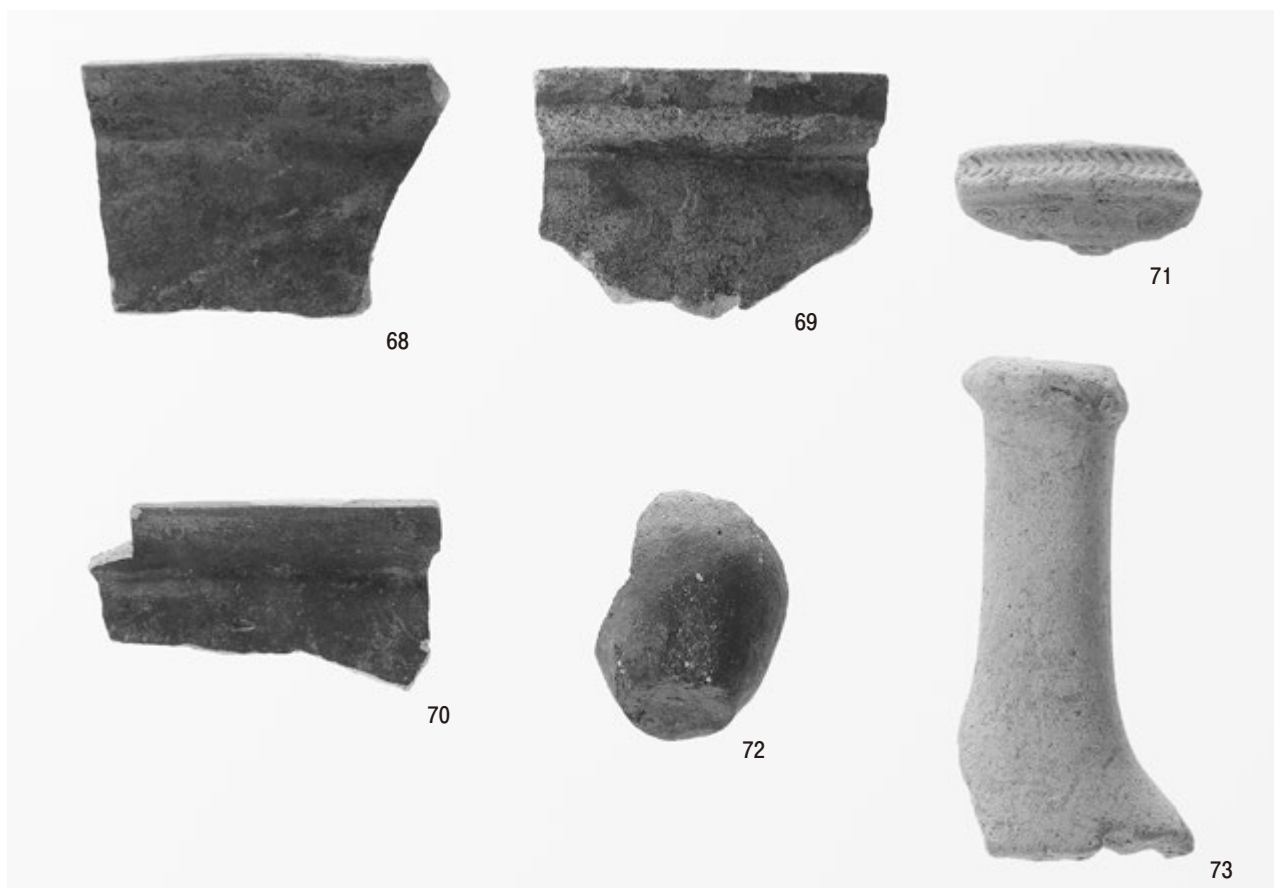
47

43

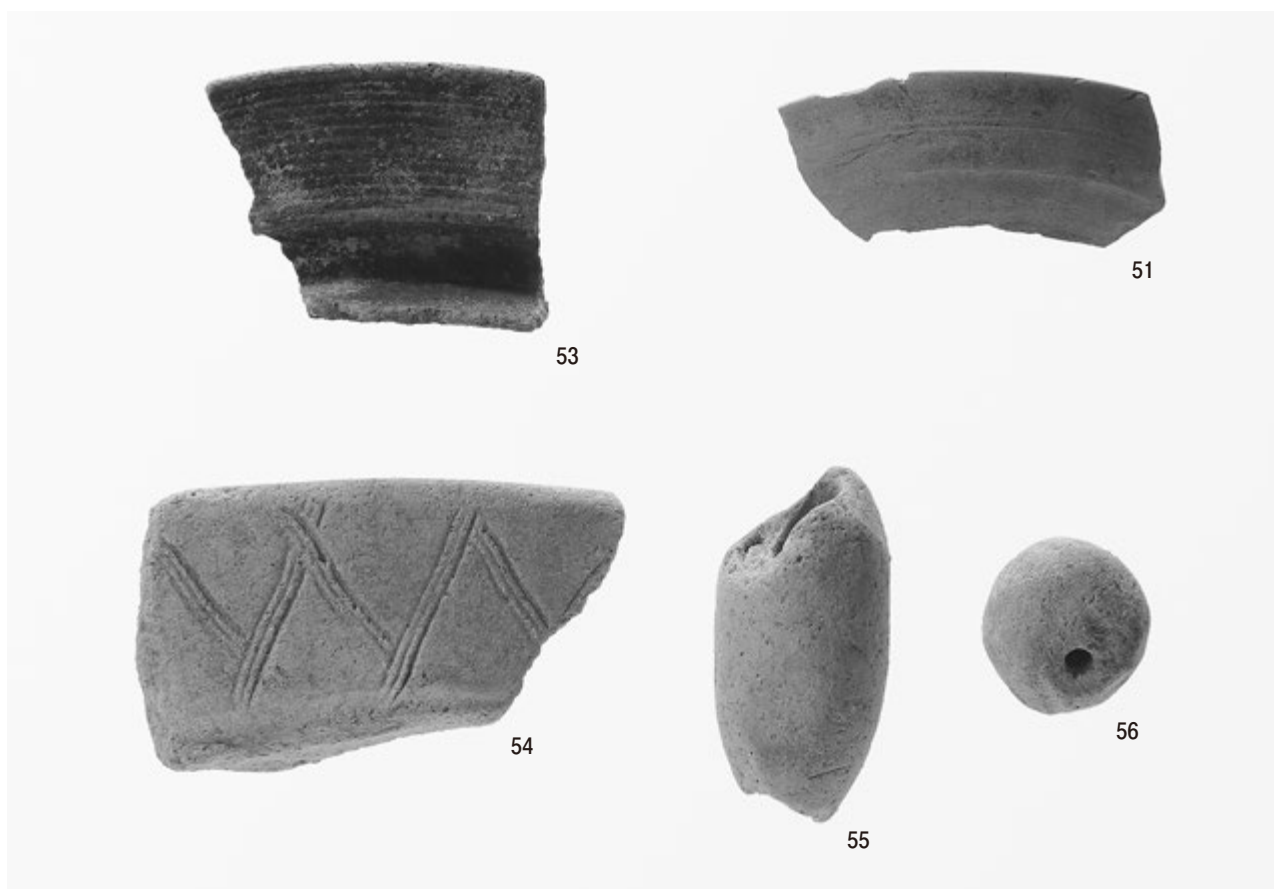
48

49

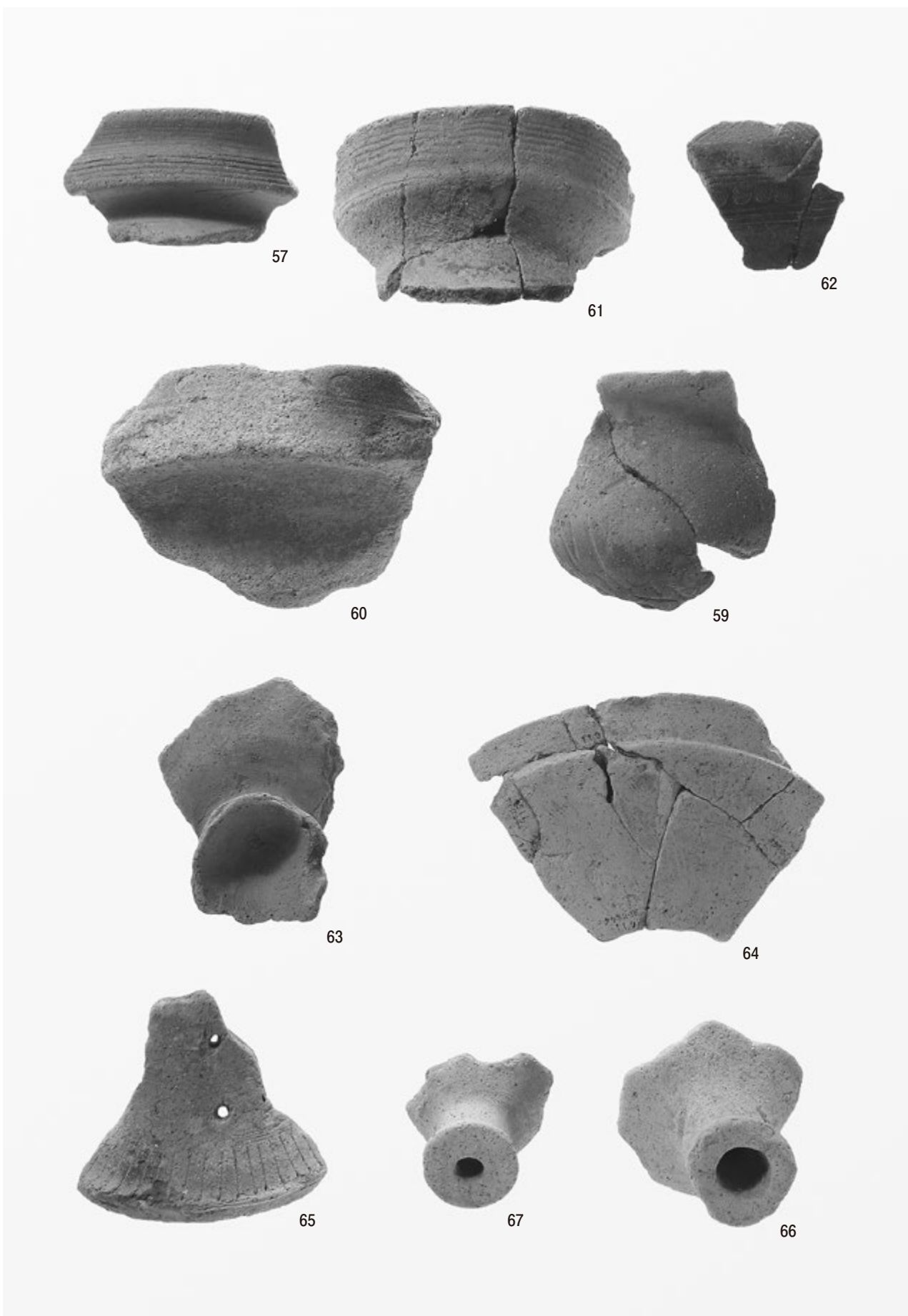
4.1区表土出土土器



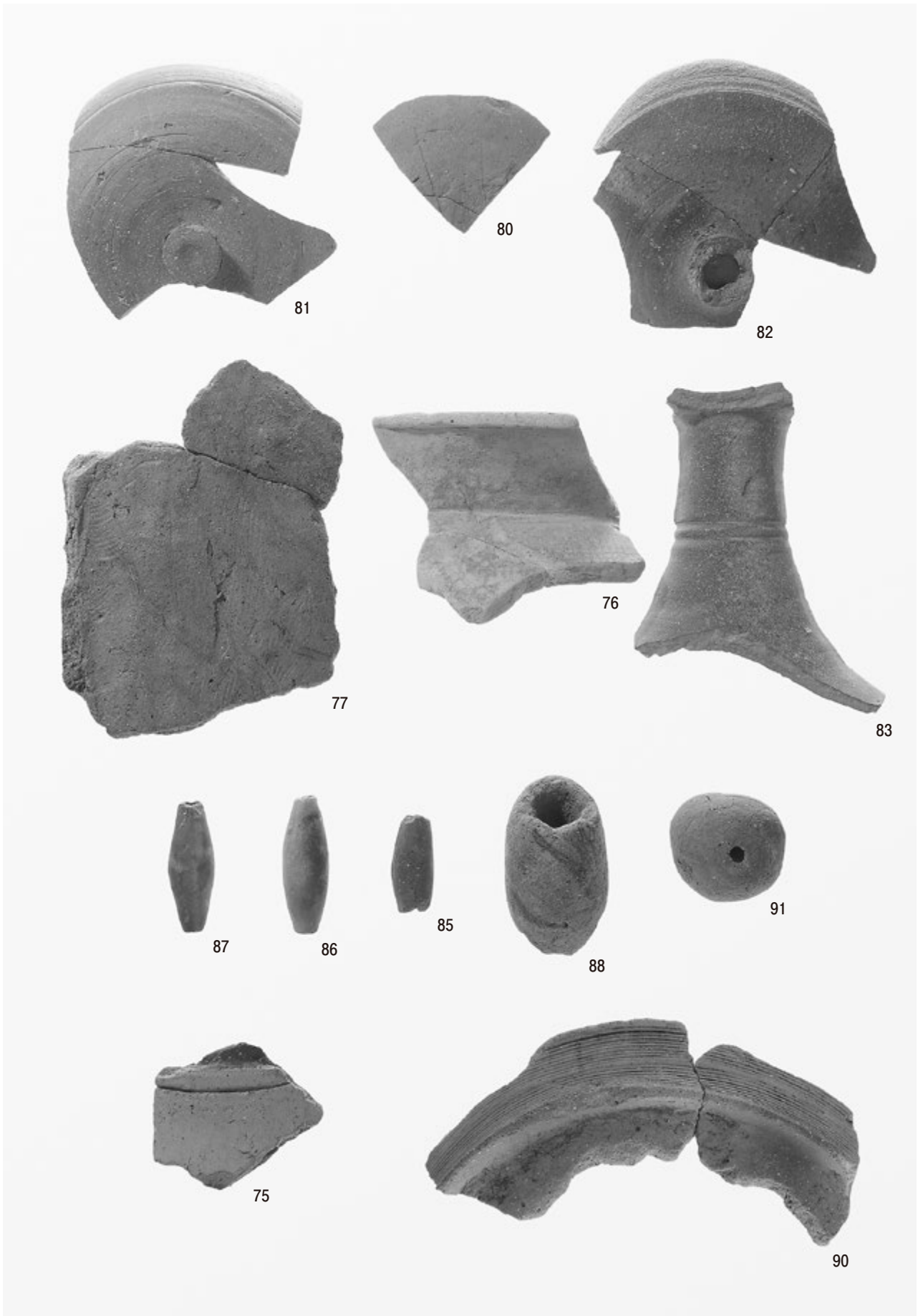
1. 1区出土層位不明土器



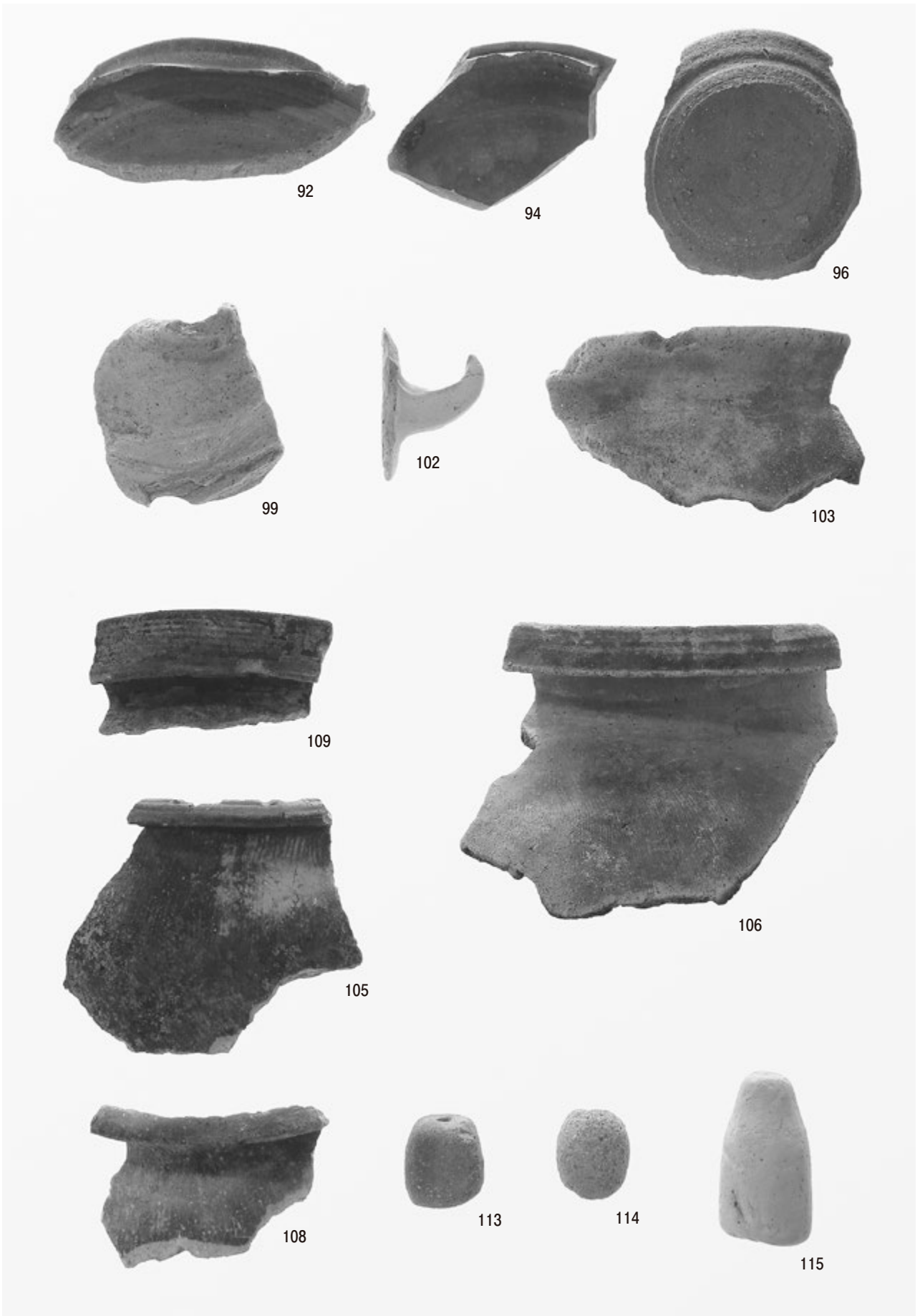
2. 1区3-2a層出土遺物



1区4a層出土土器



1G遺構、包含層出土遺物



1G包含層出土遺物



74

1. 1001土坑出土土器



78

2. 1005土坑出土土器



84

3. 1009土坑出土土器



110

4. 1G出土層位不明土器



100



95

6. 1G出土層位不明土器



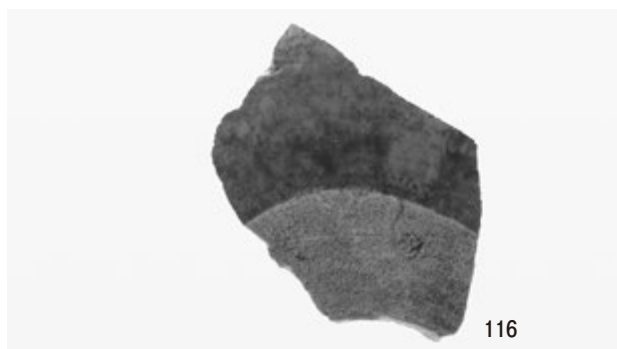
100裏面

5. 1G出土層位不明土器

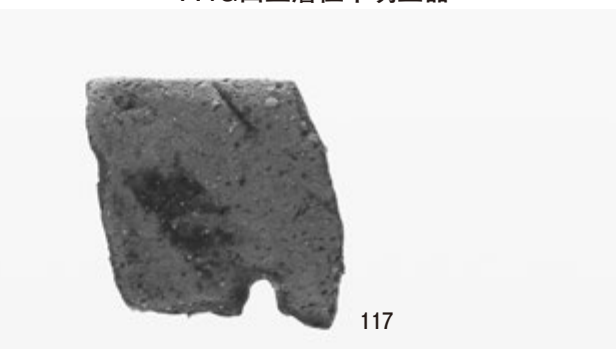


97

7. 1G出土層位不明土器

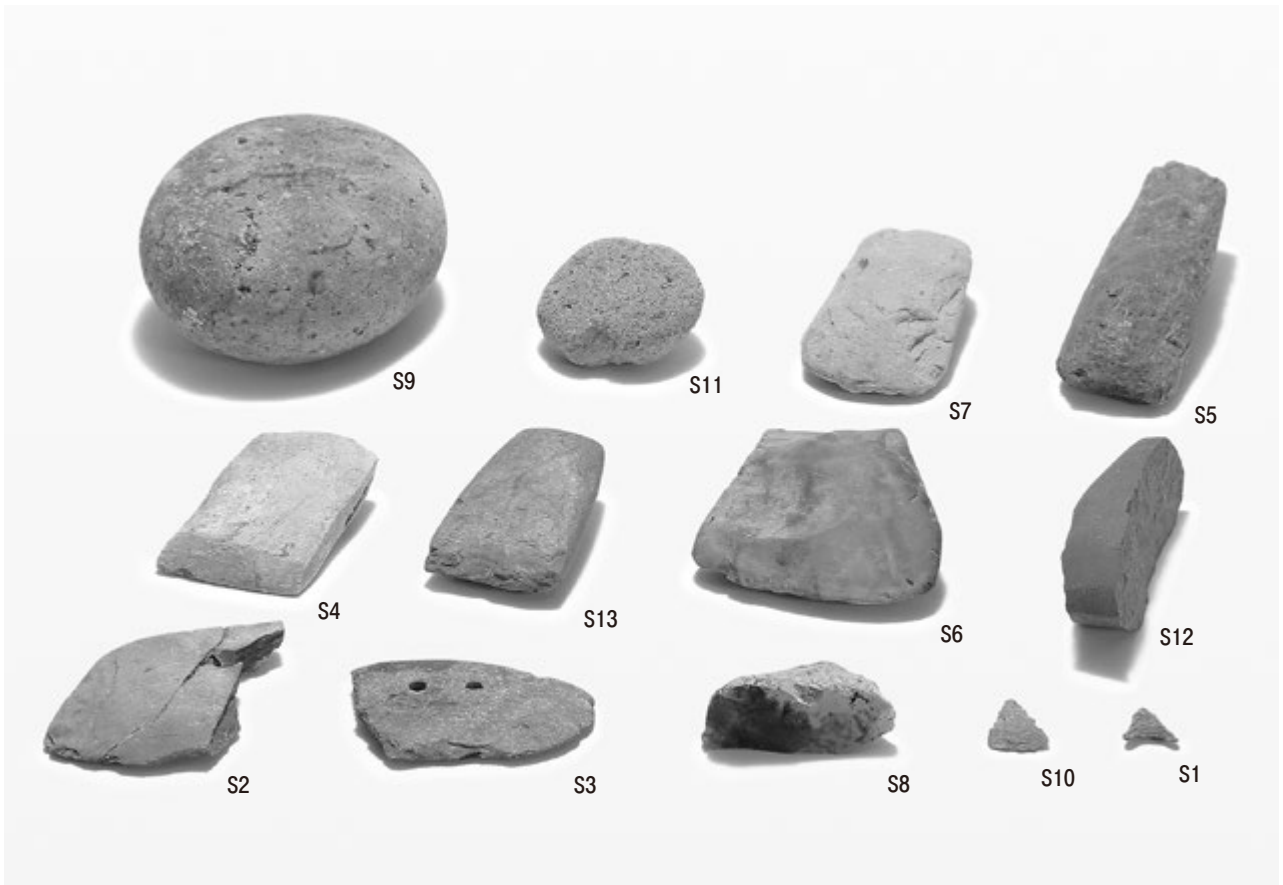


116



117

8. 2G出土層位不明土器



1. 1区、1G、3G出土石器



2. 1区包含層出土木製品



1. 1区遺構、包含層出土木製品



W4



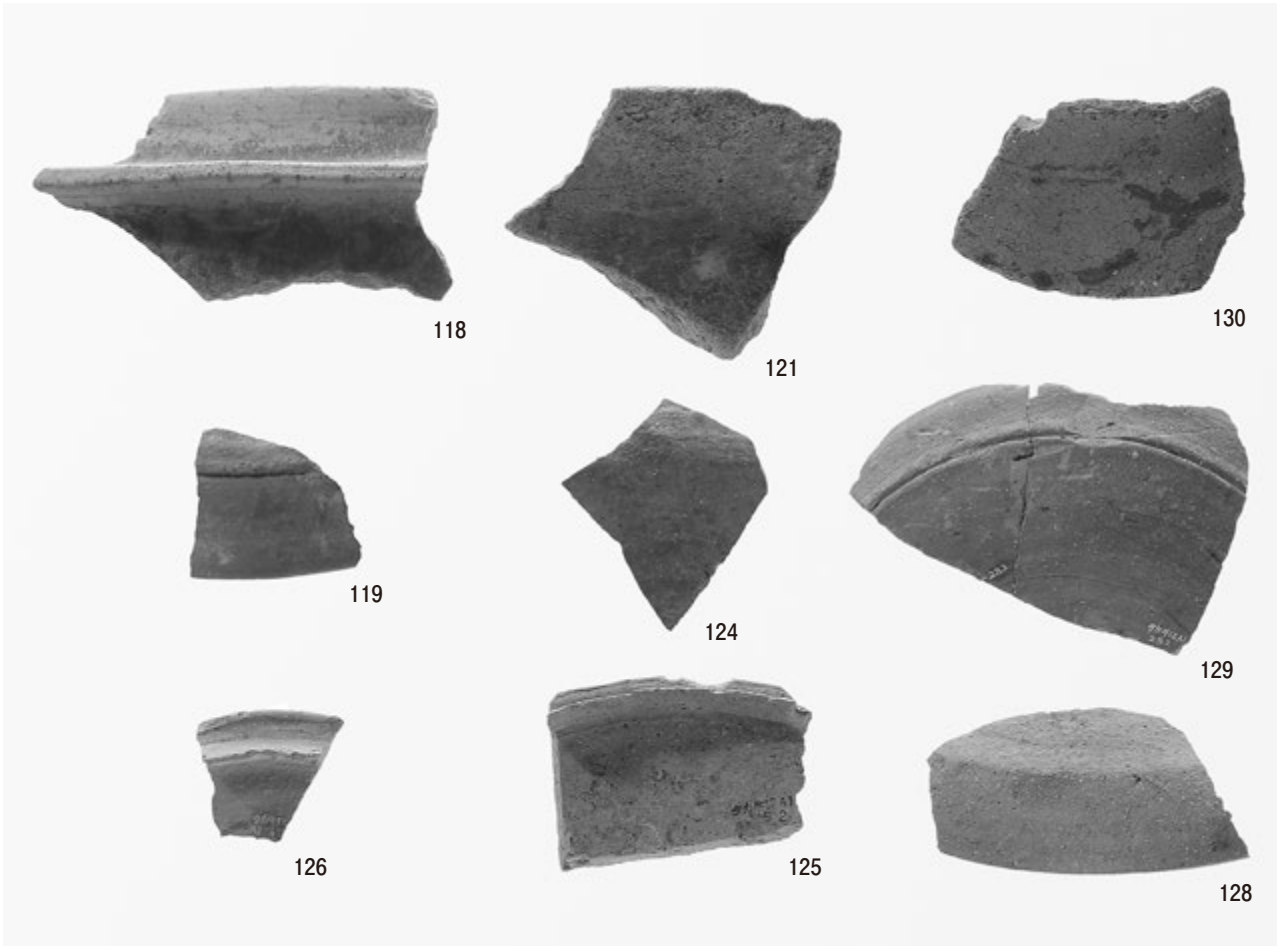
W2

3. 169土坑出土木製品



W4裏面

2. 169土坑出土木製品



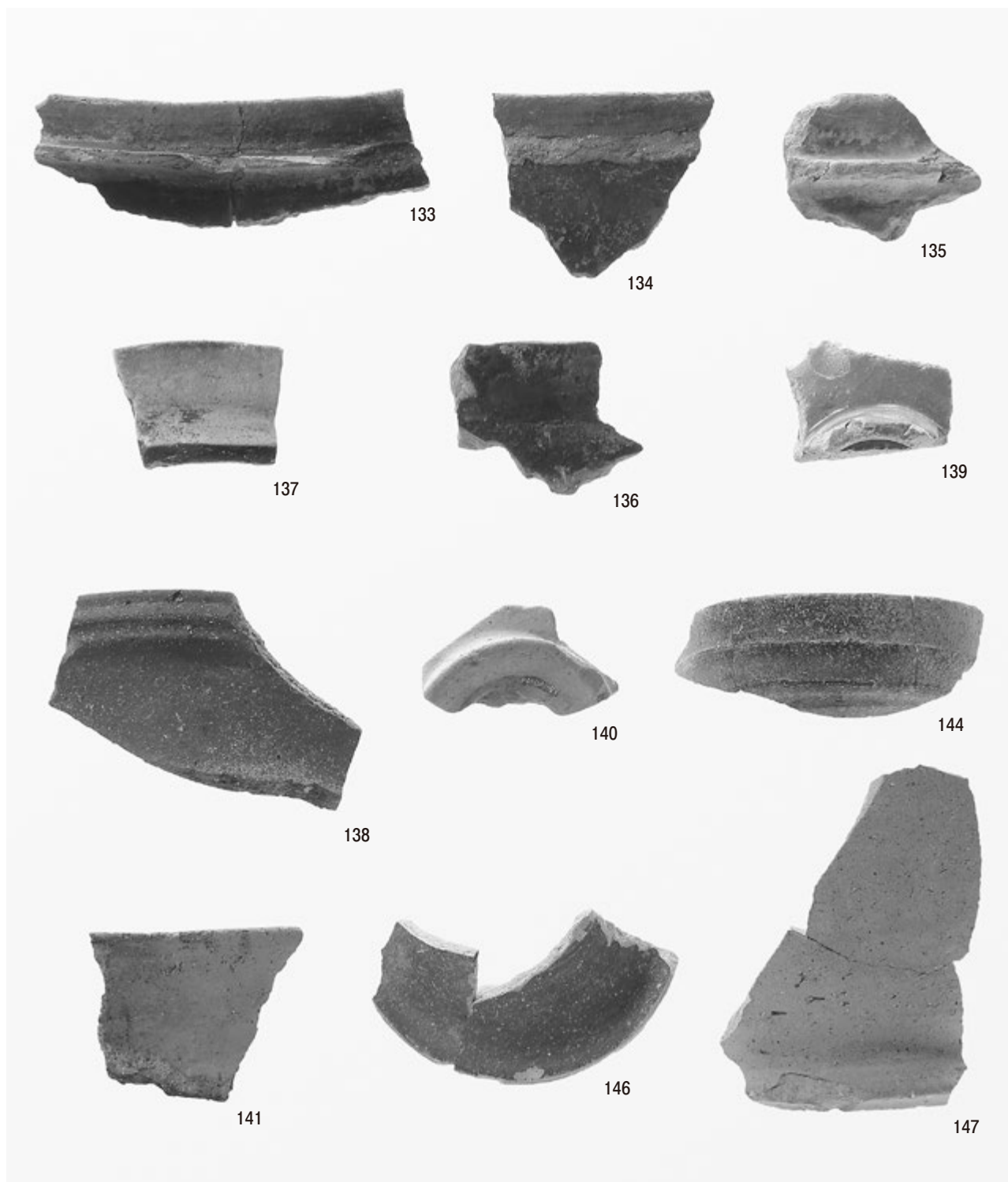
1. A1区遺構出土土器



2. A1区39柱穴出土土器



3. A1区124土坑出土土器



A1区包含層出土土器



145

1. A1区6-4層出土土器



143

2. A1区6層出土土器



142

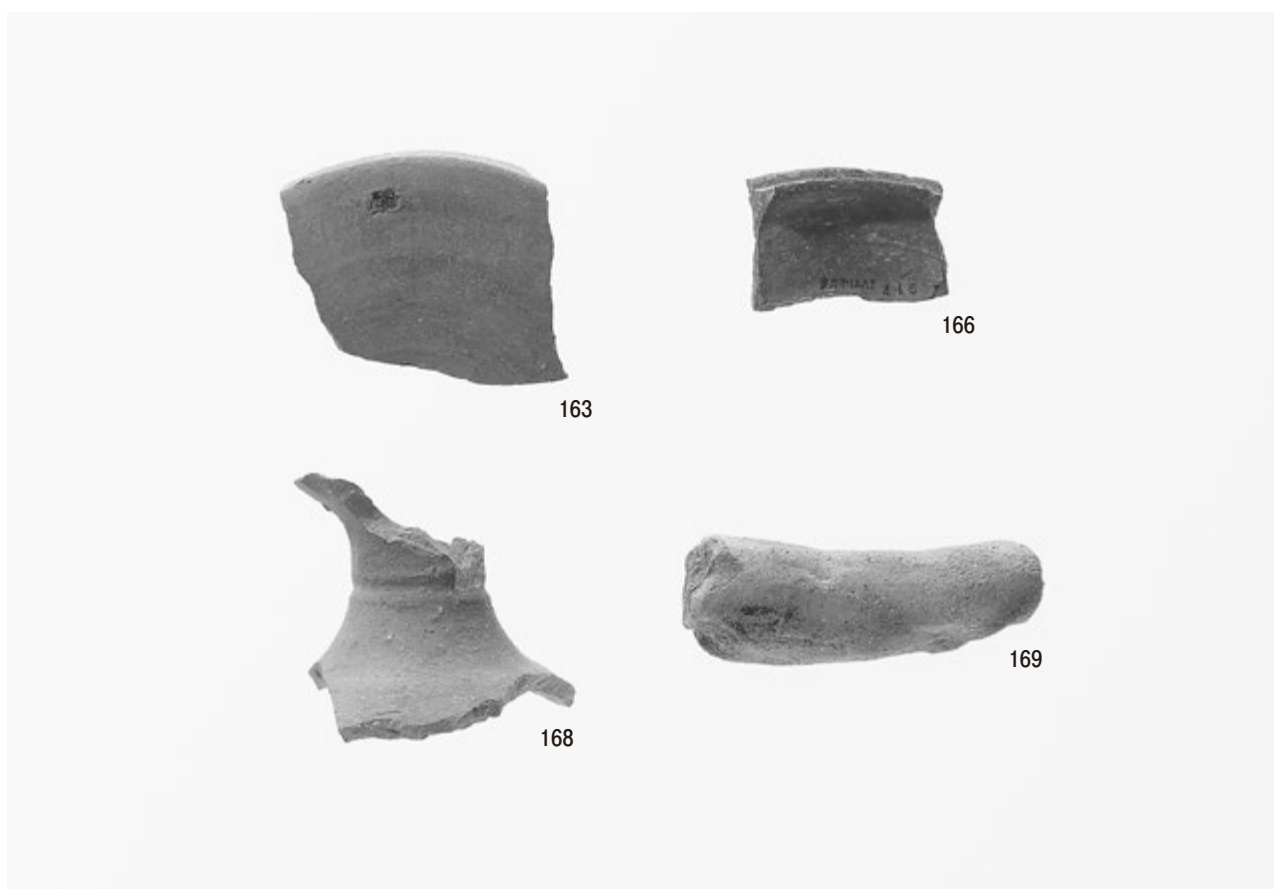
3. A1区6-11層出土土器



4. A1区包含層出土土製品



1.A1区出土陶棺



2.A1区包含層出土土器



167

1.A1区8層出土土器



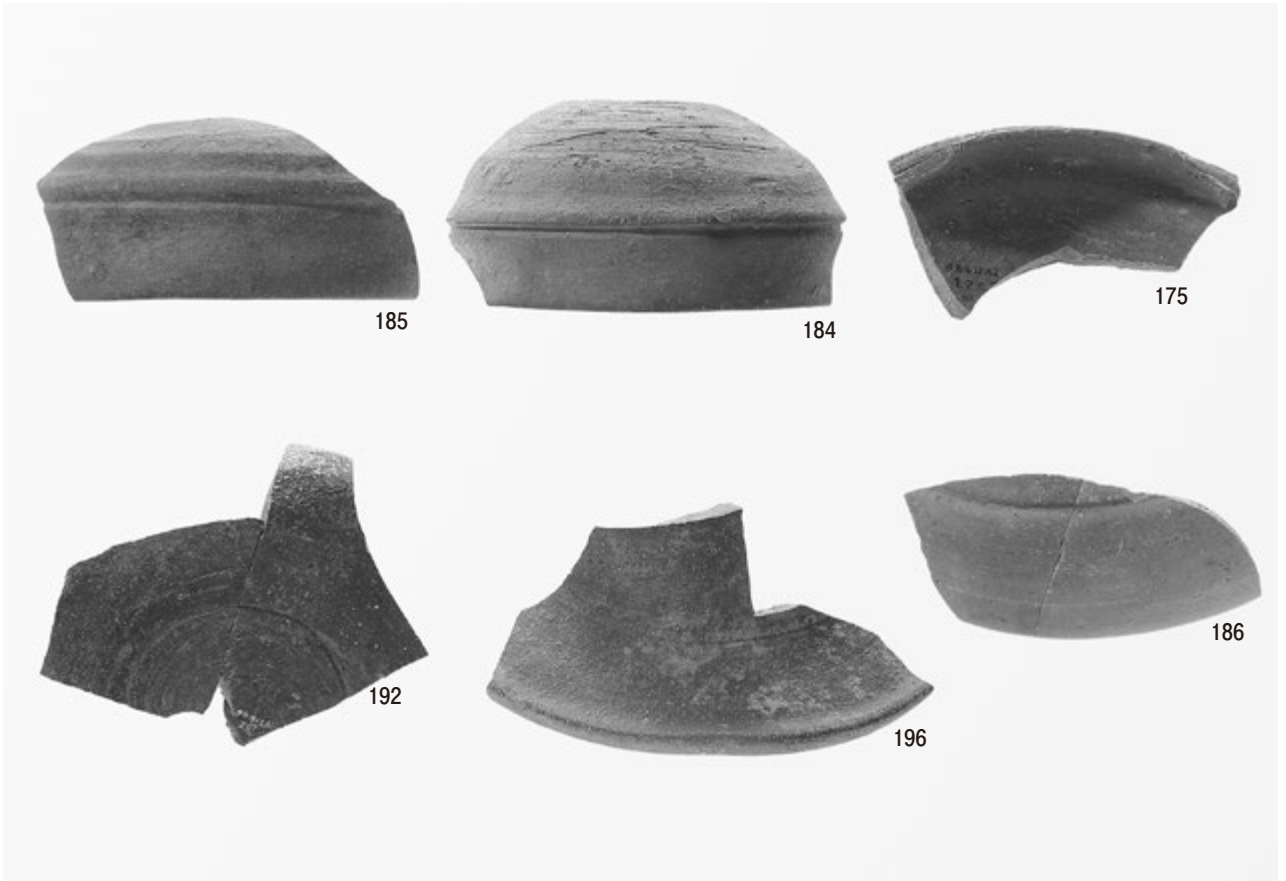
165

2.A1区8層出土土器



164

3.A1区8層出土土器



185

184

175

192

196

186

4.A1区包含層出土土器



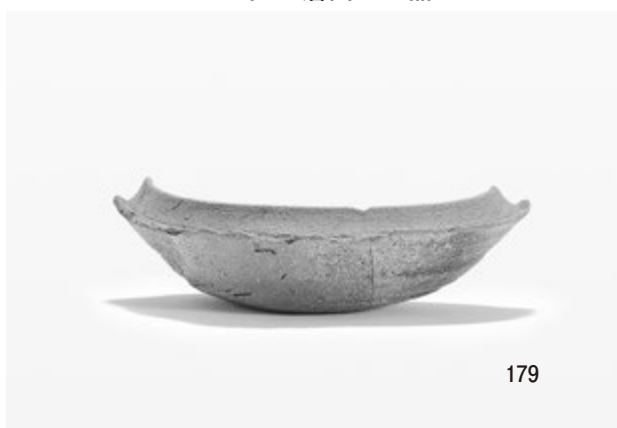
177

1. A1区11層出土土器



176

2. A1区11層出土土器



179

3. A1区12層出土土器



178

4. A1区12層出土土器



181

5. A1区12層出土土器



180

6. A1区12層出土土器



183

7. A1区13層出土土器



182

8. A1区12層出土土器



187

1. A1区12層出土土器



188

2. A1区12層出土土器



189

3. A1区12層出土土器



190

4. A1区13層出土土器



191

5. A1区13層出土土器



195

6. A1区11層出土土器



194

7. A1区13層出土土器



193

8. A1区12層出土土器



197

1. A1区11層出土土器



198

2. A1区13層出土土器



202

3. A1区13層出土土器



205

4. A1区13層出土土器



204

5. A1区13層出土土器



229

6. A1区21層出土土器



226

7. A1区21層出土土器



227

8. A1区21層出土土器



A1区12・13層出土土器



212



127



223



225



230



209正面



209側面

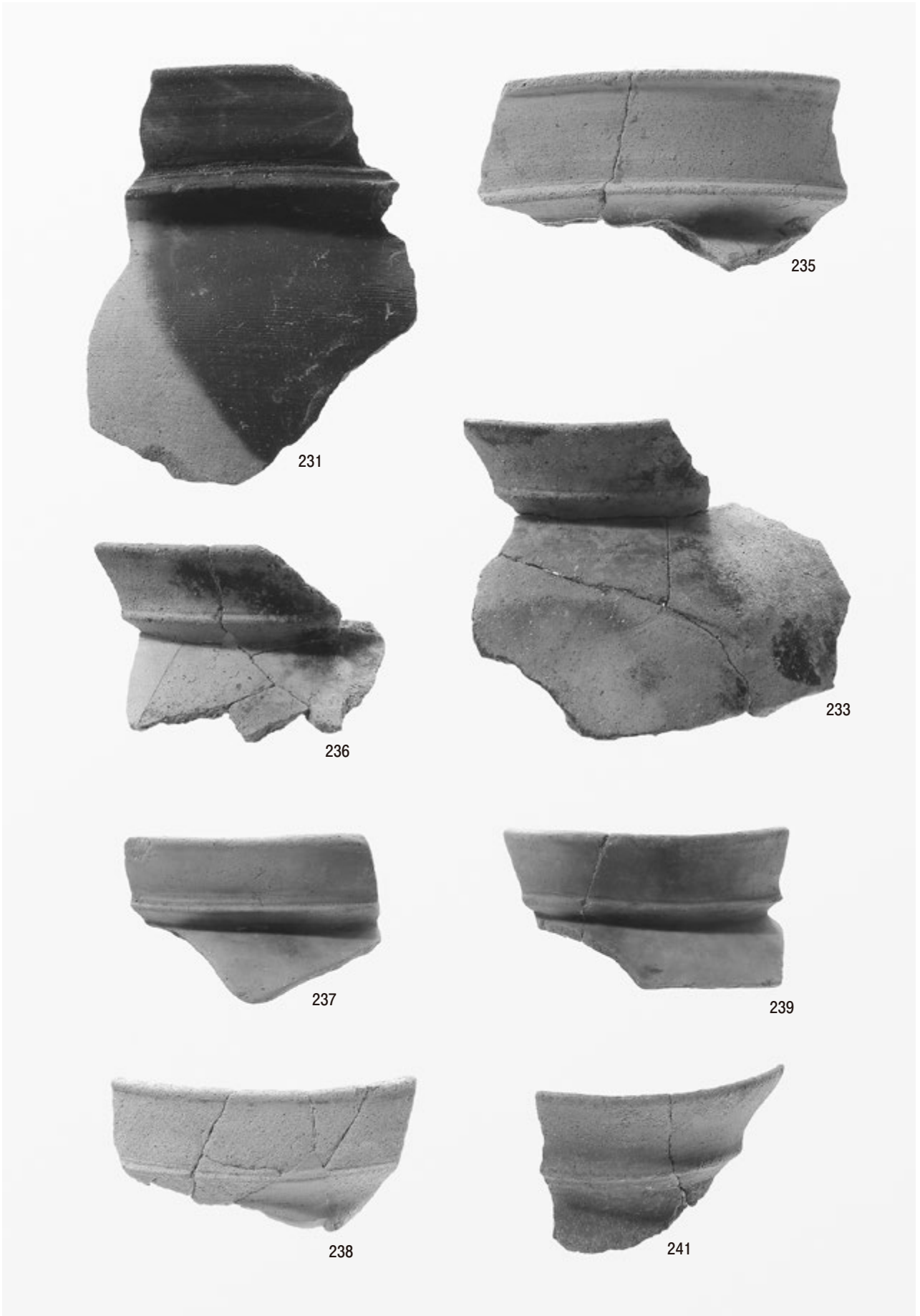
A1区11層出土竈

1.A1区12層出土竈

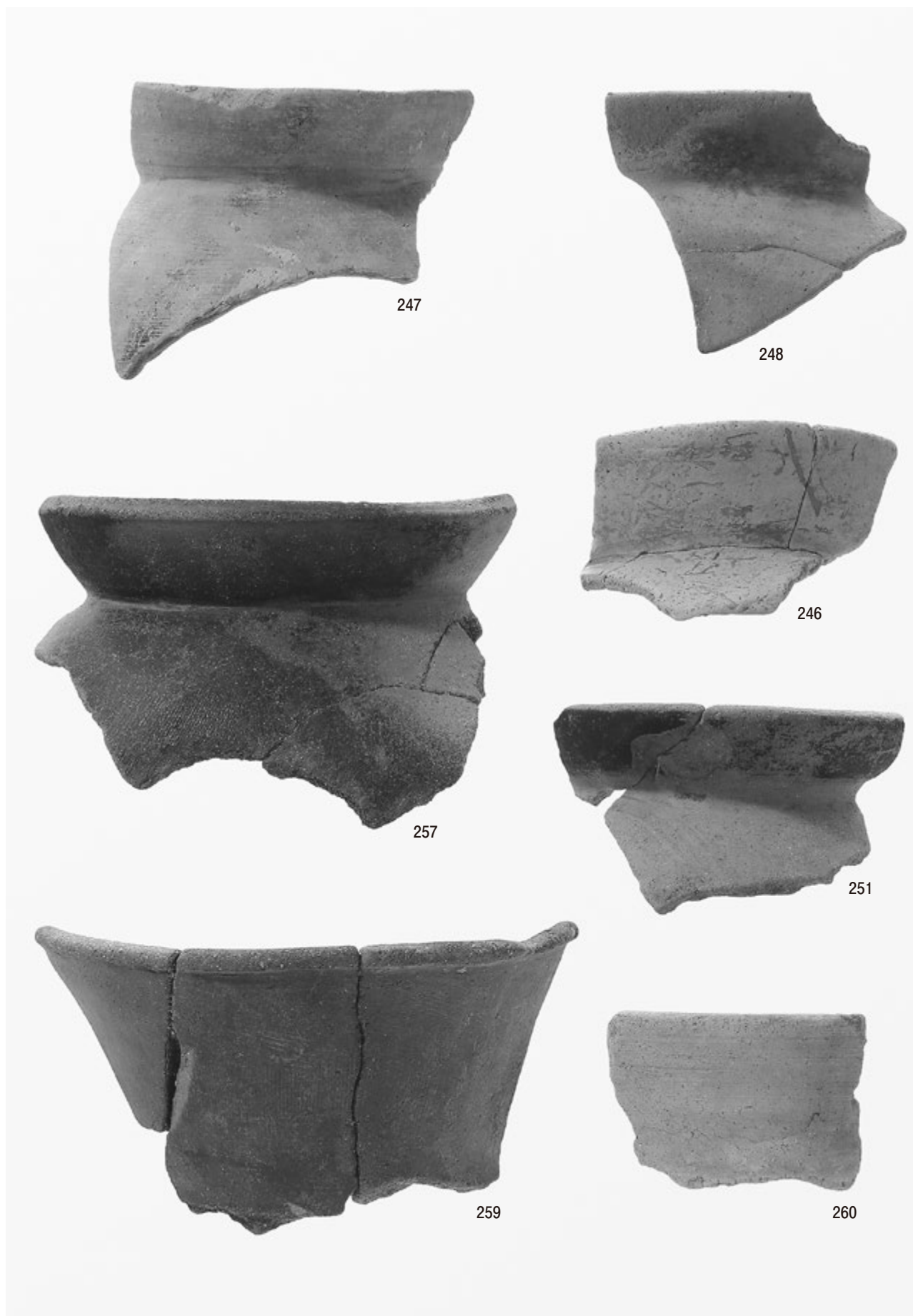


2.A1区13層出土竈

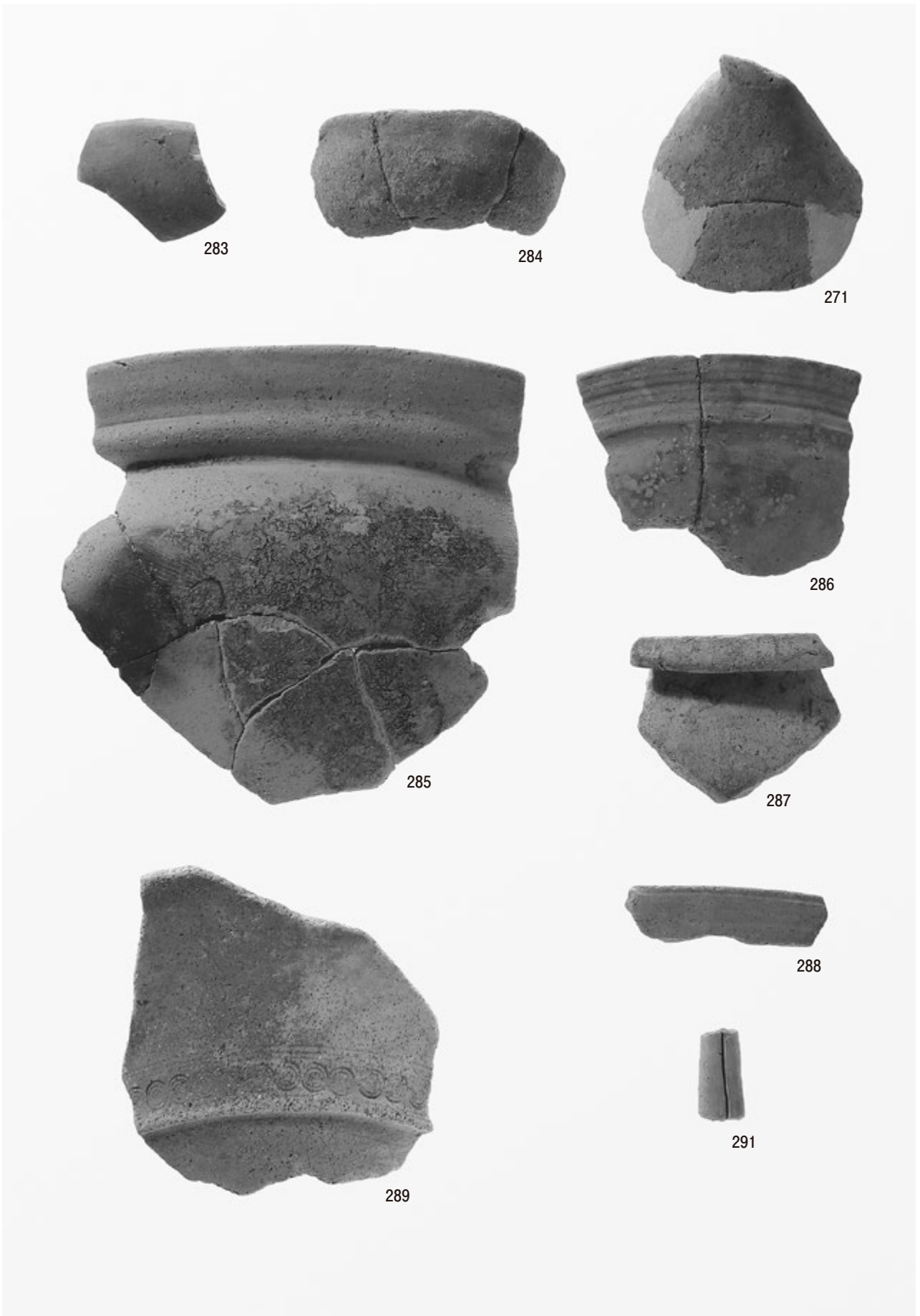




A1区25層出土土器 1



A1区25層出土土器 2



A1区25層出土遺物



1. A1区25層出土土器



2. A1区25層出土土器



3. A1区25層出土土器



4. A1区25層出土土器



5. A1区25層出土土器



6. A1区25層出土土器



7. A1区25層出土土器



8. A1区25層出土土器



1. A1区25層出土土器



2. A1区25層出土土器



3. A1区25層出土土器



4. A1区25層出土土器



5. A1区25層出土土器



6. A1区25層出土土器



7. A1区25層出土土器



8. A1区25層出土土器



264

1. A1区25層出土土器



265

2. A1区25層出土土器



266

3. A1区25層出土土器



270

4. A1区25層出土土器



267

5. A1区25層出土土器



268

6. A1区25層出土土器



269

7. A1区25層出土土器



282

8. A1区25層出土土器



1. A1区25層出土土器



2. A1区25層出土土器



3. A1区25層出土土器



4. A1区25層出土土器



5. A1区25層出土土器



6. A1区25層出土土器



7. A1区25層出土土器



8. A1区25層出土土器



1. A1区25層出土土器



2. A1区29層出土土器



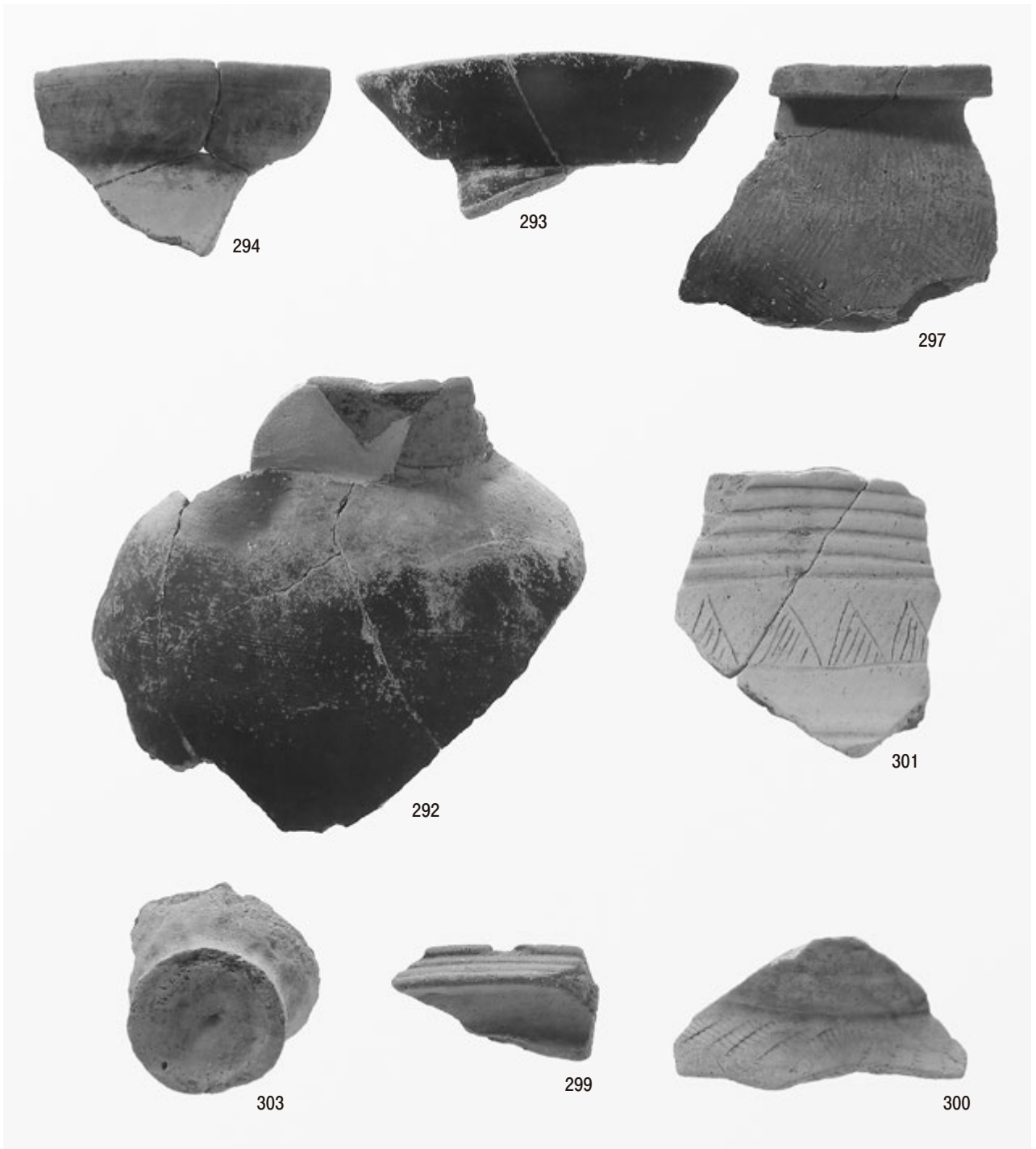
3. A1区29層出土土器



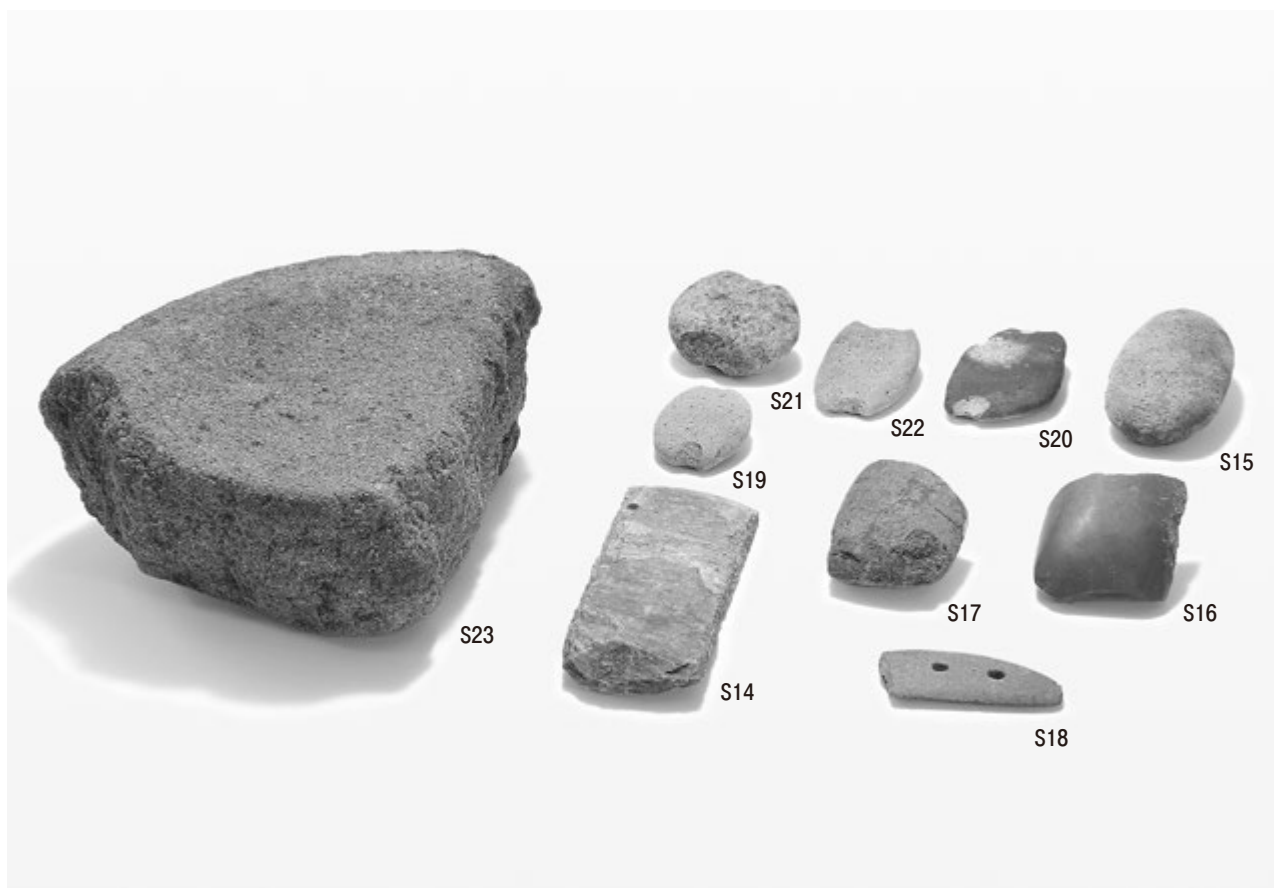
4. A1区25層出土土器



5. A1区25層出土甑



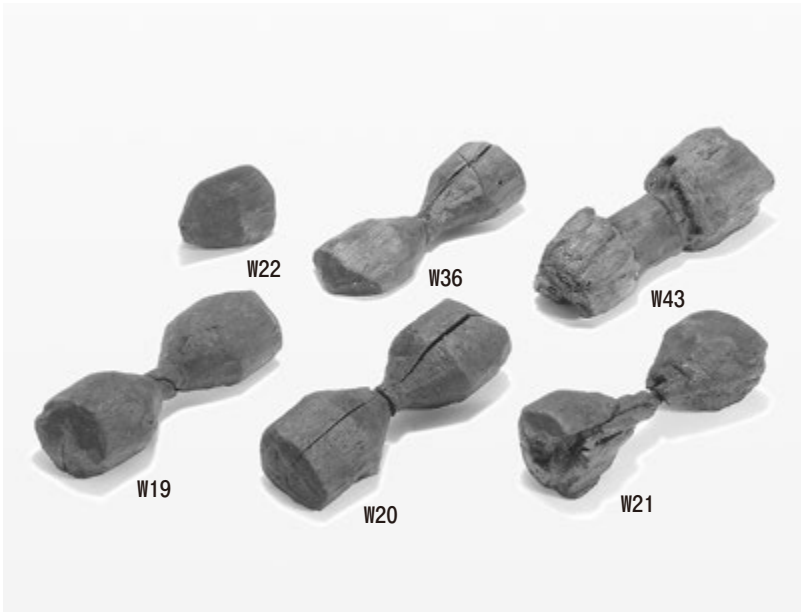
A1区27·28·29層出土土器



1. A1区包含層出土石器



2. A1区遺構出土木製品



1.A1区包含層出土木錘



W35



W35裏面

2.A1区13層出土下駄



W30



W30裏面

1.A1区11層出土木製品

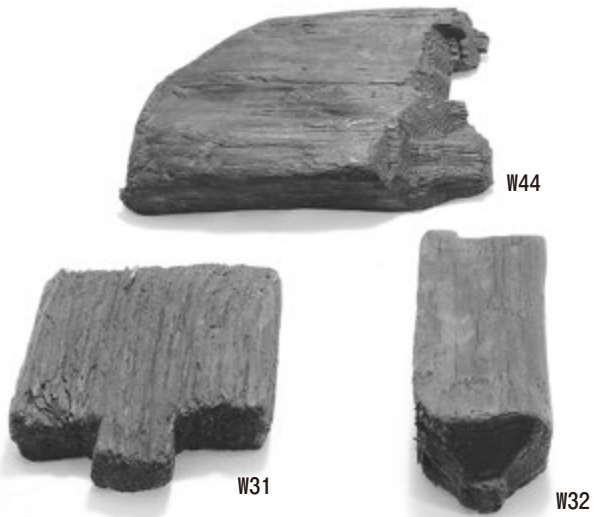


W33

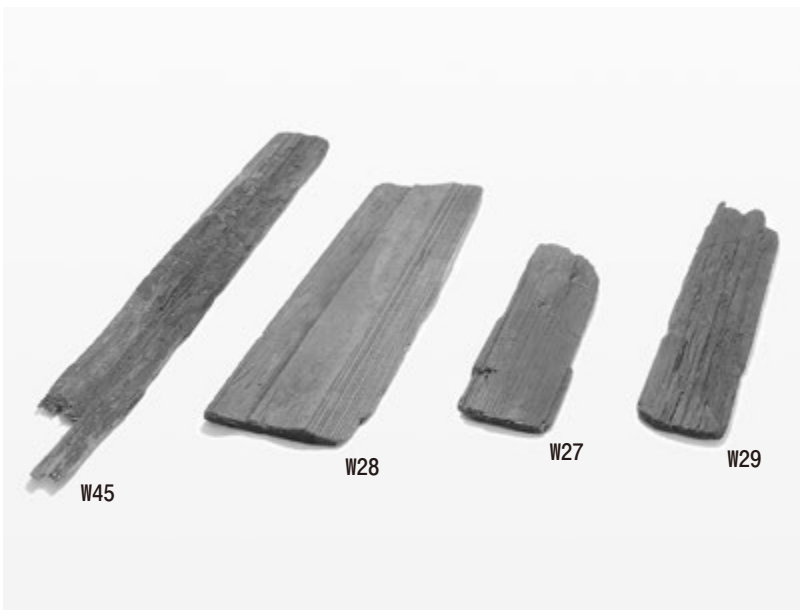
2.A1区13層出土木製品



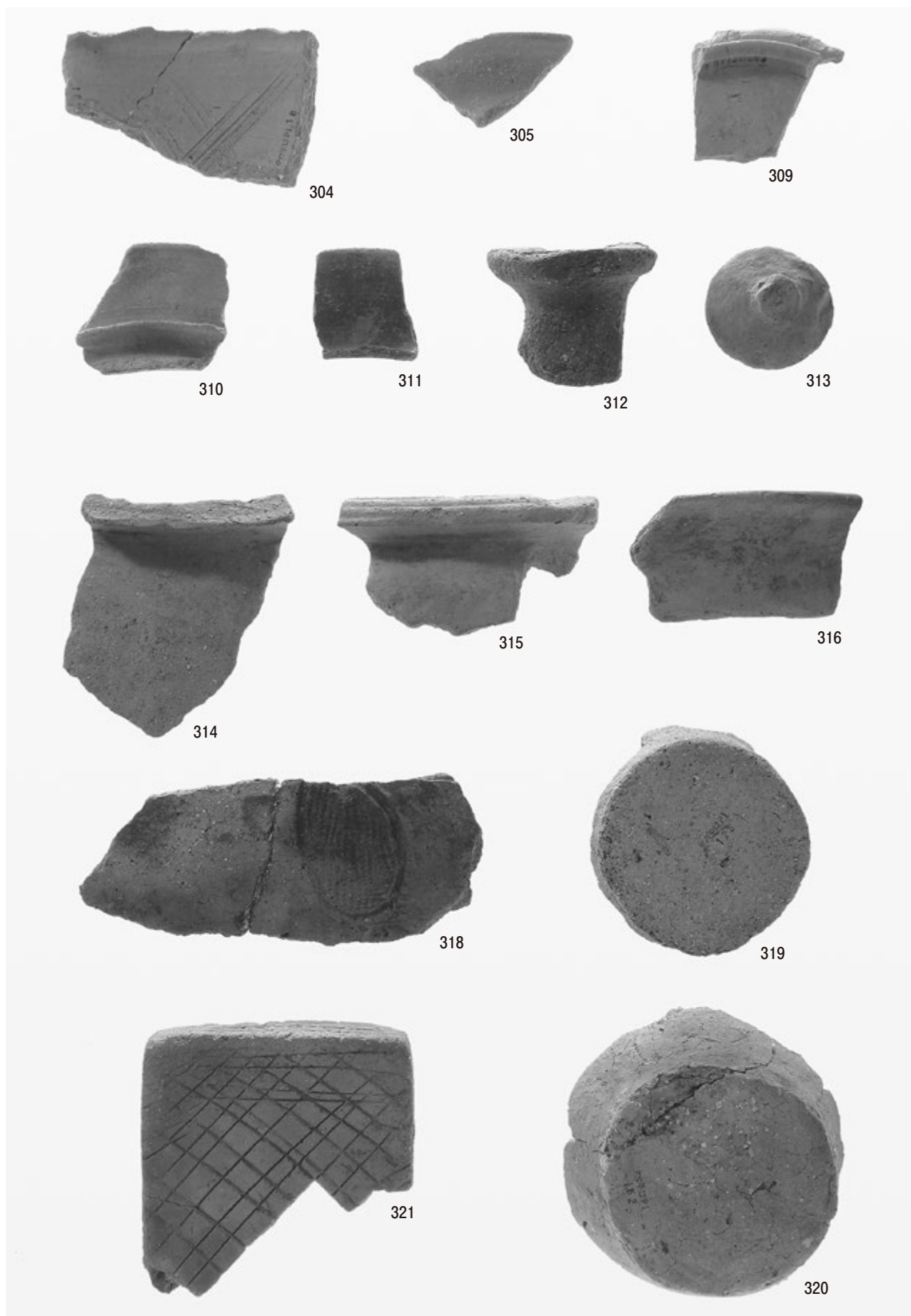
1.A1区包含層出土木製品



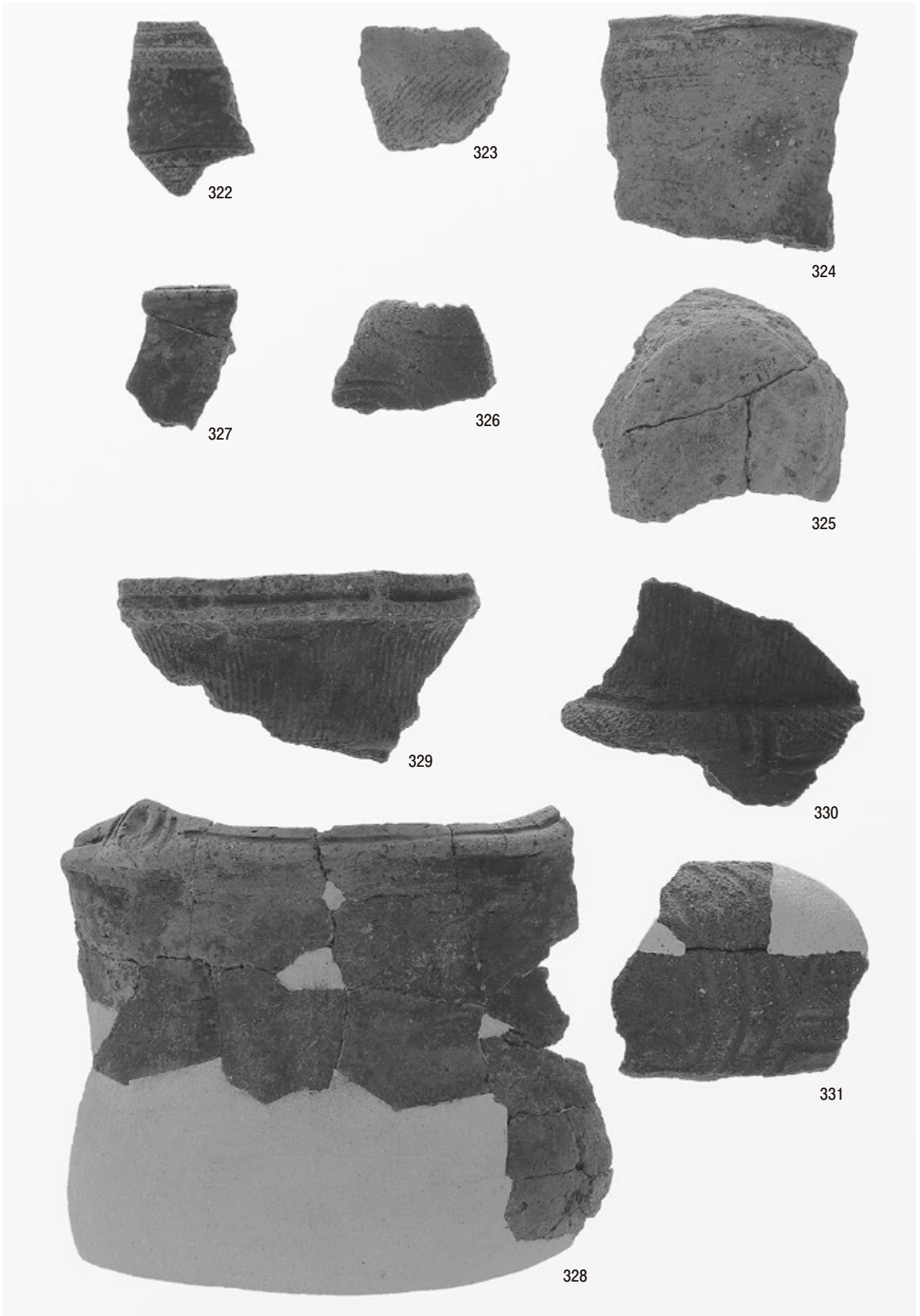
2.A1区包含層出土木製品



3.A1区包含層出土木製品



P1区出土遺物



P2区出土土器

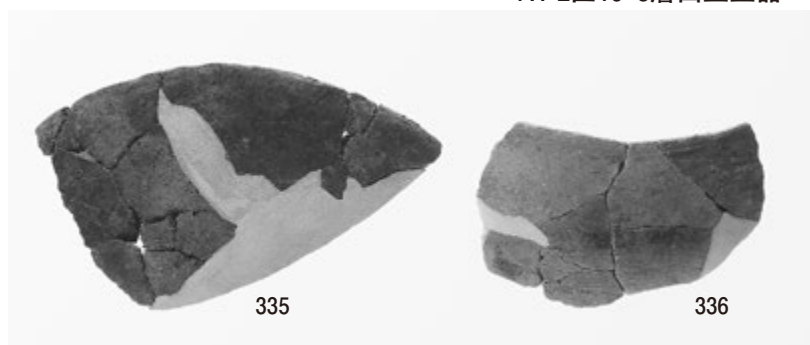


334



334底面

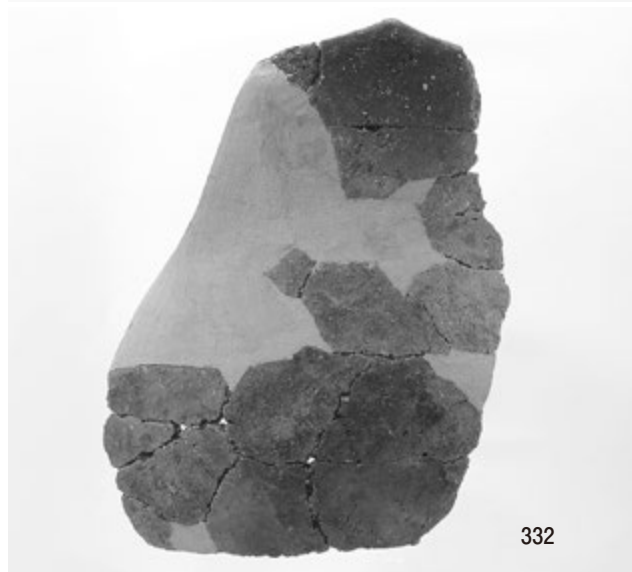
1. P2区16-3層出土土器



335

336

2. P2区16-3層出土土器



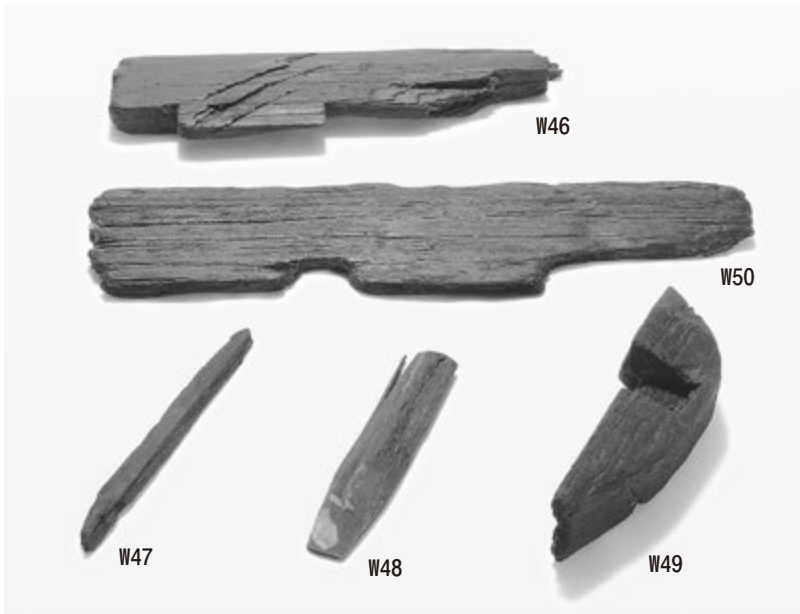
332

3. P2区16-3層出土土器



M4

4. P2区2-1a層出土金属製品



1. P1区包含層出土木製品



2. P1区10柱穴出土木製品



3. P2区包含層出土木製品

報告書抄録

ふりがな	たかずみうしわだにいせき							
書名	高住牛輪谷遺跡 I							
副書名	一般国道9号(鳥取西道路)の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	XIII							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	野口 良也							
編集機関	公益財団法人鳥取県教育文化財団							
所在地	〒680-1133 鳥取県鳥取市源太12番地 電話(0857)51-7552							
発行年月日	2014(平成26)年3月24日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
たかずみうしわだにいせき 高住牛輪谷遺跡	とっとりけんとうとりし 鳥取県鳥取市 たかずみあざうしわだに 高住字牛輪谷	31201	1-481	35°29'44"	134° 9' 49"	20110426 ～ 20111130 20120425 ～ 20121207	4,058㎡ 668㎡	国道9号(鳥取西 道路)道路改築工 事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物、特記事項				
高住牛輪谷遺跡	集落 生産 その他	縄文時代	自然流路 貯蔵穴	縄文土器、石器、木製品				
		弥生時代～ 古墳時代	竪穴住居跡 土坑 溝 水田遺構	弥生土器、土師器、須恵器、土製品、 石器、木製品、				
		古代～中世	掘立柱建物跡 耕作跡	陶磁器				
要約	<p>高住牛輪谷遺跡は、箕上山の西麓に源を発し、北東流して湖山池に注ぐ三山口川の右岸の谷部から丘陵裾部に位置する。平成23・24年度調査では縄文時代から近世までの遺構、遺物を確認した。縄文時代後期では貯蔵穴が営まれ、生活域として利用されていたようである。続く弥生時代以降は、谷部を中心に土坑、溝といった遺構のほか、水田畦畔や耕作に伴う地形の段差が認められ、生産域として断続的に利用されつづけたことが明らかとなった。また、遺跡東側の丘陵裾部では、古墳時代の竪穴住居跡や中世の掘立柱建物跡などが認められたほか、古墳時代の多量の遺物が出土し、掛け口を二つもつ移動式竈や陶棺など、この地域の歴史を解明するための重要な資料を確認することができた。</p>							

一般国道9号(鳥取西道路)の改築に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書XIII

鳥取県鳥取市

高住牛輪谷遺跡 I

発行 2014年3月24日
編集 公益財団法人鳥取県教育文化財団
発行者 鳥取県教育委員会
〒680-8570
鳥取県鳥取市東町1丁目271番地
電話(0857)26-7525
印刷 株式会社鳥取平版社

